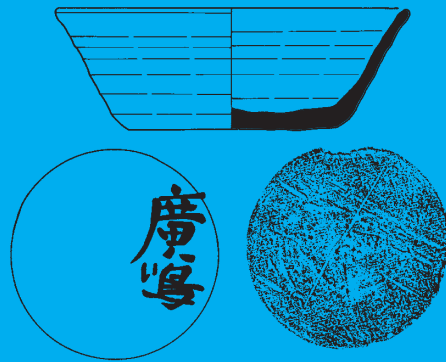


散 野 遺 跡

(第 1 地点)

新ごみ処理施設整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



2016

水戸市教育委員会

散 野 遺 跡

(第1地点)

新ごみ処理施設整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2016

水戸市教育委員会



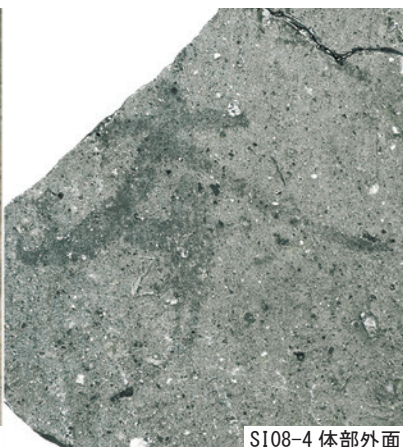
A区遠景・北西から涸沼川を望む



B区遠景・南から大串・梶内遺跡方面を望む



SI08-1 底部外面



SI08-4 体部外面



A区古外-1 体部外面



SI10-1 体部内面



SI10-1 体部外面



SI14-1 体部外面



SI149-2 底部外面



SI153-2 体部外面



SI153-6 体部外面



SI167-1 底部外面



SI170-1 体部外面



1(SK39) 体部外面

出土墨書土器

ごあいさつ

水戸市は那珂川の流域に位置し、八溝山系の山並みと那珂川・千波湖の豊かな自然に囲まれています。そして、私たちの祖先もこの豊かな自然のもと生活を営んできました。

散野遺跡は、市街地の南東、東茨城台地の東端に位置しています。この一帯では、下畑遺跡や雁沢遺跡、森戸古墳群、諏訪前遺跡、久保山館跡など、原始から中世に至るまでの多くの遺跡が分布しており、連綿とした人々の生活の営みを垣間見ることができます。

歴史的文化遺産である埋蔵文化財は、その性格上、一度壊されてしまうと二度と現状に復すことができないため、私たちが大切に保存しながら後世に伝えていかなければならない貴重な財産です。

散野遺跡のある下入野町は、現在計画されております新ごみ処理場及びその関連施設整備事業によって、今後、その景観が大きく様変わりしていく地域です。これら公共事業と文化財保護の両立は行政としても大きな課題として懸念されるところでありますが、本市においてもその意義や重要性を踏まえ、文化財保護法並びに関係法令に基づき保護保存に努めているところです。

このたび計画された新ごみ処理施設整備工事につきましては、文化財保護の観点から遺跡への影響を考慮し、十分な協議を重ねてまいりました。その結果、今回の計画によって、現状保存が困難であるとの結論に至り、次善の策として、記録保存を目的とした発掘調査を実施することとなりました。

今回の調査では、数多くの奈良・平安時代の竪穴建物跡を中心とした遺構・遺物が発見され、東茨城台地の東側縁辺部における古代集落の存在を捉えることができました。

ここに刊行する本書を、かけがえのない貴重な文化財に対する意識の高揚と学術研究等の資料として、広く御活用いただければ幸いです。

終わりに、調査実施に当たり御理解と御協力を賜りました関係各位に心から感謝申し上げます。

平成 28 年 3 月

水戸市教育委員会教育長 本 多 清 峰

例 言

- 1 本書は、茨城県水戸市下入野町地内における新ごみ処理施設整備事業に伴い実施した、散野遺跡第1地点の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、株式会社地域文化財研究所の調査支援を受け、水戸市教育委員会が主体で行った。
- 3 調査概要及び調査組織は以下のとおりである。

所在地	茨城県水戸市下入野町 2063 番地外
調査面積	16,635 m ²
調査期間	平成 27 年 9 月 2 日～平成 28 年 1 月 15 日
調査主体	水戸市教育委員会
調査担当者	米川暢敬（水戸市教育委員会教育部歴史文化財課埋蔵文化財センター主事） 太田有里乃（水戸市教育委員会教育部歴史文化財課埋蔵文化財センター主事）
調査支援	高野浩之（株式会社地域文化財研究所） 斎藤 洋（株式会社地域文化財研究所）
[調査参加者]	阿久津 昇 飯田 昭 飯塚 弘 石崎洋子 石崎寿子 市毛祐一 井上愛喜 岩田時彦 江橋和子 大貫浩一 大山年明 岡部五男生 小坂部克己 小堤光一 鬼澤 勲 海後晴美 川又誠二 栗原芳子 齊藤宏光 菅谷末吉 鈴木潤一 高岡真士 高安丈夫 高安幸且 立原正一 田山佳正 寺門正信 照沼博幸 飛田とし子 中嶋順子 根矢 稔 八巻省三 渡辺恵子
[整理参加者]	川村理華 木村春代 小林真千子 野村浩史 藤井陽子 槇 勝雄 増田香理
事務局	飯村 博史（歴史文化財課副参事兼埋蔵文化財センター所長） 米川 暢敬（埋蔵文化財センター文化財主事） 太田 有里乃（埋蔵文化財センター主事） 丸山 優香里（埋蔵文化財センター囑託員） 昆 志穂（埋蔵文化財センター囑託員） 鈴木 学（埋蔵文化財センター囑託員，～平成 27 年 9 月 30 日） 下山 はる奈（埋蔵文化財センター囑託員，平成 27 年 10 月 1 日～） 菅谷 瑛奈（埋蔵文化財センター囑託員） 山戸 祐子（埋蔵文化財センター囑託員）

- 4 本書は、米川暢敬、高野浩之が分担して執筆し、米川の指導のもとに高野が編集した。文責は各節の文末に記載してある。
- 5 出土遺物及び図面・写真などの記録類は、一括して水戸市埋蔵文化財センターにて保管してある。
- 6 発掘調査から本書の刊行に至るまで、下記の方々・諸機関よりご教示、ご協力を賜った。（敬称略・順不同）。

茨城県教育庁文化課

水戸市新ごみ処理施設整備課

(株)杉森工業

凡例

- 1 測量は世界測地系を用い、挿図中の方位は座標北を示す。
- 2 挿図中で使用した遺構の略号は以下のとおりである。
S I : 竪穴住居跡・竪穴建物跡 S B : 掘立柱建物跡 S K : 土坑 S D : 溝跡
S E : 井戸跡 P i t : 柱穴・ピット P : 竪穴住居跡・建物跡に属する貯蔵穴・柱穴又はピット等の遺構内施設 K : 風倒木痕・植栽痕・攪乱等
- 3 土層図及び断面図に記した数値は標高を示す。
- 4 遺構の形態は、基本的に現存している状態で判断した。規模の計測は壁上端で行い、深さは検出面の最も高い位置から遺構内の最も低い位置まで測った。遺構内施設（柱穴等）の深さは床・底面からの数値である。
- 5 遺構平面図及び断面図の縮尺は、基本的に 1/60 とし、竪穴建物跡のカマドや遺物出土状況微細図は 1/30 とした。各図にスケールで示した。
- 6 遺構の土層及び遺物の色調表現は、『新版標準土色帖 2003 年版』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）に準拠した。土層説明の中で、「φ」は粒状規模をミリ単位で明記し、含有量は 2% 以下を「微量」、3～10% を「少量」、11～20% を「中量」、21% 以上を「多量」とし、多量のものについては（ ）付で含有量を示す。いずれも同書の「面積割合」を参考にした。
- 7 出土遺物の縮尺は土器類を 1/3、1/4、瓦類を 1/4、石器類を 2/3、1/3、1/4 とし、各図にスケールで示した。
- 8 遺物観察表の表記は、（ ）内を復元値、〈 〉内を残存値とし、遺物の計測値は規模を「cm」、重量を「g」で表した。色調は上段が外面、下段が内面で、内外面同色の場合は 1 色のみ表記した。
- 9 出土遺物一覧表の中で、接合したものは全体で 1 点とし、逆に同一個体と判断できても接合しないものはそれぞれを 1 点とした。
- 10 遺構一覧表（第 2～23 表）の出土遺物欄で示した略語は縄→縄文土器、土→土師器、須→須恵器である。また器種の後ろに示した数値は出土点数を表す。
- 11 引用・参考文献は本文中の最後一括して掲載した。
- 12 第 3 図は、国土地理院発行旧版地図「磯濱」（大正 4 年測図・2 万 5 千分の 1）を使用し加筆した。
- 13 挿図中で使用したスクリーントーン及び線種・ドット類は以下凡例図のとおりである。
- 14 表紙に使用した図は第 102 図 SI49- 2 の出土遺物である。

凡例図

遺 構	 …焼土	 …カマド粘土	 …攪乱	 …攪乱範囲
	 …硬化範囲	 …遺物（土器・土製品・瓦等）	 …遺物（石器・石製品）	
遺 物	 …内面黒色処理	 …須恵器	 …灰釉陶器	 …朱墨痕

※これ以外の表記は挿図中に記載した。

目次

巻頭カラー

ごあいさつ

例言

凡例

目次

第1章 調査に至る経緯と調査の経過

第1節 調査に至る経緯 1

第2節 調査の方法と経過 3

(1) 調査の方法 3

(2) 調査の経過 3

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境 4

第2節 歴史的環境 5

第3章 調査の成果

第1節 基本堆積土層 9

第2節 検出された遺構と遺物の概要 10

第3節 縄文時代 14

(1) 竪穴住居跡 14

(2) 炉跡 15

(3) 土坑 15

(4) 遺構外出土遺物 19

第4節 古墳時代～奈良・平安時代 20

(1) 竪穴建物跡 20

(2) 掘立柱建物跡 161

(3) ピット 187

(4) 土坑 190

(5) 溝跡 192

(6) 遺構外出土遺物 193

第5節 近世 194

(1) 土坑墓 194

(2) その他の土坑と出土遺物 195

(3) 井戸跡 195

第4章 総括 234

写真図版

抄録

報告書一覧

挿 図 目 次

<p>第1図 散野遺跡第1地点周辺地形図 及び試掘トレンチ配置図…………… 2</p> <p>第2図 水戸市域地形図…………… 4</p> <p>第3図 散野遺跡周辺旧地形図…………… 4</p> <p>第4図 周辺遺跡位置図…………… 6</p> <p>第5図 基本堆積土層図…………… 9</p> <p>第6図 A・B区遺構全体図…………… 10</p> <p>第7図 A区全体図…………… 11</p> <p>第8図 B区全体図(1)…………… 12</p> <p>第9図 B区全体図(2)…………… 13</p> <p>第10図 SI89…………… 14</p> <p>第11図 SI89出土遺物…………… 15</p> <p>第12図 2号炉跡…………… 15</p> <p>第13図 縄文時代土坑(1)…………… 16</p> <p>第14図 縄文時代土坑(2)…………… 17</p> <p>第15図 縄文時代土坑出土遺物…………… 18</p> <p>第16図 縄文時代遺構外出土遺物(1)…………… 19</p> <p>第17図 縄文時代遺構外出土遺物(2)…………… 20</p> <p>第18図 SI01・同出土遺物…………… 21</p> <p>第19図 SI02(1)…………… 22</p> <p>第20図 SI02(2)・同出土遺物…………… 23</p> <p>第21図 SI03(1)…………… 24</p> <p>第22図 SI03(2)…………… 25</p> <p>第23図 SI03出土遺物…………… 26</p> <p>第24図 SI04…………… 26</p> <p>第25図 SI05・同出土遺物…………… 27</p> <p>第26図 SI06・同出土遺物…………… 28</p> <p>第27図 SI07・同出土遺物…………… 29</p> <p>第28図 SI08(1)…………… 30</p> <p>第29図 SI08(2)・同出土遺物(1)…………… 31</p> <p>第30図 SI08出土遺物(2)…………… 32</p> <p>第31図 SI09・同出土遺物…………… 33</p> <p>第32図 SI10…………… 34</p> <p>第33図 SI10出土遺物…………… 35</p> <p>第34図 SI11・同出土遺物…………… 36</p> <p>第35図 SI12・同出土遺物…………… 37</p> <p>第36図 SI13・同出土遺物…………… 38</p> <p>第37図 SI14(1)…………… 39</p> <p>第38図 SI14(2)・同出土遺物(1)…………… 40</p> <p>第39図 SI14出土遺物(2)…………… 41</p> <p>第40図 SI15(1)…………… 42</p> <p>第41図 SI15(2)・同出土遺物(1)…………… 43</p> <p>第42図 SI15出土遺物(2)…………… 44</p> <p>第43図 SI16・同出土遺物…………… 45</p>	<p>第44図 SI17…………… 46</p> <p>第45図 SI17出土遺物…………… 47</p> <p>第46図 SI18…………… 47</p> <p>第47図 SI18出土遺物…………… 48</p> <p>第48図 SI19…………… 48</p> <p>第49図 SI19出土遺物…………… 49</p> <p>第50図 SI20・同出土遺物(1)…………… 50</p> <p>第51図 SI20・同出土遺物(2)…………… 51</p> <p>第52図 SI21(1)…………… 51</p> <p>第53図 SI21(2)・同出土遺物…………… 52</p> <p>第54図 SI22…………… 53</p> <p>第55図 SI22出土遺物…………… 54</p> <p>第56図 SI23(1)…………… 55</p> <p>第57図 SI23(2)・同出土遺物…………… 56</p> <p>第58図 SI24(1)…………… 58</p> <p>第59図 SI24(2)・同出土遺物…………… 59</p> <p>第60図 SI25…………… 60</p> <p>第61図 SI25出土遺物…………… 61</p> <p>第62図 SI26(1)…………… 61</p> <p>第63図 SI26(2)・同出土遺物…………… 62</p> <p>第64図 SI27(1)…………… 63</p> <p>第65図 SI27(2)・出土遺物…………… 64</p> <p>第66図 SI28(1)…………… 65</p> <p>第67図 SI28(2)・同出土遺物…………… 66</p> <p>第68図 SI29…………… 67</p> <p>第69図 SI29出土遺物…………… 68</p> <p>第70図 SI30(1)…………… 69</p> <p>第71図 SI30(2)・同出土遺物…………… 70</p> <p>第72図 SI31・同出土遺物…………… 71</p> <p>第73図 SI32…………… 72</p> <p>第74図 SI32出土遺物…………… 73</p> <p>第75図 SI33…………… 74</p> <p>第76図 SI33出土遺物…………… 75</p> <p>第77図 SI34(1)…………… 75</p> <p>第78図 SI34(2)・同出土遺物…………… 76</p> <p>第79図 SI35(1)…………… 77</p> <p>第80図 SI35(2)・同出土遺物…………… 78</p> <p>第81図 SI36…………… 79</p> <p>第82図 SI36出土遺物…………… 80</p> <p>第83図 SI37…………… 81</p> <p>第84図 SI37出土遺物…………… 82</p> <p>第85図 SI38・同出土遺物…………… 83</p> <p>第86図 SI39…………… 84</p> <p>第87図 SI39出土遺物…………… 85</p>
--	--

第88回	SI40	86	第134回	SI65	129
第89回	SI40出土遺物	87	第135回	SI65出土遺物	130
第90回	SI41	88	第136回	SI66(1)	130
第91回	SI41出土遺物	89	第137回	SI66(2)・同出土遺物	131
第92回	SI42・同出土遺物	90	第138回	SI67(1)	132
第93回	SI43・同出土遺物	91	第139回	SI67(2)・同出土遺物	133
第94回	SI44・同出土遺物	92	第140回	SI68	134
第95回	SI45	93	第141回	SI68出土遺物	135
第96回	SI45出土遺物	94	第142回	SI69(1)	136
第97回	SI46	95	第143回	SI69(2)・同出土遺物	137
第98回	SI47	96	第144回	SI70	138
第99回	SI47出土遺物	97	第145回	SI70出土遺物	139
第100回	SI48(1)	97	第146回	SI71・同出土遺物	140
第101回	SI48(2)・同出土遺物	98	第147回	SI72・同出土遺物	141
第102回	SI49・同出土遺物(1)	99	第148回	SI73・同出土遺物	142
第103回	SI49出土遺物(2)	100	第149回	SI74	143
第104回	SI50	101	第150回	SI74出土遺物	144
第105回	SI50出土遺物	102	第151回	SI75・同出土遺物	145
第106回	SI51	103	第152回	SI76	146
第107回	SI51出土遺物	104	第153回	SI77(1)	146
第108回	SI52(1)	105	第154回	SI77(2)・同出土遺物	147
第109回	SI52(2)・同出土遺物	106	第155回	SI78・同出土遺物(1)	148
第110回	SI53(1)	107	第156回	SI78出土遺物(2)	149
第111回	SI53(2)・同出土遺物(1)	108	第157回	SI79・同出土遺物	150
第112回	SI53出土遺物(2)	109	第158回	SI80(1)	150
第113回	SI54(1)	109	第159回	SI80(2)・同出土遺物	151
第114回	SI54(2)・同出土遺物	110	第160回	SI81	152
第115回	SI55・同出土遺物	111	第161回	SI81出土遺物	153
第116回	SI56・同出土遺物	112	第162回	SI82・同出土遺物	154
第117回	SI57	113	第163回	SI83	155
第118回	SI57出土遺物	114	第164回	SI83出土遺物	156
第119回	SI58(1)	115	第165回	SI84	157
第120回	SI58(2)・同出土遺物	116	第166回	SI84出土遺物	158
第121回	SI59(1)	117	第167回	SI85	159
第122回	SI59(2)	118	第168回	SI86・同出土遺物	160
第123回	SI59出土遺物	119	第169回	SI87	160
第124回	SI60(1)	120	第170回	SI88・同出土遺物	161
第125回	SI60(2)・同出土遺物	121	第171回	SB01	162
第126回	SI61(1)	122	第172回	SB02	164
第127回	SI61(2)・同出土遺物	123	第173回	SB03	165
第128回	SI62	124	第174回	SB04	166
第129回	SI62出土遺物	125	第175回	SB05	168
第130回	SI63(1)	125	第176回	SB06	169
第131回	SI63(2)・同出土遺物	126	第177回	SB07	170
第132回	SI64(1)	127	第178回	SB08	173
第133回	SI64(2)・同出土遺物	128	第179回	SB09	174

第180図	SB10	176	第190図	奈良・平安時代土坑(1)	190
第181図	SB11	178	第191図	奈良・平安時代土坑(2)	191
第182図	SB12	179	第192図	奈良・平安時代土坑出土遺物	192
第183図	SB13	180	第193図	SD01	193
第184図	SB14	182	第194図	奈良・平安時代遺構外出土遺物(1)	193
第185図	SB15	183	第195図	奈良・平安時代遺構外出土遺物(2)	194
第186図	SB16・SB17	184	第196図	SK41～43・61, SK41, 43 出土遺物	194
第187図	掘立柱建物跡出土遺物	185	第197図	SK62・近世遺構外出土遺物	195
第188図	ピット群	186	第198図	SE01	195
第189図	ピット出土遺物	187			

表 目 次

第1表	周辺遺跡一覧表	7	第20表	SB17 柱穴一覧表	185
第2表	SI89 柱穴一覧表	15	第21表	ピット一覧表	188
第3表	縄文時代土坑一覧表	19	第22表	奈良・平安時代土坑一覧表	192
第4表	SB01 柱穴一覧表	163	第23表	近世土坑一覧表	195
第5表	SB02 柱穴一覧表	164	第24表	出土遺物観察表(縄文時代土器)	196
第6表	SB03 柱穴一覧表	164	第25表	出土遺物観察表(弥生時代土器)	198
第7表	SB04 柱穴一覧表	167	第26表	出土遺物観察表(奈良・平安時代土器)	199
第8表	SB05 柱穴一覧表	168	第27表	出土遺物観察表(瓦)	225
第9表	SB06 柱穴一覧表	171	第28表	出土遺物観察表(土製品)	226
第10表	SB07 柱穴一覧表	172	第29表	出土遺物観察表(鉄製品)	227
第11表	SB08 柱穴一覧表	172	第30表	出土遺物観察表(石器・石製品)	228
第12表	SB09 柱穴一覧表	175	第31表	出土遺物観察表(銭貨等)	228
第13表	SB10 柱穴一覧表	177	第32表	出土遺物観察表(近世陶磁器)	228
第14表	SB11 柱穴一覧表	177	第33表	出土遺物集計表(縄文土器出土遺構)	229
第15表	SB12 柱穴一覧表	180	第34表	出土遺物集計表(奈良・平安時代竪穴建物)	230
第16表	SB13 柱穴一覧表	180	第35表	出土遺物集計表(ピット)	232
第17表	SB14 柱穴一覧表	182	第36表	出土遺物集計表(その他の遺構)	232
第18表	SB15 柱穴一覧表	183	第37表	出土遺物集計表(土坑)	233
第19表	SB16 柱穴一覧表	184	第38表	出土遺物集計表(グリッド・表採)	233

写真図版目次

- 図版 1 A区全景 / B区全景
- 図版 2 A区全景 / B区中央～南側全景 / A～Dグリッド全景 / G～Iグリッド付近全景 / I～Kグリッド付近全景 / L・Mグリッド付近全景 / B区南側全景
- 図版 3 SI89全景 / SI89炉（1号炉）全景 / 2号炉全景 / SK03遺物出土状況 / SK07全景 / SK10全景 / SK18遺物出土状況 / SK24全景
- 図版 4 SK25・Pit114全景 / SK44全景 / SK49全景 / SK50全景 / SK52全景 / SK54全景 / SK59全景 / SK64全景
- 図版 5 SI01全景 / SI01完掘 / SI02全景 / SI02カマド遺物出土状況 / SI03全景 / SI03遺物・焼土・炭化材検出状況 / SI05全景 / SI06全景
- 図版 6 SI07全景 / SI08全景 / SI09全景 / SI10全景 / SI10遺物出土状況 / SI11全景 / SI12全景 / SI13全景
- 図版 7 SI14全景 / SI14遺物出土状況 / SI15全景 / SI15遺物出土状況 / SI15遺物出土状況(円面硯) / SI16全景 / SI17全景 / SI18全景
- 図版 8 SI19全景 / SI20全景 / SI20 P2遺物出土状況 / SI21全景 / SI22全景 / SI22遺物出土状況 / SI22カマド土層断面 / SI22カマド全景
- 図版 9 SI23全景 / SI23カマド付近遺物出土状況 / SI23遺物出土状況 / SI24全景 / SI24掘り方全景 / SI25全景 / SI26全景
- 図版 10 SI27全景 / SI28全景 / SI29全景 / SI29カマド全景 / SI29カマド遺物出土状況 / SI30全景 / SI31全景 / SI32全景
- 図版 11 SI33全景 / SI33 P1遺物出土状況 / SI34全景 / SI35全景 / SI35カマド遺物出土状況 / SI36全景 / SI36カマド遺物出土状況 / SI37全景
- 図版 12 SI38全景 / SI39全景 / SI40全景 / SI40遺物出土状況 / SI41全景 / SI41遺物出土状況 / SI42全景 / SI43全景
- 図版 13 SI44全景 / SI42～44遺物出土状況 / SI45遺物出土状況 / SI45カマド遺物出土状況 / SI46全景 / SI47全景 / SI48遺物出土状況・全景 / SI49全景
- 図版 14 SI50全景 / SI50遺物出土状況 / SI51全景 / SI51カマド全景 / SI51カマド遺物出土状況 / SI52全景
- 図版 15 SI53全景 / SI53遺物出土状況 / SI53カマド遺物出土状況 / SI53遺物出土状況 / SI54全景 / SI55全景 / SI56遺物出土状況 / SI57遺物出土状況 /
- 図版 16 SI57カマド遺物出土状況 / SI57遺物出土状況 / SI58遺物出土状況 / SI58カマド遺物出土状況・全景 / SI59遺物出土状況 / SI59カマド遺物出土状況 / SI60遺物出土状況 / SI61遺物出土状況・全景
- 図版 17 SI62・87遺物出土状況・全景 / SI63遺物出土状況・全景 / SI64遺物出土状況・全景 / SI65全景 / SI66遺物出土状況・全景 / SI67遺物出土状況 / SI67カマド遺物出土状況・全景 / SI68遺物出土状況・全景
- 図版 18 SI69遺物出土状況・全景 / SI70全景 / SI71全景 / SI72遺物出土状況・全景 / SI73全景 / SI74遺物出土状況・全景 / SI75遺物出土状況・全景 / SI76全景
- 図版 19 SI77全景 / SI78遺物出土状況・全景 / SI79全景 / SI80遺物出土状況・全景 / SI81遺物出土状況 / SI82全景 / SI82遺物出土状況 / SI83出土遺物・全景
- 図版 20 SI84全景 / SI84遺物出土状況 / SI84カマド遺物出土状況 / SI84遺物出土状況（灰釉陶器皿） / SI85全景 / SI86遺物出土状況・全景 / SI88全景
- 図版 21 SB01全景 / SB02全景 / SB03全景 / SB04・05全景 / SB03～08・13全景・西から涸沼川を望む
- 図版 22 SB06全景 / SB07全景 / SB08全景 / SB07・08全景 / SB09全景 / SB10全景 / SB11全景 / SB12全景

- 図版 23 SB13 全景 / SB14 全景 / SB15 全景 / SI53 周辺 Pit 群・奥は SB09 / H 27・28,
I 27 グリッド Pit 群 / O 15・16 グリッド Pit 群 / SE01 土層断面 / SE01 足掛け検出
- 図版 24 SK34 全景 / SK35 全景 / SK36 全景 / SD01 全景 / SK41 人骨検出状況
SK43 人骨検出状況 / SK61 土層断面 / SK42 全景・人骨検出状況
- 図版 25 SI89, SK(縄文時代), 遺構外(縄文時代①) 出土遺物
- 図版 26 遺構外(縄文時代②), SI01・02 出土遺物
- 図版 27 SI03・05・06・07・08 ①出土遺物
- 図版 28 SI08 ②・09・10・11・12・13 ①出土遺物
- 図版 29 SI13 ②・14・15 ①出土遺物
- 図版 30 SI15 ②・16 出土遺物
- 図版 31 SI17・18・19・20・21 出土遺物
- 図版 32 SI22・23 ①出土遺物
- 図版 33 SI23 ②・24・25・26 出土遺物
- 図版 34 SI27・28・29 ①出土遺物
- 図版 35 SI29 ②・30 出土遺物
- 図版 36 SI31・32・33 出土遺物
- 図版 37 SI34・35・36 ①出土遺物
- 図版 38 SI36 ②・37・38 ①出土遺物
- 図版 39 SI38 ②・39・40 ①出土遺物
- 図版 40 SI40 ②・41・42・43・44・45 出土遺物
- 図版 41 SI47・48・49・50 ①出土遺物
- 図版 42 SI50 ②・51・52・53 ①出土遺物
- 図版 43 SI53 ②・54・55・56 出土遺物
- 図版 44 SI57・58・59 ①出土遺物
- 図版 45 SI59 ②・60・61 ①出土遺物
- 図版 46 SI61 ②・62・63・64 ①出土遺物
- 図版 47 SI64 ②・65・66・67 出土遺物
- 図版 48 SI68・69・70・71・72 出土遺物
- 図版 49 SI73・74・75・77・78 ①出土遺物
- 図版 50 SI78 ②・79・80・81・82 出土遺物
- 図版 51 SI83・84 ①出土遺物
- 図版 52 SI84 ②・86・88, SB02・04・05・07・08・10・11・13・14・15,
SK(古墳時代), 遺構外(古墳時代・近世), SK(近世) 出土遺物

第1章 調査に至る経緯と調査の経過

第1節 調査に至る経緯

平成19年6月1日付けで、新ごみ処理施設整備事業（以下、当該事業という。）に伴う課題把握のため、市民環境部ごみ対策課（以下、ごみ対策課という。）長から庁内関係課長あて「「ごみ処理施設整備基本構想」（案）に係る調整会議の開催について」の通知があった。これを受け、教育委員会事務局文化振興課（現教育委員会事務局教育部歴史文化財課、以下、文化振興課という。）は、当該事業の実施に際し想定される課題として、建設候補地に周知の埋蔵文化財包蔵地「散野遺跡」のほぼ全域が該当すること、事前に文化財保護法第94条第1項に基づく通知を茨城県教育委員会（以下、県教委という。）教育長あて提出する必要があること、開発対象地全域について、事前に教育委員会による試掘・確認調査が必要であること、試掘・確認調査により埋蔵文化財が発見され、かつ工事によりそれらが掘削されるなど、破壊される場合をはじめとする「茨城県埋蔵文化財発掘調査取扱い基準Ⅰ～Ⅲ」に該当する場合には、原因者負担による発掘調査が必要となること、散野遺跡の直近及び範囲内にある採土場については、埋蔵文化財が湮滅している可能性があるため、専門職員による踏査を実施し、埋蔵文化財の取扱いについて判断する必要があること、の5点を報告した。

その後、平成19年6月20日付けで、水戸市長（当時）加藤浩一（市民環境部ごみ対策課扱）から、水戸市教育委員会（以下、市教委という。）教育長あて、「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて（照会）」（以下、照会という。）が提出された。市教委は平成19年8月24日に現地踏査を実施し、散野遺跡範囲内において土師器・須恵器片を採集した。この照会に対し、現地踏査の結果を報告するとともに、あらためて今般の事業対象地が散野遺跡の範囲内に含まれることを回答した。同年12月13日には、市教委は文化振興課課長補佐名にて、当該事業に係り組織された課題対策調査班あて、埋蔵文化財の取扱いに関係する今後のスケジュール案を提示した。

ここに至るまでに確認した当該事業の実施に係る課題の整理及び解決策の検討のため、当該事業は暫時その進捗を緩めることとなったが、平成24年度も半ばを過ぎた頃、具体化をみることとなる。

平成24年11月12日付けにて、改めてごみ対策課から教育委員会事務局文化課（旧文化振興課、現歴史文化財課、以下文化課という。）あて照会があり、文化課は再度の現地踏査を行ったうえで回答した。ごみ対策課による踏査によって選定した試掘調査区設定箇所の地権者への説明・承諾書取得を経て、平成26年1月17日付けで、ごみ対策課長から市教委教育長あて「開発に係る埋蔵文化財試掘調査の実施について（依頼）」が提出された。これを受け、市教委は平成26年1月24日から平成26年2月7日にかけて試掘調査を実施した。試掘調査では、当該事業の対象地内に計28箇所、延べ765.75㎡の調査区を設定した。その結果、一部採土による湮滅は確認されたものの、台地縁辺部を中心に竪穴建物跡9棟、土坑10基、ピット14基を検出し、縄文土器、奈良・平安時代に帰属する土師器・須恵器、瓦片の出土を確認した。遺構の検出に至らなかった調査区からも遺物の出土は確認され、極めて濃密な埋蔵文化財の分布を確認するに至った。また、当該事業対象地内には埋没谷が存在し、現況の畑地にみられる、うねる様な高低差は旧来の自然地形に起因することも明らかとなり、その谷を境として、埋蔵文化財の分布に明確な差異が生じていることが判明した。

この試掘調査結果をもとに、当該事業計画と重ね合わせ、「茨城県埋蔵文化財発掘調査等取扱い基準」と照合・検討した結果、原則Ⅰ「工事により埋蔵文化財が掘削され、破壊される場合」に該当するこ

第1章 調査に至る経緯と調査の経過

とから、これらの埋蔵文化財に対し、市教委はその保存のあり方についてごみ対策課との協議を重ねたが、工事による影響は不可避であるとの判断から、確認された埋蔵文化財の現状保存は極めて困難であるとの結論に達した。このため市教委は、平成26年3月28日付けで水戸市長高橋靖（ごみ対策課）から提出のあった文化財保護法第94条第1項に基づく通知について、当該事業計画地内において、土木工事が埋蔵文化財に影響を与えられとされる範囲に対し、次善の策として記録保存を目的とした本発掘調査を実施すべき旨の意見書を付して県教委教育長あて進達した。

この通知に対し、県教委教育長から平成26年4月9日付けにて、工事着手前に発掘調査を実施すること、また、調査の結果重要な遺構が確認された場合にはその保存等について別途協議を要する旨指示・勧告があった。

この通知を受けて、今般調査区を散野遺跡第1地点としたうえで、市教委は工事対象地のうち、埋蔵文化財が確認され、かつ土木工事により影響を受ける面積16,635㎡を調査対象とし、発掘調査業務委託契約に基づく株式会社地域文化財研究所の調査支援を受け、平成27年9月2日から平成28年1月15日の期間をもって発掘調査を実施した。（米川）



第1図 散野遺跡第1地点周辺地形図及び試掘トレンチ配置図

第2節 調査の方法と経過

(1) 調査の方法

今回の調査区は2地点に分かれており、調査順から南西側調査区(3,032 m²)をA区、北東側調査区(13,603 m²)をB区として区分した。表土除去はバックホーを使用し、発生土はキャリアダンプによって調査区外に搬出した。表土除去後の遺構確認、遺構掘削は全て人力で行った。座標は事業計画によって設置された基準点から求め、X軸=32400、Y軸=61090の交わる地点を基点とした10×10mの方眼グリッドを組んだ(第6図)。そして、X軸には北から南方向へA～Z・a～g、Y軸には西から東方向へ1～31の記号を付し、それぞれの交点に双方の記号を併用してA1～g31までのグリッド名を付した。各グリッドの範囲は交点となるグリッド杭を北西隅に置き、そこから10m四方とした。遺構実測は平板と簡易遣り方を用いて1/20縮尺を基本とし、カマドや遺物の微細図などは状況に応じて1/10縮尺を用いた。写真撮影は35mm判モノクロフィルム、35mm判及び6×7判カラーリバーサルフィルムを使用し、1000万画素のデジタルカメラを補助とした。

遺構実測及び写真撮影は調査の過程で随時行っている。空撮はラジコンヘリコプターにてA・B区それぞれで実施した。

整理調査は、出土した遺物全てを水洗いし、乾燥後に各遺物に対し可能な限り注記を行った。注記に際しては散野遺跡第1地点としての遺跡記号「201271-001」と出土地点を記載した。出土した遺物は接合を行い、その後全て分類して種別や個体・破片ごとの点数を数え、これらは出土遺物一覧表に掲載した。遺構図は、修正を加えた上でデジタルトレースを行った。遺物は全て原寸大で実測し、ロットリングを使用してトレースを行った。編集はDTPソフトを用いて報告書を作成した。

(2) 調査の経過

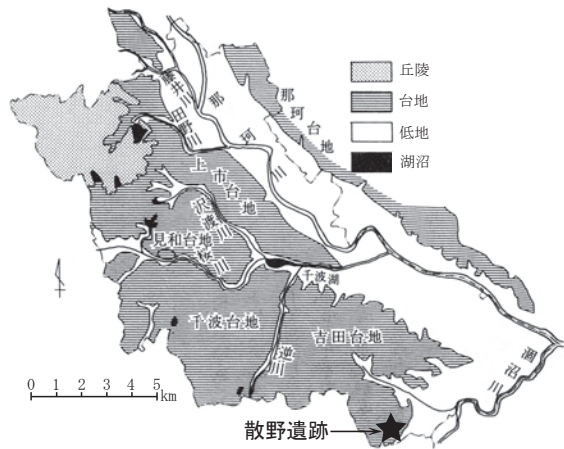
発掘調査は、8月下旬から調査区内の草刈りなど準備工程を経て、9月1日に重機を搬入し、2日より表土除去を開始した。表土除去はA区から行い、5日にはA区の表土除去を終え、その日の内にB区へと移行した。7・8日両日は雨天で中止にするが、9日以降B区の表土除去を継続した。14日から発掘作業員を投入し、B区の表土除去と併行してA区の遺構確認に入った。遺構確認は15日午前中まで行い、確認状況の写真撮影後、午後から遺構掘削を開始した。16日以降、表土除去と遺構掘削双方を継続した。表土除去は30日で終了し、10月1日に重機を搬出した。遺構掘削は5～7日にかけて掘り方の掘削を行って調査を終了した。一方、5日から発掘作業員の一部をB区へ移動させ、遺構確認及び谷部の精査を行った。翌日には遺構確認の終了した地点から遺構掘削を開始している。8日からは全ての発掘作業員をB区に投入して作業を進めたが、14日には発掘作業員を一旦A区に戻し、空撮のための清掃作業を行った。15日、A区空撮を実施した後、B区の遺構掘削を再開した。B区の遺構掘削に際しては、竪穴建物跡を中心に進め翌月11月まで継続している。11月19日には竪穴建物跡の掘削をほぼ終了し、発掘作業員の半数はB区南西側の調査区再精査へ移った。20日には土坑、ピットの掘削を開始した。23日以降は土坑・ピットの遺構確認と遺構掘削を交互に繰り返しながら北東側へと進み、翌月12月9日には遺構掘削を終了して、空撮準備のための調査区清掃に入った。15日まで全体清掃を行い、16日午前中に空撮を実施した。空撮終了後、竪穴建物跡の掘り方調査を開始、年明け1月15日まで継続し、発掘調査の全工程を終了した。

整理調査は4月30日から開始した。遺物の水洗い、注記、接合、遺物写真撮影、遺物実測、DTPソフトウェアによる編集の順に作業を行った。遺構図及び原稿執筆は、遺物の整理と併行して進め、報告書の刊行となった。(高野)

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

水戸市は、日本最大を誇る関東平野の北東部に位置する。市域の北部には、八溝山地を横切り、鷲子山塊と鶏足山塊とを南北に分ち、西から東へ流れる那珂川とその支流によって形成された沖積低地が広がり、これに沿うように東茨城台地が太平洋に向かって突き出している。東茨城台地はその西端で八溝山地の外縁にあたる丘陵へと続き、市域西部を形成している。東茨城台地のうち、水戸市域にあたる部分をとくに水戸台地と呼ぶことがあるが、この台地は那珂川とその支流によって開析された樹枝状の支谷により大きく4つに細分され、北西からそれぞれ上市台地、見和台地、千波台地、吉田台地と呼ばれる。



第2図 水戸市域地形図

(水戸市史編さん委員 1999 に加筆)

水戸市域を東流し、その下流域右岸の大半を水戸市域とする那珂川は、栃木県的那須連山を水源として、八溝山地の西縁を南へ流れた後、烏山の南から方向を東へ変えて八溝山地を横断し、今度は御前山を背にして南東へ方向を変えて那珂台地と東茨城台地との間を太平洋へと流れ出る。この那珂川の存在により、栃木県域に広がる那須野原や喜連川丘陵などの内陸部と太平洋沿岸部とが水上交通によって結ばれることから、歴史的に水戸市域は交通の要衝地となることが多かった。

散野遺跡は、市域の東端に位置し、水戸台地のうち最も東側にある、標高約 30 m の吉田台地上に立地する。現在は、東に涸沼川を望む台地の縁辺部に位置するが、この台地は山砂採取により大きく崩壊しており、旧来の状況を留めているものではない。本来は、より東側まで台地が伸びており、その上に遺跡が広がっていたものと考えられる。

(米川)



第3図 散野遺跡周辺旧地形図 (1:25,000)

第2節 歴史的環境

散野遺跡は、これまでに調査の手が及んだことはなく、今回の調査が第1地点となる。分布調査の際には、縄文時代中期後半に帰属する土器片、古墳時代から奈良・平安時代に帰属する土師器・須恵器片の採取が報告されており、該期の集落跡が包蔵されている可能性が指摘されていたに留まっていた。その詳細については踏査による成果以上のものはなく、涸沼川に臨む台地縁辺部は山砂採取により削られてはいたものの、その範囲内の大部分に畑地が広がる現況から、良好な保存状況が想定されていた。このような中、遺構の存否確認のために実施した試掘調査では、踏査の結果と齟齬なく、縄文時代、奈良・平安時代に帰属する遺構群が確認され、これらの時期に営まれた集落の複合遺跡であることが明らかとなった。

散野遺跡が位置する台地上の遺跡群についても、発掘調査が実施されたものは多いとは言えず、そのほとんどが踏査や零細な試掘調査が行われたに留まる。しかしながら、先土器時代から中世に至るまで、散在的かつ断続的ではあっても、往時の人々の生活の痕跡をうかがうことができる。ここでは、それらの遺跡群を概観し、散野遺跡を取り巻く歴史的環境に触れたい。

当該地域における人々の営みの歴史は先土器時代にまで遡る。この時期の資料は、森戸古墳群と元石川大谷原遺跡からの出土が知られている。森戸古墳群では、第12号墳（大六天古墳）の発掘調査において、チャートやメノウから構成される石器群の出土が報告されている。それら石器群の大部分は墳丘盛土・周隴覆土内からの出土であるが、剥片ではあるものの、1点が周隴底面のローム中から出土している（伊東 1976）。元石川大谷原遺跡では、古墳時代の竪穴建物跡の柱穴からガラス質黒色安山岩の剥片が1点出土している（川口・色川・渥美・片平 2008）。

また、これらの資料のほか、明確に遺跡として括られた範囲内での採集ではないが、水戸市百合が丘、下入野町地内等において、ガラス質黒色デイサイトや硬質頁岩製の神子柴型尖頭器が採集されている（川口 2005, 2008）。

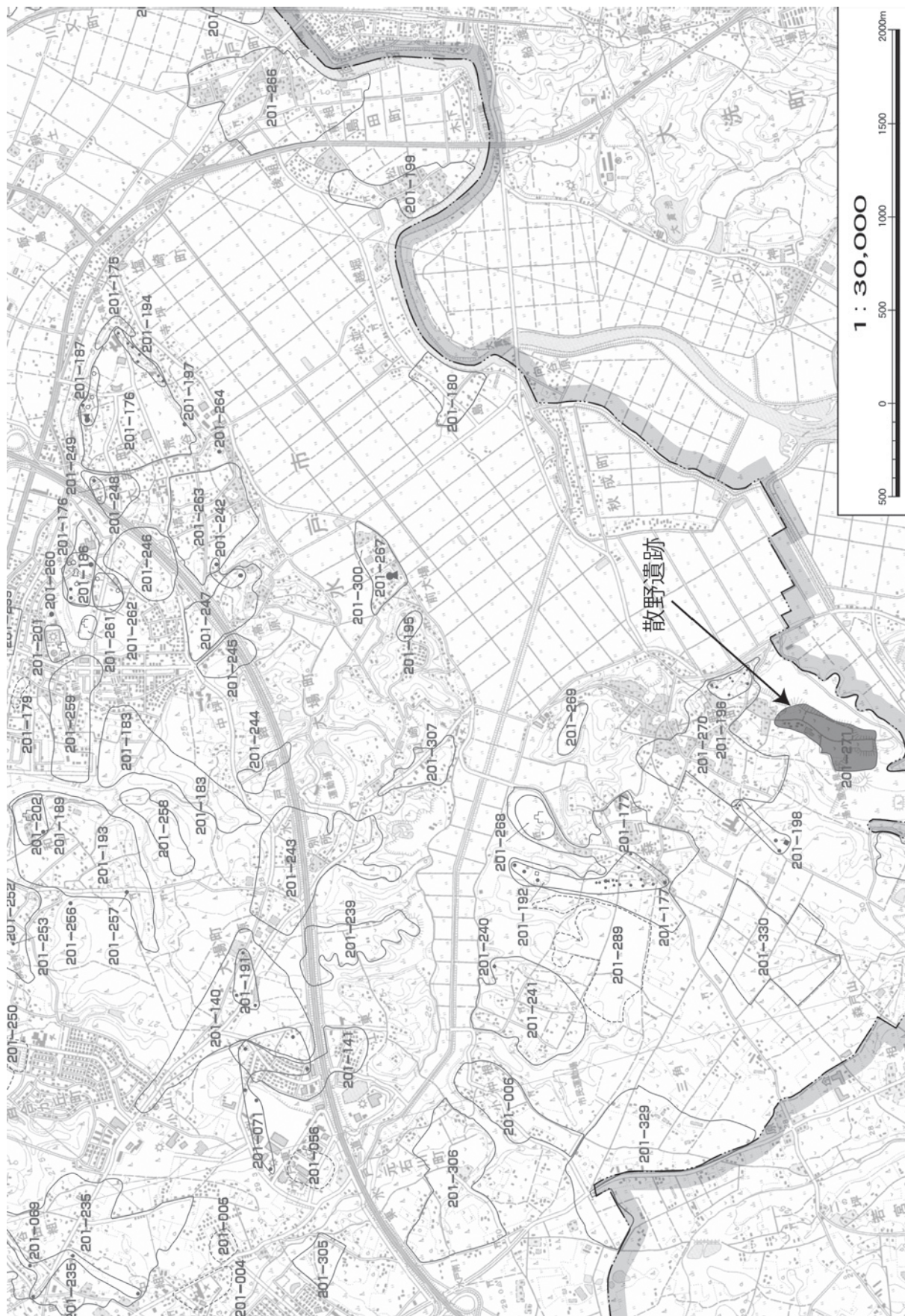
縄文時代を迎えると、当該地域において活発な土地利用が行われたことが、周辺遺跡の分布状況からみてとれる。縄文時代の遺跡としては、中ノ割遺跡（早期～後期）、元石川大谷原遺跡（後期）、下畑遺跡（中期、後期）、雁沢遺跡（中期・後期）、小仲根遺跡（中期）、小山遺跡（中期・後期）、乗越沢遺跡（後期）において、それぞれの時期における人々の生活の痕跡が捉えられている。他にも、寺後遺跡、於申塚遺跡、新分付遺跡で縄文土器片の採集が報告されている。これらの遺跡群のうち、発掘調査が実施されたのは、中ノ割遺跡、小山遺跡、元石川大谷原遺跡、下畑遺跡、雁沢遺跡（外山 1982, 宮田・渥美 2009）、小仲根遺跡（川口・小川・大淵 2002）である。

これら6遺跡のうち遺構が確認されているのは、中ノ割遺跡と小山遺跡、下畑遺跡である。中ノ割遺跡では、縄文時代後期に帰属する土坑5基を除いては、そのほとんどについて年代が明らかにされてはいないが、早期から後期にかけての土器片、石器、土器片錘等が出土している（梶山 1993）。

小山遺跡では、縄文時代中期加曽利E IV式期の竪穴住居跡1軒のほか、後期前葉堀之内式期の土坑1基が検出されるとともに、当該期の土器片、石器、土器片錘、土製円盤等が出土している（梶山前掲）。

下畑遺跡では、加曽利E式、大木8b式期の竪穴住居跡1軒をのほか、中期後葉から後期初等の土坑をはじめとする遺構群が確認されており（井上 1985）、中期から後期にかけての人々の営みを窺うことができる。

また、散野遺跡からはやや離れるが、石川川を挟んだ台地北東端には、『常陸國風土記』那賀郡条



第4図 周辺遺跡位置図

第1表 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	種別	遺物	備考
201-006	下畑遺跡	集落跡	縄文土器(中・後),打製石斧,石鏃,石錘,磨石,凹石,石棒,石剣,土器片錘,土師器(古後)	
201-056	元石川権現台遺跡	集落跡	弥生土器,紡錘車,土師器(古)	
201-071	江東古墳群	古墳群		円6(10?)
201-140	乗越沢遺跡	集落跡	縄文土器(後),土器片錘,土師器(古),須恵器	
201-141	雁沢遺跡	集落跡	縄文土器(中・後),弥生土器(後),土師器(古前), 須恵器(奈・平)	
201-177	森戸遺跡	包蔵地		
201-191	小山古墳群	古墳群		円3
201-192	森戸古墳群	古墳群	尖頭器(旧),土師器(古),円筒埴輪,形象埴輪,勾玉	後円1,方0(1),円
201-195	涸沼台古墳群	古墳群		円7?
201-196	下入野古墳群	古墳群	円筒埴輪,大刀,刀子	円8
201-198	下入野西古墳群	古墳群		円6
201-239	中ノ割遺跡	集落跡	縄文土器(早～後),石槍,石斧,磨石,土器片錘,土師器,須恵器(奈・平)	
201-240	小仲根権現古墳	古墳		円1
201-241	小仲根遺跡	集落跡	縄文土器(中),磨製石斧,土師器,須恵器(平)	
201-243	小山遺跡	集落跡	縄文土器(中・後),磨製石斧,磨石,土器片錘,土製円盤	
201-268	久保山館跡	城館跡		
201-269	西ノ崎遺跡	集落跡	土師器,須恵器(古・奈・平)	
201-270	下入野富士山遺跡	集落跡	土師器(古),円筒埴輪	
201-271	散野遺跡	集落跡	縄文土器(中),土師器,須恵器(奈・平)	
201-289	元石川大谷原遺跡	集落跡	剥片(旧), 縄文土器(前・中・後・晩),土器片錘,土師器,須恵器,灰釉陶器(奈・平)	湮滅
201-306	寺後遺跡	包蔵地	縄文土器,土師器	
201-307	山崎遺跡	包蔵地		
201-329	於申塚遺跡	包蔵地	縄文土器,須恵器	
201-330	新分付遺跡	包蔵地	縄文土器,土師器	

に記された巨人伝説とともに著名な国指定史跡「大串貝塚」が存在することも忘れてはならない。大串貝塚は前期貝塚であり、貝塚としては文献に記載された世界最古のものである。一部が国指定となっているが、その名に恥じぬ豊富な出土資料は、質・量ともに茨城県下における当該期の貝塚を凌駕している（水戸市教委 2010）。

弥生時代については、散野遺跡周辺における状況も水戸市全域における傾向に変わらず、当該時期の土地利用は他時期のそれに比してやや低調な傾向にある。しかしながら、後期に至っては、丘陵沿いの台地上や縁辺部に立地する小原遺跡、高原遺跡、雁沢遺跡等で遺物の採集や出土が報告されており、東前原遺跡では、第8地点の発掘調査において、後期の竪穴住居跡が発見されている（高野・米川 2016）。今後の調査成果に期するところは未だ大きいものの、これらの調査成果の蓄積により、徐々にではあるが、水戸市域における弥生時代の土地利用の様相が像を結びつつある。

古墳時代を迎えると、大串古墳群、北屋敷古墳群、高原古墳群、森戸古墳群等を筆頭に、活発に古墳が築造されるようになる。これらの古墳のうち、北屋敷古墳群第2号墳において発掘調査が実施されており、円筒埴輪、武人をはじめとする人物埴輪、馬形埴輪等形象埴輪が多く出土している（井上・千葉 1995）。このうち、ほぼ全身が出土した武人埴輪は、水戸市指定文化財となっている。集落の分布としては、中期の集落に係る資料に乏しく、周辺では管見に触れないが、前期の集落としては大串遺跡（井上 1994）、後期の集落としては梶内遺跡（樫村 1995）、小原遺跡等の調査事例がある。当該地域においては、前期・後期ともに活発な土地利用がみとれる反面、中期における土地利用が緩慢であると言わざるを得ない。このことは、集落に関する立地について、中期において大きな変動があったことを示唆するものである。

第2章 遺跡の位置と環境

奈良・平安時代となり、律令制下の中央集権体制が構築されていくなか、水戸市域においても地方末端支配を目的とした郡衙及びその周辺寺院の造営が、渡里町に所在する台渡里官衙遺跡群において行われ、その支配体制の中へと組み込まれていくこととなる。水戸市は市域全域が常陸国那賀郡域内にあり、当該遺跡周辺は同郡芳賀里（郷）に比定される（中山 1979）。当該時期の遺跡として、先ず注目すべきは大串遺跡の存在である。大串遺跡第7地点における発掘調査では、断面V字状を呈する大型の溝によって区画された内部に、整然と並ぶ総地業の礎石建物跡3棟が確認されている（水戸市教委 2007）。

また、大型の溝の外側に接する形で束柱を持つ桁行6間×梁行3間の大型の掘立柱建物跡等も発見されている。大型の掘立柱建物跡の柱抜き取り穴からは多量の炭化材とともに炭化米が、区画溝からは炭化した穎稻や穀稻が出土しており、これら建物が正倉や穎屋等の性格を有し、火災により焼失していたことが明らかになっている（小川・大淵・川口・木本・渥美・関口・株式会社京都科学 2008）。このほか、「厨」銘墨書土器の出土など、官衙的色彩の強さが目立つ当該地点の遺構群は、那賀郡内に設置された正倉別院であったであろうことが指摘されている（小川・大淵・川口・木本・渥美・関口・株式会社京都科学前掲）。

このほか、梶内遺跡は、7世紀から10世紀まで、途中希薄になる時期は存在するものの、比較的長く継続する集落跡として看過することはできず、「舎人」「長」や里（郷）名を記したとみられる「芳」銘墨書土器、9点もの円面硯を出土しており、官衙関連遺跡としての性格を匂わせる（樫村 1995）。

また、梶内遺跡の北西に位置する東前原遺跡では、近年相次いで実施した発掘調査の成果により、第7地点及び第8地点において大規模な方形に巡る区画溝跡が検出されており、大串遺跡と同様に官衙に関連する可能性がある。さらに東前原遺跡の南に隣接する小原遺跡では、近年相次いで実施した発掘調査の成果により、6世紀から9世紀にかけて存続した集落跡であることが明らかになっており、「官」銘墨書土器の出土から、梶内遺跡と同様の性格を有した可能性を有している（太田・土生 2015、齋藤・米川 2016）。以上のような奈良・平安時代の遺跡が集中する様は、『常陸國風土記』那賀郡条の「平津驛家西一二里有岡名曰大櫛」の記事（秋本 1958）とあわせ、散野遺跡を含む当該地域が、常陸国那賀郡芳賀里（郷）の中核とも言える地域であったことを物語っている。

武士が実権を握る中世に散野遺跡が所在する旧常澄村域と重なる恒富郷を根拠としていたのは、常陸平氏大掾氏の一流である石川氏であった（常澄村史編さん委員会編 1989）。散野遺跡周辺に位置する当該時期の遺跡としては、椿山館跡、和平館跡、大串原館跡が挙げられ、いずれの城館跡も土塁の残存が報告されているが、調査事例が少なくその詳細については不明な点が多い（水戸市教育委員会 1999）。

近世において、当該地域の台地上は水戸城下の外縁部にあたり、必ずしも前代のような求心力を有する地域であるとは言い難い。しかしながら、当該時期に帰属する溝跡や土坑等は各所で散見され、その土地利用の痕跡を窺うことはできる。なかでも、『新編常陸国誌』等に立原伊豆守の居所と記される伊豆屋敷跡は、発掘調査の結果、3条の土塁と1条の溝跡が確認されている（井上 1998）。

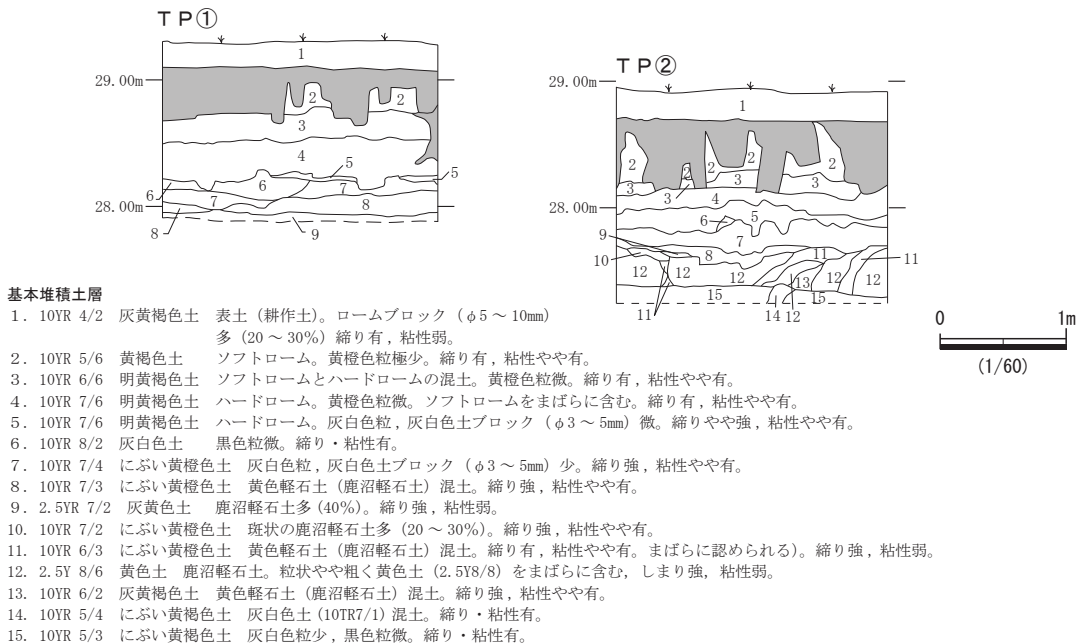
以上のように、散野遺跡が立地する台地周辺には、縄文時代から近世に至るまで、多くの遺跡が点在しており、古代には大串遺跡や梶内遺跡等の官衙関連遺跡が展開し、古代常陸国那賀郡の中核であった台渡里官衙遺跡群との色濃い関連性は疑うべくもない。現在、散野遺跡の近隣に位置する東前原遺跡や小原遺跡での調査の蓄積には目覚ましい進展があり、これらの遺跡と既往の調査成果の丹念な検討を通じて当該地域の歴史像が少しずつ紐解かれていくことが期待される。（米川）

第3章 調査の成果

第1節 基本堆積土層

今回調査が行われた地点は、散野遺跡として周知された範囲の中では東部に位置し、涸沼川左岸の台地上標高28～29 m程に立地している。調査区周辺は良質な山砂が採取されることで知られており、1960年代から大規模な土砂採取事業が行われていた。その影響で特にA区の東西両側やB区の東・南側は大きく削平され、もともとの地形を把握できる状態ではなかった。調査区として設定された場所は既に荒地であったが、長らく畑地として利用されていたようで、現況ではほぼ平坦な地形であった。しかし平坦な中にも所々に大きな谷状の落ち込みを確認することができる。A区では南側が急な斜面地になり、その斜面に沿って台地部の集落から低地部へ移動するための道が通っていた。一方でB区の中央部では、東側に向けて緩やかに落ち込む部分を確認されるものの、畑地として活用するため、落ち込みは比較的ゆるやかであった。また、調査区外ではあるが、A区とB区の挟間にも西側に向けて落ち込む地形になっており、土砂採取以前は調査区周辺の入り組んだ地形であったことが容易に想像できる。

基本堆積土層は、A区・f 1グリッド (TP①)、B区・V 18グリッド (TP②) の標高29 m地点で観察を行った。両地点とも、それぞれの層厚に違いはあるものの、堆積に極端な差異は認められない。1層は表土層で耕作による堆積土である。下層ほどロームブロックを多量に含み、トレンチャーによる地山掘削が激しかったことがわかる。2層はソフトローム層で遺構確認となるが、B区においては耕作等による削平のためか認められず、4層上面が遺構確認面となる。ハードローム層はA区の場合、色調や含有物の差異から4・5・7層に分層できたが、B区では5・7層が認められるのみであった。いずれも下層に移行するに従い、締まりや粘性を増していく。12層は鹿沼軽石層で、A・B両地点で粒状の細かい層と粗い層に分けられるものの、複雑な堆積状態で、特にA区では11・13層が入り込むなどの様相を呈している。この鹿沼軽石層は、埋没谷の標高27.5 m付近で露呈しており、全体に標高27.5～28.0 m付近で一定に堆積していることが理解された。(高野)

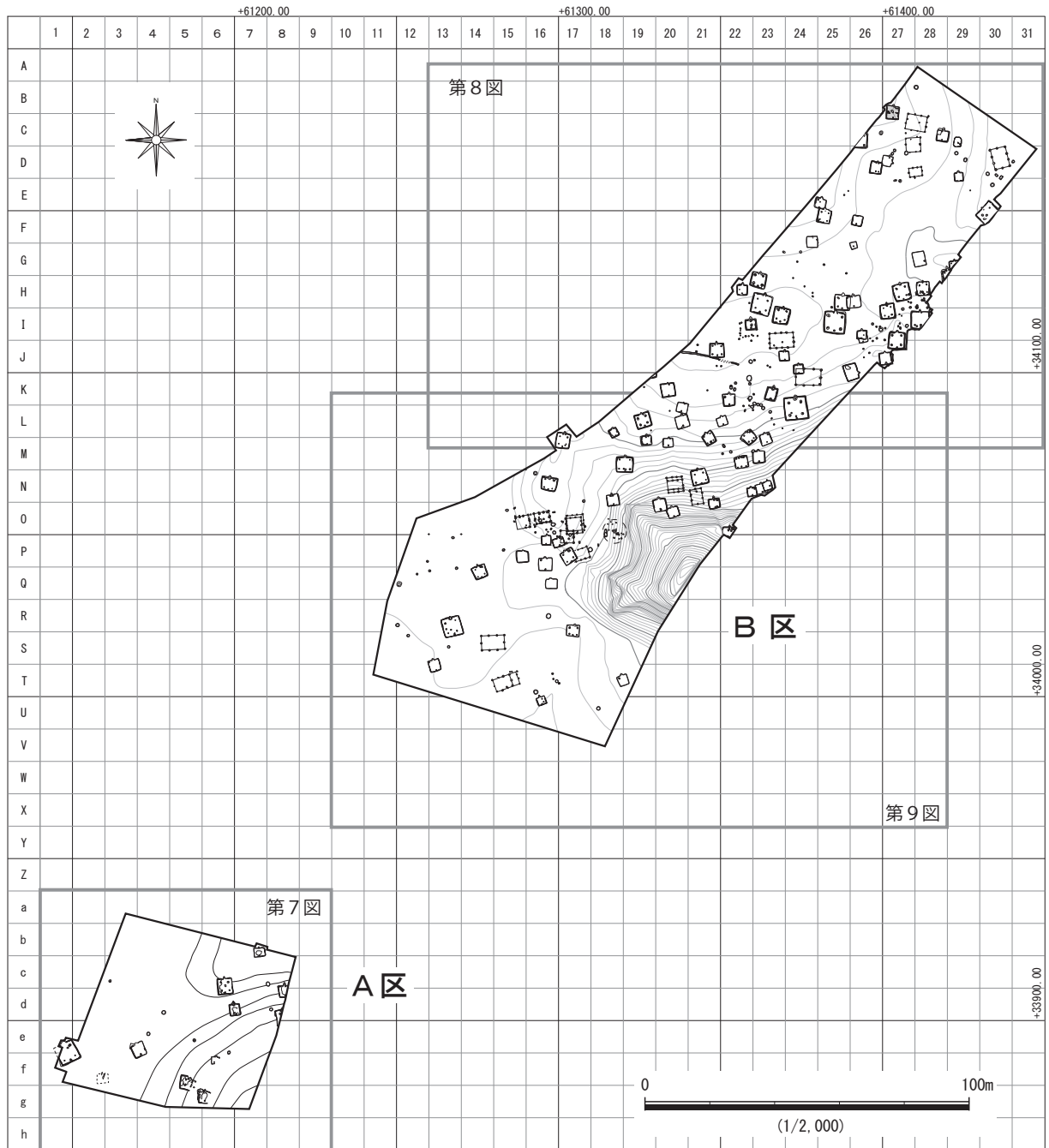


第5図 基本堆積土層図

第2節 検出された遺構と遺物の概要

本調査は、試掘調査の成果に基づき設定された、A・B2地点を対象とした調査を行った。調査区内では、N・Oグリッド地点を除き、牛蒡等によるトレンチャー耕作が複数回行われているため、遺構が縞状又は格子状に壊されている状態であった。

A区の南側斜面地やB区の緩やかに落ち込んだ地形の部分にはともに埋没谷が形成されていた。標高の最も高い地点との比高差は3～4m程を測り、A区では一部の確認に止まったが、B区では東側から埋没谷が樹枝状に入り込む状況が把握された。



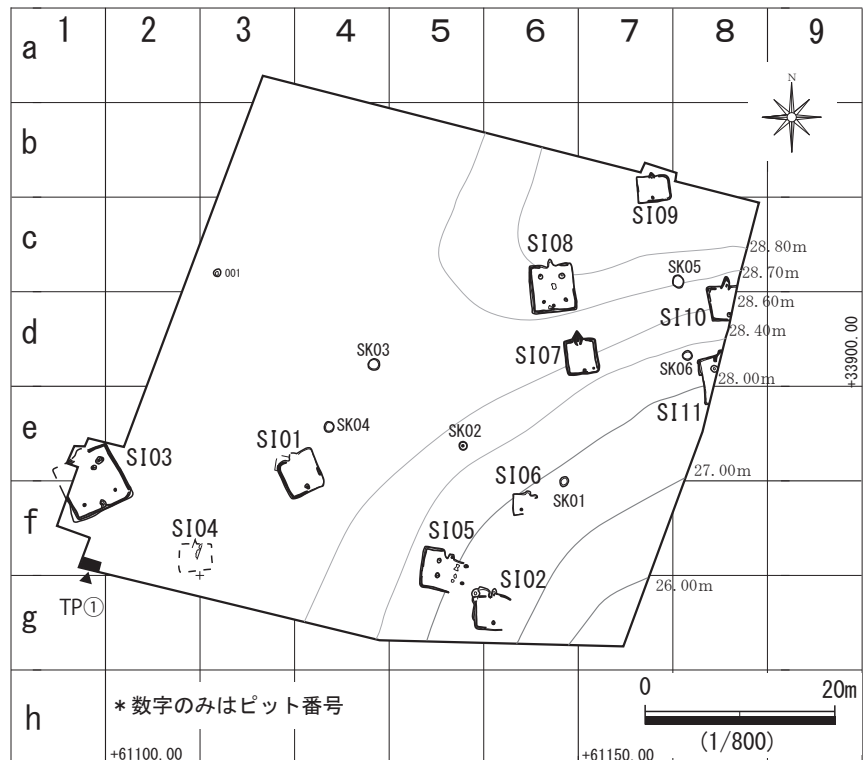
第6図 A・B区遺構全体図

検出された遺構は、縄文時代の竪穴住居跡1軒（SI89）、炉跡1基（2号炉。1号炉跡はSI89の炉として扱った）、土坑24基（SK01～07・09～11・16～21・24・26・27・44・49・54・63・64）、奈良・平安時代の竪穴建物跡88棟（SI01～88）、掘立柱建物跡17棟（SB01～17）、土坑35基（SK08・12～15・22・23・25・28～40・45～48・50～53・55～60）、溝跡1条（SD01）、井戸跡1基（SE01）、掘立柱建物跡以外の柱穴やピットは174基で、これには縄文時代竪穴建物跡のピットも混在する。さらに近世の墓坑4基（SK41～43・61）と、その他の土坑1基も確認された。

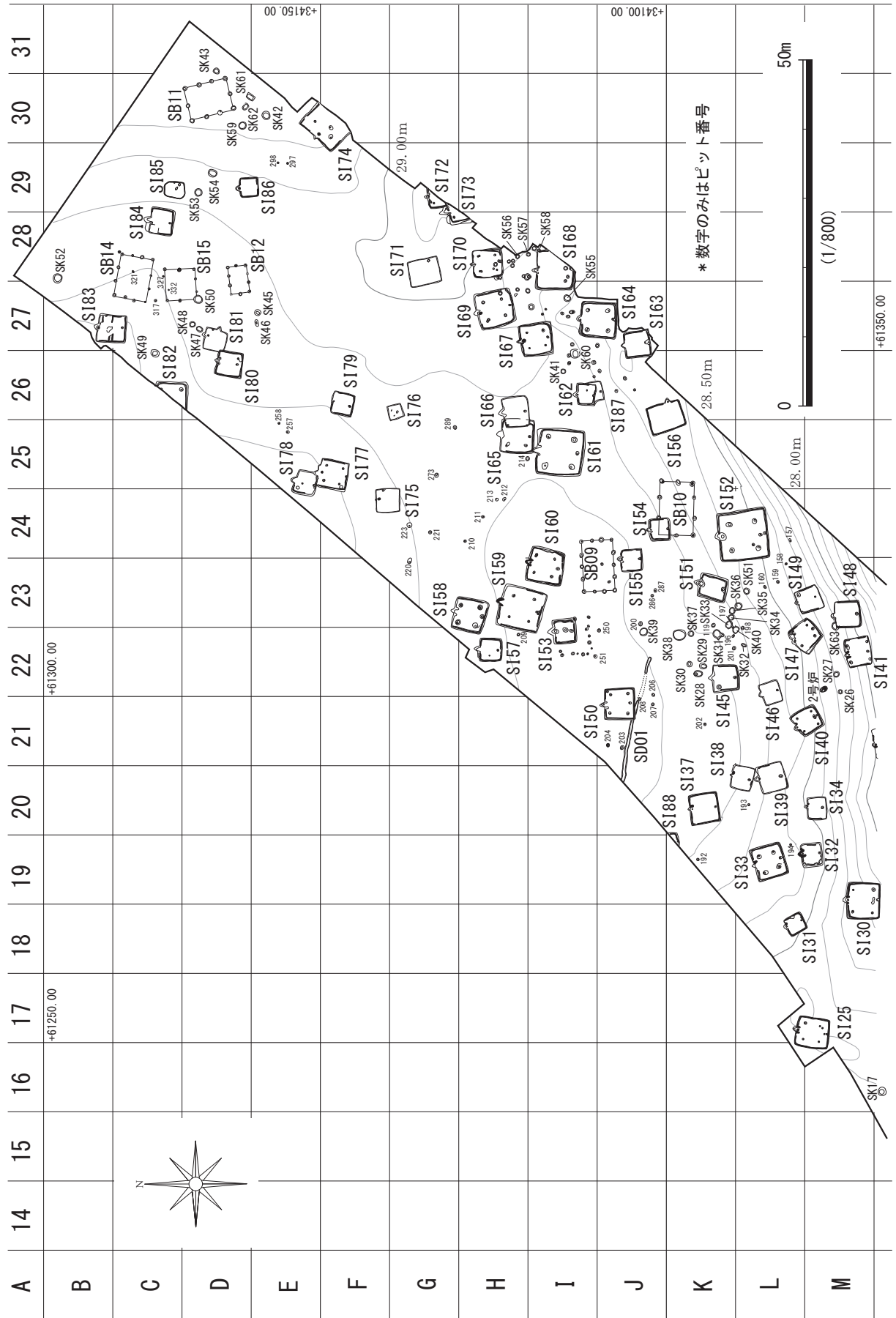
縄文時代の竪穴住居跡は、1号炉を中心にして小ピットが巡る。遺物は、わずかであるが縄文後期前葉（称名寺2式期～堀之内1式期）の小片土器が出土し、該期の所産と考えられる。土坑では陥穴状と円筒状の土坑が確認され、前者では遺物が出土しなかったが、縄文早期～前期の可能性がある。後者では、配置的には集中することはなく単独の土坑が散在する傾向にあり、遺物は縄文後期（称名寺式期、堀之内式期）の土器片が主体で出土した。同時期の遺物は遺構外からも採集されている。

奈良・平安時代の遺構は、竪穴建物跡と掘立柱建物跡が確認され、本地点検出遺構の主体となる。竪穴建物跡は、A区では南側斜面地縁辺部で主に展開するのに対し、B区では中央部の標高28.0～28.5m地点、谷津頭O・Pグリッド付近から遺構が集中し埋没谷斜面地から北側にかけて広がっていく様相である。ただし、竪穴建物跡同士が重複するのはあまり多くはなく、掘立柱建物跡との重なりも少ない。また遺構の集中度には粗密があり、空白地帯も見受けられる。各建物跡の規模は、1辺が2m程度の小型のものから7mを超える大型のものまで存在し、中型から大型の建物跡では支柱穴を有するが、小型の建物跡は支柱穴がほとんど認められなかった。カマドは規模に関わらず大体が北壁に付随するが、SI44・56は東壁で確認されている。SI81は東カマドから北カマドへ移行した状況が捉えられた。遺物は、土師器（坏、高台付坏・碗、皿、甕、甑、鉢）、須恵器（坏、高台付坏、盤、蓋、皿、甕、甑、鉢、壺・瓶類、高坏、円面硯）、灰釉陶器（壺・瓶類、皿）で、中でもSI15・78から円面硯が出土し、集落

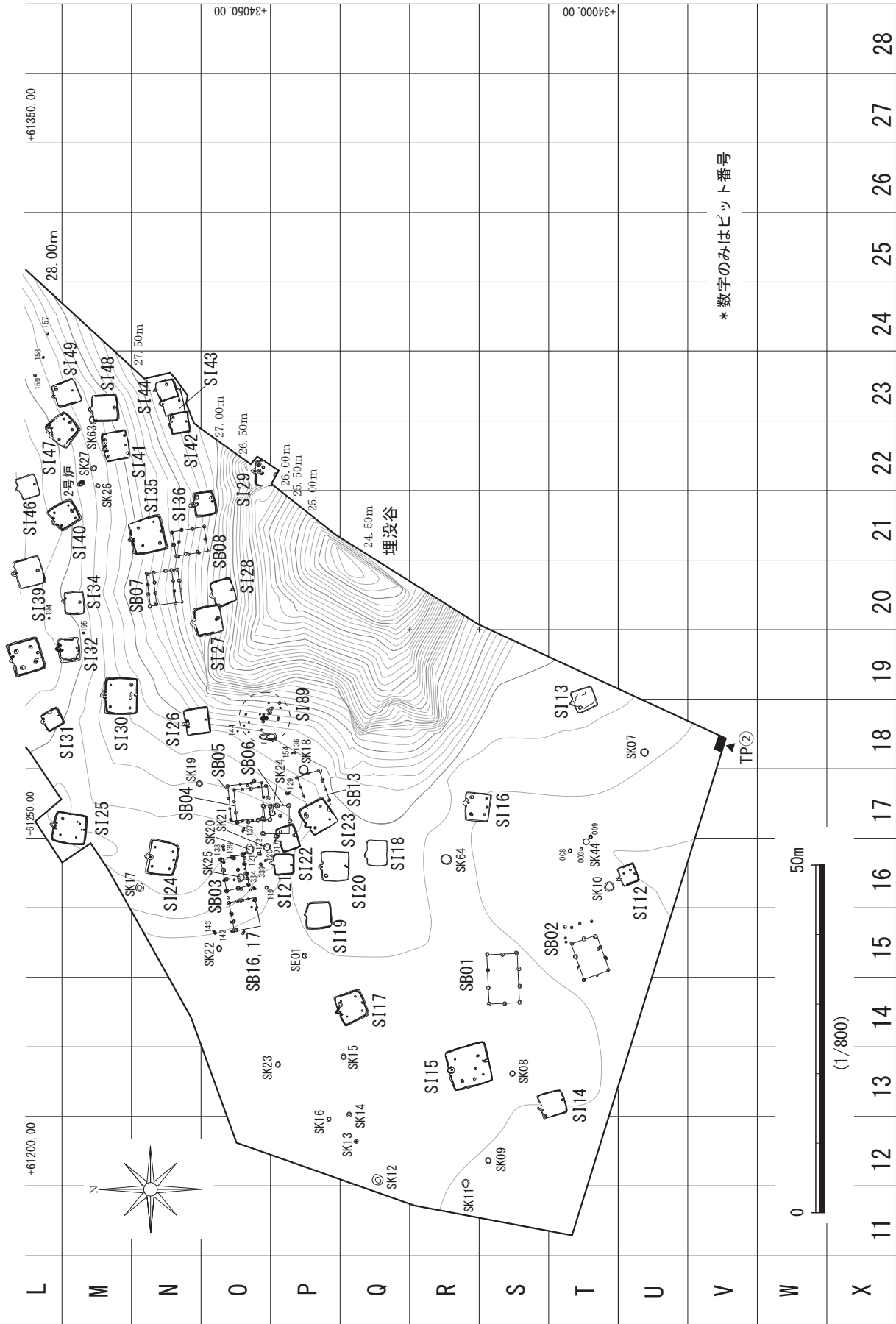
の性格を考察する上で注目される。掘立柱建物跡は、地点ごとに2～4棟がまとまって確認されている。建物間の重複しているのはSB04～06のみであるが、竪穴建物跡との重複はSB10とSI54、SB13とSI23である。規模の点からみると、検出された17棟の内2×3間が11棟と最も多く、それ以外では2×2間1棟、3×3間4棟、3×4間1棟であった。ただ、同じ間数であってもそれぞれの柱間寸法にばらつきが認められ、柱



第7図 A区全体図



第8図 B区全体図(1)



第9図 B区全体図(2)

第3章 調査の成果

筋も揃わず、平面積も全て 50 m²以下と小規模である。その他、明らかに柱穴状の遺構であるものの、建物跡として構成されないピット群も存在した。

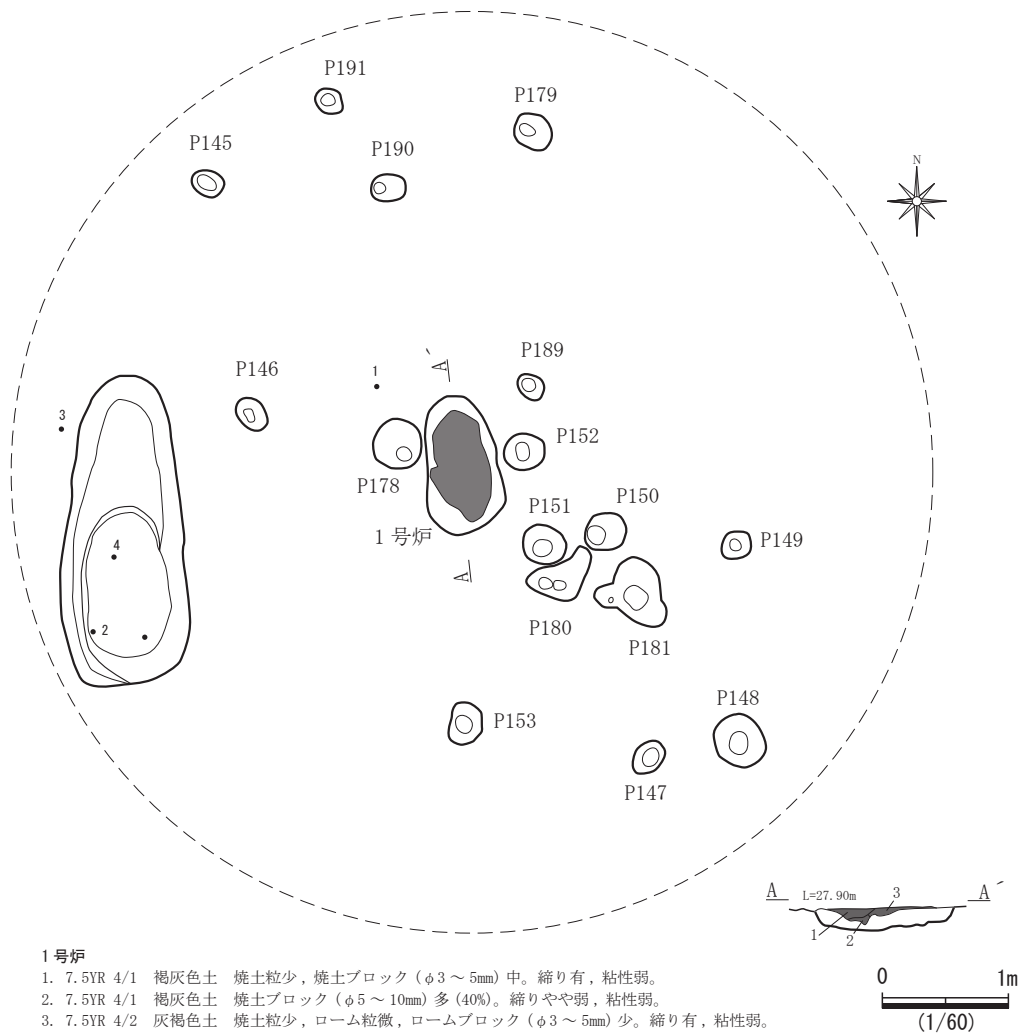
近世墓は SK41 ~ 43・61 が調査区北東側において並列し確認されている。SK41 ~ 43 は円筒形の土坑に遺骸が埋葬されており、出土遺物には銭貨（寛永通宝）、煙管が含まれ、SK41 では近世陶磁器も副葬されていた。SK61 のみが方形の土坑で、違う時期の墓坑ではないかと考えられる。（高野）

第3節 縄文時代

(1) 竪穴住居跡

SI89（第10図、第2・24表、写真図版3・25）

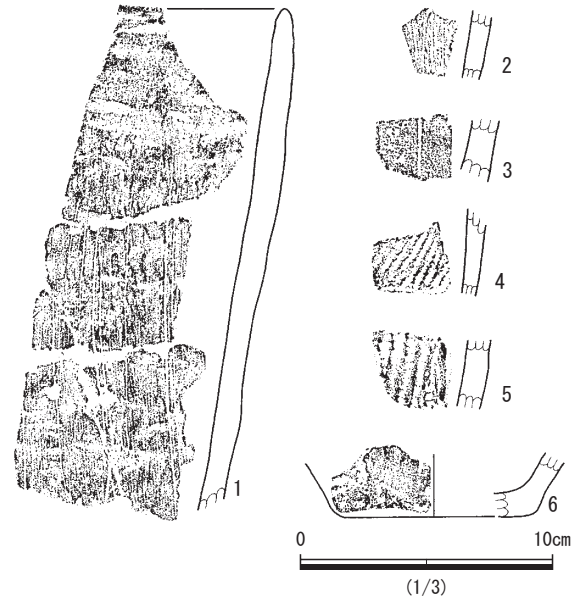
検出位置はB区中央部O18・19、P18・19グリッドである。埋没谷の西側斜面地にあり、1号炉跡を中心として大小16基のピット（Pit145～153・178～181・189～191）が巡る。南東側では規模が大きめのピットを認めるが、北東側では小規模なピットのみが数少なく配置される。壁は検出されなかったため平面形状は把握できなかったが、西側に窪みが認められ、これが壁の一部とも考えられる。他のピットの配置と併せて推測される規模は6.0 m～7.0 mの範囲と思われる。床面も検出さ



第10図 SI89

れなかった。炉は楕円形で長軸方向はN-7°-Wを示し、規模は長軸102cm、短軸62cmで、深さ15cm程に掘り窪められ、焼土が堆積した上面全体が赤変硬化する。焼土は北側部分が南側より厚く堆積し、その分南側ではわずかに窪みが大きい。

遺物は、7点（深鉢7）が出土した。1は炉内とその周辺からの接合遺物であるが、2～4は西側の窪み内及び周辺、5はPit150、6はPit153からの出土でいずれも小破片である。まばらな条線文の施文が目立つ。時期は縄文後期前葉で、称名寺2式期～堀之内1式期と考えられる。



第11図 SI89出土遺物

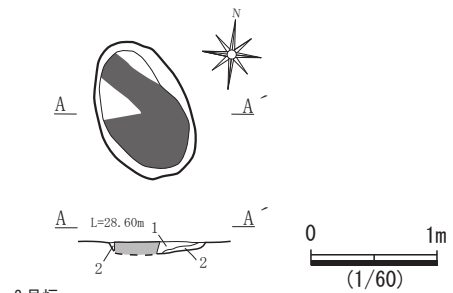
第2表 SI89 柱穴一覧表

遺構名	位置 (グリッド)	形状	規模(cm)			重複・覆土・特徴・その他	出土遺物	備考
			長軸	短軸	深さ			
Pit145	O18	楕円形	27	21	34	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒少。	なし	
Pit146	O18	楕円形	29	20	25	単層, 10YR3/3暗褐色土:ローム土混土・黒色ブロック多。	なし	
Pit147	P18	楕円形	30	22	24	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒少・黒色粒(炭化物粒か)微。	なし	
Pit148	P18	円形	44	40	57	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム土混土・黄色粒少。	縄:深鉢2	
Pit149	O18	円形	24	21	20	単層, 10YR3/2黒褐色土:黄色粒少。	なし	
Pit150	O18	円形	35	28	54	単層, 10YR3/1黒褐色土:ロームブロック少・黄色粒中。	縄:深鉢1	
Pit151	O18	円形	33	33	37	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒少。	須:坏1	
Pit152	O18	円形	32	29	33	単層, 10YR3/2黒褐色土:ロームブロック・黄色ブロック多。	なし	
Pit153	P18	楕円形	34	26	60	単層, 10YR3/2黒褐色土:ロームブロック少。	縄:深鉢1	
Pit178	O18	円形	42	38	64	単層, 10YR4/3にぶい黄褐色土:ローム粒少・赤色ブロック微。	なし	
Pit179	O18	円形	33	28	37	単層, 10YR3/3暗褐色土:ローム粒少。	なし	
Pit180	O18, P18	不整形	46	43	40	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒・黄色粒少。	なし	
Pit181	O18, P18	不整形	59	53	43	単層, 10YR3/3暗褐色土:黄色粒少。	土:坏1, 須:坏1	
Pit189	O18	円形	22	18	25	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒少。	なし	
Pit190	O18	楕円形	30	22	30	単層, 10YR3/3暗褐色土:黄色粒少・ロームブロック微。	なし	
Pit191	O18	円形	23	19	38	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒少・ロームブロック微。	なし	

(2) 炉跡 (第12図, 写真図版3)

検出位置はB区M22グリッドである。埋没谷北側の縁辺部にあたり、一部攪乱によって壊されている。形状は楕円形で長軸方向はN-32°-Wを示し、規模は長軸113cm、短軸73cm、深さ10cm程掘り窪められる。全体に焼土が4~6cm堆積し、赤変硬化している。1号炉跡周辺とは違い、周辺にピットは検出されなかった。

遺物は、土師器1点(坏1)、須恵器1点(不明1)の小片が出土しているが、いずれも混入とみられ、該期の遺物は出土しなかった。



2号炉

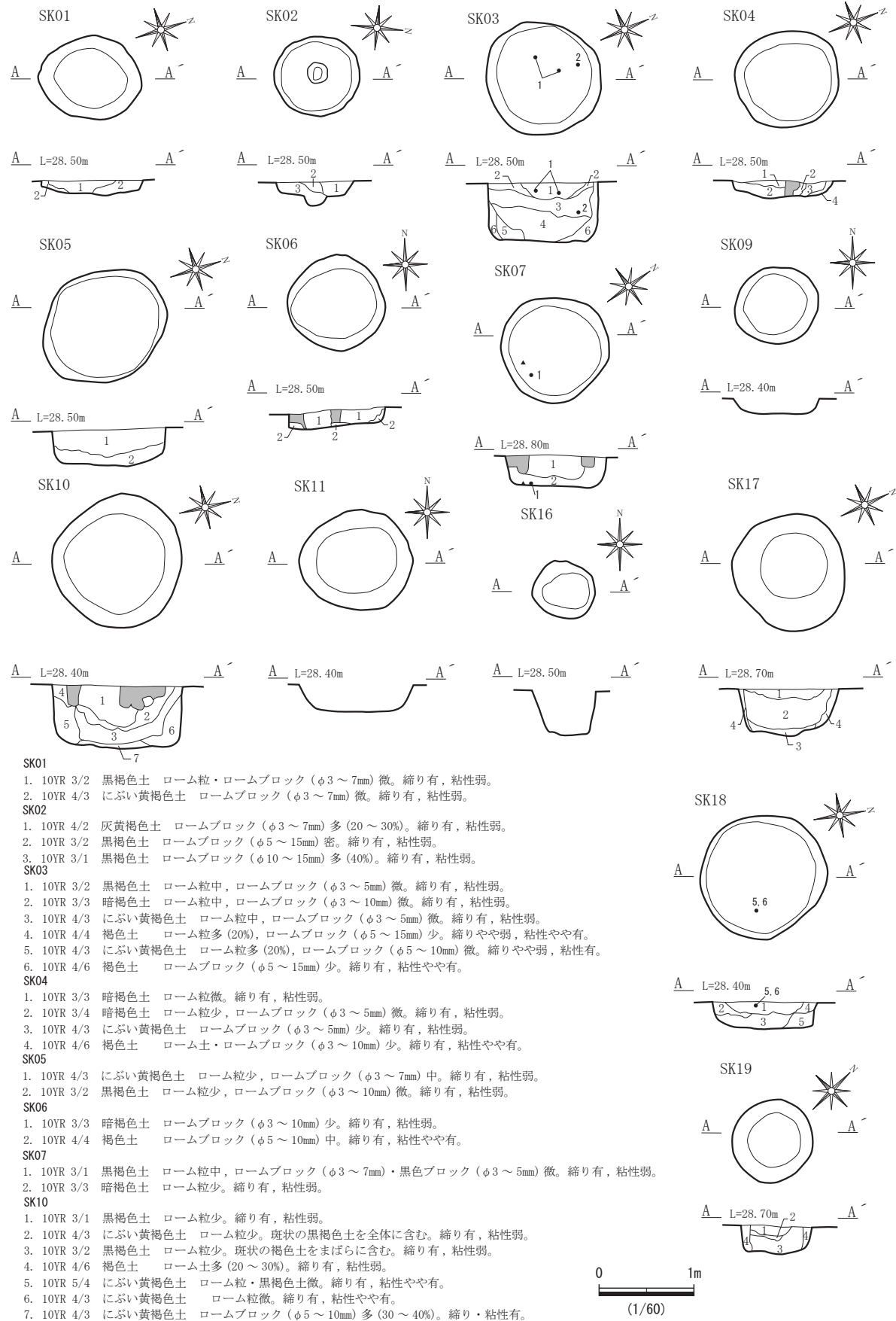
- 7.5YR 4/1 褐灰色土 焼土ブロック(φ5~10mm)・ローム粒少、ロームブロック(φ3~5mm)微。締り有、粘性弱。
- 10YR 4/2 灰黄褐色土 ロームブロック(φ3~10mm)中。締り有、粘性やや有。

第12図 2号炉跡

(3) 土坑 (第13~15図, 第3・24・28表, 写真図版3・4・25)

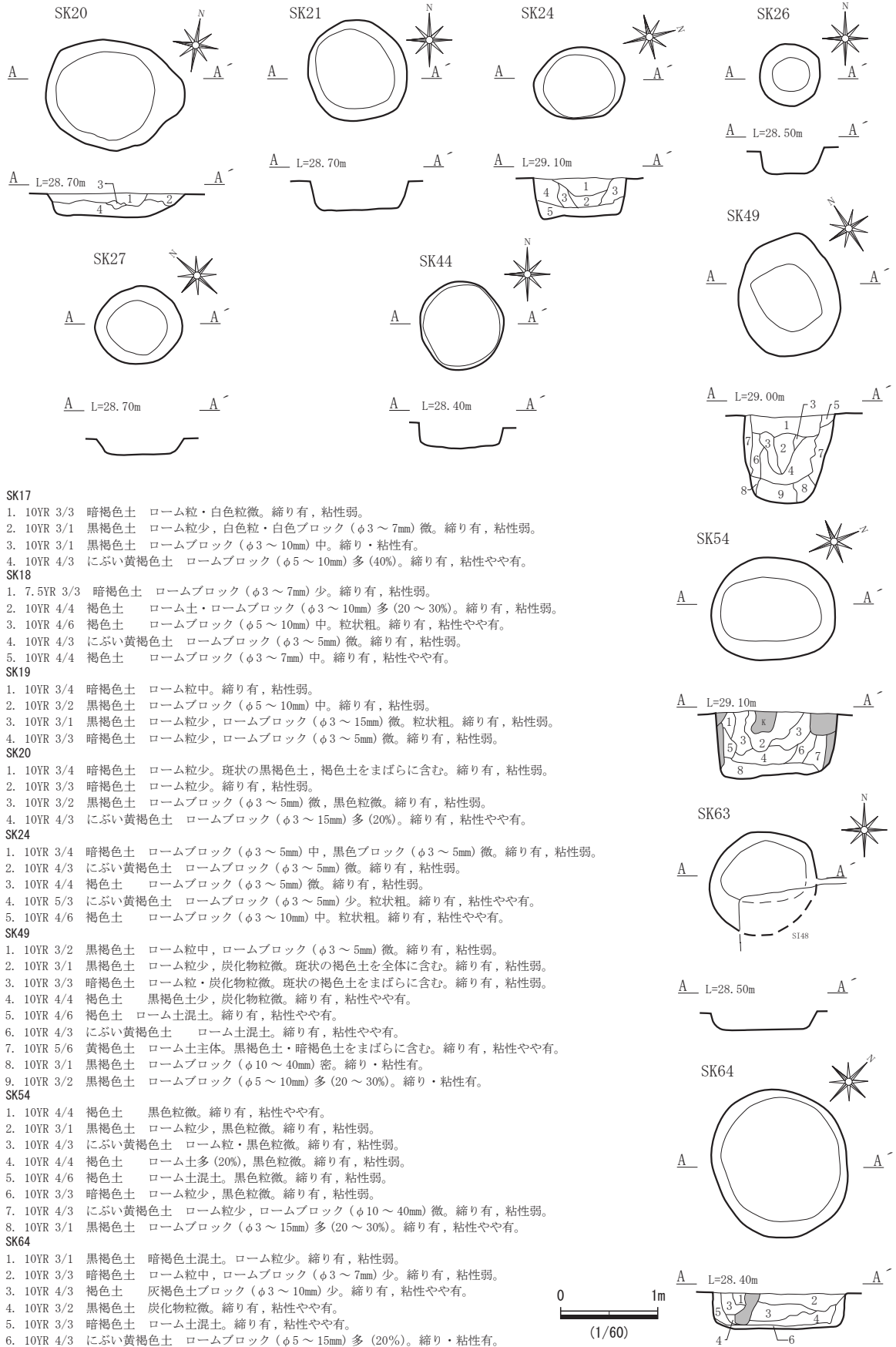
土坑はA区6基(SK01~06)、B区58基(SK07~64)の合計64基を検出している。当該期と判断される土坑は24基である。縄文土器が出土しているのは10基(SK03・07・09・18~21・24・44・64)であるが、この中でSK53はわずかな出土で混入した可能性が高く、後世の土坑とした(第

第3章 調査の成果



- SK01**
 1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ3~7mm) 微。締り有, 粘性弱。
 2. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ3~7mm) 微。締り有, 粘性弱。
- SK02**
 1. 10YR 4/2 灰黄褐色土 ロームブロック (φ3~7mm) 多 (20~30%)。締り有, 粘性弱。
 2. 10YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック (φ5~15mm) 密。締り有, 粘性弱。
 3. 10YR 3/1 黒褐色土 ロームブロック (φ10~15mm) 多 (40%)。締り有, 粘性弱。
- SK03**
 1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒中, ロームブロック (φ3~5mm) 微。締り有, 粘性弱。
 2. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒中, ロームブロック (φ3~10mm) 微。締り有, 粘性弱。
 3. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒中, ロームブロック (φ3~5mm) 微。締り有, 粘性弱。
 4. 10YR 4/4 褐色土 ローム粒多 (20%), ロームブロック (φ5~15mm) 少。締りやや弱, 粘性やや有。
 5. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒多 (20%), ロームブロック (φ5~10mm) 微。締りやや弱, 粘性有。
 6. 10YR 4/6 褐色土 ロームブロック (φ5~15mm) 少。締り有, 粘性やや有。
- SK04**
 1. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒微。締り有, 粘性弱。
 2. 10YR 3/4 暗褐色土 ローム粒少, ロームブロック (φ3~5mm) 微。締り有, 粘性弱。
 3. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ3~5mm) 少。締り有, 粘性弱。
 4. 10YR 4/6 褐色土 ローム土・ロームブロック (φ3~10mm) 少。締り有, 粘性やや有。
- SK05**
 1. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒少, ロームブロック (φ3~7mm) 中。締り有, 粘性弱。
 2. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒少, ロームブロック (φ3~10mm) 微。締り有, 粘性弱。
- SK06**
 1. 10YR 3/3 暗褐色土 ロームブロック (φ3~10mm) 少。締り有, 粘性弱。
 2. 10YR 4/4 褐色土 ロームブロック (φ5~10mm) 中。締り有, 粘性やや有。
- SK07**
 1. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒中, ロームブロック (φ3~7mm)・黒色ブロック (φ3~5mm) 微。締り有, 粘性弱。
 2. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒少。締り有, 粘性弱。
- SK10**
 1. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒少。締り有, 粘性弱。
 2. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒少。斑状の黒褐色土を全体に含む。締り有, 粘性弱。
 3. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒少。斑状の褐色土をまばらに含む。締り有, 粘性弱。
 4. 10YR 4/6 褐色土 ローム土多 (20~30%)。締り有, 粘性弱。
 5. 10YR 5/4 にぶい黄褐色土 ローム粒・黒褐色土微。締り有, 粘性やや有。
 6. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒微。締り有, 粘性やや有。
 7. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ5~10mm) 多 (30~40%)。締り・粘性有。

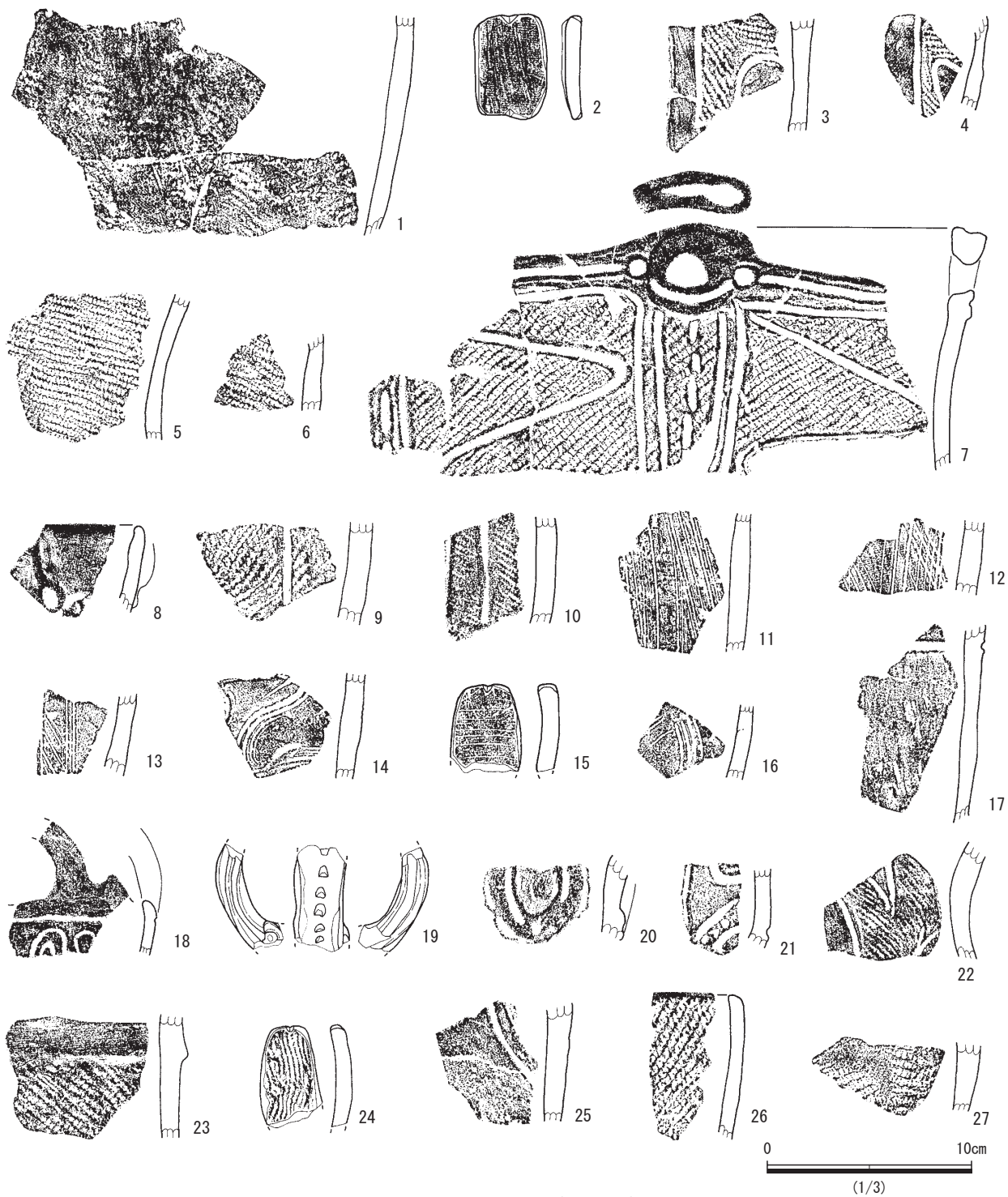
第13図 縄文時代土坑 (1)



第14図 縄文時代土坑 (2)

第3章 調査の成果

190・191 図)。一方、縄文時代に帰属する遺物は出土していないものの、形態や堆積する覆土の状態が縄文土器出土の土坑に類似することなどから、該期の所産とした土坑 14 基 (SK01・02・04～06・10・11・16・17・26・27・49・54・63) がある。その内 SK49・54 は陥穴と判断される。各土坑の配置を見ると、A 区や B 区の谷部周辺ではまばらに展開していることが捉えられる。土坑の形態は基本的に円筒形で、規模はまちまちであるが覆土は含有物の少ない黒褐色土・暗褐色土を主体としている点が共通する。SK03・44・64 などは、若干壁が外側へ抉れる袋状を呈した形態である。



第 15 図 縄文時代土坑出土遺物

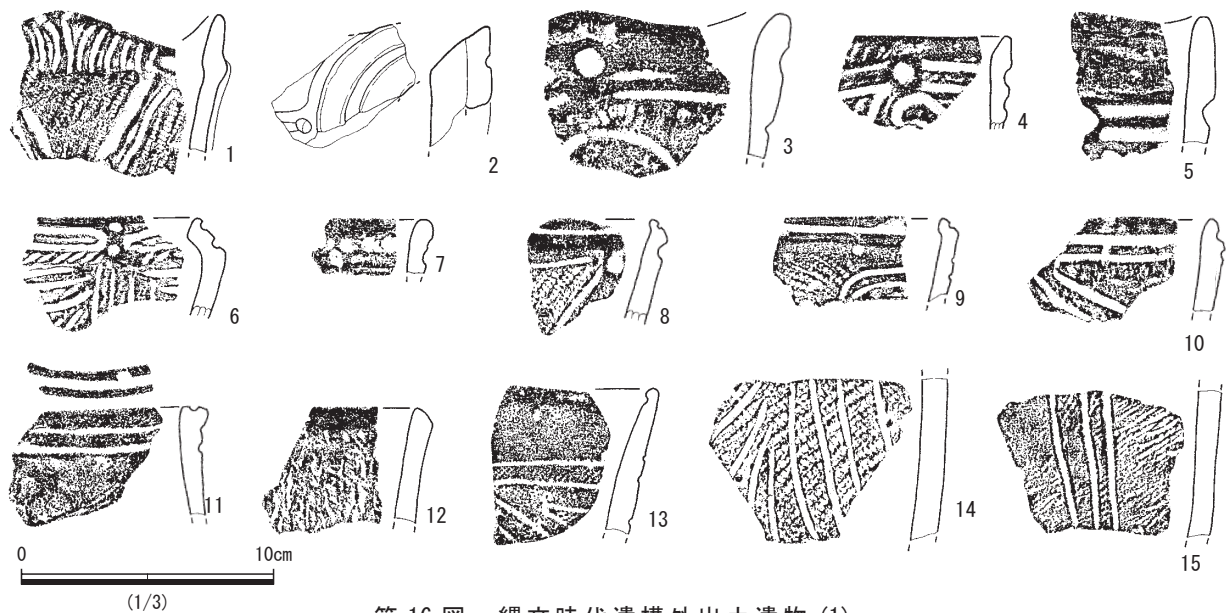
遺物は、80点が出土し、SK07・09・18・44・64で比較的まとまった出土が見られた。時期は、縄文後期前葉の称名寺2式期から堀之内1式期が主体と考えられる。

第3表 縄文時代土坑一覧表

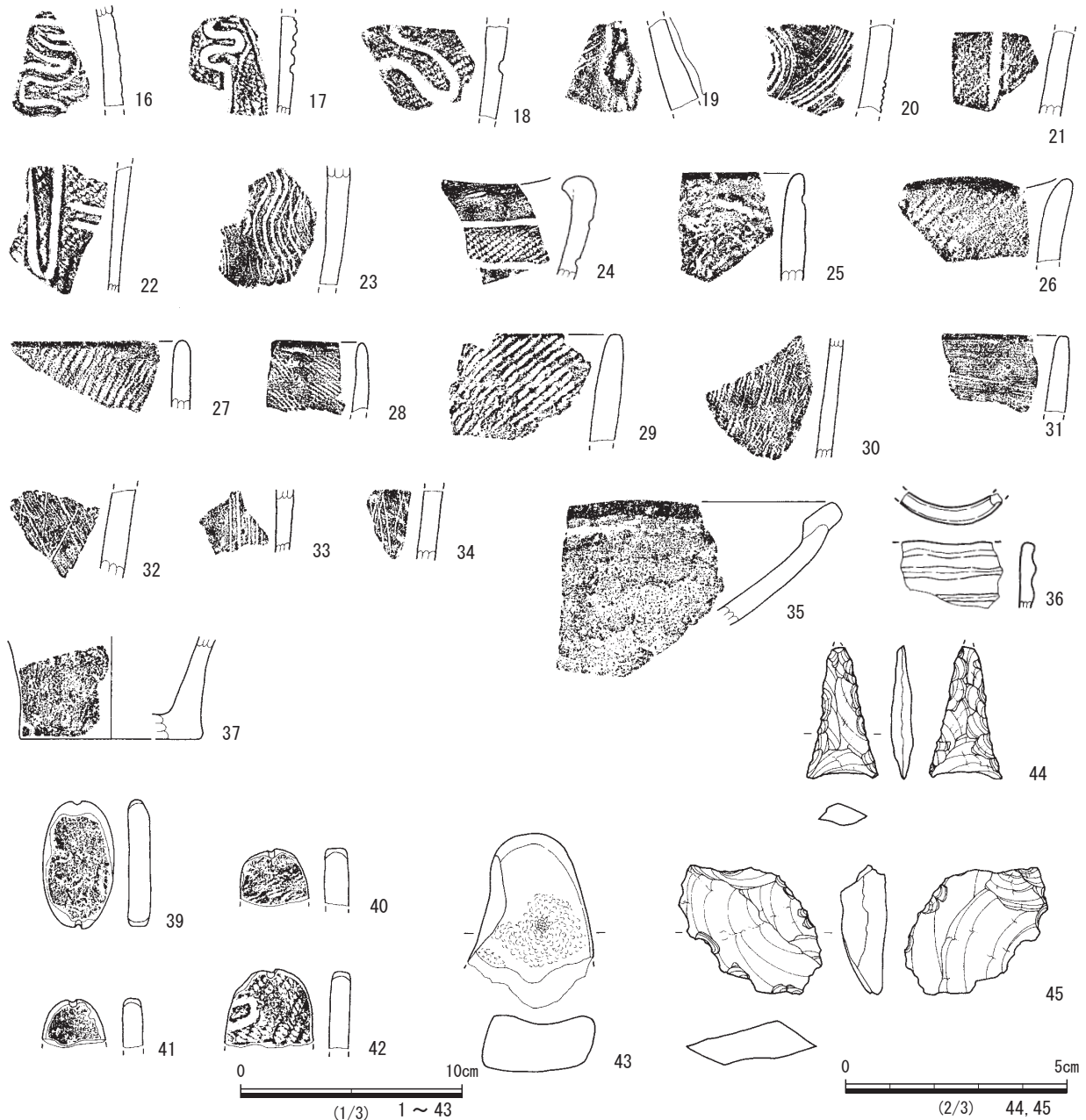
遺構名	位置 (グリッド)	形状		長軸方向	規模(cm)			重複・覆土・特徴・その他	主な出土遺物	備考
		平面	断面		長軸	短軸	深さ			
SK01	e6・f6	楕円形	鍋底状	N-23° -E	110	86	19	2層, 自然堆積。	須: 坏2	
SK02	e5	円形	鍋底状	N-36° -W	90	82	17	5層, 自然堆積。中央にピット有。	なし	
SK03	d4	円形	袋状	N-88° -W	120	118	66	6層, 自然堆積。	縄: 深鉢1, 土器片錘1	
SK04	e4	円形	皿状	N-23° -W	111	102	15	4層, 自然堆積。	なし	
SK05	c8	円形	鍋底状	N-16° -W	136	111	44	2層, 自然堆積。	土: 甕1, 須: 坏1	
SK06	d8	円形	皿状	N-86° -E	103	101	24	2層, 自然堆積。	なし	
SK07	U18	円形	鍋底状	N-40° -E	115	113	35	2層, 自然堆積。	縄: 深鉢6, 土: 甕1	
SK09	S12	円形	皿状	N-76° -E	91	82	17	単層, 10YR3/2黒褐色土。	縄: 深鉢3	
SK10	T16	円形	鍋底状	N-34° -W	138	133	67	7層, 自然堆積。	なし	
SK11	R12	円形	皿状	N-86° -E	121	106	25	単層, 10YR4/3にぶい黄褐色土。	なし	
SK16	P12	円形	筒状	N-89° -E	66	64	56	単層, 10YR4/3にぶい黄褐色土。	なし	
SK17	N16	円形	鍋底状	N-86° -E	125	120	48	4層, 自然堆積。	土: 甕1, 須: 坏1	
SK18	P17・18	円形	筒状	N-34° -W	143	126	43	5層, 自然堆積。壁面若干ハング。	縄: 深鉢27	
SK19	N17	円形	鍋底状	N- 8° -E	90	85	31	4層, 自然堆積。	縄: 深鉢1, 須: 甕1, 片錘1	
SK20	O16	円形	鍋底状	N-84° -E	130	113	25	4層, 自然堆積。	縄: 深鉢6, 土: 甕2, 須: 坏1	
SK21	O16	円形	鍋底状	N-47° -W	108	102	30	単層, 10YR3/3暗褐色土。	縄: 深1, 土: 甕1	
SK24	O17・P17	楕円形	筒状	N-15° -E	94	75	44	5層, 自然堆積。	縄: 深鉢2, 土: 甕2, 須: 坏5	
SK26	M22	円形	皿状	N-58° -E	64	64	27	単層, 10YR3/3暗褐色土。	なし	
SK27	M22	円形	皿状	N-48° -W	90	78	13	単層, 10YR4/3にぶい黄褐色土。	なし	
SK44	T16	円形	筒状	N-44° -W	88	88	35	単層, 10YR3/3暗褐色土。	縄: 深鉢21, 土器片錘1	
SK49	C26	隅丸方形	箱状	N- 3° -W	122	106	95	9層, 自然堆積。陥穴状土坑。	土: 甕1	
SK54	D29	隅丸方形	箱状	N-21° -E	128	105	63	8層, 自然堆積。陥穴状土坑。	なし	
SK63	M22・23	(円形)	鍋底状	—	117	(117)	42	SI48に切られる。単層, 10YR3/3暗褐色土。	なし	
SK64	R16	円形	筒状	N-29° -E	152	143	39	6層, 自然堆積。	縄: 深鉢4	

(4) 縄文時代遺構外出土遺物 (第16・17図, 第24・28・30表, 写真図版26)

縄文時代の竪穴住居跡, 土坑以外から出土した縄文土器の破片は511点である。これらは特に奈良・平安時代の竪穴建物跡の出土遺物中に含まれているものが目立ち, 出土した縄文土器全体の85%以上を占めている。縄文土器が出土している竪穴建物跡はSI01・03・05・08～10, 12～19, 21～28, 30～33, 35～41, 43～49, 51, 52, 60, 64, 83の45棟から出土している。出土量を見ていくと, SI24からの出土が最も多く, 102点を数える。次いでSI30の61点, SI25の54点と続くが, 概ね10点未満の出土が主体となっている。深鉢の破片がほとんどで, いずれも摩耗している。36の土製腕輪, 39～42の土器片錘, 43～45の石器類も出土した。土器の時期は, SI89や各土坑で認められた縄文時代後期前葉の称名寺式期から堀之内式期と同様である。 (高野)



第16図 縄文時代遺構外出土遺物 (1)



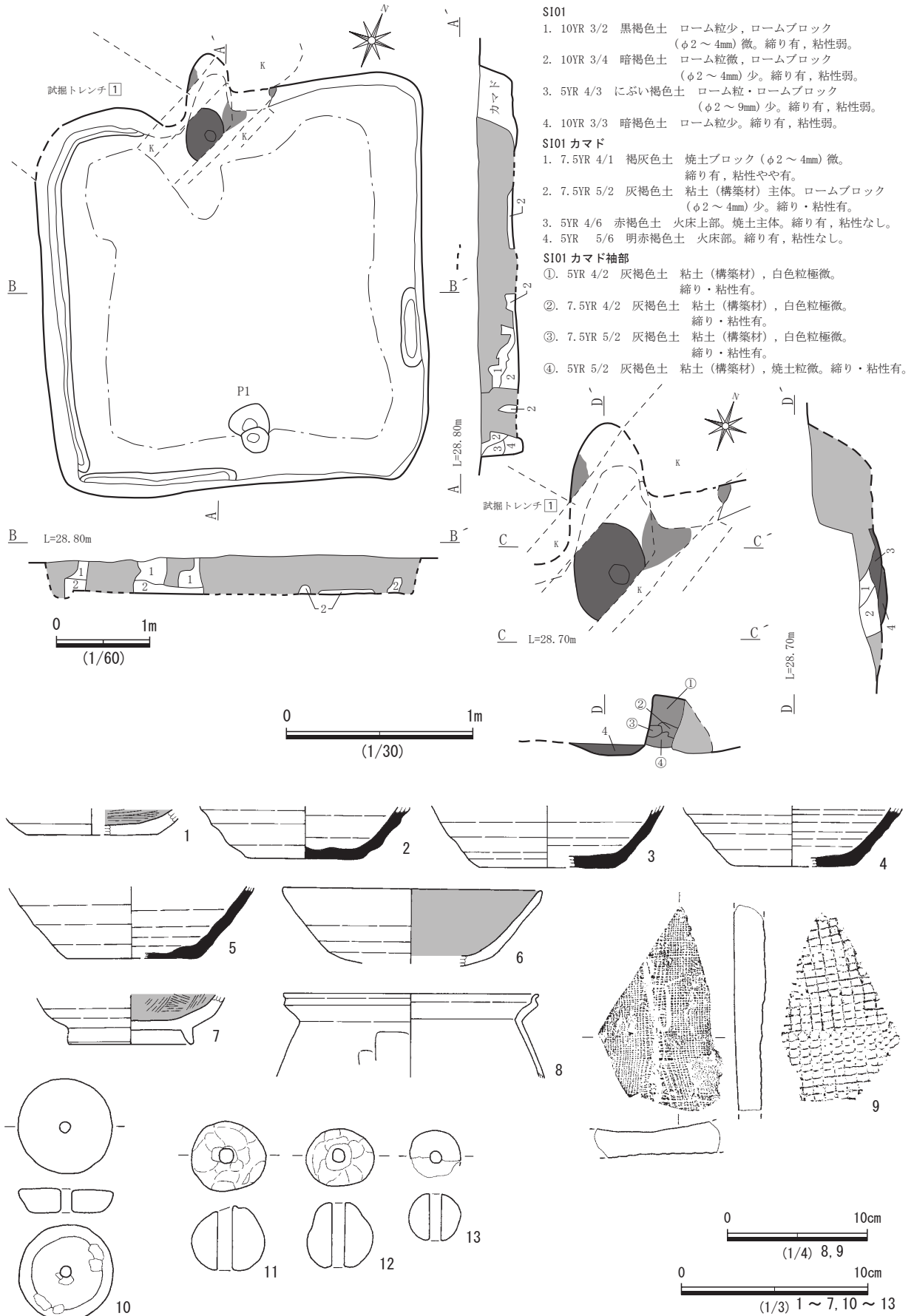
(1/3) 1~43
第17図 縄文時代遺構外出土遺物 (2)

第4節 古墳時代～奈良・平安時代

(1) 竪穴建物跡

SI01 (第18図, 第26～28・30表, 写真図版5・26)

検出位置はA区南西寄りのe3・4, f3・4グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーで攪乱を受けるが床面までは達していない。平面形は方形で、主軸方向はN-25°-Wを示す。規模は東西軸が4.08m, 南北軸が4.22m, 深さは28～38cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は北西隅部分に試掘時のトレンチが入り、本調査では北東側の土層が一部確認できていないが、遺存する部分から自然堆積と考えられる。床面はロームブロックを含む褐色土の貼り床が施され、全体に硬化している。西側半分の壁際には幅15～26cm, 深さ4cm程の壁溝が確認されているが、東側半分ではほとんど検出されなかった。ピットは南壁際中央にP1があり、規模は52×44cm, 深さ28cmの不



第18図 SI01・同出土遺物

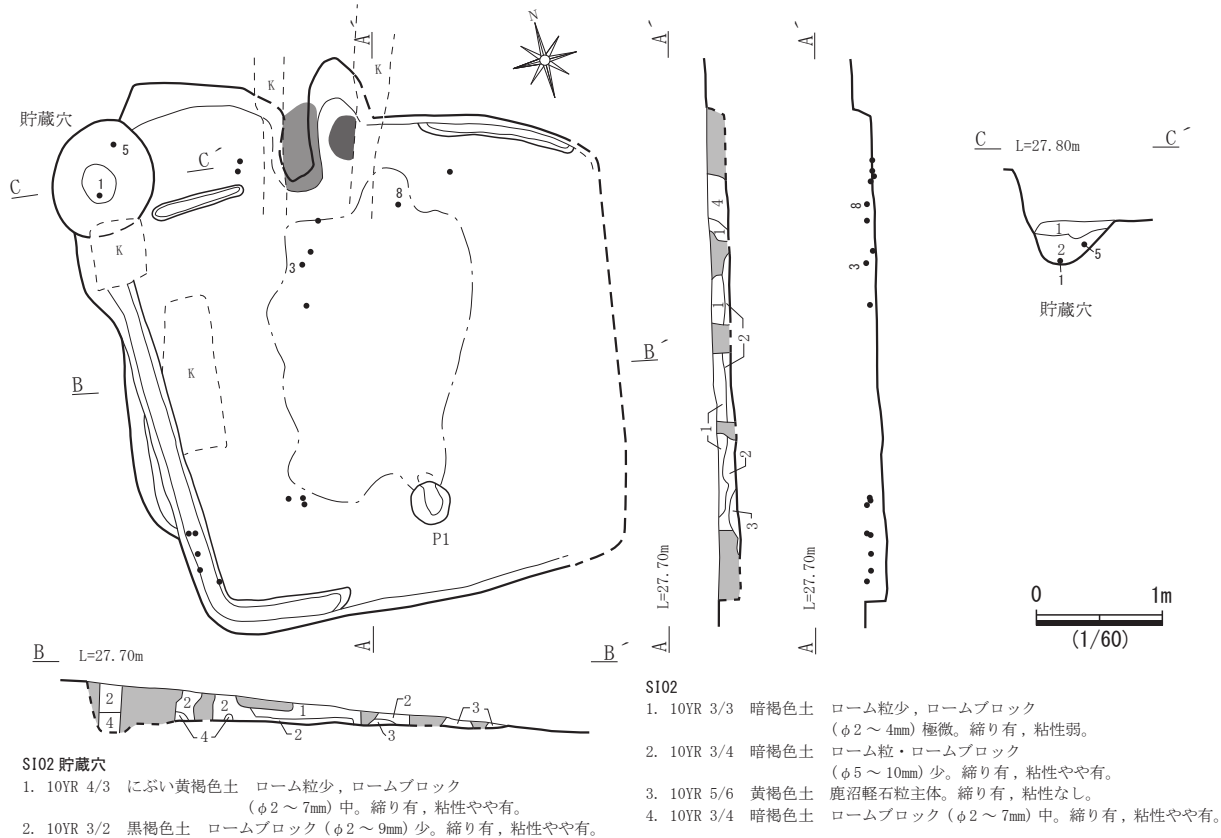
第3章 調査の成果

整形・有段で, 出入り口施設に伴うと考えられる。掘り方は壁際を残し, 東西軸2.80 m, 南北軸3.20 m, 床面からの深さが20 cm前後の規模で, 竪穴状に掘り込まれることから, 拡張が行われた可能性がある。カマドは北壁のほぼ中央に付設されている。耕作の攪乱で左袖部が消失しているため, 右袖部燃焼部及び煙道部の一部が検出されるのみであった。燃焼部は10 cm程掘り窪められ, 火床部の範囲は不整形に広がって赤変硬化していた。煙道部は屋外へ45 cm程掘り込まれ, 焚口部までの長さは92 cmと推測される。

遺物は, 土師器129点(坏18, 椀4, 甕107), 須恵器36点(坏11, 蓋5, 甕15, 甌3, 壺類2), 瓦1点(平瓦1), 石製品1点(紡錘車1), 土製品3点(土玉3)が出土した。土師器坏・椀はほとんどが内面黒色処理されており, 供膳具だけ見れば須恵器を上回っている。須恵器はほぼ木葉下窯産とみられる胎土の破片で占められるが, 小破片で図示しなかった蓋などは胎土から明らかに新治窯産が主体であり, 坏や甌でも同窯所産の破片が認められる。時期は, 9世紀第2四半期~第3四半期で, やや第2四半期の様相に近いと考えられる。

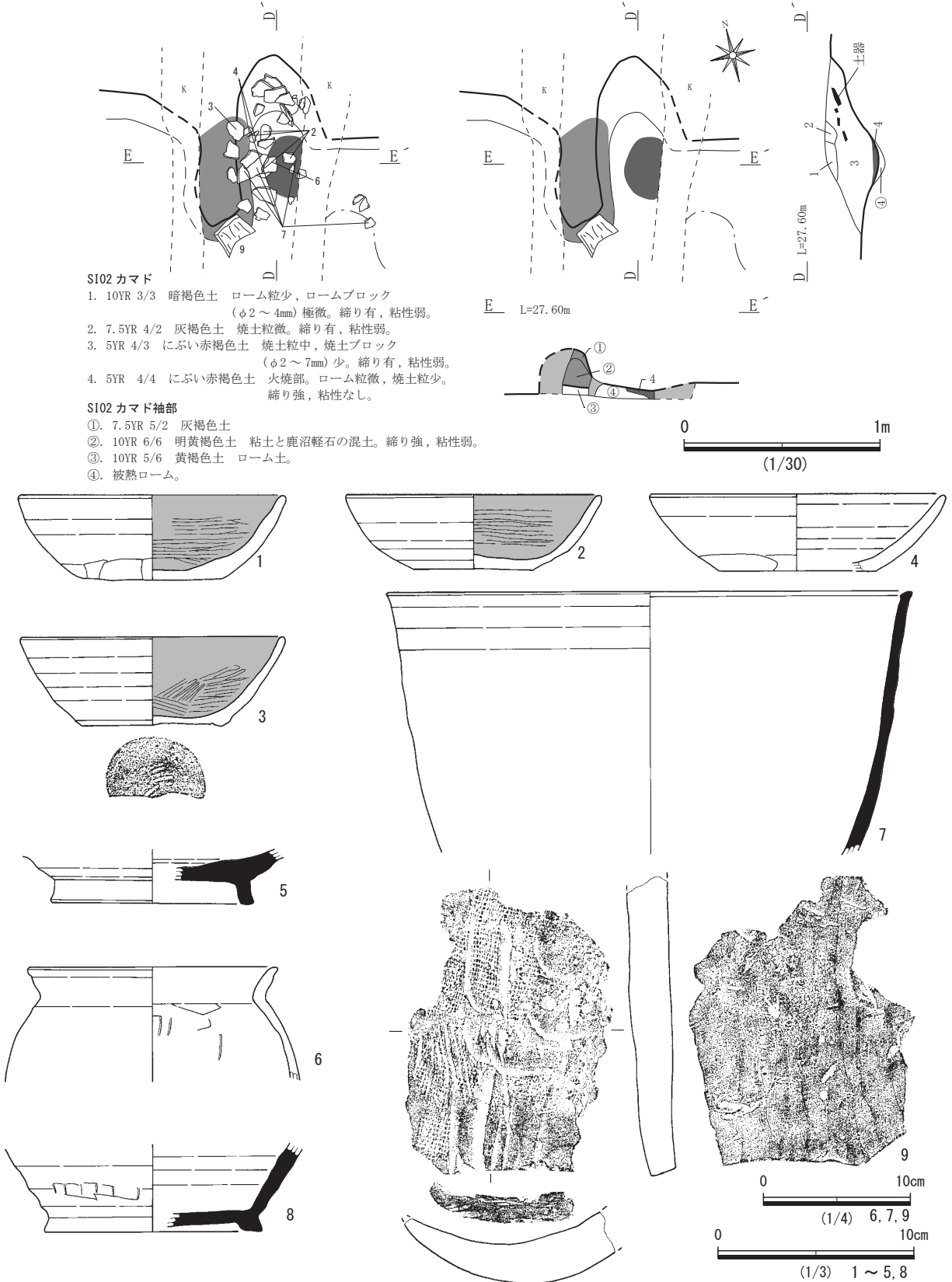
S I 0 2 (第19・20図, 第26・27表, 写真図版5・26)

検出位置はA区南東側g 5・6グリッドである。鹿沼軽石層(基本土層15)を掘り込み構築されている。全体に耕作によるトレンチャーで攪乱が床面まで達し, さらに埋没谷斜面部にかかるためか東側床及び壁は消失していた。平面形は方形を呈するとみられるが, 北東隅及び西壁が大きく膨らみ, 不整形な形状である。西側壁の膨らみは試掘時サブトレンチによる影響と思われるが, 北東隅は壁際に径85 cm, 深さ75 cm程のピット状の掘り込みがあり, 拡張して貯蔵穴を設けた可能性がある。ただ, 床面に汚れが認められず, 掘り込みの形状も建物跡に即さないことから土坑が重複していたのかもしれない。



第19図 S I 0 2 (1)

れない。主軸方向はN-1°-Eを示し、規模は東西軸が4.00 m前後、南北軸が3.83 m、深さは最深で32 cm、壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面は平坦で、カマド前からP 1にかけての中央部に顕著な硬化面が認められた。壁溝は幅9～23 cm、深さ7 cm程で、カマ



第20図 SI02(2)・同出土遺物

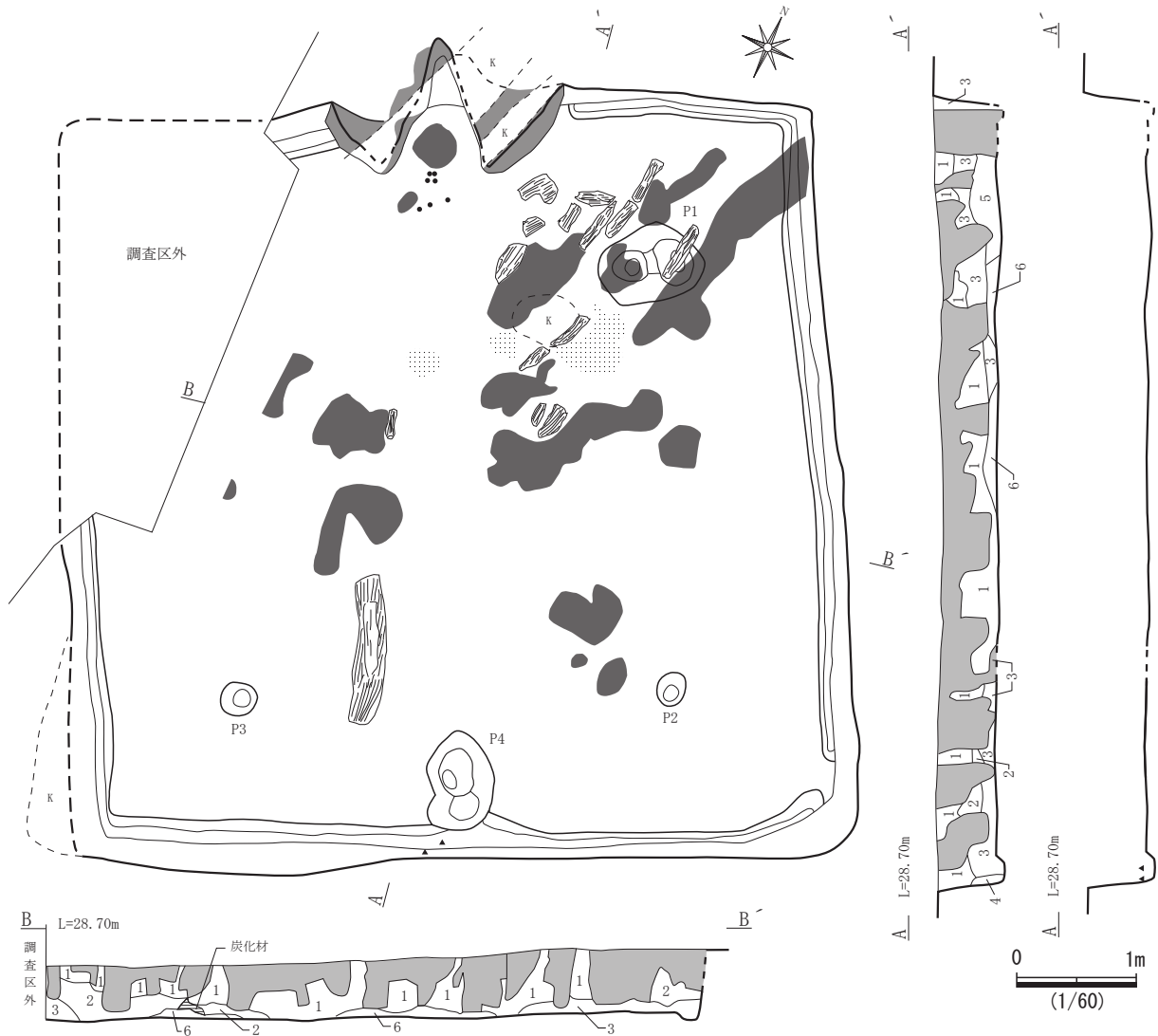
第3章 調査の成果

ド部分及び南壁際を除きほぼ全周したと思われる。ピットは南壁寄り中央にP1があり、規模は35×32cm、深さ17cmの円形で出入り口施設に伴うと考えられ、建物内側へ差し込んでいる。掘り方は認められず、直床であった。カマドは北壁のほぼ中央に付設されたとみられ、右袖は耕作の攪乱で消失している。構築材は灰褐色粘土を用い、残存する左袖先端部には平瓦が立脚し、補強材として使用されていた。燃烧部は10cm程掘り窪められ、火床部は円形状に赤変硬化する。煙道部は屋外へ54cm掘り込まれ、焚口部までの長さは93cmを測る。袖部残部長は67cmである。

遺物は、土師器39点（坏8，碗2，甕29），須恵器17点（坏4，高台付坏1，鉢1，壺類3，甕8），瓦2点（平瓦2）が出土した。土師器は坏が主体でほとんどが内面黒色処理されており、供膳具は須恵器を上回る。須恵器は木葉下窯産とみられる胎土の破片で占められていた。出土状態はカマド内及びカマド前面に集中し、南西隅寄からもややまとまって出土している。1の土師器坏，6の須恵器高台付坏は貯蔵穴からの出土である。9はカマド袖部の補強に用いられた平瓦である。時期は，9世紀第3四半期～第4四半期と考えられる。

SI03（第21～23図，第26・28表，写真図版5・27）

検出位置はA区南西端 e 1・2， f 1・2グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーで攪乱



第21図 SI03(1)

を受けるが床面まではほとんど達していない。西隅が調査区外になり、土砂採取での削平によって消失している。平面形は方形で、主軸方向はN-26°-Wを示す。規模は東西軸が6.58m、南北軸が6.42m、深さは58cm、壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。本建物跡は、焼失家屋でP1周辺を中心とした床直上に焼土、炭化材が広がっていた。床面はロームブロックを含む黄褐色土で貼り床を施すものの、顕著な硬化部分は認められなかった。壁溝は幅14~27cm、深さ2~9cmで、カマド部分を除きほぼ全周する。ピットは4基検出した。P1~3は主柱穴で、P1が88×63cmの楕円形で深さ61~71cm、P2が径29cm、深さ42cm、P3が径28cm、深さ48cm、北西側の1基は調査区外に存在するとみられる。北側に位置するP1は柱を据え替えた痕跡が検出されるが、南側のP2・3では認められなかった。P4は南壁に接し、出入り口施設に伴うと考えられる。規模は81×52cm、深さ33cmの不整楕円形を呈し、有段で南北に長い。掘り方は中央部を高く残し、壁際を環状に深く掘り込んでいる。カマドは北壁のほぼ中央に付設されたとみられ、上部の大部分が攪乱により消失しているものの、袖部下から燃焼部は遺存していた。構築材は灰褐色粘土を用い、袖と煙道部を覆っている。燃焼部の掘り窪みはほとんど認められなかったが、火床部として径37cmの円形状に焼土が堆積していた。煙道部は屋外へ48cm掘り込み、緩やかな立ち上がりである。全長112cm、燃焼部の最大幅は66cm、袖部残存長は左袖61cm、右袖65cmであった。カマド掘り方は凸型で、両袖部は壁から11~14cm程ローム土を突出させている。

遺物は、土師器69点（坏10、椀1、鉢1、甕57）、須恵器32点（坏24、蓋7、甕1）、土製品1点（支脚1）、鉄片1点が出土した。土師器坏は非ロクロ土師器と内面黒色処理されたロクロ土師器の破片が混在する。須恵器は坏が主体で土師器の供膳具を上回る。胎土から木葉下窯産のほか新治窯産が含まれており、蓋は全て新治窯産であった。カマド前面から土師器甕の胴部片が潰れた状態で出土したほか、1・5~7は床直上からの出土である。一方、須恵器坏の3は覆土上層、4はカマド上面か

S103

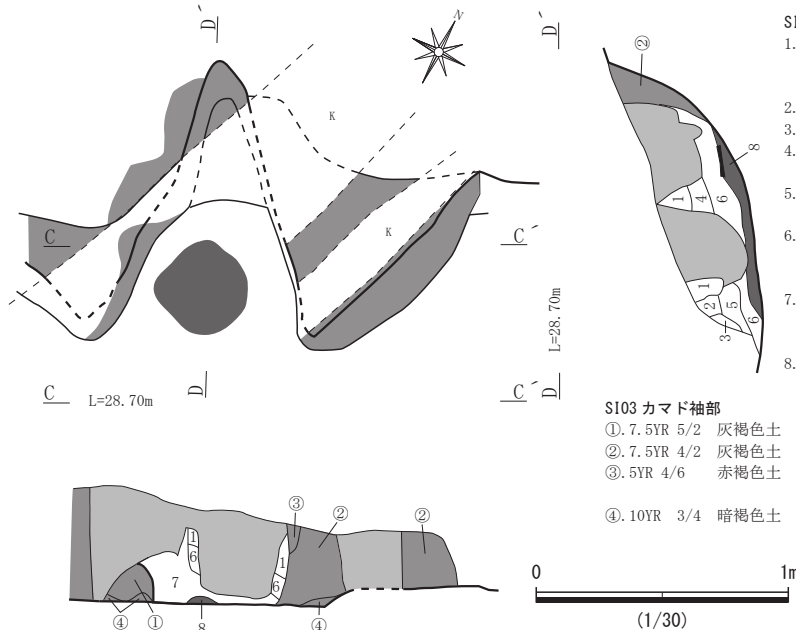
1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒少、ロームブロック(φ2~4mm)微、焼土粒・炭化物粒極微。締り有、粘性弱。
2. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒中、ロームブロック(φ2~4mm)微。締り有、粘性弱。
3. 7.5YR 4/3 褐色土 ロームブロック(φ2~7mm)・焼土ブロック(φ2~7mm)・炭化物粒微。締り有、粘性弱。
4. 10YR 3/3 黒褐色土 ローム粒少、ロームブロック(φ2~3mm)微。締りやや弱、粘性弱。
5. 7.5YR 4/2 灰褐色土 カマド袖部の構築材混土。ローム粒少、ロームブロック(φ2~7mm)・焼土ブロック(φ2~5mm)微。締り有、粘性やや有。
6. 5YR 4/3 にぶい赤褐色土 焼土混土。締り有、粘性なし。

S103 カマド

1. 7.5YR 5/2 灰褐色土 ロームブロック(φ2~4mm)微、焼土ブロック(φ2~7mm)微。締り有、粘性弱。
2. 7.5YR 6/2 灰褐色土 焼土粒微。締り有、粘性弱。
3. 7.5YR 4/2 灰褐色土 白色粒微。締り有、粘性弱。
4. 7.5YR 3/3 暗褐色土 ロームブロック(φ2~7mm)少。締り有、粘性弱。
5. 5YR 4/6 赤褐色土 焼土主体。灰褐色粒中。締りやや弱、粘性なし。
6. 5YR 4/2 灰褐色土 ロームブロック(φ2~7mm)少、焼土ブロック(φ2~9mm)多(10%)。締りやや弱、粘性弱。
7. 5YR 4/2 灰褐色土 ロームブロック(φ2~4mm)微、焼土ブロック(φ2~4mm)少。締り・粘性有。
8. 5YR 4/8 赤褐色土 焼土主体。締りやや有、粘性なし。

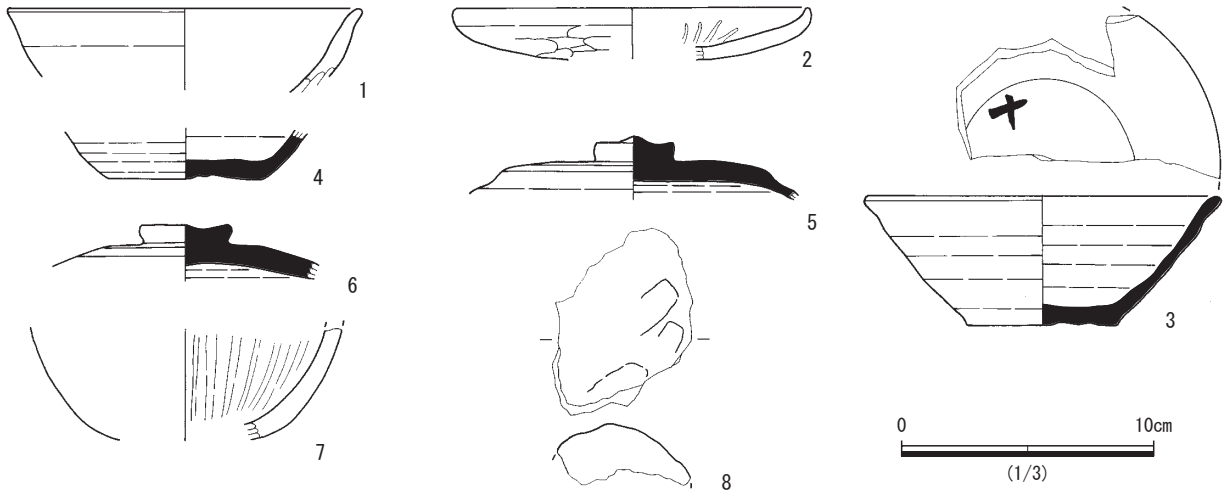
S103 カマド袖部

- ①. 7.5YR 5/2 灰褐色土 白色ブロック(φ2~7mm)少。締り強、粘性有。
- ②. 7.5YR 4/2 灰褐色土 白色ブロック(φ5~10mm)中。締り強、粘性有。
- ③. 5YR 4/6 赤褐色土 被熱し硬化。焼土ブロック(φ5~10mm)多(10%)。締り強、粘性なし。
- ④. 10YR 3/4 暗褐色土 ロームブロック(φ5~10mm)多(20%)。締り強、粘性ややあり。



第22図 S103(2)

らの出土である。時期は、新旧遺物が混在するものの、遺構形態や1・2の非ロクロ土師器か床直上からの出土状態であることを重視し、8世紀第1四半期と判断した。

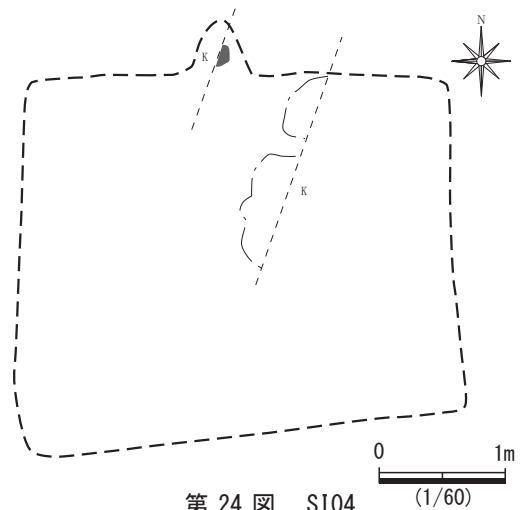


第23図 SI03出土遺物

SI04 (第24図)

検出位置はA区南西側 f 2・3グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーで攪乱を受け床面及び壁が消失していた。床硬化面の一部とカマドの火床部が残存していたことにより、竪穴建物跡としたが、形状、主軸方向、規模等全容は不明である。範囲はローム面の汚れなどから想定したが不確実で、ピットも検出できなかった。

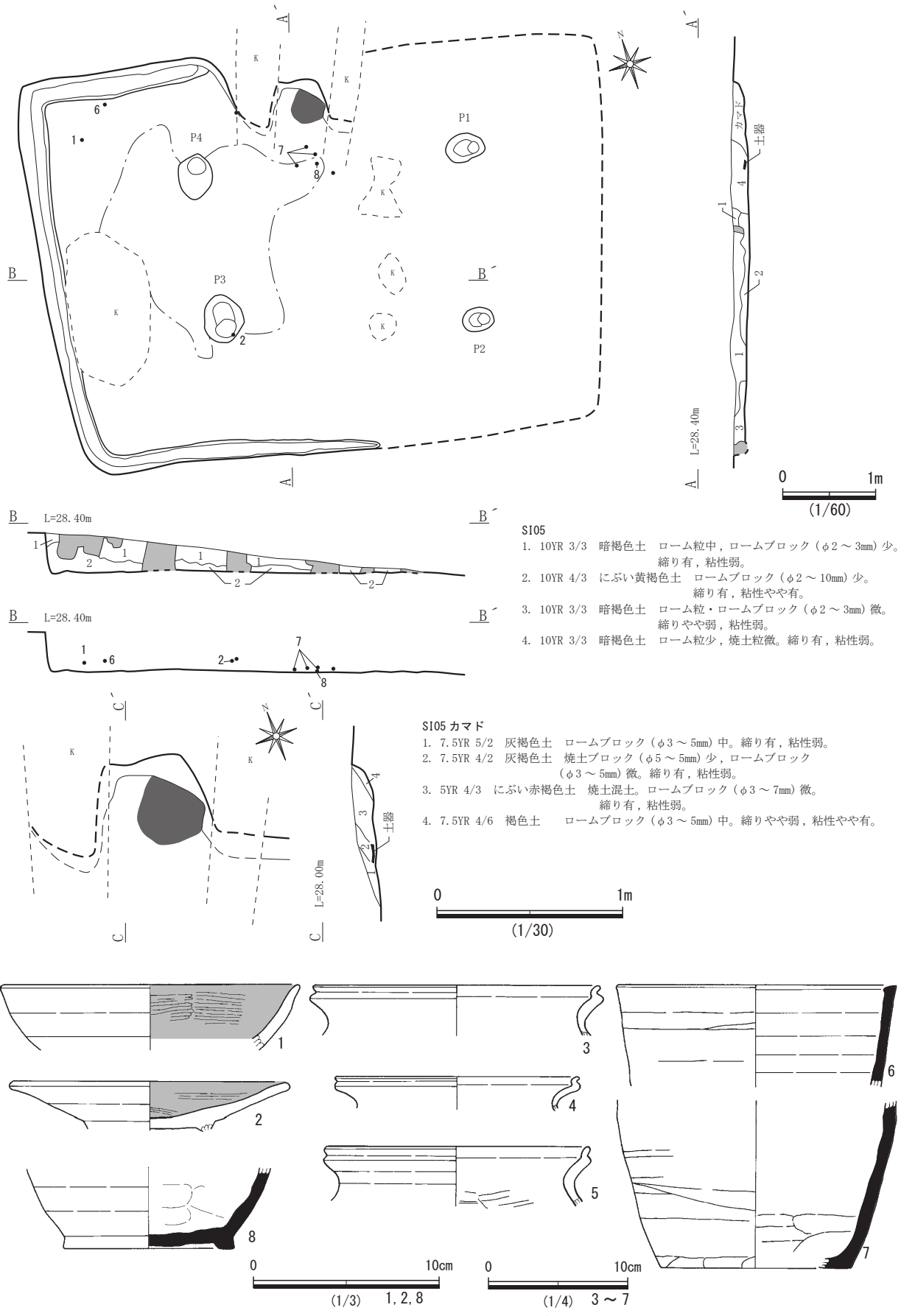
遺物は、土師器6点(坏1, 高台付坏1, 甕4), 鉄片2点のみが出土した。時期は、遺構形態も判然とせず、出土遺物も少ないことから不明である。



第24図 SI04

SI05 (第25図, 第26表, 写真図版5・27)

検出位置はA区南東側 f 5・g 5グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーで攪乱が床面まで達し、さらに埋没谷斜面部にかかるためか東側半分の床及び壁は消失していた。平面形は支柱穴やカマドの位置から東西に長い長方形を呈し、拡張している可能性がある。主軸方向はN-11°-Eを示し、規模は東西軸が想定で6.40m前後、南北軸が3.83m、深さは最深で38cm、壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面は平坦で、カマド前面から西側で硬化していた。壁溝は幅10~23cm、深さ5cm程で、カマド部分を除きほぼ全周したと思われる。ピットは支柱穴4基が検出され、P1が42×31cm、深さ26cm、P2が33×25cm、深さ61cm、P3が52×42cm、深さ73cm、P4が50×36cm、深さ73cm、いずれも楕円形であるが、P1・2は東西に長く、P3・4は南北に長い。掘り方は認められず、直床であった。カマドは北壁に付設されているが、袖部は耕作の攪乱で消失し、煙道部も削平のため不明瞭であった。燃焼部は火床部のみが残存し、掘り窪みは確認できなかったが円形状に赤色化した被熱部分が認められた。



第25図 S105・同出土遺物

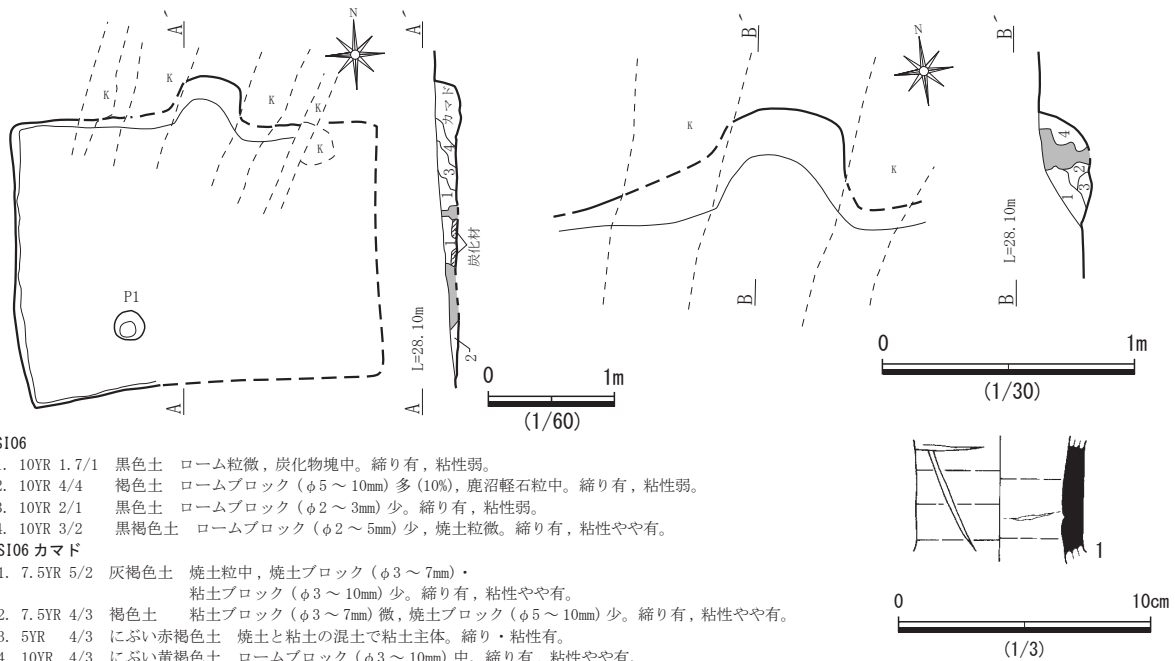
第3章 調査の成果

遺物は、土師器 81 点（坏 20，皿 1，甕 59，甗 1），須恵器 23 点（坏 6，蓋 3，鉢 2，壺類 1，甕 8，甗 3）が出土した。土師器の比率が高く，供膳具は 1・2 で見られるように内面黒色処理されたものが主体である。時期は，9 世紀第 3 四半期～第 4 四半期と考えられる。

S I O 6（第 26 図，第 26 表，写真図版 5・27）

検出位置は A 区南東側 f 6 グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーで攪乱が床面まで達し，さらに埋没谷斜面部にかかるためか東側半分の床及び壁は消失していた。平面形は残存する壁面から方形を呈すると思われ，主軸方向は N-0° を示す。規模は東西軸がカマドを中央に見た場合の推定で 3.00 m 前後，南北軸 2.23 m，深さは最深で 16 cm，壁はほぼ垂直に立ち上がる。自然堆積と考えられる。床面は平坦であるが，特に顕著な硬化面は認められず，壁溝も検出されなかった。ピットは南壁やや西寄りに P 1 が検出された。規模は径 25 cm，深さ 8 cm の円形で，出入口口施設に伴うと考えられる。掘り方は認められず，直床であった。カマドは北壁に付設されているが，袖部は耕作の攪乱で消失している。煙道部は屋外に 33 cm 掘り込みで小規模であるが，立ち上がりは急である。覆土に焼土が混在するものの，燃烧部の掘り窪みは 5 cm 程と浅く，火床部は確認できなかった。

遺物は，土師器 22 点（坏 6，甕 16），須恵器 2 点（坏 1，壺・瓶類 1）が出土した。供膳具は内面黒色処理された土師器坏の破片が中心であるが，いずれも小破片のため図示できなかった。時期は，出土遺物が少量で不明瞭ではあるが，土師器坏が主体であることなどから 9 世紀代以降であろう。



SI06

1. 10YR 1.7/1 黒色土 ローム粒微，炭化物塊中。縮り有，粘性弱。
2. 10YR 4/4 褐色土 ロームブロック（φ5～10mm）多（10%），鹿沼軽石粒中。縮り有，粘性弱。
3. 10YR 2/1 黒色土 ロームブロック（φ2～3mm）少。縮り有，粘性弱。
4. 10YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック（φ2～5mm）少，焼土粒微。縮り有，粘性やや有。

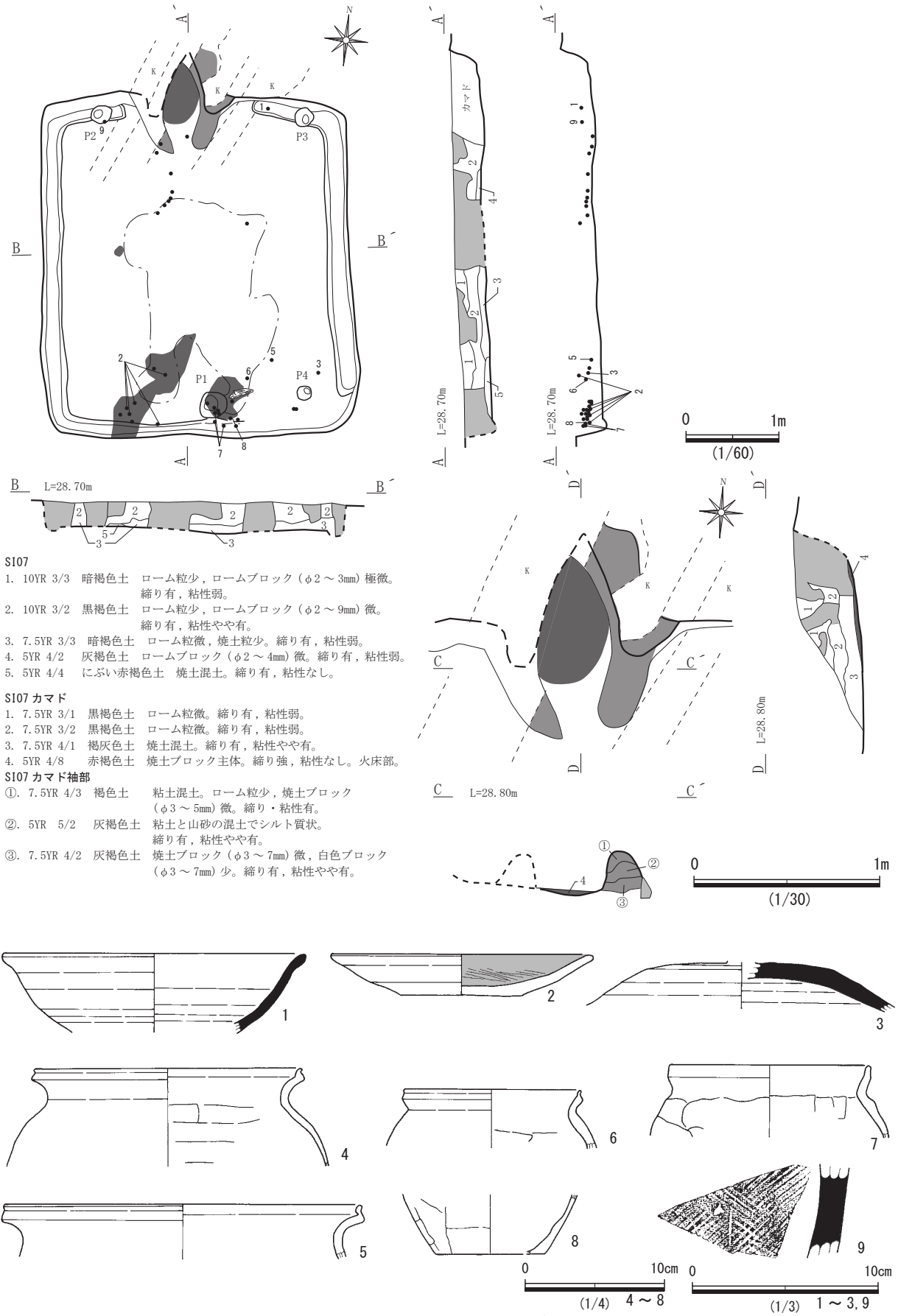
SI06 カマド

1. 7.5YR 5/2 灰褐色土 焼土粒中，焼土ブロック（φ3～7mm）・粘土ブロック（φ3～10mm）少。縮り有，粘性やや有。
2. 7.5YR 4/3 褐色土 粘土ブロック（φ3～7mm）微，焼土ブロック（φ5～10mm）少。縮り有，粘性やや有。
3. 5YR 4/3 にぶい赤褐色土 焼土と粘土の混土で粘土主体。縮り・粘性有。
4. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック（φ3～10mm）中。縮り有，粘性やや有。

第 26 図 SI06・同出土遺物

S I O 7（第 27 図，第 26 表，写真図版 6・27）

検出位置は A 区南東側 d 6・7 グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーで攪乱が床面まで達していた。平面形は方形で，主軸方向は N-8°-W を示す。規模は東西軸が 3.29 m，南北軸 3.72 m，深さは 30 cm，壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面は平坦であるが，中央部から南壁際まで顕著な硬化面が認められた。壁溝は幅 16～23 cm，深さ 9～13 cm で，南壁東側部分は攪乱の影響で検出されなかったが，カマド部分を除きほぼ全周する。ピットは 4 基が検出さ



第27図 S107・同出土遺物

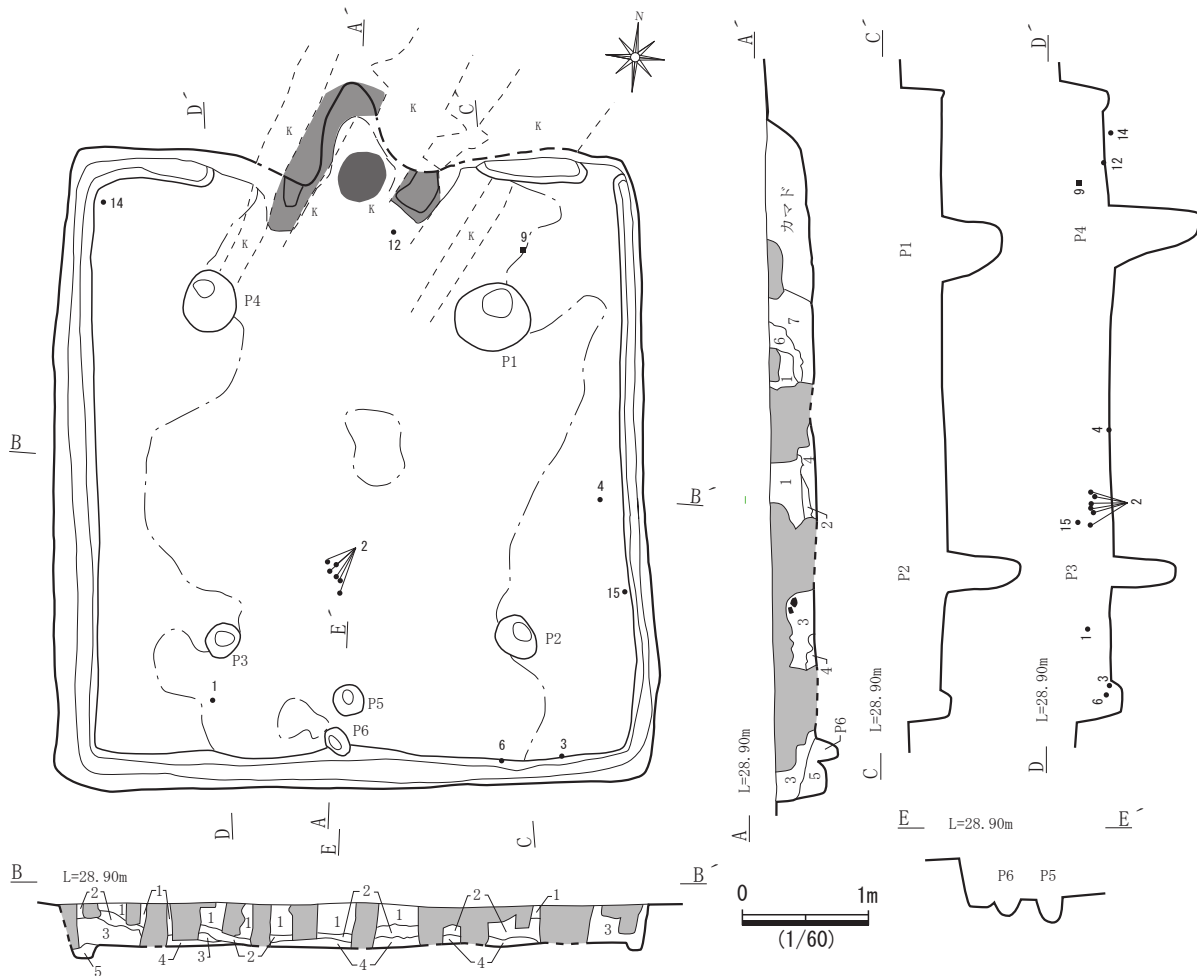
第3章 調査の成果

れた。南壁際中央のP1は、規模が径28cm、深さ12cmの円形で、出入り口施設に伴うと考えられる。P2は径23cm、深さ24cm、P3は径21cm、深さ30cmで北壁際にカマドを挟んで対となる。一方、南東隅に存在するP4は径16cm、深さ10cm、攪乱で検出できなかったが、南西隅にも対となるピットが存在した可能性が高く、小規模ではあるがこれらは本建物跡の主柱穴と判断される。掘り方は認められず、直床であった。カマドは北壁のほぼ中央に付設されているが、左袖部の大部分と煙道部が攪乱によって消失している。燃焼部も一部攪乱が入り正確な規模は不明だが、掘り窪みは3cm程と浅く、火床部は赤変硬化してブロック状の焼土が堆積する。構築材は灰褐色粘土で左袖のみ攪乱を受けるが、残存長は左袖61cm、右袖58cmである。

遺物は、土師器80点(坏5、皿1、甕74)、須恵器23点(坏11、高台付坏1、蓋1、甕7、壺・瓶類3)が出土した。土師器の供膳具は少量であるが、全て内面黒色処理されている。須恵器は供膳具だけ見れば土師器を上回る。時期は、土師器皿2が出土し、須恵器坏1の形態から9世紀第3四半期と考えられる。

SI08 (第28～30図, 第26～28表, 写真図版6・27・28)

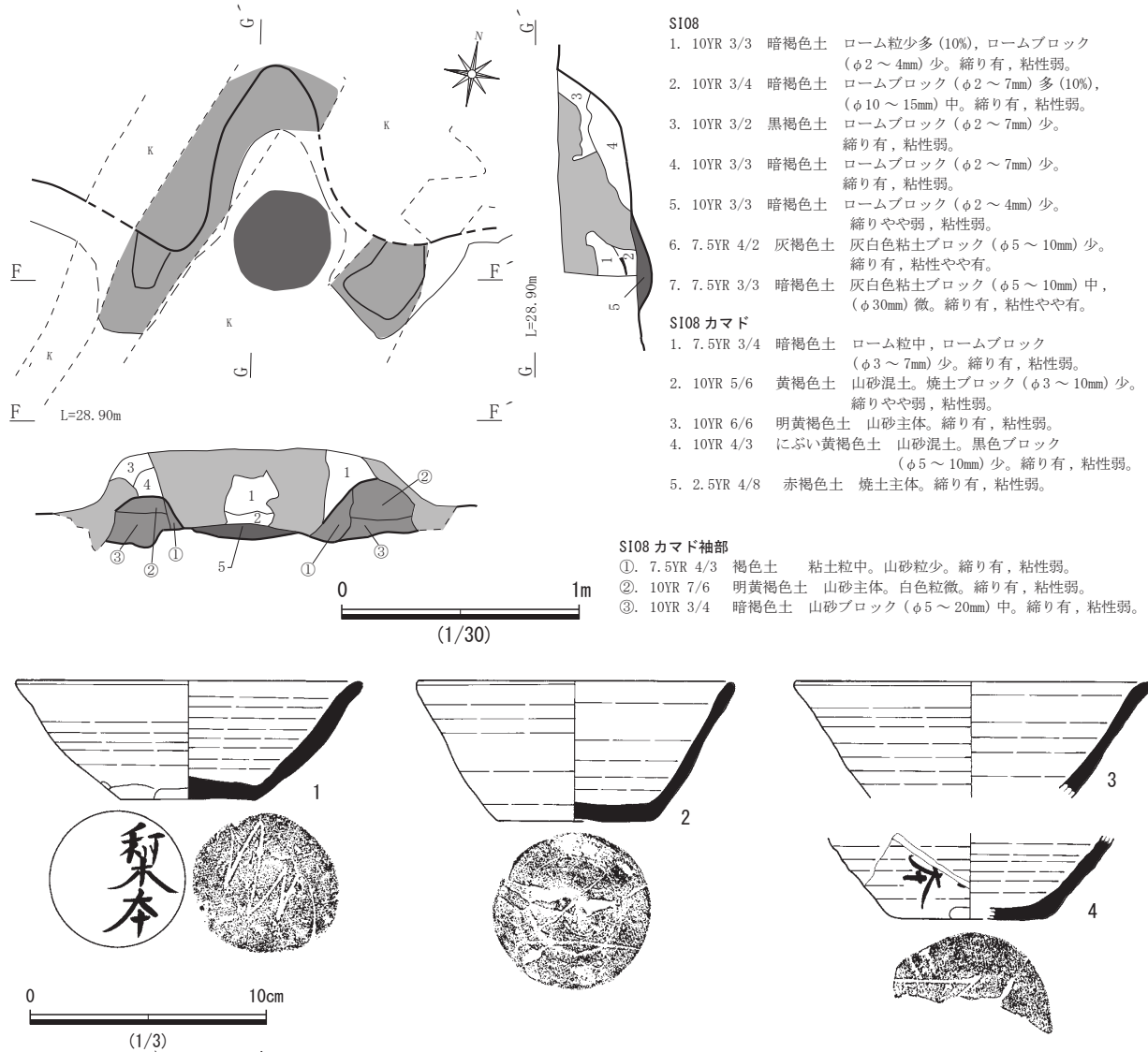
検出位置はA区南東側c6・d6グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーで攪乱が床面まで達していた。平面形は方形で、主軸方向はN-5°-Wを示す。規模は東西軸が4.72m、南北軸5.08m、深さは33cm、壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はロームブ



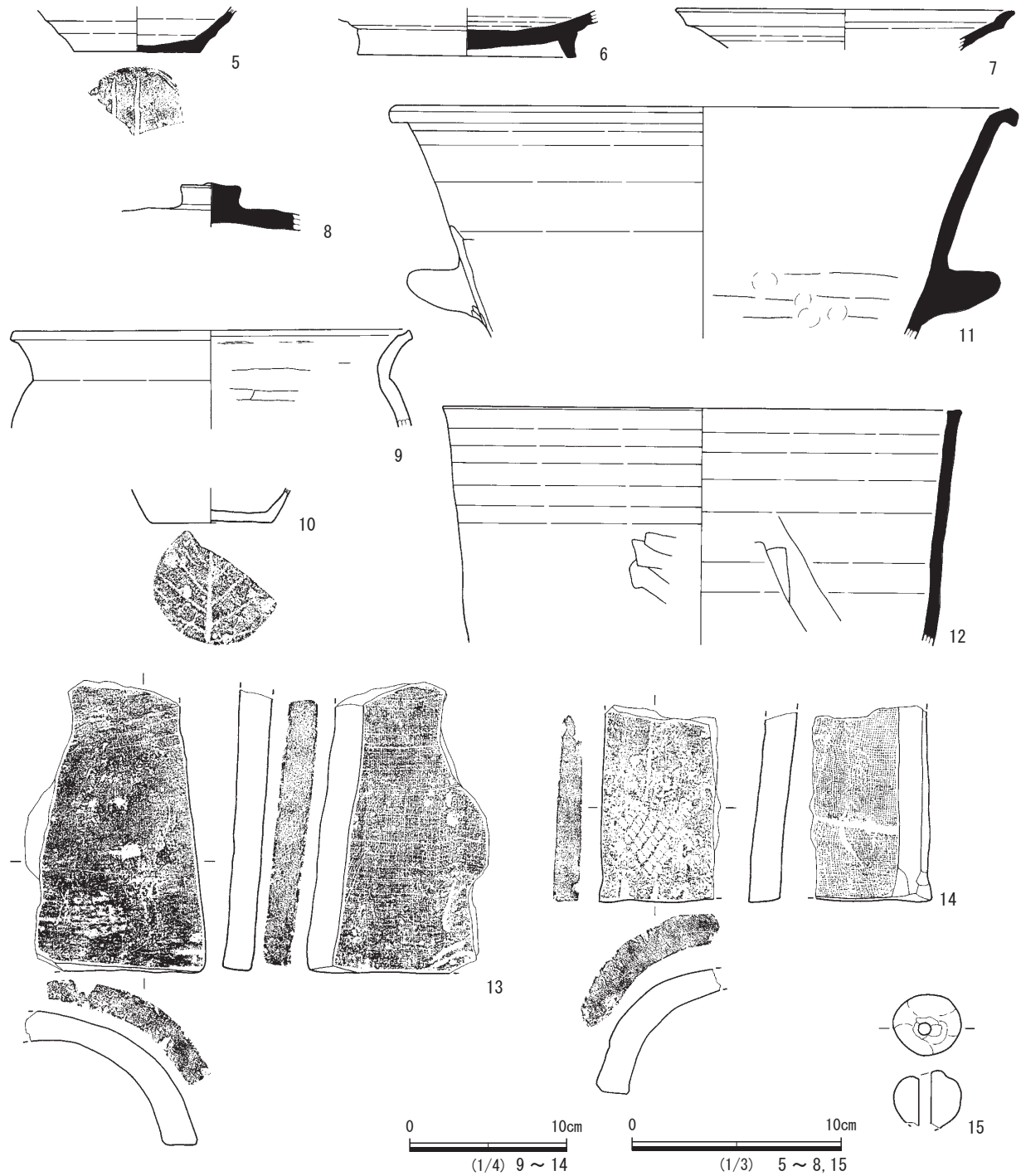
第28図 SI08(1)

ロックを含む明黄褐色土の貼り床が施され、中央部から南壁際まで顕著な硬化面が認められた。壁溝は幅16～23cm、深さ4～8cmで、カマド部分を除き全周するとみられる。ピットは6本が検出された。P1～4は支柱穴で、P1が径60cm、深さ45cm、P2が径38cm、深さ57cm、P3が径28cm、深さ50cm、P4が径47cm、深さ71cm、P5、6は南北に並列し、出入口施設に伴うと考えられる。P5が径26cm、深さ22cm、P6が径24cm、深さ15cmである。掘り方は中央部を残し、浅めではあるが壁際が掘り込まれていた。カマドは北壁の中央に付設され、上部は大部分が攪乱で消失しているものの、下部が遺存する。袖部の構築材は山砂を用い、燃烧部は6cm程掘り窪められ、径42cmの円形状に焼土が堆積していた。煙道部は屋外へ57cm掘り込み、緩やかな立ち上がりである。全長113cm、燃烧部の最大幅は58cm、袖部残存長は左袖42cm、右袖40cmであった。

遺物は、土師器39点(甕39)、須恵器31点(坏22、盤2、蓋1、甕4、甑2)、瓦2点(丸瓦2)、土製品1点(土玉1)が出土した。供膳具は須恵器のみで、木葉下窯製品で占められている。時期は、須恵器の形態などから9世紀第3四半期と考えられる。



第29図 SI08(2)・同出土遺物(1)



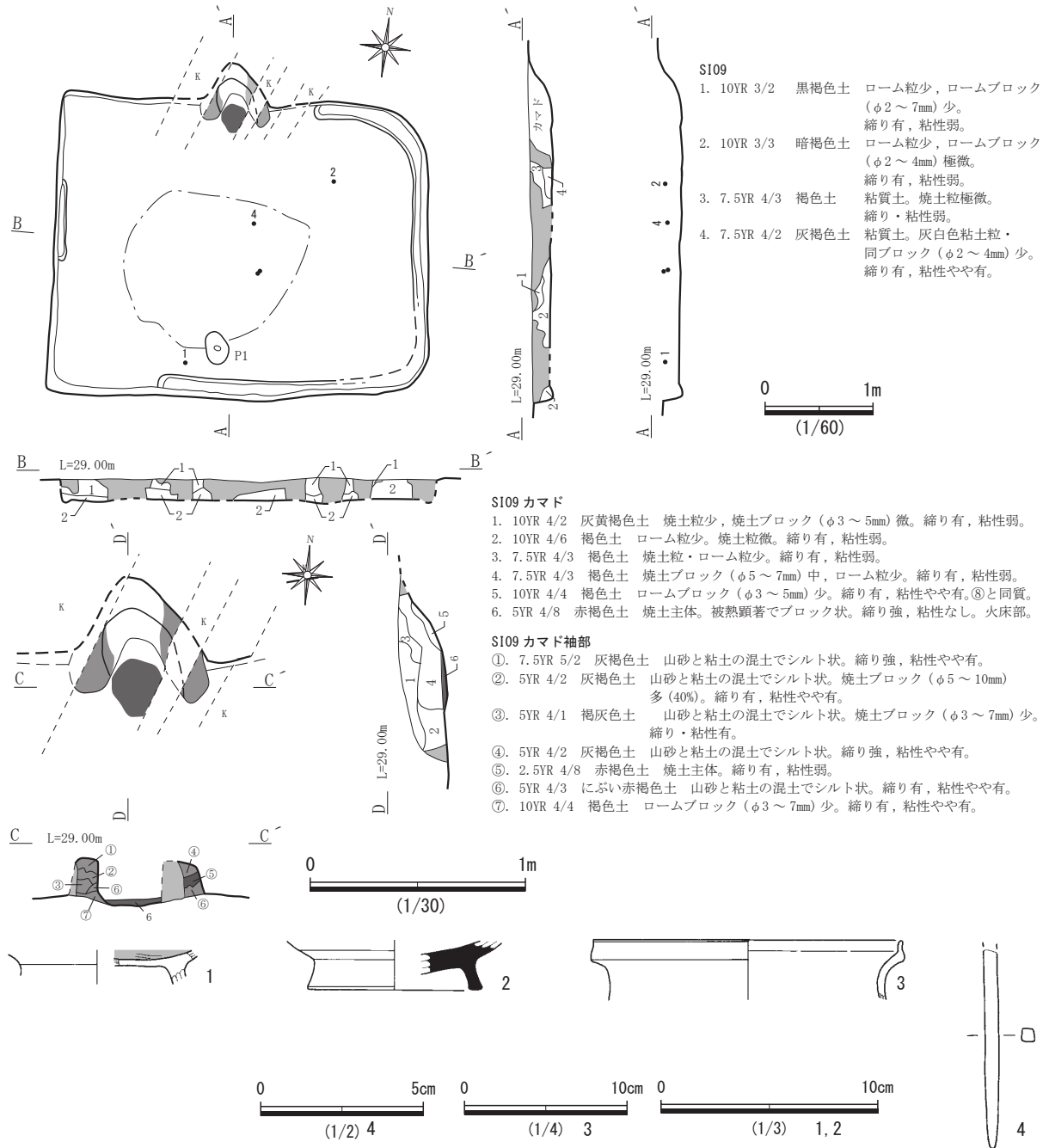
第30図 SI08 出土遺物(2)

SI09 (第31図, 第26・29表, 写真図版6・28)

検出位置はA区北東端b7・c7グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーで攪乱が床面まで達していた。平面形は東西が長い長方形を呈するが、北東隅及び南東隅が丸みを持つ。主軸方向はN-4°-Wを示し、規模は東西軸が3.45m前後、南北軸が2.75m、深さは18cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面は平坦で、中央部からP1にかけて顕著な硬化面が認められる。壁溝は幅8~12cm、深さ3~5cmで、東側半分で検出されたが、西側ではほとんど確認できなかった。ピットは南壁際中央にP1があり出入口口施設に伴うと考えられる。規模は35

× 32 cm, 深さ 17 cmの円形である。掘り方は認められず、直床であった。本建物跡の東側と西側では形態や壁溝の有無などに差異があることから、拡張された可能性がある。カマドは北壁のほぼ中央に付設され、一部は攪乱を受けているものの他に比べて遺存状態は良い方である。構築材は粘土と山砂を混和した褐灰色土が用いられ、やや粘土の割合が高い。燃焼部は3 cm程浅く掘り窪められ、火床部は径 26 cmの円形状に赤変硬化し、ブロック状の焼土が堆積する。煙道部は屋外へ 38 cm掘り込み、全長は 64 cmを測り、燃焼部の幅は約 30 cm, 袖部残部長は左袖 13 cm, 右袖 20 cmである。

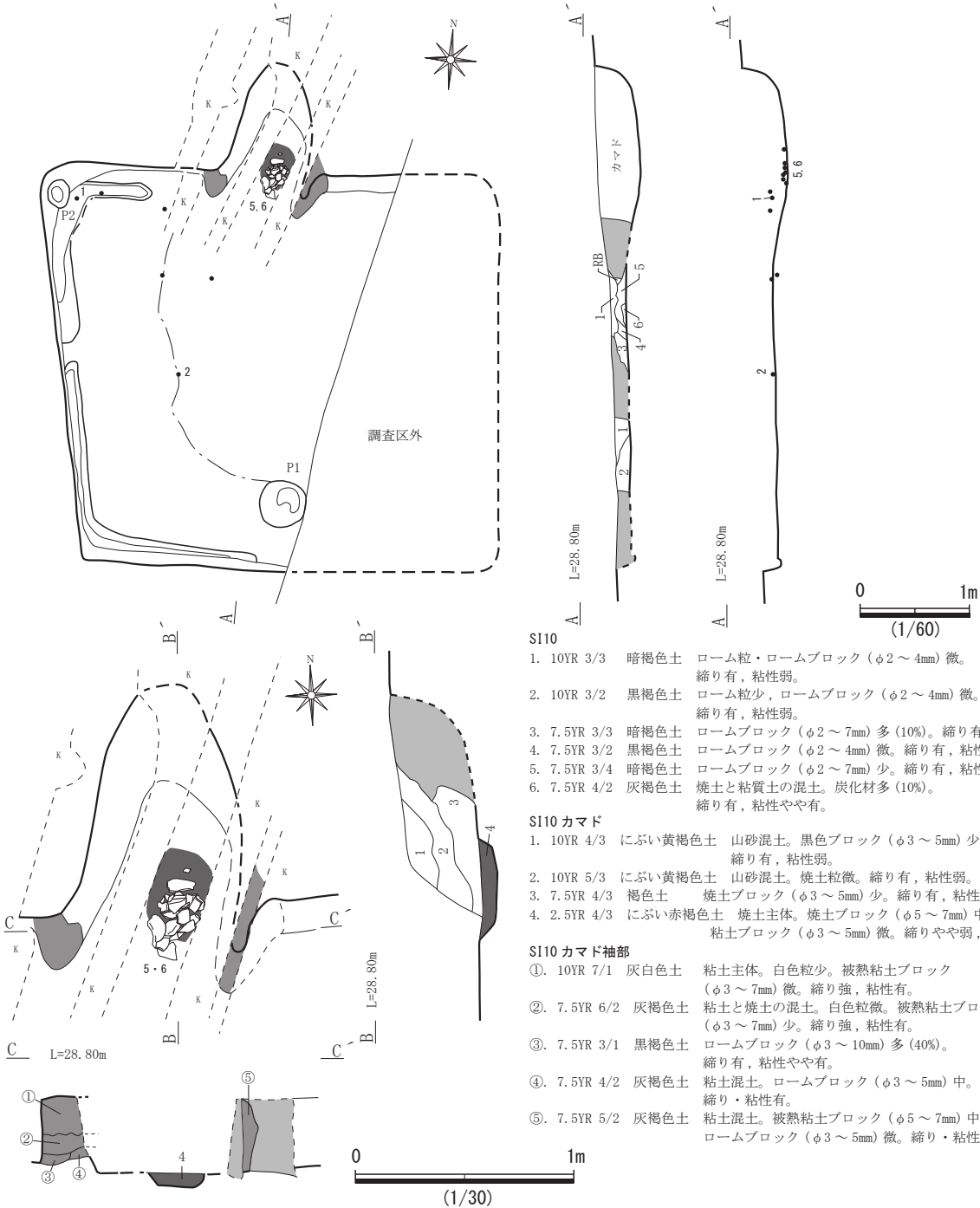
遺物は、土師器 13 点（高台付坏・椀類 1, 甕 12）、須恵器 4 点（高台付坏 1, 甕 3）、鉄製品 1 点（不明 1）が出土した。いずれも破片のみの出土である。1 は内面黒色処理された高台付坏・椀としているが、皿の可能性もある。時期は、遺物の出土量が少量で不明瞭ではあるが、図示した供膳具や土師器甕の形態から 9 世紀代と考えられる。



第 31 図 S109・同出土遺物

SI10 (第32・33図, 第26表, 写真図版6・28)

検出位置はA区南東端 c 8・d 8 グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーで攪乱が床面まで達し、北西隅付近には木根の攪乱も入っていた。東側は調査区外になる。平面形は柱穴やカマドの位置などから方形を呈すると考えられる。主軸方向はN-7°-Wを示す。規模は、カマドを中心に見た場合の東西軸が想定で4.00 m前後、南北軸は3.65 m、深さは12 cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面は平坦で、カマド前面からP1にかけて中央部で顕著な硬化面が認められた。壁溝は幅8~12 cm、深さ3~14 cmで、カマド部分と南壁中央部分を除き周回する。ピットはP1が南壁際で検出された。規模は径42 cm、深さ29 cmで、出入り口施設に伴うと考えられる。



SI10

1. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ2~4mm) 微。縮り有, 粘性弱。
2. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒少, ロームブロック (φ2~4mm) 微。縮り有, 粘性弱。
3. 7.5YR 3/3 暗褐色土 ロームブロック (φ2~7mm) 多 (10%)。縮り有, 粘性弱。
4. 7.5YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック (φ2~4mm) 微。縮り有, 粘性弱。
5. 7.5YR 3/4 暗褐色土 ロームブロック (φ2~7mm) 少。縮り有, 粘性弱。
6. 7.5YR 4/2 灰褐色土 焼土と粘質土の混土。炭化材多 (10%)。縮り有, 粘性やや有。

SI10 カマド

1. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 山砂混土。黒色ブロック (φ3~5mm) 少。縮り有, 粘性弱。
2. 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 山砂混土。焼土粒微。縮り有, 粘性弱。
3. 7.5YR 4/3 褐色土 焼土ブロック (φ3~5mm) 少。縮り有, 粘性弱。
4. 2.5YR 4/3 にぶい赤褐色土 焼土主体。焼土ブロック (φ5~7mm) 中, 粘土ブロック (φ3~5mm) 微。縮りやや弱, 粘性弱。

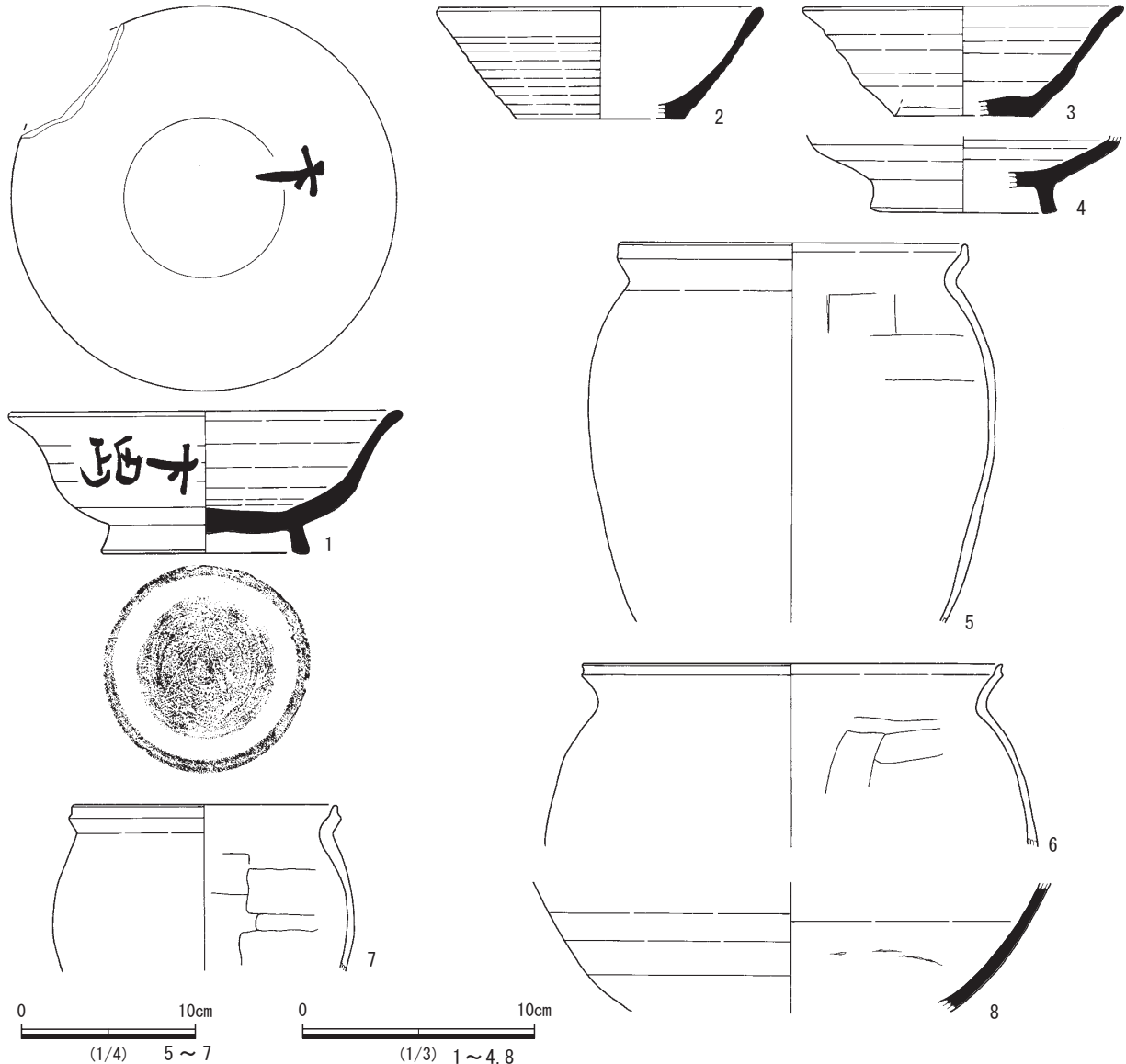
SI10 カマド袖部

- ①. 10YR 7/1 灰白色土 粘土主体。白色粒少。被熱粘土ブロック (φ3~7mm) 微。縮り強, 粘性有。
- ②. 7.5YR 6/2 灰褐色土 粘土と焼土の混土。白色粒微。被熱粘土ブロック (φ3~7mm) 少。縮り強, 粘性有。
- ③. 7.5YR 3/1 黒褐色土 ロームブロック (φ3~10mm) 多 (40%)。縮り有, 粘性やや有。
- ④. 7.5YR 4/2 灰褐色土 粘土混土。ロームブロック (φ3~5mm) 中。縮り・粘性有。
- ⑤. 7.5YR 5/2 灰褐色土 粘土混土。被熱粘土ブロック (φ5~7mm) 中, ロームブロック (φ3~5mm) 微。縮り・粘性有。

第32図 SI10

掘り方は認められず、直床であった。カマドは北壁に付設され、攪乱を受けるものの全体は辛うじて把握される。主軸方向はN-7°-Wとなり、建物跡の主軸とは異なる。燃烧部から煙道部にかけては屋外に1.00 m程掘り込まれている。燃烧部は14 cm掘り窪められ、火床部は径40 cm程の赤変硬化が認められる。全長は136 cm、燃烧部長80 cm、袖部の残存部長は左袖23 cm、右袖36 cmと短い。

遺物は、土師器106点（坏1，甕105），須恵器26点（坏13，高台付坏2，壺・瓶類2，甕9）が出土した。供膳具はほぼ木葉下窯産の須恵器で占められる。1は、北西隅壁際から木根に絡まって出土した椀型の須恵器高台付坏で、体部内外面双方に墨書が認められる。5・6の土師器甕はカマド燃烧部内に潰れた状態で出土した。時期は、須恵器の形態から9世紀第3四半期と考えられる。



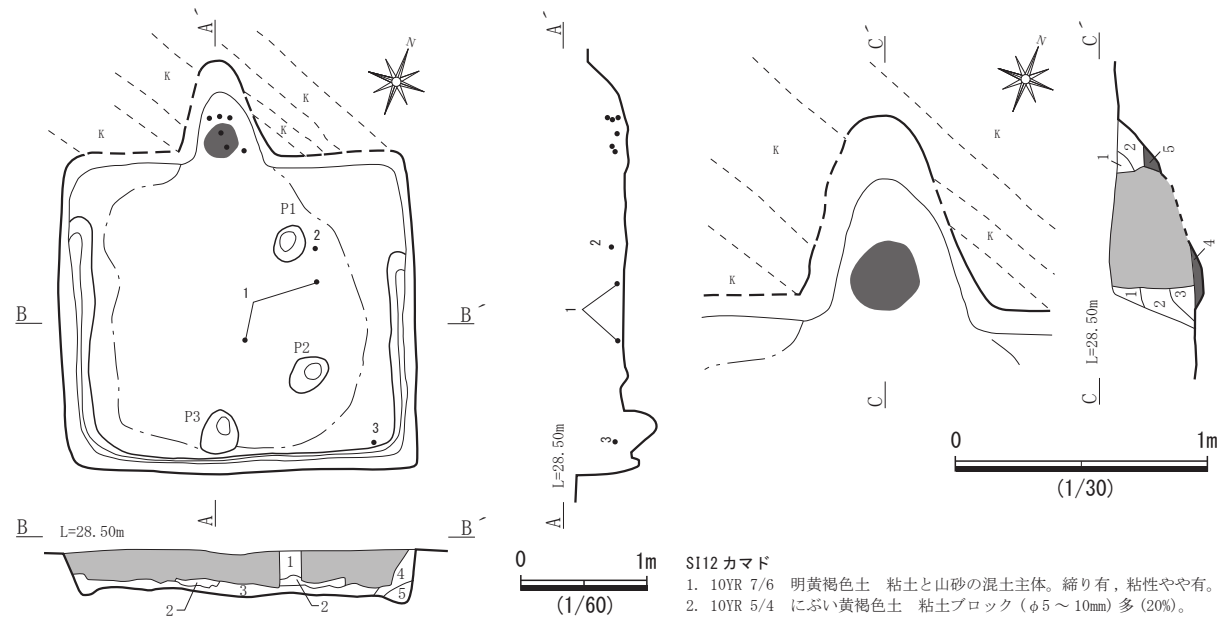
第33図 SI10 出土遺物

SI11（第34図，第26表，写真図版6・28）

検出位置はA区南東端d8・e8グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーで攪乱が、南側は床面まで達し、さらに埋没谷の斜面地にかかって壁面上部が消失している。また、東側の大部分が調査区外にかかるため全容は把握されないが、検出された部分から平面形は方形を呈すると考えられる。北西隅から南側へ1.62 mの範囲に25～40 cmほど突出する部分があり、重複する遺構は検出さ

が床面までは達していない。平面形は方形で、主軸方向はN-20°-Wを示す。規模は東西軸が2.83m、南北軸が2.56m、深さは26～38cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は遺存する部分から自然堆積と考えられる。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床が施され、ほぼ全体に硬化面が認められる。壁溝は幅13～20cm、深さ8cmで、北壁側と東西壁際の一部を除き検出される。ピットは3基あり、P1が径26cm、深さ15cm、P2が径35×25cm、深さ12cm、P3が35×28cm、深さ17cmである。P3は南壁際中央にあつて壁溝に接し、南北にやや長い楕円形で出入り口施設に伴うと考えられるが、P2・3は浅く支柱穴とするには小規模である。掘り方は中央部から南壁際が深く掘り込まれているが、カマド前面はほぼ直床であった。カマドは北壁の中央に付設され、攪乱のため袖部は消失している。構築材はほとんど残存しないが、燃焼部に堆積する覆土から粘土と山砂を混和した明黄褐色土が用いられていたようである。燃焼部は5～10cm程浅く掘り窪められ、火床部は径18cm程の円形状に赤変硬化する。燃焼部から煙道部は屋外へ83cm掘り込まれ、燃焼部幅は最大で58cmである。

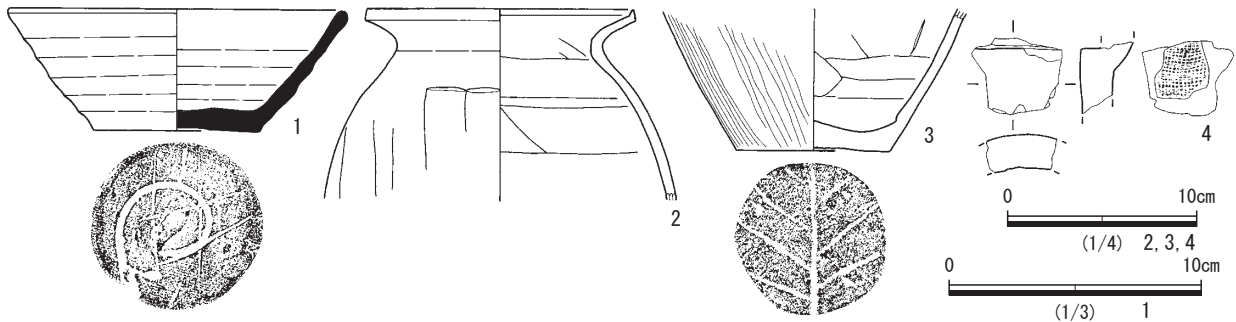
遺物は、土師器22点(甕22)、須恵器3点(坏3)、瓦1点(丸瓦1)が出土した。供膳具は須恵器のみの出土で、いずれも木葉下窯産とみられる胎土の製品である。1の須恵器坏は遺構の中央で出土した。4の丸瓦はカマド内の出土である。時期は、9世紀第2四半期～第3四半期と考えられる。



- SI12
1. 10YR 3/4 暗褐色土 ロームブロック(φ2～5mm)中。縮り有、粘性弱。
 2. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(φ5～10mm)多(20%)。縮り有、粘性弱。
 3. 10YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック(φ10～20mm)少。縮り有、粘性弱。
 4. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒中、ロームブロック(φ2～3mm)少。縮り有、粘性弱。
 5. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(φ5～10mm)多(10%)。縮り有、粘性弱。

SI12 カマド

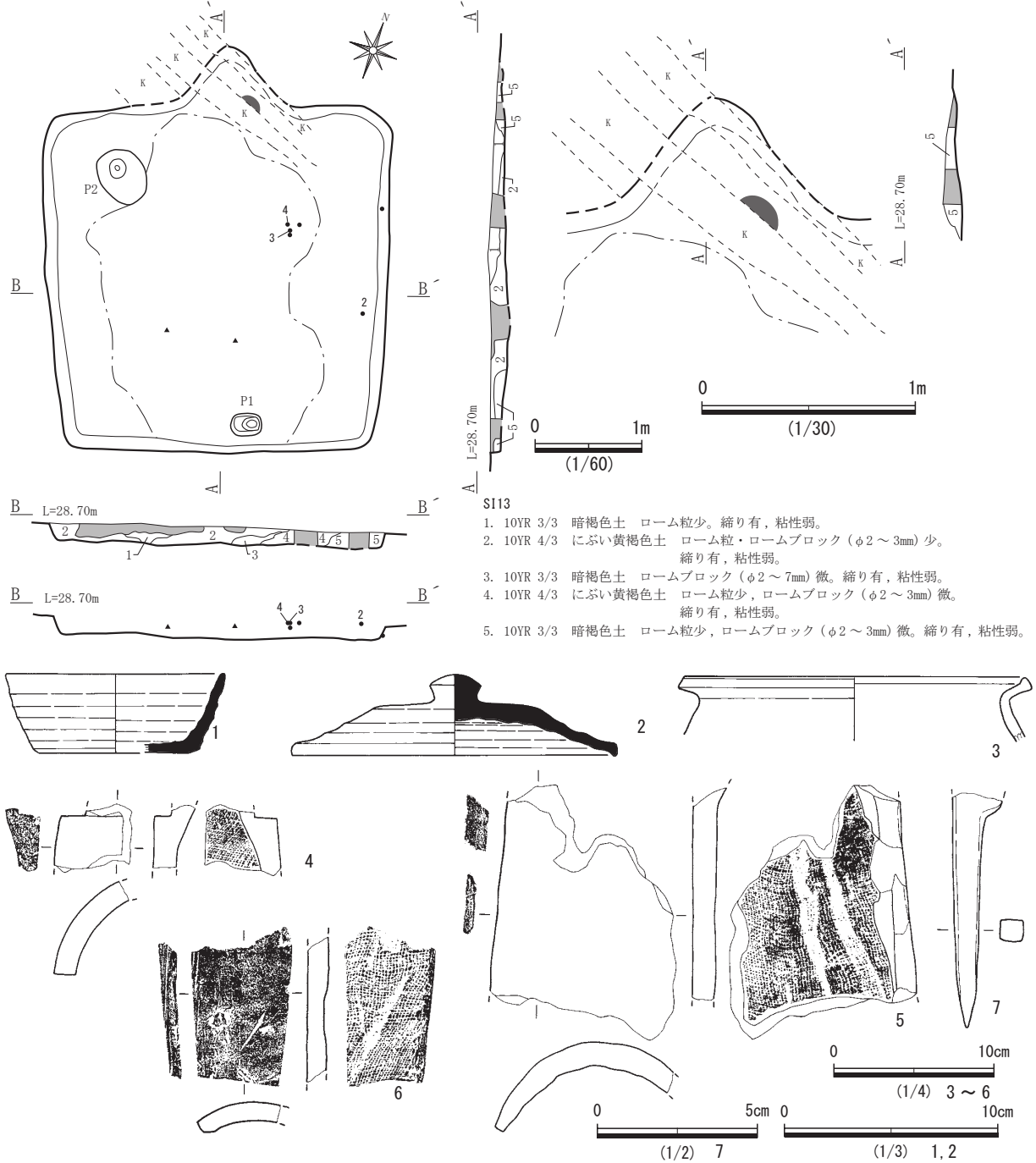
1. 10YR 7/6 明黄褐色土 粘土と山砂の混土主体。縮り有、粘性やや有。
2. 10YR 5/4 にぶい黄褐色土 粘土ブロック(φ5～10mm)多(20%)。縮り有、粘性やや有。
3. 7.5YR 4/3 褐色土 粘土ブロック(φ5～15mm)・焼土粒微。縮り有、粘性やや有。
4. 2.5YR 5/6 明赤褐色土 焼土主体。粘土混土。縮り・粘性有。
5. 2.5YR 4/6 赤褐色土 焼土ブロック主体。縮り強、粘性なし。火床部。



第35図 SI12・同出土遺物

SI13 (第36図, 第26・27・29表, 写真図版6・28・29)

検出位置はB区南東端T 18・19グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーで攪乱が床面まで達しているが、カマド部分以外は影響が少ない。平面形は基本的に方形を呈するが、わずかに北壁側が広がっている。主軸方向はN-21°-Wを示す。規模は東西軸の南壁が2.97m,北壁が3.35m,南北軸が3.25mである。深さは10~16cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面は、ロームブロックを含むにぶい黄褐色土を施し、カマド側と南壁側が中央部より若干高くなり、全体に窪んだ状態になっている。また、カマド前面から南壁際にかけて中央部には顕著な硬化面が認められる。壁溝は確認されなかった。ピットは2基検出され、P1は27×18cm,深さ11cmで南壁際にあり,出入口施設に伴うと考えられる。P2は径60×42cm,深さ20cmで,北西隅の配



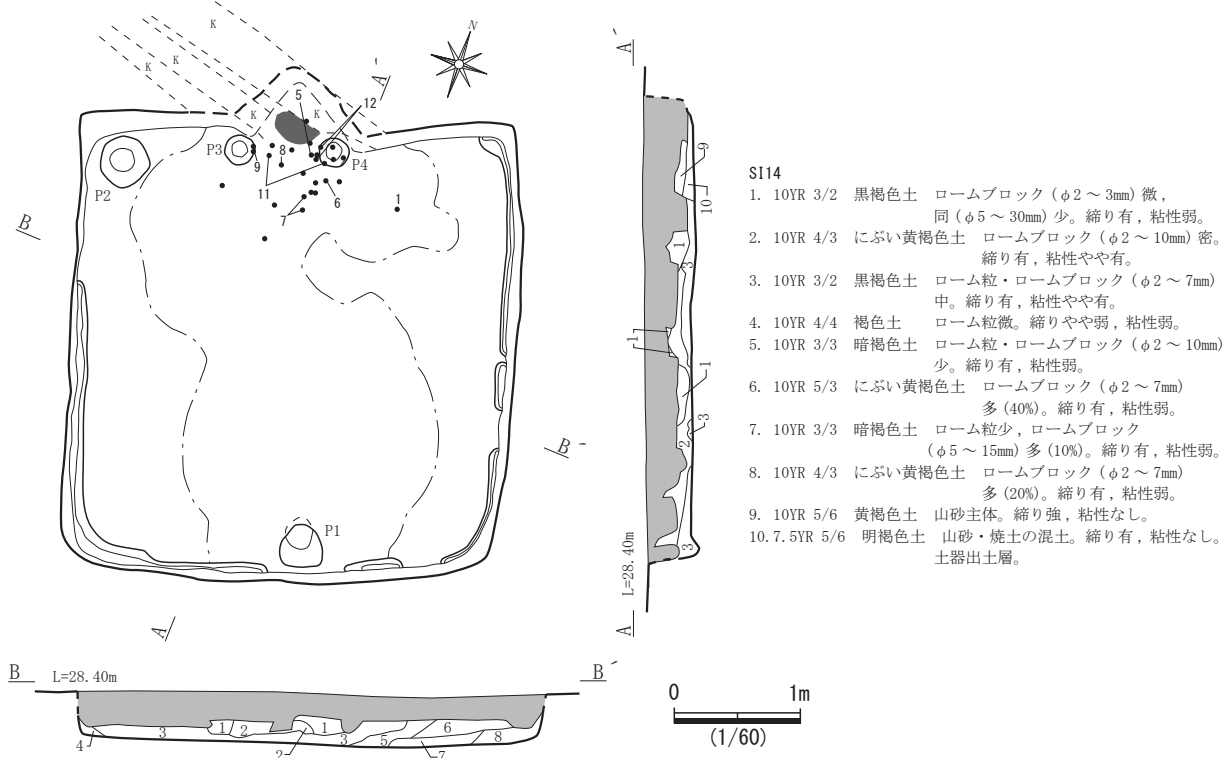
第36図 SI13・同出土遺物

置から貯蔵穴の可能性はある。掘り方は全体に深めで、中央部から南側がやや深く掘り込まれている。カマドは北壁の中央に付設され、攪乱のため袖部及び燃焼部の大部分は消失している。構築材はほとんど残存せず、火床も焼土がわずかに堆積する程度である。煙道部は屋外へ54 cm掘り込まれている。

遺物は、土師器14点（坏1点、甕13）、須恵器4点（坏3、蓋1）、瓦3点（丸瓦2・熨斗瓦1）、鉄製品1点（釘1）が出土した。供膳具は出土量が少ないものの、木葉下窯産とみられる胎土の須恵器が占める。土師器坏は小片で図示していないが、非ロクロの土師器が1点のみが認められる。1の須恵器坏は、SI12の掘り方から出土した坏と接合し、本建物跡が廃絶された後にSI12へ流れ込んだと考えられる。4～6は瓦片で、他の建物跡より出土量が多い。併せて覆土中から礫の出土も目立った。時期は、8世紀第3四半期と考えられる。

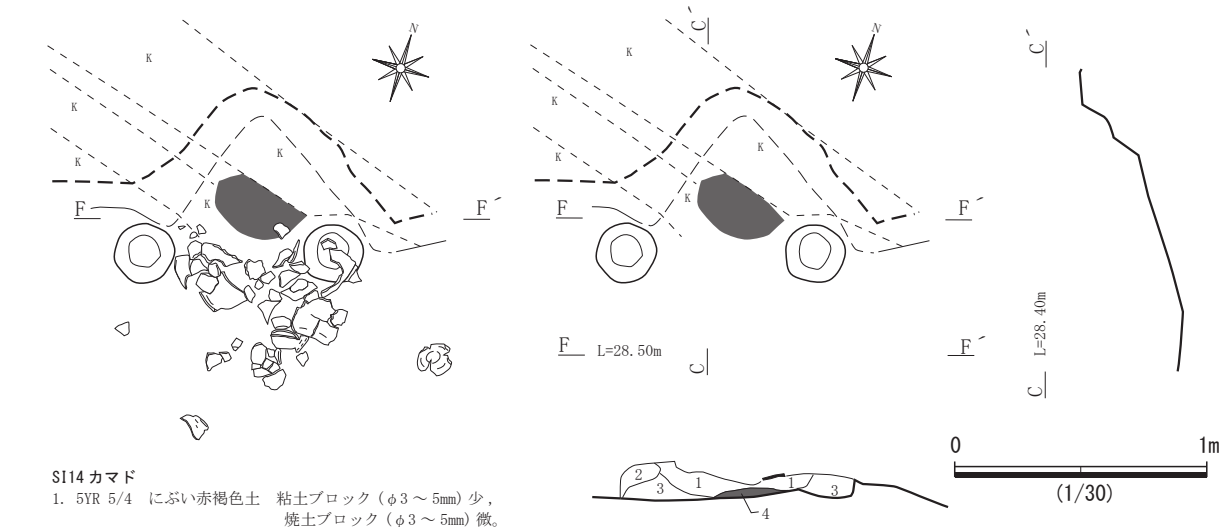
SI14（第37～39図、第26表、写真図版7・29）

検出位置はB区南西端S13・T13グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーが激しい地点で上層部の大部分が攪乱を受けるが、床面までは達していない。平面形は方形で、主軸方向はN-20°-Wを示す。規模は東西軸が3.54 m、南北軸が3.70 m、深さは33 cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土で貼り床が施され、カマド前面から南壁際にかけて顕著な硬化面が認められる。壁溝は幅8～16 cm、深さ5 cmで、北壁側及び西壁の一部を除き確認される。ピットは2基が検出され、P1は径33 cm、深さ27 cmで南壁際にある。建物内に差し込み、出入り口施設に伴うと考えられる。P2は径40 cm、深さ22 cmで北西隅にあり、配置から貯蔵穴の可能性はある。掘り方は中央部から南側が深めに掘り込まれている。カマドは北壁の中央に付設されるが、攪乱のためほとんどが消失している。火床部分が辛うじて残存し、赤変硬化した円形状の部分に5 cm程の焼土が堆積している。火床部両側に径22 cmの浅いピットP3・4が検出され、袖の補強材として土器が据えられえた可能性がある。



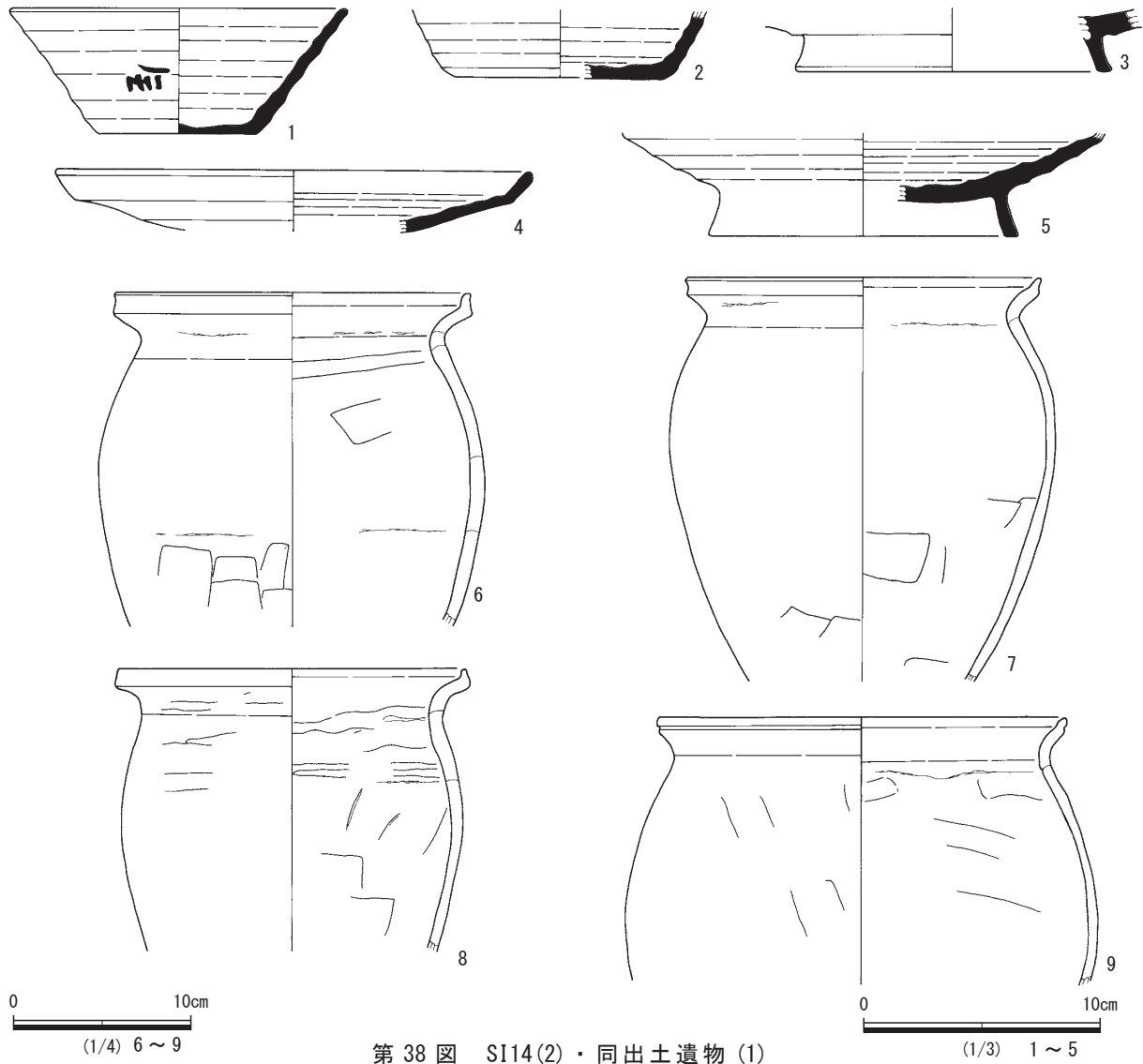
第37図 SI14(1)

第3章 調査の成果



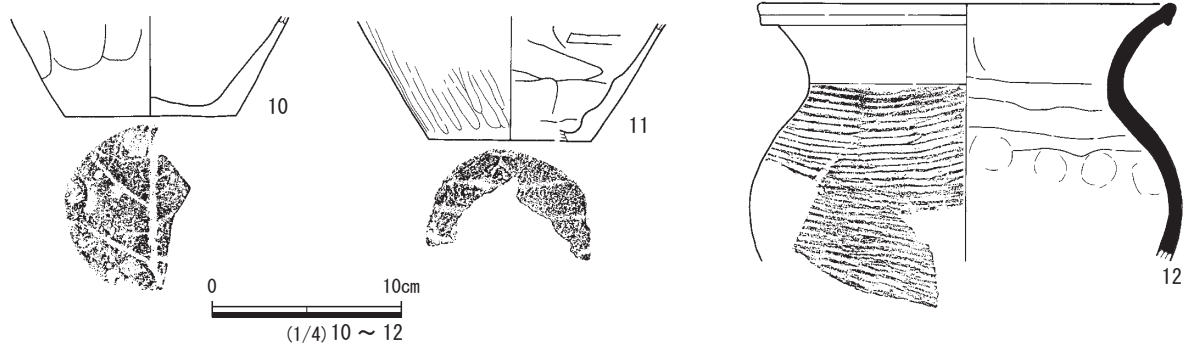
SI14 カマド

1. 5YR 5/4 にぶい赤褐色土 粘土ブロック (φ3~5mm) 少, 焼土ブロック (φ3~5mm) 微。縮りやや弱, 粘性弱。
2. 7.5YR 4/6 褐色土 粘土ブロック (φ3~5mm) 少。焼土粒微。縮り有, 粘性弱。
3. 5YR 4/4 にぶい赤褐色土 焼土粒多 (20%)。縮りやや弱, 粘性弱。
4. 2.5YR 5/4 にぶい赤褐色土 被熱粘土の崩落層。直床に火床部。縮り・粘性有。



第38図 SI14(2)・同出土遺物(1)

遺物は、土師器 89 点（坏 3，高台付坏・椀類 1，甕 85），須恵器 57 点（坏 43，高台付坏 2，盤 2，甕 10），瓦 1 点（平瓦 1）が出土した。ほとんどの遺物はカマド前面からまとまって出土している。供膳具は木葉下窯産とみられる胎土の須恵器が主体である。小片で図示しなかったが内面黒色処理された土師器片も出土している。一方、2 の須恵器は、底部が回転ヘラケズリ調整で混入したと思われる。時期は、新旧遺物が混在するものの、9 世紀第 2 四半期～第 3 四半期と考えられる。



第 39 図 SI14 出土遺物 (2)

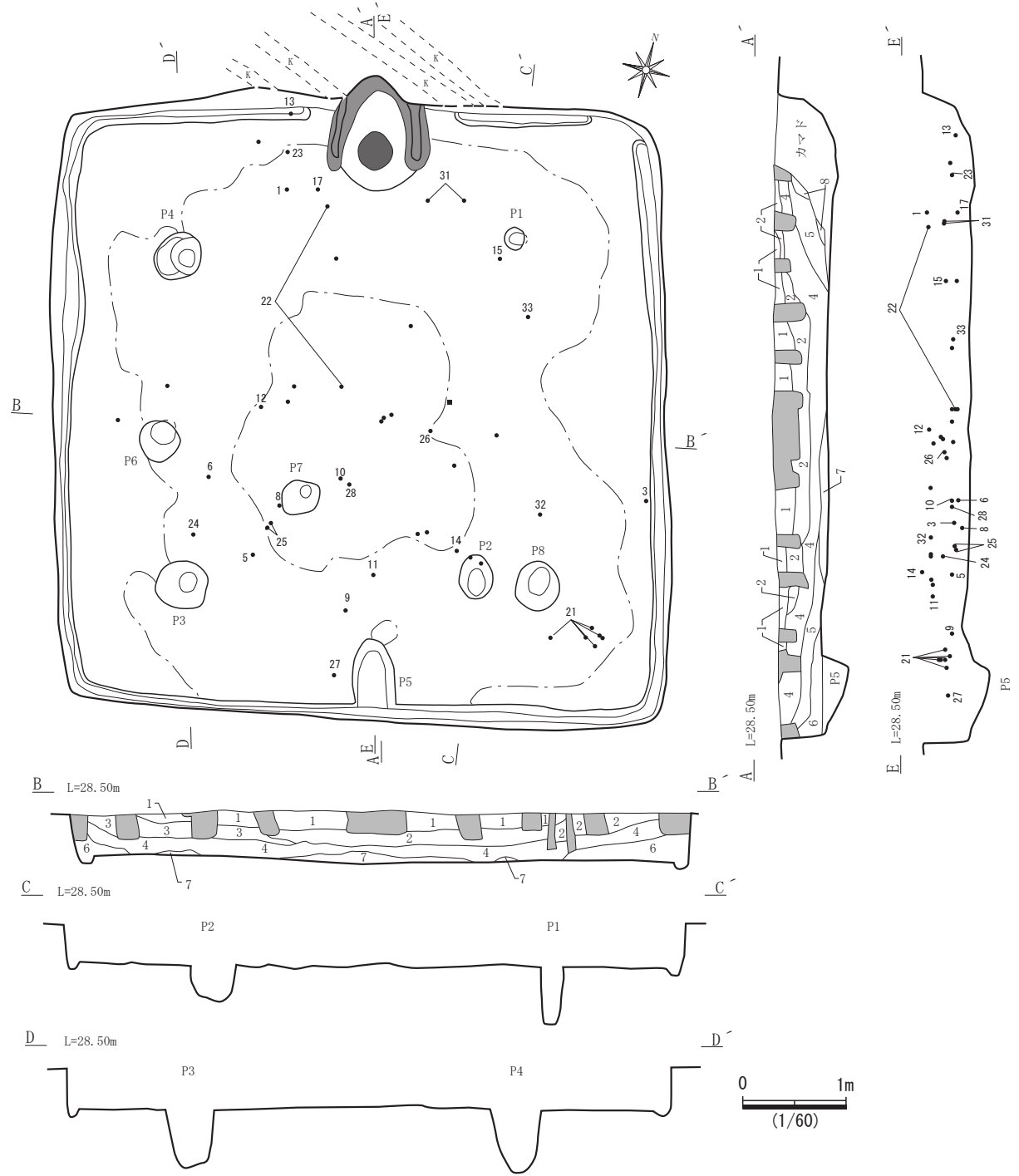
S I 1 5（第 40～42 図，第 26～28 表，写真図版 7・29・30）

検出位置はB区南西R 13・14・S 13・14 グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーで攪乱を受けるが、床面までは達していない。平面形は正方形で、主軸方向はN-15°-Wを示す。規模は東西軸が 5.90 m，南北軸が 5.98 m，深さは 41 cm で壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土で貼り床が施され、壁際と中央部分を除き環状に硬化面が認められる。壁溝は幅 7～20 cm，深さ 5 cm で、カマドと北東隅部分を除きほぼ全周する。ピットは 8 基が検出された。P 1～4・8 は支柱穴で、P 1 が径 20 cm，深さ 56 cm，P 2 が 43 × 32 cm，深さ 33 cm，P 3 が径 25 cm，深さ 52 cm，P 4 が径 46 cm，深さ 59 cm となる。南東側の支柱穴は当初 P 2 としていたが、他と比べ形状や深さに差があるため、掘り方調査時に検出された P 8 が径 48 cm，深さ 56 cm で支柱穴であった可能性がある。P 5 は出入り口に伴うと考えられる。規模は 67 × 31 cm，深さ 22 cm で平面形が砲弾型を呈し、南壁際壁溝に接している。P 6 は径 38 cm，深さ 35 cm で P 3・4 の中間にあり、位置的に支柱穴の 1 基になり得るが、P 1・2 間に対となる柱穴が見当たらない。P 7 は径 37 cm，深さ 74 cm で補助柱穴と思われる。いずれの柱穴も底面の中心が上端の中心より東側にずれている。掘り方は中央部を高く残し、壁際が環状に深く掘り込まれている。カマドは北壁の中央に付設され、上部は攪乱を受けているものの、下部は遺存状態が良い。構築材は粘土と山砂の混和土である。燃烧部は 9 cm 掘り窪められ、火床部はそのほぼ中央にあって、径 33 cm の範囲で焼土ブロックが堆積する。煙道部の掘り込みは屋外へ 24 cm と短く、急な立ち上がりを見せている。全長は 111 cm，燃烧部幅は 61 cm，袖残存長は左袖 70 cm，右袖 64 cm である。

遺物は、土師器 154 点（坏 7，甕 146，甗 1），須恵器 83 点（坏 10，高台付坏 12，盤 8，蓋 27，壺・瓶類 2，甕 20，高坏 2，円面硯 2），瓦 10 点（丸瓦 2，平瓦 8），土製品 9 点（土玉 1，支脚 8），石製品 1 点（砥石 1），鉄片 1 点が出土した。遺物は主に覆土中からの出土である。供膳具は木葉下窯産とみられる胎土の須恵器を主体としている。土師器坏は非ロクロの坏で、いずれも小振りである。須恵器では高台器種と蓋が目立ち、盤などは大型が多い。長頸瓶（壺）は頸部 21 と体部 22 の 2 点が出土しているが、同一のものではない。ただし、胎土からいずれも搬入品であろう。特筆されるのは

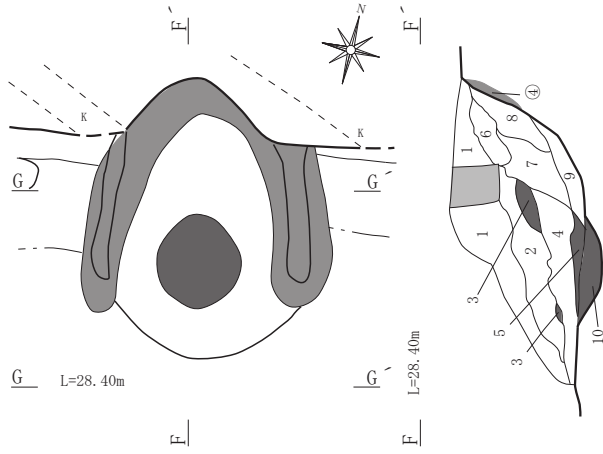
第3章 調査の成果

円面硯が2点出土していることである。硯部27と脚部28の破片であるが、同一かどうかは不明である。いずれも木葉下窯の製品で、脚部は須恵器甕口縁の作りと同じである。硯部に近い部分ではわずかに平行叩きの痕跡が認められた。時期は、8世紀第2四半期～第3四半期とみられるが、非ロクロ成形の土師器が出土していることから第2四半期に近いのではないかとと思われる。



- SI15
- | | | | |
|---------------------|-------------------------------------|-------------------|-------------------------------------|
| 1. 10YR 3/1 黒褐色土 | ローム粒少, ロームブロック (φ2~3mm) 微。縮り有, 粘性弱。 | 5. 10YR 3/3 暗褐色土 | ローム粒少, ロームブロック (φ2~3mm) 微。縮り有, 粘性弱。 |
| 2. 10YR 3/3 暗褐色土 | ローム粒少, ロームブロック (φ2~5mm) 中。縮り有, 粘性弱。 | 6. 10YR 4/6 褐色土 | ロームブロック (φ2~10mm) 多 (10%)。縮り有, 粘性弱。 |
| 3. 10YR 3/2 黒褐色土 | ローム粒・ロームブロック (φ2~3mm) 微。縮り有, 粘性弱。 | 7. 10YR 5/6 黄褐色土 | ロームブロック (φ5~15mm) 多 (10%)。縮り有, 粘性弱。 |
| 4. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 | ローム粒・ロームブロック (φ2~10mm) 少。縮り有, 粘性弱。 | 8. 7.5YR 5/2 灰褐色土 | 焼土多 (20%)。縮り有, 粘性なし。 |

第40図 SI15(1)

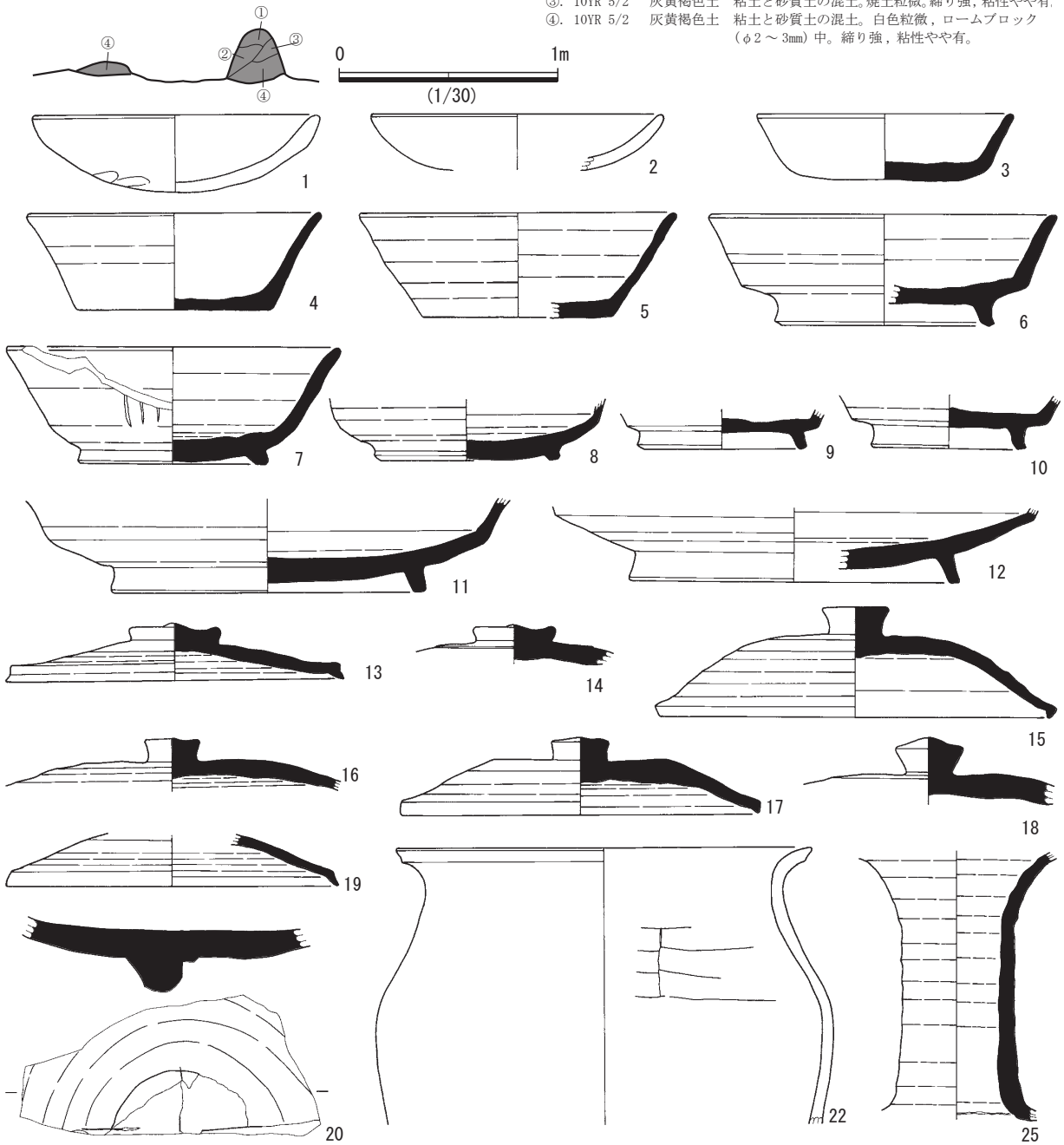


SI15 カマド

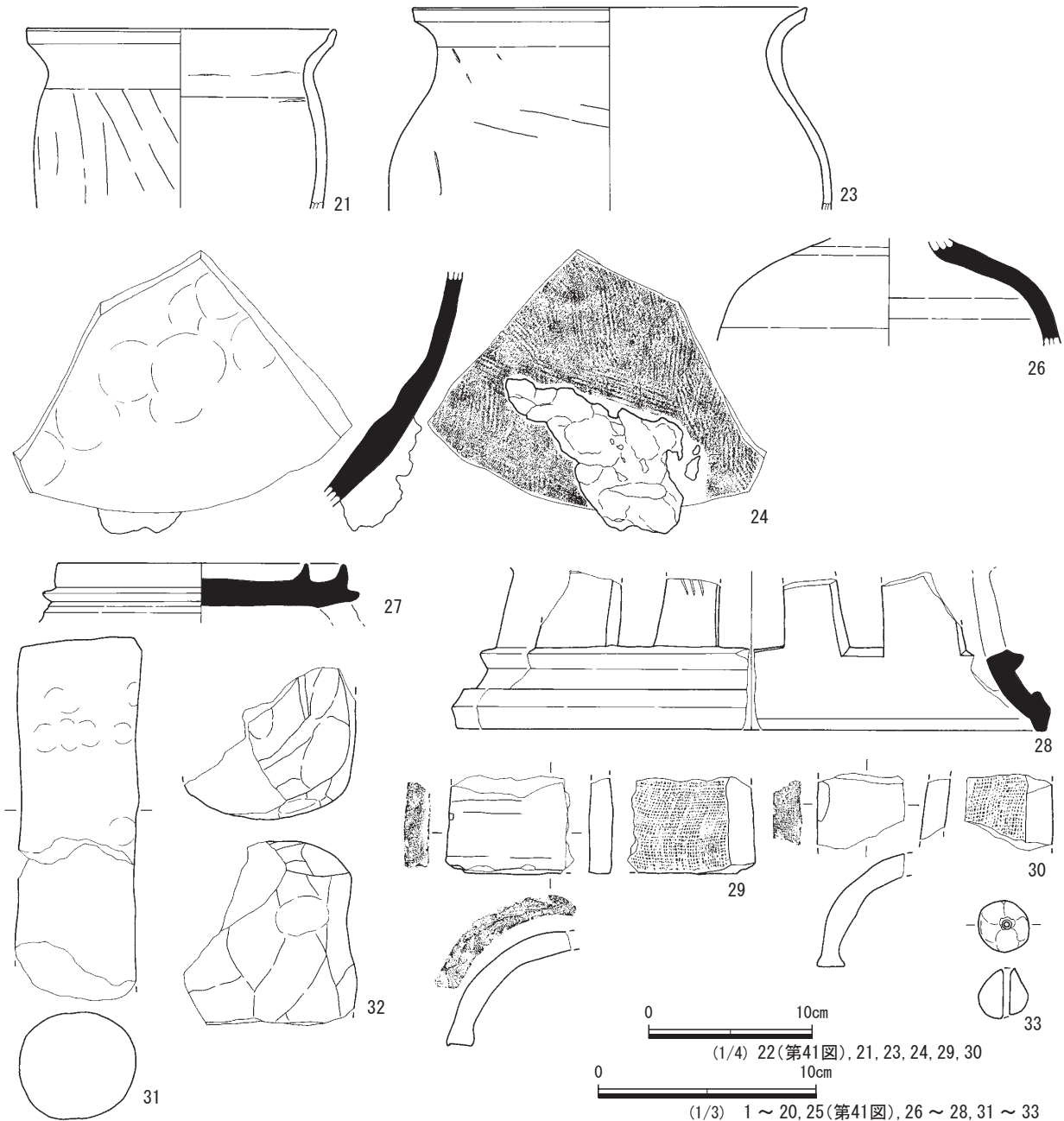
1. 7.5YR 3/2 黒褐色土 粘土粒中, 粘土ブロック (φ3~5mm) 少, 焼土粒微。縮り有, 粘性弱。
2. 5YR 5/4 にぶい赤褐色土 粘土粒少, 焼土ブロック (φ10~20mm) 中, 被熱粘土ブロック (φ3~7mm) 微。縮りやや強, 粘性有。
3. 2.5YR 5/6 明赤褐色土 焼土主体。粘土粒微。縮り有, 粘性弱。
4. 5YR 5/3 にぶい赤褐色土 粘土粒中, 粘土ブロック (φ5~15mm)・焼土ブロック (φ3~10mm) 少。縮り・粘性有。
5. 2.5YR 4/8 赤褐色土 焼土ブロック主体。火床部。縮りやや強, 粘性なし。
6. 2.5YR 4/6 赤褐色土 粘土・粘土粒多 (20%)。縮り有, 粘性弱。
7. 5YR 4/3 にぶい赤褐色土 焼土粒・焼土ブロック (φ5~20mm) 中, 粘土粒少。縮り有, 粘性やや有。
8. 7.5YR 5/3 にぶい褐色土 粘土混土。焼土ブロック (φ3~7mm) 微。縮り・粘性有。
9. 10YR 5/2 灰黄褐色土 粘土主体。焼土粒微。縮り・粘性有。
10. 5YR 3/2 暗赤褐色土 焼土粒少, 焼土ブロック (φ2~3mm) 微。

SI15 カマド袖部

- ① 10YR 6/2 灰黄褐色土 粘土と砂質土の混土。白色粒微。縮り強, 粘性弱。
- ② 7.5YR 5/2 灰褐色土 粘土と砂質土の混土。焼土ブロック (φ2~5mm) 多 (10%), 白色粒少。縮り強, 粘性弱。
- ③ 10YR 5/2 灰黄褐色土 粘土と砂質土の混土。焼土粒微。縮り強, 粘性やや有。
- ④ 10YR 5/2 灰黄褐色土 粘土と砂質土の混土。白色粒微, ロームブロック (φ2~3mm) 中。縮り強, 粘性やや有。



第41図 SI15(2)・同出土遺物(1)



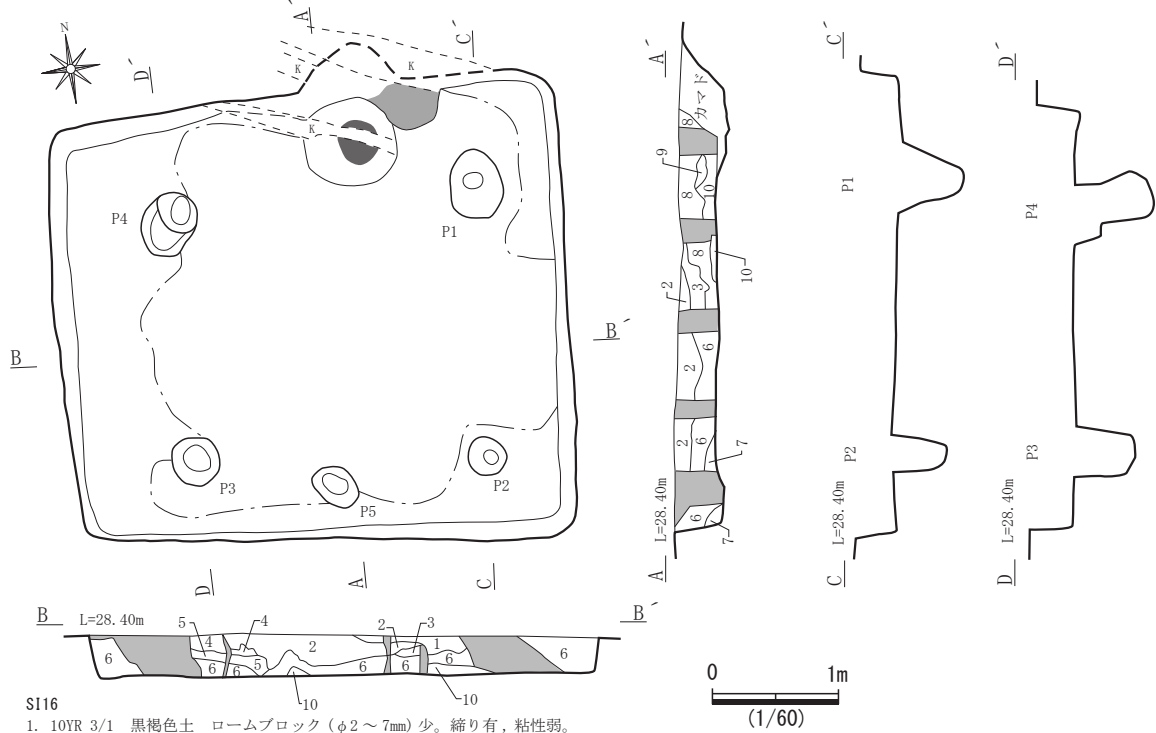
第42図 SI15 出土遺物(2)

SI16 (第43図, 第26表, 写真図版7・30)

検出位置はB区南東R 17・S 17グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーで攪乱が床面まで達しているが、他の地点よりは影響が少ない。平面形は基本的に方形を呈するが、わずかに歪み東壁側が広がっている。主軸方向はN-6°-Eを示す。規模は東西軸が4.05m, 南北軸の東側が3.72m, 西側が3.32mである。深さは36~40cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面は平坦で、P 3・4から西側を除き硬化面がほぼ全体に認められる。壁溝は確認されなかった。ピットは5基検出され、P 1~4は支柱穴である。P 1が56×42cm, 深さ52cm, P 2が径30cm, 深さ42cm, P 3が径41cm, 深さ49cm, P 4が53×38cm, 深さ64cmである。北側のP 1・4は南北に長い楕円形を呈する。P 5は40×28cm, 深さ11cmで南壁際にあり、出入り口施設に伴うと考えられる。掘り方は浅く、ほぼ直床に近い。カマドは北壁の中央やや東寄りに付設され、攪乱のため左

袖及び燃焼部の大部分が消失している。構築材は灰黄橙色粘土が主体である。燃焼部は10 cm程掘り窪められた中央部に火床部のみが残存し、径34 cmの範囲で焼土ブロックが堆積する。煙道部は攪乱で把握できないが、35～40 cm程度の掘り込みとみられる。右袖の残存長は42 cmであった。

遺物は、土師器51点（甕51）、須恵器7点（坏5、高台付坏1、蓋1）が出土した。供膳具は木葉下窯産とみられる胎土の須恵器で占められている。時期は、出土遺物の様相から8世紀第4四半期で、やや9世紀代に近いのではないかと思われる。

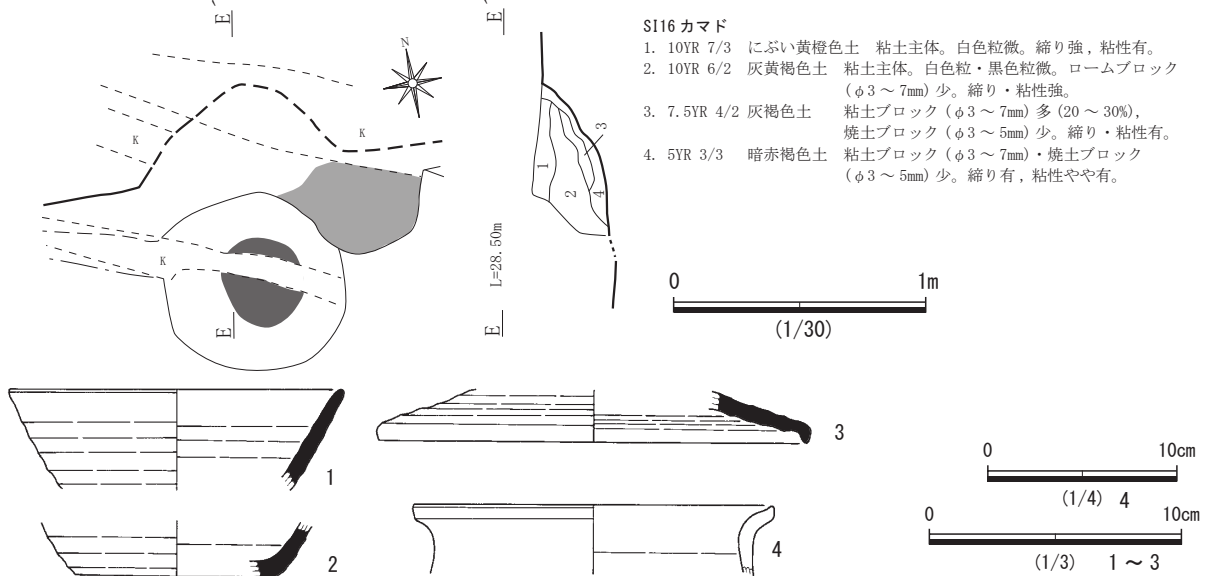


SI16

1. 10YR 3/1 黒褐色土 ロームブロック (φ2～7mm) 少。縮り有、粘性弱。
2. 10YR 5/4 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ5～15mm) 中。縮り有、粘性弱。
3. 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ5～20mm) 多(10%)。縮り有、粘性弱。
4. 10YR 3/1 黒褐色土 ロームブロック (φ2～20mm) 多(20%)。縮り有、粘性弱。
5. 10YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック (φ5～10mm) 少。縮り有、粘性弱。
6. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ5～15mm) 中、黒褐色土を斑紋状に含む。縮り有、粘性弱。
7. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒少。縮りやや弱、粘性弱。
8. 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ2～5mm) 少、(φ10～30mm) 微。縮り有、粘性弱。
9. 7.5YR 4/3 褐色土 ロームブロック (φ2～3mm) 少、粘土ブロック (φ5～10mm) 中。縮り有、粘性弱。
10. 7.5YR 5/2 灰褐色土 粘土混土。ロームブロック (φ5～10mm) 少、焼土ブロック (φ2～5mm) 微。縮りやや強、粘性有。

SI16 カマド

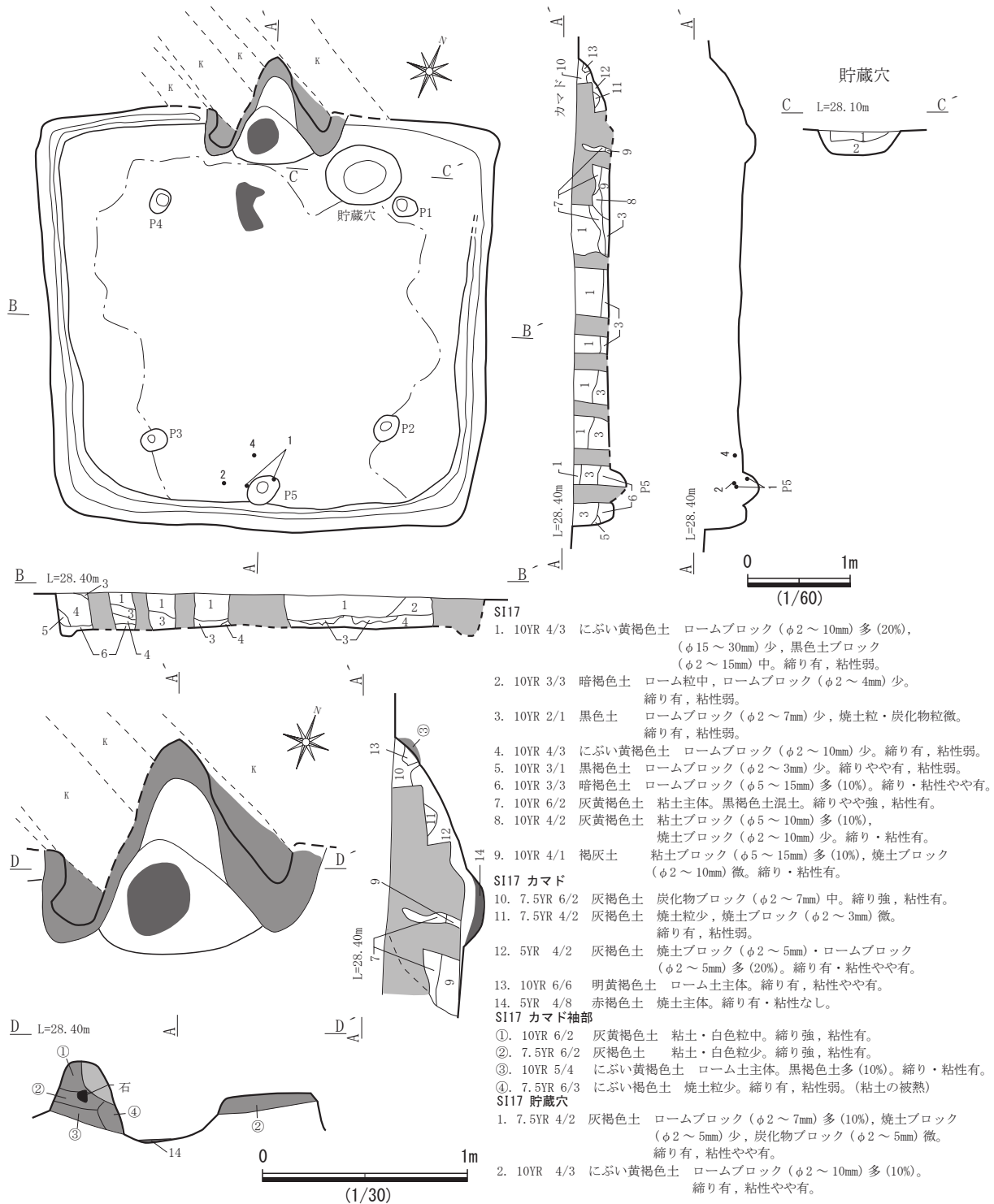
1. 10YR 7/3 にぶい黄橙色土 粘土主体。白色粒微。縮り強、粘性有。
2. 10YR 6/2 灰黄褐色土 粘土主体。白色粒・黒色粒微。ロームブロック (φ3～7mm) 少。縮り・粘性強。
3. 7.5YR 4/2 灰褐色土 粘土ブロック (φ3～7mm) 多(20～30%)、焼土ブロック (φ3～5mm) 少。縮り・粘性有。
4. 5YR 3/3 暗赤褐色土 粘土ブロック (φ3～7mm)・焼土ブロック (φ3～5mm) 少。縮り有、粘性やや有。



第43図 SI16・同出土遺物

SI17 (第44・45図, 第26・30表, 写真図版7・31)

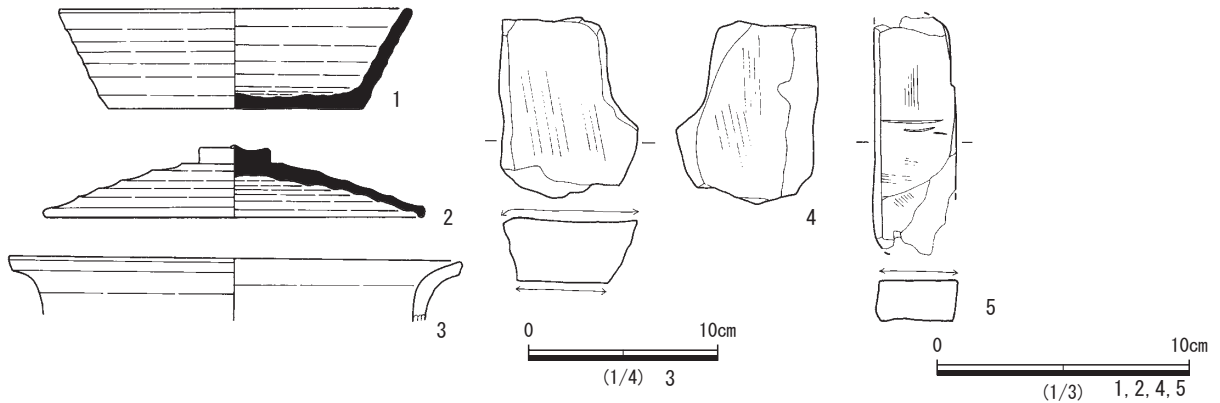
検出位置はB区南西P14・Q14グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーで攪乱が床面まで達している。平面形は方形で、主軸方向はN-21°-Wを示す。規模は東西軸が4.25m、南北軸が4.08m、深さは28~36cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床が施され、壁際を除き全体に硬化面が認められ、中央部は特に顕著であった。壁溝は幅11~18cm、深さ3~4cmで全周すると思われるが、北壁際東側



第44図 SI17

から東壁にかけて不明瞭である。ピットは6基が検出された。P 1～4は支柱穴で、P 1が径 25 cm、深さ 33 cm、P 2が径 28 cm、深さ 26 cm、P 3が径 31 cm、深さ 27 cm、P 4が径 25 cm、深さ 62 cmでいずれも小規模である。P 5は出入り口施設に伴うと考えられる。規模は径 32 cm、深さ 16 cmで南壁際壁溝に接している。P 6はカマド右側にあり、75 × 57 cm、深さ 23 cmで貯蔵穴と考えられる。掘り方は中央部を高く残し、壁際を環状に掘り込んでいるが、掘り込みは浅い。カマドは北壁の中央に付設される。構築材は粘土と山砂の混和土で、粘土の割合が高い。燃烧部は 10 cm掘り窪められ、火床部は中央にあつて、径 30 cmの範囲で被熱したロームブロックと焼土ブロックが混在するが、赤変硬化した火床面は認められなかった。煙道部は屋外へ 53 cm掘り込まれ、緩やかに立ち上がる。全長は 107 cm、燃烧部最大幅は 76 cm、袖残存長は左袖 46 cm、右袖 41 cmである。

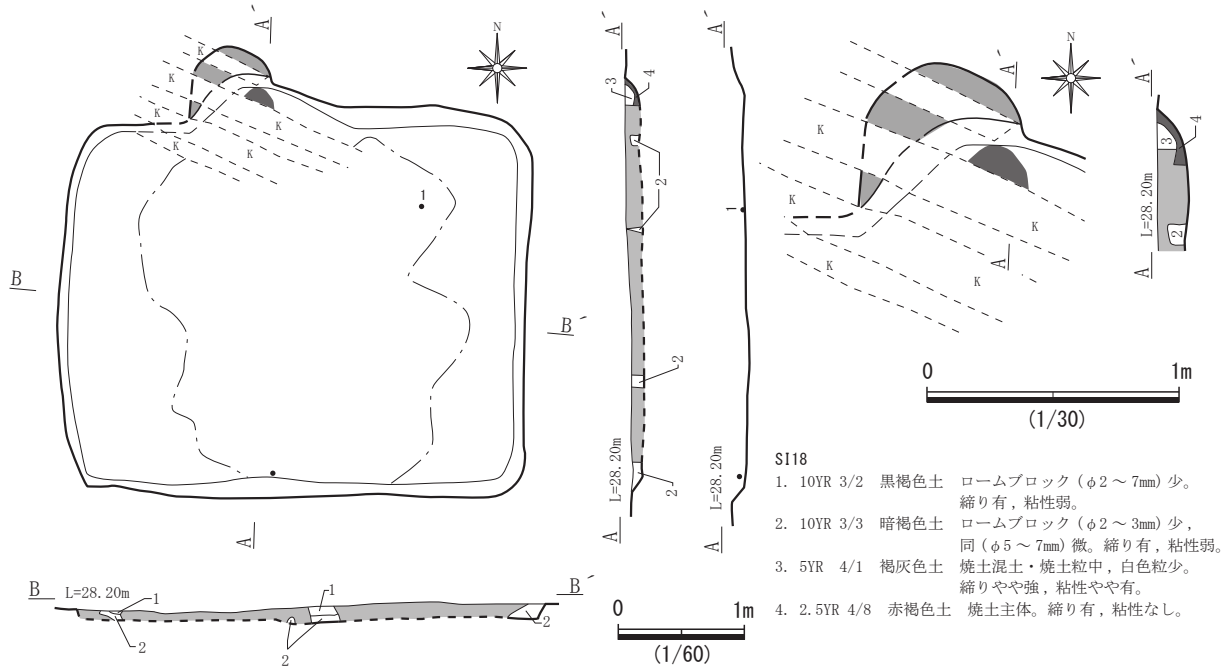
遺物は、土師器 23 点（甕 23）、須恵器 22 点（坏 10、高台付坏 3、蓋 5、甕 4）、石製品 2 点（砥石 2）、が出土した。出土量は少ないものの供膳具は木葉下窯産とみられる胎土の須恵器が占める。時期は、8 世紀第 2 四半期～第 3 四半期と考えられる。



第 45 図 SI17 出土遺物

SI 18（第 46・47 図、第 26 表、写真図版 7・31）

検出位置はB区南西端Q 16 グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーが激しい地点で大部

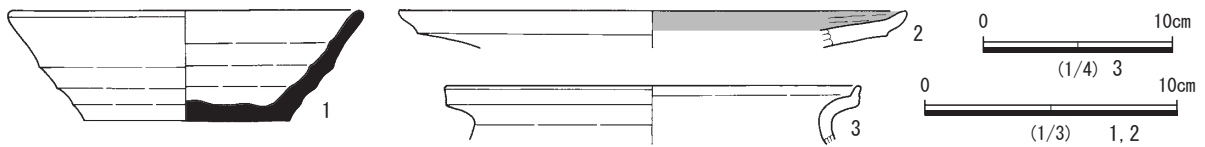


第 46 図 SI18

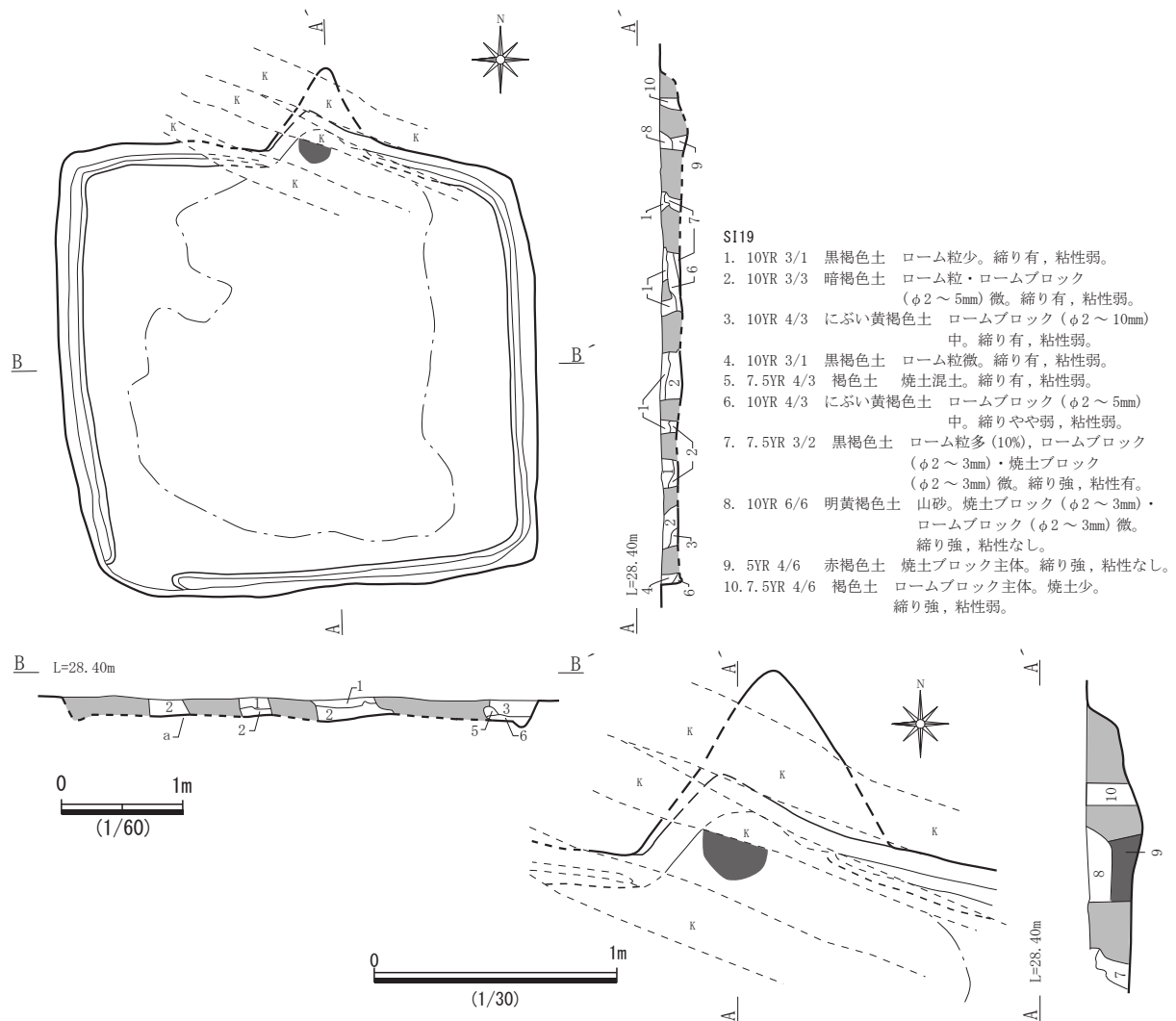
第3章 調査の成果

分が床面まで達していた。平面形は方形で西壁がわずかに膨らむ。主軸方向はN-0°を示し、規模は東西軸が3.70m、南北軸が3.07m、深さは7~12cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は2層を確認するが、堆積状況は把握できなかった。床面は平坦で、カマド前面から南壁にかけて中央部に顕著な硬化面が認められる。壁溝及びピットは検出されなかった。掘り方は認められず、直床であった。カマドは北壁の中央やや西寄りに付設され、攪乱のためほとんどが消失している。火床部分が辛うじて残存し、燃焼部から煙道部は屋外へ約60cm掘り込まれている。

遺物は、土師器26点（高台付坏・椀1、盤2、甕23）、須恵器9点（坏5、蓋2、壺・瓶類1、甕1）が出土した。供膳具は木葉下窯産とみられる胎土の須恵器が主体であるが、内面黒色処理の土師器片も認められ、2の口縁部片は盤型とみられる。時期は、須恵器坏1の底部がへら切りで雑な調整を呈した新しい様相を呈していることから9世紀第1四半期~第2四半期ではないかと考えられる。



第47図 SI18出土遺物

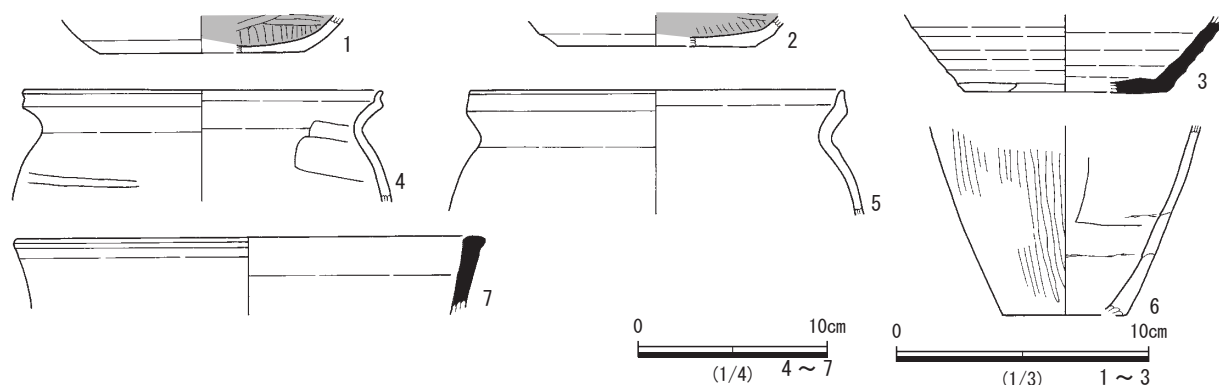


第48図 SI19

S I 1 9 (第48・49図, 第26表, 写真図版8・31)

検出位置はB区南西側P 15・16グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーで攪乱が床面まで達していた。平面形は基本的に方形であるが、東壁側が短く、わずかに歪む。主軸方向はN-2°-Wを示し、規模は東西軸が3.91 m, 南北軸の東側が3.30 m, 西側が3.75 m, 深さは10～18 cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面は攪乱の影響で起伏を伴うものの、カマド前面から南壁にかけて中央部に顕著な硬化面が認められる。壁溝及びピットは検出されなかった。掘り方は認められず、直床であった。カマドは北壁のほぼ中央に付設され、攪乱のためほとんどが消失している。燃烧部は12 cm掘り窪められ、その中心に円形状の火床部が残存する。

遺物は、土師器44点(坏3, 甕41), 須恵器17点(坏9, 高台付坏1, 蓋2, 鉢1, 甕4)が出土した。供膳具は、木葉下窯産とみられる胎土の須恵器が主体で、内面黒色処理の土師器坏が供伴する。時期は、9世紀第2四半期と考えられる。



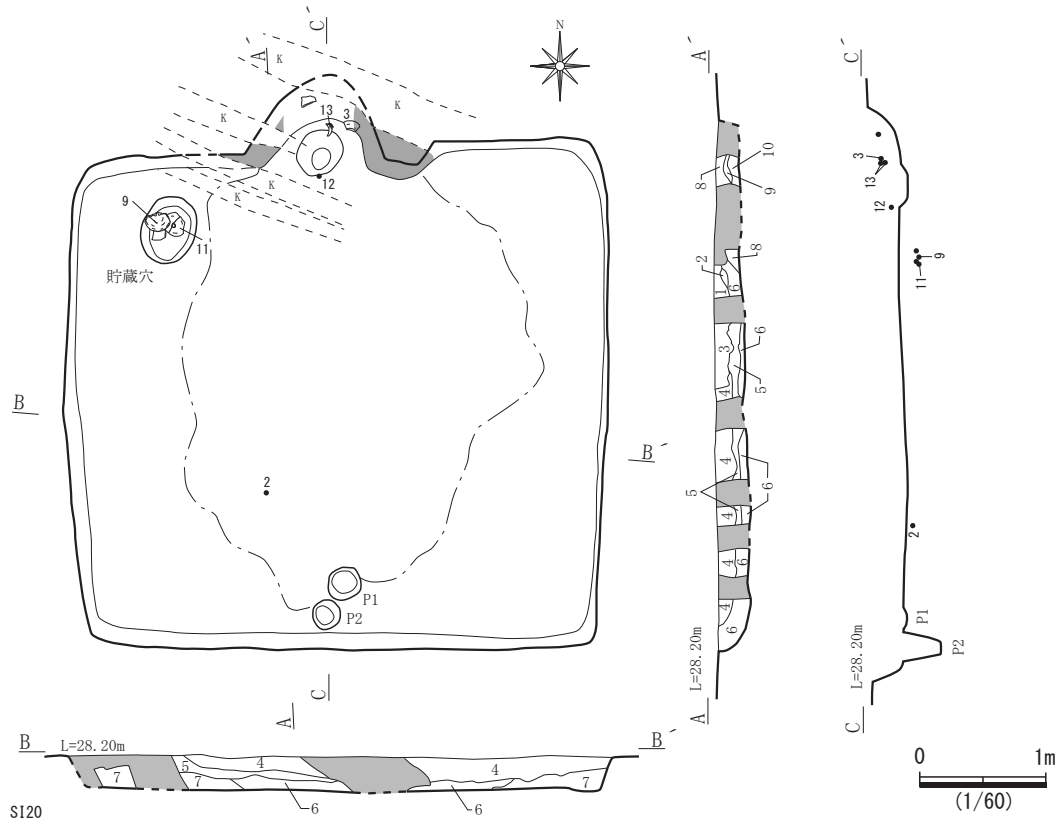
第49図 SI19出土遺物

S I 2 0 (第50・51図, 第26表, 写真図版8・31)

検出位置はB区南西側P 16・Q 16グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーで攪乱が床面まで達していた。平面形はほぼ方形であるが、わずかに東壁側が広い。主軸方向はN-0°を示し、規模は東西軸が4.30 m, 南北軸の東側が4.07 m, 西側が3.90 m, 深さは23～27 cmで壁はやや外傾して、覆土は自然堆積と考えられる。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土で貼り床が施され、壁際が若干高くなる。壁溝は検出されなかった。カマド前面から南壁にかけて中央部に顕著な硬化面が認められている。ピットは2本検出された。P 1・2ともに南壁際にあり、出入り口施設に伴うと考えられる。規模はP 1が径26 cm, 深さ9 cm, P 2が径24 cm, 深さ27 cmである。西隅では貯蔵穴が検出された。規模は54×43 cm, 深さ17 cmの楕円形を呈し、南北に長い。掘り方は全体に浅く掘り込まれており、深い部分は認められない。カマドは北壁のほぼ中央に付設され、攪乱のため大部分が消失していた。構築材は粘土と山砂の混和土であるが、粘土の割合が高い。燃烧部は8 cm程掘り窪められ、そのほぼ中央で被熱したロームブロックが円形状に残存するが認められない。煙道部は先端部が失われているが、屋外への掘り込みは70 cm前後はあり、燃烧部幅は73 cm, 袖部は先端部が失われ、残存長は左袖12 cm, 右袖30 cmである。

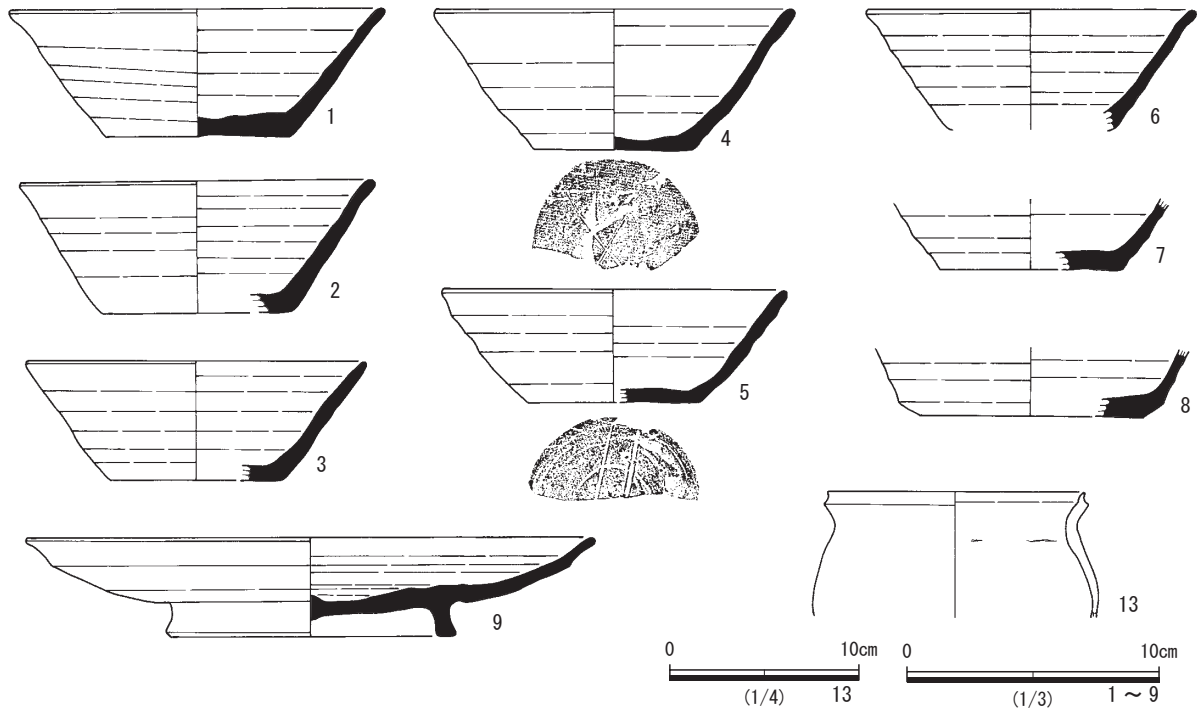
遺物は、土師器66点(坏3, 蓋1, 甕61, 甌1), 須恵器43点(坏32, 高台付坏4, 蓋1, 盤3, 甕2, 甌1)が出土した。供膳具は木葉下窯産とみられる胎土の須恵器が占め、坏の出土量が多い。有台器種では、大型に近い盤が認められる。11は土師器の蓋で、内面は黒色処理されている。9・10はともに貯蔵穴から出土している。時期は、主体となる須恵器坏の形態から9世紀第2四半期～第3四半期と考えられる。

第3章 調査の成果

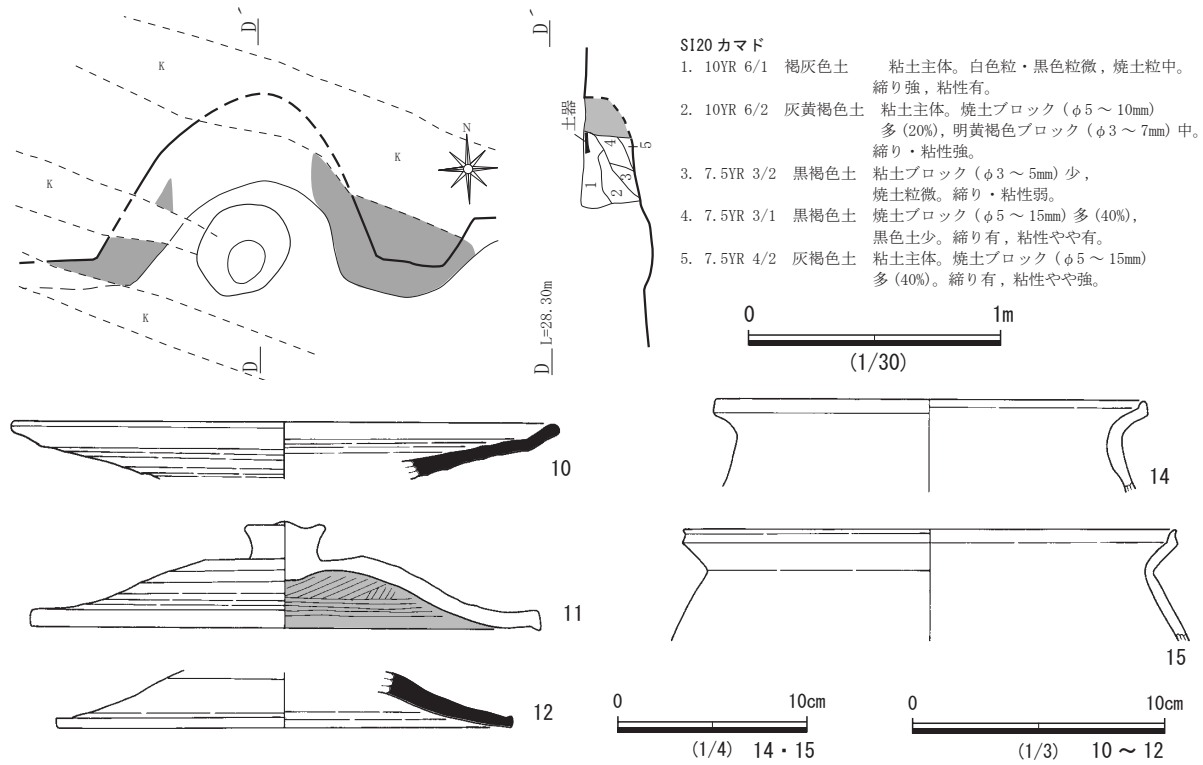


SI20

1. 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 粘土ブロック (φ2~10mm) 少, 白色粒・焼土粒微。縮りやや強, 粘性やや有。
2. 10YR 6/2 灰黄褐色土 粘土主体。焼土ブロック (φ2~3mm)・ロームブロック (φ2~3mm) 微。縮り強, 粘性有。
3. 10YR 3/3 暗褐色土 粘土少, 焼土ブロック (φ2~3mm) 微, ロームブロック (φ2~3mm) 少。縮り・粘性有。
4. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ2~7mm) 少。縮り有, 粘性弱。
5. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒多 (10%), ロームブロック (φ2~7mm) 少。縮り有, 粘性弱。
6. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒微, ロームブロック (φ2~3mm) 少。縮り有, 粘性弱。
7. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒中, ロームブロック (φ2~7mm) 少, 焼土粒・炭化物粒微。縮り有, 粘性有。
8. 10YR 4/3 にぶい褐色土 粘土と暗褐色土の混土。焼土粒少。縮り有, 粘性やや有。
9. 2.5YR 4/6 赤褐色土 焼土と暗褐色土の混土。縮り有, 粘性弱。
10. 7.5YR 3/2 暗褐色土 焼土ブロック (φ2~7mm) 多 (10%), ロームブロック (φ2~3mm) 少。縮り有, 粘性弱。



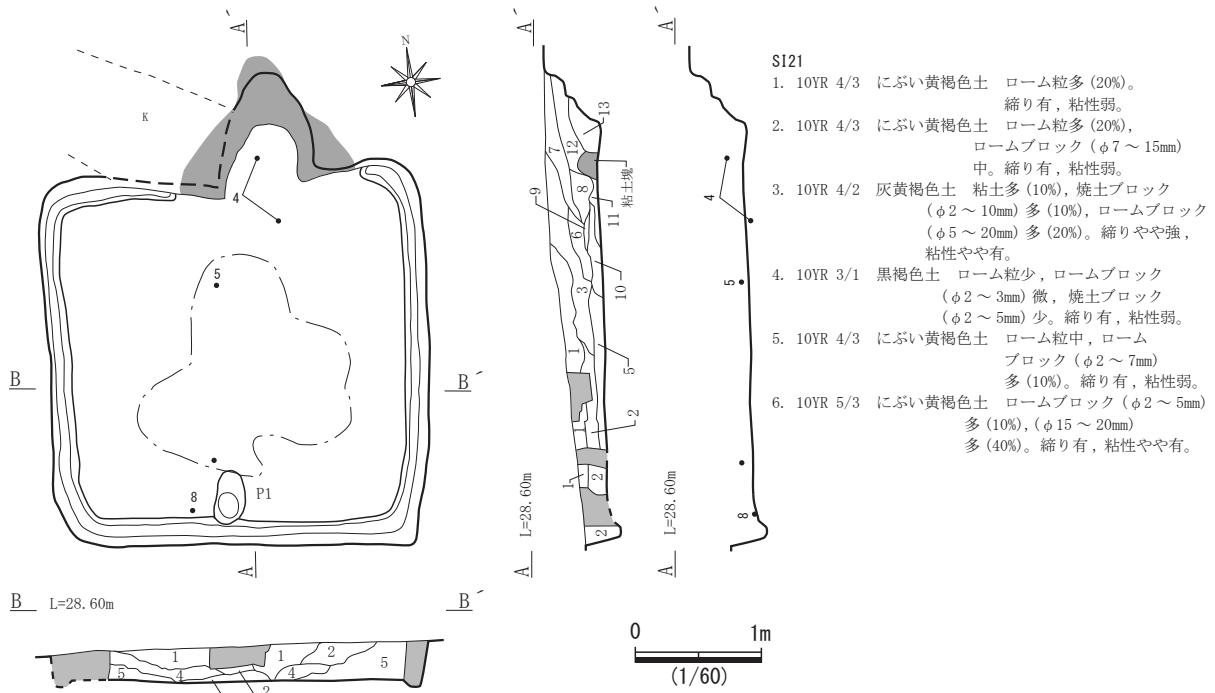
第50図 SI20・同出土遺物 (1)



第51図 SI20・同出土遺物（2）

SI21（第52・53図，第26表，写真図版8・31）

検出位置はB区南西側P16グリッドである。攪乱は南西隅部分でのみ耕作によるトレンチャーが床面までは達している。平面形は正方形で，主軸方向はN-0°を示す。規模は東西軸が3.00m，南北軸が3.04m，深さは22～30cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土で貼り床が施され，中央部に顕著な硬化面が認められる。

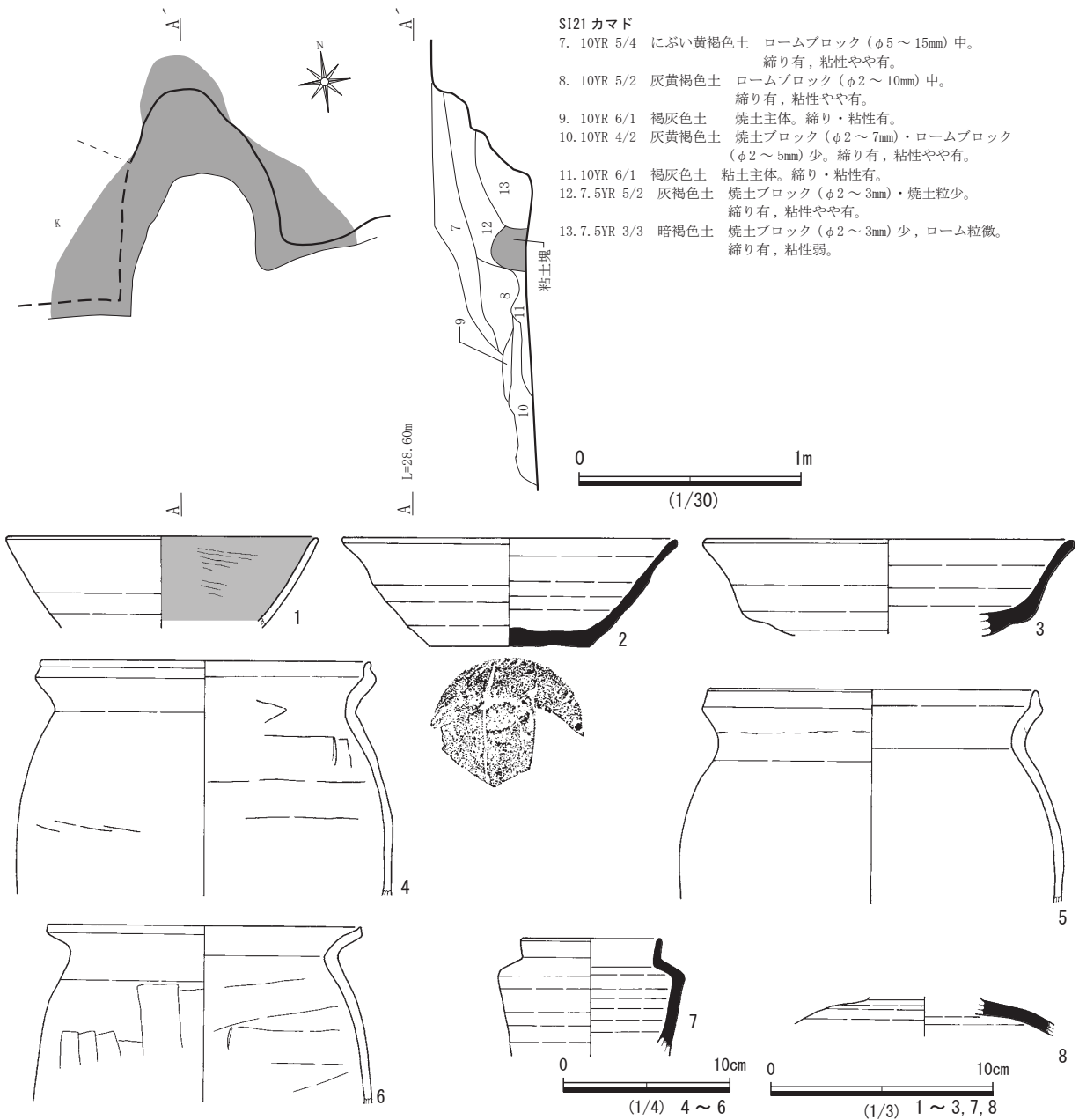


第52図 SI21(1)

第3章 調査の成果

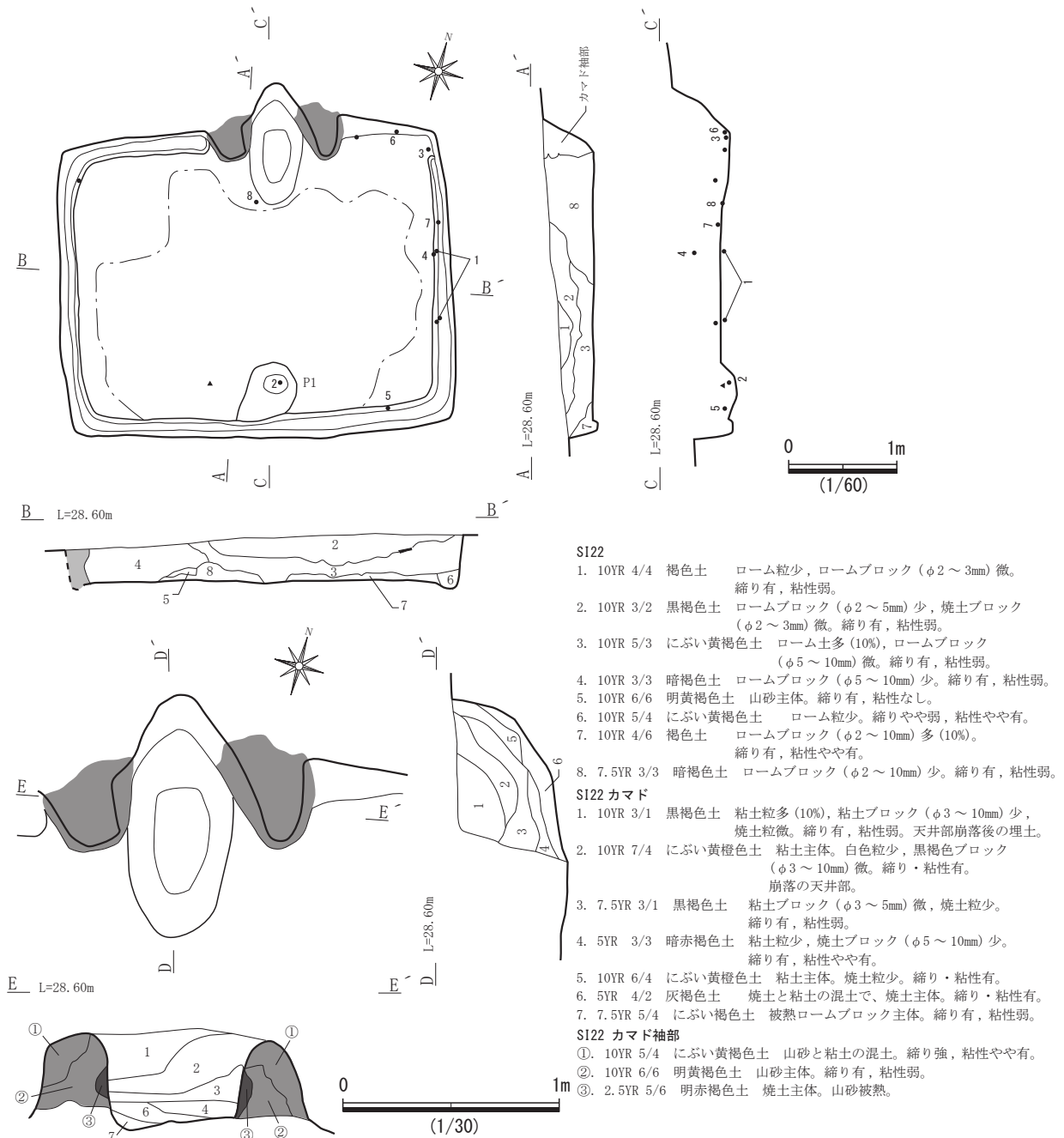
壁溝は幅 11～15 cm，深さ 8～14cm でカマド部分を除き全周する。ピットは南壁際壁溝に接して P1 が検出され，出入り口施設に伴うと考えられる。規模は 43 × 23 cm，深さ 19 cm の楕円形で南北に長い。掘り方は，カマド前面と南側が深く掘り込まれている。カマドは北壁の中央やや東寄りに付設され，西側上部に浅い攪乱を受けているが，遺存状態は良好である。構築材は褐灰色粘土が主体で用いられる。燃烧部はわずか 2～3 cm 程度が掘り窪められ，赤変硬化した火床部は認められなかったが，中央やや煙道部寄りに粘土で拵えた支脚が立脚していた。燃烧部から煙道部は屋外へ 106 cm 掘り込まれている。燃烧部幅は 56 cm，袖部残部長は左袖 12 cm，右袖 8 cm で，攪乱の影響がないところをみると，袖部は構築材を壁に貼り付けた程度であったと思われる。

遺物は，土師器 71 点（坏 4，甕 67），須恵器 32 点（坏 21，高台付坏 4，壺・瓶 3，甕 4）が出土した。供膳具では木葉下窯産とみられる胎土の須恵器が主体であるが，内面黒色処理の土師器坏も少量ながら認められる。7 は小型の短頸壺である。時期は，9 世紀第 2 四半期～第 3 四半期と考えられる。



S I 2 2 (第54・55図, 第26表, 写真図版8・32)

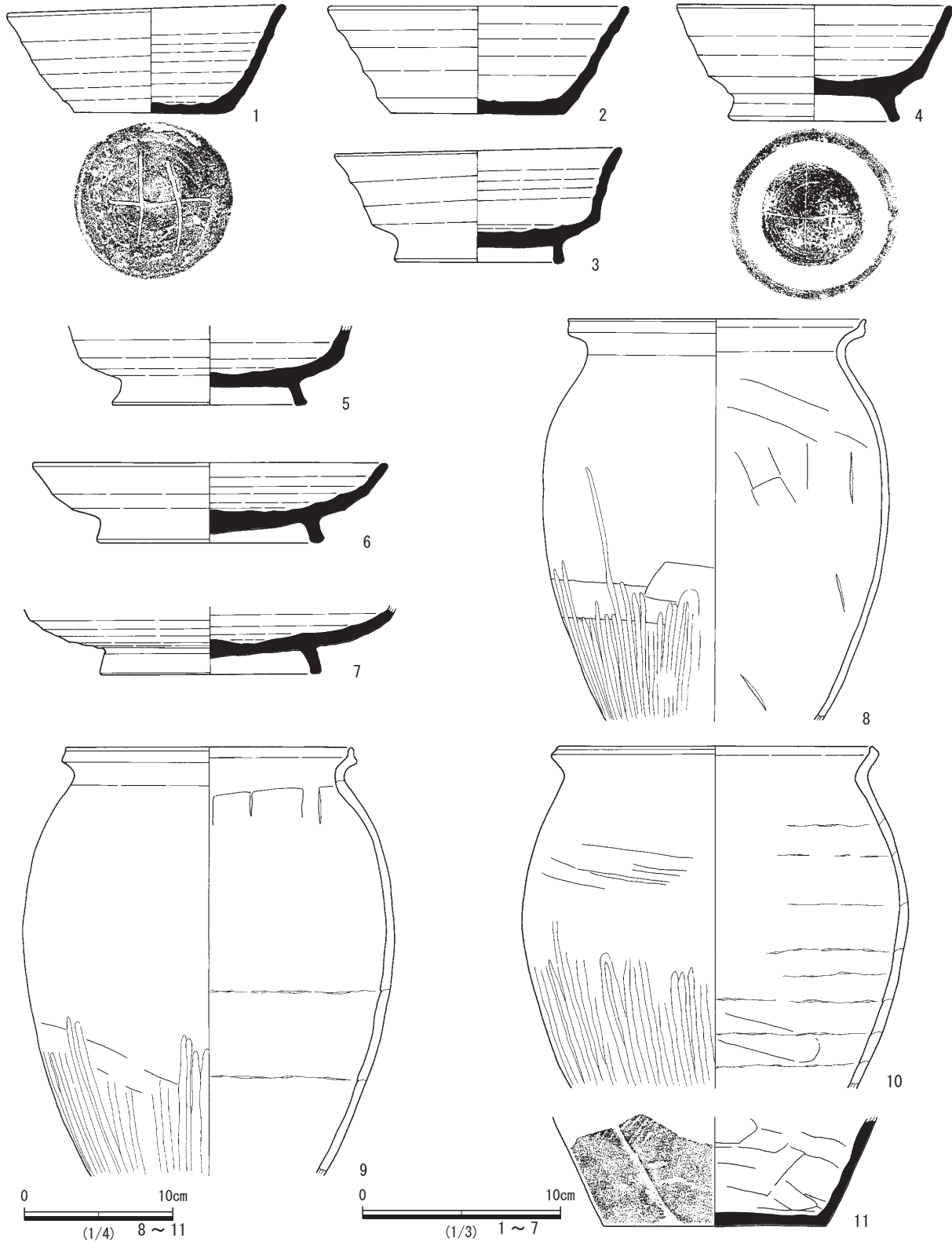
検出位置はB区南西側P 16・17グリッドである。攪乱は南西隅部分で耕作のみによるトレンチャーが床面までは達して、南側ではやや削平を受けているようである。一方、北東側ではSB06と重複し、Pit032の一部を壊してカマドを構築していることから、本建物跡が新しいと判断される。平面形はやや東西に長さを持つ長方形である。主軸方向はN-17°-Wを示す。規模は東西軸が3.64m、南北軸が2.85m、深さは22~46cmで壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はロームブロックを含む黄褐色土で貼り床が施され、北東・北西両隅以外はほぼ全体に顕著な硬化面が認められる。壁溝は幅7~17cm、深さ6~8cmでカマド部分を除き全周する。ピットは南壁際壁溝に接してP1が検出され、出入り口施設に伴うと考えられる。規模は径50cm、深さ14cmの円形で、



第54図 S122

第3章 調査の成果

上端がやや崩れている。掘り方は、硬化面の抜けた北東・北西両隅が円形状に深く掘り込まれていた。カマドは北壁の中央やや東寄りに付設されている。構築材は山砂を主体とした明黄褐灰色土が用いられ、天井部は燃烧部内に崩落していた。燃烧部は6 cm程掘り窪められるが、赤変硬化した火床部は認められない。煙道部は屋外へ35 cm掘り込まれ、全長は73 cm、燃烧部幅は56 cm、袖部残部長は左袖



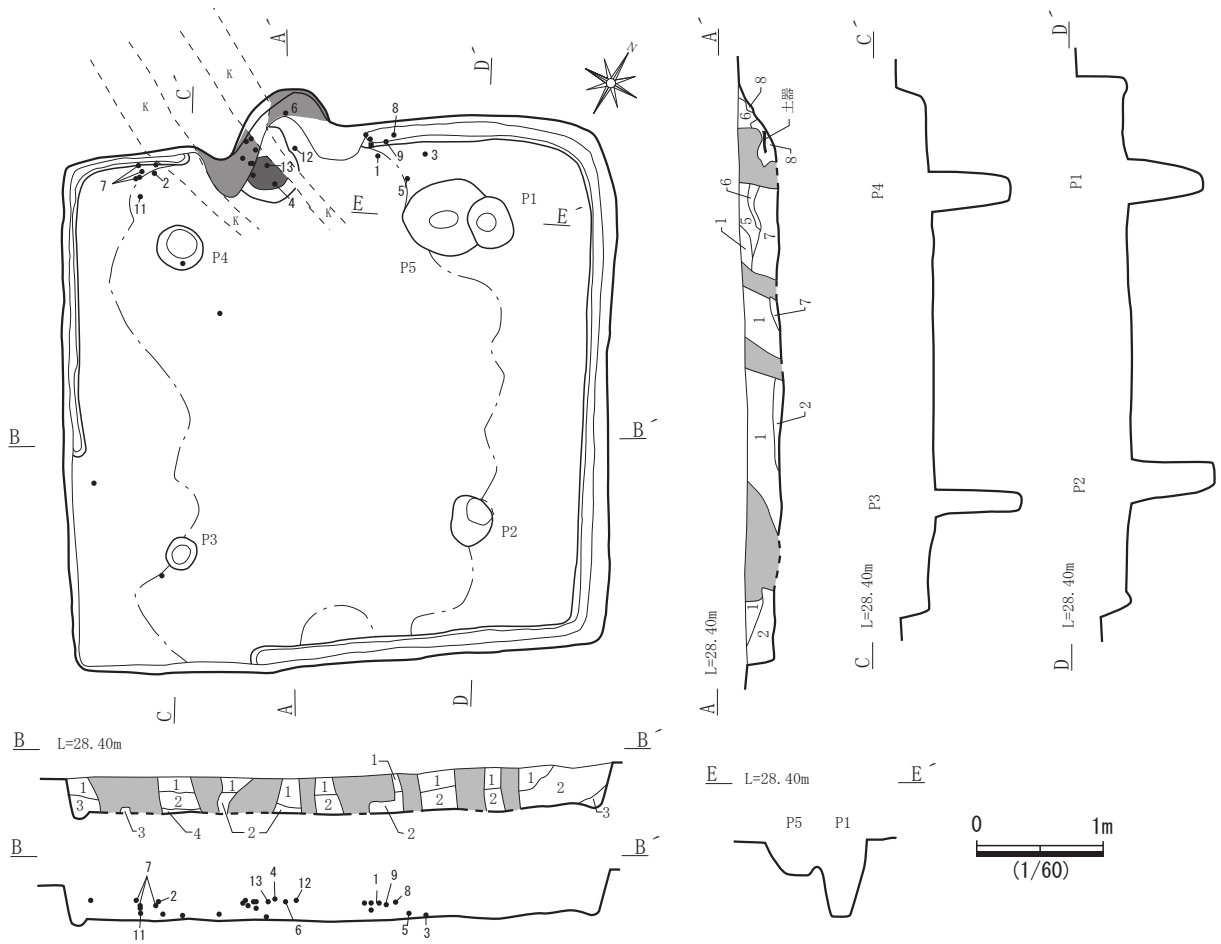
第55図 SI22 出土遺物

30 cm, 右袖 38 cmである。カマドの掘り方は凸型であった。

遺物は、土師器 84 点（甕 84）、須恵器 61 点（坏 38, 高台付坏 10, 盤 6, 蓋 1, 甕 6）が出土した。供膳具は木葉下窯産とみられる胎土の須恵器が占め、盤の出土が比較的多い。煮炊具は土師器甕が主体である。時期は、須恵器坏が深身になりつつある形態から 8 世紀第 4 四半期～9 世紀第 1 四半期と考えられる。

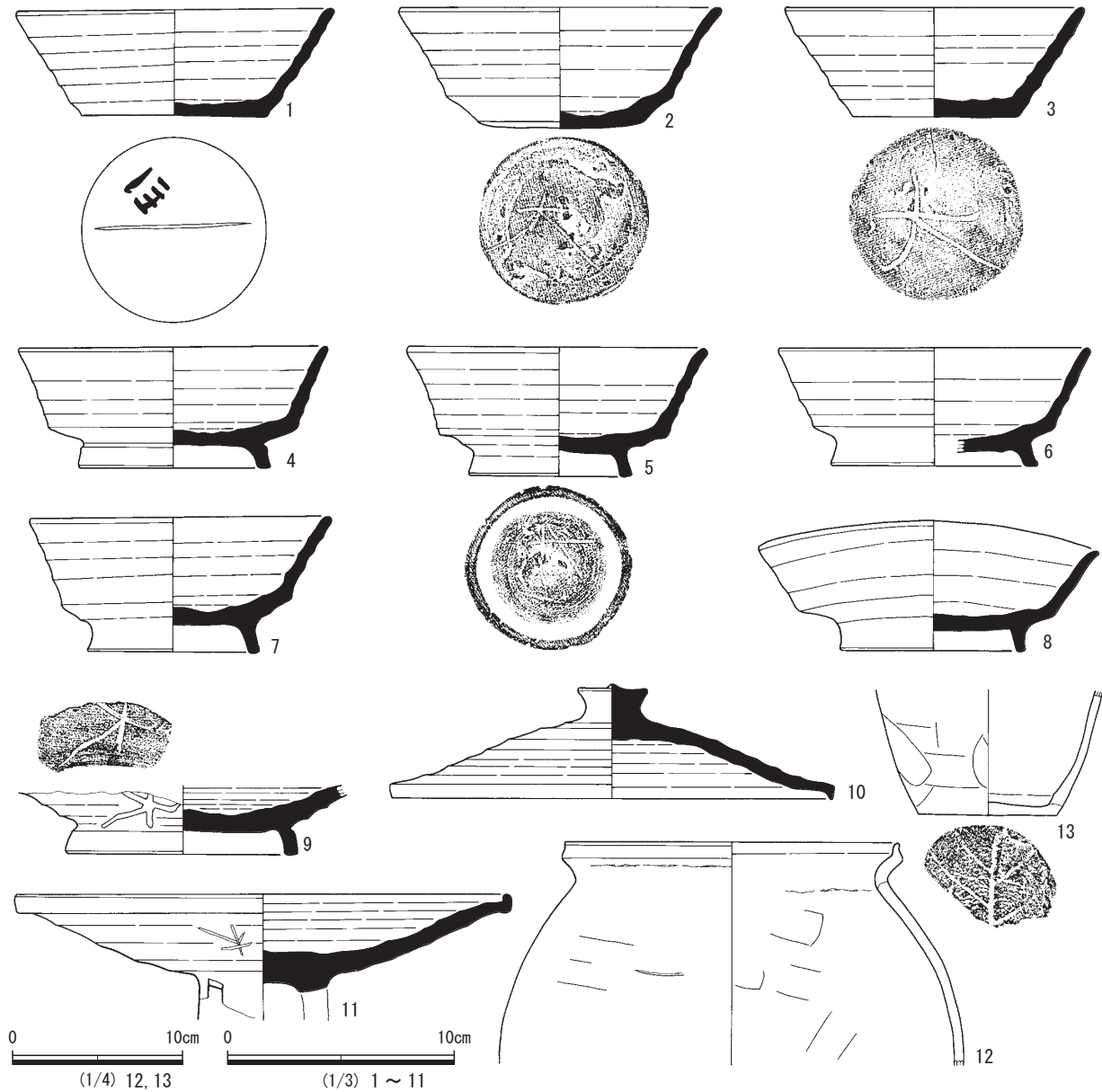
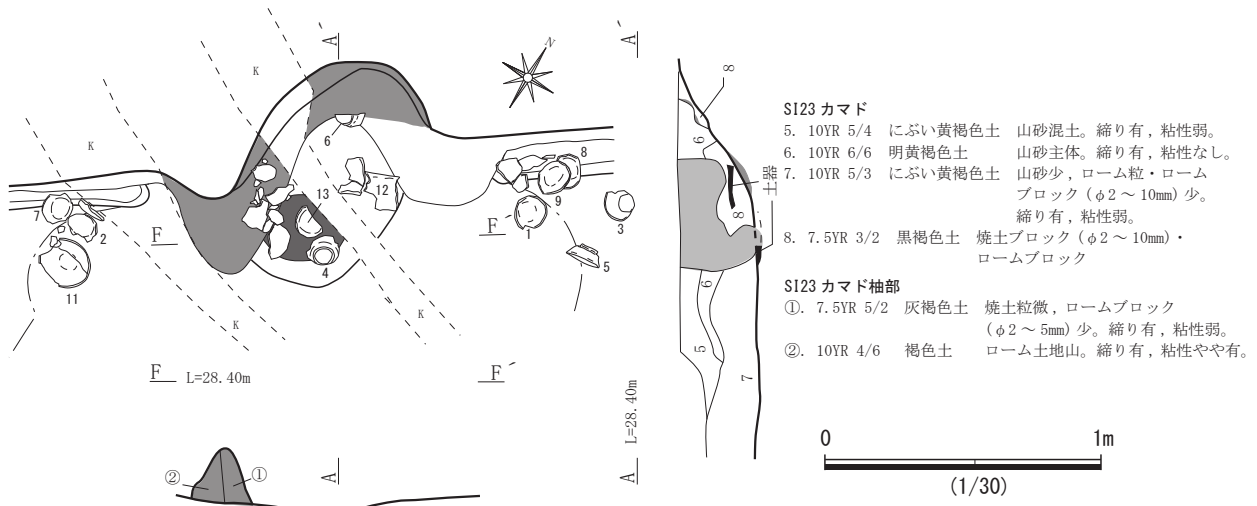
SI23（第 56・57 図，第 26 表，写真図版 9・32・33）

検出位置は B 区南西側 P 17 グリッドである。攪乱は北西隅部分以外で耕作によるトレンチャーが床面まで達していた。平面形は正方形であるがわずかに歪む。主軸方向は N-34°-W を示し、規模は東西軸が 4.29 m, 南北軸が 4.26 m, 深さは 22～30 cm で壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はロームブロックを含む褐色土で貼り床が施され、わずかに起伏があるもののほぼ平坦で、東・西壁際以外の全体に顕著な硬化面が認められる。壁溝は幅 8～16 cm, 深さ 5～8 cm でカマド部分を除きほぼ全周するが、西壁南側では確認できなかった。ピットは 4 基検出され、いずれも支柱穴である。P 1 が径 42 cm, 深さ 61 cm, P 2 が径 40 cm, 深さ 70 cm, P 3 が径 36 cm, 深さ 69 cm, P 4 が径 36 cm, 深さ 65 cm である。P 1 に接続して径 60 cm, 深さ 25 cm の掘り込みが検



- SI23**
1. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒多(20%), ロームブロック(φ5～15mm)中。締り有, 粘性弱。
 2. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒中, ロームブロック(φ2～7mm)少。締り有, 粘性弱。
 3. 10YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック(φ2～7mm)微。締り有, 粘性弱。
 4. 10YR 4/6 褐色土 ロームブロック(φ10～30mm)多(40%)。締り強, 粘性やや有。

第 56 図 SI23(1)



第57図 S123(2)・同出土遺物

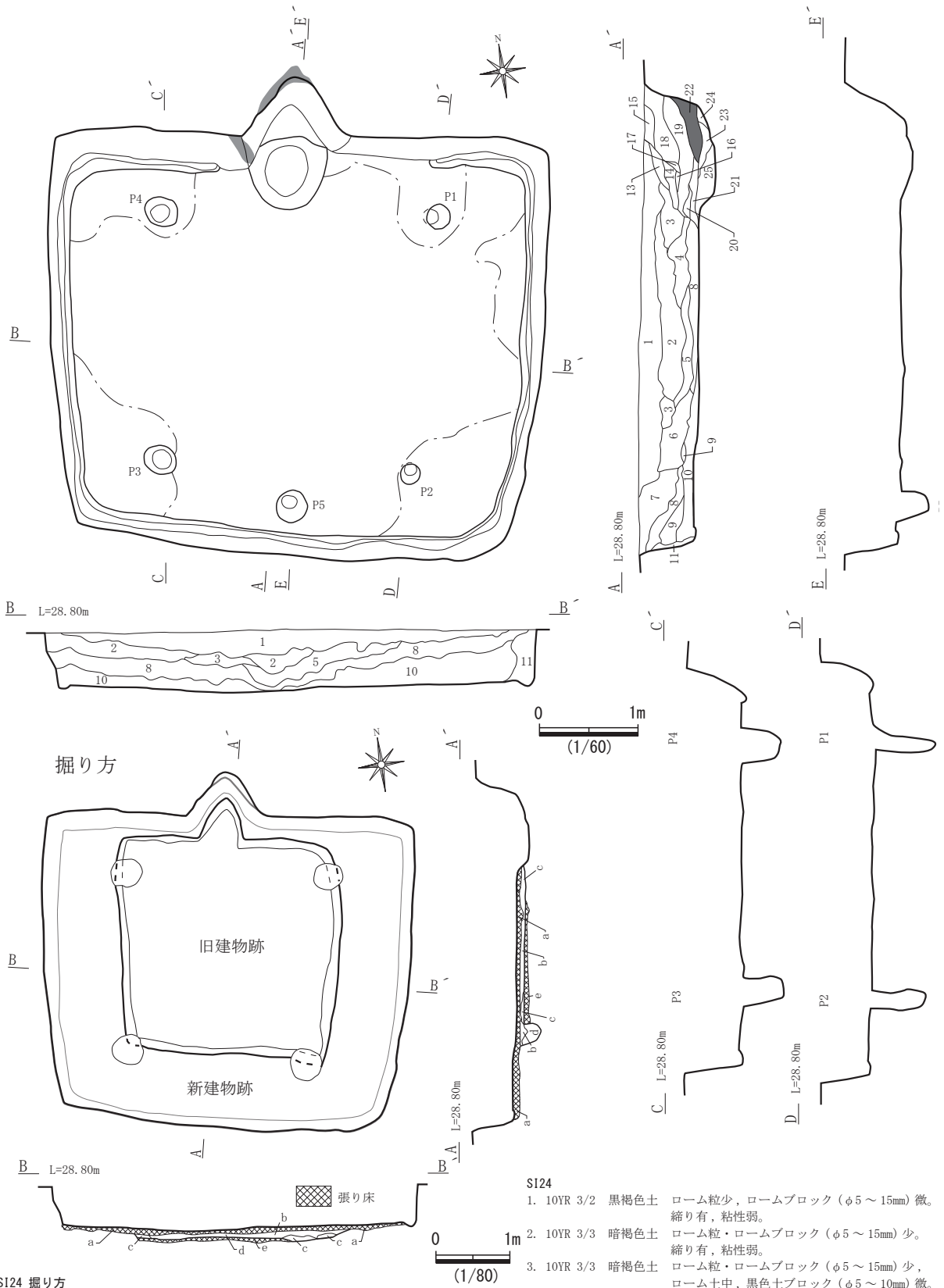
出されたが、用途は不明である。また、出入り口施設に伴うピットは検出されず、攪乱で壊された可能性がある。掘り方は、全体に浅い掘り込みである。カマドは北壁の中央やや西寄りに付設されている。煙道部から右袖にかけては攪乱が入りカマド東側は掘り方まで影響を受けていた。構築材は粘土と山砂の混和土で粘土の割合が高い。燃焼部は4 cm程掘り窪められ、火床部は焼土ブロックを主体としている。煙道部は屋外へ50 cm掘り込まれ、全長は90 cm、燃焼部長60 cm、左袖の残部長30 cmである。袖部分は構築時に地山を掘り残し、構築材を貼り付けたようである。

遺物は、土師器85点（坏1、甕84）、須恵器57点（坏23、高台付坏9、盤8、蓋10、甕6、高坏1）が出土した。供膳具はほぼ木葉下窯産とみられる胎土の須恵器で占められ、有台器種が目立つ。供膳具がカマドを挟んで北壁際で出土しているのに対し、煮炊具はカマド燃焼部内からの出土であった。須恵器坏類には「大」とみられる線刻が複数認められる。時期は、出土遺物の様相から8世紀第4四半期～9世紀第1四半期と考えられる。

SI24（第58・59図、第26表、写真図版9・33）

検出位置はB区西側N16グリッドである。平面形は方形であるが北壁側がわずかに広い。主軸方向はN-10°-Eを示し、規模は東西軸の南側が4.56 m、北側が5.05 m、南北軸が4.30 m、深さは54 cmで壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土で貼り床が施される。四隅以外のほぼ全体に硬化面が認められ、特に中央部は顕著である。壁溝は幅6～12 cm、深さ2～4 cmでカマド部分を除き全周する。ピットは5基検出される。P1～4は支柱穴で、P1が径25 cm、深さ59 cm、P2が径21 cm、深さ53 cm、P3が径33 cm、深さ45 cm、P4が径33 cm、深さ38 cmである。P5は南壁際にあり出入り口施設に伴うピットと考えられ、規模は径32 cm、深さ33 cmである。掘り方は全体に4～5 cm程度平坦に掘り下げられているが、特に深い部分はなく、掘り下げた部分全体に厚目の貼り床が施されている。カマドは北壁の中央に付設されている。燃焼部は円形状に掘り窪められ、深さは4～17 cmで煙道部に向かってスロープ状に落ち込んでいる。煙道部側で焼土が堆積しているものの、火床部は赤変硬化が認められなかった。カマドに使用されたとみられる構築材はほとんど遺存していなかったが、カマドの内部に山砂の崩落層があることから、この明黄褐色の山砂を用いた可能性と思われる。一方、煙道部は屋外へ60 cm掘り込まれているが、上部に約10 cmの灰褐色粘土が貼り付けられ、カマド左袖部にも同様のものを貼り付けた痕跡が認められる。全長は134 cm、燃焼部長75 cm、袖は残存していなかった。床を除去したところ、本建物跡以前に構築されたとみられる竪穴建物跡が残存していた。重複も考えられたが、主軸方向が一致していること、カマドは従来使用していたものを継続して使用していること、旧建物跡の壁際に支柱穴を配置していることなど計画性がうかがえ、拡張していると判断された。旧建物跡の規模は東西軸が3.03 m、南北軸が2.96 mの正方形で、新建物跡の床上面から12～18 cm下で旧建物跡の床面が検出されており、ロームブロックを主体にしていることからほぼ直床に近く全体に硬化面が認められた。柱穴・壁溝は確認されなかった。旧建物跡の掘り方は、ほぼ均一に掘り下げられた後に3～5 cmの貼り床が施されていた。

遺物は、土師器22点（甕22）、須恵器4点（坏3、高台付坏1）、石製品2点（砥石2）が出土した。覆土中からは縄文土器102点が出土している。本建物跡の時期の遺物は、供膳具では木葉下窯産とみられる胎土の須恵器が主体であるが、2の須恵器坏底部片は丸底で新治窯産と判断される。3の高台付坏は精良な胎土である。時期は、須恵器の形態から8世紀第1四半期～第2四半期と考えられる。



S124 掘り方

- a. 10YR 5/4 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ20~50mm) 密。締り強, 粘性有。
張り床上部硬化面部分。
- b. 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ10~50mm) 密。締り強, 粘性有。
- c. 10YR 3/1 黒褐色土 ロームブロック (φ2~5mm) 多 (10%)。締り有, 粘性やや有。
- d. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ5~30mm) 多 (50%)。
締り有, 粘性やや有。
- e. 10YR 5/6 黄褐色土 ロームブロック主体。締り強, 粘性有。張り床上部硬化面部分。

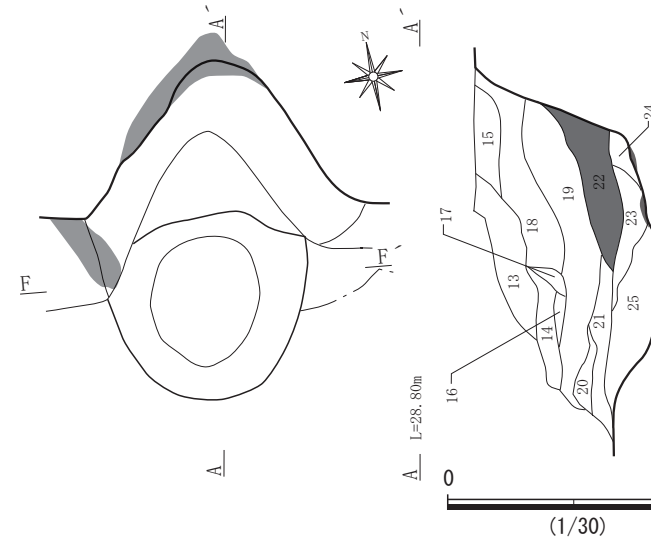
S124

- 1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒少, ロームブロック (φ5~15mm) 微。
締り有, 粘性弱。
- 2. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ5~15mm) 少。
締り有, 粘性弱。
- 3. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ5~15mm) 少,
ローム土中, 黒色土ブロック (φ5~10mm) 微。
締り有, 粘性弱。
- 4. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒微, ロームブロック (φ2~7mm)
少。締り有, 粘性弱。
- 5. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒多, ロームブロック (φ2~10mm) 中。
締り有, 粘性弱。
- 6. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒少, ロームブロック (φ2~10mm) 微。
締り有, 粘性弱。

第 58 図 S124(1)

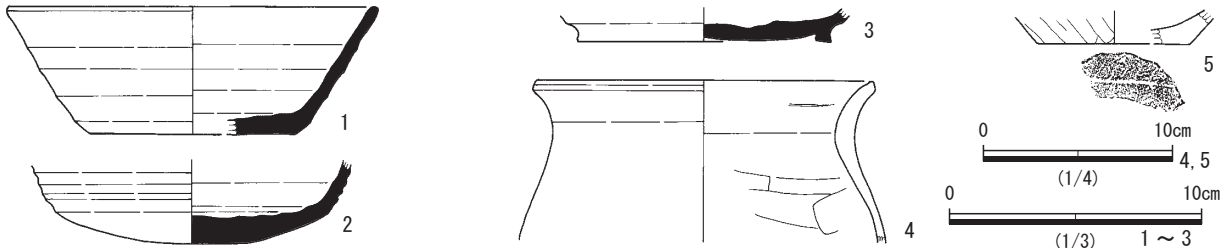
SI24

- 7. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ5~15mm) 多 (10%)。縮り有, 粘性弱。
- 8. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒少, ロームブロック (φ2~15mm) 少, 黒色土を斑状に多 (20%)。縮り有, 粘性やや有。
- 9. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒少, ロームブロック (φ5~15mm)・焼土ブロック (φ2~5mm) 微。縮りやや弱, 粘性やや有。
- 10. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ5~25mm) 少。縮り有, 粘性やや有。
- 11. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ5~15mm) 少。縮り有, 粘性弱。



SI24 カマド

- 13. 10YR 3/2 黒褐色土 山砂ブロック (φ2~5mm) 微。縮り有, 粘性弱。
- 14. 10YR 3/1 黒褐色土 山砂粒・山砂ブロック (φ2~5mm)・黒色土ブロック (φ2~5mm) 少。縮り有, 粘性弱。
- 15. 10YR 5/2 灰黄褐色土 山砂混土。黒色土ブロック (φ2~7mm) 少。縮り有, 粘性弱。
- 16. 10YR 6/6 明黄褐色土 山砂主体, 焼土ブロック (φ2~3mm) 微。縮り有, 粘性弱。
- 17. 10YR 3/1 黒褐色土 山砂粒・黒色粒少, 焼土粒微。縮り有, 粘性弱。
- 18. 7.5YR 5/2 灰褐色土 山砂混土。焼土ブロック (φ2~3mm) 少。縮り有, 粘性弱。
- 19. 5YR 5/2 灰褐色土 山砂ブロック (φ2~5mm) 微, 焼土ブロック (φ2~5mm) 少。縮り有, 粘性弱。
- 20. 7.5YR 3/3 暗褐色土 ローム粒微。縮り有, 粘性弱。
- 21. 5YR 4/2 灰褐色土 ロームブロック (φ2~5mm)・焼土ブロック (φ2~3mm) 少, (φ10~15mm) 微。縮り有, 粘性弱。
- 22. 2.5YR 4/6 赤褐色土 焼土粒中, 炭化物粒少。縮り有, 粘性なし。
- 23. 5YR 4/2 灰褐色土 焼土粒中, 焼土ブロック (φ2~3mm) 少。縮り有, 粘性やや有。
- 24. 7.5YR 3/2 黒褐色土 ローム粒少, 焼土粒微。縮り有, 粘性やや有。
- 25. 7.5YR 4/2 灰褐色土 ロームブロック (φ5~15mm) 少, 焼土ブロック (φ2~10mm) 中。縮り有, 粘性やや有。

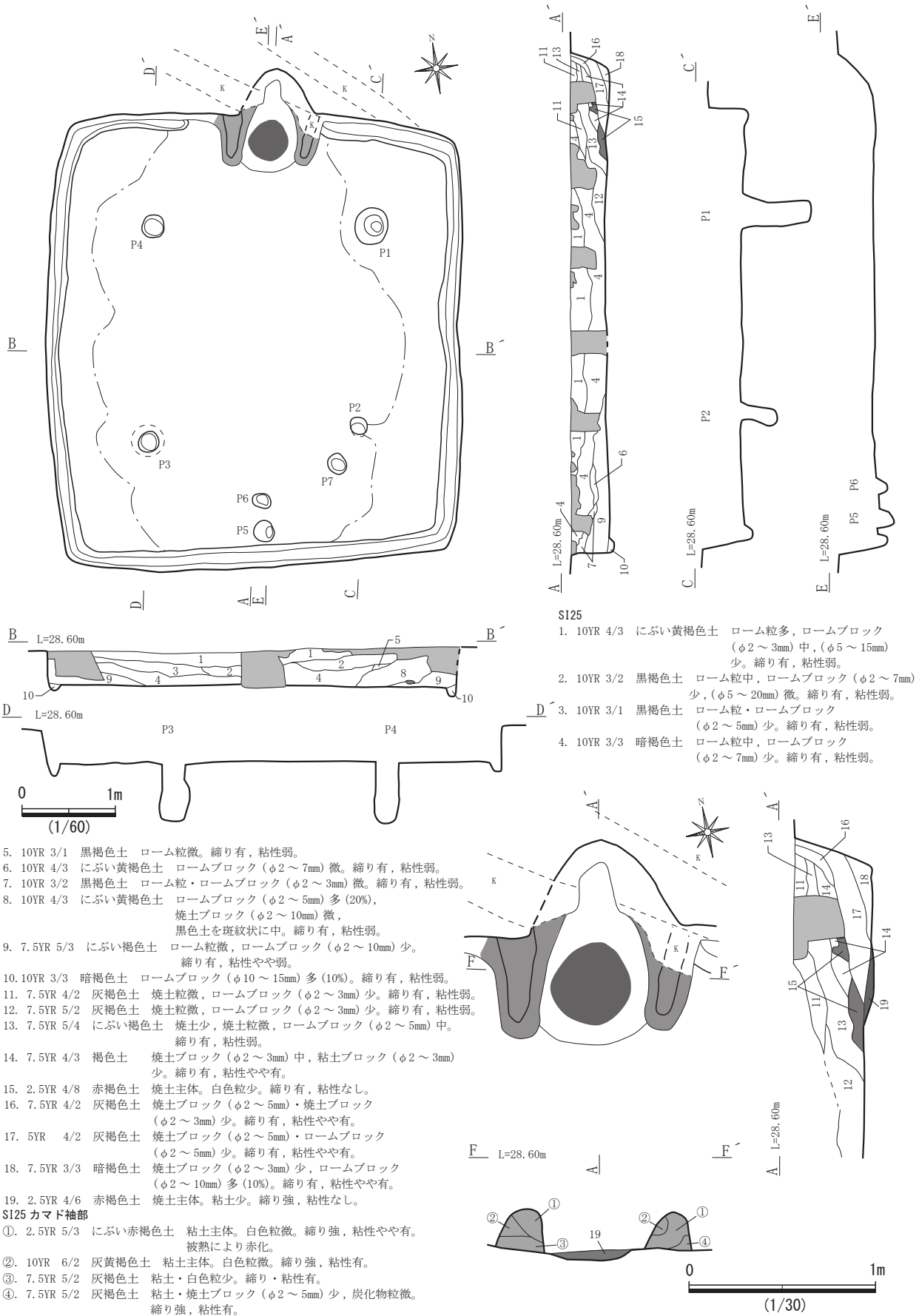


第59図 SI24(2)・同出土遺物

SI25 (第60・61図, 第26表, 写真図版9・33)

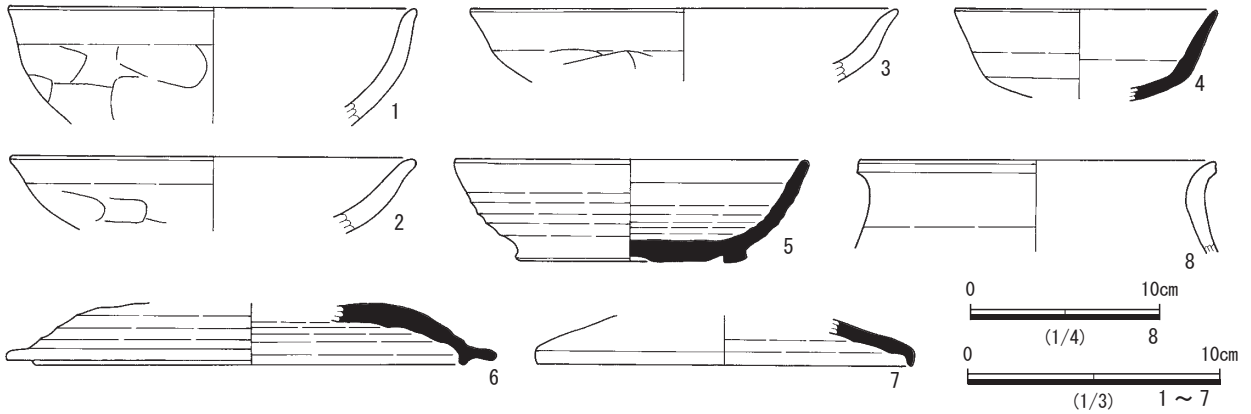
検出位置はB区西側L 16・17, M 16・17グリッドである。ほぼ全体に耕作によるトレンチャーの攪乱を受けるが, 床面までは達していない。平面形は方形であるが, 東壁側がわずかに広くやや膨らみ, 歪みが目立つ。主軸方向はN-10°-Eを示す。規模は東西軸が4.42m, 南北軸の東側が4.53m, 北側が4.88m, 深さは35~45cmで壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床が施され, 東西壁際以外ほぼ全体に硬化面が認められる。壁溝は幅7~18cm, 深さ4~11cmでカマド部分を除き全周する。ピットは7基検出される。P1~4は支柱穴で, P1が径36cm, 深さ75cm, P2が径18cm, 深さ40cm, P3が径23cm, 深さ61cm, P4が23cm, 深さ64cmである。P5・6は南壁際にあつて南北に並列し, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。規模はP5が径22cm, 深さ10cm, P6が径20cm, 深さ10cmである。P7はP2南西側にあり, 径21cm, 深さ22cmで補助柱穴と思われる。掘り方は, 中央を高くし壁際を深く掘り込んでいるが, 深さはない。カマドは北壁の中央に付設されている。構築材は灰褐色粘土を用いている。燃烧部は5cm程掘り窪められ, 火床部は焼土が堆積し, 燃烧部内部はかなり被熱している。煙道部は屋外へ49cm掘り込まれ, 全長は110cm, 燃烧部幅56cm, 袖残存長は左右袖ともに53cmである。

遺物は, 土師器75点(坏7, 甕68), 須恵器15点(坏5, 高台付坏1, 蓋9), 鉄滓1点が出土した。供膳具の出土量は須恵器の割合が多い。土師器坏は, ほとんどが非ロクロ成形の小破片である。須恵器では木葉下窯産とみられる胎土とはやや異なったものが目立つ。4の須恵器坏, 6のかえりを持つ



第 60 図 SI25

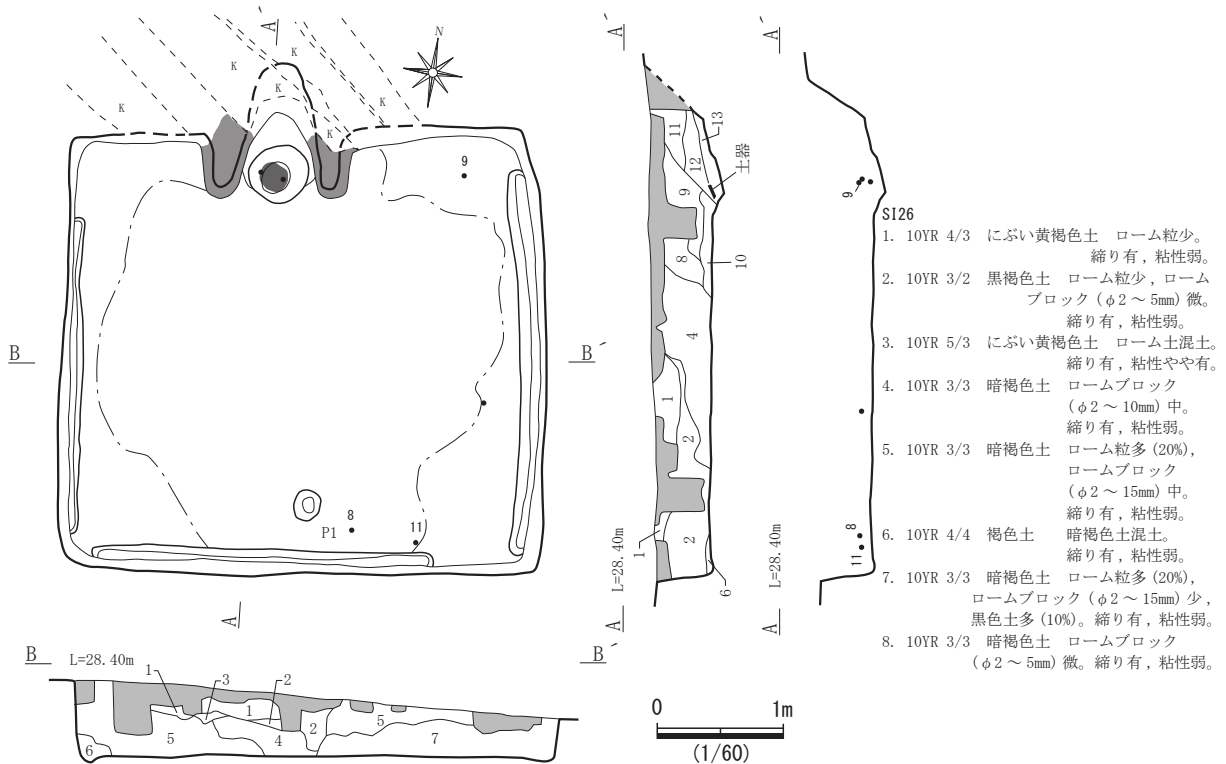
須恵器蓋は新治窯産の製品である。5の高台付坏も精良な胎土で、湖西窯など東海系の搬入品である可能性が高い。時期は、8世紀第1四半期と考えられる。



第61図 S125出土遺物

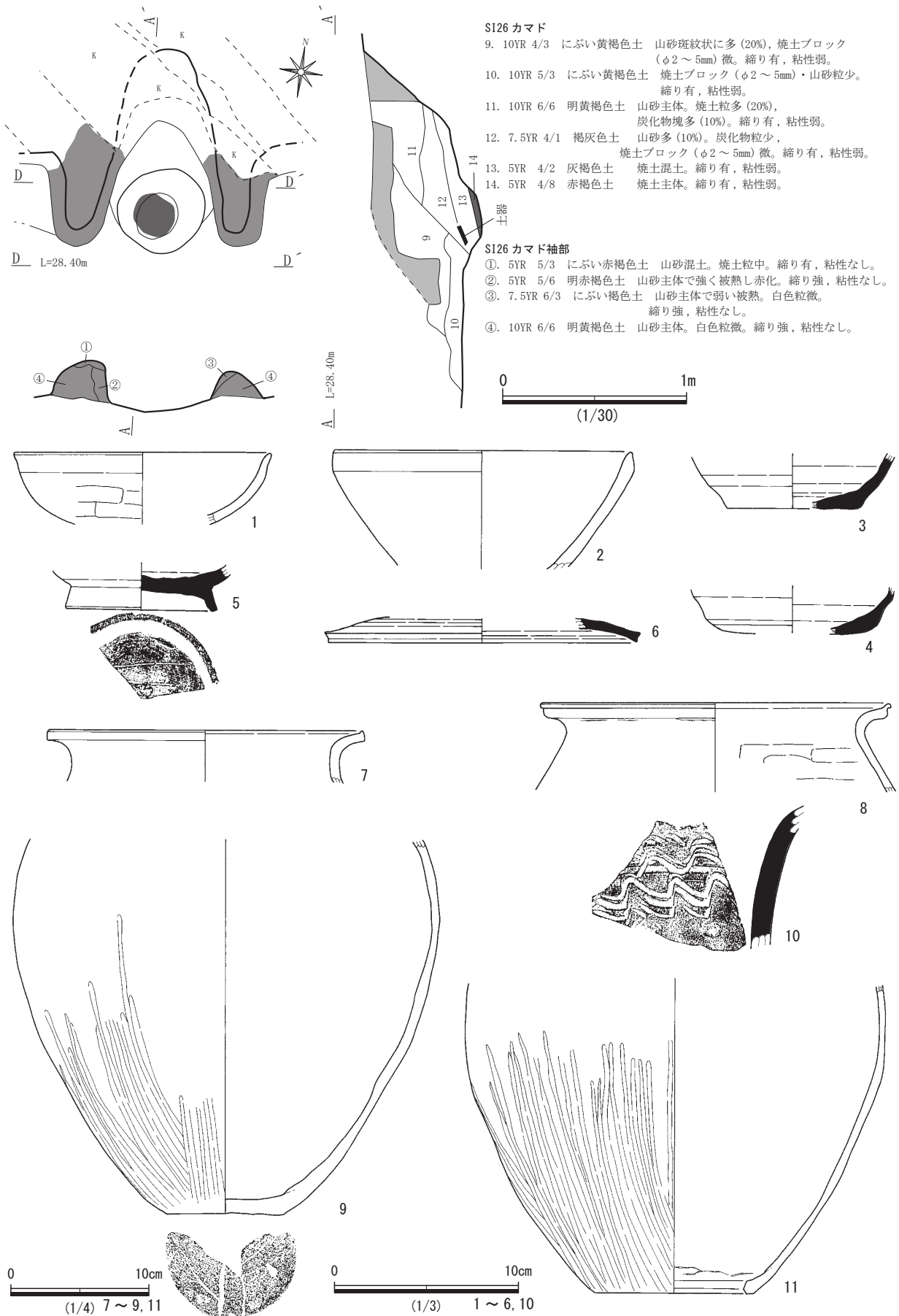
S I 2 6 (第62・63図, 第26表, 写真図版9・33)

検出位置はB区西側N 18, O 18 グリッドである。鹿沼軽石層（基本土層 15）を掘り込み構築されている。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱を受けるが、床面までは達していない。南東側が埋没谷斜面地にかかる。平面形は方形で、主軸方向はN-11°-Wを示す。規模は東西軸が3.86m, 南北軸が3.52m, 深さは32~58cmで壁は垂直に立ち上がる。覆土は、ブロック状の含有物や混土層が目立つことから人為的堆積の可能性が高い。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床が施され、四隅以外ほぼ全体に硬化面が認められる。壁溝は幅6~18cm, 深さ2cm程で、北壁側では確認できなかった。ピットは南壁際にP1があり、出入口施設に伴うピットと考えられる。規模は径24cm, 深さ34cmである。掘り方は、全体に浅く掘り込まれ、特に深い部分はない。カマドは北



第62図 S126(1)

第3章 調査の成果



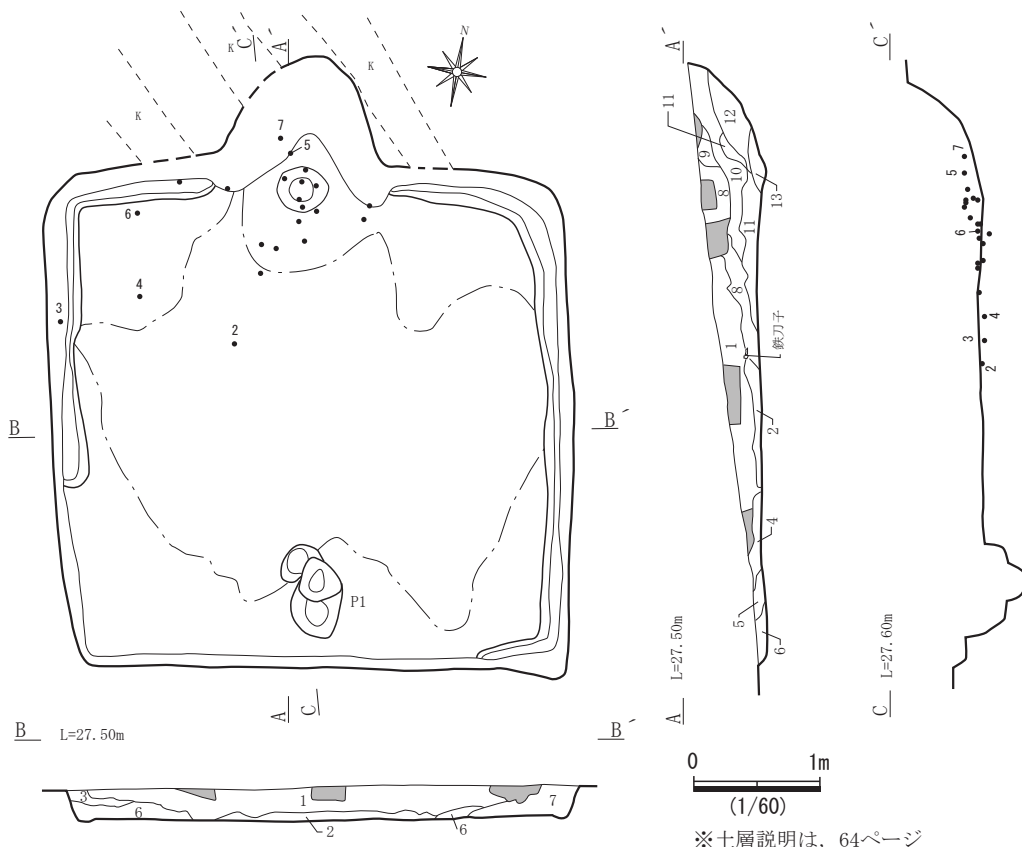
第63図 S126(2)・同出土遺物

壁の中央やや西寄りに付設され、上部の攪乱が著しい。構築材は明黄褐色山砂を主体に用い袖部を構築している。燃烧部は6 cm程掘り窪められるが、火床部は赤変硬化していない。煙道部は屋外へ54 cm掘り込まれ、全長は112 cm、燃烧部幅60 cm、袖残存長は左右袖ともに51 cmである。

遺物は、土師器101点（坏2，甕98，甑1），須恵器36点（坏17，高台付坏4，盖2，壺・瓶類1，甕12）が出土した。供膳具はほぼ須恵器で占められるが、その中には木葉下窯産とみられる胎土の製品以外の破片が少量認められる。土師器坏は1・2のみが出土し、いずれも非ロクロ成形の坏である。須恵器坏類は4が回転ヘラケズリ調整である。3・5は新しい様相の形態であるが、出土遺物の中では客体的で混入した可能性が高い。時期は、新旧遺物が混在する中で、カマド内から出土した1・2の土師器坏を重視し、8世紀第1四半期と考えられる。

SI27（第64・65図，第26・27・29表，写真図版10・34）

検出位置はB区中央部南寄りのN19・20，O19・20グリッドで南側が埋没谷斜面地になる。南東隅でSI28と重複し、本跡が新しい。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱を受けるが、床面までは達していない。平面形は方形で、主軸方向はN-12°-Wを示す。規模は東西軸が4.12 m、南北軸が4.00 m、深さは8～42 cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床を施し、四隅以外全体に硬化面が認められる。壁溝は幅11～20 cm、深さ3～7 cmで、南壁から西壁南側では確認できなかった。ピットは南壁際にP1があり、出入口施設に伴うピットと考えられる。据え替えがあった可能性があり、複数のピットが南北に重なるような形状を呈し、中央部が最も深い。規模は70×42 cm、深さ31 cmである。掘り方は、中央部を掘り込み、さらに南東側を深く掘り下げている。カマドは北壁の中央に付設されるが、袖部など残

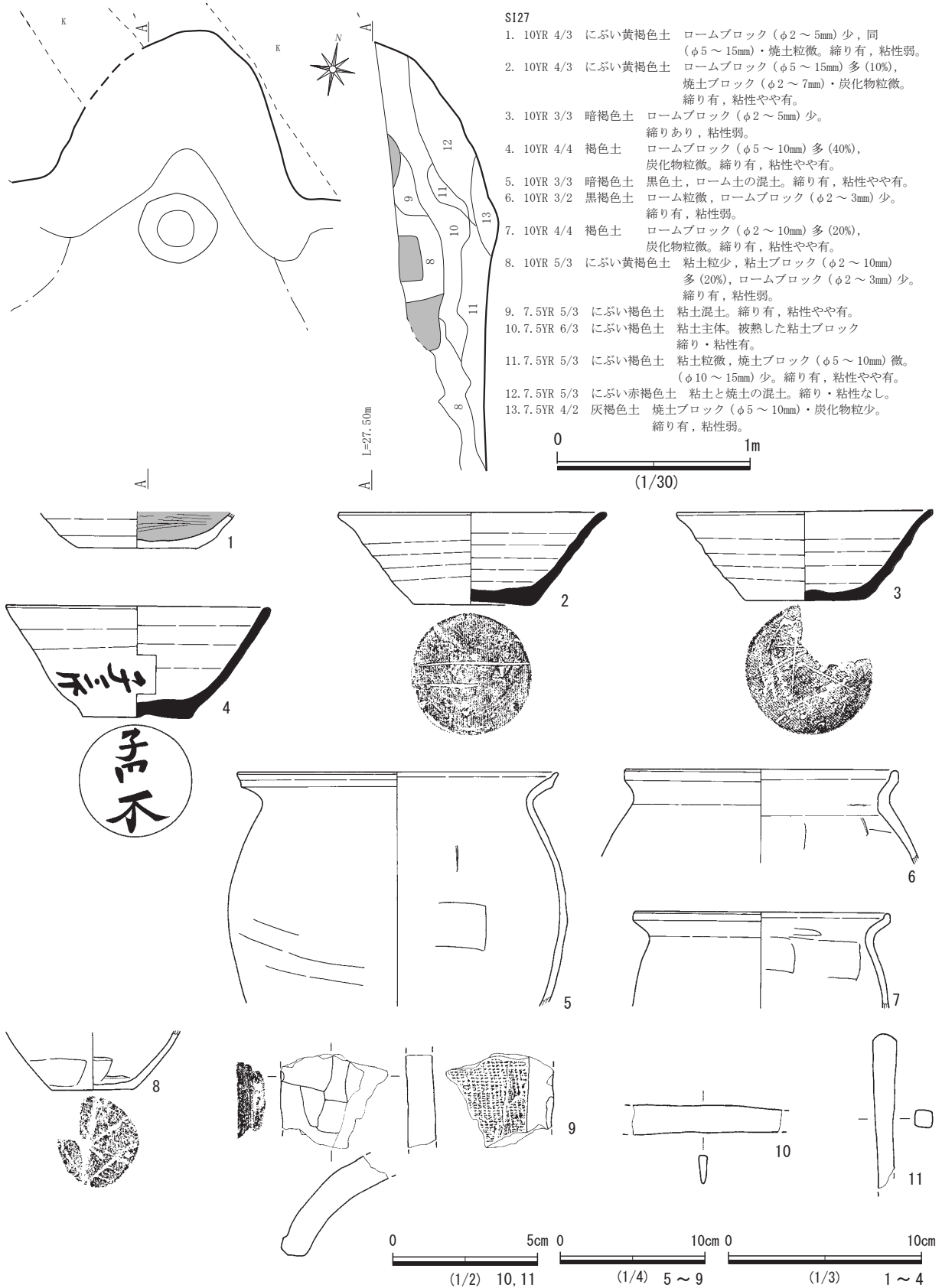


第64図 SI27(1)

※土層説明は、64ページ

第3章 調査の成果

存せず、ほぼ掘り方の状態での検出である。燃焼部は13 cm程掘り窪められ使用されたようであるが、火床面は赤変硬化していない。煙道部は屋外へ83 cm掘り込まれている。全長は120 cmで、焚出口で



第65図 S127(2)・同出土遺物

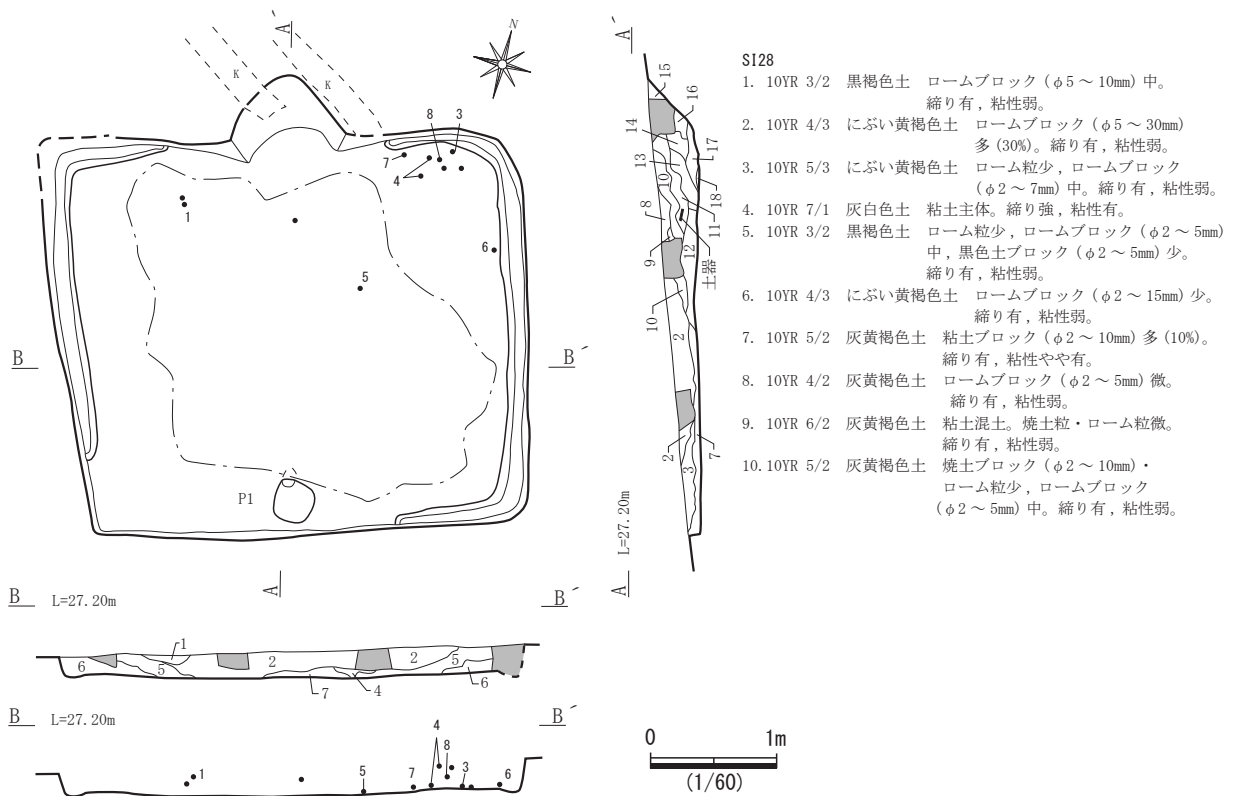
は炭化したシミ状の範囲が広がっていた。

遺物は、土師器 169 点（坏 7，甕 162），須恵器 55 点（坏 33，高台付坏 4，蓋 1，壺・瓶類 1，甕 14，甗 2），瓦 1 点（平瓦 1），鉄製品 2（刀子 1，釘 1）が出土した。供膳具は木葉下窯産とみられる胎土の須恵器が主体となり，カマド全面で散在した出土状態である。煮炊具では土師器甕の出土量が多く，カマド燃焼部からの出土が目立つ。時期は，9 世紀第 2 四半期～第 3 四半期と考えられる。

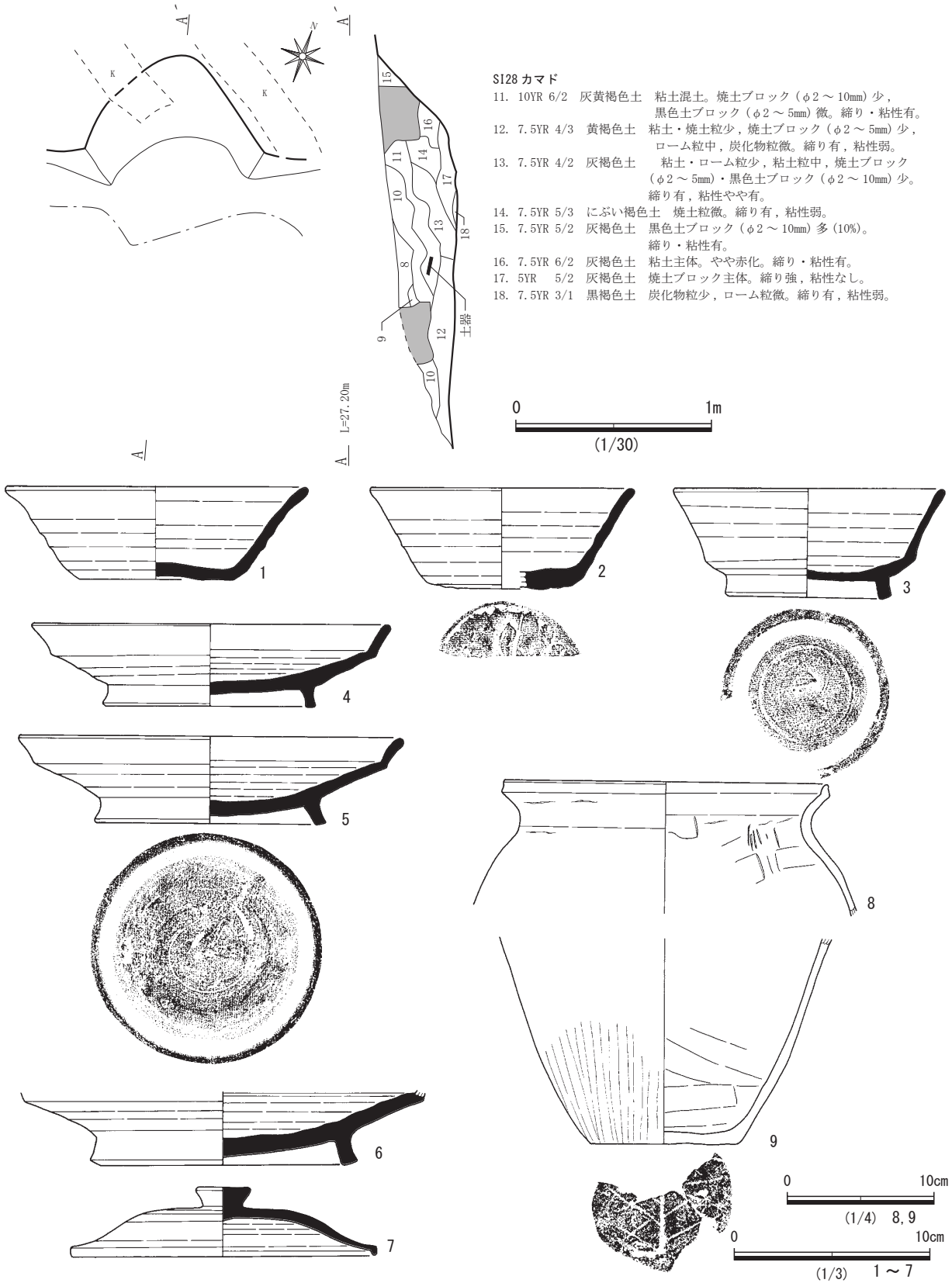
SI 28（第 66・67 図，第 26 表，写真図版 10・34）

検出位置は B 区中央部南寄りの O 20 グリッドで南側が埋没谷斜面地になる。南東隅で SI27 と重複し，本跡が古い。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱を受けるが，床面までは達していない。平面形は方形で，主軸方向は N - 18° - W を示す。規模は東西軸が 3.75 m，南北軸が 3.17 m，深さは 10～35 cm で壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床を施し，中央部から南東隅にかけて顕著な硬化面が認められる。壁溝は幅 8～18 cm，深さ 3 cm で南東隅を除きほぼ全周する。南壁中央から南西隅では確認できなかった。ピットは南壁際に P 1 があり，出入口施設に伴うピットと考えられる。規模は径 34 cm，深さ 28 cm である。掘り方は，中央部を円形状に掘り込んでいる。カマドは北壁の中央に付設されるが，袖部や燃焼部などは残存せず，ほぼ掘り方の状態での検出である。煙道部は屋外へ 52 cm 掘り込まれている。

遺物は，土師器 77 点（坏 3，甕 74），須恵器 35 点（坏 20，高台付坏 1，盤 3，蓋 5，甕 6），土製品 1 点（支脚 1），鉄製品 1 点（釘カ 1）が出土した。出土状態を見ると，東壁際でややまとまっている。供膳具は木葉下窯産とみられる胎土の須恵器が主体である。土師器は煮炊具が中心で，土師器甕は胴部下半に密なミガキを施した常総型が目立つ。時期は，8 世紀第 4 四半期～9 世紀第 1 四半期と考えられる。



第 66 図 SI28(1)

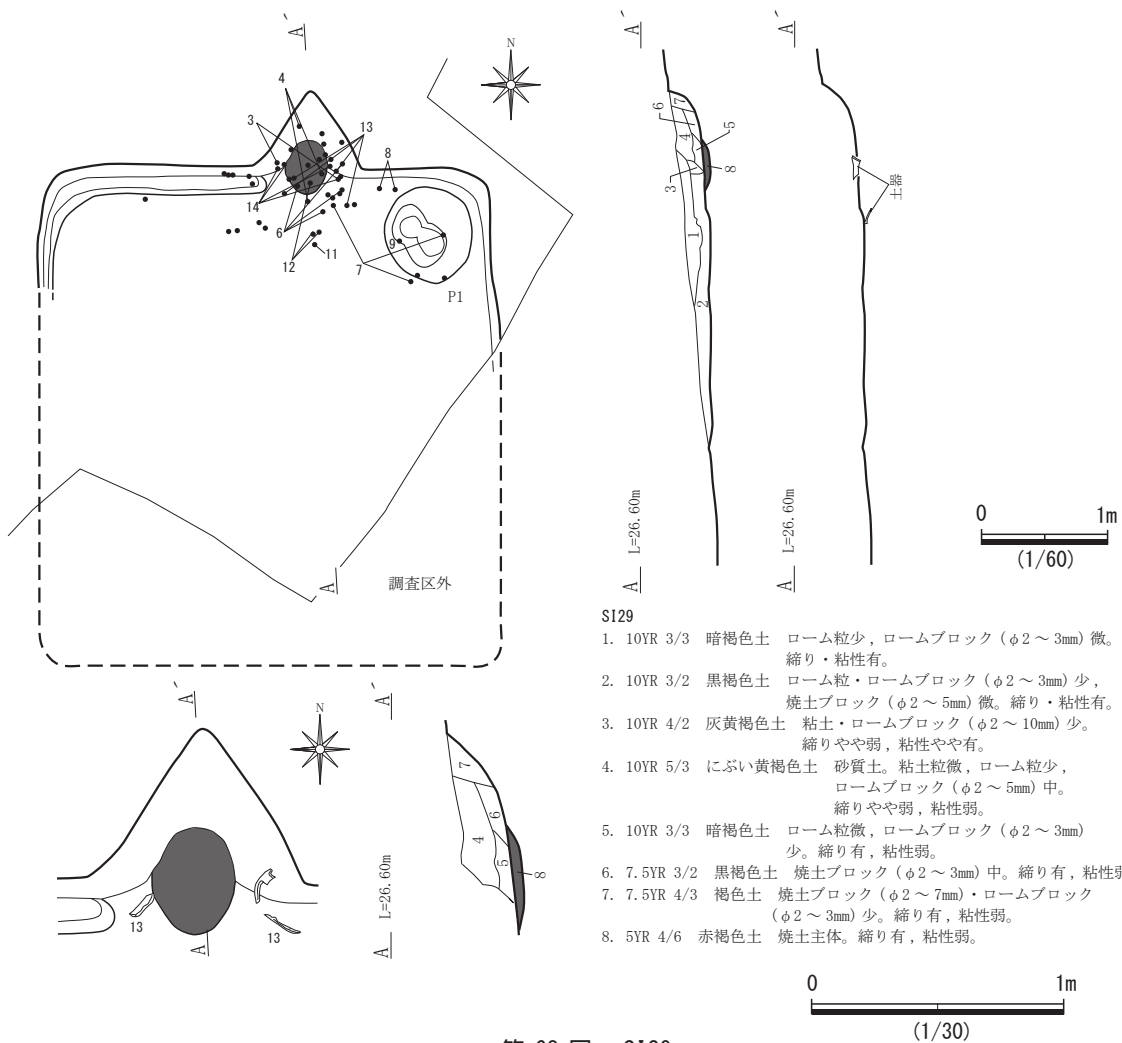


S I 2 9 (第 68・69 図, 第 26 表, 写真図版 10・34・35)

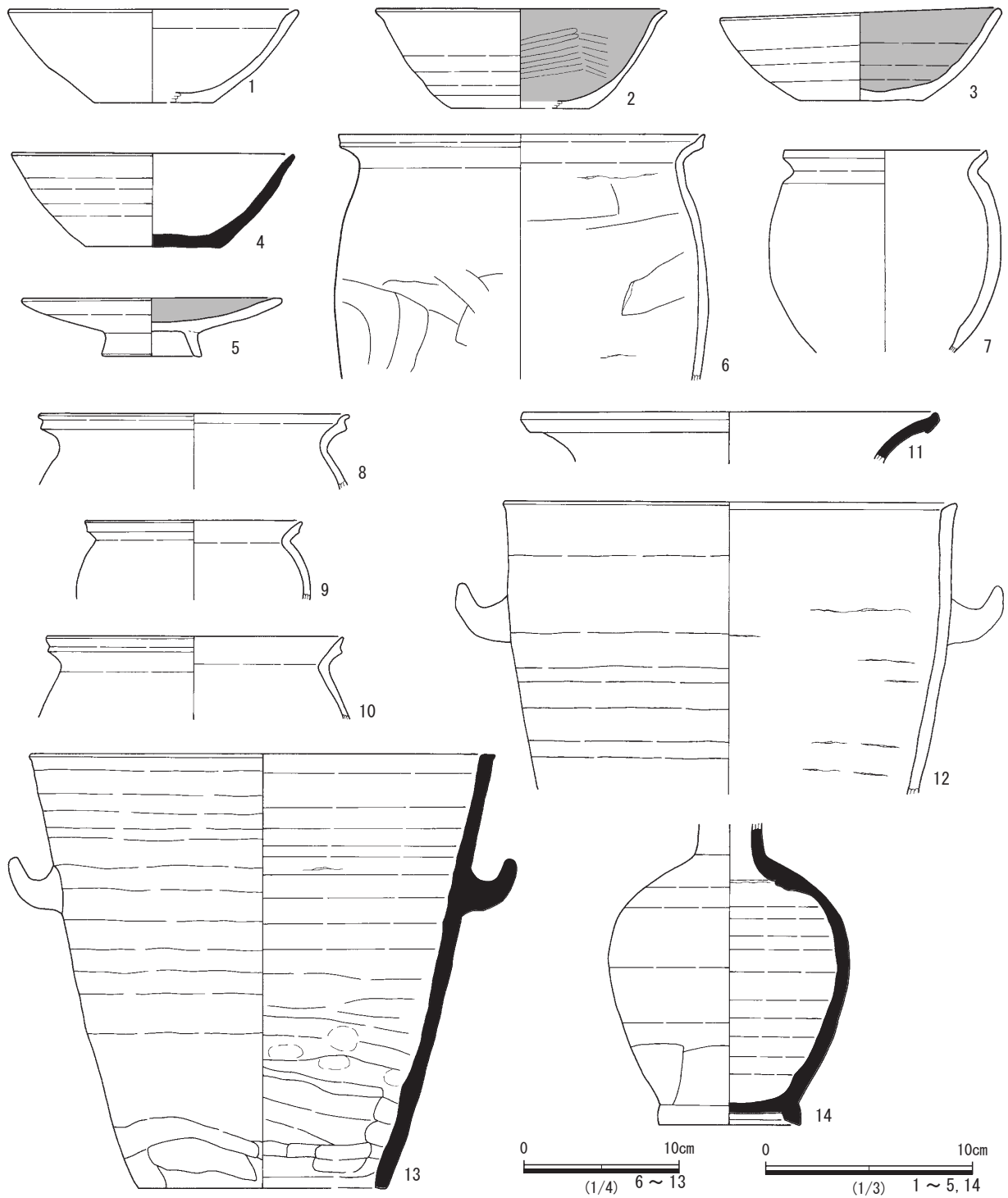
検出位置はB区東端のO 22・P 22 グリッドである。南東側が調査区外で拡張している。南側で耕

作によるトレンチャーの攪乱が床面まで達している。また南側が埋没谷斜面地になり、壁・床ともに検出されなかった。平面形は遺存する部分から方形であったと考えられ、主軸方向はN-0°を示す。規模は東西軸が3.68m、壁高は最大で28cmで壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はロームブロックを含む褐色土・にぶい黄褐色土の貼り床を施し、顕著な硬化面は認められなかった。壁溝は幅8～14cm、深さ6cm程で、北壁西側から北西隅で検出される。ピットとして5基を確認したがいずれも掘り方に伴う落ち込みと思われる。P1は遺物が含まれていることから貯蔵穴の可能性はある。掘り方は、灰白色粘土層を掘り込み、起伏が著しい。カマドは北壁の中央の東寄りに付設される。燃焼部内に土器破片が散在し、明瞭な構築材は確認できなかった。燃焼部は10cm程掘り窪められ、使用の痕跡として焼土ブロックを含んだ赤褐色土が堆積する。煙道部は屋外へ60cm掘り込まれ、やや急な立ち上がりから緩やかな立ち上がりへと変化している。袖部は壁際に倒立させた土師器甕・甔を用いて構築していた。

遺物は、土師器166点(坏18, 皿10, 甕137, 甔1), 須恵器14点(坏4, 壺・瓶類3, 甕6, 甔1), 鉄滓1点が出土した。カマド周辺からまとまって出土している。供膳具は土師器が主体で、皿類の破片が目立つ。土師器坏では内面黒色処理されない破片が半分近くを占める。煮炊具は土師器甕が主体であるが小振りのものが中心である。須恵器甔13はカマドの左右袖部に補強材として用いられていた。時期は、9世紀第4四半期と考えられる。



第 68 図 S129

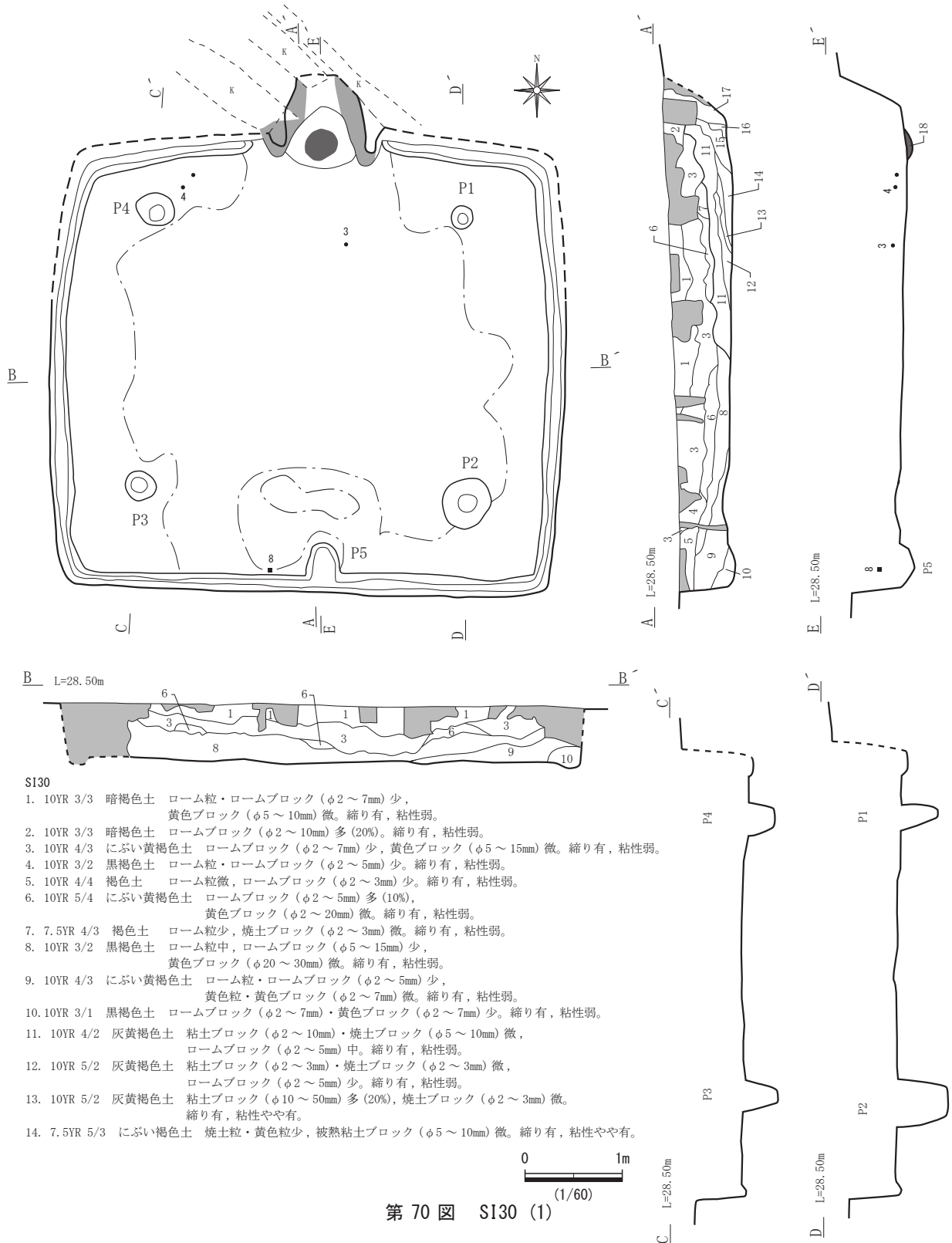


第69図 SI29 出土遺物

SI30 (第70・71図, 第26・30表, 写真図版10・35)

検出位置はB区西側のM18・19, N18・19グリッドである。鹿沼軽石層(基本土層⑮)を掘り込み構築されている。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱を受けるが、床面までは達していない。平面形は方形で、主軸方向はN-0°を示す。規模は東西軸が5.32m, 南北軸が4.82m, 深さは57cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はロームブロックを含む黒褐色土・にぶい黄褐色土の貼り床を施し、カマド前面から南壁際にかけての主柱穴間内で硬化する。特にP5周辺は若干隆起し、顕著な硬化面が認められた。壁溝は幅12~16cm, 深さ4~5cmでカマド

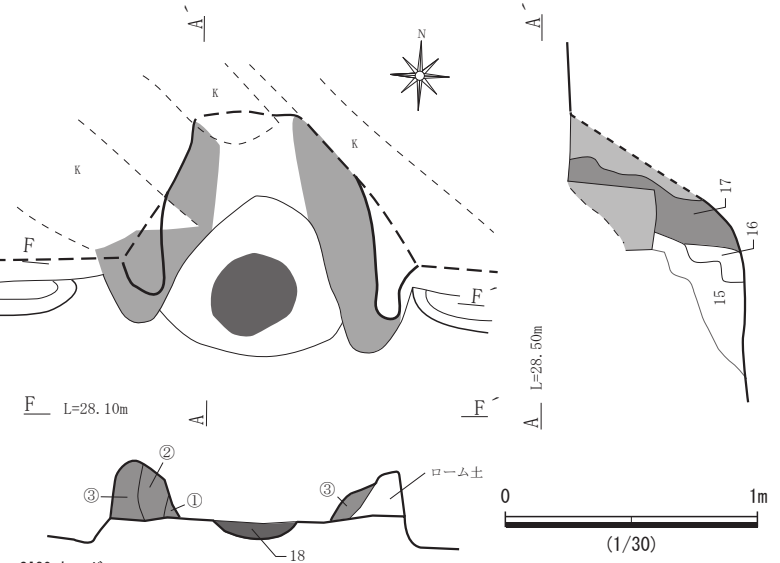
部分を除き全周する。ピットは5基検出されている。P1～4は支柱穴で、P1が径24cm、深さ38cm、P2が径50cm、深さ49cm、P3が径31cm、深さ37cm、P4が径33cm、深さ27cmである。P5は南壁際壁溝に接し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。規模は径35cm、深さ14cmである。掘り方は、全体に浅く掘り込まれ、カマド前面と各壁際がやや深めになっていた。カマドは北壁の中央東寄りに付設される。構築材は灰白色粘土を主体にしている。燃焼部は6cm程掘り窪められ、火床



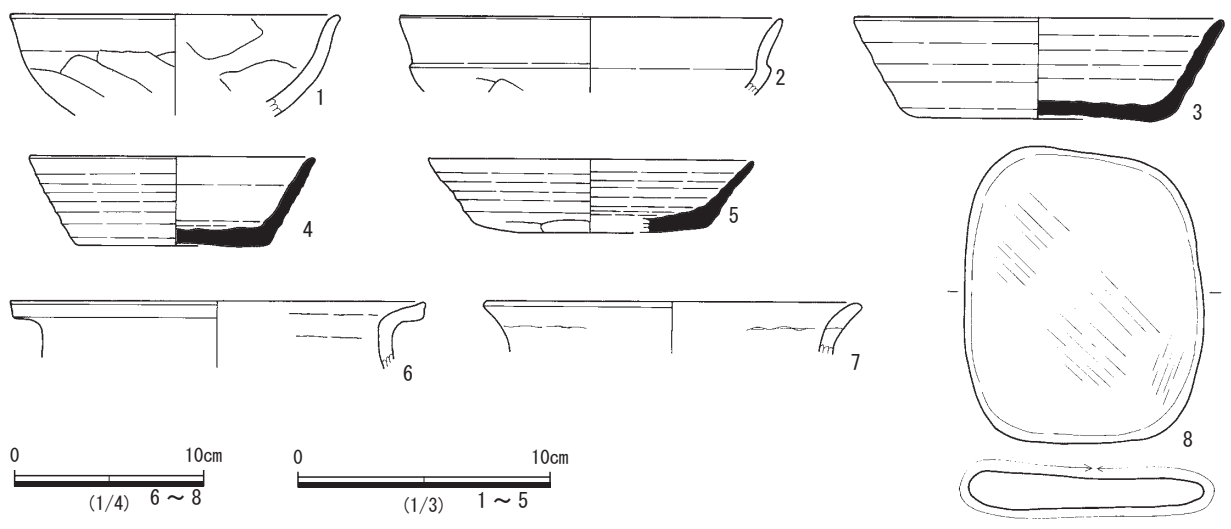
第3章 調査の成果

面はそのほぼ中央で赤変硬化している。燃烧部から煙道部は屋外へ67cm掘り込まれ、全長は97cm、燃烧部最大幅は37cm、袖残存長は左右袖ともに48cmである。

遺物は、土師器264点(坏12, 甕252), 須恵器52点(坏28, 高台付坏3, 蓋7, 甕14), 石製品1点(砥石1)が出土した。供膳具は木葉下窯産と見られる胎土の須恵器が主体で、須恵器坏の調整は回転ヘラケズリが主流である。一方、土師器坏は小破片が多いが、非ロクロ系のものが多い。時期は、8世紀第1四半期～第2四半期と考えられる。



- SI30 カマド
- 15. 7.5YR 4/2 灰褐色土 粘土粒少, 焼土ブロック(φ2~7mm)微, 白色粒少。締り有, 粘性弱。
 - 16. 7.5YR 5/2 灰褐色土 粘土粒・焼土粒微。締り有, 粘性やや有。
 - 17. 10YR 7/1 灰白色土 粘土主体。締り・粘性强。
 - 18. 2.5YR 4/3 にぶい赤褐色土 焼土主体。締り有・粘性なし。
- SI30 カマド袖部
- ①. 5YR 4/2 灰褐色土 焼土粒少。締り強, 粘性なし。
 - ②. 7.5YR 5/3 にぶい褐色土 焼土粒微。締り強, 粘性なし。
 - ③. 10YR 6/2 灰黄褐色土 白色粒少, 白色ブロック(φ2~5mm)微。締り強, 粘性なし。



第71図 SI30(2)・同出土遺物

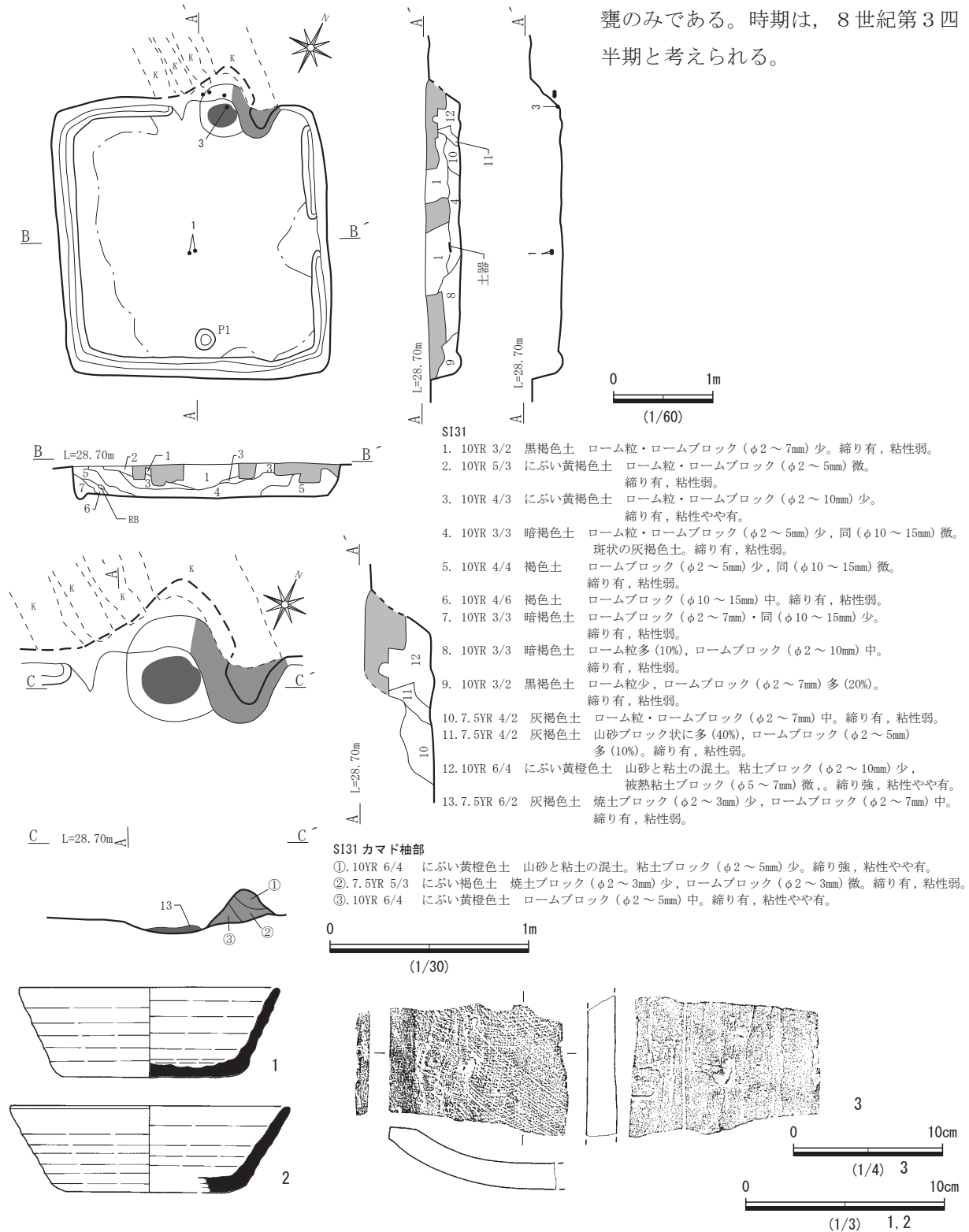
SI31 (第72図, 第26・27表, 写真図版10・36)

検出位置はB区西側のL18グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱を受けるが、床面までは達していない。平面形は正方形で、主軸方向はN-27°-Wを示す。規模は東西軸が2.69m、南北軸が2.70m、深さは28~33cmで壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はロームブロックを含む黄褐色土の貼り床が施され、ほぼ全体に顕著な硬化面が認められる。壁溝は幅10~14cm、深さ2~5cmで周回する。ピットは南壁際中央でP1が検出され、出入り口施設に伴うピットと考えられる。規模は径21cm、深さは3cmでかなり浅い。掘り方は、カマド前面と南側が深く掘り込まれている。カマドは北壁の中央やや東寄りに付設される。上部の攪乱が著しく、

左袖が消失している。構築材は粘土と山砂の混和土を用いている。燃焼部は8 cm程掘り窪められ、火床面はそのほぼ中央で赤変硬化している。煙道部も失われているが燃焼部から煙道部は屋外へ約40 cm掘り込まれ、右袖残存長は34 cmである。

遺物は、土師器17点（甕17）、須恵器7点（坏7）、瓦1点（平瓦1）、土製品1点（土玉1）が出土した。出土量は少ないが、供膳具は木葉下窯産とみられる胎土の須恵器が占め、煮炊具は土師器

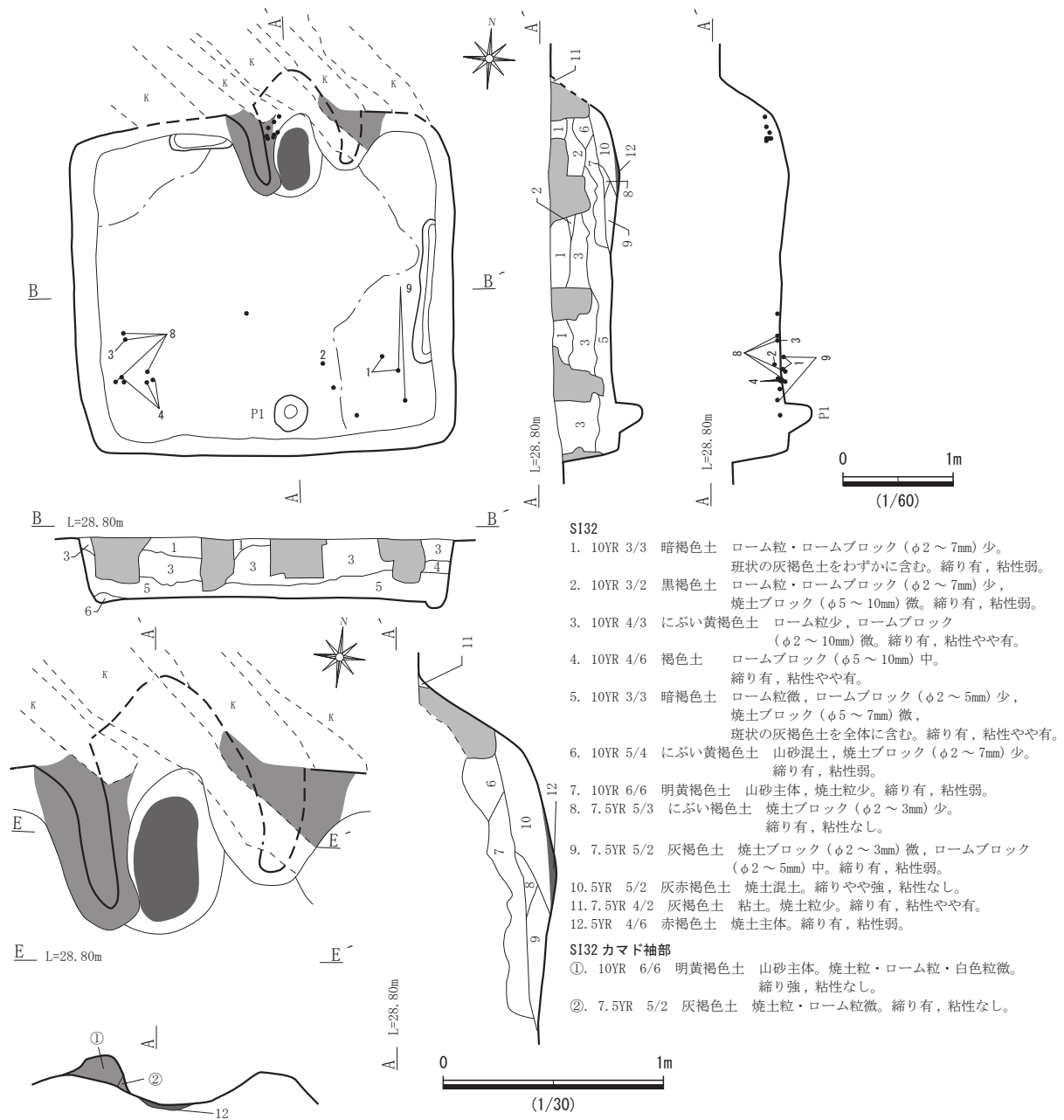
甕のみである。時期は、8世紀第3四半期と考えられる。



第72図 S131・同出土遺物

SI32 (第73・74図, 第26・29表, 写真図版10・36)

検出位置はB区西側のL19・M19グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱を受け
るが、床面までは達していない。平面形は方形で、主軸方向はN-7°-Wを示す。規模は東西軸が
3.44 m, 南北軸が3.10 m, 深さは50~58 cmで壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられ
る。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床が施され、南西隅・北西隅以外は全体に顕
著な硬化面が認められる。壁溝は幅12~14 cm, 深さ3~5 cmで東壁及び北壁の一部でのみ確認され
ている。ピットは南壁際中央でP1が検出され、出入り口施設に伴うピットと考えられる。規模は
径30 cm, 深さは26 cmである。掘り方は、建物南側が深く掘り込まれている。カマドは北壁の中央や
や東寄りに付設される。上部の攪乱が著しく、煙道部の大部分が消失している。構築材は粘土と山砂
の混和土を用いている。燃烧部は20 cm程掘り窪められ、火床面は54×28 cmの範囲で南北に長く赤変
硬化している。煙道部は屋外へ約42 cm掘り込まれ、全長は118 cm, 袖残存長は左袖72 cm, 右袖53



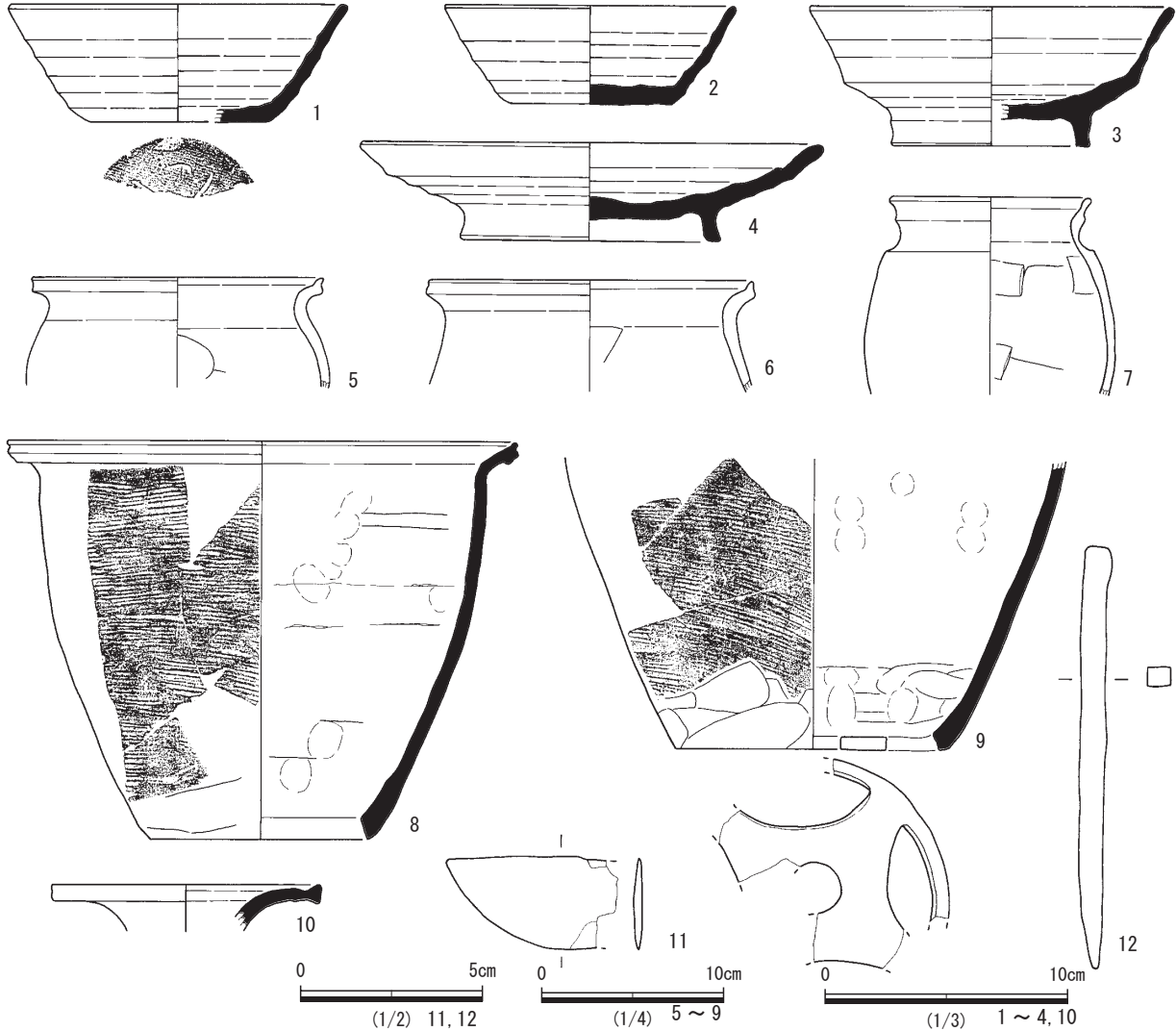
- SI32
- 1. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック(φ2~7mm)少。
斑状の灰褐色土をわずかに含む。縮り有, 粘性弱。
 - 2. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック(φ2~7mm)少,
焼土ブロック(φ5~10mm)微。縮り有, 粘性弱。
 - 3. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒少, ロームブロック
(φ2~10mm)微。縮り有, 粘性やや有。
 - 4. 10YR 4/6 褐色土 ロームブロック(φ5~10mm)中。
縮り有, 粘性やや有。
 - 5. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒微, ロームブロック(φ2~5mm)少,
焼土ブロック(φ5~7mm)微,
斑状の灰褐色土を全体に含む。縮り有, 粘性やや有。
 - 6. 10YR 5/4 にぶい黄褐色土 山砂混土, 焼土ブロック(φ2~7mm)少。
縮り有, 粘性弱。
 - 7. 10YR 6/6 明黄褐色土 山砂主体, 焼土粒少。縮り有, 粘性弱。
 - 8. 7.5YR 5/3 にぶい褐色土 焼土ブロック(φ2~3mm)少。
縮り有, 粘性なし。
 - 9. 7.5YR 5/2 灰褐色土 焼土ブロック(φ2~3mm)微, ロームブロック
(φ2~5mm)中。縮り有, 粘性弱。
 - 10. 5YR 5/2 灰赤褐色土 焼土混土。縮りやや強, 粘性なし。
 - 11. 7.5YR 4/2 灰褐色土 粘土。焼土粒少。縮り有, 粘性やや有。
 - 12. 5YR 4/6 赤褐色土 焼土主体。縮り有, 粘性弱。

- SI32 カマド袖部
- ①. 10YR 6/6 明黄褐色土 山砂主体。焼土粒・ローム粒・白色粒微。
縮り強, 粘性なし。
 - ②. 7.5YR 5/2 灰褐色土 焼土粒・ローム粒微。縮り有, 粘性なし。

第73図 SI32

cmである。

遺物は、土師器 154 点（坏 2，甕 152），須恵器 83 点（坏 39，高台付坏 10，盤 7，蓋 4，壺・瓶類 2，甕 9，甗 10，高坏 2），鉄製品 2 点（釘 1，不明 1）が出土した。出土位置は、カマド燃焼部内のほかに南側での出土が目立つ。供膳具はほぼ木葉下窯産とみられる胎土の須恵器で占められ、坏とともに有台器種の出土量も多い。煮炊具では土師器甕が主体であるが、甗では新治窯産の須恵器が出土している。時期は、9世紀第1四半期と考えられる。



第 74 図 SI32 出土遺物

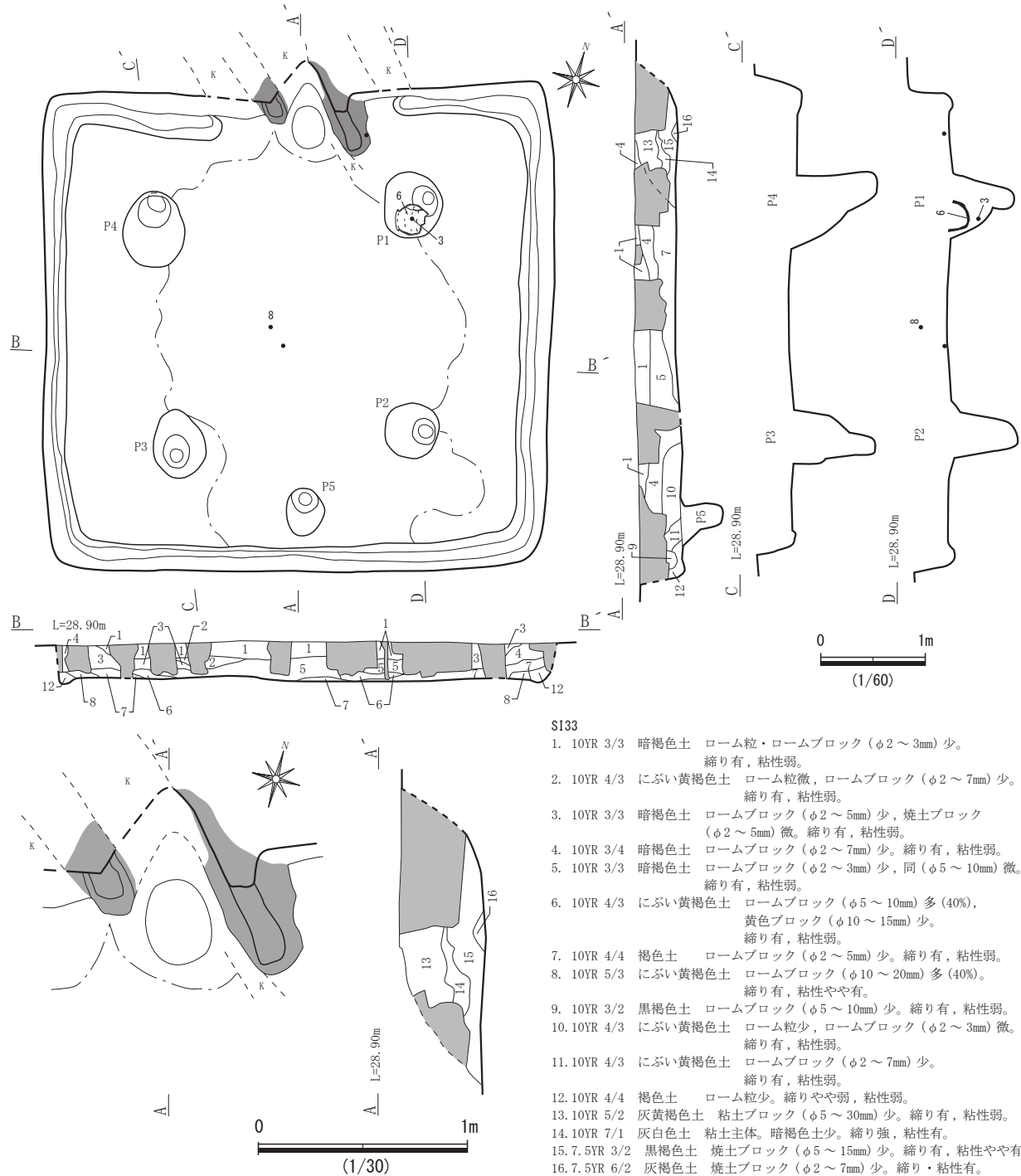
SI33（第 75・76 図，第 26 表，写真図版 11・36）

検出位置はB区西側のL 19 グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱を受け、その一部は床面まで達していた。平面形は方形で、主軸方向はN-16°-Wを示す。規模は東西軸が 4.84 m，南北軸が 4.57 m，深さは 10～21 cmで壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床を施し、カマド前面から南壁にかけての支柱穴間に顕著な硬化面が認められる。壁溝は幅 12～14 cm，深さ 5～6 cmでカマド部分を除き全周する。ピットは 5 基検出された。P 1～4 は支柱穴で、P 1 が径 53 cm，深さ 65 cm，P 2 が径 53 cm，深さ 67 cm，P 3 が 65 × 52 cm，深さ 77 cm，P 4 が 72 × 59 cm，深さ 83 cmである。P 5 は南壁際中央で検出され、出入り口施設に伴うピットと考えられる。規模は 46 × 36 cm，深さは 40 cmで南北に長く、底

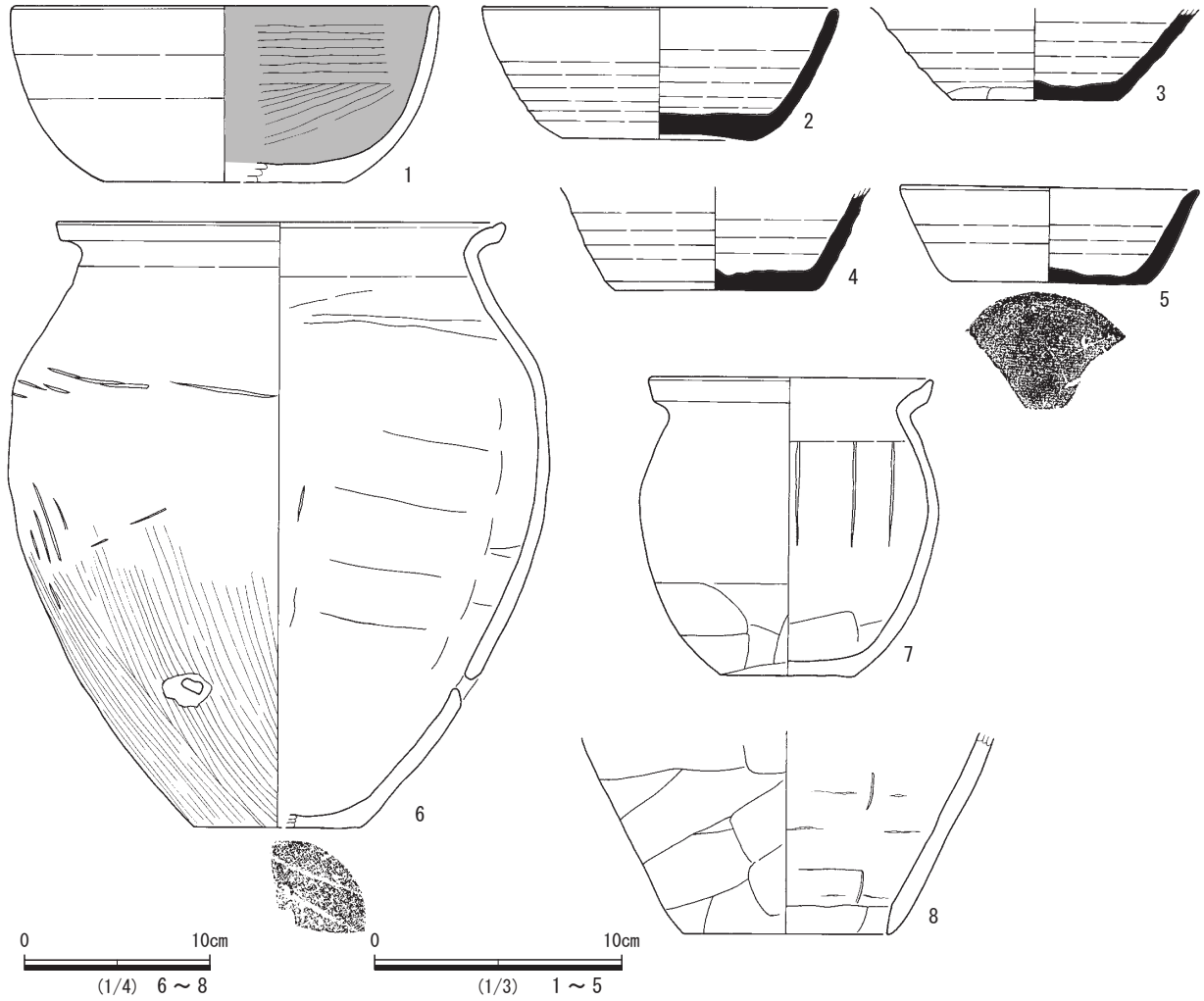
第3章 調査の成果

部の中心が建物側へ寄る。掘り方は、南北両壁側が中央部より深く掘り込まれている。カマドは北壁の中央に付設される。攪乱が著しく、燃烧部から煙道部の大部分が消失する。構築材は粘土と山砂の混和土を用い、粘土の割合が高い。燃烧部は4cm程掘り窪められている。燃烧部から煙道部は屋外へ約42cm掘り込まれ、全長96cm、燃烧部最大幅は44cm、袖残存長は左袖25cm、右袖57cmである。

遺物は、土師器176点(坏2, 甕173, 甑1), 須恵器61点(坏42, 盖5, 壶・瓶類3, 甕10, 高坏1), 鉄製品1点(釘カ1)が出土した。供膳具はほぼ木葉下窯産とみられる胎土の須恵器が占める。1の土師器坏は鉢形に近く、2の須恵器坏も同様である。煮炊具は土師器甕が主体で、6の土師器甕はP1内に埋没する状態で出土している。時期は、8世紀第4四半期～9世紀第1四半期と考えられる。



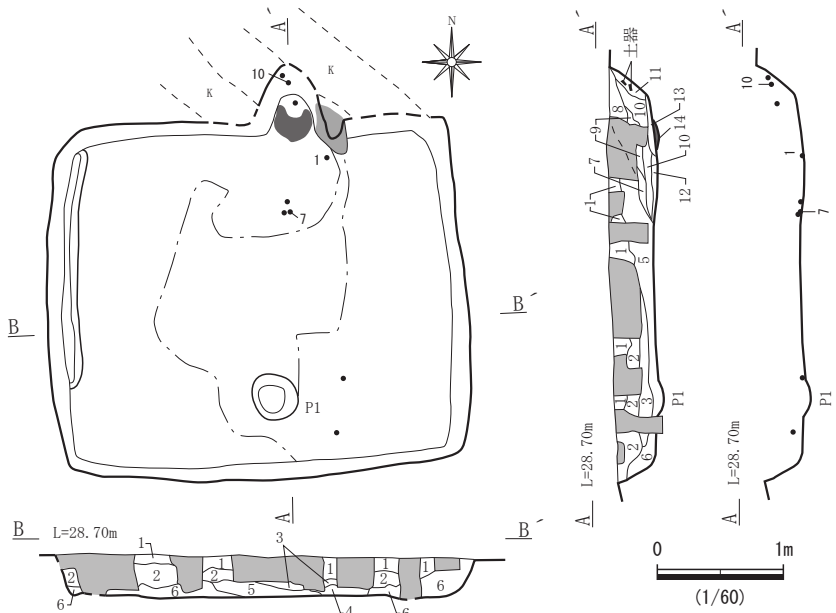
第75図 SI33



第76図 SI33 出土遺物

SI34 (第77・78図, 第26・29表, 写真図版11・37)

検出位置はB区中央部西寄りのL 20・M 20 グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱を受けているが、床面までは達していない。平面形は方形で、主軸方向はN-0°を示す。規模は東西軸が3.33m、南北軸が2.84m、深さは30～33cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床が施され、カマド前面から南壁に

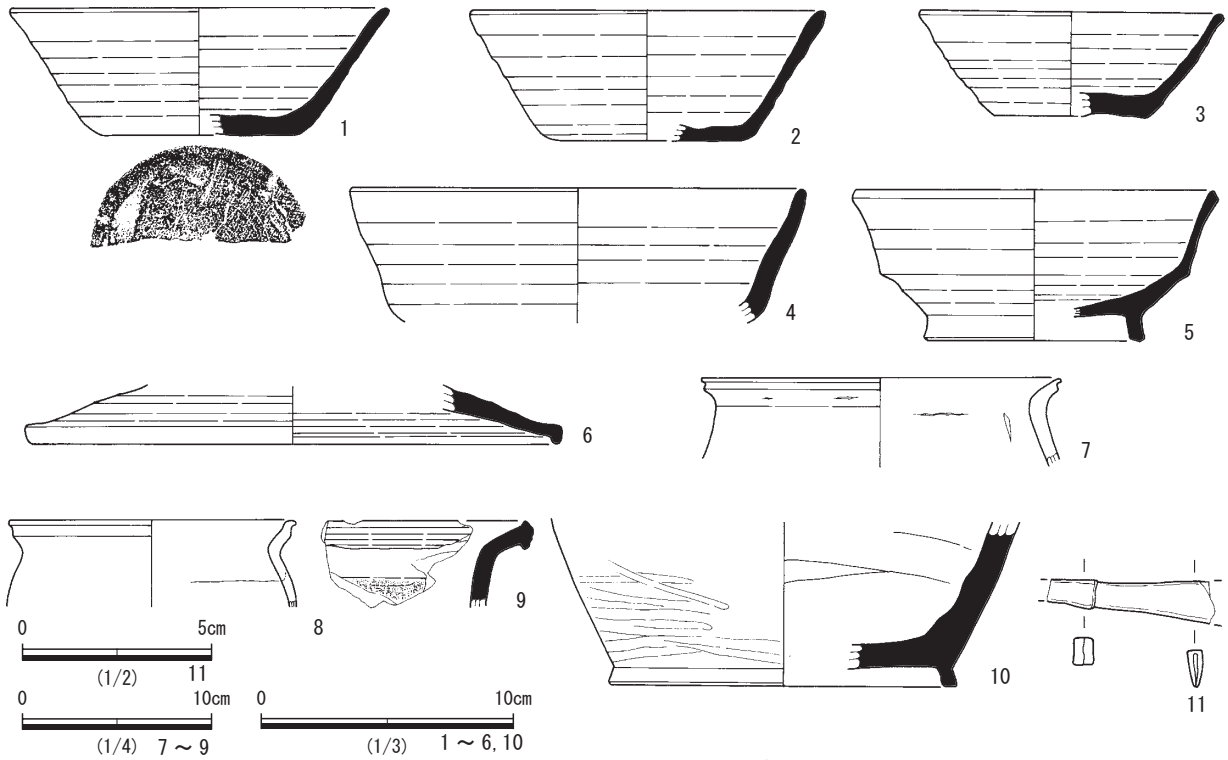
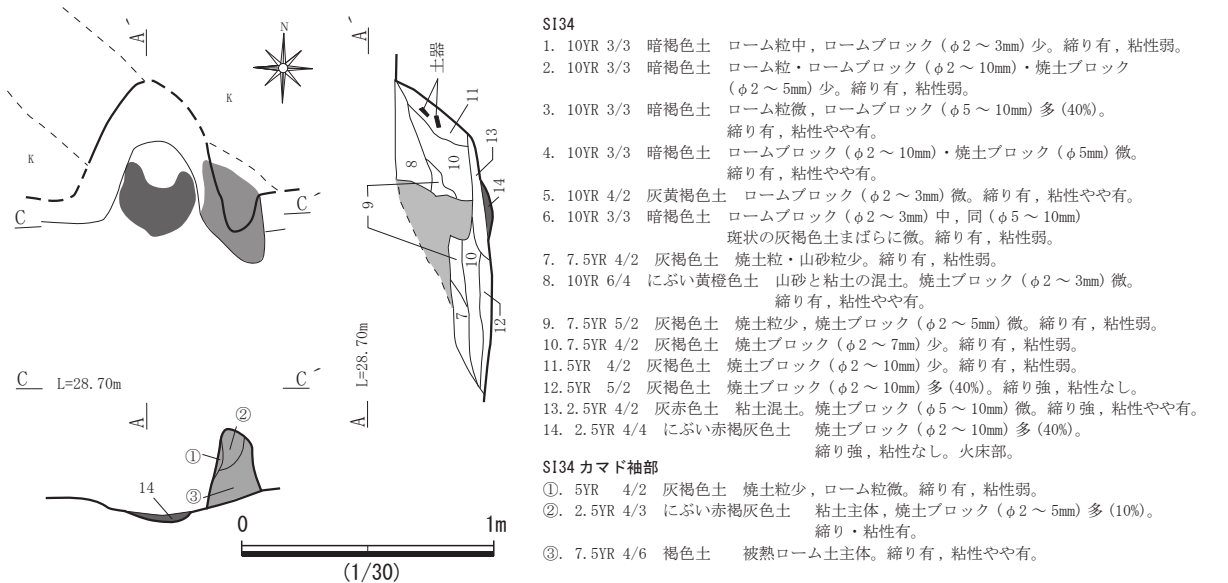


第77図 SI34(1)

第3章 調査の成果

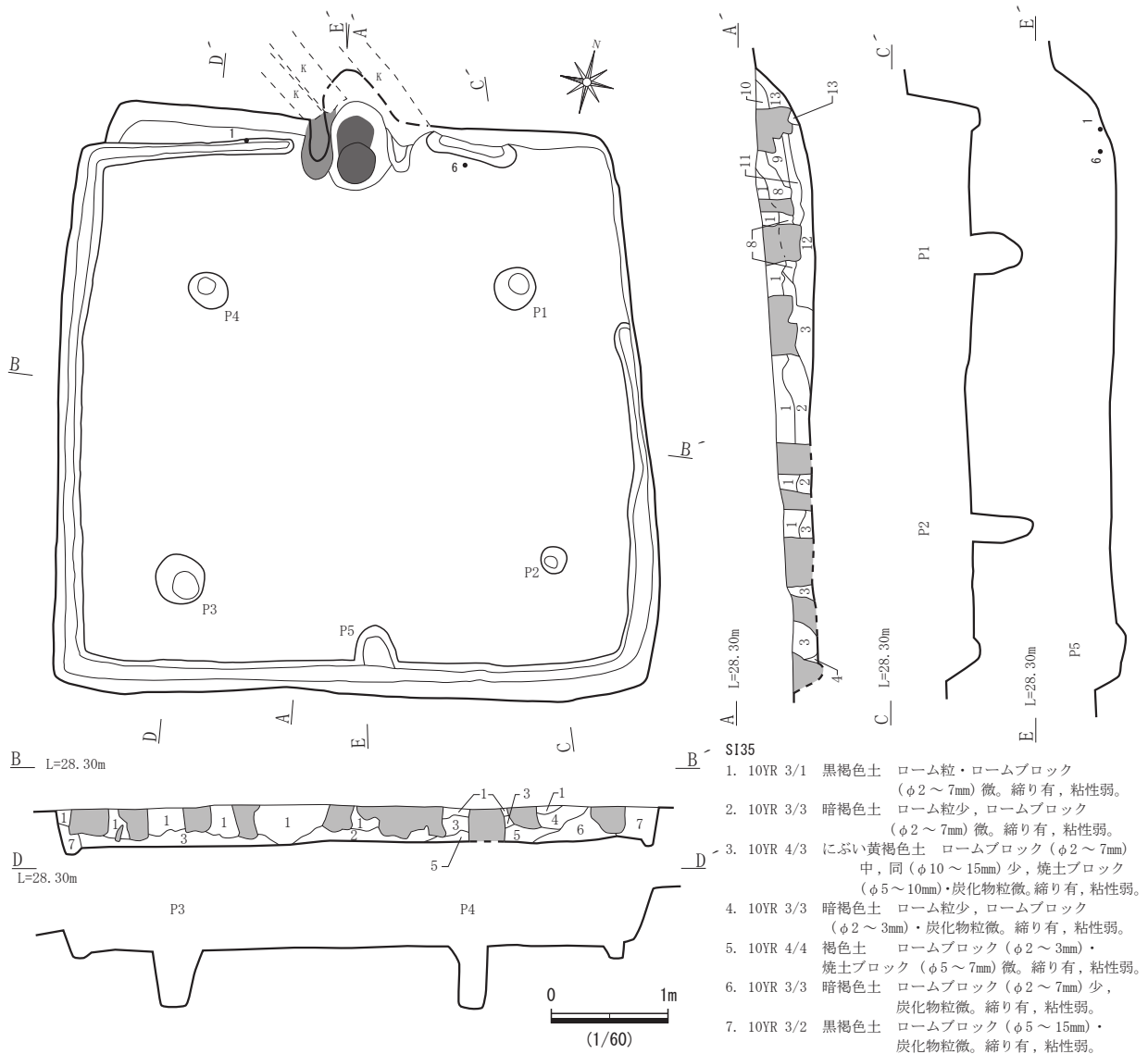
かけての中央部に顕著な硬化面が認められる。壁溝は幅 13 cm、深さ 5 cm で西壁際のみ認められる。ピットは南壁寄り中央で P 1 が検出され、出入り口施設に伴うピットと考えられる。規模は径 35 cm、深さ 17 cm である。掘り方は、全体に掘り下げられ、起伏が激しい。カマドは北壁の中央やや東寄りに付設され、攪乱で左袖が消失している。構築材は粘土と山砂の混和土を用い、粘土の割合が高い。燃焼部は 16 cm 程掘り窪められ、火床面の赤変硬化は認められなかった。煙道部は屋外へ約 32 cm 掘り込まれ、全長は 72 cm、燃焼部最大幅は 35 cm、右袖残存長は 28 cm である。

遺物は、土師器 131 点 (甕 129, 甌 2), 須恵器 70 点 (坏 52, 盤 5, 蓋 2, 壺・瓶類 2, 甕 8, 甌 1), 鉄製品 1 点 (刀子 1) が出土した。供膳具は木葉下窯産とみられる胎土の須恵器で占められ、煮炊具は土師器が主体である。時期は、8 世紀第 4 四半期～9 世紀第 1 四半期と考えられる。



S I 3 5 (第79・80図, 第26表, 写真図版11・37)

検出位置はB区中央部やや南寄りのM 21・N 21 グリッドである。鹿沼軽石層(基本土層⑮)を掘り込み構築されている。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱を受け、その一部は床面まで達している。また、南側は埋没谷斜面地にかかり壁上部が消失している。平面形は方形であるが、全体に歪んでいる。北壁西側の上部が最大では33 cm程広がっており、重複遺構か建替えがあった可能性もあるが、ここでは判断できなかった。主軸方向はN-16°-Wを示す。規模は東西軸の北側が4.62 m, 南側が5.18 m, 南北軸が4.91 m, 深さは20~32 cmで壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床を施し、硬化面は認められない。壁溝は幅12~21 cm, 深さ6~9 cmでカマド部分と北東隅を除き周回する。ピットは5基検出された。P 1~4は支柱穴で、P 1が径36 cm, 深さ49 cm, P 2が径23 cm, 深さ54 cm, P 3が径42 cm, 深さ50 cm, P 4が36×30 cm, 深さ54 cmである。P 5は南壁際中央壁溝に接して検出され、出入口施設に伴うピットと考えられる。半円状で規模は36×34 cm, 深さは11 cm, 底部の中心が建物側へ寄っている。掘り方は、南北両壁側が中央部より深く掘り込まれている。カマドは北壁の中央に付設され、攪乱で右袖上部が消失している。構築材は灰黄褐色粘土と山砂の混和土を用いている。燃焼部は5 cm

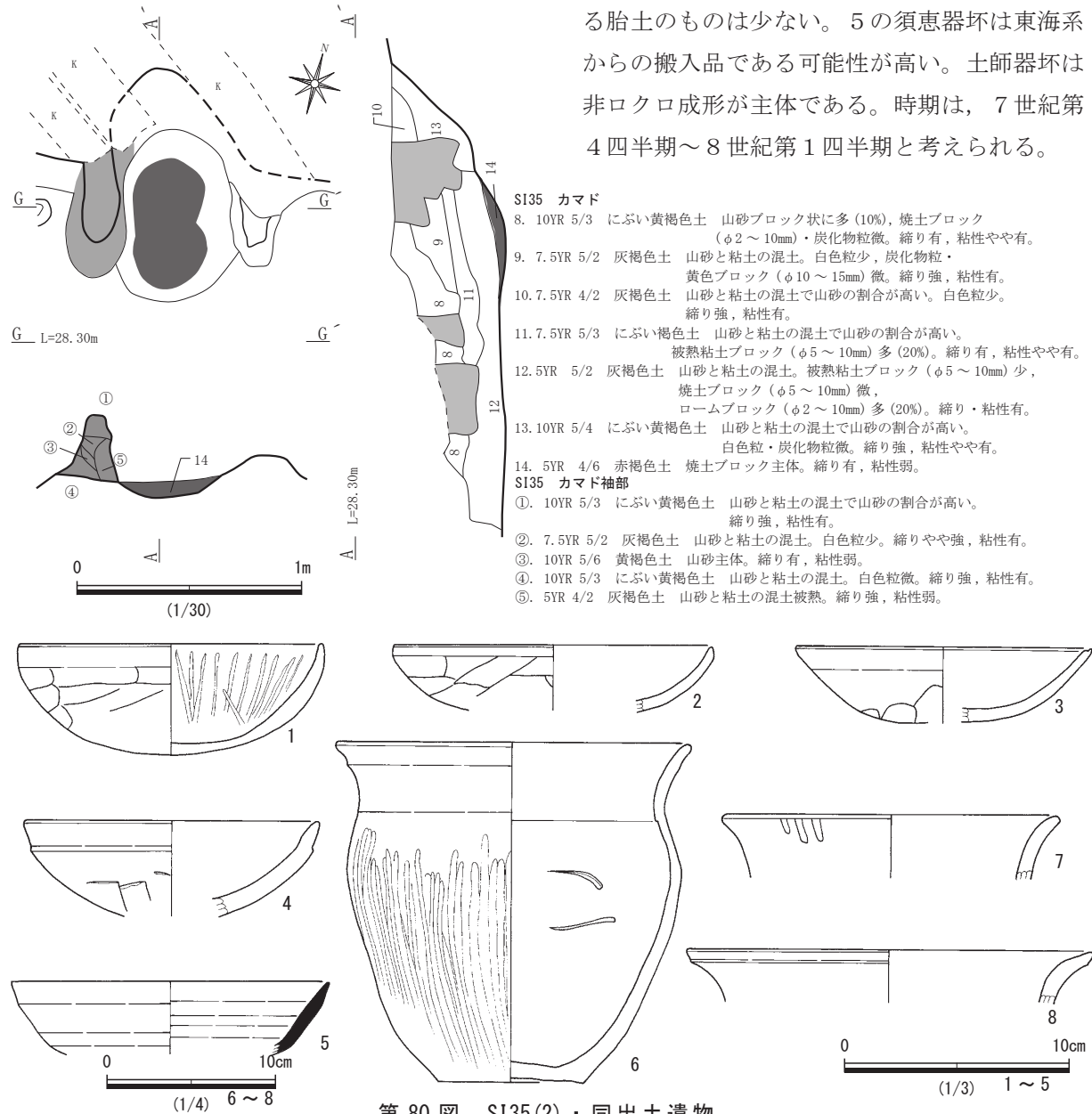


第79図 S I 35(1)

第3章 調査の成果

程掘り窪められ、火床面は焚口寄りで赤変硬化が顕著である。煙道部は屋外へ約44cm掘り込まれ、全長は104cm、燃焼部最大幅は47cm、左袖残存長は50cmである。基礎部は地山（鹿沼軽石層）を掘り残し、その上に袖を積み上げていた。

遺物は、土師器92点（坏6、甕83、甗3）、須恵器13点（坏10、甕2、壺・瓶類1）、土製品1点（支脚1）、鉄製品1点（釘カ1）が出土した。供膳具では須恵器の割合が高いが、木葉下窯産とみられる胎土のものは少ない。5の須恵器坏は東海系からの搬入品である可能性が高い。土師器坏は非ロクロ成形が主体である。時期は、7世紀第4四半期～8世紀第1四半期と考えられる。

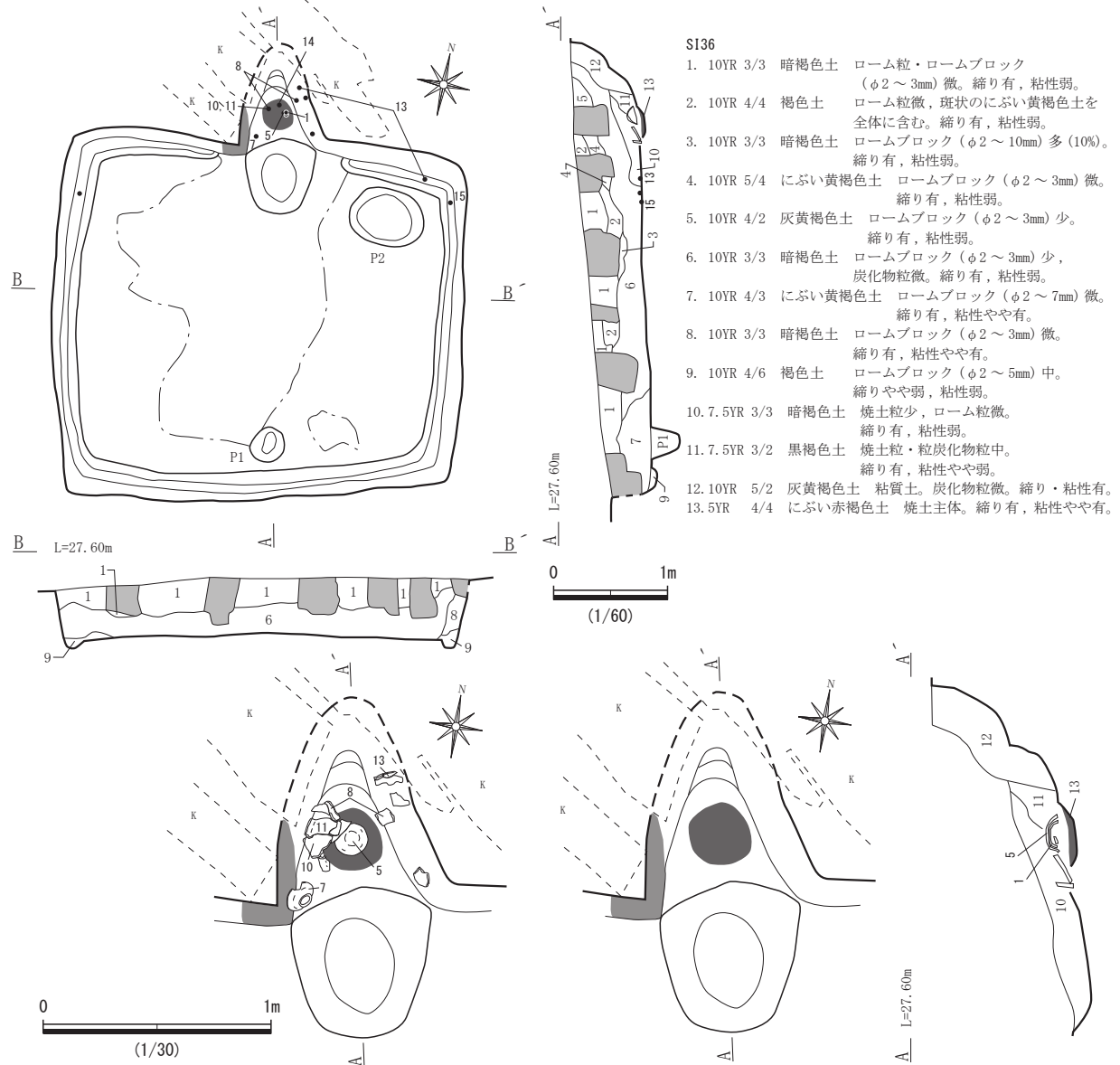


S I 3 6 (第81・82図, 第26表, 写真図版11・37・38)

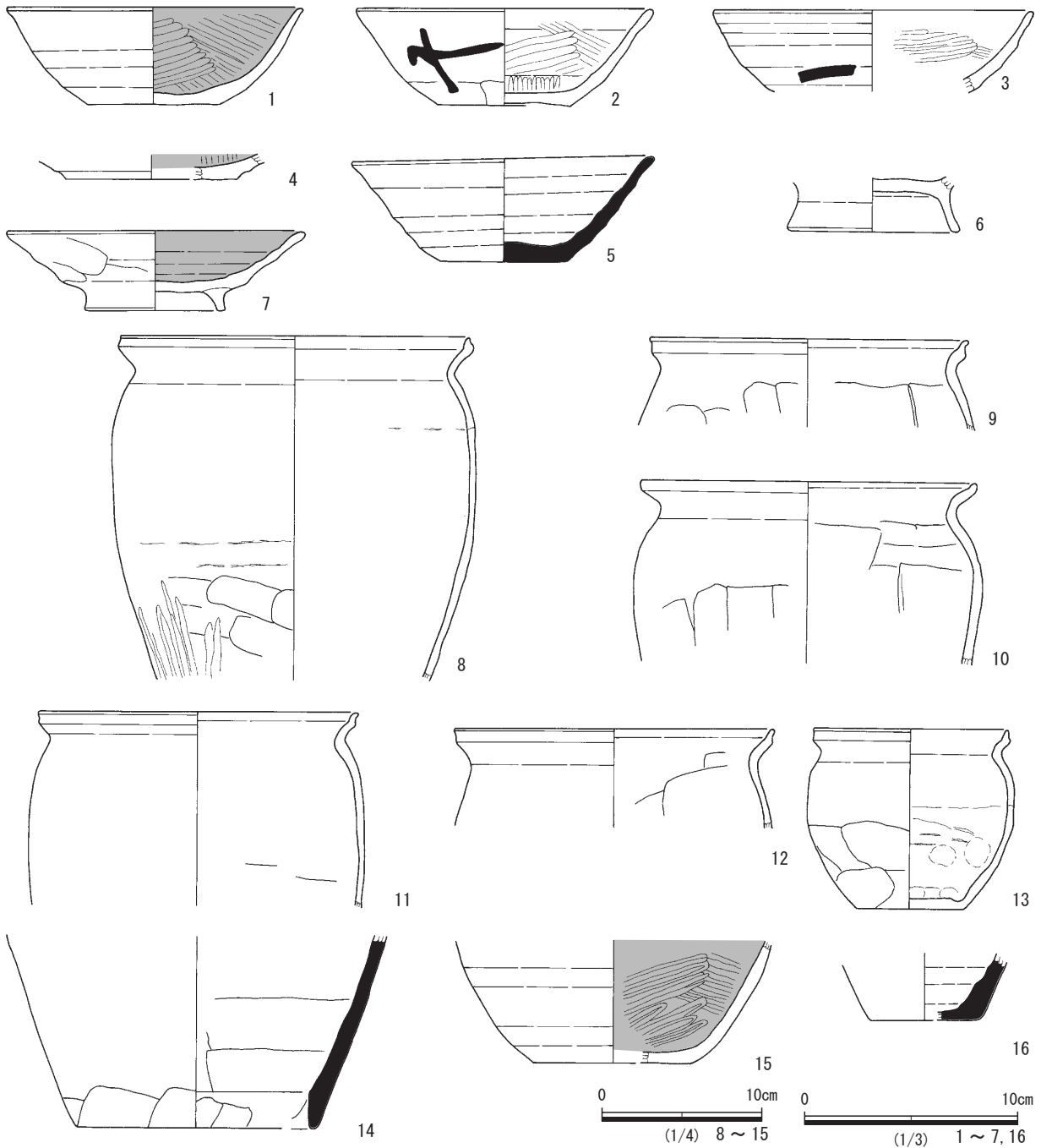
検出位置はB区東側のN 21・O 21グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱を受けているが、床面までは達していない。しかしカマド部分を含めた北壁側での攪乱が著しい。平面形は方形であるが、全体に歪み西壁側が広い。主軸方向はN-11°-Wを示す。規模は東西軸が3.61m、南北軸の東側が2.94m、西側が3.22m、深さは35~53cmで壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床を施し、カマド前面から南壁にかけての西側で顕著な硬化面が認められる。壁溝は幅12~17cm、深さ2~5cmでカマド部分を

除き全周する。ピットは2基検出された。P1は南壁際中央に検出され、出入り口施設に伴うピットと考えられる。規模は径31cm、深さは25cmである。P2は北東隅で検出され、貯蔵穴と思われる。規模は67×50cm、深さ11cmで浅い皿状を呈する。掘り方は、中央部を高く残し、壁際を環状に深く掘り込んでいる。カマドは北壁の中央に付設され、上部が攪乱で消失している。構築材は灰白色粘土を主体とし、燃烧部は5cm程掘り窪められるが、火床面に顕著な赤変硬化は認められない。燃烧部から煙道部は屋外へ約86cm掘り込まれている。焚出口には66×60cm、深さ12cmの方形気味を呈した掘り込みがあり、焼土を含む層が厚く堆積していた。その掘り込みを含めた全長は150cm、燃烧部最大幅は57cm、左袖残存長は9cm程である。

遺物は、土師器229点（坏32，高台付坏・碗1，皿3，鉢1，甕192），須恵器69点（坏35，高台付坏1，盤2，蓋1，甕28，甑1，壺・瓶類1），鉄製品1（釘1）が出土した。供膳具に対する土師器と須恵器の割合はほぼ同じで、土師器では内面黒色処理された坏が主体である。5は高台部が高めである。須恵器は木葉下窯産とみられる胎土の坏で占められ、有台器種は少ない。時期は、9世紀第4四半期と考えられる。



第81図 S136



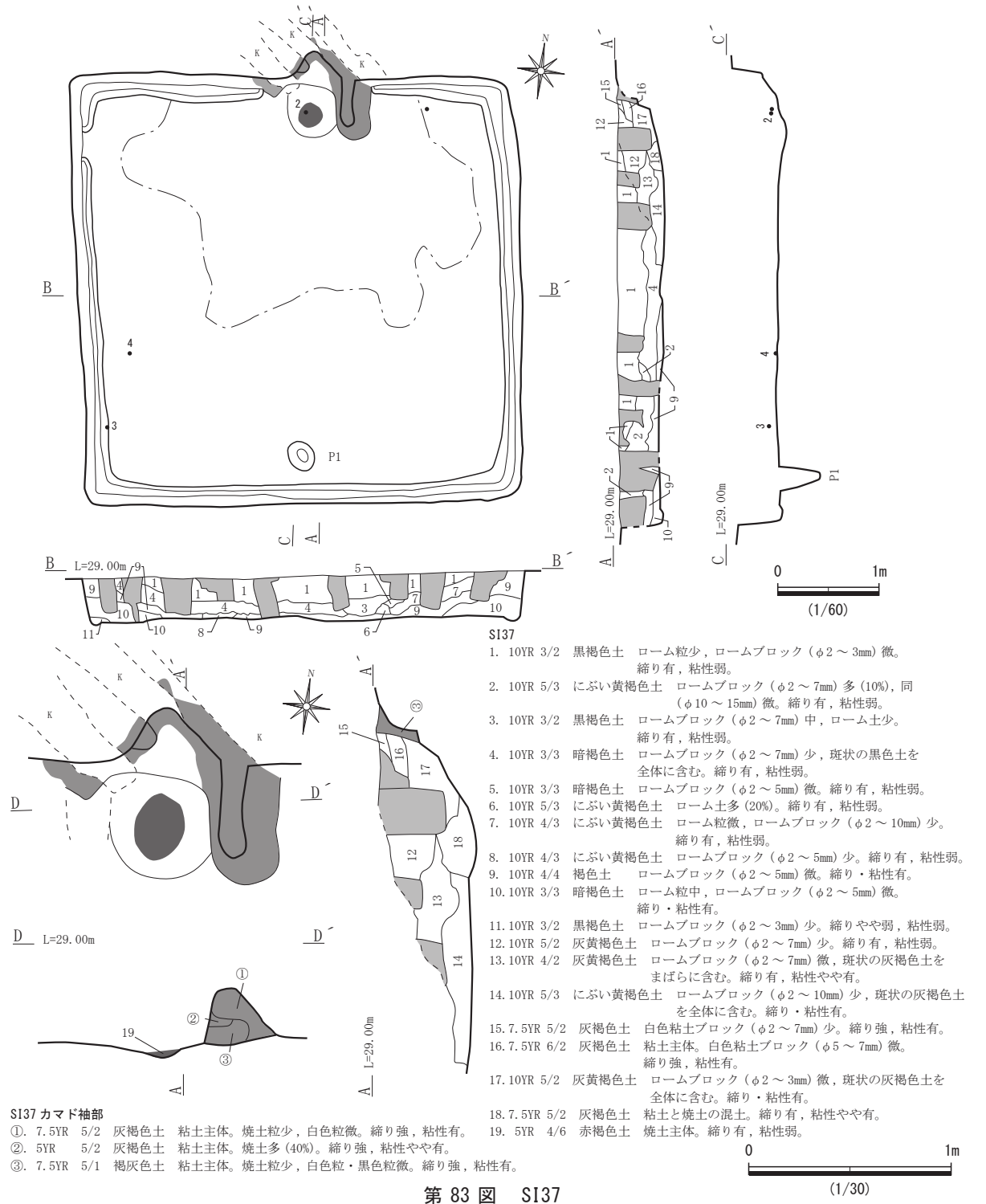
第 82 図 S136 出土遺物

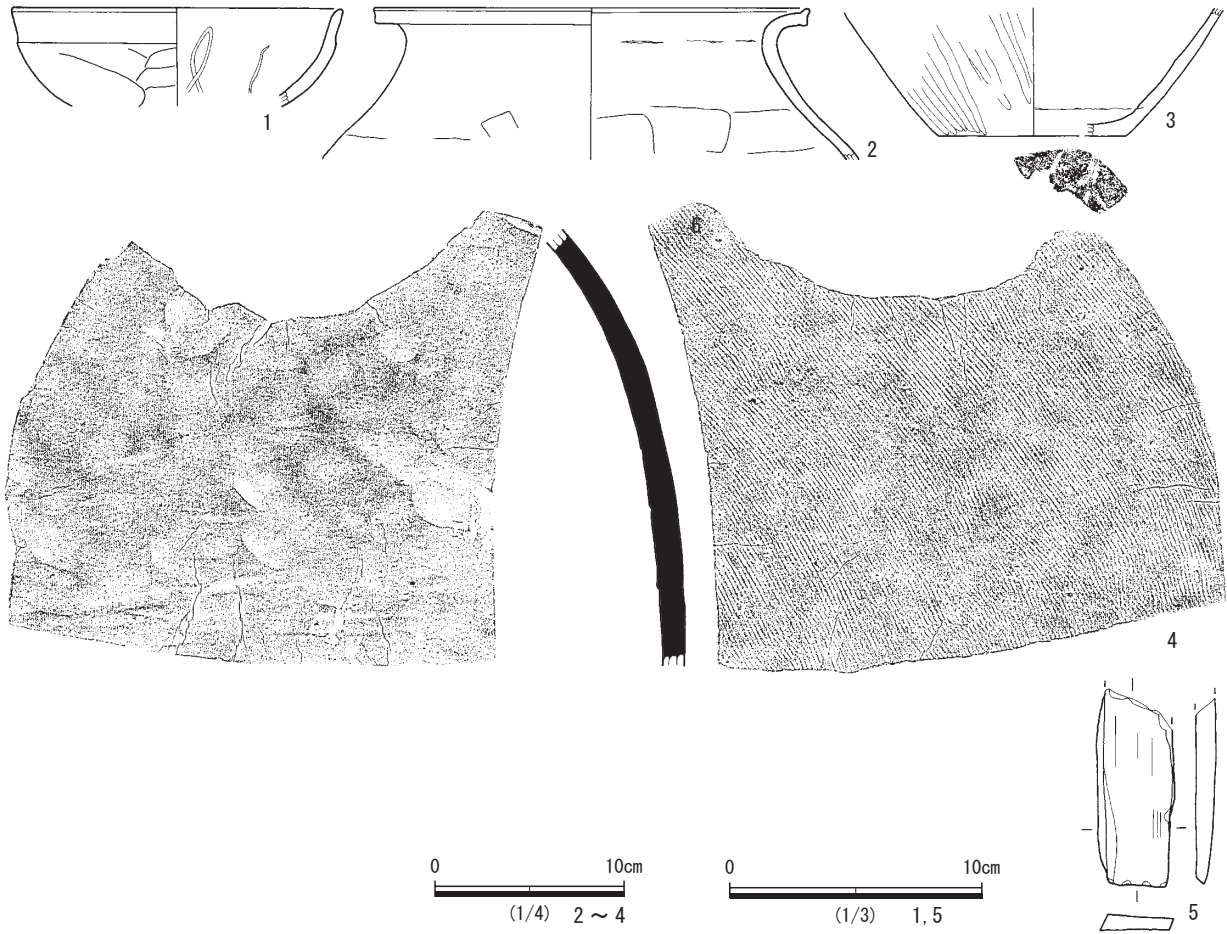
S I 3 7 (第 83・84 図, 第 26・30 表, 写真図版 11・38)

検出位置はB区中央部西寄りのK 20 グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱を受けているが、床面までは達しているのはわずかである。平面形はほぼ正方形で、主軸方向はN-9°-Wを示す。規模は東西軸が 4.38 m, 南北軸が 4.28 m, 深さは 37 ~ 46 cm で壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面は一ムブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床を施し、カマド前面を中心に建物跡の北側で顕著な硬化面が認められる。壁溝は幅 9 ~ 14 cm, 深さ 3 ~ 5 cm でカマド部分を除き全周する。ピットは南壁際中央に P 1 が検出され、出入口施設に伴うピットと考えられる。規模は径 31 cm, 深さは 25 cm である。掘り方は全体に浅めに掘り込まれ、やや起伏がある。カマドは北壁の中央に付設され、攪乱で左袖の大部分が消失している。構築材は灰褐色粘土を主体とし、

燃焼部は7cm程掘り窪められるが、火床面に赤変硬化は認められない。煙道部は屋外へ約28cm掘り込まれ、急な立ち上がりで、全体が構築材によって覆われている。全長は102cm、燃焼部最大幅は掘り窪みから47cmが想定され、右袖残存長は58cmである。

遺物は、土師器72点（坏1，甕71），須恵器11点（坏1，高台付坏3，蓋1，甕6），鉄製品2点（不明2），石製品2点（砥石2）が出土した。供膳具は小破片ではあるものの、木葉下窯産とみられる胎土の須恵器が占める。1は唯一出土した土師器坏片でロクロ成形されている。時期は、土師器坏や甕の形態から8世紀第1四半期と考えられる。



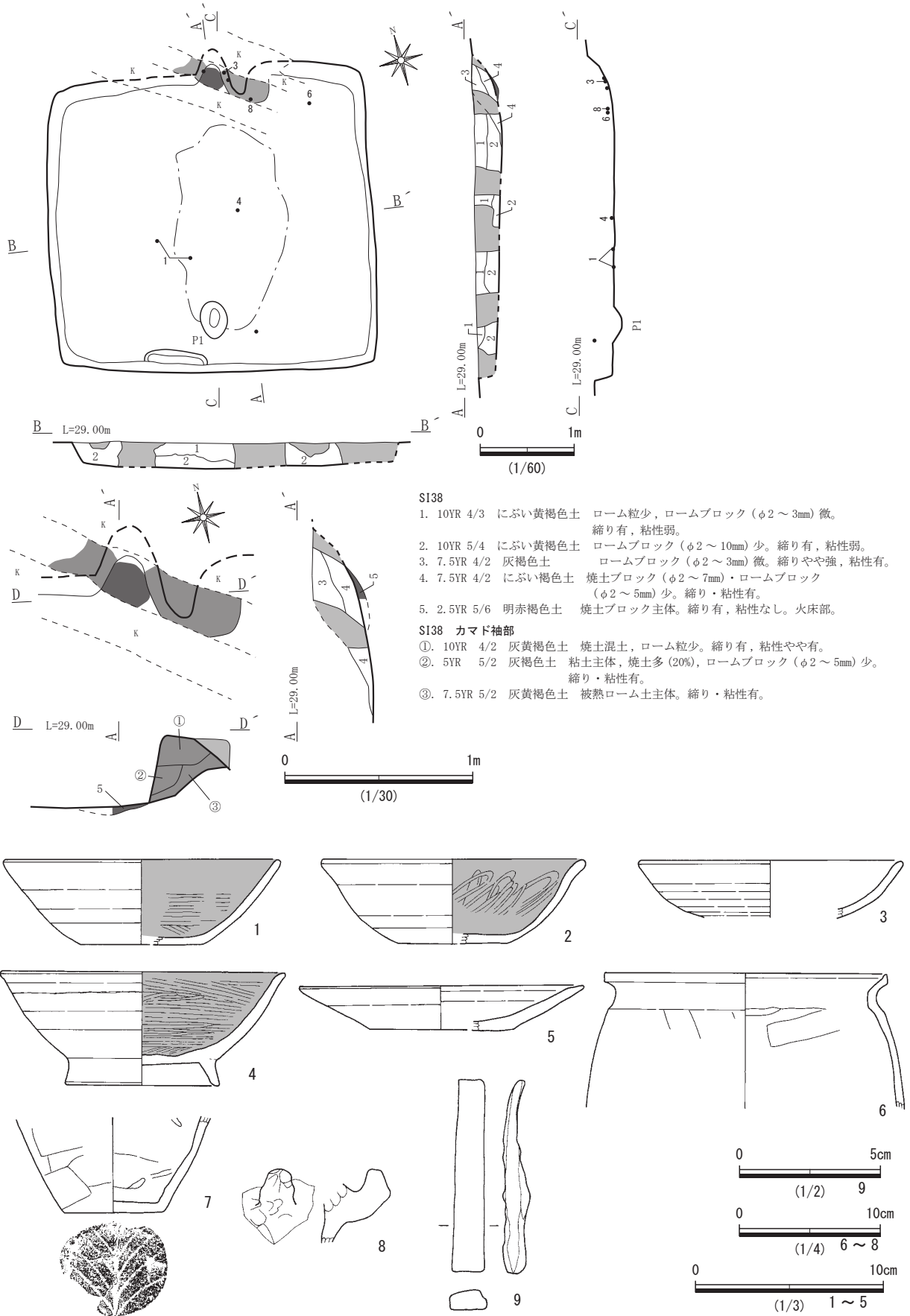


第84図 SI37 出土遺物

SI38 (第85図, 第26・29表, 写真図版12・38・39)

検出位置はB区中央部のK 20, L 20 グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱が床面までは達している。平面形は歪んだ正方形で東側がやや広い。主軸方向はN-15°-Eを示し、規模は東西軸が3.46 m, 南北軸の東側が3.23 m, 西側が3.03 m, 深さは19~28 cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面は平坦であるが、建物跡中央が壁際より若干低く、窪んだ状態に見える。カマド前面からP 1にかけて顕著な硬化面が認められる。壁溝は幅15 cm, 深さ4 cm程で南壁中央付近に検出されるのみでほとんど確認されていない。ピットは南壁際中央にP 1が検出され、出入り口施設に伴うピットと考えられる。規模は40×29 cm, 深さは17 cmで南北に長い楕円形である。掘り方は、カマド前面以外は認められず、ほぼ直床であった。カマドは北壁の中央に付設され、攪乱で左袖と煙道部が消失している。構築材は灰黄褐色・灰褐色粘土を主体としている。燃焼部は2 cm程掘り窪められるが、範囲全体が赤変硬化していた。燃焼部最大幅は16 cm, 右袖残存長は38 cmである。

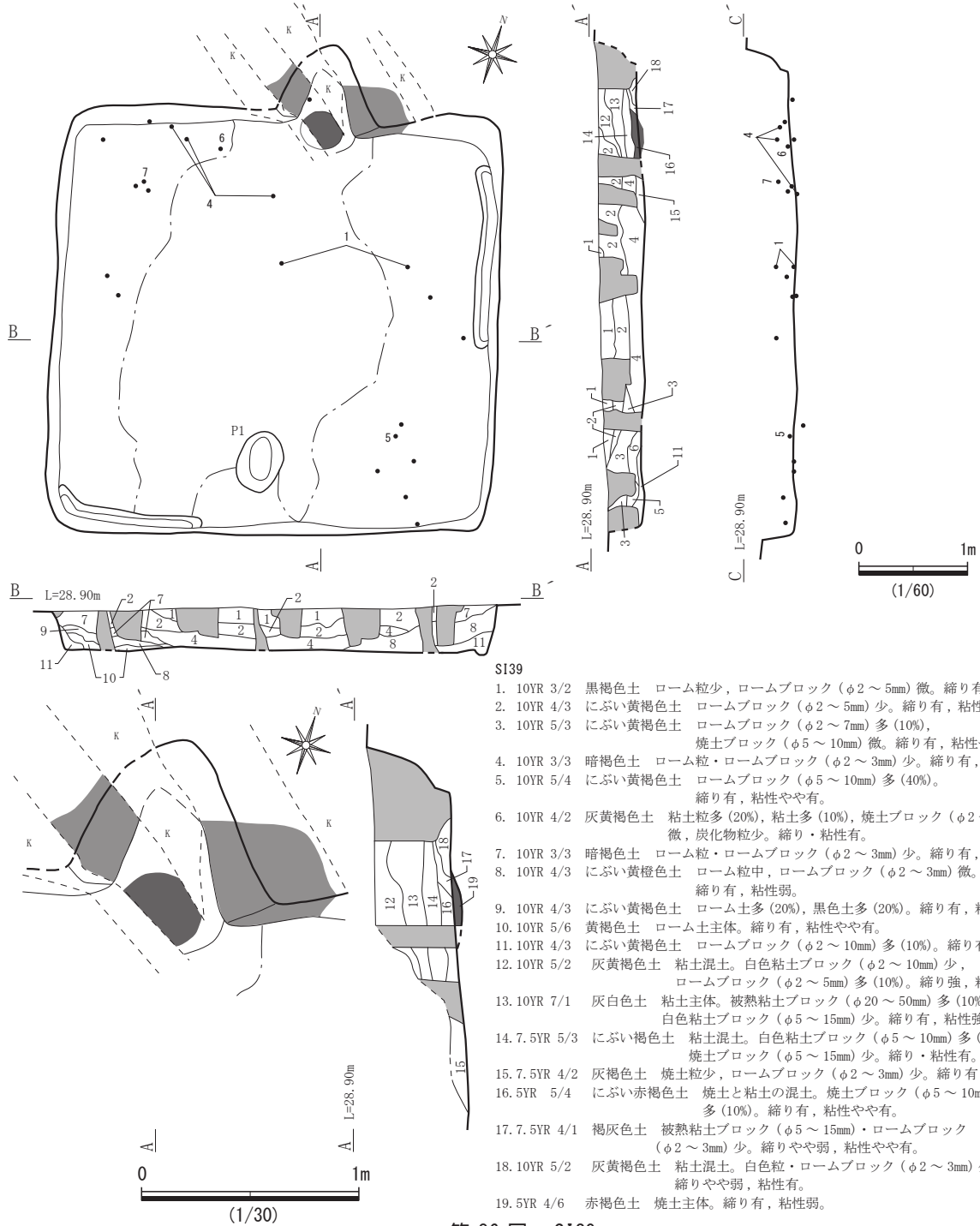
遺物は、土師器51点(坏5, 高台付坏・椀7, 皿2, 甕36, 甑1), 須恵器18点(坏9, 高台付坏1, 盤2, 壺・瓶類1, 甕4, 甑1), 土製品1(土玉1), 鉄製品1点(刀子1)が出土した。供膳具は土師器が須恵器を上回り、割合から見るとほぼ主体的と言えよう。土師器坏は内面黒色処理のものが多いが、身が浅く高台の付く椀になる可能性のある3や5の皿なども出土している。時期は、9世紀第4四半期と考えられる。



第85図 S138・同出土遺物

S I 3 9 (第86・87図, 第26表, 写真図版12・39)

検出位置はB区中央部のL 20・21 グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱が床面までは達している。平面形はほぼ正方形で、主軸方向はN-15°-Wを示す。規模は東西軸が4.10 m, 南北軸が4.94 m, 深さは35~43 cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床を施し、カマド前面から南壁にかけての中央部に顕著な硬化面が認められる。壁溝は幅11~12 cm, 深さ2~3 cmで南壁と東壁の一部でのみ確認されている。ピットは南壁際中央にP1が検出され、出入り口施設に伴うピットと考えられる。規模は57×41 cm, 深さは13 cmで南北に長い楕円形である。掘り方は起伏が激しく全体に掘り込まれてい



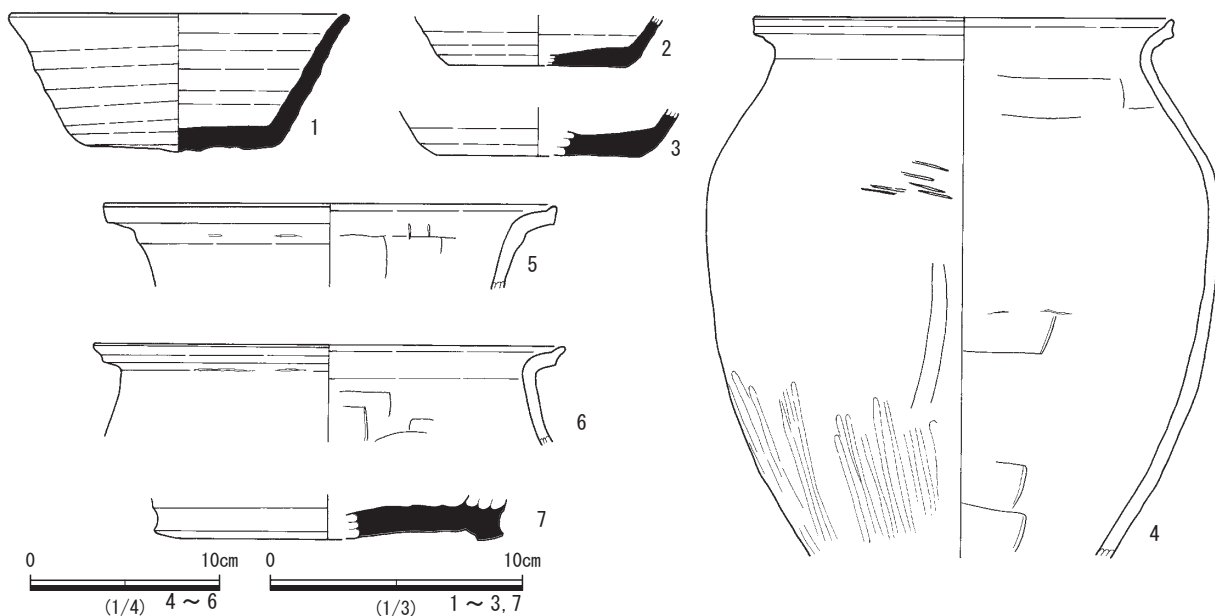
S139

1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒少, ロームブロック (φ2~5mm) 微。縮り有, 粘性弱。
2. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ2~5mm) 少。縮り有, 粘性弱。
3. 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ2~7mm) 多 (10%), 焼土ブロック (φ5~10mm) 微。縮り有, 粘性やや有。
4. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ2~3mm) 少。縮り有, 粘性弱。
5. 10YR 5/4 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ5~10mm) 多 (40%)。縮り有, 粘性やや有。
6. 10YR 4/2 灰黄褐色土 粘土粒多 (20%), 粘土多 (10%), 焼土ブロック (φ2~5mm) 微, 炭化物粒少。縮り・粘性有。
7. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ2~3mm) 少。縮り有, 粘性弱。
8. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒中, ロームブロック (φ2~3mm) 微。縮り有, 粘性弱。
9. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム土多 (20%), 黒色土多 (20%)。縮り有, 粘性弱。
10. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム土主体。縮り有, 粘性やや有。
11. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ2~10mm) 多 (10%)。縮り有, 粘性弱。
12. 10YR 5/2 灰黄褐色土 粘土混土。白色粘土ブロック (φ2~10mm) 少, ロームブロック (φ2~5mm) 多 (10%)。縮り強, 粘性有。
13. 10YR 7/1 灰白色土 粘土主体。被熱粘土ブロック (φ20~50mm) 多 (10%), 白色粘土ブロック (φ5~15mm) 少。縮り有, 粘性強。
14. 7.5YR 5/3 にぶい褐色土 粘土混土。白色粘土ブロック (φ5~10mm) 多 (10%), 焼土ブロック (φ5~15mm) 少。縮り・粘性有。
15. 7.5YR 4/2 灰褐色土 焼土粒少, ロームブロック (φ2~3mm) 少。縮り有, 粘性弱。
16. 5YR 5/4 にぶい赤褐色土 焼土と粘土の混土。焼土ブロック (φ5~10mm) 多 (10%)。縮り有, 粘性やや有。
17. 7.5YR 4/1 褐色土 被熱粘土ブロック (φ5~15mm)・ロームブロック (φ2~3mm) 少。縮りやや弱, 粘性やや有。
18. 10YR 5/2 灰黄褐色土 粘土混土。白色粒・ロームブロック (φ2~3mm) 少。縮りやや弱, 粘性有。
19. 5YR 4/6 赤褐色土 焼土主体。縮り有, 粘性弱。

第86図 S139

る。カマドは北壁の中央やや東寄りに付設され、攪乱で左袖と煙道部の一部が消失している。構築材は灰黄褐色・灰褐色粘土を主体としている。燃烧部は6 cm程掘り窪められ、火床面は赤変硬化している。燃烧部から煙道部にかけての掘り込みは屋外へ63 cm、全長100 cm前後、確認できた燃烧部最大幅は45 cm、右袖残存長は10 cmとなり、地山を25 cm掘り込み構築材を充填していた。

遺物は、土師器204点（坏3，甕201），須恵器87点（坏66，盤1，蓋2，壺・瓶類2，甕15，高坏1）が出土した。供膳具はほぼ木葉下窯産とみられる胎土の須恵器が占め、土師器は摩耗が顕著な小片で混入したとみられる。煮炊具は土師器甕が主体で、他の建物跡と比べて出土量が多い。時期は、9世紀第1四半期と考えられる。



第87図 SI39 出土遺物

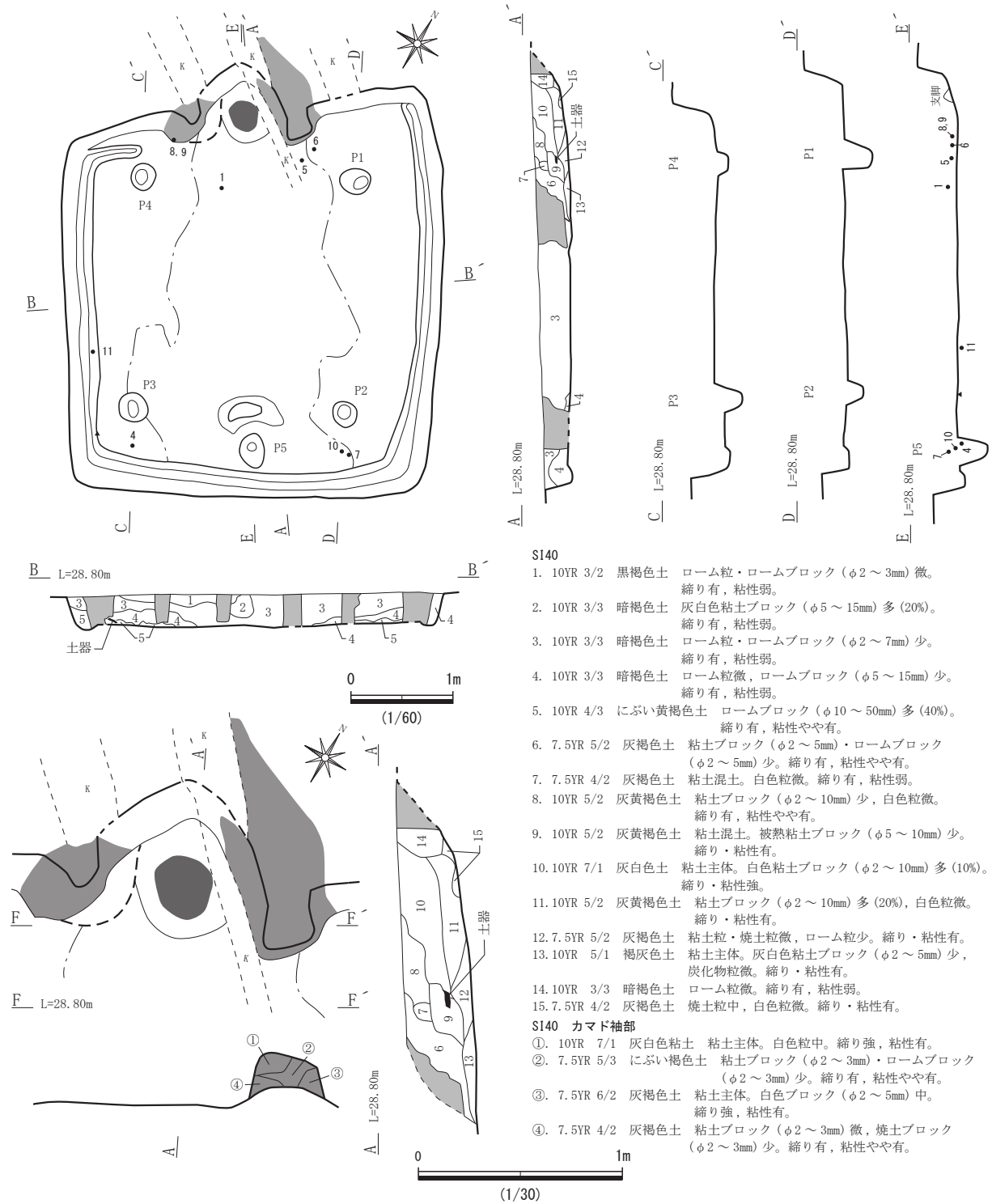
S I 4 0（第88・89図，第26・30表，写真図版12・39・40）

検出位置はB区中央部のL 21・M 21グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱が一部床面まで達している。平面形は歪んだ方形で、東側が広い。主軸方向はN-32°-Wを示す。規模は東西軸が3.66 m、南北軸は東側が4.01 m、西側が3.62 m、深さは28～30 cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は遺存する部分でブロック状の含有物が多いことから、人為堆積の可能性がある。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床を施し、カマド前面から南壁にかけての中央部に顕著な硬化面が認められ、P 5北側部分は少し高くなっている。壁溝は幅12～16 cm、深さ2～7 cmでカマドから東側で確認できなかった以外全周する。ピットは5基が検出されている。P 1～4は支柱穴で壁際に寄っている。規模はP 1が径27 cm、深さ29 cm、P 2が径25 cm、深さ20 cm、P 3が径27 cm、深さ16 cm、P 4が径28 cm、深さ12 cmと小規模である。P 5は南壁際中央で検出され、出入り口施設に伴うピットと考えられる。規模は35×24 cm、深さ22 cmで南北にやや長い楕円形である。掘り方は中央部が円形状に深く掘り込まれ、さらに支柱穴周辺が浅い皿状に掘り込まれている。カマドは北壁の中央に付設され、攪乱で左袖から煙道部にかけて消失している。構築材は灰白色・灰褐色粘土を主体としている。燃烧部は5 cm程掘り窪められ、火床面は赤変硬化し、支脚の一部が残存している。燃烧部から煙道部にかけての掘り込みは屋外へ70 cm以上と想定され、全長117 cm、燃烧部

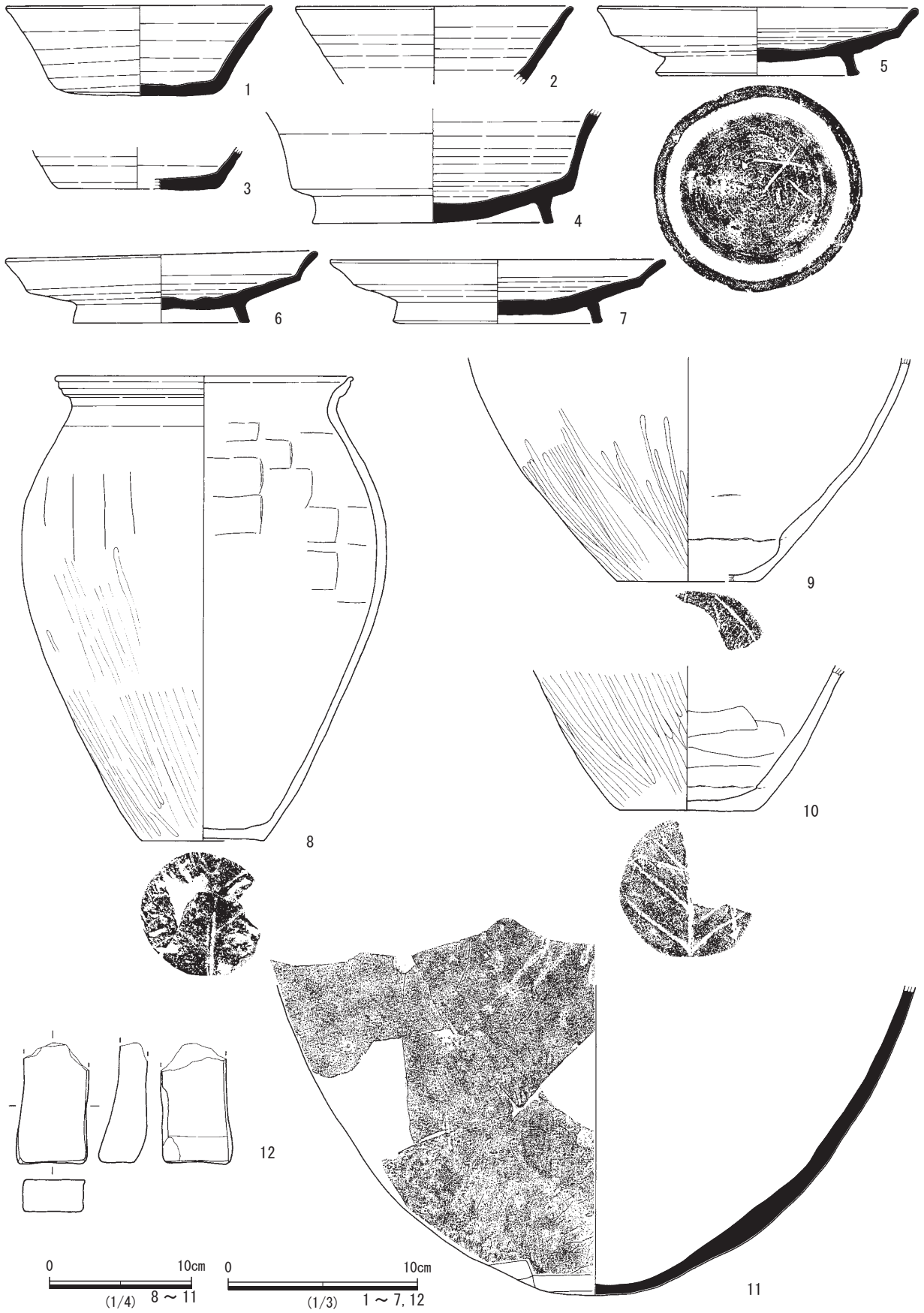
第3章 調査の成果

幅 52cm, 袖残存長は左袖 31 cm, 右袖は 40 cm である。

遺物は、土師器 102 点 (甕 102), 須恵器 41 点 (坏 26, 高台付坏 4, 盤 3, 甕 8), 石製品 1 点 (砥石 1) が出土した。供膳具は木葉下窯産とみられる胎土の須恵器が占め, 煮炊具は土師器甕が主体である。須恵器の有台器種の中で 4 の高台付坏は大型となるが, 一方で 5~7 の盤はいずれも小型の部類となり, 大きさも揃っている。時期は, 8 世紀第 4 四半期と考えられる。



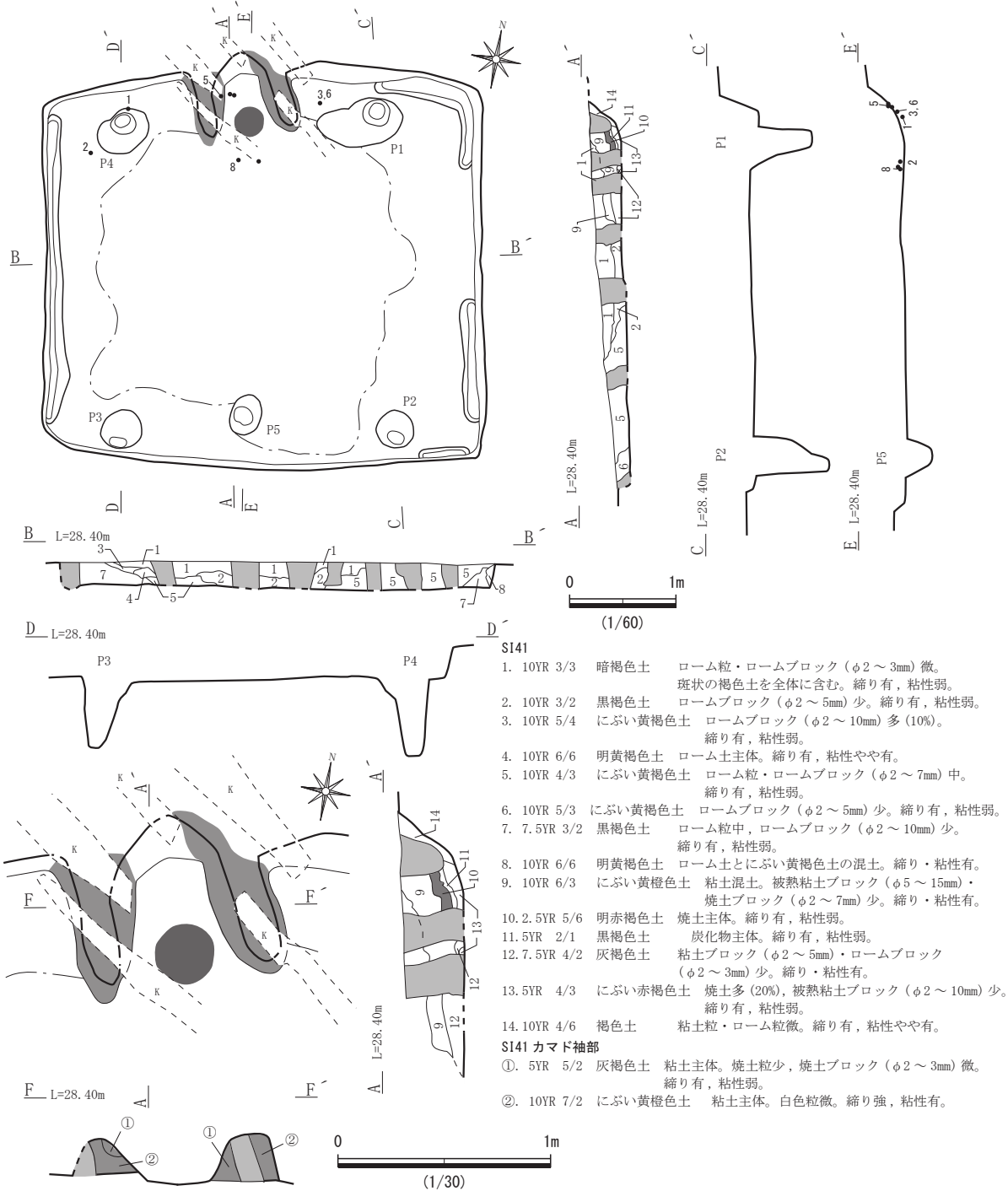
第 88 図 S140



第89圖 SI40 出土遺物

SI41 (第90・91図, 第26・27・29表, 写真図版12・40)

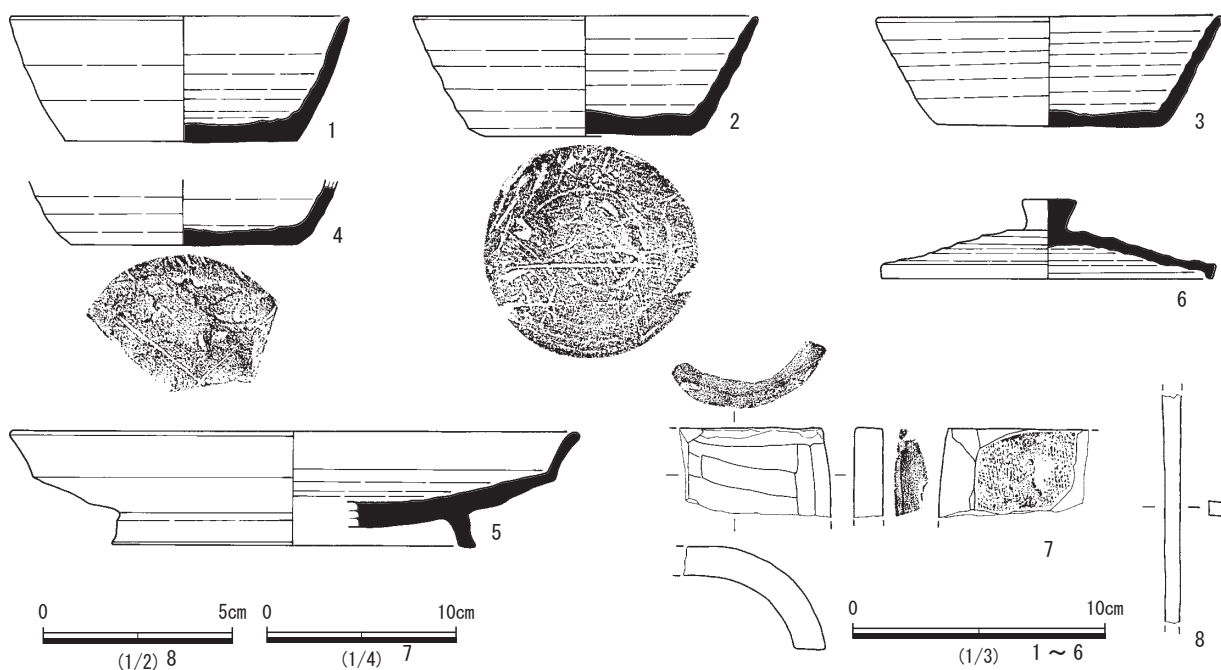
検出位置はB区中央部東寄りのM22グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱が床面まで達している。平面形は歪んだ方形で、北壁側と南壁側がわずかに膨らみ、南側が埋没谷の斜面にかかる。主軸方向はN-12°-Wを示し、規模は東西軸が4.08m、南北軸は最大で3.84m、深さは14~27cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は遺存する部分でブロック状の含有物やローム土が含まれることから、人為堆積の可能性がある。床面は一ムブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床を施し、若干の起伏を伴う。また、東西両壁際を除いた全体に顕著な硬化面が認められる。壁溝は幅8~20cm、深さ2~5cmで確認できない部分が多い。ピットは5基検出されている。P1~4は主



第90図 SI41

柱穴でP 1・4が北壁際へ、P 2・3が南壁際へ寄っている。規模はP 1が82×44 cm、深さ58 cm、P 2が径35 cm、深さ70 cm、P 3が径38 cm、深さ65 cm、P 4が50×37 cm、深さ73 cmで、底部中心がさらに壁際に寄っている。またP 1・4は上部が他と比べて崩れた形状である。P 5は南壁際中央で検出され、出入り口施設に伴うピットと考えられる。規模は39×30 cm、深さ31 cmで南北にやや長い楕円形である。掘り方は、南側が深く掘り込まれている。カマドは北壁のほぼ中央に付設され、攪乱が著しい。構築材は粘土と山砂の混和土を用い、覆土中からは天井部のものと思われる同様の構築土が堆積していた。燃焼部は6 cm程掘り窪められ、火床面にはブロック状焼土が堆積し、壁面も被熱が強い。煙道部の屋外への掘り込みは20 cm程で、全長は88 cm、燃焼部最大幅は46 cm、袖残存長は左袖68 cm、右袖は56 cmである。

遺物は、土師器35点(甕35)、須恵器28点(坏19、蓋5、盤4)、瓦1点(丸瓦1)、鉄製品1点(釘1)が出土した。供膳具は須恵器のみが出土し、木葉下窯産とみられる胎土の製品が主体ではある。新治窯産の破片も少量混在するが、他の遺物よりは古相を呈しているため混入した可能性が高い。煮炊具は土師器甕のみの出土であった。時期は、8世紀第3四半期～第4四半期と考えられる。



第91図 SI41 出土遺物

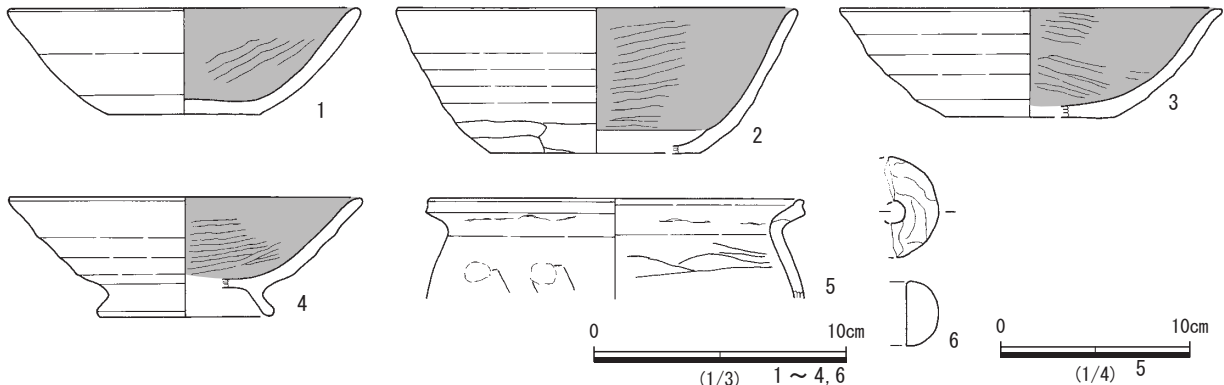
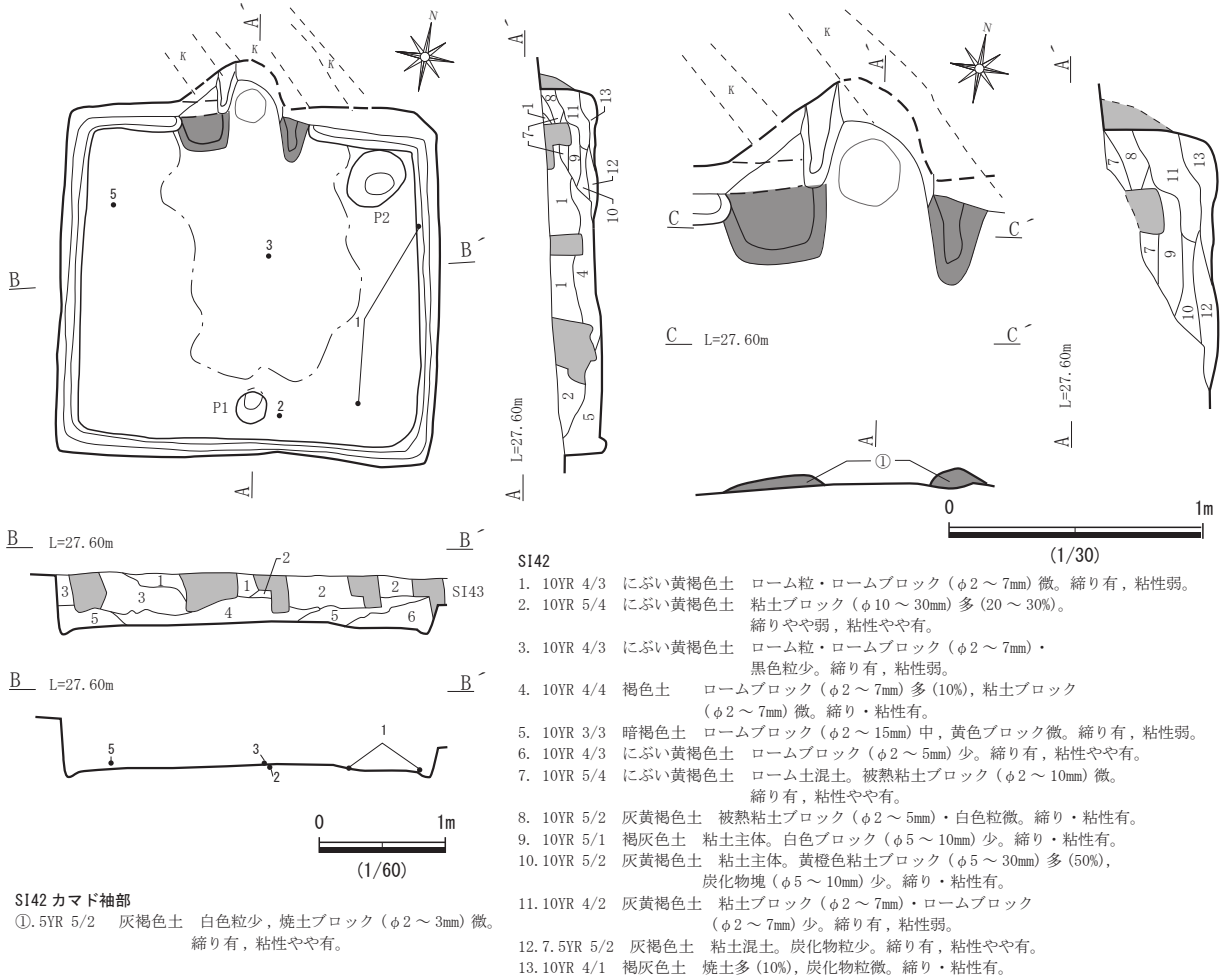
S I 4 2 (第92図, 第26・28表, 写真図版12・13・40)

検出位置はB区中央部東端のN 22・23 グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱が床面まで達している。東側ではSI43と重複し、本建物跡が新しい。平面形は方形で、主軸方向はN-9°-Wを示す。規模は東西軸が3.00 m、南北軸が2.82 m、深さは30～42 cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はほぼ平坦で、カマド前面からP 1にかけて顕著な硬化面が認められる。壁溝は幅6～11 cm、深さ3～6 cmでカマド部分を除き全周する。ピットは2基が検出されている。P 1は南壁際中央にあり、出入り口施設に伴うピットと考えられる。規模は径26 cm、深さ23 cmで建物跡内に差し込んでいる。P 2は北東隅にあり、規模は51×40 cm、深さ13 cmの楕円形で、浅い皿状を呈することから貯蔵穴の可能性がある。掘り方は認められず、直床であった。カマドは北壁のほぼ中央に付設され、攪乱で煙道部から左袖の大半が消失していた。構築材は灰褐色

第3章 調査の成果

粘土を主体にしていたと思われる。焼部は5 cm程掘り窪められ、火床面の赤変硬化は認められなかったが、焼土ブロックが堆積する。煙道部の屋外への掘り込みは約50 cmと想定され、右袖残存長は42 cmである。

遺物は、土師器57点（坏21，高台付坏・碗2，甕34），須恵器5点（坏4，甕1），土製品1点（土玉1）が出土した。供膳具，煮炊具ともに土師器が主体で，坏類はほとんどが内面黒色処理されている。一方，須恵器は小破片のみで極少量出土であった。時期は，9世紀第4四半期～10世紀第1四半期と考えられる。

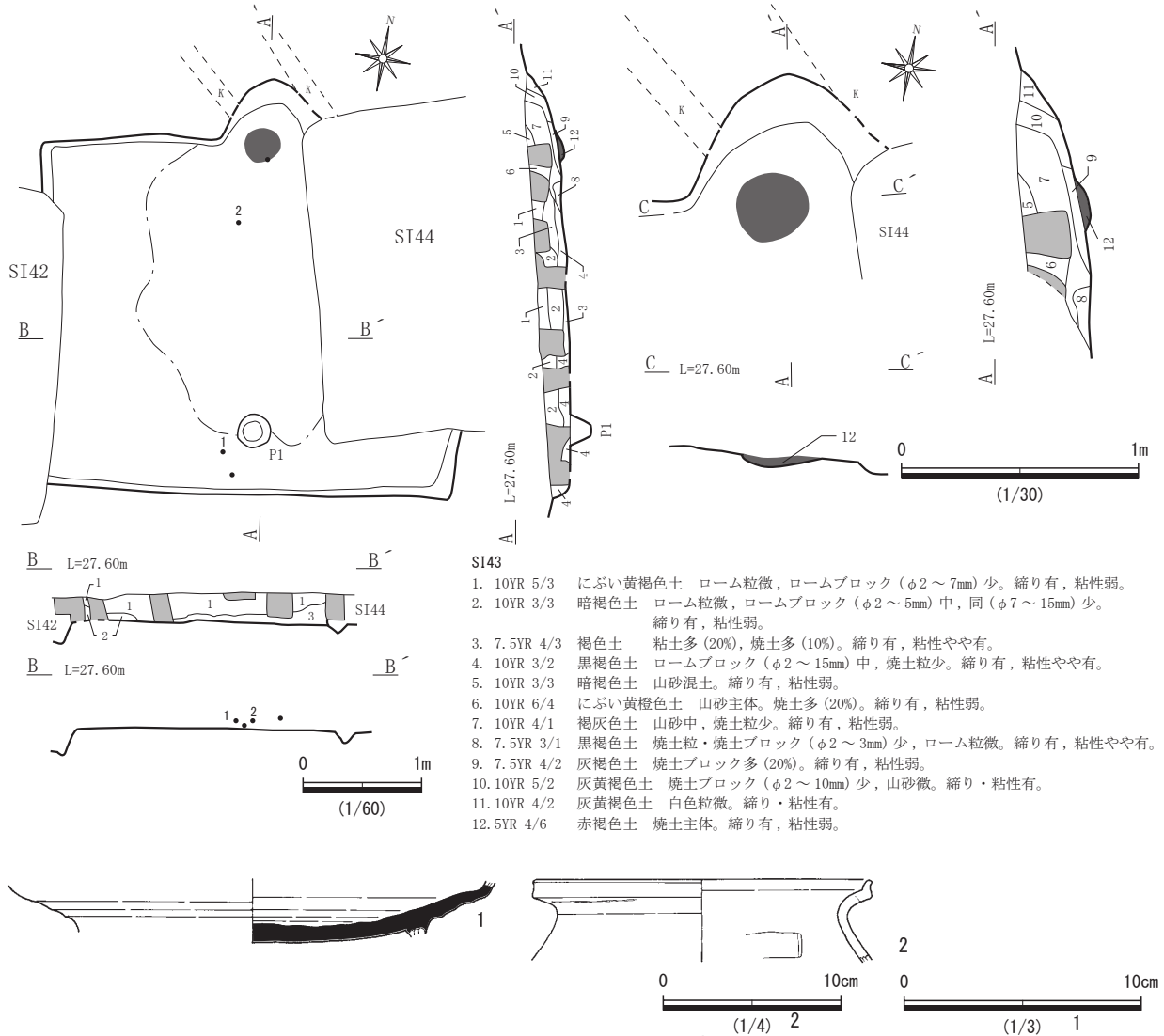


第92図 S142・同出土遺物

SI43 (第93図, 第26表, 写真図版12・13・40)

検出位置はB区中央部東端のN 23グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱が南西部分のみ床面まで達している。東側ではSI44と、西側ではSI42と重複し、本建物跡が最も古い。平面形は方形で、主軸方向はN-13°-Wを示す。規模は東西軸が現存値で3.45m、南北軸が3.00m、深さは15~26cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は遺存する部分でブロック状の含有物やローム土が含まれることから、人為堆積の可能性がある。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床が施され、カマド前面からP1にかけて顕著な硬化面が認められる。壁溝は確認できなかった。ピットは南壁際中央でP1が検出され、出入り口施設に伴うピットと考えられる。規模は径29cm、深さ29cmである。掘り方は、南側が深く掘り込まれていた。カマドは北壁のほぼ中央に付設されたと思われる。攪乱で左袖が失われ、右袖部はSI44に切られ消失していた。構築材は遺存しなかった。燃焼部は4cm程掘り窪められ、火床面の赤変硬化は認められなかったが、焼土が薄く堆積する。煙道部の屋外への掘り込みは68cmである。

遺物は、土師器28点(坏1, 甕27), 須恵器3点(坏1, 盤1, 甕1), 瓦1点(平瓦1), 土製品1点(土玉1)が出土した。供膳具は出土量が不十分のため比較は困難であるが、木葉下窯産とみられる胎土の須恵器がやや多い。時期は、SI42・44の重複関係から8世紀代と考えられる。

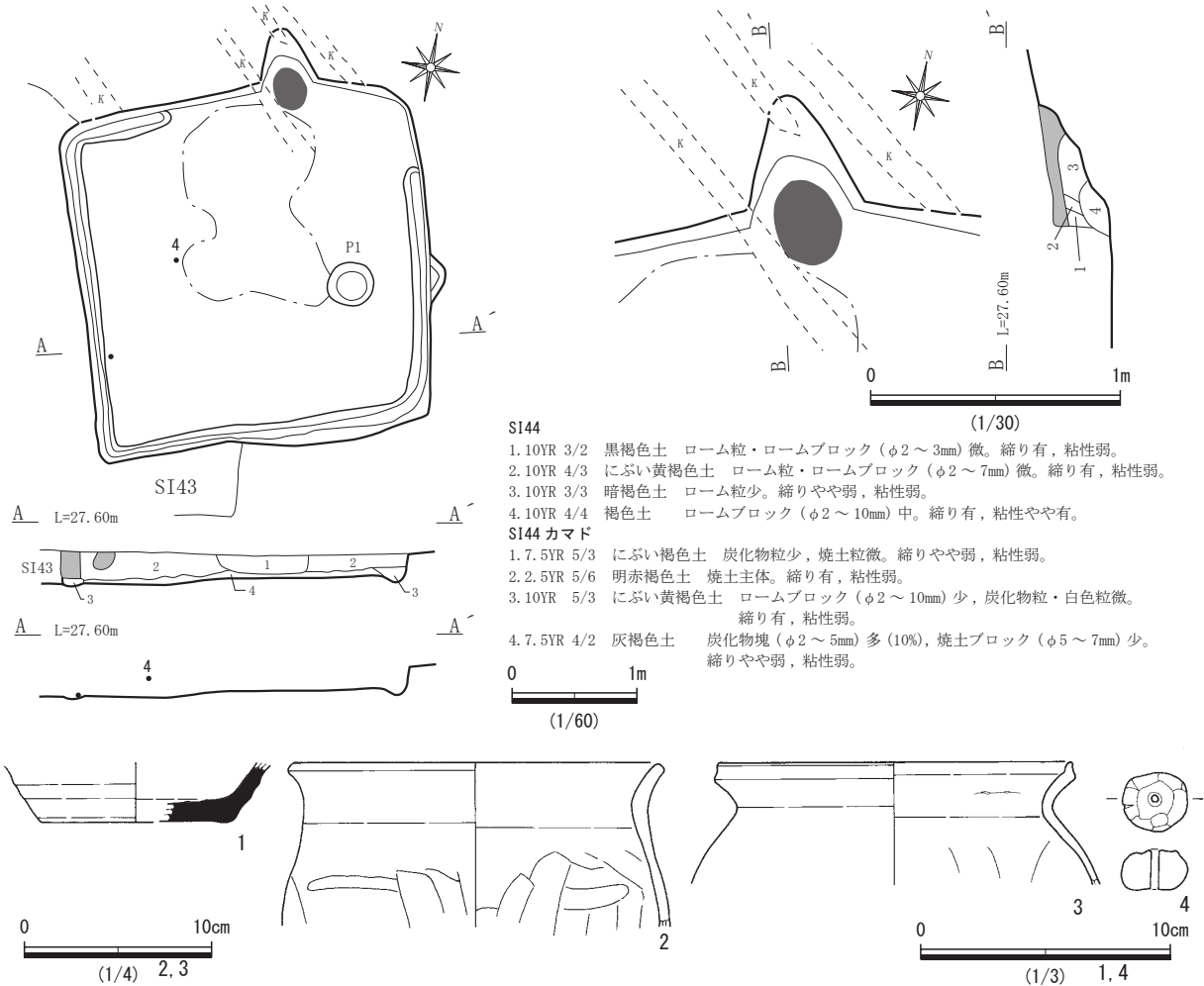


第93図 SI43・同出土遺物

SI44 (第94図, 第26・28表, 写真図版13・40)

検出位置はB区中央部東端のN 23 グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱が北側カマドから北西部が床面まで達している。西側ではSI43と重複し、本建物跡が新しい。平面形はほぼ方形で、主軸方向はN-16°-Wを示す。規模は東西軸が2.81m, 南北軸が2.88m, 深さは15~26cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は遺存する部分から自然堆積と考えられる。床面はほぼ平坦であるが、重複した建物跡の影響からか南西側がやや沈んでいる。顕著な硬化面が認められるのは、カマド前面から中央部にかけてであった。壁溝は幅8~16cm, 深さ5~9cmで、北西側部分は攪乱が入り確認できなかった。ピットは東壁寄りP1を検出するが、規模は径35cm, 深さ6cmと小規模である。掘り方は認められず、直床であった。カマドは東壁と北壁双方で検出された。残存状況から東カマドが先行し、廃棄後に北カマドを構築したと考えられる。東カマドは東壁の中央やや南寄りに付設される。煙道部上部のみが残存し、屋外への掘り込みは12cm程であった。北カマドは北壁の中央東寄りに付設される。攪乱で燃烧部のみが残存である。構築材は燃烧部内に崩落した灰褐色粘土が用いられたと思われる。燃烧部は焼土ブロックが堆積する火床面のみ認められた。煙道部の屋外への掘り込みは40cmである。

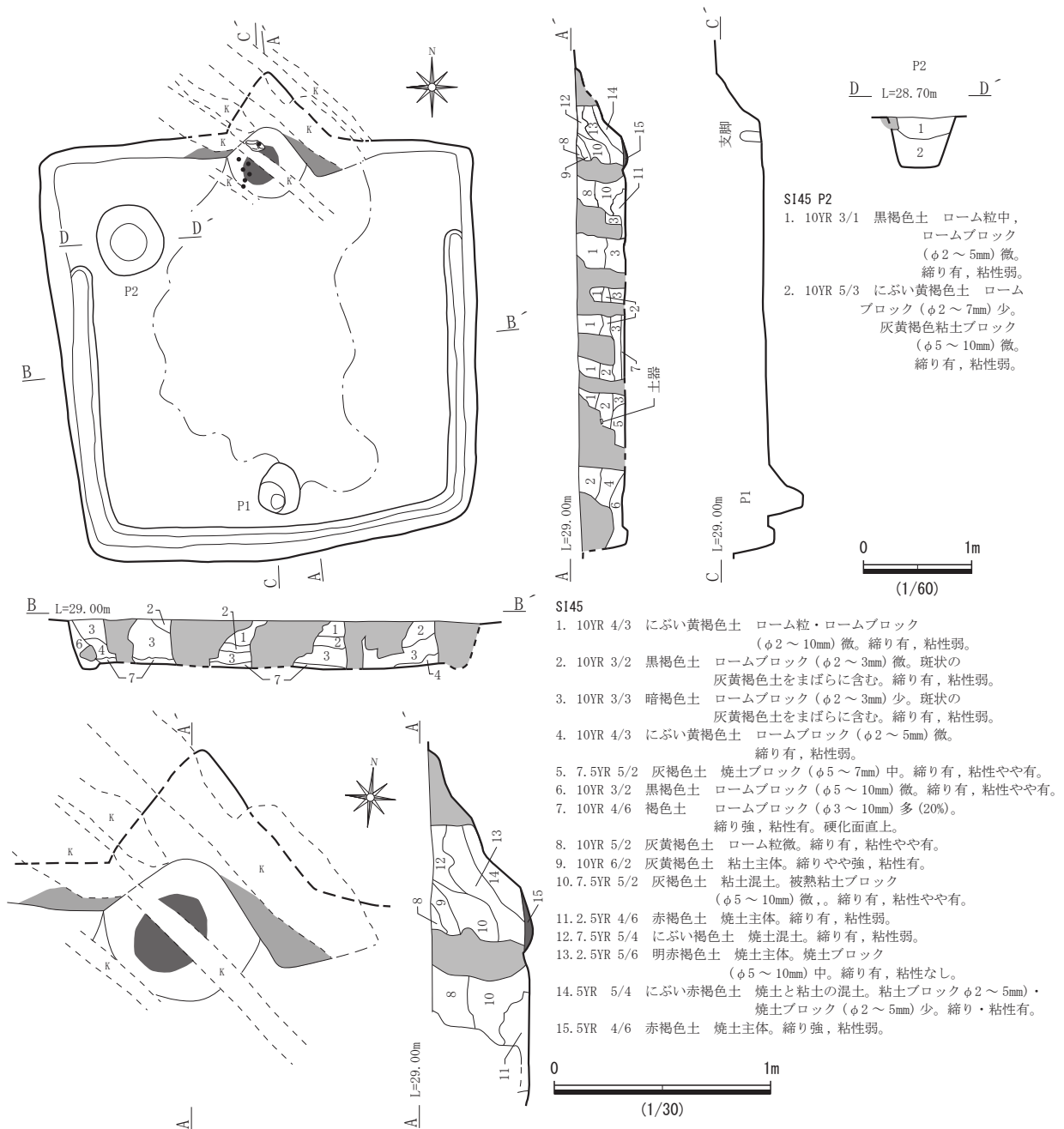
遺物は、土師器34点(坏2, 甕31, 甑1), 須恵器10点(坏6, 盤4), 土製品1点(土玉1)が出土した。供膳具は木葉下窯産とみられる胎土の須恵器が主体である。時期は、遺物の出土量が不十分であるが9世紀代と考えられる。



第94図 SI44・同出土遺物

S I 4 5 (第95・96図, 第26・28表, 写真図版13・40)

検出位置はB区中央部のK 22, L 22グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱を受け、床面まで達している。平面形は歪んだ方形で、北壁側及び西壁側がやや広い。主軸方向はN-3°-Wを示す。規模は東西軸の東側が3.54 m, 西側が3.85 m, 南北軸の南側が3.58 m, 北側が4.00 m, 深さは41 cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はほぼ平坦で、カマド前面からP 1にかけて顕著な硬化面が認められる。壁溝は幅14~24 cm, 深さ2~6 cmで北壁際及び北東・北西隅では確認できなかった。ピットは2基が検出されている。P 1は南壁際中央で検出され, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。規模は48×38 cm, 深さ34 cmの楕円形で南北に長い。P 2は北西隅にあり, 貯蔵穴の可能性がある。規模は径70 cm, 深さ49 cmの楕円形で, 円筒状を呈する。

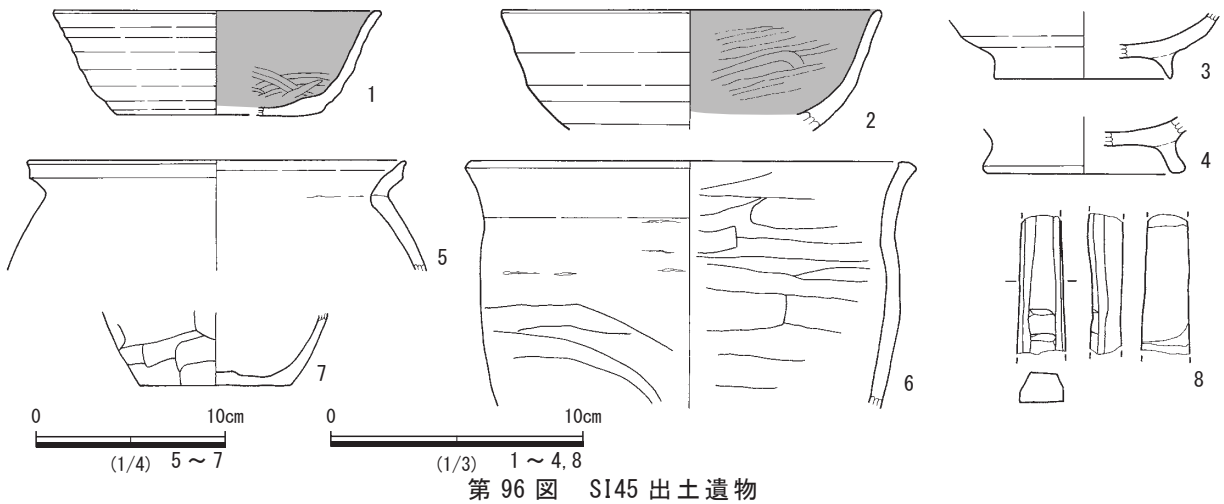


第95図 S145

第3章 調査の成果

掘り方は、東壁寄り、南壁際の中央と東・西隅にそれぞれ浅い皿状の掘り込みが認められる。カマドは北壁の中央に付設されるが、攪乱が激しく入り焼部以外はほとんどが消失していた。構築材は残存した袖部と焼部上部で天井部の崩落とみられる灰黄褐色粘土層が認められ、これを主体に用いたと思われる。焼部は深さ 18 cm 程掘り込まれた上面に、焼土・焼土ブロックの堆積する火床面が認められる。火床面の煙道部寄りには支脚が立脚していた。煙道部の屋外への掘り込みは約 60 cm と想定され、全長 116 cm、焼部幅 52 cm、袖残存長は 34 cm であったと思われるが、左袖は壁面に貼り付けられた部分のみの残存であった。

遺物は、土師器 324 点（坏 66、高台付坏・椀類 5、甕 253）、須恵器 45 点（坏 25、高台付坏 2、壺・瓶類 1、甕 17）、土製品 1 点（不明 1）が出土した。供膳具は土師器が主体で、内面黒色された土器の割合が高い。坏の口縁部から体部片にかけての破片が多く、高台付坏・椀類も含まれていると思われる。1 は胎土に金雲母を多量に含み、他の土師器に比べて異質である。須恵器では図示できる遺物はなかったが、木葉下窯産とみられる胎土の坏類が中心であった。時期は、9 世紀第 3 四半期～第 4 四半期と考えられる。



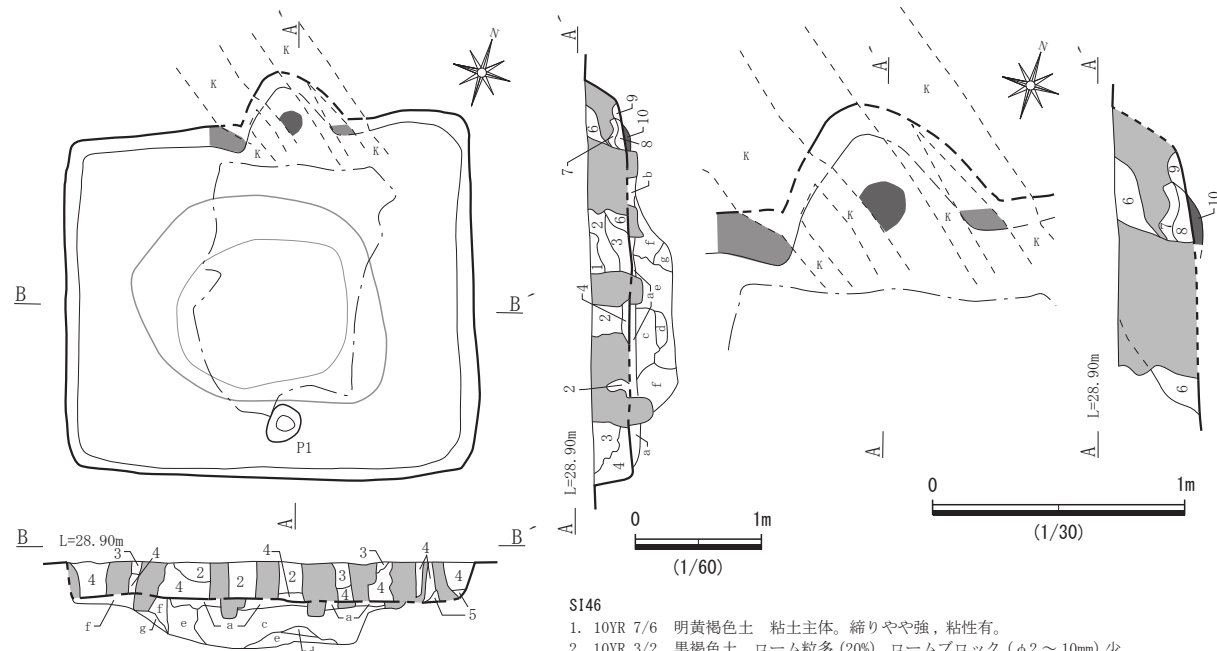
第 96 図 SI45 出土遺物

SI46（第 97 図，写真図版 13）

検出位置は B 区中央部の L 21・22 グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱が床面まで達している。平面形はやや歪んだ方形で、東壁側がやや広い。主軸方向は N - 18° - W を示す。規模は東西軸が 3.25 m、南北軸の東側が 2.90 m、西側が 2.61 m、深さは 26 ~ 31 cm で壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はカマド前面から P 1 にかけて顕著な硬化面が認められる。壁溝は確認できなかった。ピットは南壁際中央で P 1 が検出され、出入り口施設に伴うピットと考えられる。規模は径 30 cm、深さ 23 cm である。掘り方は、中央部に土坑状の大きな掘り込みがある。規模は東西軸が 1.80 m、南北軸が 1.62 m、深さ 38 cm で、やや方形気味に掘り込まれ、ロームブロックを多量に含んだ埋め土上に 3 ~ 6 cm の貼り床が施されている。カマドは北壁のほぼ中央に付設されるが、攪乱が入りほとんどが消失していた。構築材は残存した袖部から灰黄褐色粘土が用いられたと思われる。焼部の掘り窪みはほとんどなされていないが、中央部に焼土ブロックが堆積した火床面が認められる。焼部から煙道部の屋外への掘り込みは約 55 cm と想定され、袖部は掘り込み両端の壁面に貼り付けられた程度と考えられる。

遺物は、土師器 23 点（坏 3、甕 19、甗 1）、須恵器 12 点（坏 5、甕 7）が出土した。小破片のみ

で図示できる遺物はなかった。供膳具では須恵器が土師器を上回るものの大差はない。時期は、出土量が不十分であるが、遺構形態から9世紀第3四半期～第4四半期と思われる。



SI46 掘り方

- | | |
|---|---|
| <p>a. 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ10～30mm) 密。縮り強、粘性有。張り床硬化面。</p> <p>b. 10YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック (φ10～30mm) 多(40%)。縮り・粘性有。張り床硬化面。</p> <p>c. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ5～30mm) 多(20%)。縮り・粘性有。</p> <p>d. 10YR 3/3 暗褐色土 ロームブロック (φ10～30mm) 多(30～40%)。縮り・粘性有。</p> <p>e. 10YR 5/4 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ10～50mm) 密。縮り・粘性有。</p> <p>f. 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ10～40mm) 多(30%)。縮り・粘性有。</p> <p>g. 10YR 4/4 褐色土 ロームブロック主体。縮り・粘性有。</p> | <p>3. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ2～5mm) 多(10%)。同 (φ10～15mm) 少。黒色粒微。縮り有、粘性弱。</p> <p>4. 10YR 4/4 褐色土 ロームブロック (φ2～10mm) 少。縮り有、粘性弱。</p> <p>5. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム主体。縮り有、粘性やや有。</p> <p>6. 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 ローム粒少、ロームブロック (φ2～7mm) 少。縮り有、粘性弱。</p> <p>7. 5YR 5/3 にぶい赤褐色土 焼土混土。ローム粒・ロームブロック (φ2～3mm) 微。縮り有、粘性弱。</p> <p>8. 7.5YR 5/4 にぶい褐色土 焼土粒多(10%)、ローム粒少、ロームブロック (φ2～7mm) 微。縮り有、粘性やや有。</p> <p>9. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 焼土粒微、ローム粒少、ロームブロック (φ2～3mm) 微。縮り有、粘性弱。</p> <p>10. 5YR 4/6 赤褐色土 粘土主体。縮り有、粘性弱。</p> |
|---|---|

第97図 SI46

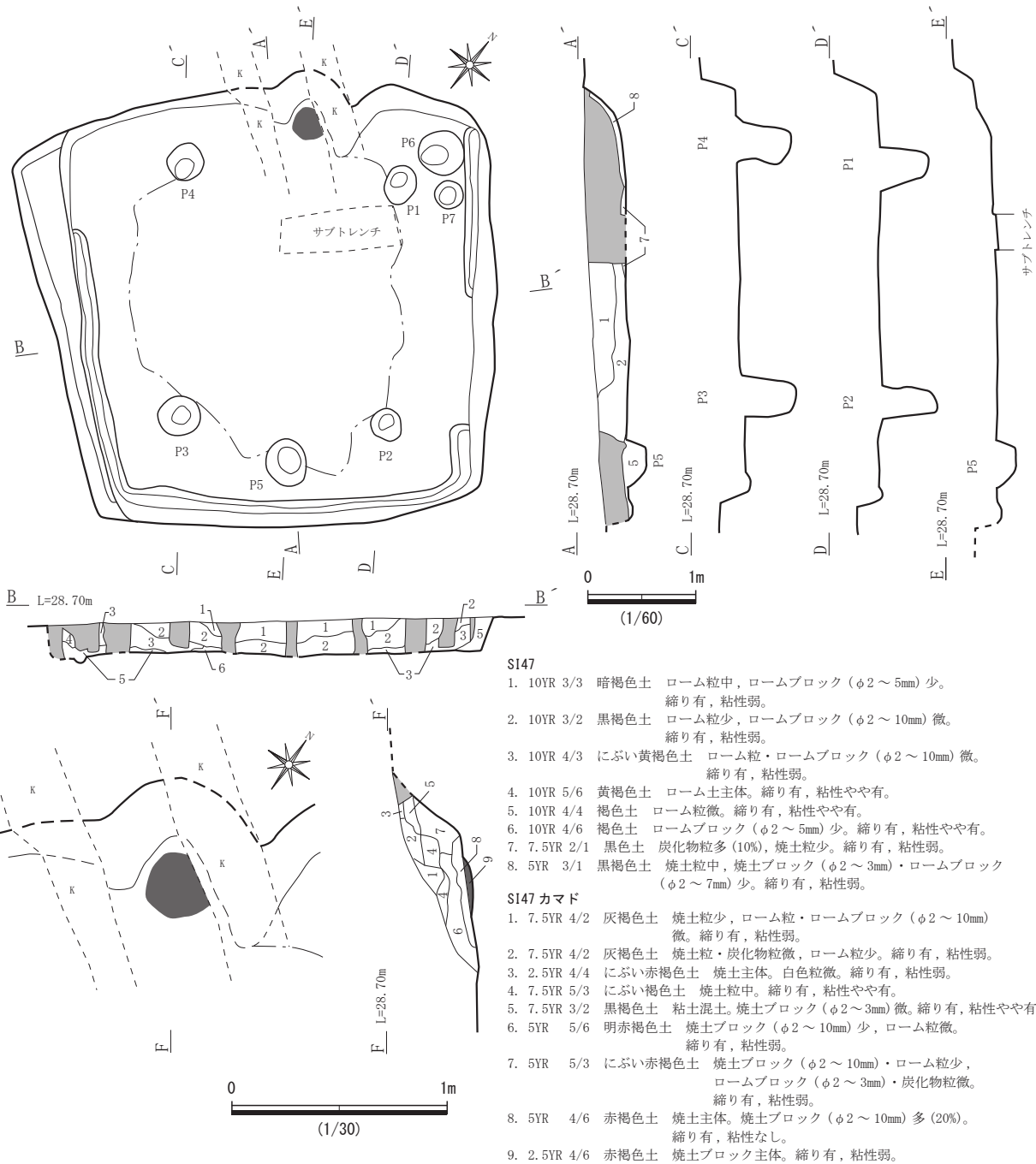
SI47 (第98・99図, 第26・27・29表, 写真図版13・41)

検出位置はB区中央部のL22・23, M22・23グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱が床面まで達している。西壁側では大きく外側へ広がっており、重複または建て替え前の竪穴建物跡が存在した可能性もあるが、それらの痕跡が不明瞭なこともあるため、ここではカマド・支柱穴の配置や残存する壁溝などを重視して見てゆきたい。平面形は歪んだ方形を呈し、カマドを中心とした壁面が膨らんだ形状となる。主軸方向はN-37°-Wを示す。規模は東西軸の南側が3.45m, 北側が3.80m, 南北軸が最大で4.08m, 深さは23～33cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床を施し、カマド前面からP5にかけての支柱穴範囲内に顕著な硬化面が認められる。壁溝は幅12～18cm, 深さ3～7cmで、東西両壁の一部と南壁で確認できる。ピットは7基が検出された。P1～4は支柱穴で、P1が39×30cm, 深さ46cm, P2が径30cm, 深さ54cm, P3が径36cm, 深さ51cm, P4が径36cm, 深さ50cmである。P5は南壁際中央で検出され、出入り口施設に伴うピットと考えられる。規模は径44cm, 深さ18cmである。P6・7は北東隅にあり、P6が径43cm, 深さ18cm, P7が径29cm, 深さ20cmでいずれも用途は不明である。掘り方は、全体に浅く掘り込まれる。カマドは北壁の中央やや東寄りに付設されるが、攪乱によって煙道部及び両袖部が消失している。燃焼部は4cm程掘り窪

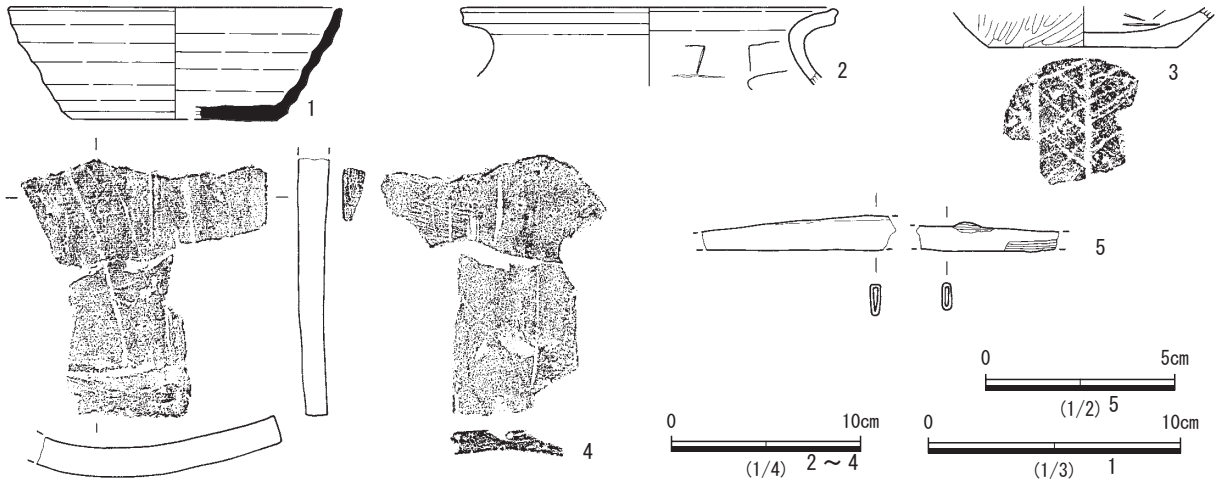
第3章 調査の成果

められ、全体に焼土・焼土ブロックが堆積した火床面になる。煙道部の屋外への掘り込みは17 cm程度とみられ、袖部はローム土を掘り残して構築材を貼り付けたと考えられるが、構築材は残存しなかった。

遺物は、土師器44点(坏2, 甕42), 須恵器7点(坏3, 蓋1, 甕2, 甗1), 瓦3点(平瓦3), 鉄製品1点(刀子1)が出土した。供膳具はほぼ木葉下窯産とみられる胎土の須恵器が占める。時期は、回転ヘラケズリ調整の須恵器坏1を重視した場合, 8世紀第3四半期~第4四半期と考えられる。



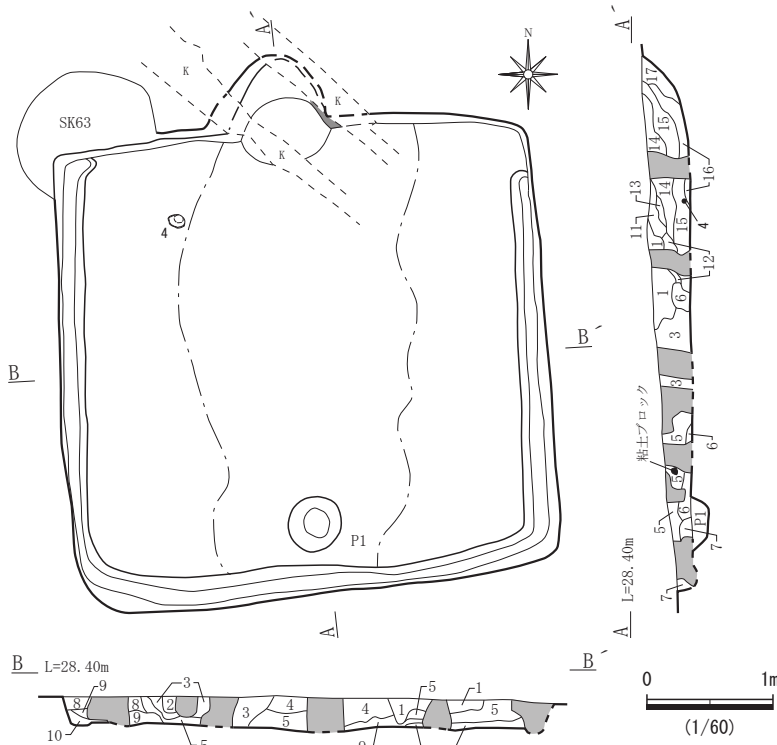
第98図 S147



第99図 SI47 出土遺物

SI48 (第100・101図, 第26表, 写真図版13・41)

検出位置はB区中央部東側のM23グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱が床面まで達している。南側は埋没谷斜面地になる。平面形はほぼ方形で、主軸方向はN-3°-Wを示す。規模は東西軸が3.88m、南北軸が3.76m、深さは13~35cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は、ロームブロックを多く含んだ複雑な堆積層を呈していることから、人為堆積と考えられる。床面は平坦で、カマド前面から南壁にかけての中央部に顕著な硬化面が認められる。壁溝は幅10~21cm、深さ2~4cmで、北壁以外で確認される。ピットは南壁際中央でP1が検出され、出入り口施設に伴うピットと考えられる。規模は径43cm、深さ15cmである。掘り方は、中央を高く残し、浅めではあるが壁際を環状に掘り込んでいる。カマドは北壁の中央に付設されるが、攪乱によって煙道部及び燃燒部の一部が消失している。構築材は灰黄褐色粘土を用いたとみられるが、残存がわずかであまり使



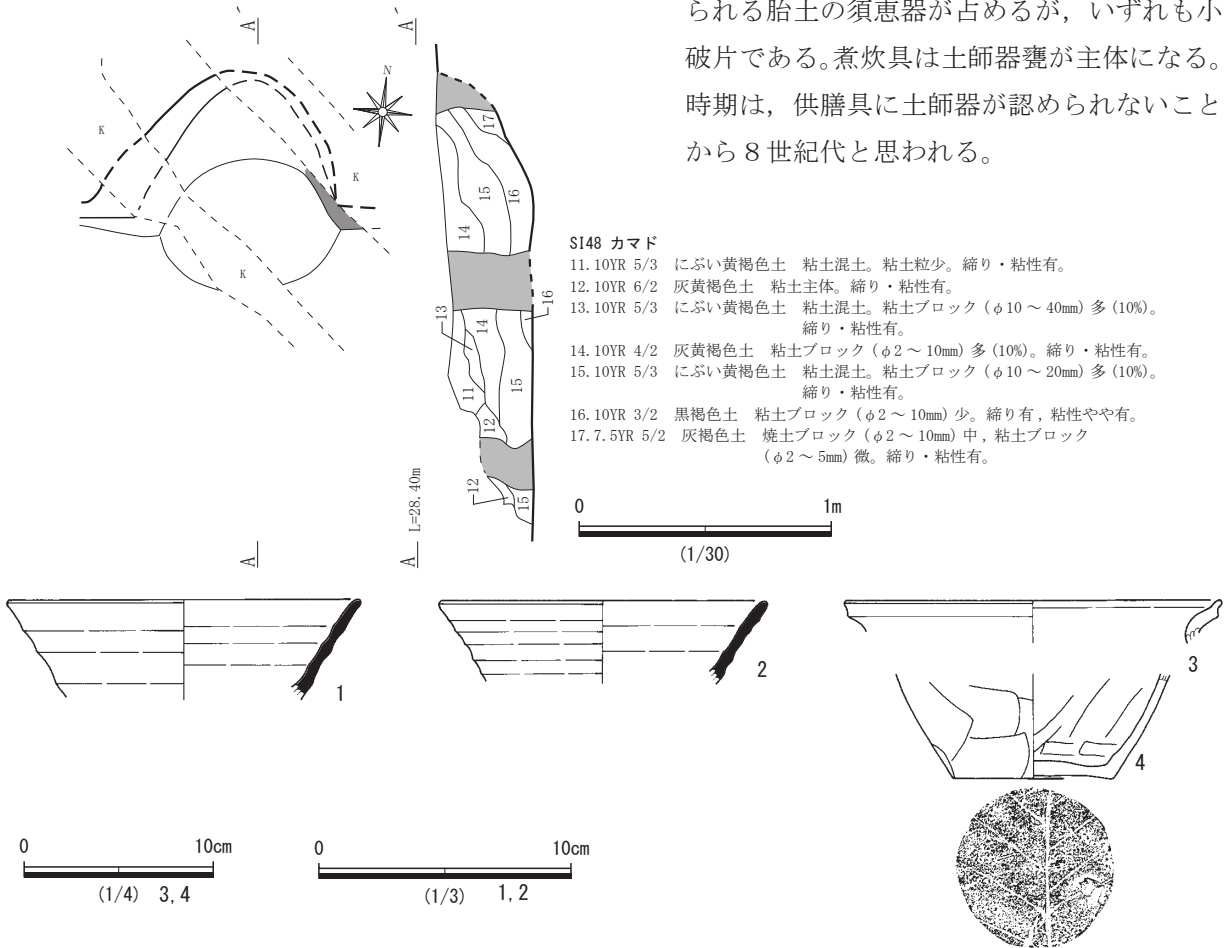
SI48

1. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ2~7mm) 少。縮り有, 粘性弱。
2. 10YR 5/4 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ2~5mm) 少, 黒色土ブロック (φ2~7mm) 微。縮り有, 粘性やや有。
3. 10YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック (φ2~3mm) 中, 粘土ブロック (φ5~15mm) 少。縮り有, 粘性やや有。
4. 10YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック (φ2~7mm) 多 (30%), 同ブロック (φ10~15mm) 少。縮り有, 粘性やや有。
5. 10YR 4/2 灰黄褐色土 ロームブロック (φ2~10mm) 多 (40%), 粘土ブロック (φ2~5mm) 少。縮り・粘性有。
6. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ2~10mm) 少。縮り・粘性有。
7. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ2~3mm) 微。縮り有, 粘性やや有。
8. 10YR 3/2 褐色土 ローム粒少, ロームブロック (φ2~10mm) 微。縮り有, 粘性やや有。
9. 10YR 3/3 暗褐色土 ロームブロック (φ2~3mm) 少。縮り有, 粘性やや有。
10. 10YR 4/2 灰黄褐色土 ロームブロック (φ2~10mm) 中, 粘土ブロック (φ5~10mm) 微。縮り有, 粘性弱。

第100図 SI48 (1)

用されなかったと思われる。燃烧部は6 cm程掘り窪められるが、被熱したローム面だけが残存し、焼土等は認められなかった。煙道部の屋外への掘り込みは50 cm前後と想定される。袖部は検出されず、構築材を壁に貼り付けた程度であったと考えられる。

遺物は、土師器 25 点（甕 25）、須恵器 30 点（坏 29、甕 1）が出土した。供膳具は木葉下窯産とみられる胎土の須恵器が占めるが、いずれも小破片である。煮炊具は土師器甕が主体になる。時期は、供膳具に土師器が認められないことから8世紀代と思われる。



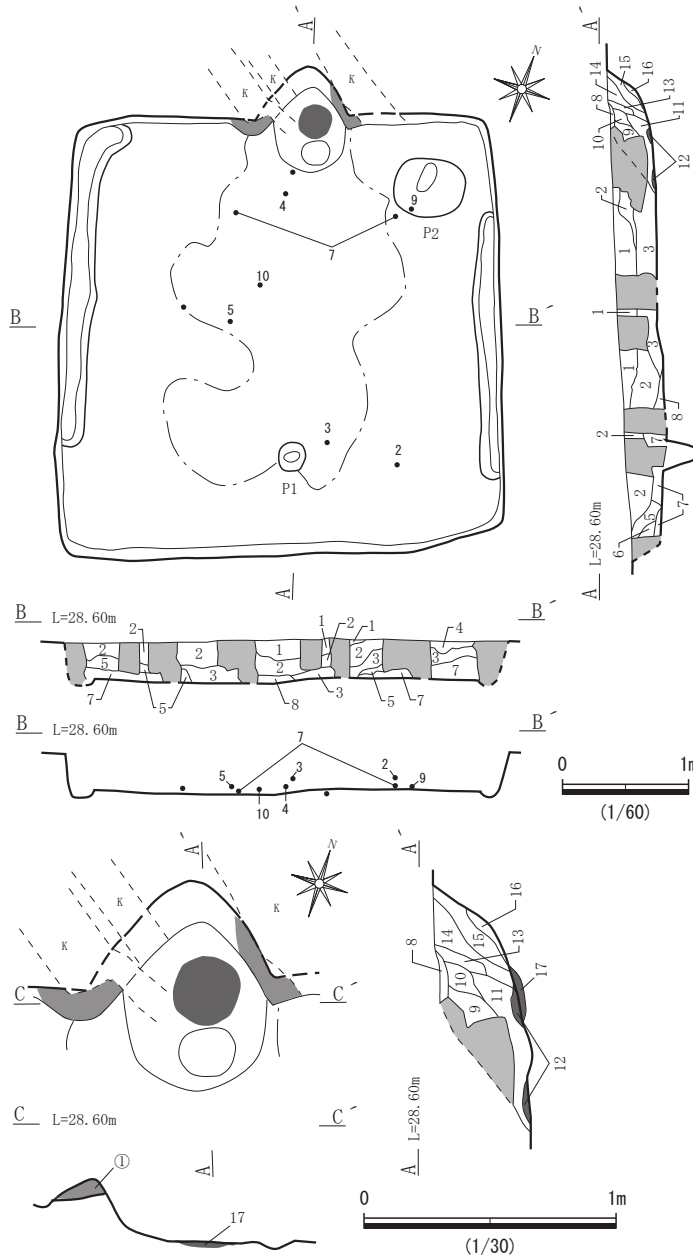
第 101 図 S148 (2)・同出土遺物

S I 4 9（第 102・103 図，第 26 表，写真図版 13・41）

検出位置はB区中央部東側のL 23, M 23 グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱が床面まで達している。平面形は歪んだ正方形で、南側が若干広い。主軸方向はN-19°-Wを示す。規模は東西軸の南側が3.54 m、北側が3.30 m、南北軸が3.46 m、深さは24～28 cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床が施され、カマド前面からP 1にかけての中央部に顕著な硬化面が認められる。壁溝は幅14～21 cm、深さ4～6 cmで、東西両壁で確認される。ピットは2基が検出された。P 1は南壁寄り中央にあり、出入り口施設に伴うピットと考えられる。規模は径24 cm、深さ31 cmである。P 2は北東隅にあり貯蔵穴と考えられたが、整形から掘り方の可能性もある。規模は56×45 cm、深さ18 cmの浅い楕円形である。掘り方は、全体に掘り下げられている。カマドは北壁の中央に付設されるが、攪乱によって燃烧部の一部が消失している。構築材は明褐灰色粘土を主体に用いられるが、残存がわずかであまり使用されなかったと思われる。燃烧部は8 cm程掘り窪められ南北に長く赤変硬化した部分が認められた。燃烧部から煙道部の屋外への掘り込みは43 cmである。全長は83 cm、燃烧部最大幅54 cm、袖残存長

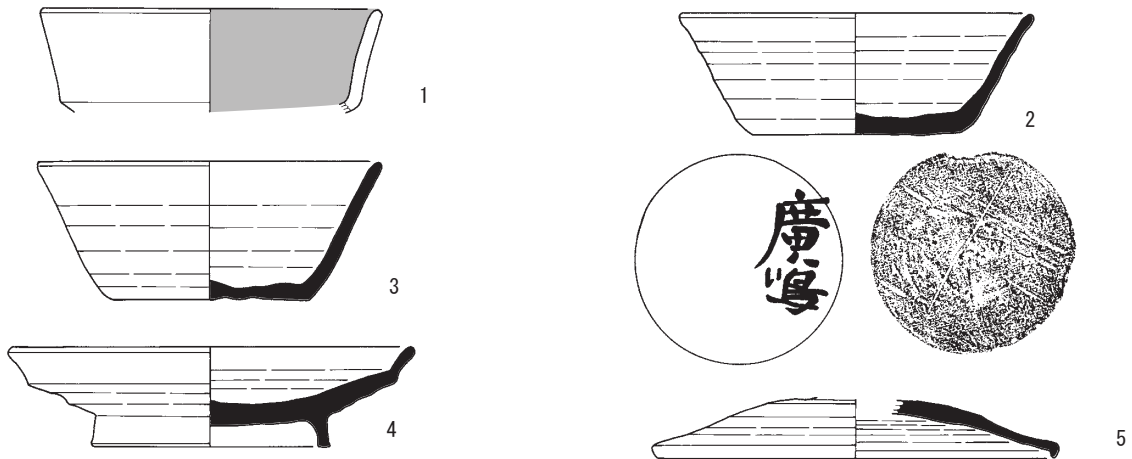
は左袖 10 cm, 右袖は構築材を壁に貼り付けた程度の残存である。

遺物は、土師器 63 点 (坏 4, 甕 59), 須恵器 32 点 (坏 25, 盤 1, 蓋 1, 甕 4, 高坏 1) が出土した。供膳具は木葉下窯産とみられる胎土の須恵器が主体で、わずかに新治窯産の小破片も混在する。土師器は 1 で図示したように内面黒色処理した土師器坏類がわずかに認められる。時期は、8 世紀第 4 四半期～9 世紀第 1 四半期と考えられる。

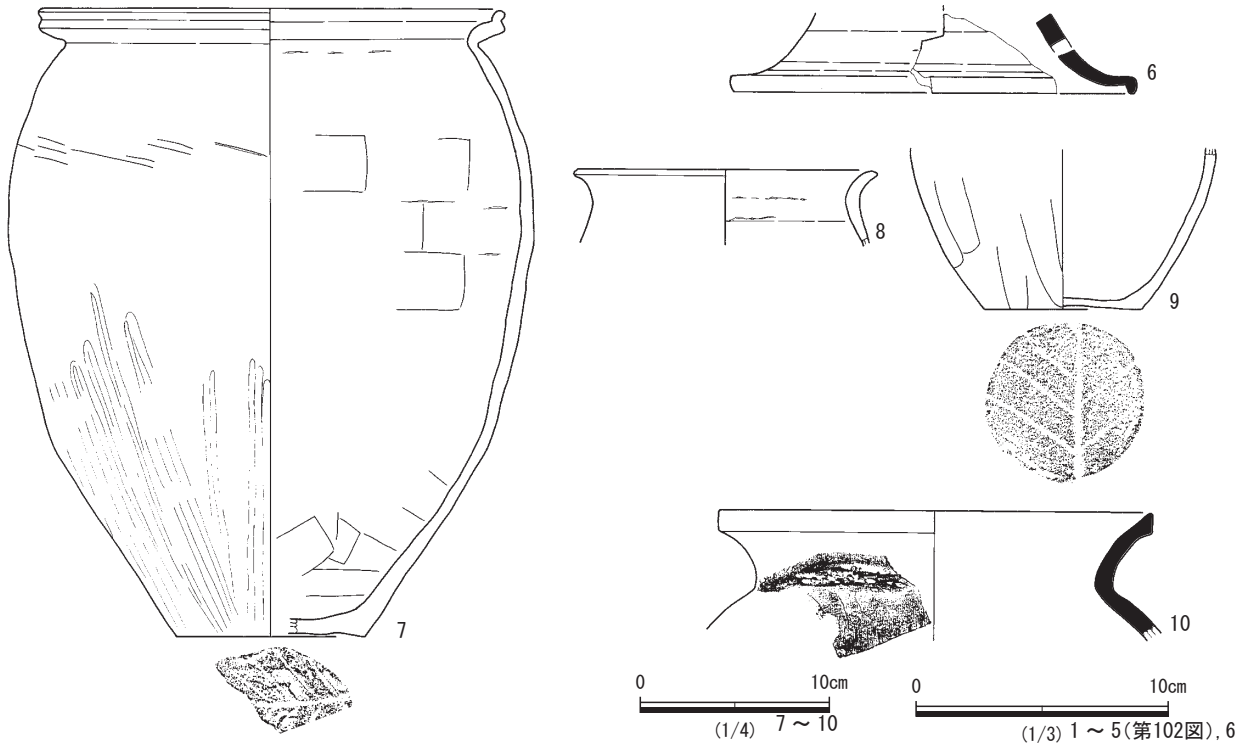


S149

1. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ2～10mm) 多 (10%)。縮り有, 粘性弱。
 2. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒微, ロームブロック (φ2～10mm) 少。縮り有, 粘性弱。
 3. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ2～10mm)・炭化物塊 (φ5～10mm) 微。縮り有, 粘性弱。
 4. 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 ローム土混土。縮り有, 粘性やや有。
 5. 10YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック (φ2～10mm) 多 (40%), 粘土ブロック (φ2～5mm) 少。縮り有, 粘性弱。
 6. 10YR 3/2 黒褐色土 粘土混土。縮り・粘性有。
 7. 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ2～5mm)・炭化物粒微。縮り有, 粘性やや有。
 8. 10YR 6/2 灰黄褐色土 粘土混土。白色粒・炭化物粒微, ロームブロック (φ2～3mm) 少。縮り有, 粘性やや有。
 9. 10YR 6/1 褐灰色土 粘土主体。縮り・粘性有。
 10. 10YR 5/1 褐灰色土 粘土混土。白色粒・被熱粘土ブロック (φ5～10mm) 微。縮り・粘性有。
 11. 10YR 5/2 灰黄褐色土 焼土粒・ローム粒少。縮り・粘性有。
 12. 5YR 4/6 赤褐色土 焼土と粘土の混土。縮り・粘性有。
 13. 10YR 7/1 灰白褐色土 粘土主体。白色ブロック (φ2～5mm)・被熱粘土ブロック (φ2～5mm) 少。縮りやや強, 粘性有。
 14. 10YR 5/1 褐灰色土 粘土混土。焼土少, 被熱粘土ブロック (φ2～5mm) 多 (10%)。縮り強, 粘性やや強。
 15. 10YR 5/2 灰黄褐色土 焼土ブロック (φ2～5mm) 微, 被熱粘土ブロック (φ2～5mm) 少。縮り・粘性有。
 16. 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 被熱粘土ブロック (φ2～3mm) 少。縮り・粘性有。
 17. 5YR 5/6 明赤褐色土 被熱ローム主体。縮り強, 粘性なし。
- カマド袖部
 ①. 7.5YR 7/2 明褐灰色土 粘土主体。白色粒微。縮り強, 粘性有。



第 102 図 S149・同出土遺物 (1)

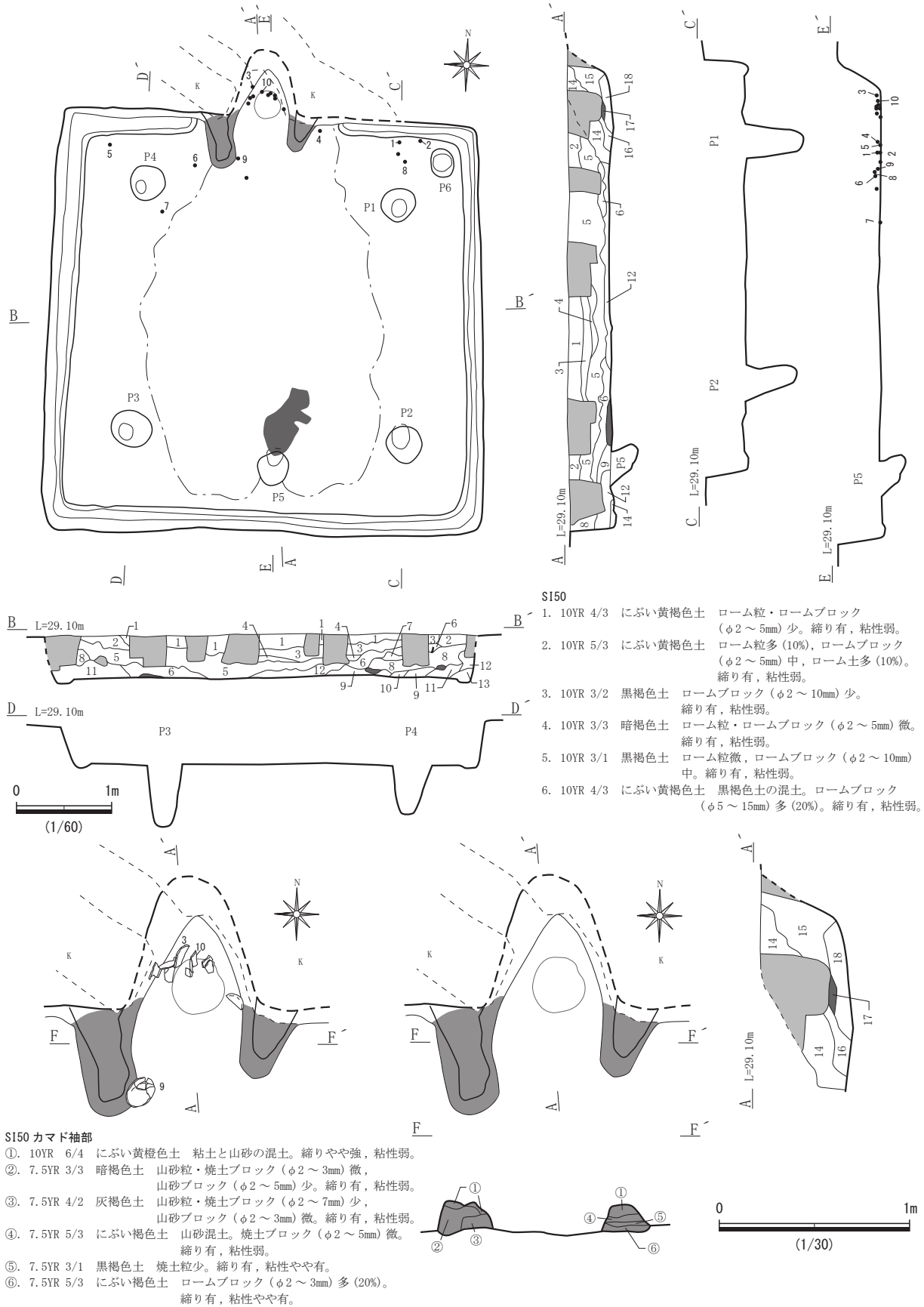


第103図 SI49 出土遺物(2)

SI50 (第104・105図, 第26表, 写真図版14・41・42)

検出位置はB区J 21・22グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱を受けているが、床面までは達していない。平面形はやや歪んだ正方形で、南側が若干広くなる。主軸方向はN-3°-Wを示す。規模は東西軸の南側が4.64m、北側が4.38m、南北軸が4.37m、深さは43~46cmで壁は垂直に立ち上がる。覆土は中央部の埋没が自然堆積とみられるが、壁際はロームブロックを多量に含んでいることから人為的堆積の可能性がある。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床を施し、カマド前面からP5にかけての支柱穴範囲内は顕著な硬化面が認められる。壁溝は幅11~18cm、深さ3~6cmで、カマド部分を除き全周する。ピットは6基が検出された。P1~4は支柱穴で、P1が径34cm、深さ60cm、P2が径37cm、深さ57cm、P3が径43cm、深さ66cm、P4が径36cm、深さ53cmである。P5は南壁際中央で検出され、出入り口施設に伴うピットと考えられる。規模は径36cm、深さ27cmで、建物内に向かって差し込んでいる。P6は北東隅にあり、規模が径30cm、深さ16cmの小ピットで、用途は不明である。掘り方は、全体に浅く掘り下げられ、南壁寄りとかまど寄りの部分がやや深めに掘り込まれている。カマドは北壁のほぼ中央に付設される。煙道部などの上部が攪乱を受けるものの全体の影響は少ない。構築材は粘土と山砂の混和土が用いられる。燃焼部の掘り窪みはなく、赤変硬化した部分も認められないが、被熱したローム面が残存している。燃焼部から煙道部の屋外への掘り込みは約70cmと想定され、燃焼部最大幅54cm、袖残存長は左袖55cm、右袖は31cmである。左袖の上部は攪乱の影響で、構築材が屋内に流れ込んだ可能性がある。

遺物は、土師器70点(坏1, 甕69), 須恵器47点(坏32, 高台付坏2, 盤1, 蓋3, 甕5, 壺・瓶類4)が出土した。供膳具はほぼ木葉下窯産とみられる胎土の須恵器が占める。1~4の坏はいずれも底面がナゲ調整となる。坏とした5はコップ型に近い形態で、胎土も精良である。8の盤は大型になる。時期は、8世紀第3四半期~第4四半期と考えられる。

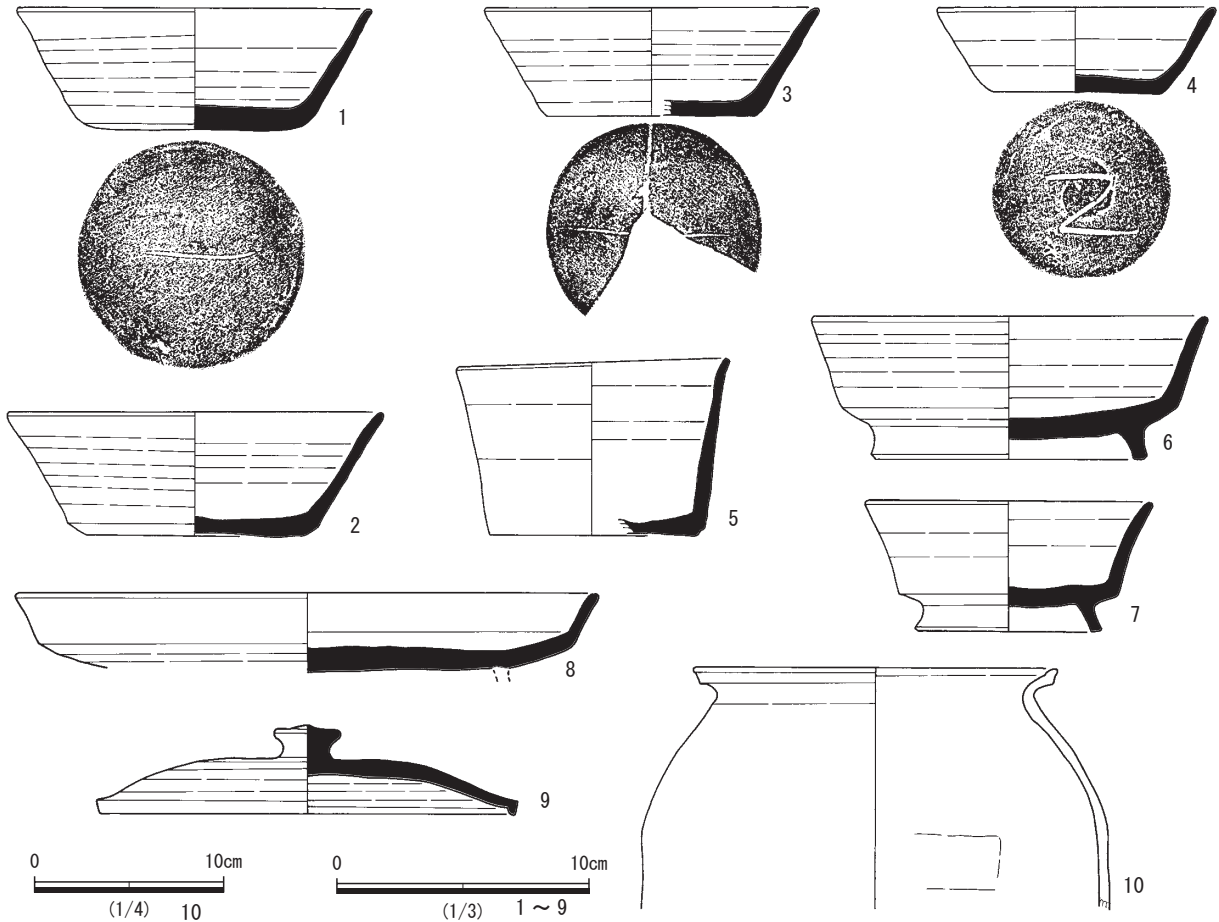


第104図 S150

第3章 調査の成果

S150

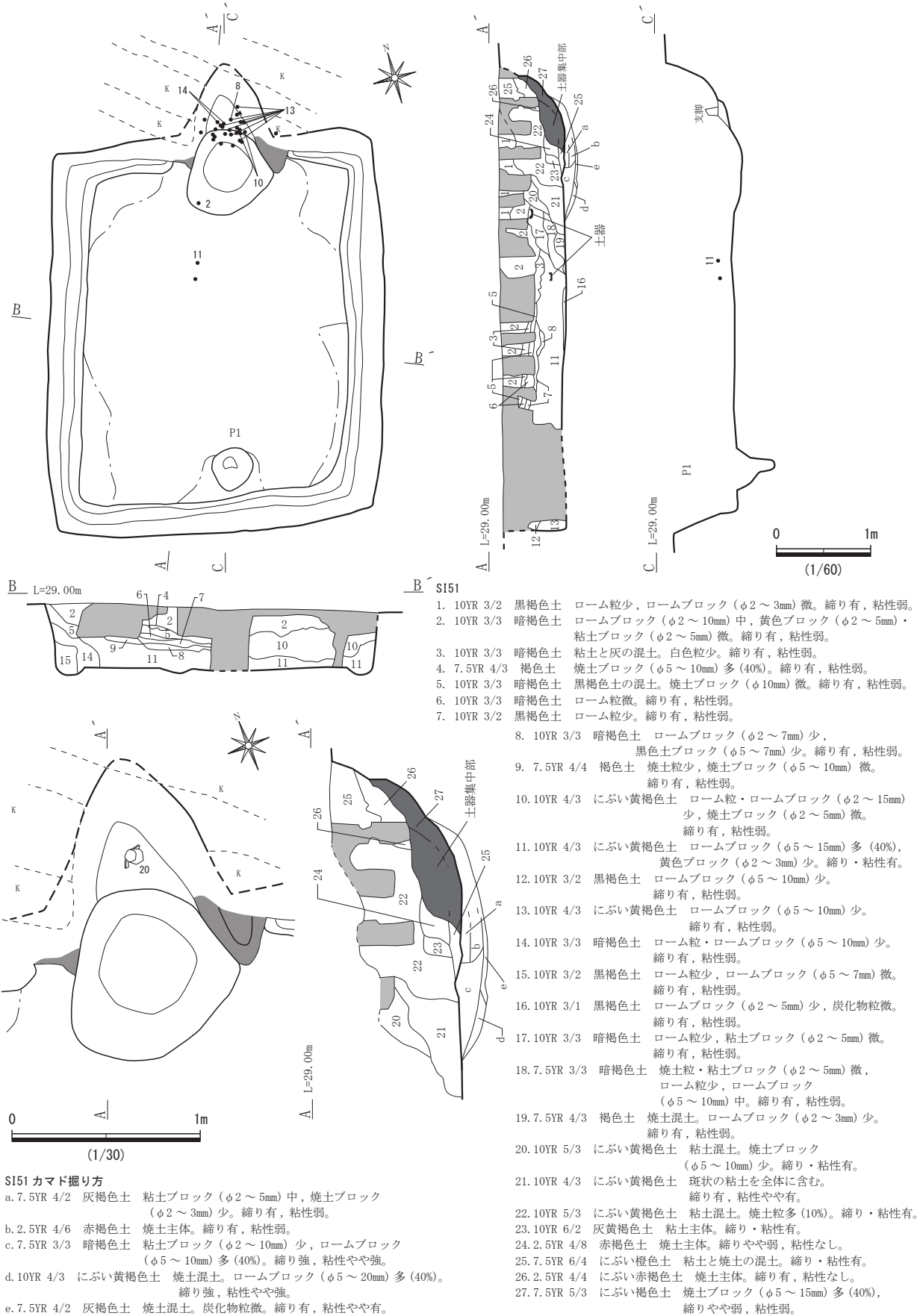
- | | | | |
|----------------------|--|--------------------|---|
| 7. 10YR 3/1 黒褐色土 | ロームブロック (φ2~3mm) 少。縮り有, 粘性弱。 | 13. 10YR 3/3 暗褐色土 | ロームブロック (φ10~40mm) 多 (10%)。縮りやや弱, 粘性やや有。 |
| 8. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 | ロームブロック (φ2~7mm) 多 (40%), 同 (φ10~15mm) 少。縮り有, 粘性弱。 | 14. 10YR 4/2 灰黄褐色土 | 黒色土混土。ローム粒少, ロームブロック (φ2~10mm) 中。粘土少。縮り・粘性有。 |
| 9. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 | ロームブロック (φ2~7mm) 多 (10%)。縮り有, 粘性弱。 | 15. 10YR 4/4 褐色土 | ローム粒多 (20%), ロームブロック (φ10~20mm) 中。縮り有, 粘性やや有。 |
| 10. 10YR 4/6 褐色土 | ローム粒微。縮り有, 粘性やや有。 | 16. 10YR 6/2 灰黄褐色土 | 粘土主体。縮り・粘性有。 |
| 11. 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 | ローム粒・ロームブロック (φ2~5mm) 多 (10%)。縮り有, 粘性弱。 | 17. 2.5YR 4/6 赤褐色土 | 焼土主体。縮り有, 粘性弱。 |
| 12. 7.5YR 4/3 褐色土 | ロームブロック (φ2~7mm) 多 (40%), 同 (φ10~20mm) 中。縮り有, 粘性やや有。 | 18. 7.5YR 5/6 明褐色土 | 焼土粒多 (10%)。縮り有, 粘性弱。 |



第105図 S150 出土遺物

SI51 (第106・107図, 第26・28・30表, 写真図版14・42)

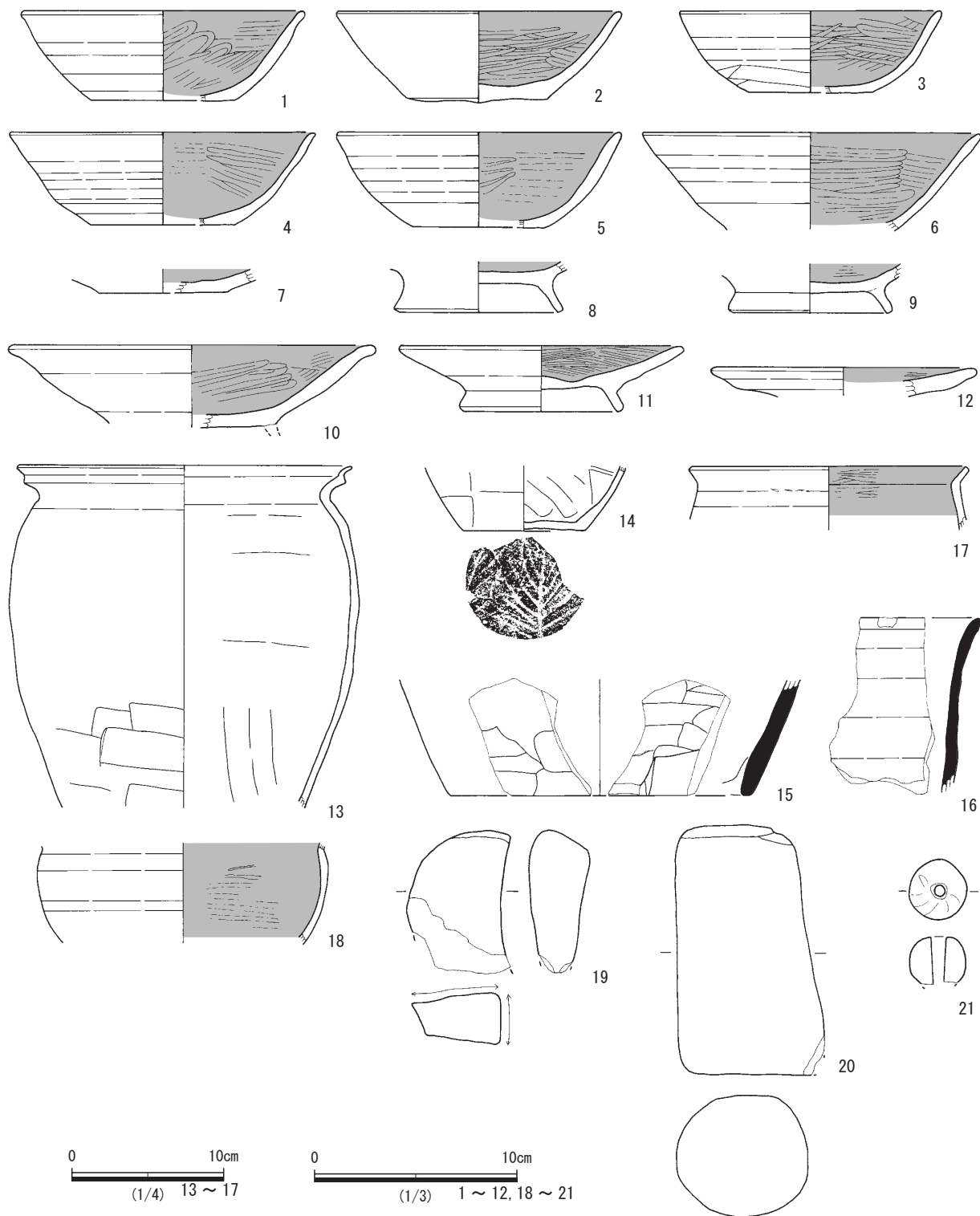
検出位置はB区K 23 グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱を受けて、一部床面まで達している。平面形は南北に長い長方形であるが、歪みが大きい。主軸方向はN-17°-Eを示す。規模は東西軸が3.56 m, 南北軸が4.21 m, 深さは59~67 cmで壁は垂直に立ち上がる。覆土はロームブロックや灰・焼土, 粘土等の混入物が多く含まれ, 人為堆積と考えられる。床面は平坦で, ほぼ全体に顕著な硬化面が認められる。壁溝は幅13~22 cmで, カマド部分を除き全周する。ピットは南壁際中央でP1が検出され, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。規模は径44 cm, 深さ45 cmである。掘り方は, 全体に掘り下げられている。カマドは北壁の中央に付設され, 煙道部などの上部が攪乱を受けるものの全体の影響は少ない。構築材は灰褐色粘土を主体とする。燃焼部は15 cm程掘り窪められ, 焚出口まで及んでいる。燃焼部内には焼土と灰褐色粘土の互層堆積が認められ, 長期間の使用がうかがえる。また, 火床面上での焼土は約15~20 cmと厚く, 多量の土器片を混在する。煙道部寄りには土製支脚が立脚していた。焼土の燃焼部から煙道部の屋外への掘り込みは約80 cm程で全長160 cm, 燃焼部最大幅54 cm, 袖残存長は左袖11 cm, 右袖は26 cmである。



第106図 SI51

第3章 調査の成果

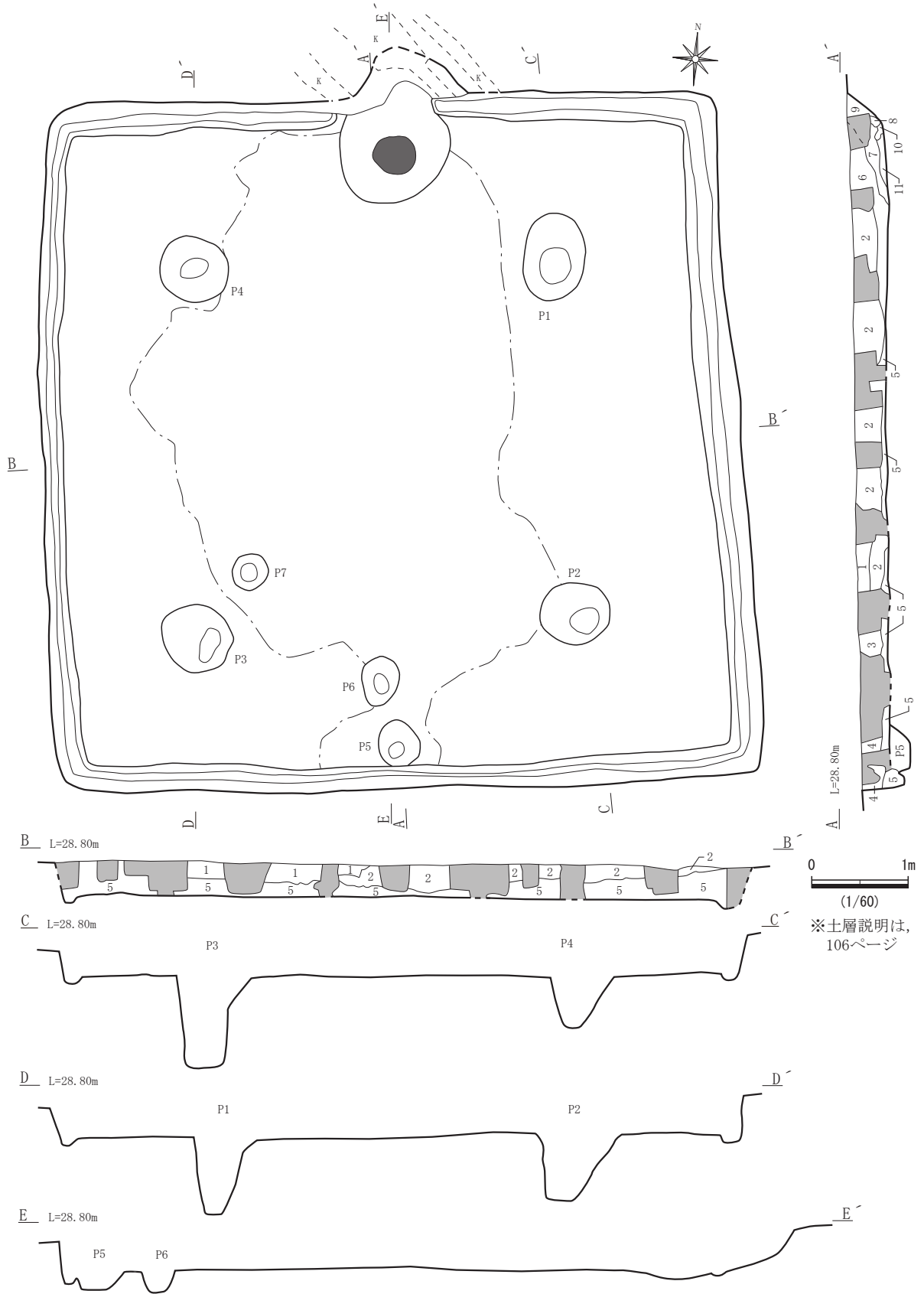
遺物は、土師器 442 点（坏 80，高台付坏・碗 4，皿 55，鉢 2，甕 301），須恵器 68 点（坏 28，高台付坏 3，蓋 2，壺・瓶類 6，甕 22，甗 7），瓦 1 点（平瓦 1），土製品 2 点（支脚 1，土玉 1）が出土した。供膳具は土師器を主体としており，煮炊具を含め全体を見ても土師器の割合が高い。土師器坏・碗・皿類は内面黒色処理が中心で，皿類が他の遺構より多い。須恵器では，ほとんどが小破片で図示できるものがなかった。比較的煮炊具が目立っている。時期は，9 世紀第 4 四半期と考えられる。



第 107 図 S151 出土遺物

SI52 (第108・109図, 第26表, 写真図版14・42)

検出位置はB区K 23・24, L 23・24 グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱が一部

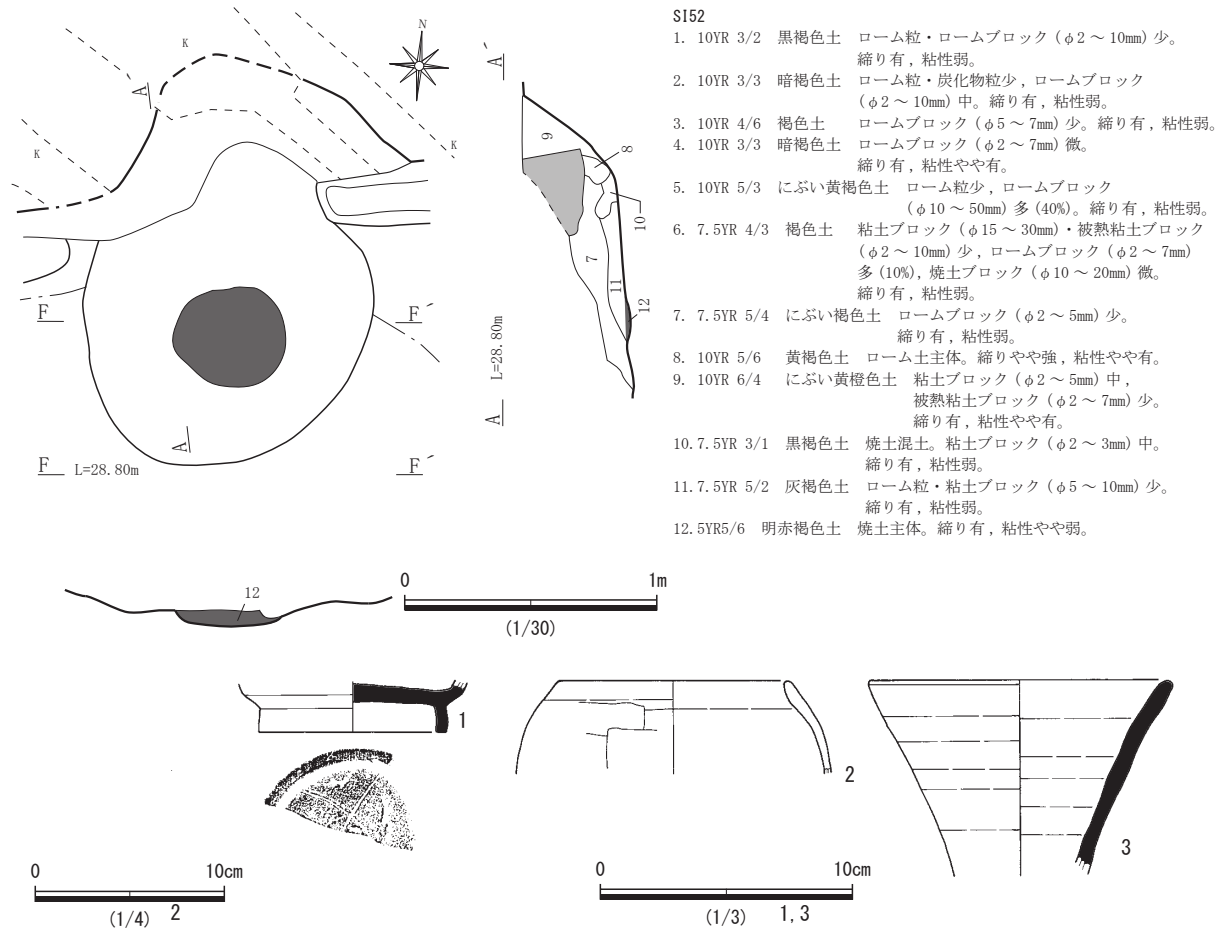


第108図 SI52(1)

第3章 調査の成果

床面まで達している。平面形はやや歪んだ正方形で、南壁側が若干広めである。主軸方向はN-6°-Wを示す。規模は東西軸の南側が7.41 m、北側が6.97 m、南北軸が7.15 m、深さは31~35 cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は、ロームブロックが多く含まれていることから人為堆積の可能性がある。床面は平坦で、カマド前面から南壁にかけての主柱穴範囲内で硬化するが、特に顕著な部分は認められない。壁溝は幅11~23 cm、深さ7~9 cmで、カマド部分を除き全周する。ピットは7本が検出された。P1~4は主柱穴で、P1が90×72 cm、深さ76 cm、P2が73×65 cm、深さ77 cm、P3が77×67 cm、深さ94 cm、P4が径68 cm、深さ53 cmである。P5・6は南壁際中央で検出され、出入り口施設に伴うピットと考えられる。規模はP5が径48 cm、深さ22 cm、P6が52×40 cm、深さ38 cmである。P7はP3の北東側にあり、補助柱穴であろうか。規模は径37 cm、深さ16 cmである。掘り方はほとんど認められずほぼ直床であるが、主柱穴の周囲は播鉢状に中段まで広げられていた。カマドは北壁の中央に付設される。攪乱の影響で、袖部や煙道部の一部は消失し、構築材も消失している。燃焼部は12 cm程掘り窪められた上部に赤変硬化した火床面が認められ、焼土が7~8 cm堆積する。煙道部の屋外への掘り込みは約70 cm前後と想定される。

遺物は、土師器13点(坏3, 鉢2, 甕8), 須恵器8点(坏2, 高台付坏3, 壺・瓶類1, 甕2)が出土した。遺構の規模に対して出土量は極端に少ない。供膳具では須恵器が土師器を上回るものの、いずれも小破片である。土師器坏は全て内面黒色処理の破片で混入の可能性が高い。時期は、出土遺物が少量な上に新旧遺物が混在するため不明瞭であるが、遺構形態から見れば8世紀代であろうか。

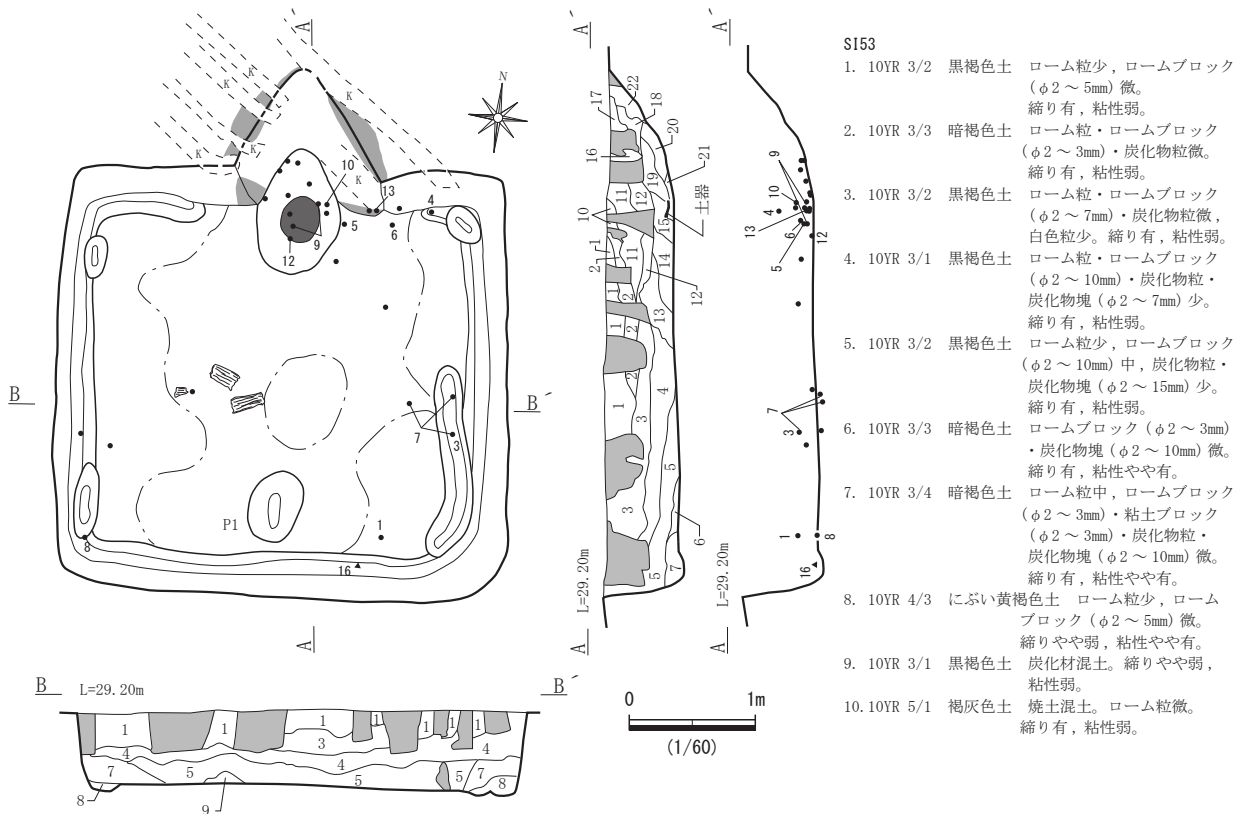


第109図 SI52(2)・同出土遺物

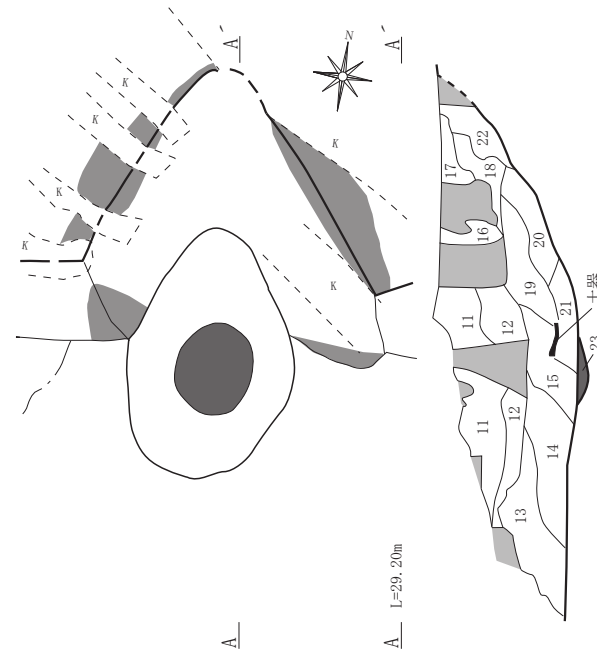
SI53 (第110～112図, 第26・30表, 写真図版15・42・43)

検出位置はB区I 22・23グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱を受けているが、床面までは達していない。平面形は方形で、主軸方向はN-5°-Wを示す。規模は東西軸が3.58m、南北軸が3.36m、深さは56～63cmで壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床を施し、カマド前面から南壁にかけての中央部に顕著な硬化面が認められる。壁溝は幅13～21cm、深さ5～9cmで、カマド部分を除きほぼ全周するが、凹凸が目立ち、西壁側は掘り込みが一定ではない。ピットは南壁際中央でP1が検出され、出入口施設に伴うピットと考えられる。規模は56×42cm、深さ38cmの楕円形で南北に長い。掘り方は、全体に掘り込まれ大きな起伏を伴う。カマドは北壁の中央に付設される。上部が攪乱を受けるものの全体の影響は少ない。構築材は灰褐色粘土が主体で用いられるが、使用されている部分はわずかである。燃焼部は14cm程掘り窪められ、上部に火床面が広がるが焼土ブロックが主体で赤変硬化は認められない。燃焼部から煙道部の屋外への掘り込みは約80cmと想定され、煙道部では段を持つ。全長160cm、燃焼部最大幅64cm、袖残存長は右袖が8cm程度で、壁に貼り付けられている。

遺物は、土師器232点(坏28, 高台付坏・椀2, 鉢11, 甕187, 甑4), 須恵器87点(坏47, 高台付坏3, 盤1, 蓋1, 甕20, 甑15), 石製品1点(磨石1)が出土した。供膳具は須恵器が土師器を上回っているが、土師器には遺存の良いものが多い。坏類は内面黒色処理されたものが主体である。7は大型の椀で高台部が短い。一方、須恵器はほとんどが木葉下窯産とみられる胎土の須恵器で占められる。煮炊具では土師器甕・甑が多量に出土し、客体的ではあるが須恵器甕・甑も他の遺構より目立っている。須恵器甕では、15のように新治窯産の製品が多く認められる。時期は、出土遺物の様相から9世紀第3四半期と考えられる。

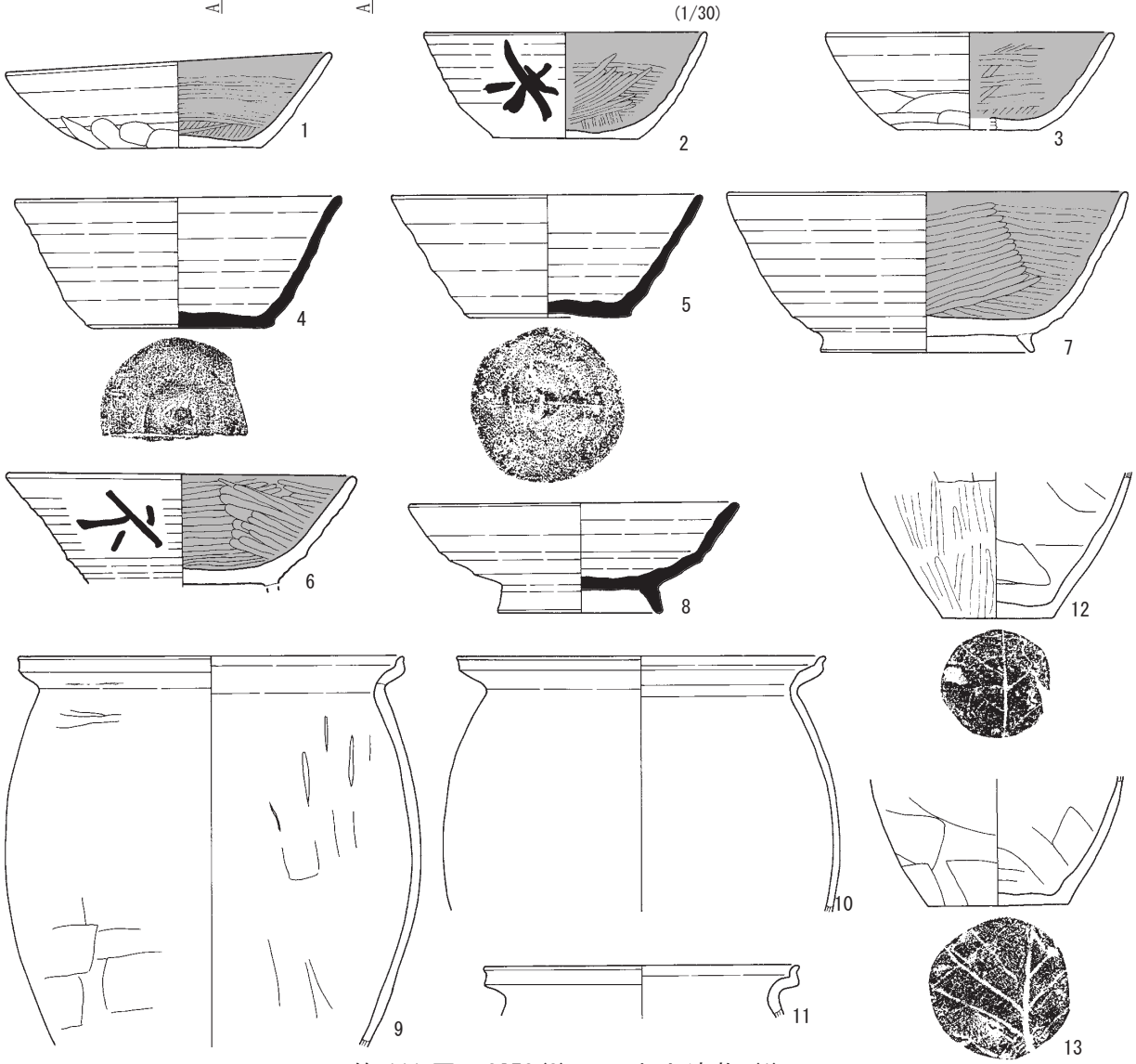


第110図 SI53(1)

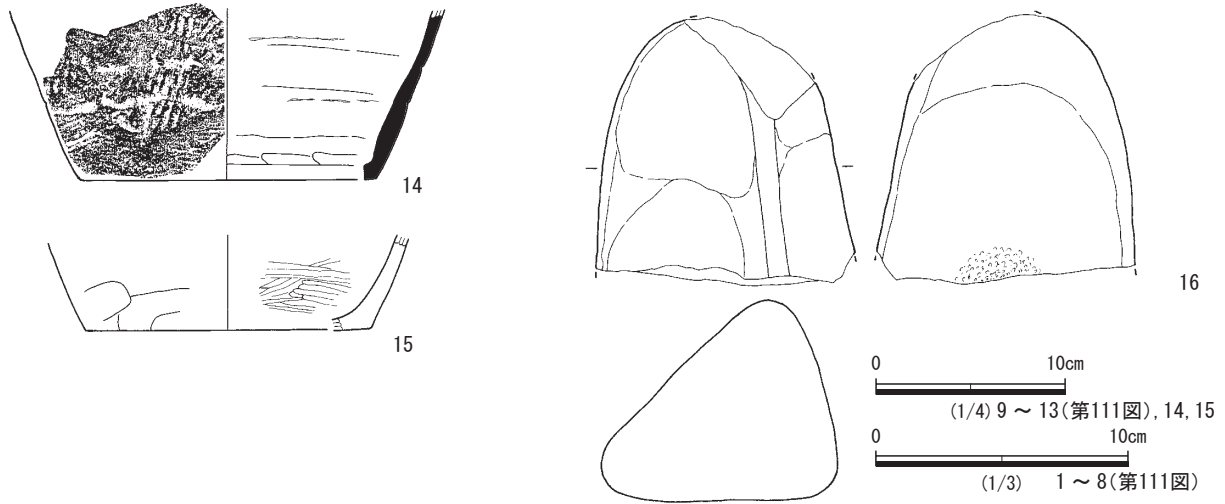


S153 カマド

- 11. 10YR 5/2 灰黄褐色土 ローム粒少, ロームブロック (φ2~7mm) 微, 炭化物塊 (φ5~10mm)・焼土粒少。締り有, 粘性弱。
- 12. 10YR 5/2 灰黄褐色土 粘土少, 焼土粒中, 炭化物塊 (φ15~20mm) 微。締り有, 粘性やや有。
- 13. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒多 (10%), ロームブロック (φ2~3mm) 少, 炭化物塊 (φ5~15mm)・焼土ブロック (φ5~7mm) 微。締り有, 粘性弱。
- 14. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒多 (10%), ロームブロック (φ2~3mm) 少, 炭化物粒・焼土粒微。締り有, 粘性やや有。
- 15. 10YR 4/2 灰黄褐色土 ローム粒少, 炭化物塊 (φ2~5mm) 少, 焼土粒微。締り有, 粘性弱。
- 16. 7.5YR 7/1 明褐灰色土 粘土と焼土の混土。白色粒少。締り強, 粘性有。
- 17. 2.5Y 7/2 灰黄色土 粘土主体, 白色粘土ブロック (φ10~15mm) 少。締り・粘性強。
- 18. 7.5YR 5/2 灰褐色土 粘土多 (20~30%), 被熱粘土ブロック (φ5~15mm) 少。締り・粘性有。
- 19. 10YR 4/2 灰黄褐色土 ローム粒少, ロームブロック (φ2~7mm)・焼土ブロック (φ2~7mm)・粘土ブロック (φ2~3mm) 微。締り有, 粘性やや有。
- 20. 10YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック (φ2~3mm)・炭化物塊 (φ2~5mm) 少, 焼土ブロック (φ2~3mm) 少。締り・粘性有。
- 21. 5YR 4/3 にぶい赤褐色土 焼土混土。ロームブロック (φ2~5mm) 少。締り有, 粘性弱。
- 22. 10YR 4/2 灰黄褐色土 被熱粘土ブロック (φ2~15mm) 中, 粘土ブロック (φ2~3mm) 微, ロームブロック (φ2~5mm) 少。締り有, 粘性やや有。
- 23. 5YR 4/6 赤褐色土 焼土主体。締り有, 粘性弱。



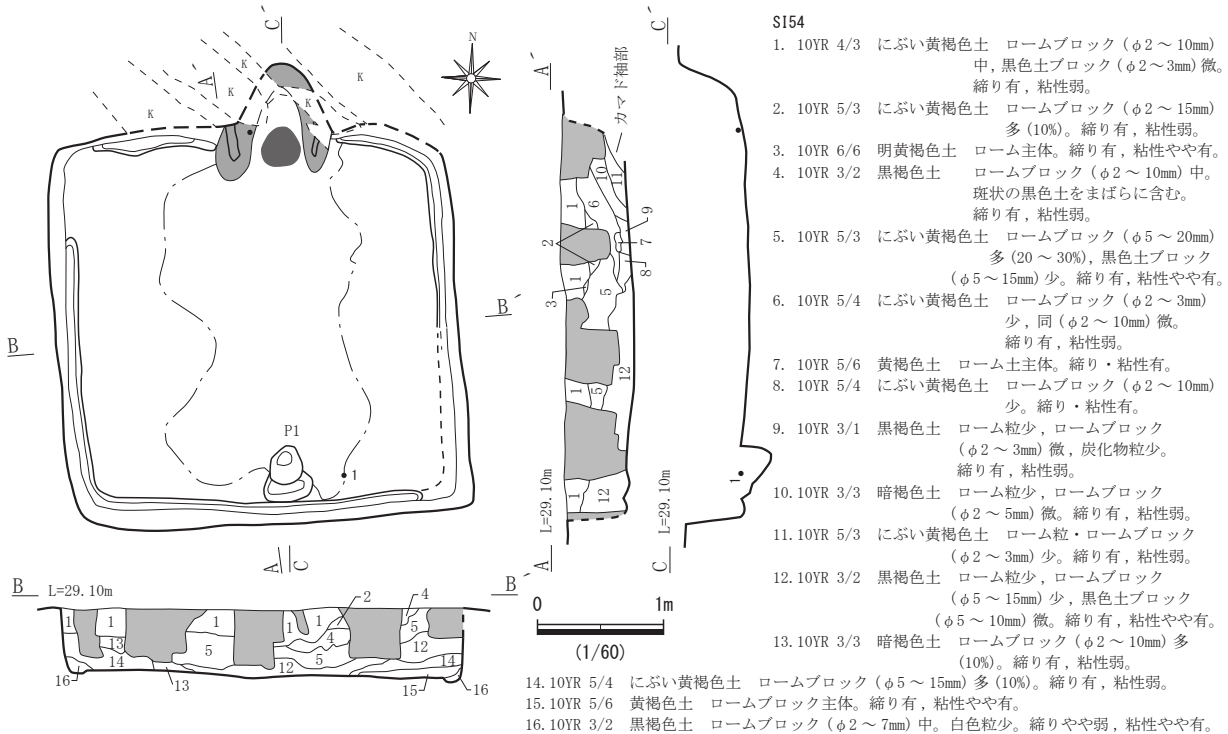
第111図 SI53(2)・同出土遺物(1)



第112図 SI53 出土遺物 (2)

SI54 (第113・114図, 第26表, 写真図版15・43)

検出位置はB区J 23・24 グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱を受けているが、床面までは達していない。平面形はほぼ正方形であるが、北東隅が丸みを持つ。主軸方向はN-2°-Wを示す。規模は東西軸が3.18m, 南北軸が3.16m, 深さは44~56cmで壁は垂直に立ち上がる。覆土は、ロームブロックを多量に含んでいることから人為堆積の可能性がある。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床を施し、中央部が若干低くなっている。カマド前面から南壁にかけての中央部には顕著な硬化面が認められる。壁溝は幅7~12cm, 深さ3~5cmで、カマド部分と西壁北側部分を除き全周する。ピットは南壁際中央でP1が検出され、出入り口施設に伴うピットと考えられる。規模は45×38cm, 深さ20cmの瓢箪形で段を持ち、南北に長い。掘り方は、14~25cmの深さで全体に掘り込まれている。カマドは北壁の中央に付設される。攪乱により燃焼部の大部分が消

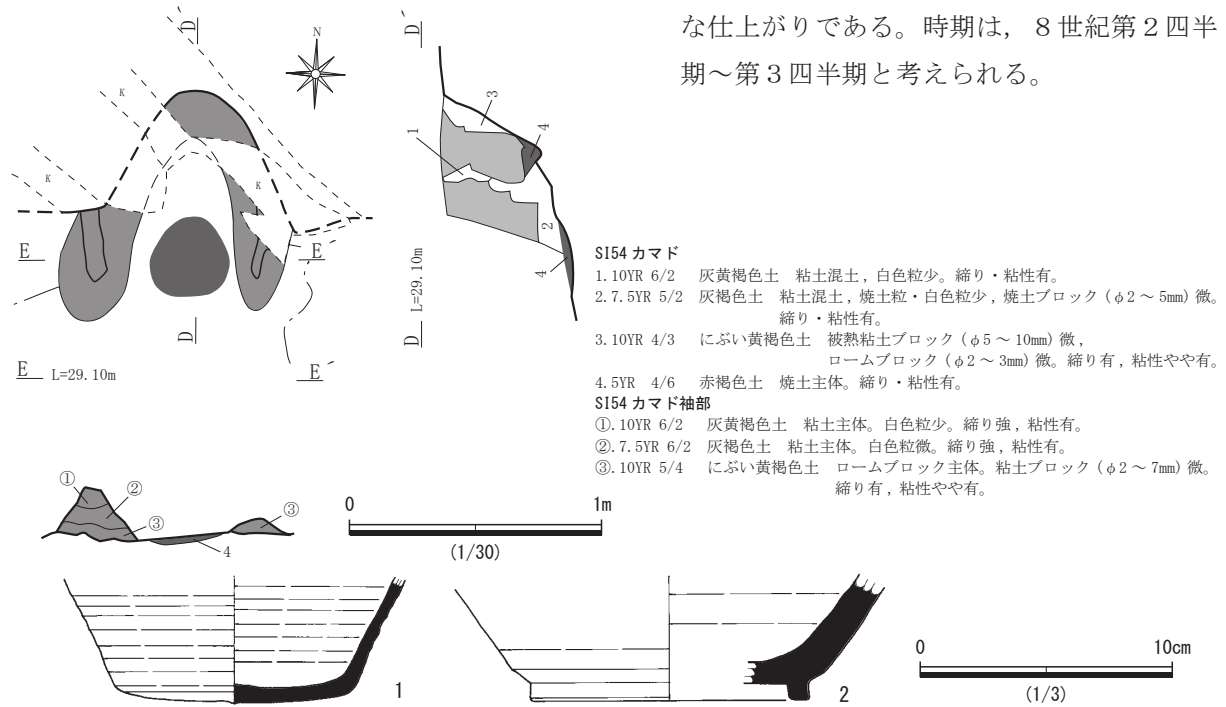


第113図 SI54(1)

第3章 調査の成果

失っていた。構築材は粘土と山砂の混和土が用いられる。燃焼部は10 cm程掘り窪められ、火床面に赤変硬化は認められなかったが、煙道部側で焼土が堆積している。燃焼部から煙道部の屋外への掘り込みは約77 cmで、煙道部は構築材で覆われている。全長82 cm，燃焼部幅62 cm，袖残存長は左袖が66 cm，左袖52 cmである。

遺物は、土師器12点(坏3，甕9)，須恵器10点(坏3，壺・瓶類1，甕6)が出土した。極端に少ない出土量であるが、供膳具は土師器，須恵器ともに同じであるが土師器坏は小破片で混入したとみられる。図示した1の須恵器坏は丸底気味であるが，調整はヘラナデでヘラ切り痕の残るやや雑な仕上がりである。時期は，8世紀第2四半期～第3四半期と考えられる。

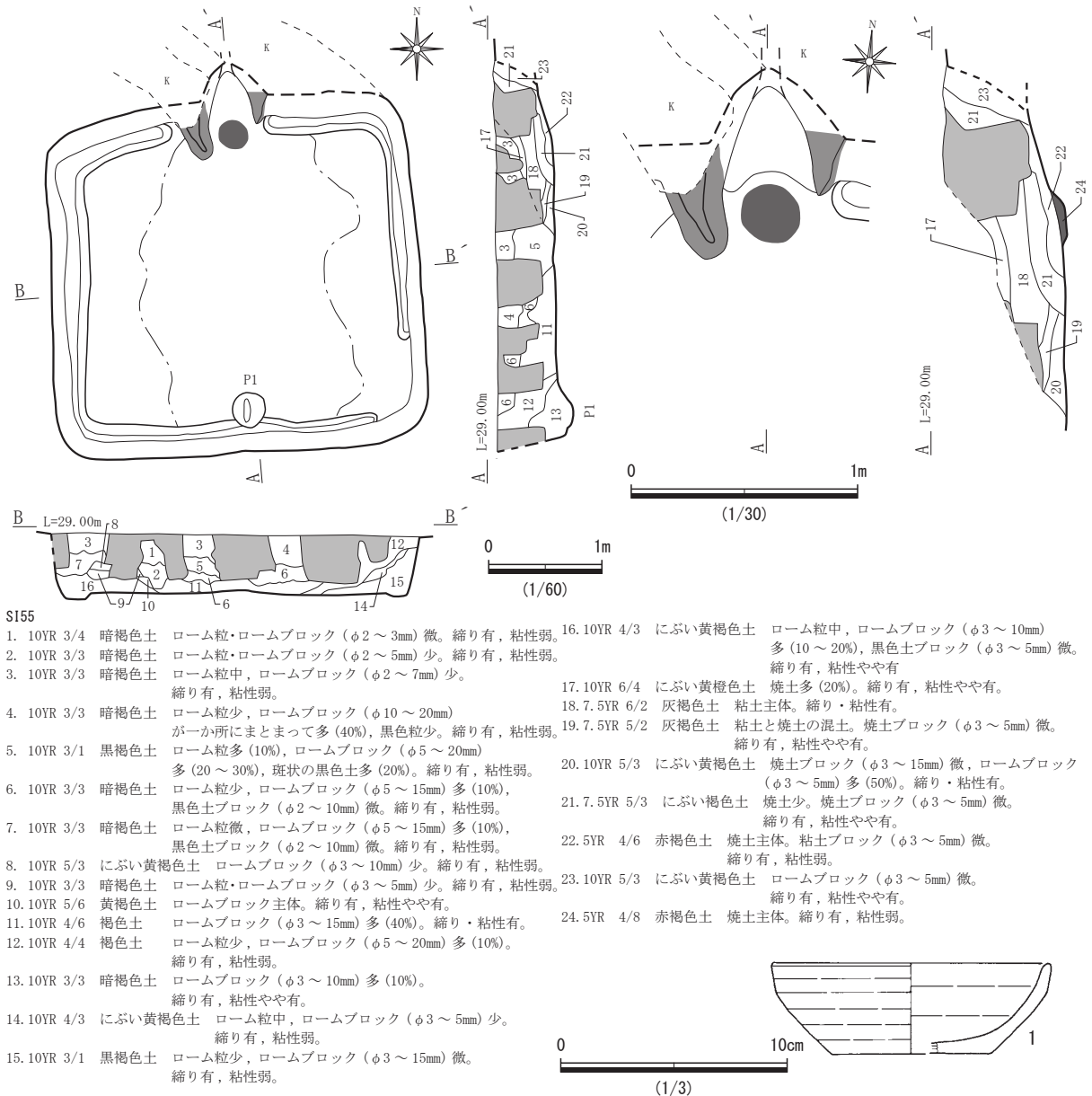


第114図 S154(2)・同出土遺物

S I 5 5 (第115図，第26表，写真図版15・43)

検出位置はB区J 24，K 24グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱を受けているが，床面までは達していない。平面形はほぼ正方形で，主軸方向はN-3°-Wを示す。規模は東西軸が3.27 m，南北軸が3.14 m，深さは49～54 cmで壁は垂直に立ち上がる。覆土は，ロームブロックを多量に含んでいることから人為堆積の可能性がある。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床を施し，カマド前から南壁にかけての中央部に顕著な硬化面が認められる。壁溝は幅8～18 cm，深さ3～6 cmで，カマド部分と東壁南側部分を除きほぼ全周する。ピットは南壁際中央でP 1が検出され，出入り口施設に伴うピットと考えられる。規模は径31 cm，深さ13 cmである。掘り方は，12～26 cmの深さで全体に掘り込まれている。カマドは北壁の中央東寄りに付設される。攪乱により煙道部と燃焼部の大部分が消失していた。構築材は灰褐色粘土が主体で用いられる。燃焼部の掘り窪みは認められないが，火床面は赤変硬化する。燃焼部から煙道部への掘り込みは屋外へ49 cmで全長82 cm，燃焼部幅40 cm，袖残存長は左袖が32 cm，右袖は壁に貼り付いた部分のみが残存する。

遺物は，土師器10点(坏3，甕7)，須恵器6点(坏4，甕1，壺・瓶類1)が出土した。極端に少ない出土量であるが，供膳具は土師器，須恵器ともにほぼ同じである。時期は，出土遺物が不十分であるが，9世紀代第3四半期～第4四半期と思われる。



第 115 図 SI55・同出土遺物

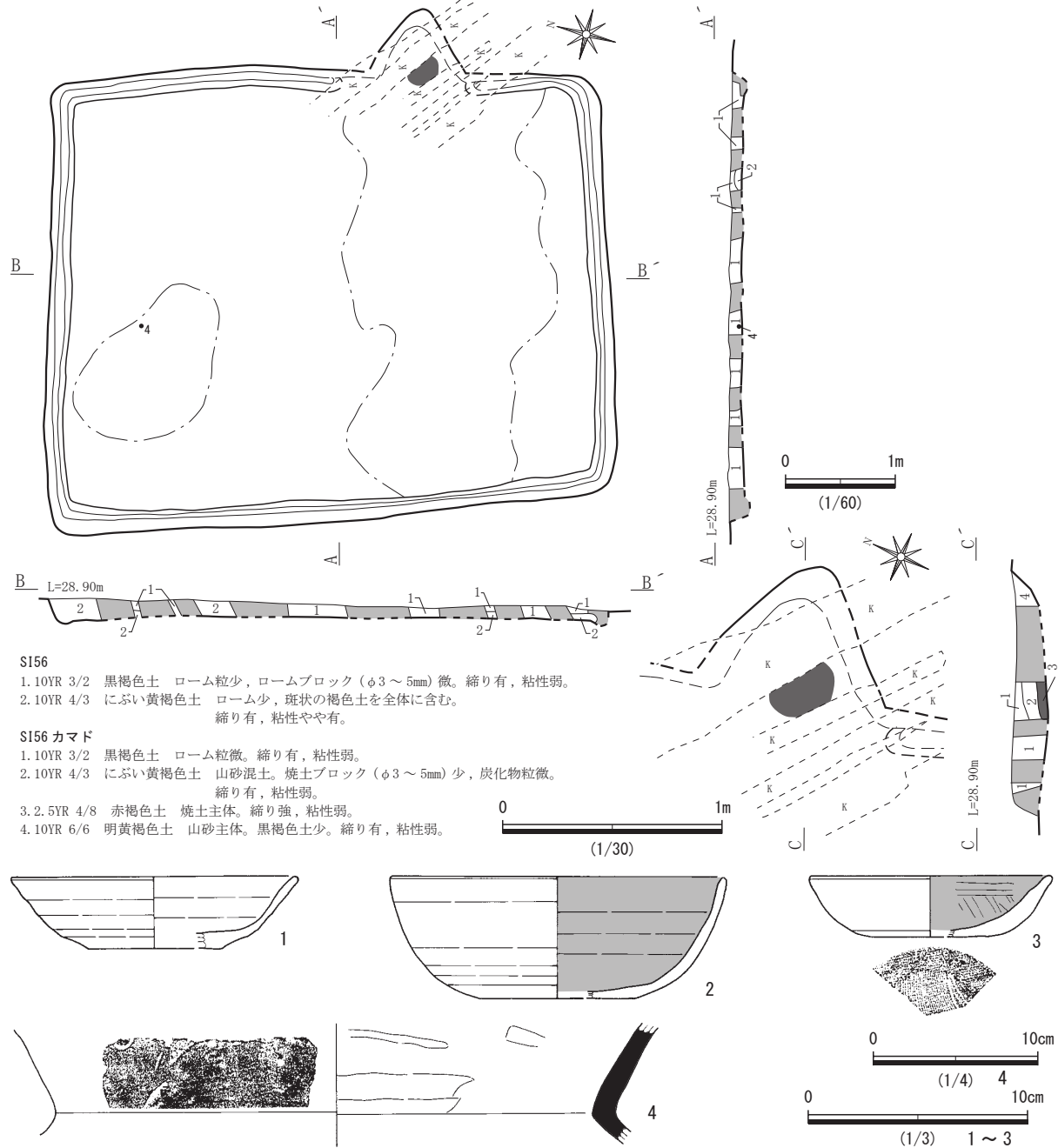
SI56 (第 116 図, 第 26 表, 写真図版 15・43)

検出位置はB区 J 25・26, K 25・26 グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱が激しく、床面まで達している。平面形は南北に長い長方形であるが、やや歪んでいるため北壁側及び西壁側が若干広めである。主軸方向はN-74°-Eを示す。規模は東西軸の南側が 3.90 m, 北側が 4.15 m, 南北軸の東側が 5.00 m, 西側が 5.22 m, 深さは 12~16 cm で壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は遺存が悪く、堆積状況は把握できなかった。床面は平坦で、カマド前面から南壁にかけてと南西側で顕著な硬化面が認められる。壁溝は幅 6~15 cm, 深さ 2~7 cm で、カマド部分を除き全周する。ピットは検出されなかった。掘り方は認められず、直床である。カマドは東壁南寄りに付設される。攪乱により燃焼部から袖部の大部分が消失していた。構築材は燃焼部内に残存していた粘土と山砂の混和土が用いられたと思われる。燃焼部の 2 cm 程浅く掘り窪められたほぼ中央に、焼土ブロックを主体とした火床面が残存している。煙道部は屋外へ 58 cm 掘り込まれていた。

遺物は、土師器 26 点 (坏 12, 皿 4, 甕 10), 須恵器 6 点 (坏 4, 蓋 1, 甕 1) が出土した。供膳

第3章 調査の成果

具は土師器が主体である。2の坏は大型になり、3は内面黒色処理された小皿で、図示しなかったが本遺構には少なくとももう1点の小皿が認められる。須恵器は小破片のみで摩耗しており、混入した可能性が高いと思われる。時期は、10世紀第3四半期と考えられる。

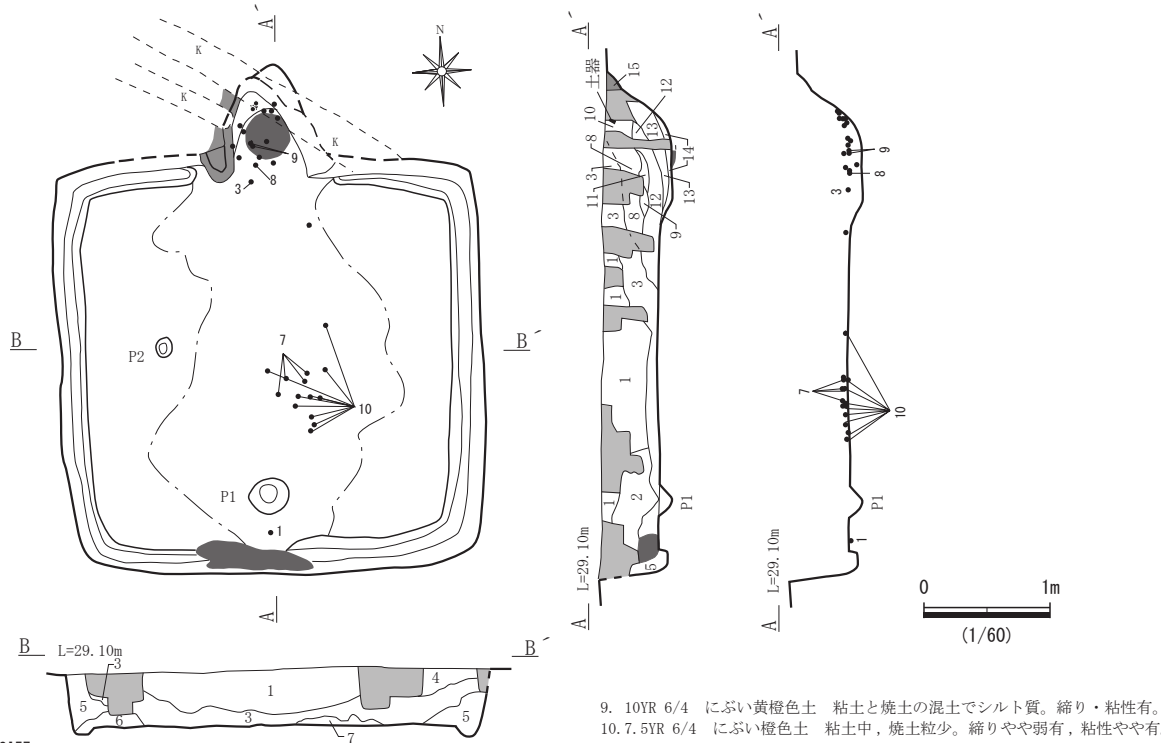


第116図 SI56・同出土遺物

SI57 (第117・118図, 第26・29表, 写真図版15・16・44)

検出位置はB区H 22グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱を受けているが、床面までは達していない。平面形はほぼ正方形で、主軸方向はN-0°を示す。規模は東西軸が3.33m, 南北軸が3.24m, 深さは43~46cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床が施され、カマド前面から南壁にかけての中央部に顕著な硬化面が認められる。壁溝は幅8~18cm, 深さ4~7cmで、カマド部分を除き全周する。ピットは南壁際中央でP1が検出され、出入り口施設に伴うピットと考えられる。規模は径33cm,

深さ 17 cmである。掘り方は、全体に浅めの掘り込みである。カマドは北壁の中央に付設され、攪乱により消失した部分が多い。構築材は粘土と山砂の混和土が用いられる。燃烧部は 10 cm程掘り窪められ、火床面は赤変硬化している。煙道部から燃烧部は屋外へ 55 cm掘り込まれ、全長 93cm, 燃烧部



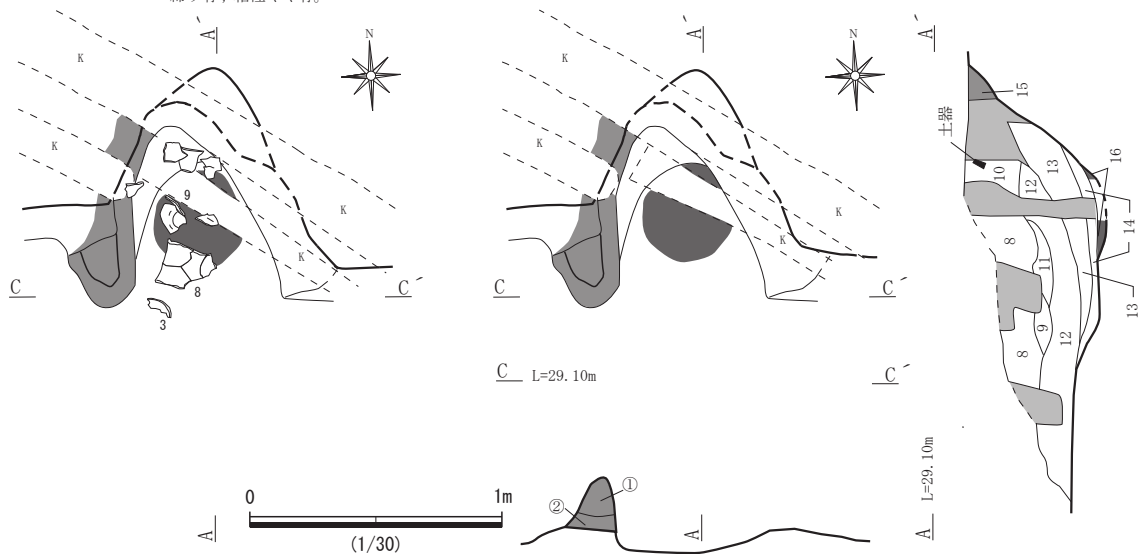
SI57

1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ3~7mm) 微。縮り有, 粘性弱。
2. 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ3~10mm) 少。縮り有, 粘性やや有。
3. 7.5YR 4/3 褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ3~7mm) 少。縮り有, 粘性弱。
4. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒少, ロームブロック (φ3~5mm) 微。縮り有, 粘性弱。
5. 7.5YR 3/3 暗褐色土 ローム粒中, ロームブロック (φ3~10mm) 少, 炭化物塊 (φ3~5mm) 微。縮り有, 粘性弱。
6. 7.5YR 5/3 にぶい褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ3~5mm) 微。縮り有, 粘性弱。
7. 10YR 3/1 黒褐色土 炭化物塊 (φ3~5mm) 多 (10%), 焼土ブロック (φ3~10mm) 微, ローム粒少。縮り有, 粘性弱。
8. 7.5YR 5/2 灰褐色土 粘土ブロック (φ3~7mm)・焼土ブロック (φ3~7mm) 微。縮り有, 粘性やや有。

9. 10YR 6/4 にぶい黄橙色土 粘土と焼土の混和土でシルト質。縮り・粘性有。
10. 7.5YR 6/4 にぶい橙色土 粘土中, 焼土粒少。縮りやや弱有, 粘性やや有。
11. 5YR 5/2 灰褐色土 焼土ブロック (φ3~5mm) 多 (10%)。縮り有, 粘性やや有。
12. 7.5YR 4/2 灰褐色土 粘土ブロック (φ3~5mm) 微, ローム粒少。縮り有, 粘性やや有。
13. 7.5YR 6/3 にぶい褐色土 粘土と焼土の混和土。粘土粒・粘土ブロック (φ3~5mm) 少。縮り・粘性有。
14. 7.5YR 4/2 灰褐色土 焼土粒少, 粘土ブロック (φ3~7mm) 微。縮りやや弱, 粘性弱。
15. 10YR 6/4 にぶい黄橙色土 山砂と粘土の混和土でシルト質。ローム粒微。縮り・粘性有。
16. 5YR 4/6 赤褐色土 焼土主体。縮り有, 粘性弱。

SI57 カマド袖部

- ①. 7.5YR 6/4 にぶい橙色土 焼土と粘土混和土, 白色ブロック (φ5~7mm) 微。縮り有, 粘性やや有。
- ②. 10YR 6/4 にぶい黄橙色土 山砂と粘土の混和土。焼土粒少, 白色粒微。縮り・粘性有。

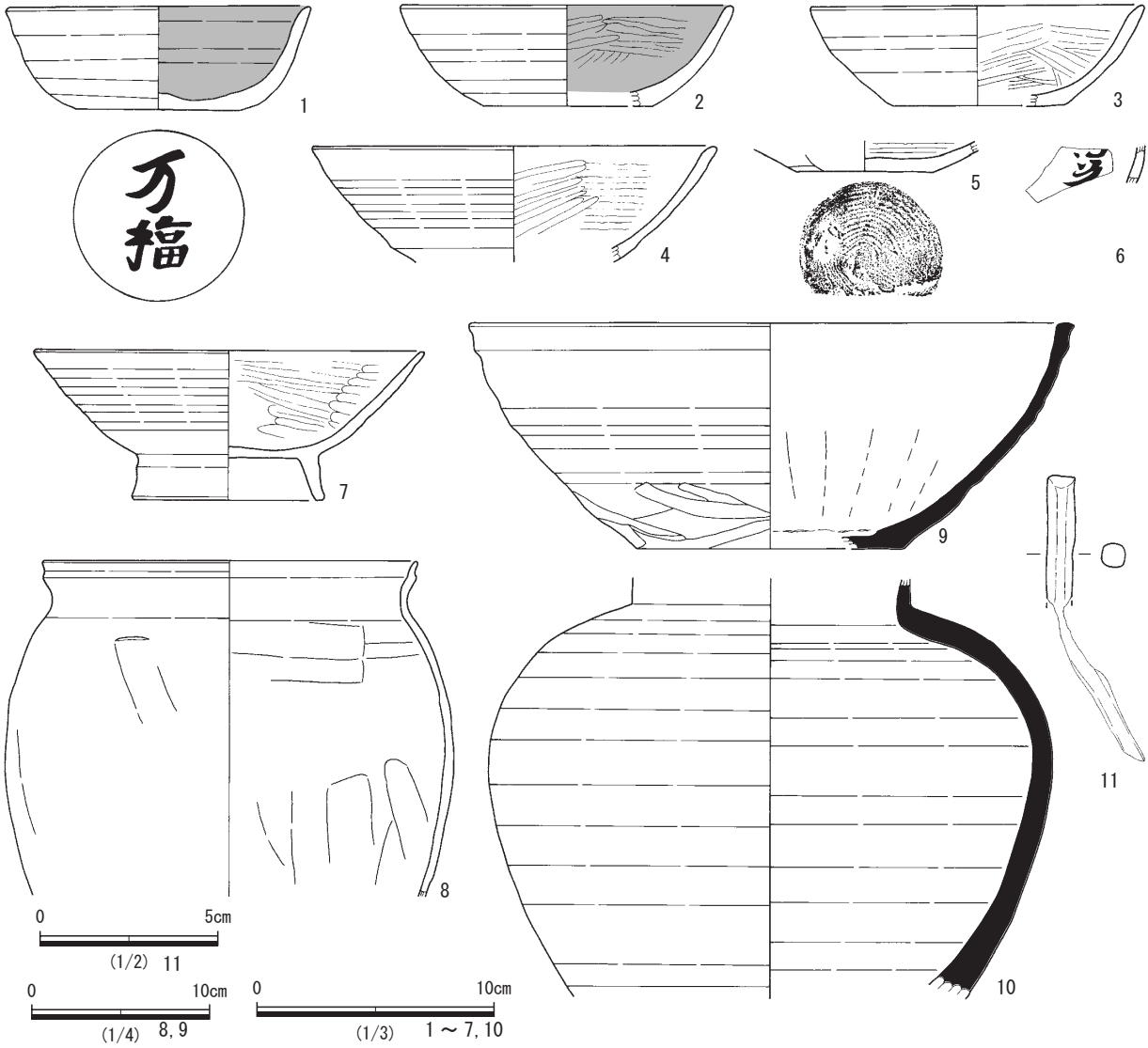


第117図 SI57

第3章 調査の成果

幅 54 cm, 袖残存長は左袖が 40 cmである。

遺物は、土師器 84 点（坏 24, 高台付坏・椀 2, 皿 2, 甕 56）, 須恵器 23 点（坏 17, 蓋 1, 鉢 2, 甕 1, 壺・瓶類 2）, 瓦 1 点（丸瓦 1）, 鉄製品（釘 1）が出土した。供膳具は内面黒色処理された坏が主体で、須恵器坏類は小破片のみである。1 は底部に不明瞭ながら墨書が認められる。4 は底部を欠失するため、坏としているが、椀の可能性もある。それぞれの遺物はカマド燃焼部内からの出土が中心であるが、7 の土師器椀と 10 の須恵器短頸壺は建物内中央部の床面から潰れた状態で出土していた。時期は、9 世紀第 3 四半期～第 4 四半期と考えられる。

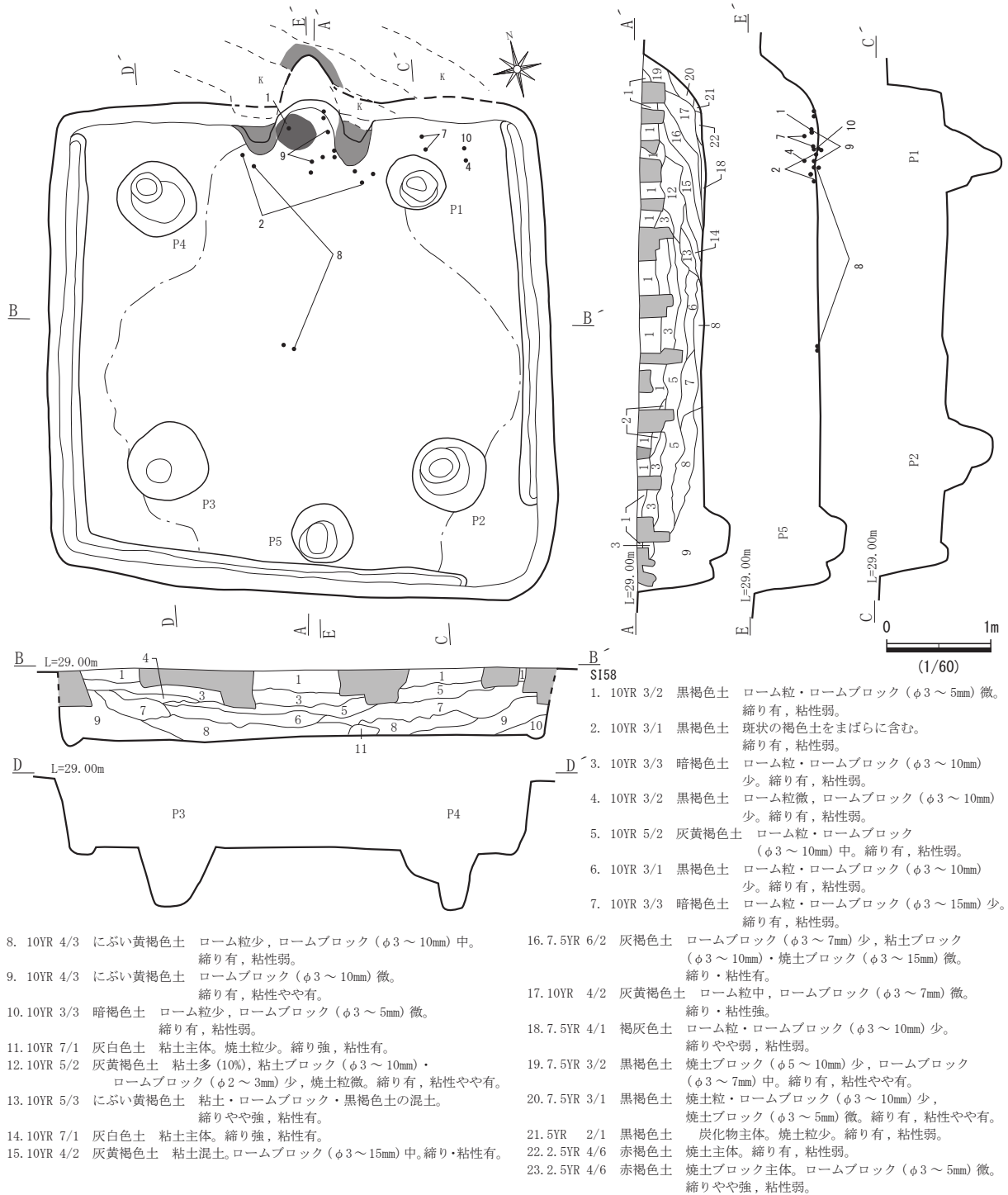


第 118 図 S157 出土遺物

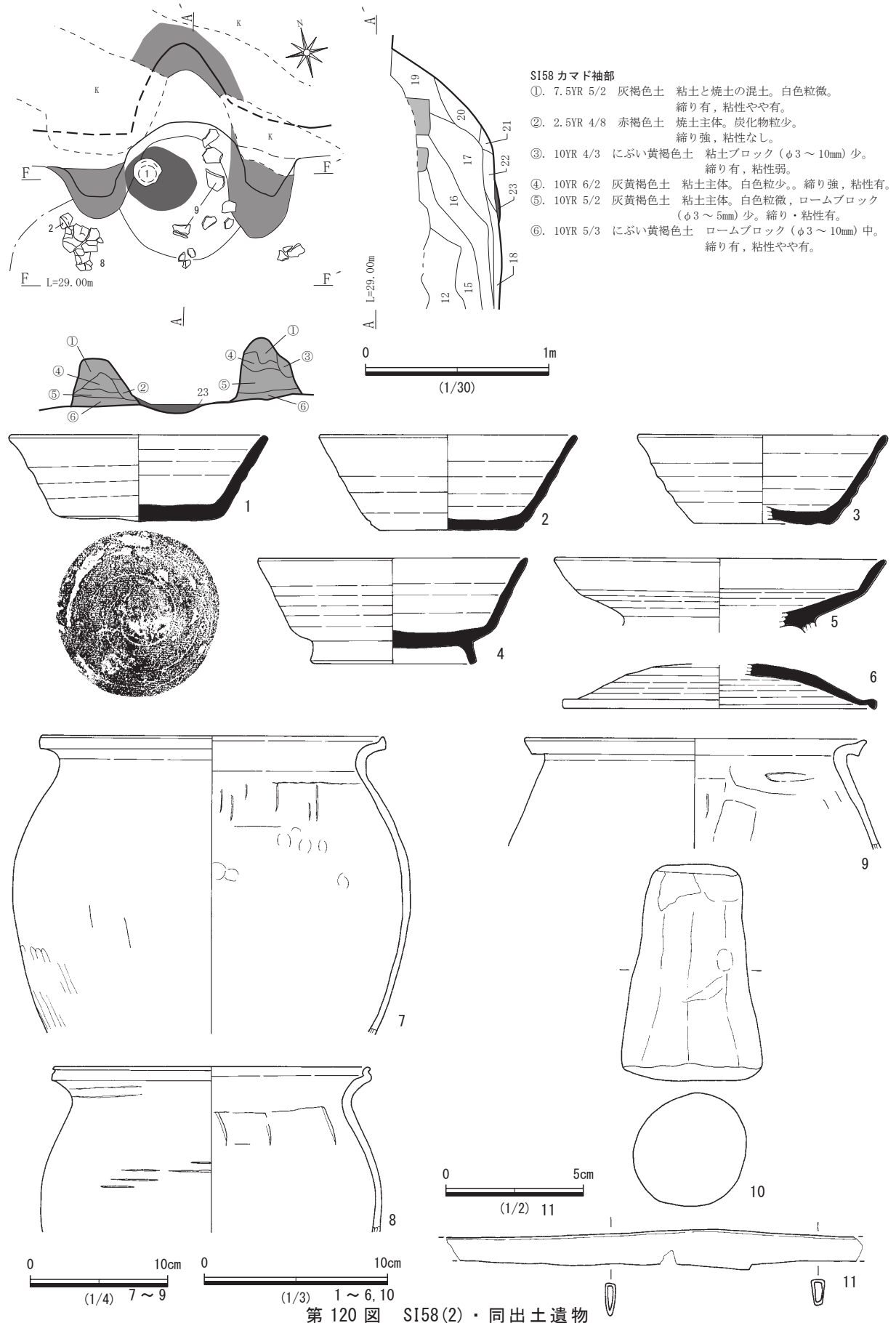
S I 5 8（第 119・120 図，第 26・28・29 表，写真図版 16・44）

検出位置は B 区 G 22・23, H 22・23 グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱を受けているが、床面までは達していない。平面形はやや歪んだ方形で、東壁側が若干広めである。主軸方向は N-11°-E を示す。規模は東西軸 4.82 m, 南北軸の東側が 4.78 m, 西側が 4.45 m, 深さは 65 cm で壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられるが、下層はロームブロックの含有が目立ち、人為的に埋め戻された可能性もある。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床を施し、カマド前面から南壁にかけての主柱穴範囲内で顕著な硬化面が認められる。壁溝は幅 13 ~

20 cm, 深さ 2~4 cm で北壁際と南東隅以外で確認されている。ピットは 5 基が検出された。P 1~4 は主柱穴で, P 1 が径 51 cm, 深さ 53 cm, P 2 が径 73 cm, 深さ 48 cm, P 3 が径 76 cm, 深さ 59 cm, P 4 が径 73 cm, 深さ 57 cm である。P 5 は南壁際中央で検出され, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。規模は径 56 cm, 深さ 29 cm である。掘り方は, 全体に浅く掘り込まれるが, 南壁側とカマド前面が若干深めである。カマドは北壁の中央に付設される。上部は攪乱を受けているが遺存状態は良い。構築材は粘土と山砂の混和土を用いている。燃焼部は 5 cm 程掘り窪められ, 焼土ブロックが堆積し上部が赤変硬化するが, 左壁面に寄り, 壁面は強く被熱している。煙道部は屋外へ 48 cm 掘り込まれ,



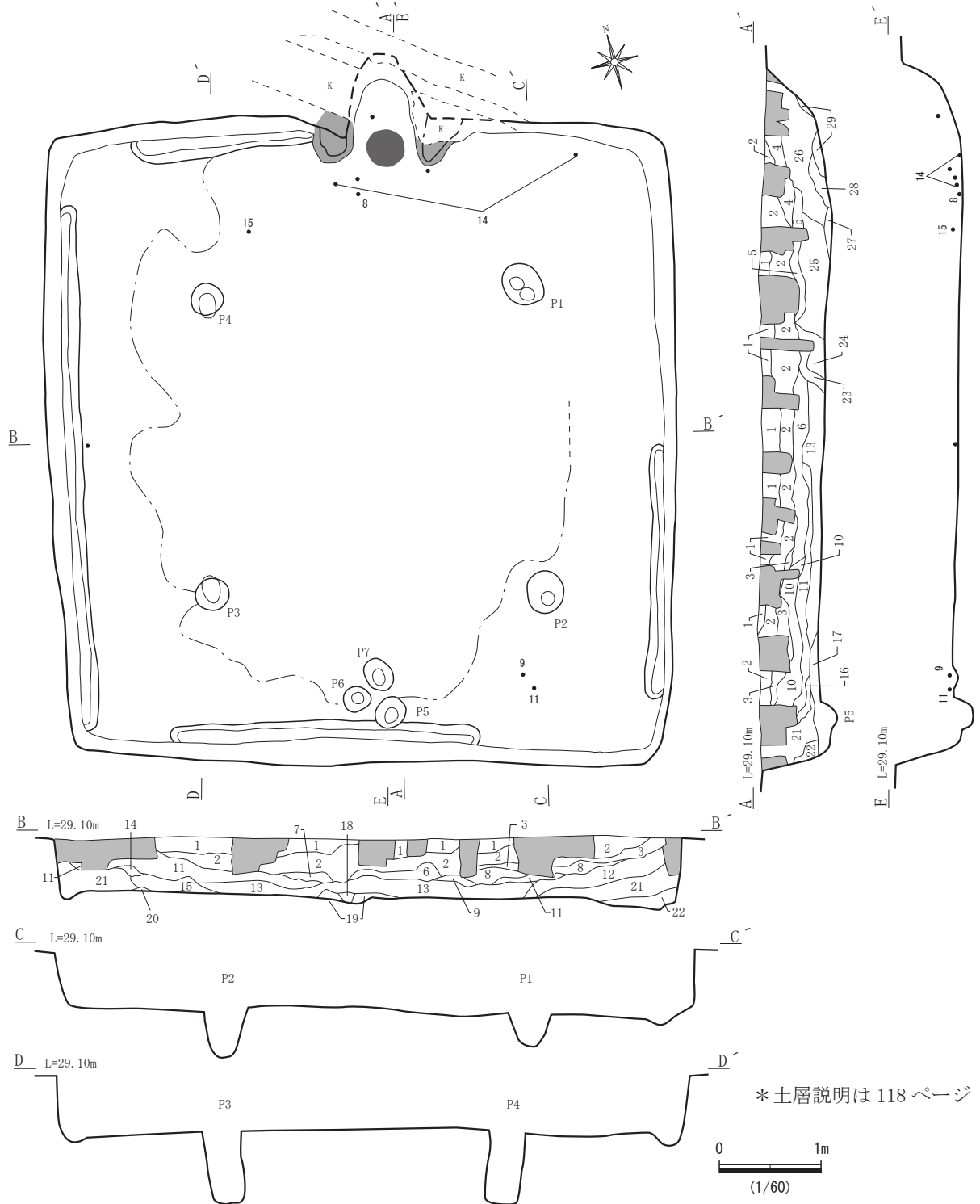
第 119 図 SI58(1)



上部は構築材で覆われている。全長 125 cm, 燃烧部幅 55 cm, 袖残存長は左袖 26 cm, 右袖 43 cmである。

遺物は、土師器 66 点（高台付坏・碗 3, 甕 63), 須恵器 46 点（坏 21, 高台付坏 6, 盤 7, 蓋 4, 甕 7, 甗 1), 瓦 1 点（平瓦 1), 土製品 1 点（支脚 1), 鉄製品 1 点（刀子 1) が出土した。供膳具はほぼ木葉下窯産とみられる胎土の須恵器が占める。土師器は内面黒色処理された有台器種の小破片がわずかに認められる。時期は、8 世紀第 4 四半期と考えられる。

SI 59 (第 121 ~ 123 図, 第 26・28 表, 写真図版 16・44・45)



第 121 図 SI59(1)

第3章 調査の成果

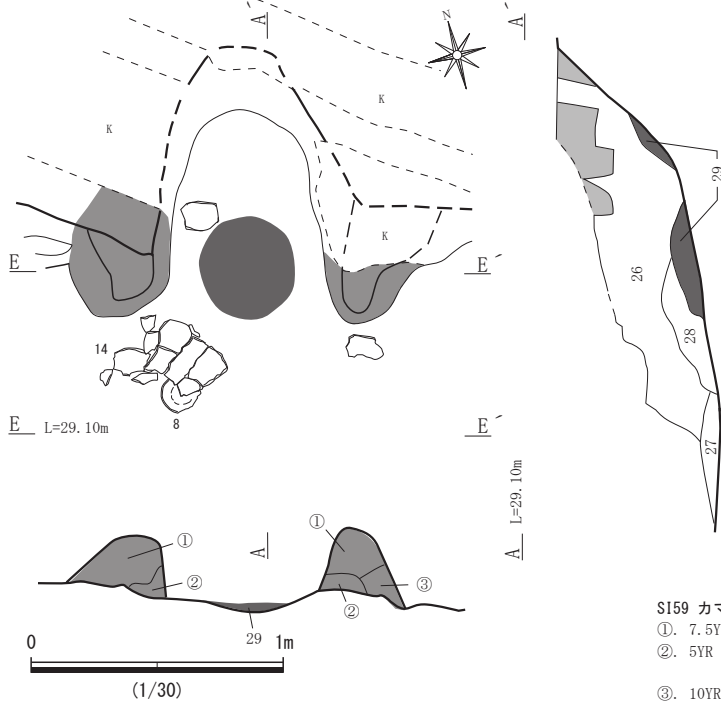
検出位置はB区H 22・23, I 22・23 グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱を受けているが、床面までは達していない。平面形は方形で、主軸方向はN-14°-Eを示す。規模は東西軸が6.15m, 南北軸が6.38m, 深さは52~62cmで壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土で貼り床を施し、カマド前からP5~7にかけての支柱穴範囲内で顕著な硬化面が認められる。壁溝は幅12~19cm, 深さ5~6cmで周回し、浅めで確認できなかった部分があるが、ほぼ全周したと思われる。ピットは7基が検出された。P1~4は支柱穴で、P1が45×36cm, 深さ34cm, P2が42×36cm, 深さ50cm, P3が径32cm, 深さ69cm, P4が径32cm, 深さ72cmとなり、西壁寄りの柱穴が深い。P5~7は南壁際中央付近に集中しており、出入口施設に伴うピット群と考えられる。規模はP5が径30cm, 深さ18cmで壁溝に接する。P6が径26cm, 深さ13cm, P7が36×26cm, 深さ14cmである。掘り方は、中央を高く残し、壁際が環状に掘り込まれるが、全体に浅めである。カマドは北壁の中央に付設される。上部は攪乱を受け、右袖の一部が消失している。構築材は粘土と山砂の混和土を用いている。燃焼部は8cm程掘り窪め使用されているが、火床面に赤変硬化は認められない。煙道部は屋外へ約62cm掘り込まれ、全長108cm, 燃焼部幅62cm, 袖残存長は左袖43cm, 右袖44cmである。

遺物は、土師器343点(坏15, 高台付坏・碗2, 皿1, 甕322, 甑3), 須恵器80点(坏40, 高台付坏2, 皿1, 甕17, 蓋17, 壺・瓶類3), 土製品1点(土玉1)が出土した。供膳具は木葉下窯産とみられる胎土の須恵器が土師器を上回る。土師器は非ロクロ成形の坏片に混じって内面黒色処理さ

S159

1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒少, ロームブロック(φ3~5mm)微。締り有, 粘性弱。
2. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック(φ3~7mm)微。締り有, 粘性弱。
3. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒微。締り有, 粘性弱。
4. 10YR 4/2 灰黄褐色土 焼土粒・粘土粒微。締り有, 粘性やや有。
5. 7.5YR 5/2 灰褐色土 粘土ブロック(φ5~10mm)中, 焼土粒・ローム粒微。締り有, 粘性やや有。
6. 7.5YR 4/3 褐色土 ローム粒・ロームブロック(φ3~10mm)少。締り有, 粘性弱。
7. 7.5YR 4/3 褐色土 焼土混土。締り有, 粘性弱。
8. 7.5YR 4/4 褐色土 ロームブロック(φ3~7mm)少。締り有, 粘性弱。
9. 7.5YR 4/3 褐色土 ローム粒・黒褐色土少。締り有, 粘性弱。
10. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒少, ロームブロック(φ5~15mm)微。締り有, 粘性弱。

11. 7.5YR 3/1 黒褐色土 ローム粒少, ロームブロック(φ5~10mm)微。締り有, 粘性弱。
12. 7.5YR 3/3 暗褐色土 ローム粒少, ロームブロック(φ3~7mm)中。締り有, 粘性弱。
13. 7.5YR 4/6 褐色土 ローム粒・ロームブロック(φ3~7mm)少, 同(φ10~20mm)微。締り有, 粘性弱。
14. 7.5YR 2/1 黒色土 ロームブロック(φ3~5mm)・白色粒微。締り有, 粘性弱。
15. 7.5YR 3/3 暗褐色土 ローム粒中, ロームブロック(φ3~10mm)少。締り有, 粘性弱。
16. 7.5YR 4/3 褐色土 粘土ブロック(φ3~5mm)少, 焼土ブロック(φ3~5mm)・ローム粒微。締り有, 粘性やや有。
17. 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 焼土粒少, 粘土粒微。締り有, 粘性やや有。
18. 10YR 4/2 灰黄褐色土 粘土ブロック(φ3~10mm)少。締り有, 粘性やや有。
19. 10YR 6/2 灰黄褐色土 粘土主体。締り強, 粘性有。
20. 10YR 6/6 明黄褐色土 ローム土主体。締り有, 粘性やや有。
21. 7.5YR 4/3 褐色土 ローム粒少, ロームブロック(φ3~5mm)微。締り有, 粘性弱。
22. 7.5YR 3/3 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック(φ3~10mm)少。締りやや弱, 粘性やや有。
23. 7.5YR 4/2 灰褐色土 粘土ブロック(φ3~10mm)少, ローム粒微。締り有, 粘性やや有。
24. 5YR 5/3 にぶい赤褐色土 粘土ブロック(φ3~15mm)少, 焼土ブロック(φ3~5mm)微。締り有, 粘性やや有。
25. 10YR 5/2 灰黄褐色土 焼土ブロック(φ3~5mm)微, ローム粒少。締り有, 粘性やや有。
26. 10YR 6/4 にぶい黄褐色土 粘土ブロック(φ3~5mm)中, 被熱粘土ブロック(φ3~5mm)・焼土少。締り・粘性有。
27. 5YR 3/1 黒褐色土 焼土ブロック(φ3~7mm)多(20%), ローム粒少。締り有, 粘性弱。
28. 5YR 5/2 灰褐色土 粘土と焼土の混土。ローム粒微。締り・粘性有。
29. 5YR 5/4 にぶい赤褐色土 被熱粘土ブロック(φ3~5mm)微。締り有, 粘性弱。

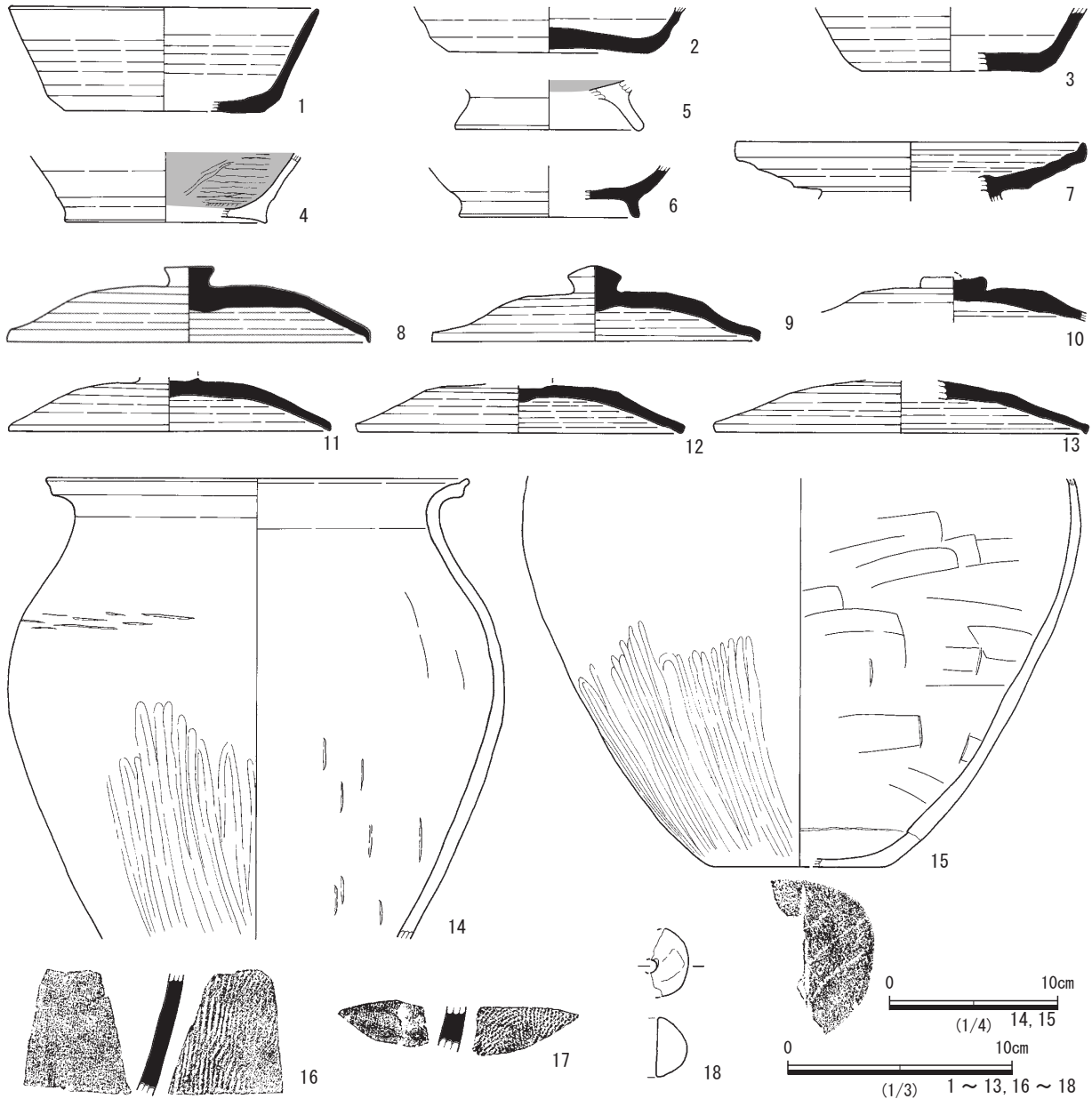


S159 カマド袖部

- ①. 7.5YR 6/2 灰褐色土 粘土主体。黒褐色土少。締り・粘性有。
- ②. 5YR 4/2 灰褐色土 焼土ブロック(φ3~7mm)少, 被熱粘土ブロック(φ3~10mm)微。締り有, 粘性やや有。
- ③. 10YR 7/4 にぶい黄褐色土 粘土主体。締りやや強, 粘性有。

第122図 S159(2)

れた坏類が約半数認められるが、ほとんどが小破片である。須恵器は蓋の出土量が比較的多く、いずれも体部の形態が弧状になるか、9・12のように外反が弱いものが主流である。一方、有台器種となる高台付坏や盤が少ない。煮炊具は土師器甕が非常に多く出土している。時期は、8世紀第3四半期～第4四半期と考えられる。



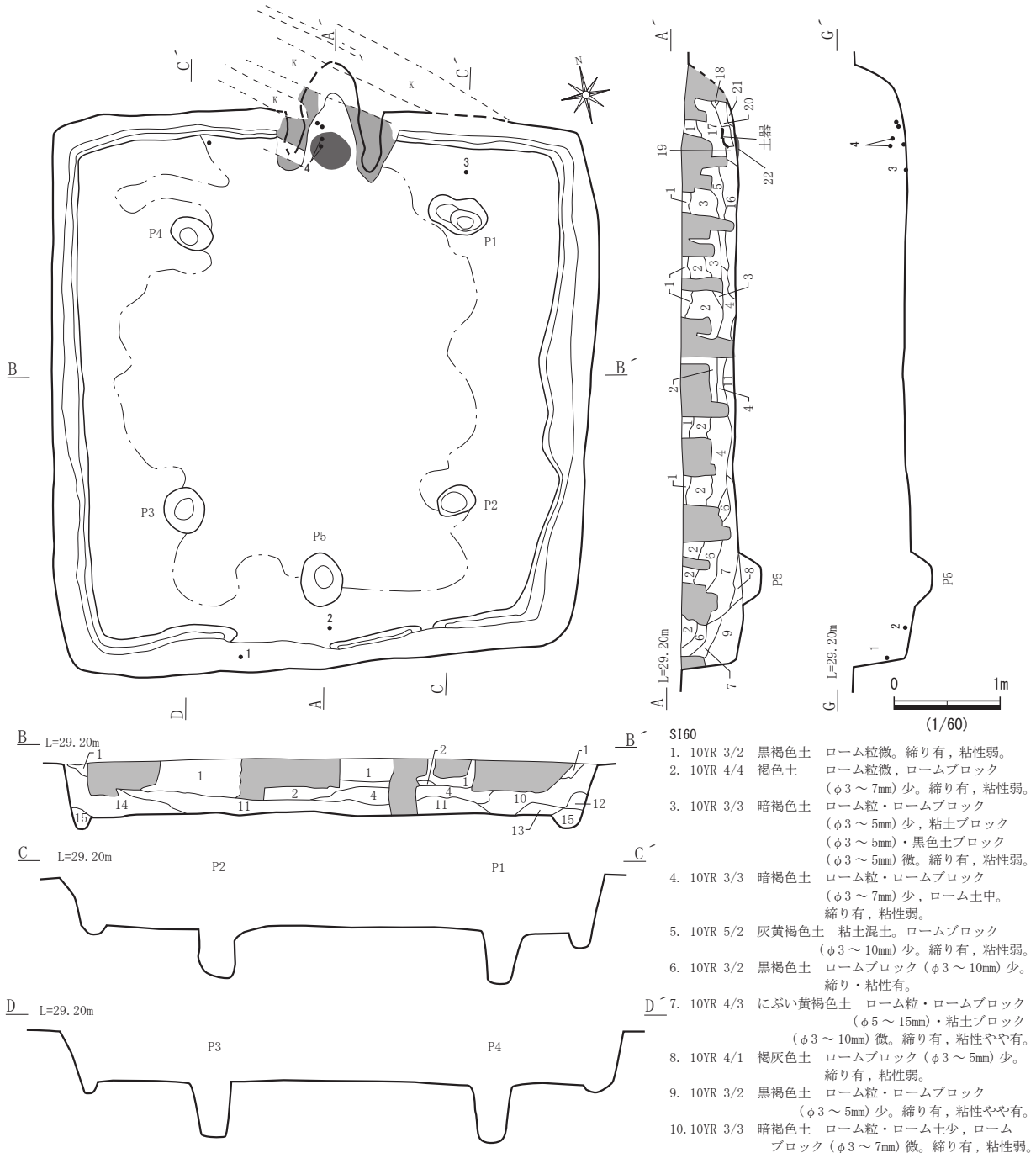
第123図 S159出土遺物

S I 6 0 (第124・125図, 第26・27・29表, 写真図版16・45)

検出位置はB区H 23, I 23・24グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱が一部床面まで達している。平面形は歪んだ方形で、西壁側が広い。主軸方向はN-13°-Eを示す。規模は東西軸が5.06m, 南北軸の東側が4.94m, 西側が5.32m, 深さは52cmで壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床を施し、カマド前面からP 5にかけての主柱穴範囲内で顕著な硬化面が認められ、硬化面の範囲は西壁近くまで広がっている。壁溝は幅8～22cm, 深さ8～11cmでほぼ全周するが、掘り込みは一定ではない。ピツ

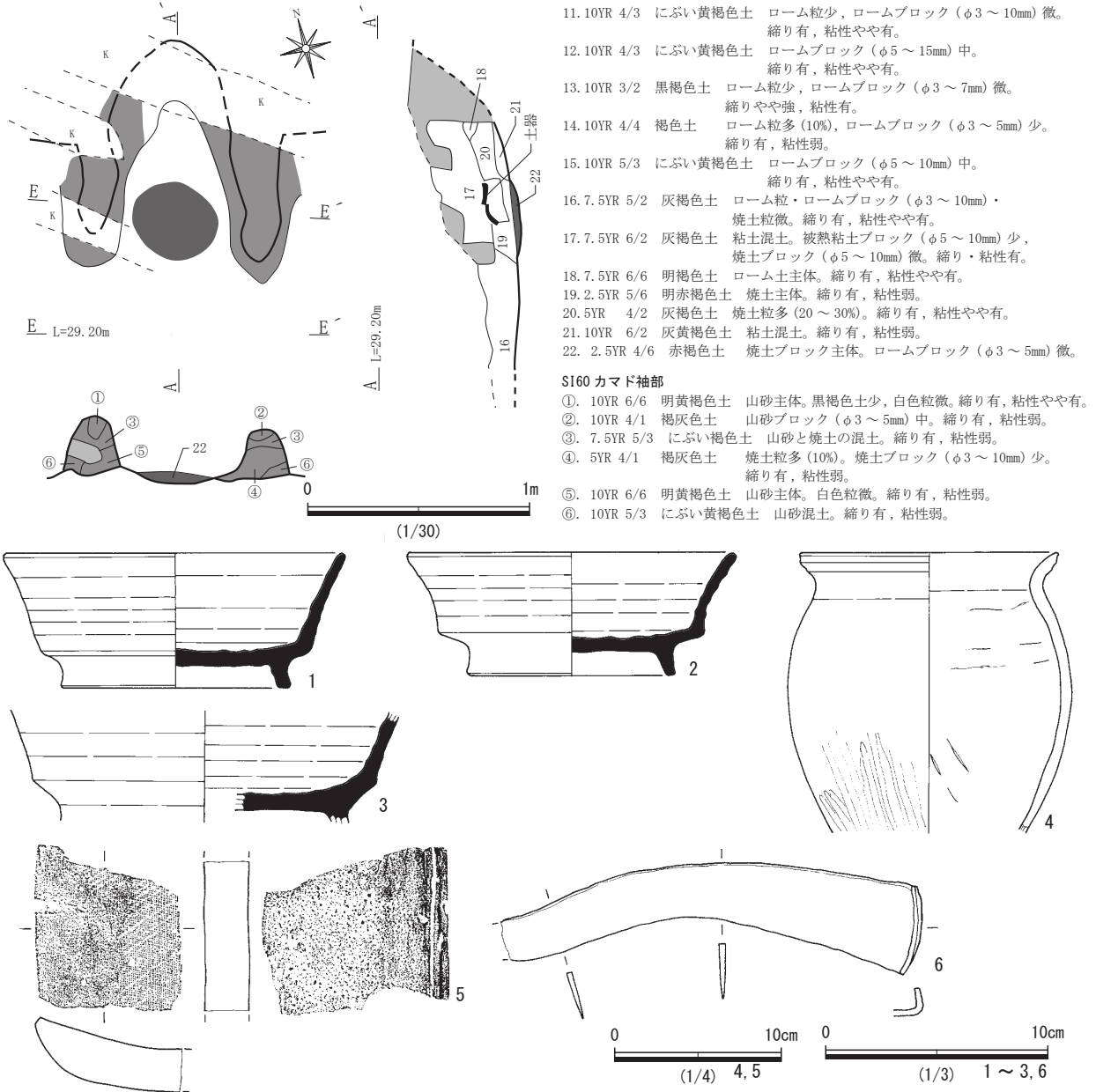
第3章 調査の成果

トは5基が検出された。P1～4は支柱穴で、P1が56×37cm、深さ48cm、P2が36×26cm、深さ47cm、P3が45×38cm、深さ52cm、P4が42×28cm、深さ54cmとなり、P3以外は東西に長い楕円形を呈する。P5は南壁際中央付近にあり、出入口施設に伴うピット群と考えられる。規模は51×38cm、深さ25cmで、南北に長い楕円形である。掘り方は、南側中央部とカマド前面を深く掘り込んでいる。カマドは北壁の中央に付設される。煙道部と右袖の一部は攪乱を受け消失している。構築材は粘土と山砂の混和土を用いている。燃烧部は12cm程掘り窪めて使用され、焼土ブロックを主体とした層が堆積する。煙道部は屋外へ約50cm掘り込まれ、全長111cm、燃烧部幅47cm、袖残存長は左袖56cm、右袖64cmである。



第124図 SI60(1)

遺物は、土師器 69 点（坏 4，甕 65），須恵器 32 点（坏 24，高台付坏 5，甕 2，壺・瓶類 1），瓦 1 点（平瓦 1），土製品 1（土玉 1），鉄製品 1（刀子 1）が出土した。供膳具では木葉下窯産とみられる胎土の須恵器が主体となり、土師器では内面黒色処理の坏類が出土するが、いずれも小破片ばかりである。一方で煮炊具は土師器甕が占める。時期は、8 世紀第 3 四半期と考えられる。



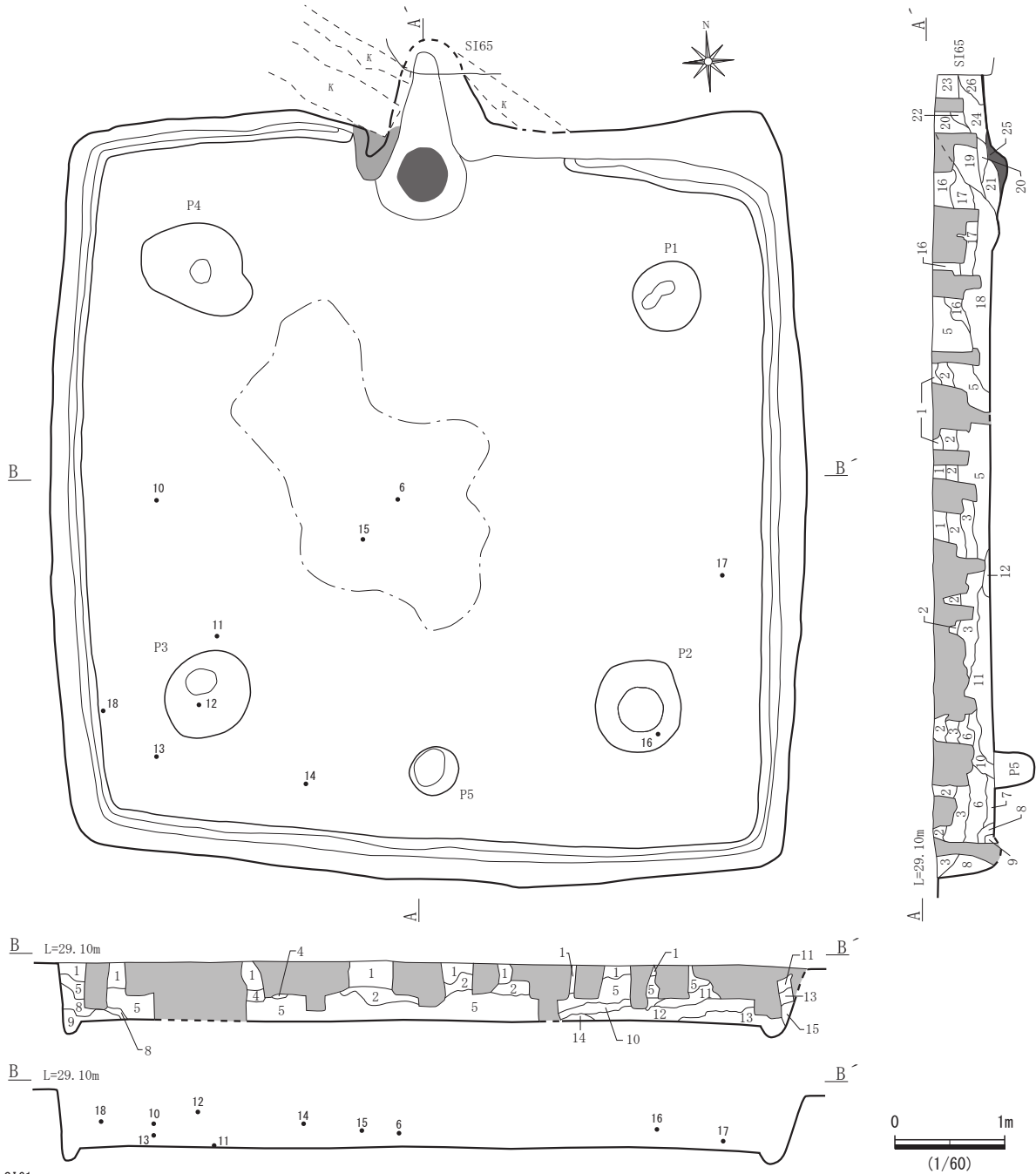
第 125 図 SI60(2)・同出土遺物

SI61（第 126・127 図，第 26・28 表，写真図版 16・45・46）

検出位置は B 区 I 25 グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱を受けているが、床面までは達していない。SI65 と重複し、カマド煙道部がわずかに切られていた。平面形はほぼ正方形で、主軸方向は N-4°-E を示す。規模は東西軸が 6.94 m，南北軸が 6.88 m，深さは 53 cm で壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床を施し、顕著な硬化面が認められるのは中央部のみとなり、他の建物跡と比べて範囲は狭い。壁溝は幅 12～22 cm，深さ 7～12cm でカマド部分を除き全周する。ピットは 5 基が検出された。

第3章 調査の成果

P 1～4は主柱穴で、P 1が径65 cm、深さ51 cm、P 2が径86 cm、深さ43 cm、P 3が径70 cm、深さ66 cm、P 4は113×77 cm、深さ61 cmで不整形である。P 5は南壁際中央付近にあり、出入口施

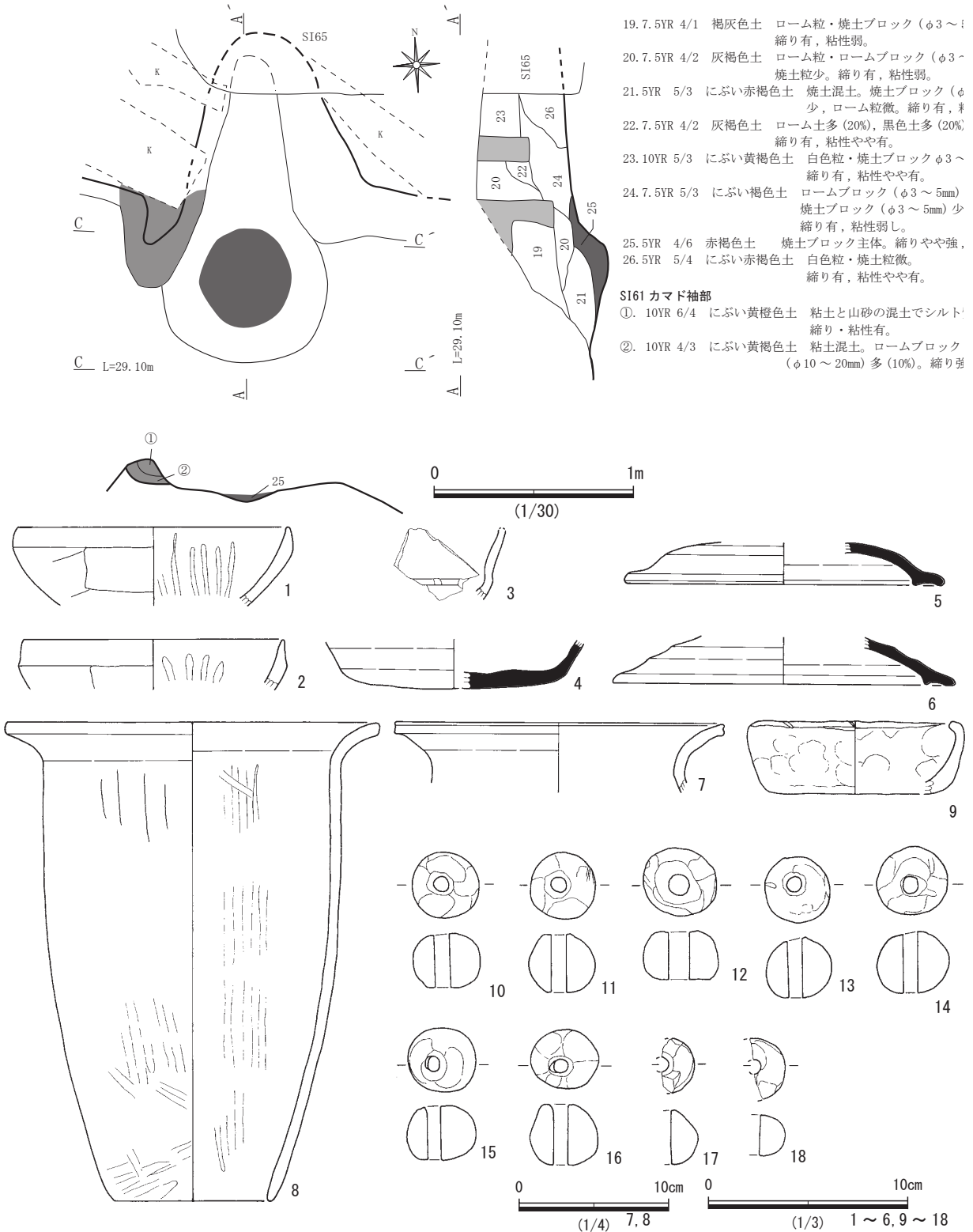


SI61

- | | |
|--|--|
| 1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒少, ロームブロック (φ3~5mm)・焼土粒微。縮り有, 粘性弱。 | 10. 10YR 3/1 黒褐色土 にぶい黄褐色土混土。ローム粒微, ロームブロック (φ5~10mm) 少。縮り有, 粘性弱。 |
| 2. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ5~30mm) 中。縮り有, 粘性弱。 | 11. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒少, ロームブロック (φ3~5mm) 微。縮り有, 粘性弱。 |
| 3. 10YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック (φ3~7mm) 少, 同 (φ10~15mm) 微。縮り有, 粘性弱。 | 12. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒中, ロームブロック (φ3~5mm) 少。縮り有, 粘性弱。 |
| 4. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒微。縮り有, 粘性弱。 | 13. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ3~10mm) 中。縮り有, 粘性やや有。 |
| 5. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒少, ロームブロック (φ3~15mm) 多(10%), 黒色土ブロック (φ3~7mm) 中。縮り有, 粘性弱。 | 14. 10YR 6/6 明黄褐色土 ロームブロック主体。白色粒微。縮り・粘性有。 |
| 6. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ3~7mm) 微。縮り有, 粘性弱。 | 15. 10YR 6/6 明黄褐色土 ローム土主体。縮り・粘性有。 |
| 7. 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ3~10mm) 中。縮り有, 粘性やや有。 | 16. 7.5YR 4/3 褐色土 ロームブロック (φ5~15mm) 少, 焼土粒少。縮り有, 粘性弱。 |
| 8. 10YR 5/4 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ5~15mm) 多(10%)。縮り・粘性有。 | 17. 7.5YR 3/3 暗褐色土 黒色土混土。ロームブロック (φ3~10mm) 少, 焼土ブロック (φ5~10mm) 微。縮り有, 粘性弱。 |
| 9. 10YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック (φ3~5mm) 少。縮りやや弱, 粘性弱。 | 18. 7.5YR 4/3 褐色土 ロームブロック (φ3~10mm)・焼土ブロック (φ5~10mm)・黒色土少。縮り有, 粘性弱。 |

第126図 SI61(1)

設に伴うピットと考えられる。規模は径44cm、深さ41cmで、中心が西側へ寄っている。掘り方は、中央を高く残し壁際を環状に深く掘り込んでいる。ピット周辺は全体に広がり、柱を据え替えた痕跡が認められる。カマドは北壁の中央に付設される。右袖は攪乱を受け消失している。構築材は粘土と山砂の混和土を用いている。燃烧部は15cm程掘り窪めて使用され、火床面は赤変硬化が認められた。煙道部は屋外へ約50cm以上掘り込まれ、燃烧部幅は47cm、右袖の残存長は50cmであった。



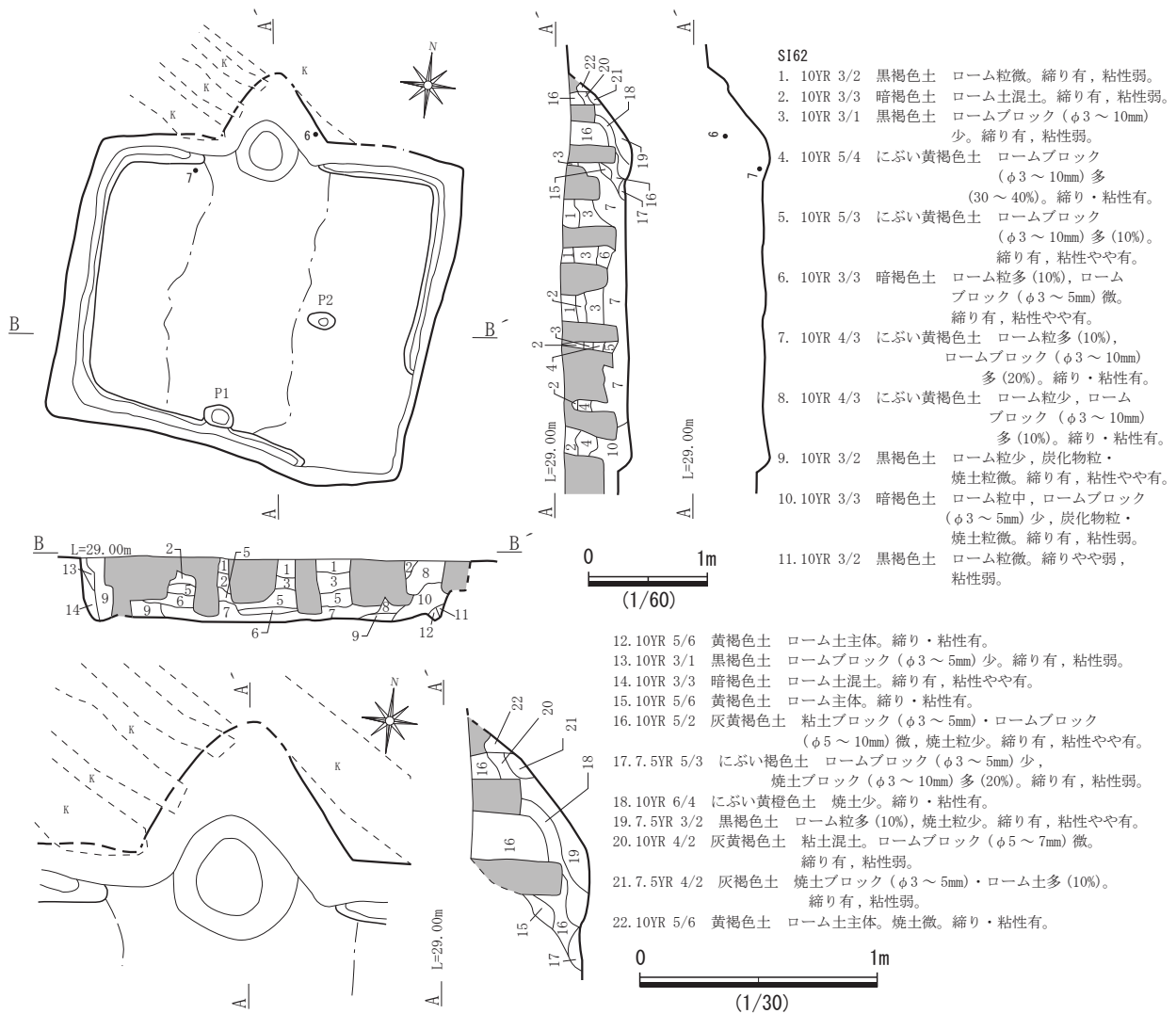
第127図 SI61(2)・同出土遺物

第3章 調査の成果

遺物は、土師器 199 点（坏 13, 甕 171, 甌 15）、須恵器 49 点（坏 22, 高台付坏 6, 蓋 14, 甕 5, 壺・瓶類 2）、土製品 10 点（手捏土器 1, 土玉 9）が出土した。供膳具は須恵器が主体である。新治窯産の製品が比較的多く、特に蓋はほとんどが該当する。土師器坏は非ロクロ成形が中心である。土玉の出土が多い。時期は、8 世紀第 1 四半期と考えられる。

SI 62（第 128・129 図、第 26 表、写真図版 17・46）

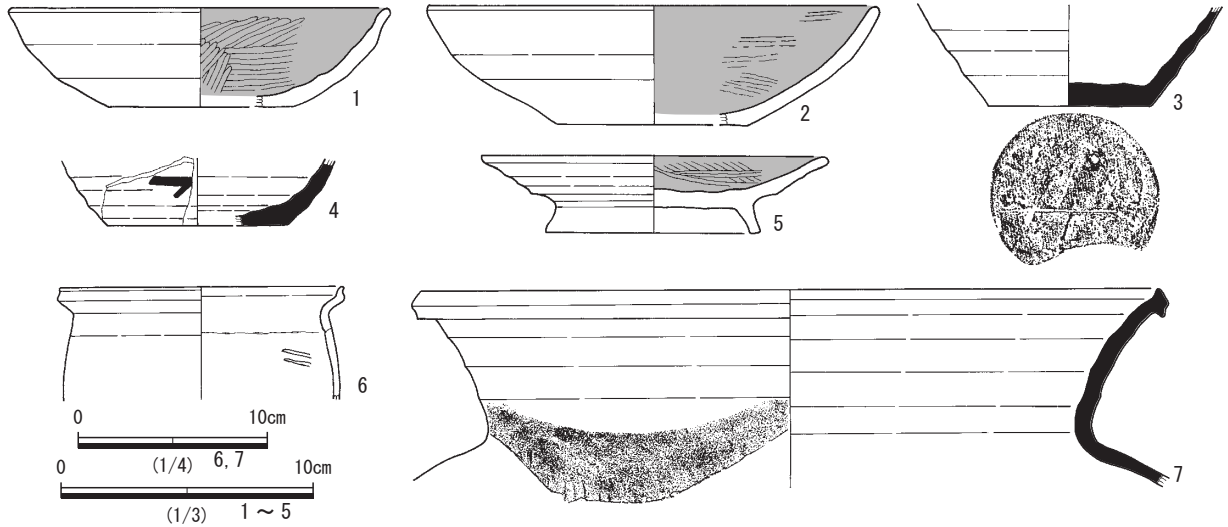
検出位置は B 区 I 26 グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱を受けているが、床面までは達していない。SI87 と重複し、本建物跡が新しい。平面形は歪んだ方形で東壁側が広い。主軸方向は N-2°-E を示す。規模は東西軸が 3.17 m、南北軸の東側が 2.80 m、西側が 2.47 m、深さは 46~53 cm で壁は垂直に立ち上がる。覆土は、下層ほどロームブロック等の含有物が多く認められる状態から、中程まで人為的に埋め戻された後に自然堆積したと考えられる。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床を施し、カマド前面から南壁にかけての中央部で顕著な硬化面が認められる。壁溝は幅 8~18 cm、深さ 2~5 cm でカマド部分と南東隅を除きほぼ全周する。ピットは南壁際中央付近に P1 が検出され、出入口施設に伴うピットと考えられる。規模は径 28 cm、深さ 11 cm で、壁溝に接した半円形状を呈している。掘り方は、南側中央部が深く掘り込まれている。カ



第 128 図 SI 62

マドは北壁の中央に付設される。攪乱のため大部分が消失している。構築材は残存しなかった。燃焼部は2cm程わずかに掘り窪めて使用されるが、焼土は認められず被熱したロームが残存するのみであった。煙道部は屋外へ約52cm掘り込まれる。

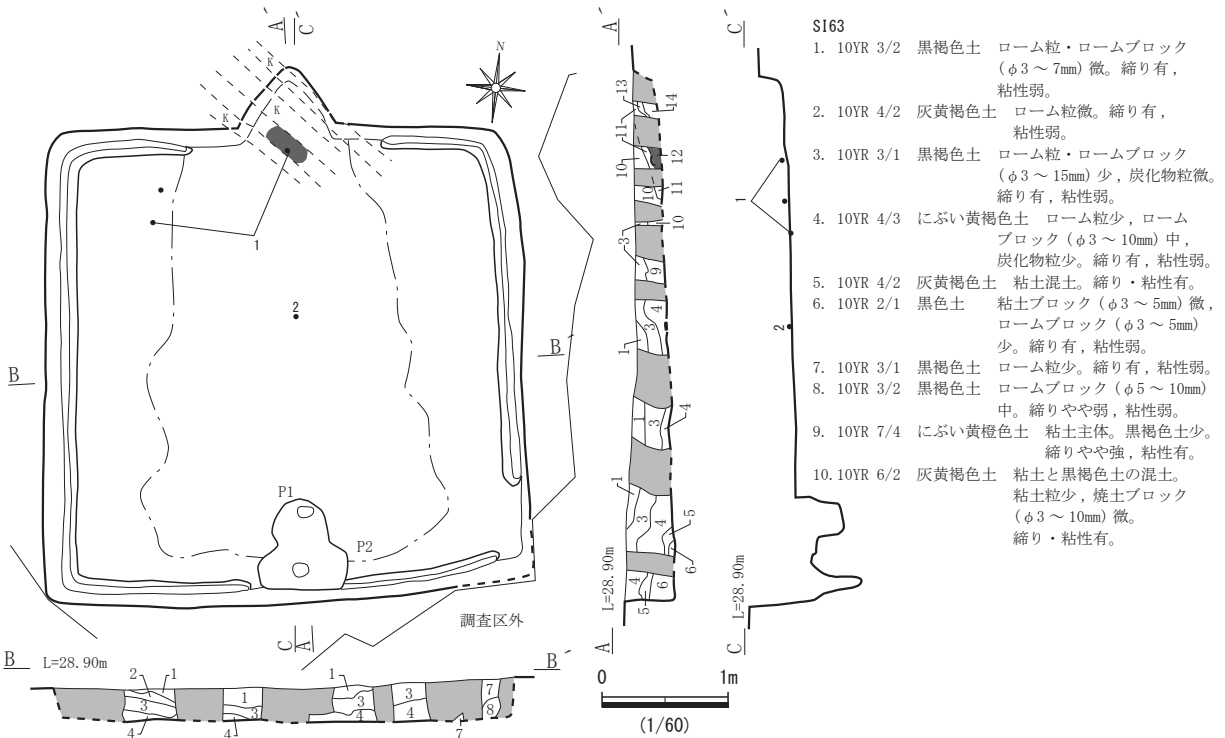
遺物は、土師器66点(坏12, 皿2, 甕52), 須恵器21点(坏11, 高台付坏1, 甕9)が出土した。本遺構で採集した中には、重複するSI87の遺物が混在している可能性がある。供膳具は土師器, 須恵器ともにほぼ同じ割合であるが、遺存の良い遺物は土師器に多い。7の須恵器甕は大型で、カマド左側の壁際から出土している。時期は、9世紀第3四半期～第4四半期と考えられる。



第129図 SI62出土遺物

SI63 (第130・131図, 第26・27表, 写真図版17・46)

検出位置はB区J 26・27グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱が床面まで達している。平面形は正方形で、主軸方向はN-7°-Wを示す。規模は東西軸, 南北軸ともに3.79m,

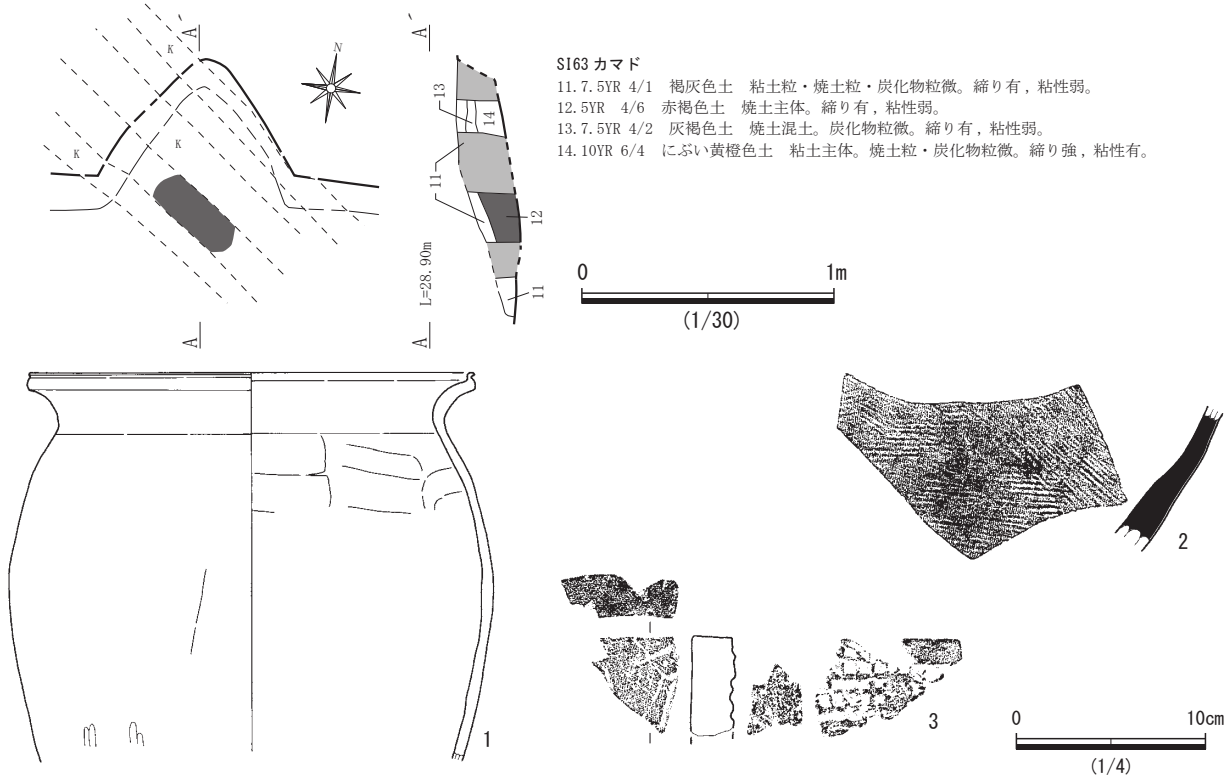


第130図 SI63(1)

第3章 調査の成果

深さは18～38 cmで壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床を施し、カマド前面からP 1にかけての中央部で顕著な硬化面が認められる。壁溝は幅9～14 cm、深さ6 cm程でカマド部分を除きほぼ全周する。ピットは南壁際中央付近にP 1・2が検出され、出入り口施設に伴うピットと考えられる。規模はP 1が径43 cm、深さ20 cm、P 2が径71 cm、深さ34 cmで、両ピットは南北に連続した瓢箪形を呈する。掘り方は、南側が深く掘り込まれている。カマドは北壁の中央に付設される。攪乱が激しいためほとんどが消失し、燃烧部の一部と煙道部の掘り方のみが残存する。燃烧部は5 cm程掘り窪めて使用され、火床面には赤変硬化が認められる。煙道部は屋外へ約47 cm掘り込まれている。

遺物は、土師器6点(坏2, 甕4), 須恵器3点(坏1, 蓋2), 瓦1点(平瓦1)が出土した。出土量が極端に少ない中で、供膳具は須恵器が土師器を上回るが、いずれも小破片ばかりで図示できるものはなかった。時期は、遺物が不十分であるが、遺構形態と併せて見た場合、8世紀後半以降と思われる。



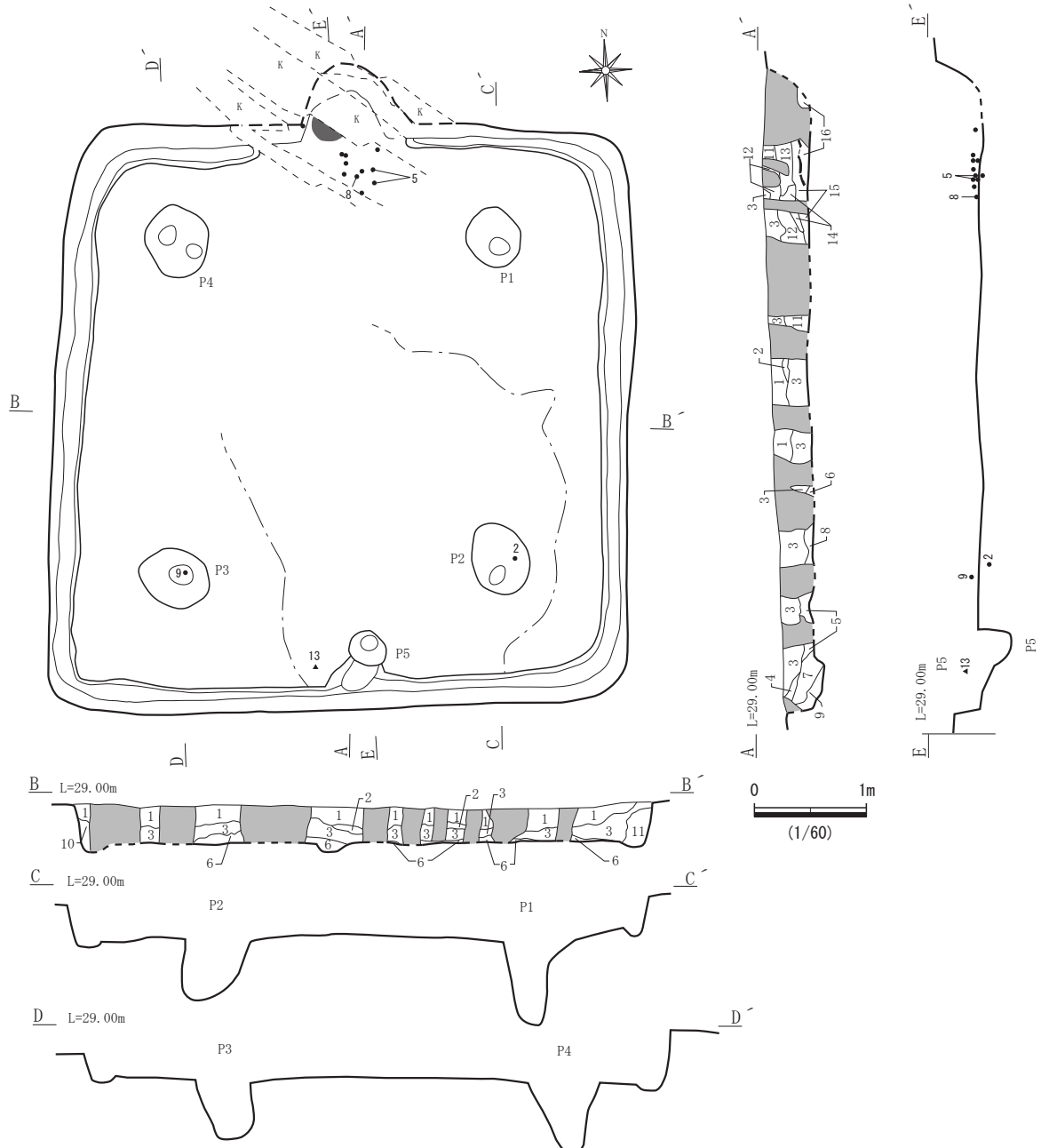
第131図 SI63(2)・同出土遺物

SI64 (第132・133図, 第26・28・30表, 写真図版17・46・47)

検出位置はB区I 27・J 27グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱を格子状に受けて床面まで達し、特に北側が著しい。平面形はやや歪んだ方形で、西壁側が若干広い。主軸方向はN-2°-Eを示す。規模は東西軸が5.15 m、南北軸の東側が5.13 m、西側が5.44 m、深さは27～37 cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床を施し、若干の起伏が見られる。また、南側中央部で顕著な硬化面が認められるものの、北側では攪乱が激しいためか確認できなかった。壁溝は幅14～24 cm、深さ5～7 cmでカマド部分を除き全周する。ピットは5基が検出された。P 1～4は支柱穴で、P 1が径53 cm、深さ75 cm、P 2が67×49 cm、深さ55 cm、P 3が67×50 cm、深さ54 cm、P 4は62×54 cm、深さ

61 cmで、北側のP1・4が深い。P5は南壁際中央にあり、出入口施設に伴うピットと考えられる。規模は55×33 cm、深さ26 cmで、建物内へ向かいスロープ状になっている。掘り方は、全体に浅く掘り込まれている。カマドは北壁の中央に付設されるが、攪乱を受けほとんどが消失している。燃焼部はわずかに残存し、火床面は赤変硬化が認められるのみであった。

遺物は、土師器91点（坏1，鉢1，甕89），須恵器13点（坏7，蓋3，甕3），土製品2点（支脚1，土玉1），石製品1点（砥石1）が出土した。供膳具はほぼ木葉下窯産とみられる胎土の須恵器で占



SI64

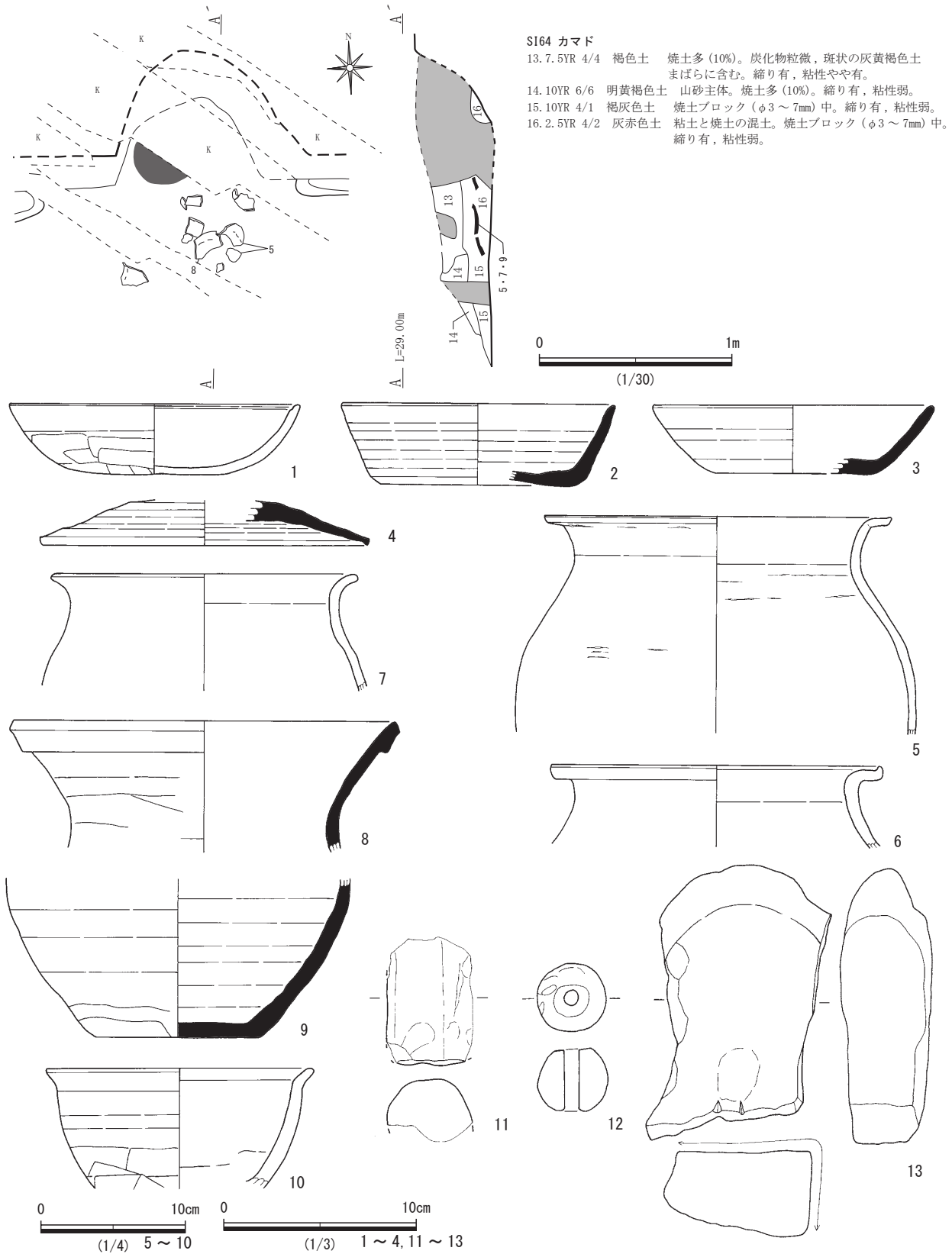
1. 10YR 3/1 黒褐色土 ロームブロック（φ3～5mm）少。締り有，粘性弱。
2. 10YR 2/1 黒色土 ロームブロック（φ5～7mm）少。締り有，粘性弱。
3. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒少，ロームブロック（φ3～5mm）微。締り有，粘性弱。
4. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒中，ロームブロック（φ3～5mm）少。締り有，粘性弱。
5. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒少。締り有，粘性弱。
6. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック（φ3～7mm）多（20%）。締り有，粘性やや有。

7. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック（φ3～7mm）少。締り有，粘性弱。
8. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム土主体。締り・粘性有。
9. 7.5YR 4/4 褐色土 焼土多（10%）。炭化物粒微，斑状の灰黄褐色土まばらに含む。締り有，粘性やや有。
10. 10YR 6/6 明黄褐色土 山砂主体。焼土多（10%）。締り有，粘性弱。
11. 10YR 4/1 褐灰色土 焼土ブロック（φ3～7mm）中。締り有，粘性弱。
12. 2.5YR 4/2 灰赤色土 粘土と焼土の混土。焼土ブロック（φ3～7mm）中。締り有，粘性弱。

第132図 SI64(1)

第3章 調査の成果

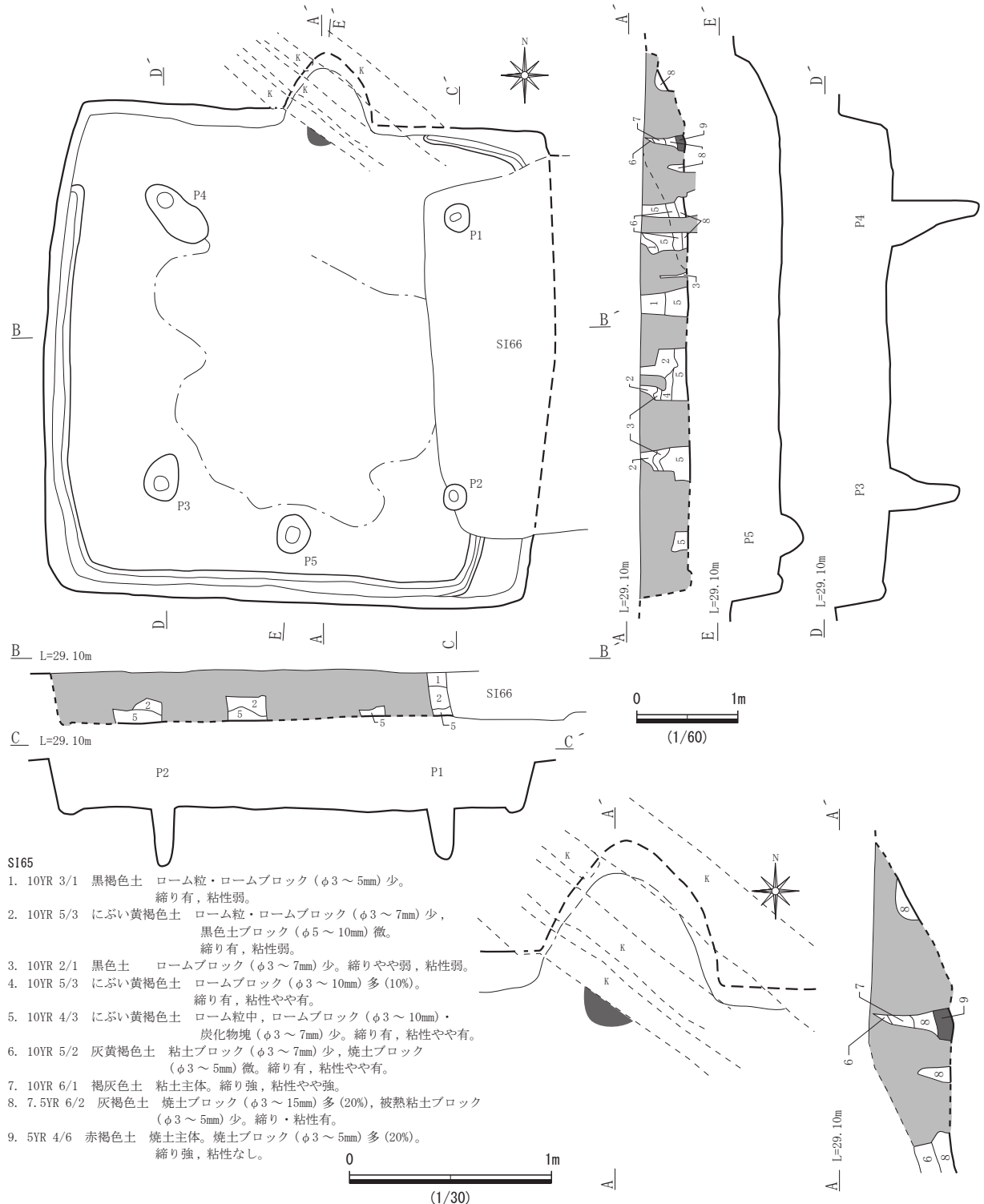
められる。その中で唯一出土した土師器環 1 は非ロクロ成形である。須恵器環では 2 の底部が回転ヘラケズリ調整, 3 の底部が手持ちヘラケズリ調整となり, 3 は胎土から新治窯産と判断される。時期は, 8 世紀第 1 四半期~第 2 四半期と考えられる。



第 133 図 SI64(2)・同出土遺物

SI65 (第134・135図, 第26表, 写真図版17・47)

検出位置はB区H25, I25グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱が激しく、床面まで達している。南側でSI61のカマド煙道部を切り、東側ではSI66に切り込まれている。平面形はほぼ正方形で、主軸方向はN-4°-Eを示す。規模は東西軸が4.81m, 南北軸が4.85m, 深さは43~50cmで壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられるが、下層部分の5層はロームブロックが多く含まれ、人為的な様相を呈する。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床

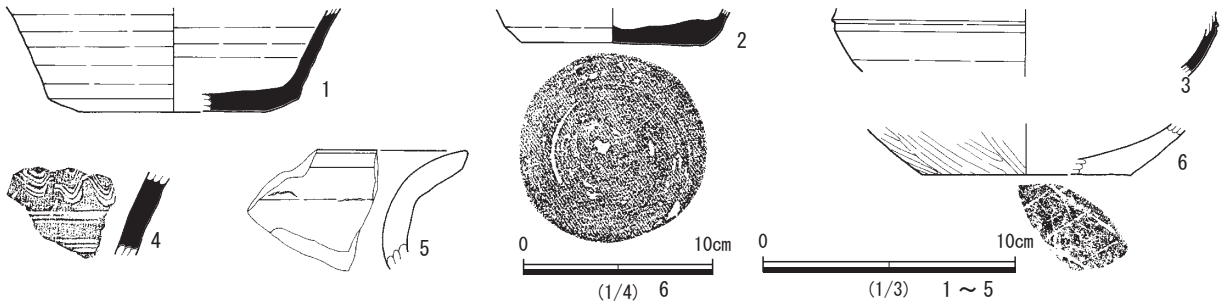


第134図 SI65

第3章 調査の成果

を施し、若干の起伏が見られる。また、南側中央部で顕著な硬化面が認められるものの、北側では攪乱が激しいため確認できなかった。壁溝は幅 11～18 cm、深さ 2～4 cm でカマド部分から北西隅を除きほぼ全周する。南東隅は東壁から 40 cm 程離れて検出されたのは、拡張の痕跡であろう。ピットは 5 基が検出された。P 1～4 は支柱穴で、P 1 が径 29 cm、深さ 50 cm、P 2 が径 25 cm、深さ 59 cm、P 3 が 44 × 36 cm、深さ 71 cm、P 4 は 97 × 77 cm、深さ 86 cm である。P 5 は南壁際中央にあり、出入口施設に伴うピットと考えられる。規模は 37 × 30 cm、深さ 20 cm で南北にやや長い。掘り方は、南側を深く掘り下げ、柱穴周辺は P 3・4 が広く掘り込まれている。西壁際は高く残されており、南東隅の壁溝と同様に拡張された痕跡と考えられる。カマドは北壁の中央に付設されるが、攪乱を受けほとんどが消失している。燃焼部がわずかに残存し、焼土の堆積が認められた。

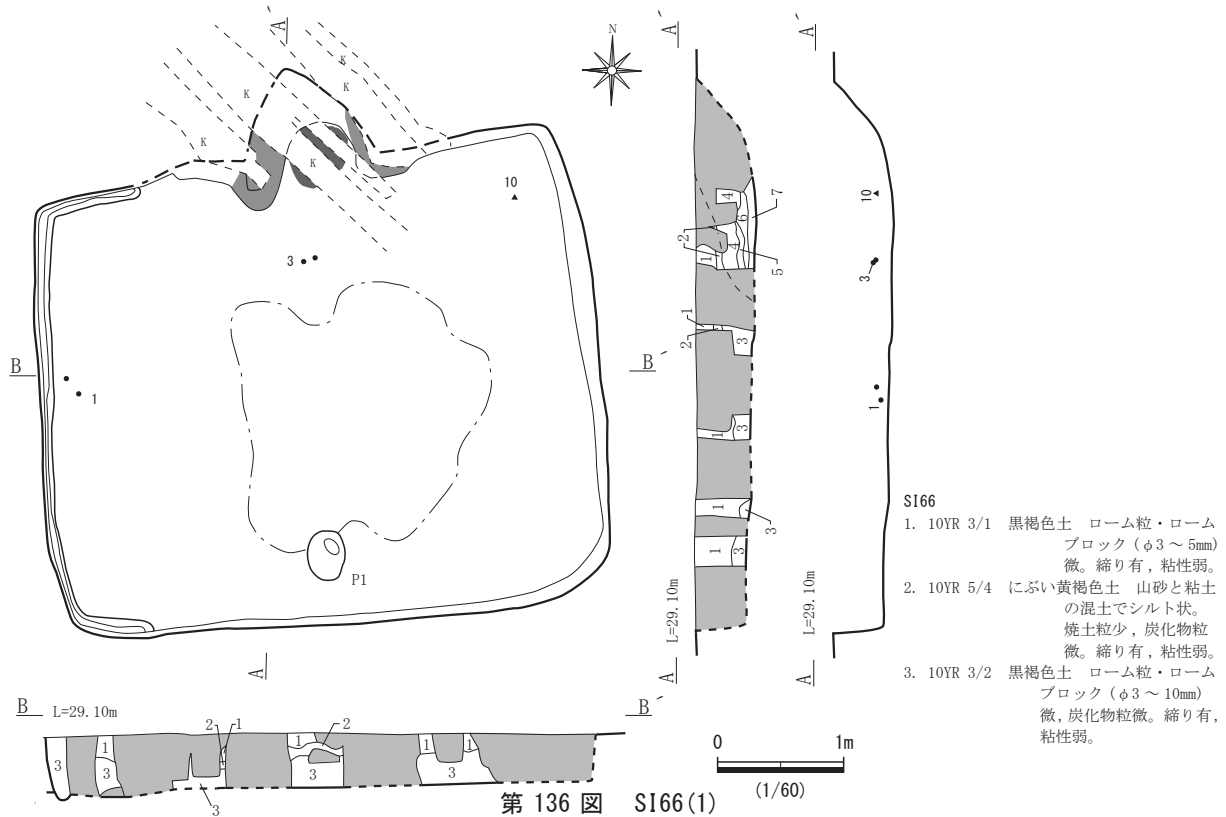
遺物は、土師器 52 点 (坏 2, 甕 50), 須恵器 15 点 (坏 11, 高台付坏 2, 甕 2) が出土した。供膳具はほぼ木葉下窯産とみられる胎土の須恵器が占める。土師器坏は小破片ながら非ロクロ成形が認められる。時期は、須恵器坏の形態から 8 世紀第 1 四半期～第 2 四半期と考えられる。



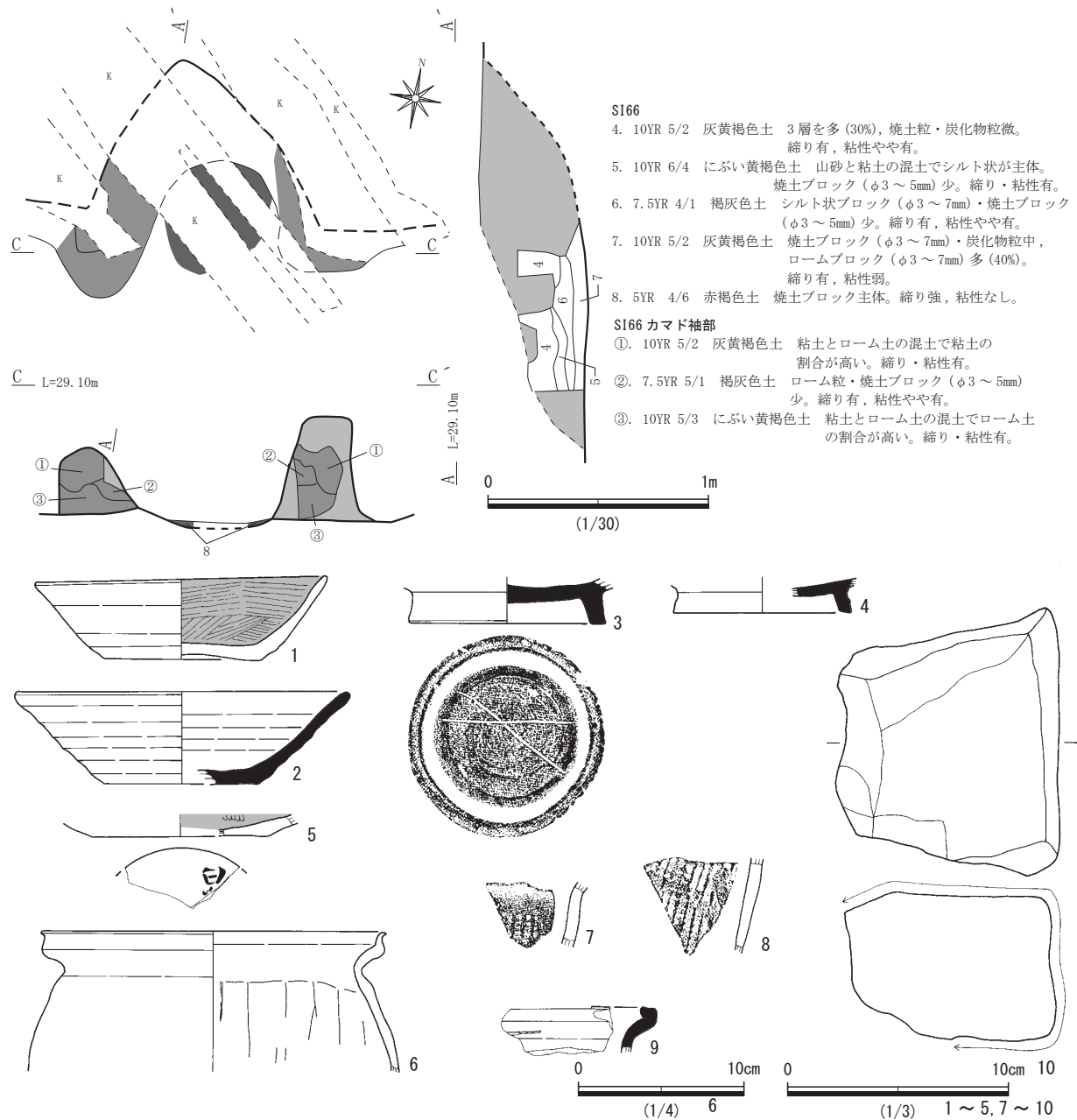
第 135 図 S165 出土遺物

S I 6 6 (第 136・137 図, 第 26・30 表, 写真図版 17・47)

検出位置は B 区 H 25・26, I 25・26 グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱が激



しく、床面まで達している。西側でSI65と重複し、切り合い関係から本建物跡が新しいと判断される。平面形は東西に長くわずかに歪んでいる。主軸方向はN-5°-Wを示す。規模は東西軸が4.48m、南北軸の東側が3.70m、西側が3.52m、深さは43cmで壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床を施し、若干の起伏が見られる。また、中央部では顕著な硬化面が認められる。壁溝は幅7～12cm、深さ2～4cmで西壁際のみ確認している。ピットは南壁際中央にP1が検出され、出入り口施設に伴うピットと考えられる。規模は40×30cm、深さ33cmで南北に長い楕円形を呈し、底部中心は屋内に寄っている。掘り方は、ほぼ全体を浅く掘り下げ、壁際が高く残されていることから、拡張が行われた可能性がある。カマドは北壁のほぼ中央に付設されるが、燃焼部内のほとんどが攪乱を受け消失している。燃焼部は6cm程掘り窪められ、残存する火床面は焼土ブロックが堆積する。煙道部は屋外へ70cm掘り込まれ、全長は107cm、燃焼部幅65cm、袖部残存長は左袖40cm、右袖20cmである。

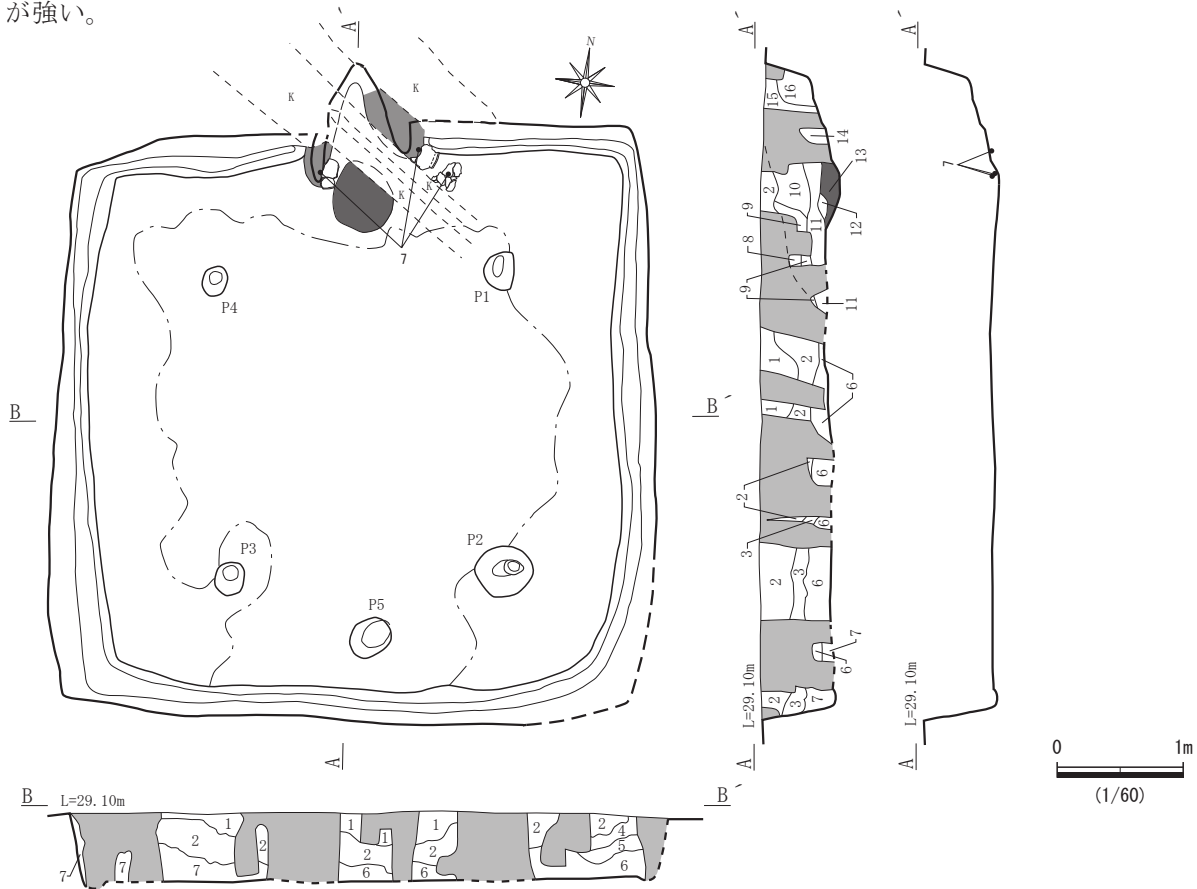


第3章 調査の成果

遺物は、土師器 131 点（坏 2，皿 1，鉢 4，甕 123，蓋 1），須恵器 30 点（坏 9，高台付坏 3，蓋 1，甕 17），石製品 1 点（砥石 1）が出土した。供膳具は木葉下窯産とみられる胎土の須恵器が主体である。土師器は内面黒色処理されたものが中心である。時期は、9 世紀第 3 四半期と考えられる。

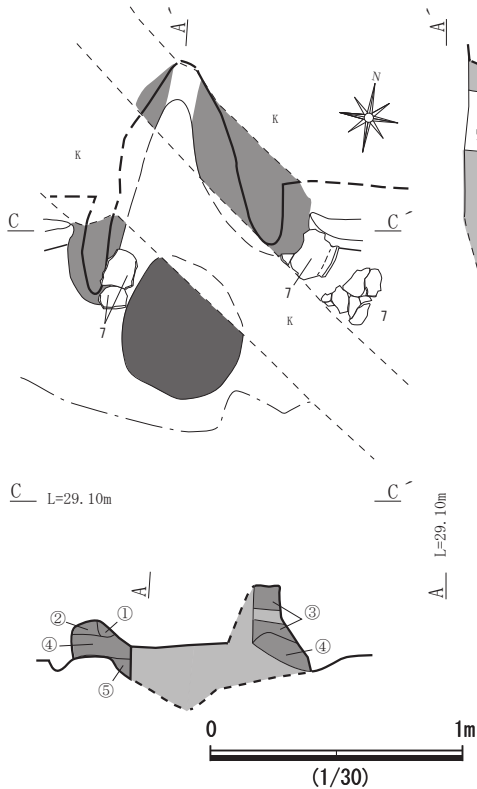
SI 67（第 138・139 図，第 26・28 表，写真図版 17・47）

検出位置は B 区 H 26・27，I 26・27 グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱が激しく，床面まで達している。平面形はほぼ正方形であるが，全体に歪んでいる。主軸方向は N-9°-W を示す。規模は東西軸の南側が 4.88 m，北側が 4.55 m，南北軸の東側が 4.73 m，西側が 4.50 m である。深さは 47～56 cm で壁は垂直に立ち上がる。覆土は下層部分の 3・6・7 層にはロームブロックが多く含まれることから，人為的に埋め戻された後，自然堆積したと考えられる。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床を施し，カマド前面から南壁にかけての主柱穴間で顕著な硬化面が認められた。壁溝は幅 12～23 cm，深さ 3～7 cm でカマド部分を除き全周するが，南東隅では壁からやや離れ湾曲している。ピットは 5 基が検出された。P1～4 は主柱穴で，P1 が 31×24 cm，深さ 45 cm，P2 が径 40 cm，深さ 36 cm，P3 が径 23 cm，深さ 46 cm，P4 は径 23 cm，深さ 48 cm である。P5 は南壁際中央にあり，出入口施設に伴うピットと考えられる。規模は 34×28 cm，深さ 20 cm で中心が北東方向に寄っている。掘り方は全体に浅く掘り込まれている。カマドは北壁の中央に付設されるが，燃焼部から右袖部が大きく攪乱を受けている。構築材は山砂が主体である。燃焼部は 12 cm 程掘り窪められ，火床面は屋内寄りに径 50 cm の範囲で赤変硬化する。煙道部は上部が消失しているものの，屋外へ約 50 cm 掘り込まれていた。全長は 135 cm，左袖の残存長は 44 cm で，燃焼部内は被熱が強い。



第 138 図 SI67(1)

遺物は、土師器 45 点（坏 2，高台付坏・椀 1，甕 42），須恵器 14 点（坏 3，高台付坏 1，蓋 8，甕 2），土製品 2 点（土玉 2）が出土した。供膳具は須恵器が主体で，木葉下窯産とみられる胎土以外の製品が上回る。器種の中でも蓋の出土が多い。土師器は非ロクロ成形の坏と内面黒色処理された坏類が混在する。2～6 の須恵器蓋は体部が弧状の形態になる 2・6 や口縁部内面にかえりを持つ 4・5 が出土している。時期は，出土遺物全体の様相から 8 世紀第 1 四半期と考えられる。ただし，図示した 1 の土師器高台付底部・椀類に墨書があり該期より新しい。混入遺物の可能性が高い。

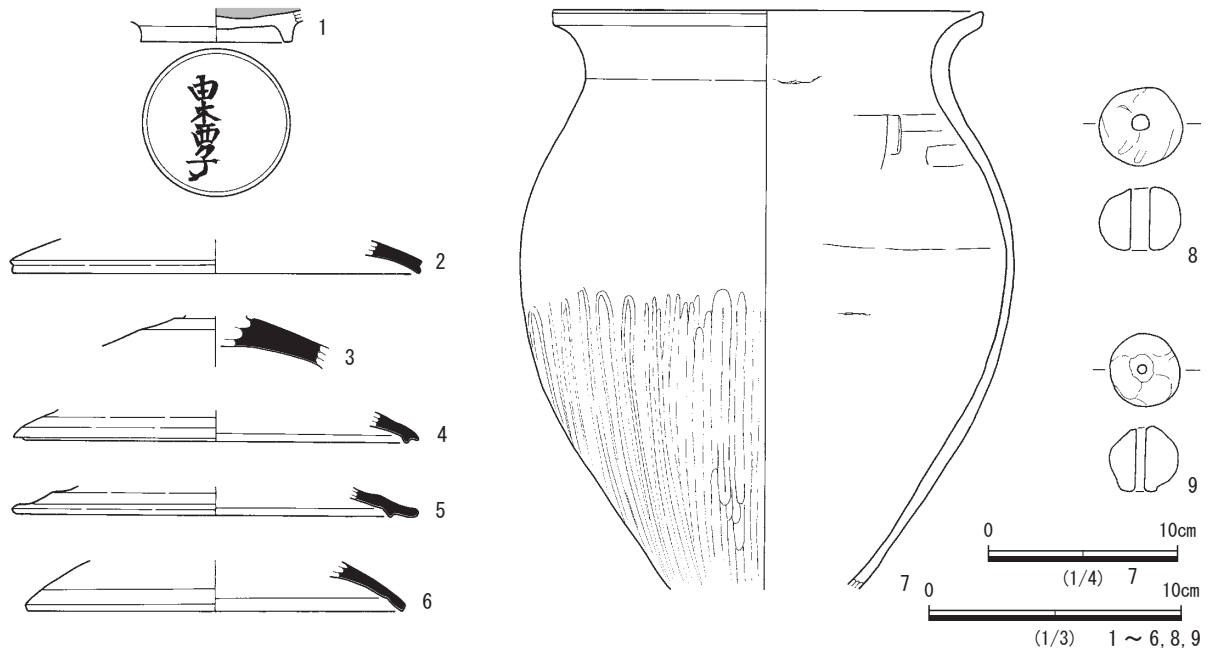


SI67

1. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒少，ロームブロック（φ3～7mm）微，斑状の灰褐色土を全体に含む。縮り有，粘性弱。
2. 10YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック（φ3～10mm）少，斑状の灰褐色土を全体に含む。縮り有，粘性弱。
3. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム土混土，黒色土ブロック（φ5～20mm）多（20%）。縮り・粘性有。
4. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒中，ロームブロック（φ3～10mm）少。縮り有，粘性弱。
5. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒中，ロームブロック（φ3～10mm）微。縮り有，粘性弱。
6. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック（φ5～30mm）多（20%）。縮り有，粘性やや有。
7. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック（φ3～10mm）少。縮り有，粘性やや有。
8. 7.5YR 4/2 灰褐色土 粘土混土。ローム粒・焼土粒少。縮り・粘性有。
9. 10YR 6/2 灰黄褐色土 粘土主体。焼土ブロック（φ3～10mm）少。縮り・粘性有。
10. 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 焼土・ロームブロック（φ3～5mm）少。縮り有，粘性やや有。
11. 10YR 4/2 灰黄褐色土 焼土・粘土少，黒色土ブロック（φ3～5mm）微。縮り有，粘性やや有。
12. 10YR 6/3 にぶい黄褐色土 粘土主体。焼土粒多（20%）。縮り・粘性有。
13. 2.5YR 4/6 赤褐色土 焼土主体。ロームブロック（φ3～5mm）少。（φ5～20mm）多（20%）縮りやや弱，粘性弱。
14. 10YR 6/4 にぶい黄褐色土 粘土と焼土の混土。縮り有，粘性弱。
15. 10YR 7/4 にぶい黄褐色土 粘土主体。焼土粒多（10%），被熱粘土ブロック（φ5～20mm）多（20%）。縮り強，粘性有。
16. 7.5YR 3/3 暗褐色土 焼土ブロック（φ3～5mm）多（10%），被熱粘土ブロック（φ5～10mm）多（10%），ローム粒少。縮り有，粘性やや有。

SI67 カマド袖部

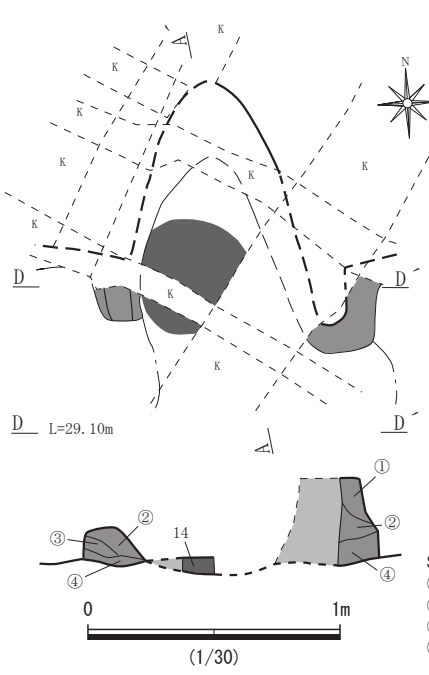
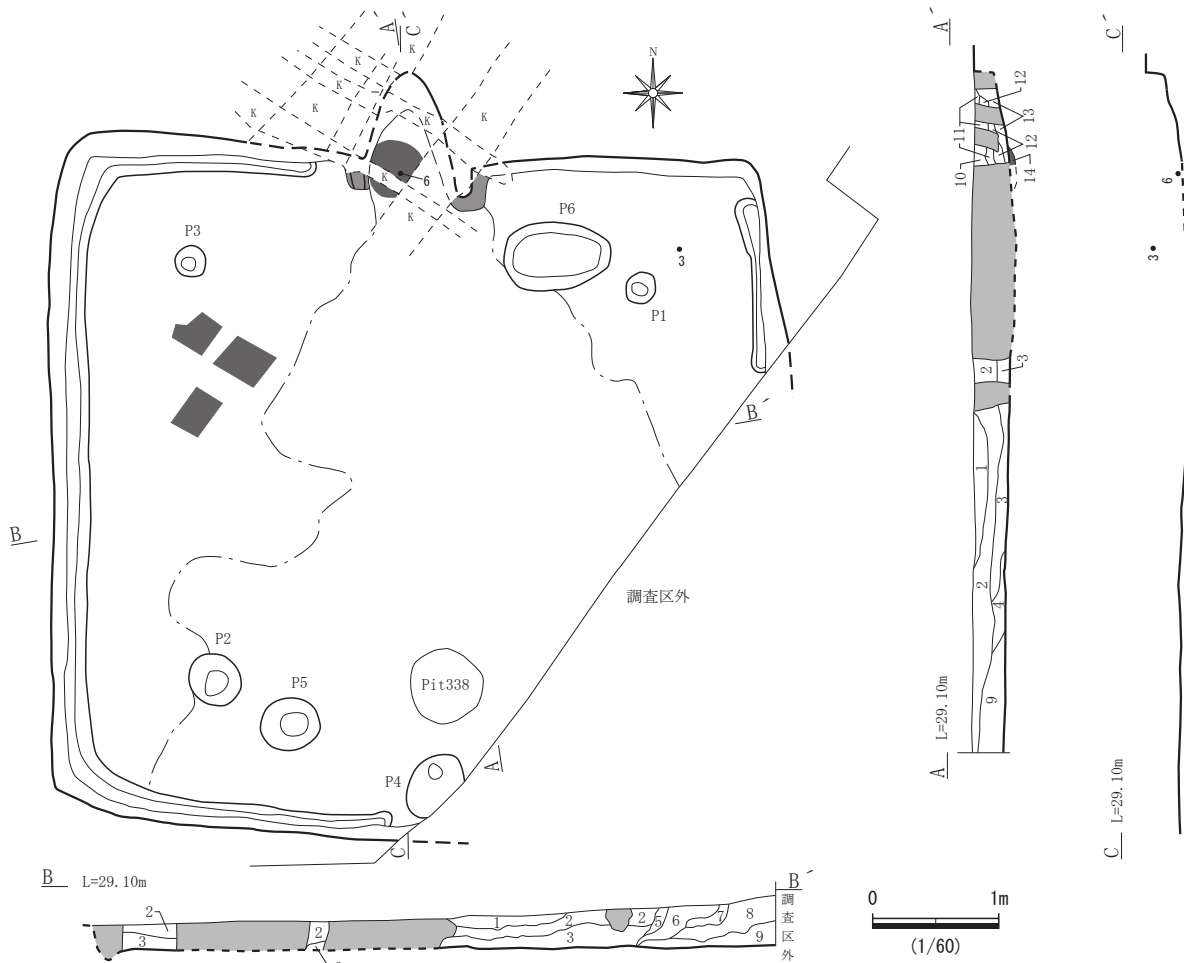
- ① .5YR 4/4 にぶい赤褐色土 被熱土・白色粒微。縮り強，粘性なし。
- ② .10YR 6/6 明黄褐色土 山砂主体。焼土少，白色粒微。縮り強，粘性なし。
- ③ .10YR 5/4 にぶい黄褐色土 山砂混土。ロームブロック（φ3～5mm）少。縮り有，粘性弱。
- ④ .7.5YR 5/4 にぶい褐色土 焼土粒微，斑状の灰褐色土をまばらに含む。縮り有，粘性やや有。
- ⑤ .5YR 4/2 灰褐色土 ローム粒少，ロームブロック（φ3～5mm）微。縮り有，粘性弱。



第 139 図 SI67(2)・同出土遺物

S I 6 8 (第140・141図, 第26・28表, 写真図版17・48)

検出位置はB区 I 27・28グリッドである。東側が調査区外になり、可能な限り拡張を行ったが、南東側は確認できなかった。建物跡の西壁からカマドにかけては耕作によるトレンチャーの攪乱が激



S168

1. 10YR 4/4 褐色土 ロームブロック (φ3~7mm) 多 (10%), 白色粒微。縮り有, 粘性弱。
2. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ3~10mm) 少。縮り有, 粘性弱。
3. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒中, ロームブロック (φ3~5mm) 少。縮り有, 粘性やや有。
4. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒少, ロームブロック (φ3~5mm) 微。縮り有, 粘性やや有。
5. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム土主体。縮り有, 粘性やや有。
6. 10YR 3/1 黒褐色土 ロームブロック (φ3~5mm) 少, 焼土粒微。縮り有, 粘性弱。
7. 7.5YR 4/4 褐色土 ロームブロック (φ3~7mm) 多 (10%), 焼土ブロック (φ3~7mm) 少。縮り有, 粘性やや有。
8. 7.5YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック (φ3~7mm) 少, 焼土ブロック (φ3~10mm) 微。縮り有, 粘性弱。
9. 7.5YR 4/3 褐色土 ロームブロック (φ3~7mm) 中。縮りやや弱, 粘性弱。
10. 7.5YR 4/3 褐色土 焼土ブロック (φ3~5mm) 微, ローム粒少。縮り有, 粘性弱。
11. 10YR 6/6 明黄褐色土 山砂主体。焼土粒少。縮り有, 粘性弱。
12. 5YR 4/6 赤褐色土 焼土主体。山砂少。縮り有, 粘性弱。
13. 7.5YR 4/2 灰褐色土 焼土粒少。焼土ブロック (φ3~7mm) 微。縮り有, 粘性弱。
14. 2.5YR 4/6 赤褐色土 焼土主体。焼土ブロック (φ3~5mm) 多 (20%)。縮り有, 粘性なし。

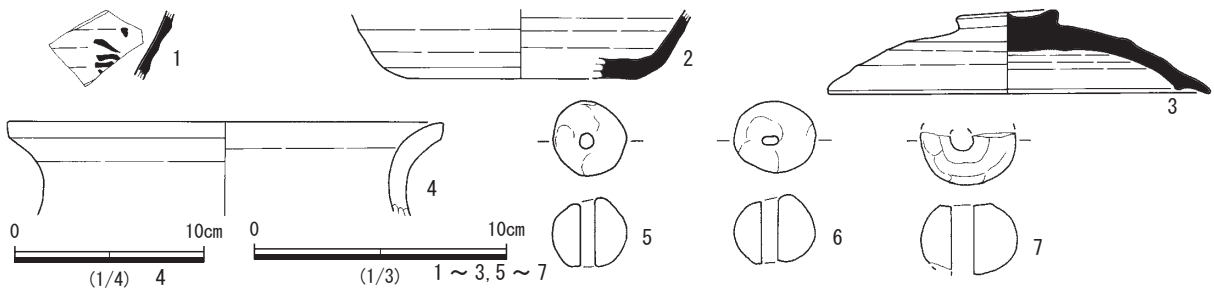
S168 カマド袖部

- ①. 10YR 6/4 にぶい黄褐色土 山砂と粘土の混土でシルト状。白色粒微。縮り・粘性有。
- ②. 7.5YR 4/2 灰褐色土 焼土粒少, 白色粒微。縮り・粘性有。
- ③. 7.5YR 5/2 灰褐色土 焼土ブロック (φ3~5mm)・ロームブロック (φ5~7mm) 微。縮り・粘性有。
- ④. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ5~10mm) 中。縮り有, 粘性やや有。

第140図 S168

しく、床面まで達している。平面形は方形で、主軸方向はN-0°を示す。規模は東西軸が5.84 m、南北軸が5.48 mである。深さは18～34 cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は自然的な堆積層を呈しているが、各層にロームブロックが目立ち、人為的に堆積した可能性もある。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床を施し、攪乱部分は検出できなかったが、カマド前面から南壁にかけての主柱穴間で硬化していた。壁溝は幅10～18 cm、深さ7～8 cmでカマド部分とその東側以外で確認される。ピットは6基が検出された。P1～3は主柱穴で、P1が径24 cm、深さ63 cm、P2が径42 cm、深さ54 cm、P3が径27 cm、深さ60 cmである。P4はカマドの位置から見て南壁際中央にあることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。規模は51×42 cm、深さ31 cmで南北にやや長く、底部が屋内に向かってスロープ状になる。P3・4の間にあるP5は、径47 cm、深さ24 cmで、補助柱穴か。P6は形態や配置から貯蔵穴と思われる。掘り方は、中央を高く残し壁際を環状に掘り込まれている。また、主柱穴部分には据え替え前の痕跡が認められた。カマドは北壁の中央に付設されるが、攪乱を受け燃焼部及び右袖部の一部は残存するものの全容は把握されない。燃焼部は8 cm程掘り窪められ、火床面は赤変硬化する。構築材は粘土と山砂の混和土を用いている。燃焼部から煙道部は屋外へ約67 cm掘り込まれている。全長は135 cm、左袖の残存長は27 cmである。

遺物は、土師器36点（甕35、甑1）、須恵器8点（坏4、蓋3、甕1）、土製品4点（土玉4）が出土した。供膳具は須恵器で占められ、煮炊具は土師器甕が主体である。須恵器は胎土から、木葉下窯産とみられる胎土以外の製品が中心である。1は墨書が認められた体部片で、小片のため時期不明だが他の遺物より新しくなる可能性がある。3は口縁部内面にかえりを持つ。時期は、8世紀第1四半期と考えられる。



第141図 SI68 出土遺物

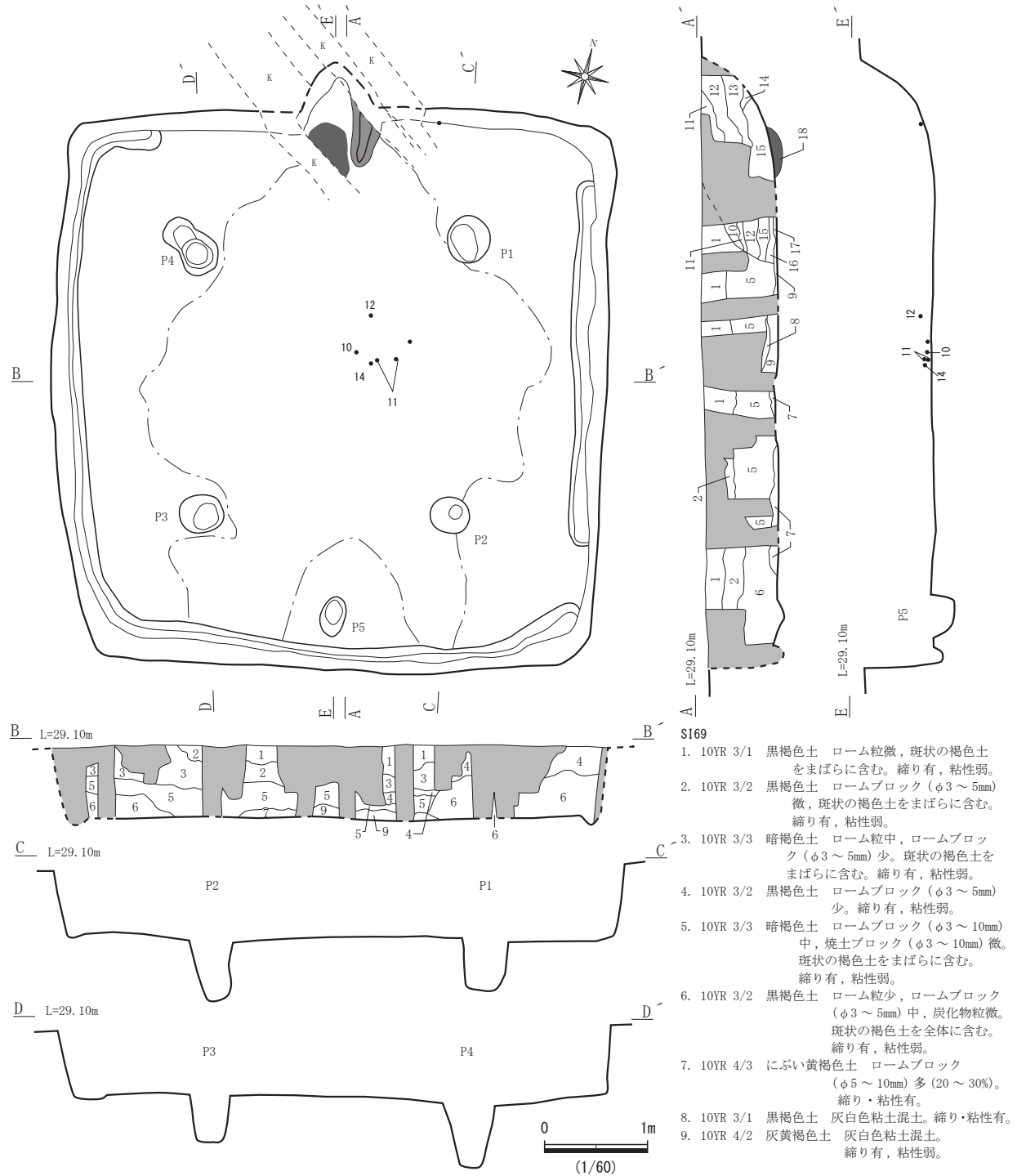
SI69（第142・143図、第26～28表、写真図版18・48）

検出位置はB区H27グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱が激しく、床面まで達している。平面形はほぼ正方形であるが、西壁がわずかに膨らむ。主軸方向はN-15°-Wを示す。規模は東西軸が6.75 m、南北軸が6.89 mである。深さは69 cmで壁は垂直に立ち上がる。覆土は下層部分にあたる6・7層ではロームブロックが多く含まれていることから、人為的に埋め戻された後上層部分で自然堆積したと考えられる。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床を施し、カマド前面から南壁にかけての主柱穴間で顕著な硬化面が認められる。壁溝は幅8～22 cm、深さ4～5 cmで北壁際部分を除き確認される。ピットは5基が検出された。P1～4は主柱穴で、P1が径43 cm、深さ53 cm、P2が径42 cm、深さ51 cm、P3が径43 cm、深さ43 cm、P4が62×40 cm、深さ60 cmで、P4は不整形な形状で段を有する。P5は南壁際中央にあり、出入り口施設に伴うピットと考えられる。規模は40×25 cm、深さ24 cmで南北に長い。掘り方は、カマド前面から中央を高く残し南側を深めに掘り込んでいる。カマドは北壁の中央に付設されるが、攪乱で左袖部と煙道部及び

第3章 調査の成果

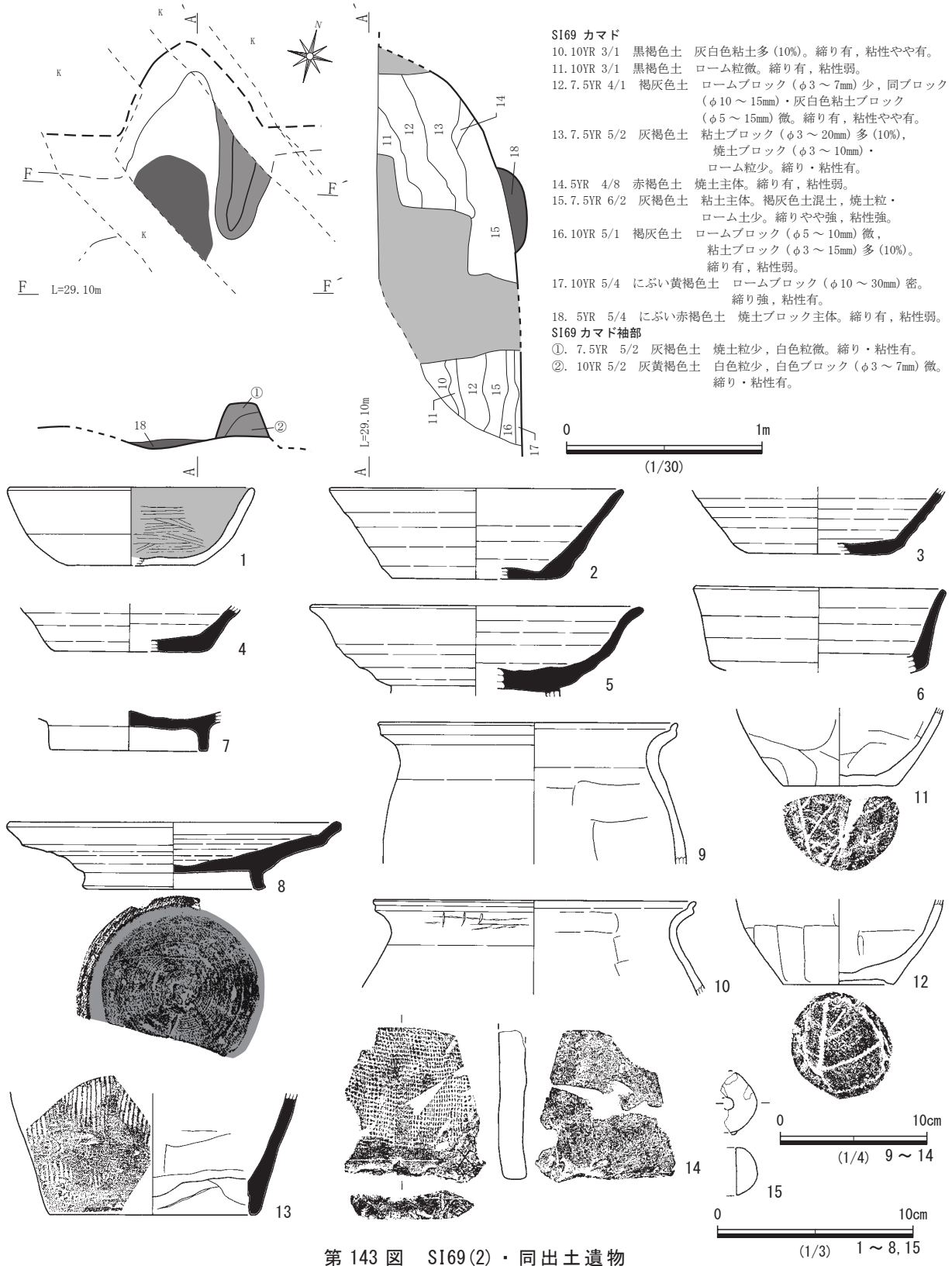
燃烧部の一部が消失しているため、全容は把握できなかった。燃烧部は残存する状態から6cm程掘り窪められ、火床面は赤変硬化が認められた。構築材は残存する袖部から粘土と山砂の混和土が用いられていたと考えられる。右袖の残存長は54cmである。

遺物は、土師器 182 点（坏 14，高台付坏・碗 3，甕 165），須恵器 86 点（坏 61，高台付坏 6，盤 1，盖 7，甕 10，壶・瓶類 1），瓦 1 点（平瓦 1），土製品 1 点（土玉 1）が出土した。供膳具は木葉下窯産とみられる胎土の須恵器が主体である。土師器は内面が黒色処理と非黒色処理でほぼ同等の出土量になる。特異な遺物としては 8 の須恵器盤で、底部全体に朱墨が施されていた。時期は、5 の須恵器



第 142 図 SI69(1)

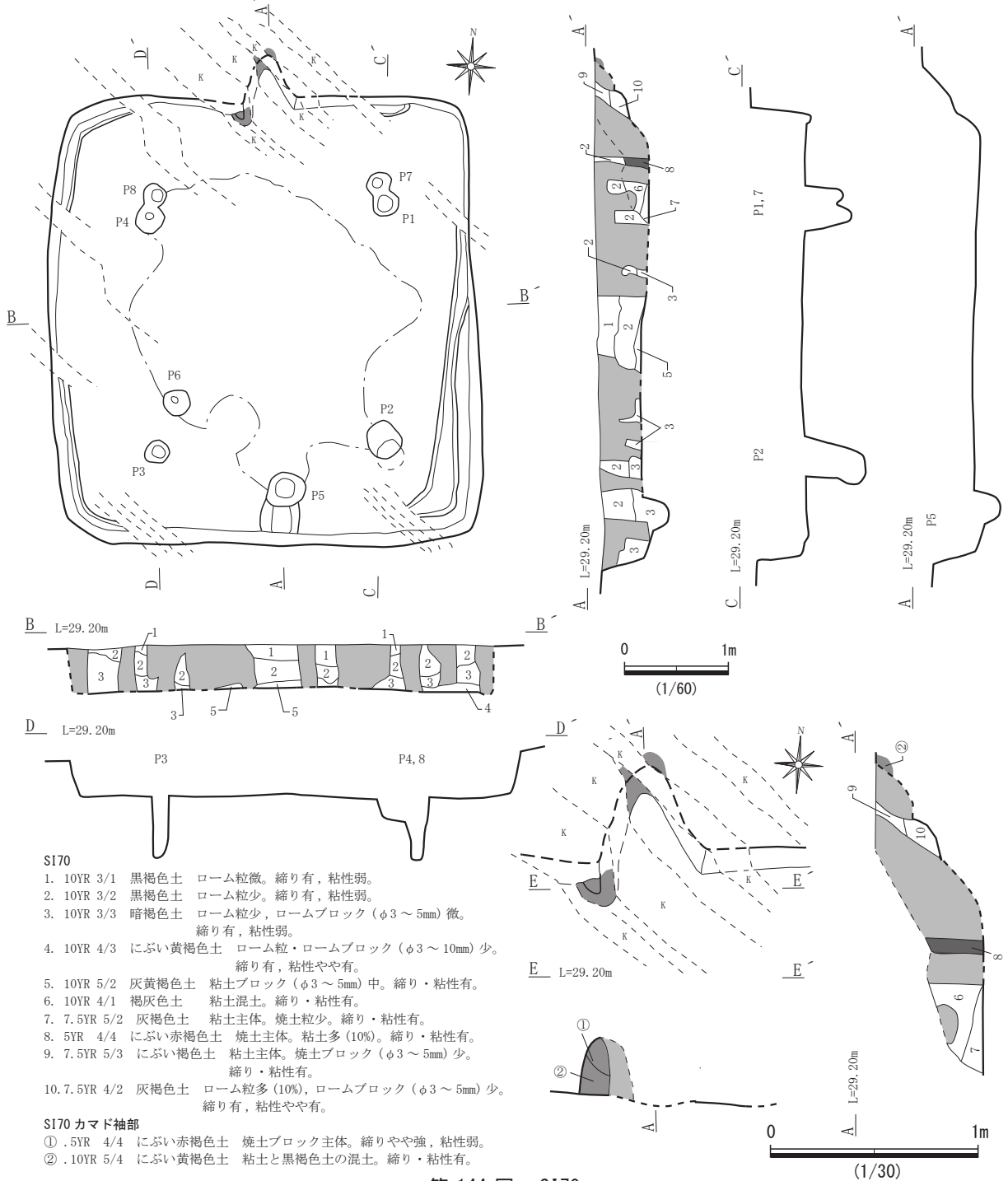
高台坏・椀は10世紀代後半と新しい様相であるのに対し、須恵器は9世紀代中頃～第3四半期が中心で、新旧の遺物が混在している。周辺には竪穴建物跡を切り込む掘立柱建物跡とみられる柱穴が点在していることから、同様の柱穴が重複した可能性があり、その遺物が混入した可能性があることから、9世紀第2四半期～第3四半期と考えられる。



第143図 SI69(2)・同出土遺物

S I 7 0 (第144・145図, 第26・27表, 写真図版18・48)

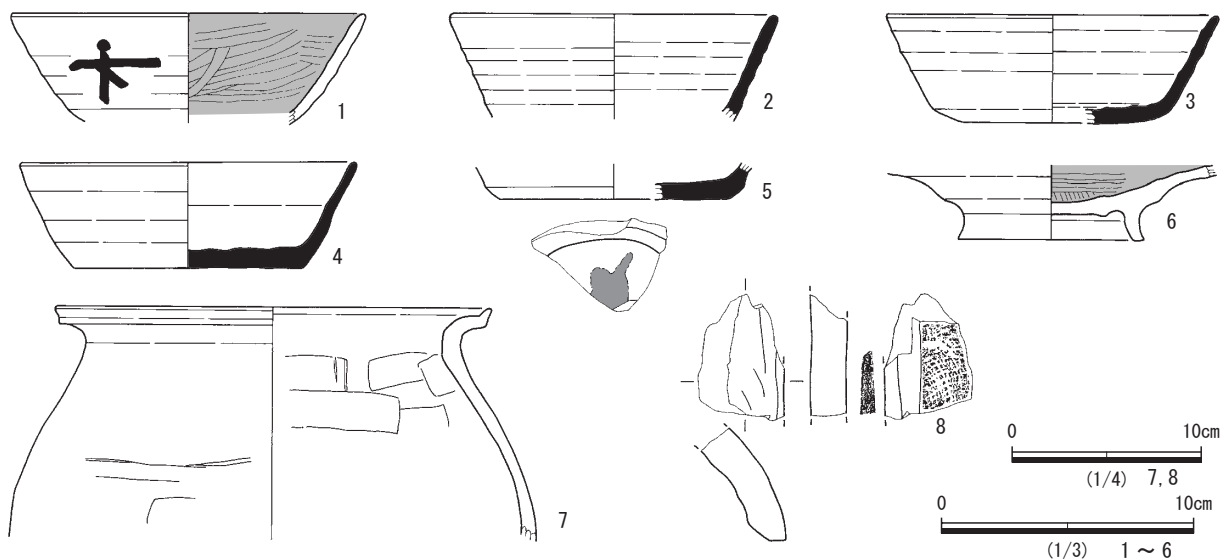
検出位置はB区H 28グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱が激しく、床面まで達している。平面形は方形で、主軸方向はN-5°-Wを示す。規模は東西軸が4.11m, 南北軸が4.33mである。深さは38~43cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積を呈する。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床を施し、中央部の支柱穴間で顕著な硬化面が認められる。壁溝は幅9~29cm, 深さ3~6cmであるが、認められない部分も多く、南東隅では壁から離れているなど不明瞭である。ピットは8基が検出された。P1~4は支柱穴で、P1が径25cm, 深さ43cm, P2が径27cm, 深さ61cm, P3が径25cm, 深さ53cm, P4が径28cm, 深さ24cmである。P5は



第144図 S170

南壁際中央にあり，出入口施設に伴うピットと考えられる。ピット部分と壁溝に接続する部分があり，ピット部分の規模は径 37 cm，深さ 23 cm，壁に接続する部分の幅が 38 cm，深さ 4 cm である。P 6 は径 27 cm，深さ 10 cm で補助柱穴であろうか。P 7・8 は北側の支柱穴 P 1・4 に接し，柱の据え替えを行った可能性がある。P 7 が径 25 cm，深さ 35 cm，P 8 が径 24 cm，深さ 60 cm である。掘り方はほぼ全体に掘り下げられているが，壁際が若干深めである。カマドは北壁の中央に付設されるが，攪乱で大部分が消失しているため，全容は把握されなかった。構築材は残存する袖部から粘土と山砂の混和土が用いられ，煙道部まで被われていたとみられる。煙道部は約 50 cm 掘り込まれ，左袖は 14 cm 程残存する。

遺物は，土師器 78 点（坏 4，高台付坏・碗類 1，甕 73），須恵器 16 点（坏 15，蓋 1），瓦 1 点（丸瓦 1）が出土した。供膳具は木葉下窯産とみられる胎土の須恵器坏が主体である。土師器は内面黒色処理された坏類が中心である。時期は，土師器坏 1，皿 6 は 9 世紀代後半と新しい様相であるのに対し，他の須恵器は 8 世紀第 3 四半期～第 4 四半期が中心で，新旧遺物が混在している。周辺には竪穴建物跡を切り込む掘立柱建物跡とみられる柱穴が点在していることから，同様の柱穴が重複した可能性があり，その影響とみられることから，8 世紀第 3 四半期～第 4 四半期と考えられる。

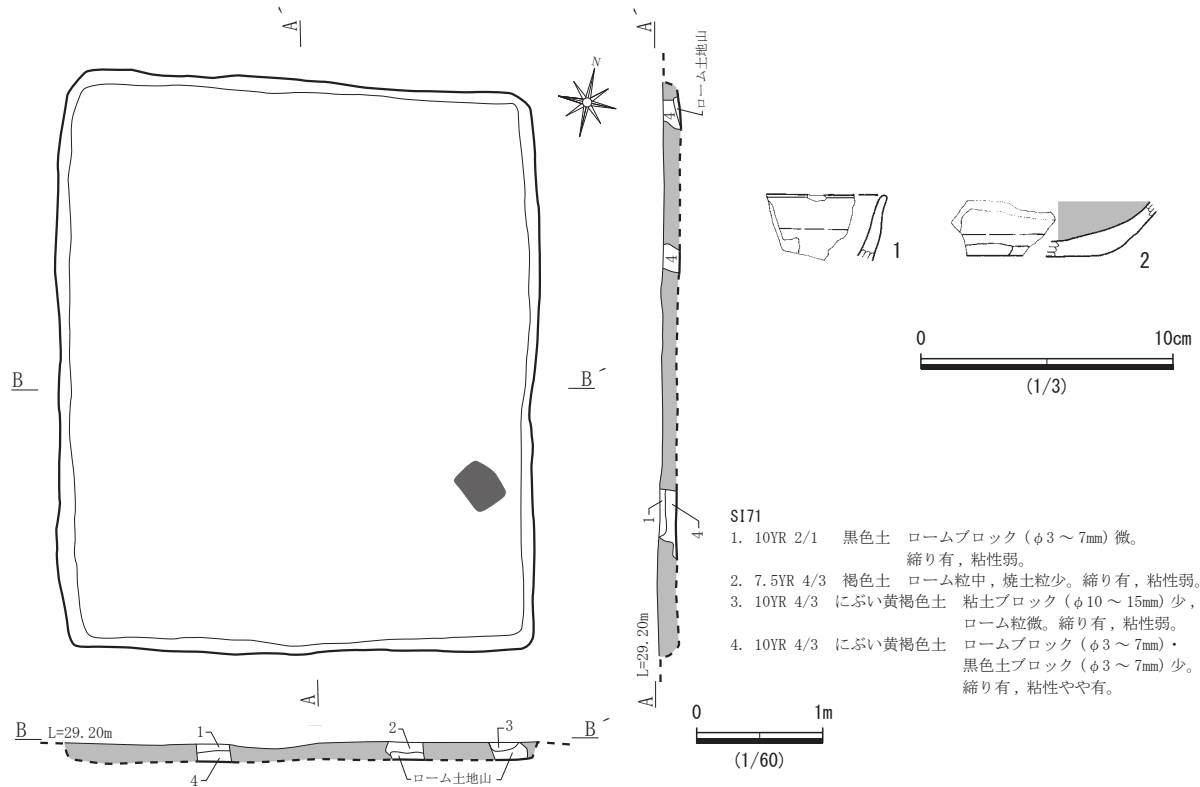


第 145 図 SI70 出土遺物

S I 7 1（第 146 図，第 26 表，写真図版 18・48）

検出位置は B 区 G 27・28 グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱が激しく，床面まで達している。平面形は南北に長い長方形で，東西壁を軸とした場合の方向は N-14°-W を示す。規模は東西軸が 3.79 m，南北軸が 4.56 m である。深さは 14 cm で壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はほぼ平坦であるが，硬化面は認められない。壁溝，ピットは検出されなかった。掘り方は認められず，直床である。カマドは検出されなかったが，東壁際の南寄りの地点に薄い焼土が残存し，下部ではロームの被熱が認められたことからこの付近に遺存した可能性がある。本建物跡は，規模や形態，カマドの痕跡が確認された位置などから，SI56 に類似する。

遺物は，土師器 20 点（坏 6，鉢 1，甕 13），須恵器 7 点（坏 5，高台付坏 1，甕 1），鉄製品 1（不明 1）が出土した。供膳具は土師器と須恵器ともに同じ出土量である。土師器は内面黒色処理された坏が中心である。時期を推定するには遺物の出土量や遺存度が不十分であるが，土師器坏 2 の体部下端が手持ちヘラケズリであることなどから 10 世紀代以降であろう。

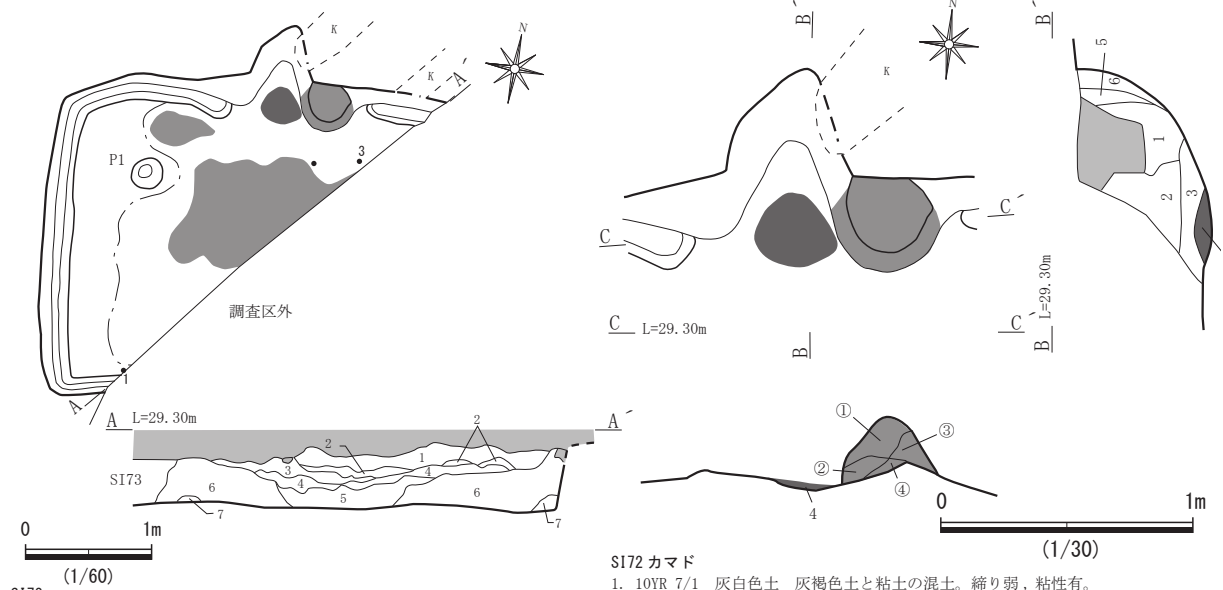


第 146 図 SI71・同出土遺物

SI72 (第 147 図, 第 26・29 表, 写真図版 18・48)

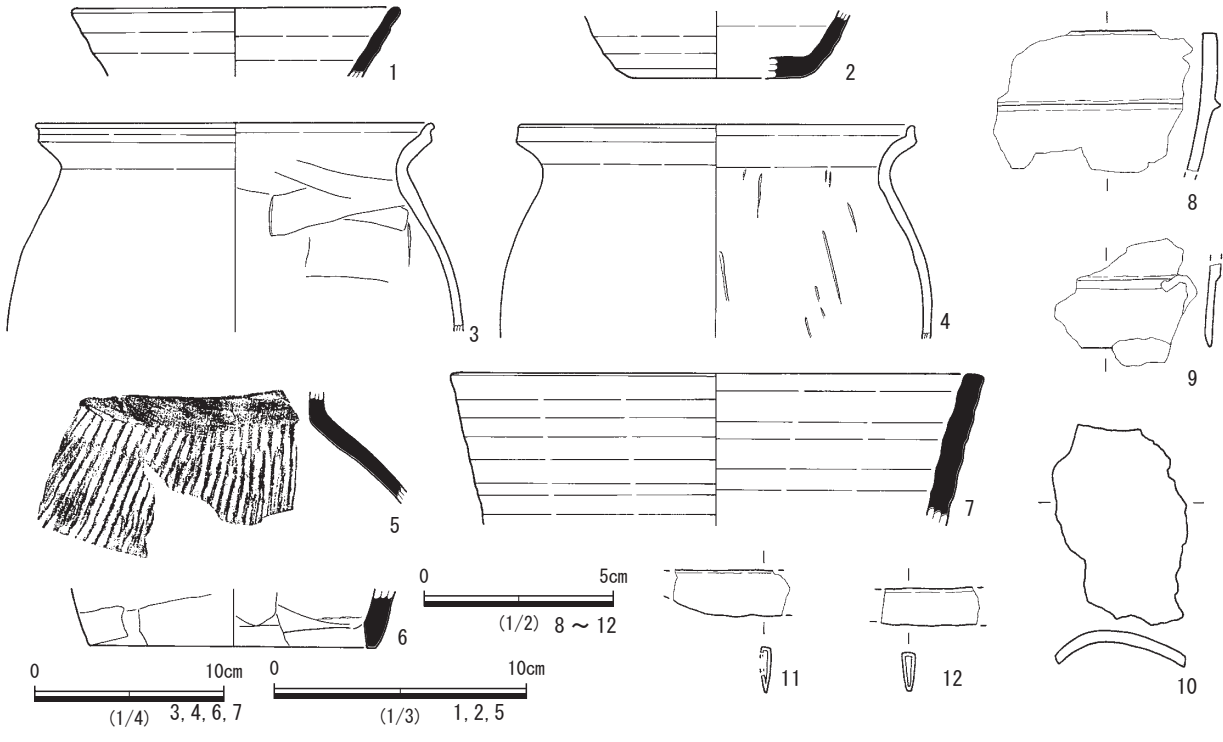
検出位置はB区G 29 グリッドである。南東側は調査区外になり拡張を行ったが、斜面地部分は確認できず、全容は把握できなかった。南西側でSI73と重複し、本建物跡が古い。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱を受けるが、他よりはまばらで床面までは達していない。平面形は方形を呈していると考えられ、主軸方向はN-6°-Wを示す。規模は現存値で東西軸が2.70 m, 南北軸が2.80 mである。深さは48 cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は各層ともロームブロックが目立ち、6層は多量に含まれていることから人為堆積と考えられる。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床を施し、カマド前面から南壁方向にかけての主柱穴間で顕著な硬化面があり、壁溝は幅8~18 cm, 深さ2~3 cmでカマド部分を除き全周していると思われる。ピットは北東隅寄りでP1が検出され、主柱穴の内の1本であろう。規模は径24 cm, 深さ23 cmである。掘り方は、全体に掘り込まれている。カマドは北壁のほぼ中央に付設されたと考えられる。燃烧部は5 cm程掘り窪められるが、火床面に赤変硬化は認められず、被熱したローム面のみが検出された。構築材は灰白色粘土が主体で用いられたとみられるが、カマド本体では右袖部しか残存せず、左袖付近とカマド前面に流失した構築材と同質の粘土が広がっていた。煙道部は屋外へ45 cm掘り込まれ、全長は80 cm, 燃烧部幅約40 cm, 右袖の残部長は37 cmである。

遺物は、土師器93点(坏4, 甕88, 甑1), 須恵器37点(坏19, 高台付坏5, 蓋1, 甕4, 甑8), 鉄製品5点(刀子2, 不明3)が出土した。供膳具は須恵器が主体であるが、ほとんどが小破片である。時期を推定するには遺物の出土量や遺存度が不十分であるが、1の土師器坏から8世紀第3四半期~第4四半期と思われる。



- SI72**
(1/60)
- 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ3~10mm) 中。縮り有, 粘性弱。
 - 10YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック (φ3~10mm)・黒色土ブロック (φ5~10mm) 少。縮り有, 粘性弱。
 - 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ3~10mm) 中, 黒色土ブロック (φ3~5mm) 微。縮り有, 粘性弱。
 - 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ5~15mm) 多 (40%)。縮り有, 粘性やや有。
 - 10YR 3/3 暗褐色土 ロームブロック (φ5~15mm) 少。縮り有, 粘性やや有。
 - 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ3~10mm) 多 (20~30%), 同 (φ15~50mm) 多 (10%)。縮り有, 粘性やや有。
 - 7.5YR 3/1 黒褐色土 ロームブロック (φ5~10mm) 多 (20%)。縮り有, 粘性やや有。

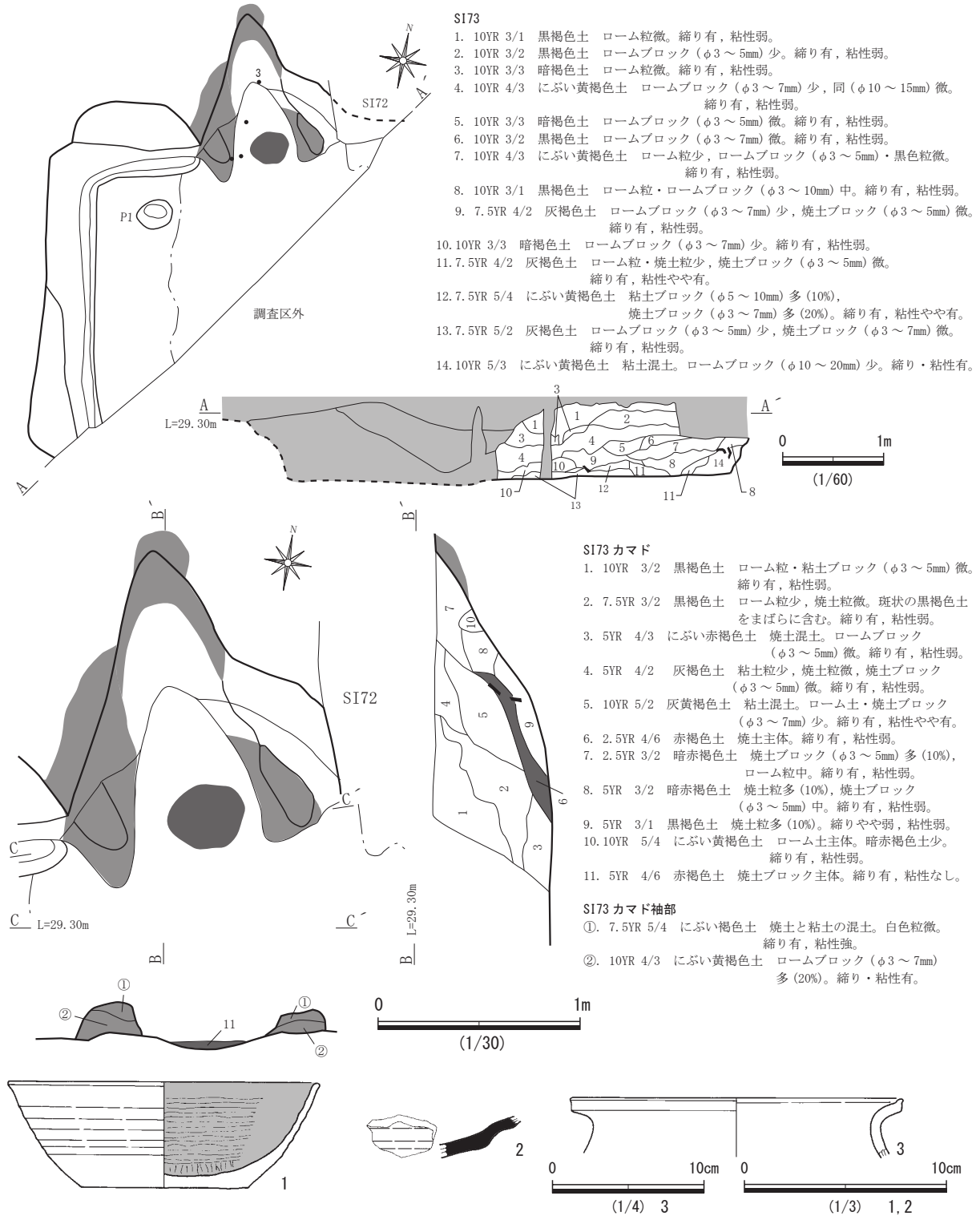
- SI72 カマド**
(1/30)
- 10YR 7/1 灰白色土 灰褐色土と粘土の混土。縮り弱, 粘性有。
 - 10YR 5/6 黄褐色土 ローム土主体。黒褐色土多 (10%)。縮り有, 粘性やや有。
 - 10YR 5/2 灰黄褐色土 粘土ブロック (φ3~10mm) 多 (10%), 炭化物粒微。縮り・粘性有。
 - 7.5YR 4/2 灰褐色土 焼土粒少, 炭化物粒微。縮り有, 粘性弱。
 - 7.5YR 5/3 にぶい褐色土 ロームブロック (φ3~10mm) 多 (20%)。縮り・粘性有。
 - 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 粘土ブロック (φ3~7mm) 多 (10%), ロームブロック (φ3~5mm) 少。縮り有, 粘性やや有。
- SI72 カマド袖部**
- 10YR 7/1 灰白色土 粘土主体。黒色粒少, 白色粒微。縮り・粘性強。
 - 7.5YR 3/2 黒褐色土 粘土ブロック (φ3~5mm)・焼土ブロック (φ3~5mm) 少。縮り・粘性有。
 - 7.5YR 4/2 灰褐色土 粘土と焼土の混土。黒色土ブロック (φ3~7mm) 少。縮り・粘性強。
 - 10YR 6/2 灰黄褐色土 粘土主体。粘土ブロック (φ3~5mm) 少。縮り・粘性強。



第147図 SI72・同出土遺物

SI73 (第148図, 第26表, 写真図版18・49)

検出位置はB区G 28・29, H 28・29グリッドである。南東側は調査区外になり拡張を行ったが、斜面地部分は確認できず、全容は把握できなかった。北東側でSI72と重複し、本建物跡が新しい。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱が床面まで達している。平面形は方形を呈していると考えられ、主軸方向はN-13°-Wを示す。規模は現存値で東西軸が3.26m, 南北軸が2.60mである。深さは50cmで壁はやや外傾して立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられるが、南側は攪乱で確認で

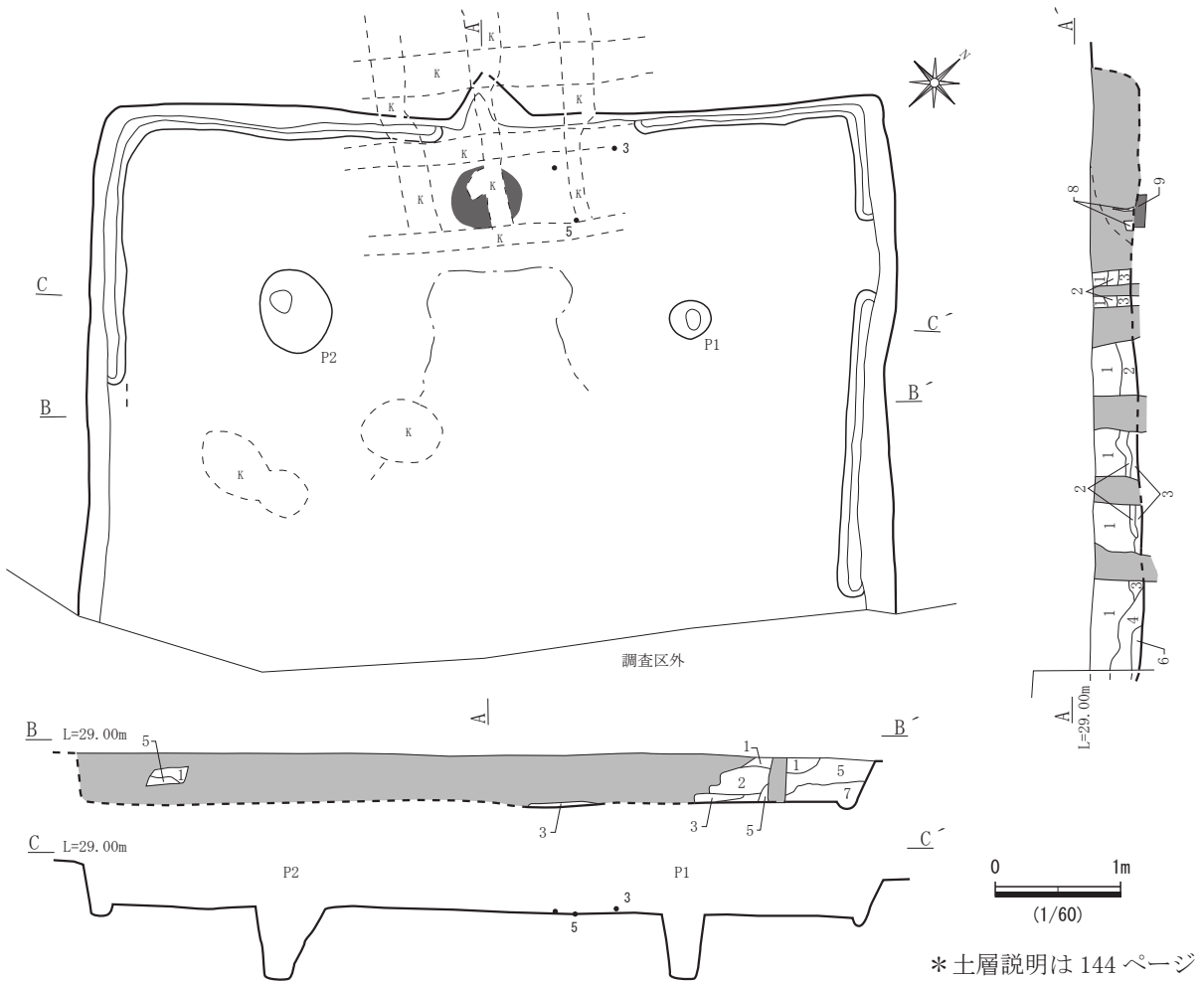


きなかった。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床を施し、カマド前面から南壁方向にかけての主柱穴間で顕著な硬化面があると思われる。壁溝は幅8～18cm、深さ4～9cmでカマド部分を除き全周していると思われる。ピットは北東隅寄りで1本が検出され、主柱穴の内の1本であろう。規模は35×28cm、深さ63cmである。掘り方は、全体に掘り込まれ、かなり起伏に富んでいる。カマドは北壁のほぼ中央に付設されたと考えられる。燃烧部は8cm程掘り窪められ、火床面は赤変硬化する。構築材は粘土と山砂の混和土が用いられ、燃烧部から煙道部にかけては上部が薄く被われていた。燃烧部から煙道部は屋外へ約128cm掘り込まれている。全長は174cm、燃烧部幅64cm、袖残部長は左袖26cm、右袖24cmである。袖部直下には地山となるローム土が掘り残され、袖部の土台とされていたようである。

遺物は、土師器11点(坏1, 甕10), 須恵器4点(坏1, 高台付坏1, 皿1, 甕1)が出土した。供膳具は木葉下窯産とみられる胎土の須恵器が主体であるが、ほとんどが小破片である。2の須恵器坏は内湾して立ち上がる形態とみられる。土師器は内面黒色処理された坏が中心である。時期を推定するには遺物の遺存度が不十分であるが、須恵器の形態から9世紀第3四半期～第4四半期と思われる。

SI74 (第149・150図, 第26・28・29表, 写真図版18・49)

検出位置はB区E30, F29・30グリッドである。南東側は調査区外になり拡張を行ったが、斜面



第149図 SI74

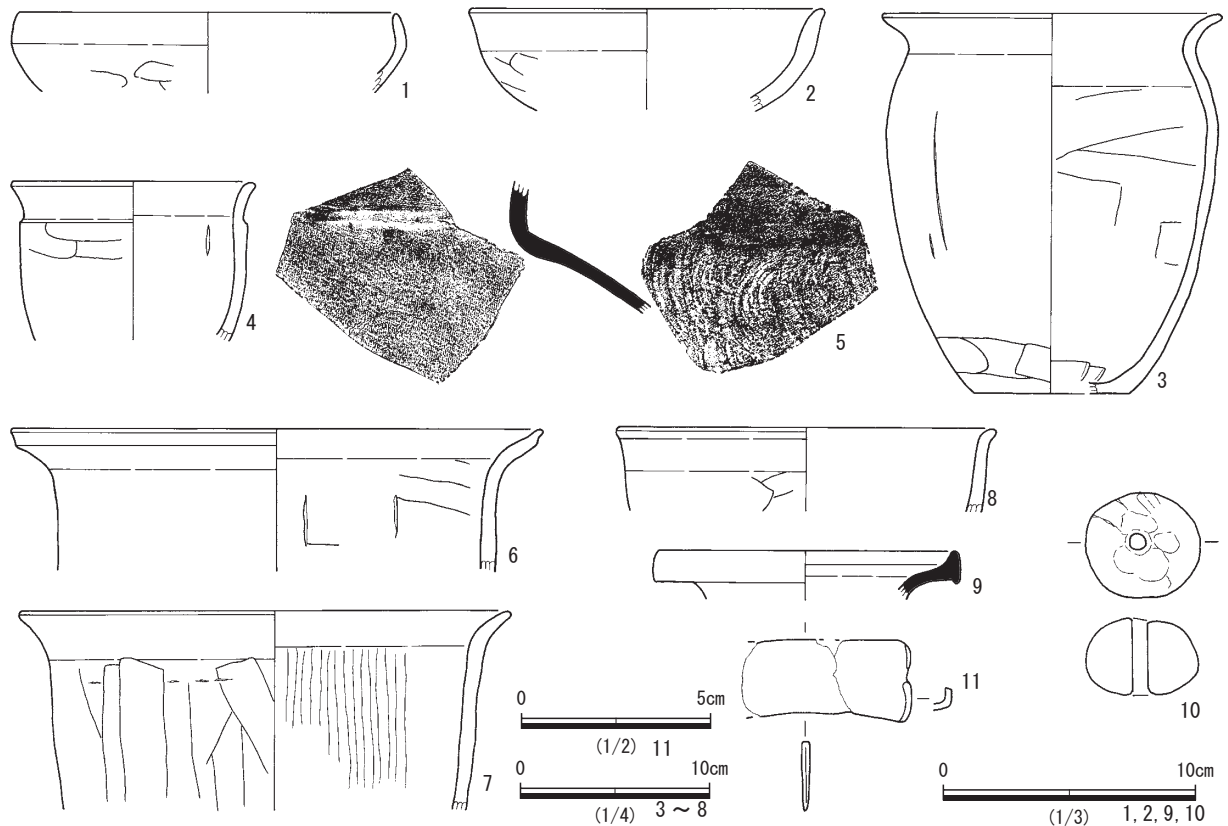
第3章 調査の成果

SI74

1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒微, ロームブロック (φ3~5mm) 少。締り有, 粘性弱。
2. 7.5YR 4/3 褐色土 ロームブロック (φ3~5mm)・焼土少, 炭化物塊 (φ3~7mm) 微。締り有, 粘性弱。
3. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒微。締り有, 粘性弱。
4. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒少, ロームブロック (φ3~5mm) 微。斑状の褐色土を全体に含む。締り有, 粘性弱。
5. 10YR 4/4 褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ3~5mm) 少。締り有, 粘性やや有。
6. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒少, ロームブロック (φ3~10mm) 微。締りやや弱, 粘性弱。
7. 10YR 2/1 黒色土 ローム粒少, ロームブロック (φ3~5mm) 微, 炭化物粒少。締り有, 粘性弱。
8. 5YR 4/4 にぶい赤褐色土 焼土混土。粘土ブロック (φ3~5mm) 少。締り有, 粘性弱。
9. 2.5YR 5/8 明赤褐色土 焼土主体。締り有, 粘性なし。

地部分は確認できず、全容は把握できなかった。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱が床面まで達していた。平面形は方形を呈していると考えられ、主軸方向はN-49°-Wを示す。規模は東西軸が6.40m、南北軸が現存値で4.46mである。深さは34cmで壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床を施し、中央部から南東側の調査区外にかけては、攪乱の影響を受けて消失し、硬化面もカマド前面のみの確認であった。壁溝は幅13~18cm、深さ5~8cmでカマド部分を除きほぼ全周していると思われる。ピットは3基が検出された。P1・2は支柱穴で、P1が径34cm、深さ54cmで、上部は攪乱で不明瞭である。P2が66×53cm、深さ59cmの楕円形である。掘り方は、全体に浅く掘り込まれている。カマドは北西壁のほぼ中央に付設されるが、攪乱が激しく、袖部及び燃烧部のほとんどが消失していた。燃烧部は火床部のみが残存し、6cm程掘り窪められた火床面は赤変硬化が認められた。煙道部には屋外へ約35cm掘り込まれている。

遺物は、土師器44点（坏9、鉢4、甕21、甗10）、須恵器6点（坏1、高台付坏1、甕2、壺・瓶類2）、土製品3点（支脚2、土玉1）、鉄製品1点（鎌1）が出土した。供膳具は土師器が主体で、非ロクロ成形の坏が中心である。煮炊具もほぼ土師器で占められ、甗の破片が多い。時期は、出土遺物の様相から7世紀第3四半期~第4四半期と考えられる。

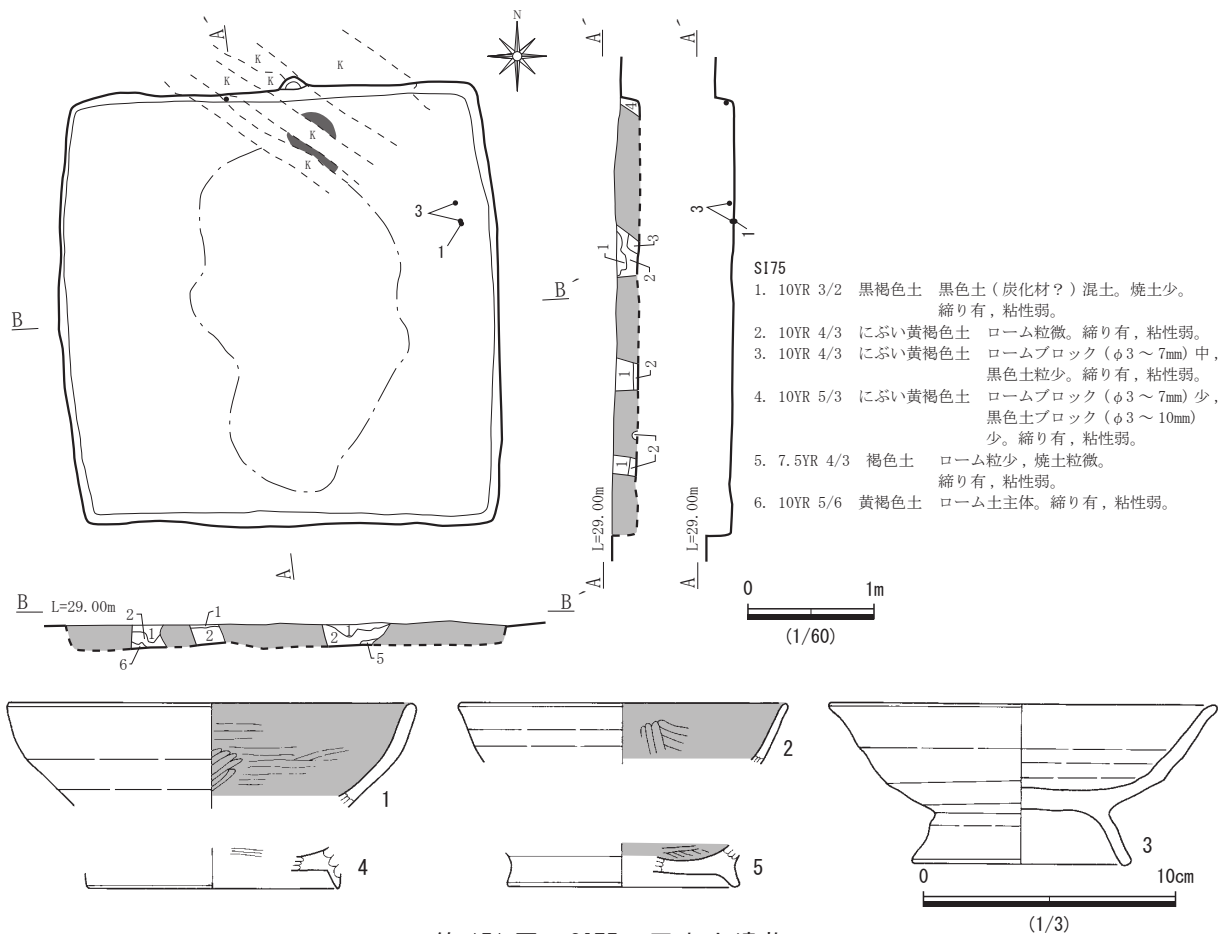


第150図 SI74 出土遺物

SI75 (第151図, 第26表, 写真図版18・49)

検出位置はB区F 24, G 24グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱が床面まで達していた。平面形は正方形を呈し, 主軸方向はN-2°-Wを示す。規模は東西軸, 南北軸ともに3.48 mである。深さは16 cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は人為堆積と考えられる。床面は攪乱の影響を受け起伏するが, カマド前面から南壁際にかけて顕著な硬化面が認められた。壁溝及びピットは検出されなかった。掘り方はなく, 直床であった。カマドは北壁の中央に付設されたとみられるが, 攪乱のため大部分が消失していた。燃焼部は赤変硬化した火床面のみが確認された。煙道部は屋外へ10 cm程掘り込まれている。

遺物は, 土師器28点(坏11, 高台付坏・椀3, 甕14), 須恵器2点(坏1, 甕1)が出土した。供膳具はほぼ土師器が占める。内面黒色処理されない坏類が目立つ。図示した1・2は底部が欠失しているため坏としているが, 椀になる可能性がある。時期は, 9世紀第4四半期と考えられる。



第151図 SI75・同出土遺物

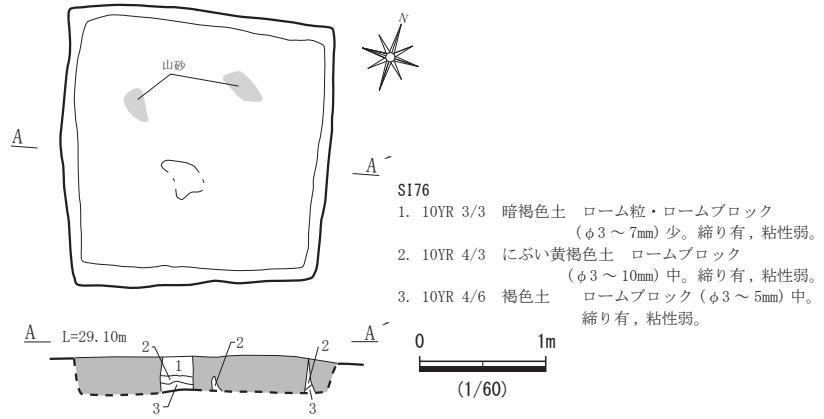
SI76 (第152図, 写真図版18)

検出位置はB区F 26, G 25・26グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱が床面まで達していた。平面形は歪んだ方形で西側がやや広い。西壁を軸とした場合の主軸方向はN-19°-Wを示す。規模は東西軸が2.12 m, 南北軸の東側が2.03 m, 西側が2.22 mである。深さは16~24 cmで壁は若干外傾して立ち上がる。覆土はロームブロックが目立ち, 人為堆積と考えられる。床面は平坦であったと思われるが, 攪乱の影響を受けわずかに起伏がある。残存する部分では硬化する部分も認められたが, 広がり是不明瞭である。壁溝及びピットは検出されなかった。掘り方はなく,

第3章 調査の成果

ほぼ直床であった。カマドも検出されなかったものの、覆土内に構築材として使用されたとみられる山砂が確認されており、攪乱によって消失してしまった可能性が高い。

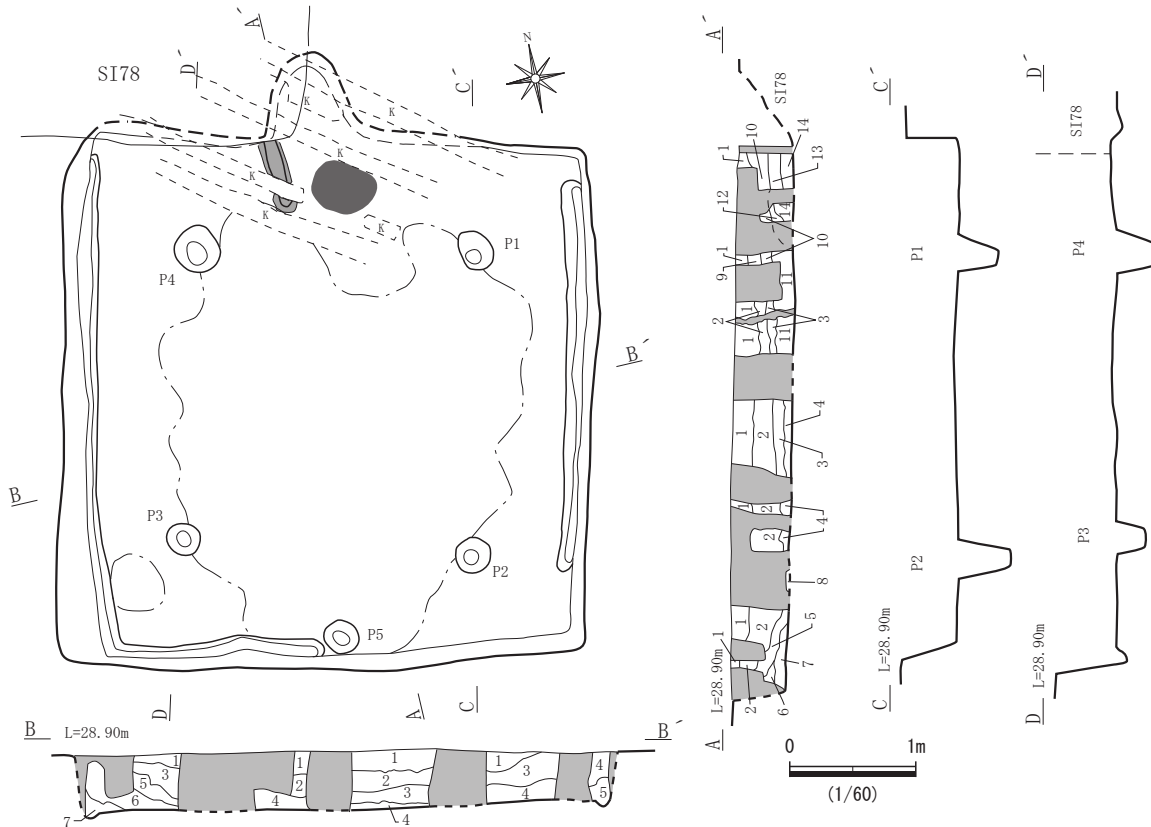
遺物は、土師器 12 点（坏 3，甕 9），須恵器 4 点（坏 3，高台付坏 1）が出土した。供膳具は土師器，須恵器ともにほぼ同量の出土であるが，少量でいずれも小破片である。時期を推定するには出土量が不十分であるが土師器の坏類が内面黒色処理中心であることから 9 世紀代後半頃と思われる。



第 152 図 SI76

SI77 (第 153・154 図，第 26・27 表，写真図版 19・49)

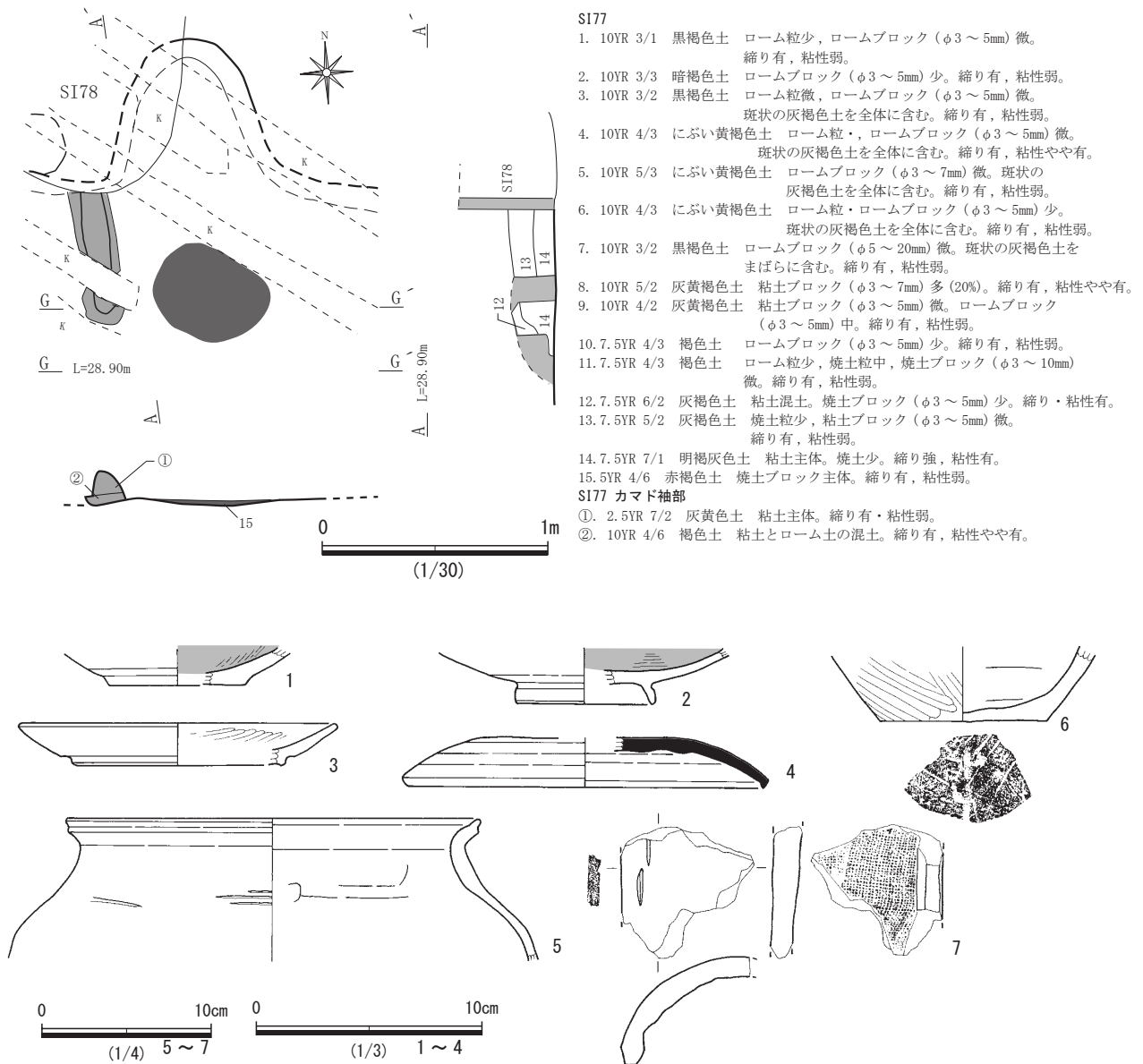
検出位置はB区E 25，F 24・25 グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱が激しく，床面まで達している。北西壁側でSI78と重複し，カマド左袖から北壁の西半分が切り込まれている。平面形は方形で，主軸方向はN-9°-Eを示す。規模は東西軸が 4.21 m，南北軸が 4.23 mである。深さは 41~47 cmで壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積を呈する。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床を施し，カマド前面から南壁にかけての主柱穴間で顕著な硬化面が認められる。壁溝は幅 8~15 cm，深さ 4~6 cm で南壁際東側と北壁際以外で確認できる。ピットは 5 基が検



第 153 図 SI77(1)

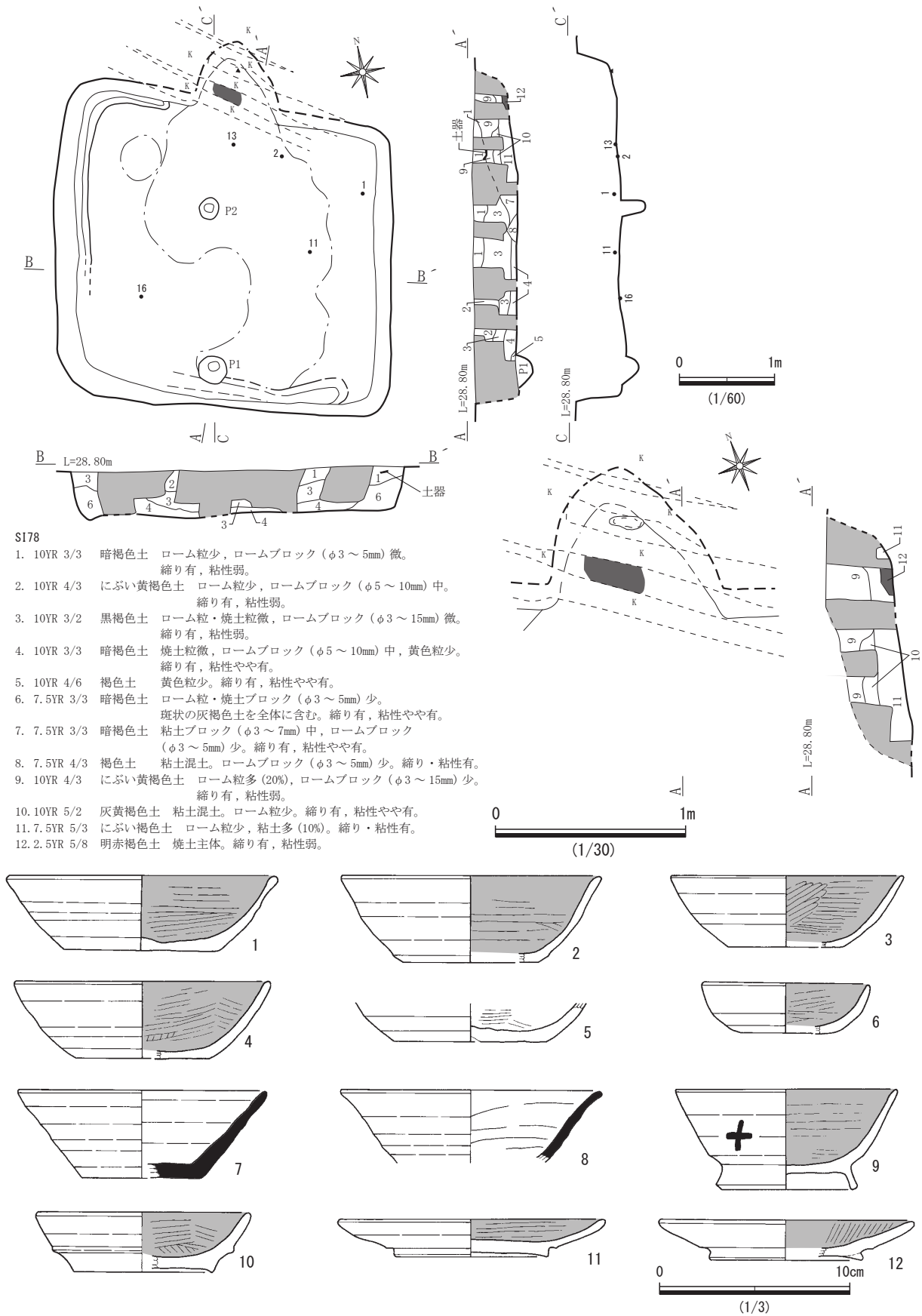
出された。P 1～4は支柱穴で、P 1が34×24 cm、深さ31 cm、P 2が径28 cm、深さ43 cm、P 3が径28 cm、深さ26 cm、P 4が径36 cm、深さ30 cmである。P 5は南壁際中央にあり、出入り口施設に伴うピットと考えられる。規模は径27 cm、深さ18 cmである。掘り方は、ほぼ全体に浅く掘り込まれている。カマドは北壁の中央に付設されるが、攪乱で大部分が消失している上にSI78によって煙道部から左袖の一部が切られている。構築材はわずかに残存する袖部から灰白色粘土を主体としていたようである。燃焼部は赤変硬化した火床面のみが認められた。右袖の残存長は50 cm前後とみられる。

遺物は、土師器63点（坏11、高台付坏・椀2、皿1、甕49）、須恵器21点（坏9、高台付坏3、蓋5、甕3、壺・瓶類1）、瓦1点（丸瓦1）が出土した。供膳具は土師器、須恵器ともにほぼ同量であるが、図示した1～3の土師器皿の破片は重複するSI78から混入した可能性が高い。これらの破片を除けば供膳具は須恵器が主体となる。ただ、須恵器は小破片が多く、図示できたのは4の須恵器蓋のみである。須恵器は全体に有台器種と蓋の破片が目立ち、坏とした破片の中にも有台器種のものが混在すると思われる。時期は、8世紀第4四半期以降9世紀第1四半期と考えられる。



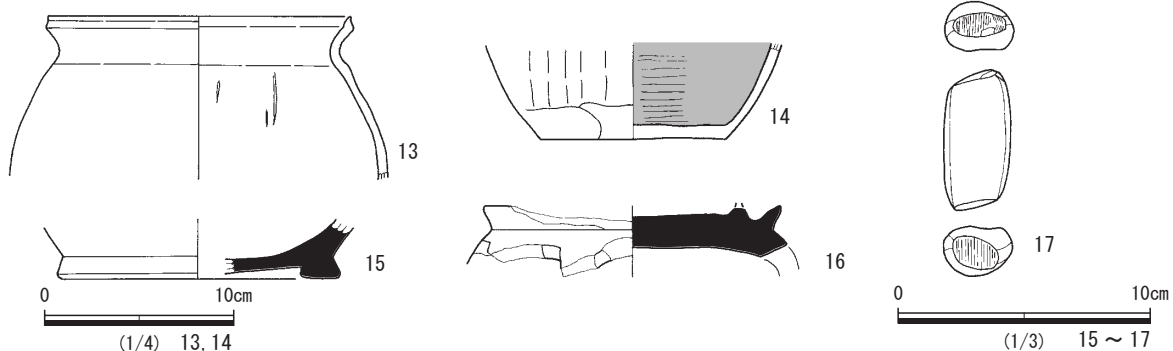
第154図 SI77(2)・同出土遺物

S I 7 8 (第155・156図, 第26・30表, 写真図版19・49・50)



検出位置はB区E 24・25グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱が床面まで達している。南壁側でSI77と重複し、本建物跡が新しい。平面形は方形でわずかに歪む。主軸方向はN-14°-Eを示す。規模は東西軸が3.56m、南北軸が3.77mである。深さは46cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土はロームブロックの含有が目立ち、人為堆積と考えられる。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床を施し、若干起伏がある。カマド前面から南壁にかけての中央部で顕著な硬化面が認められる。壁溝は幅9～18cm、深さ5cm程で、北東隅際以外は不明瞭であるものの、本来は全周したと考えられる。ピットは2基が検出された。P1は南壁際中央にあり、出入口施設に伴うピットと考えられる。規模は径29cm、深さ21cmである。P2は中央カマド寄りにあり、規模は径22cm、深さ27cmである。掘り方は、壁際を残し、中央部を方形状に掘り込んでいることから、拡張前の痕跡である可能性が考えられる。カマドは北壁の中央に付設されるが、攪乱で大部分が消失している。燃烧部は赤変硬化した火床面のみが認められ、直上には焼土が堆積していた。

遺物は、土師器200点（坏59、高台付坏・碗10、皿19、鉢8、甕104）、須恵器32点（坏9、高台付坏3、甕13、甑5、壺・瓶類1、円面硯1）、石製品1（不明1）が出土した。供膳具は土師器が主体である。内面黒色処理された坏と皿が中心で、高台付坏・碗とした高台部破片も皿になる可能性がある。須恵器では円面硯16が出土している。本遺跡ではSI15からも出土しているが、形態や胎土に差異がある。時期は、9世紀第3四半期と考えられる。



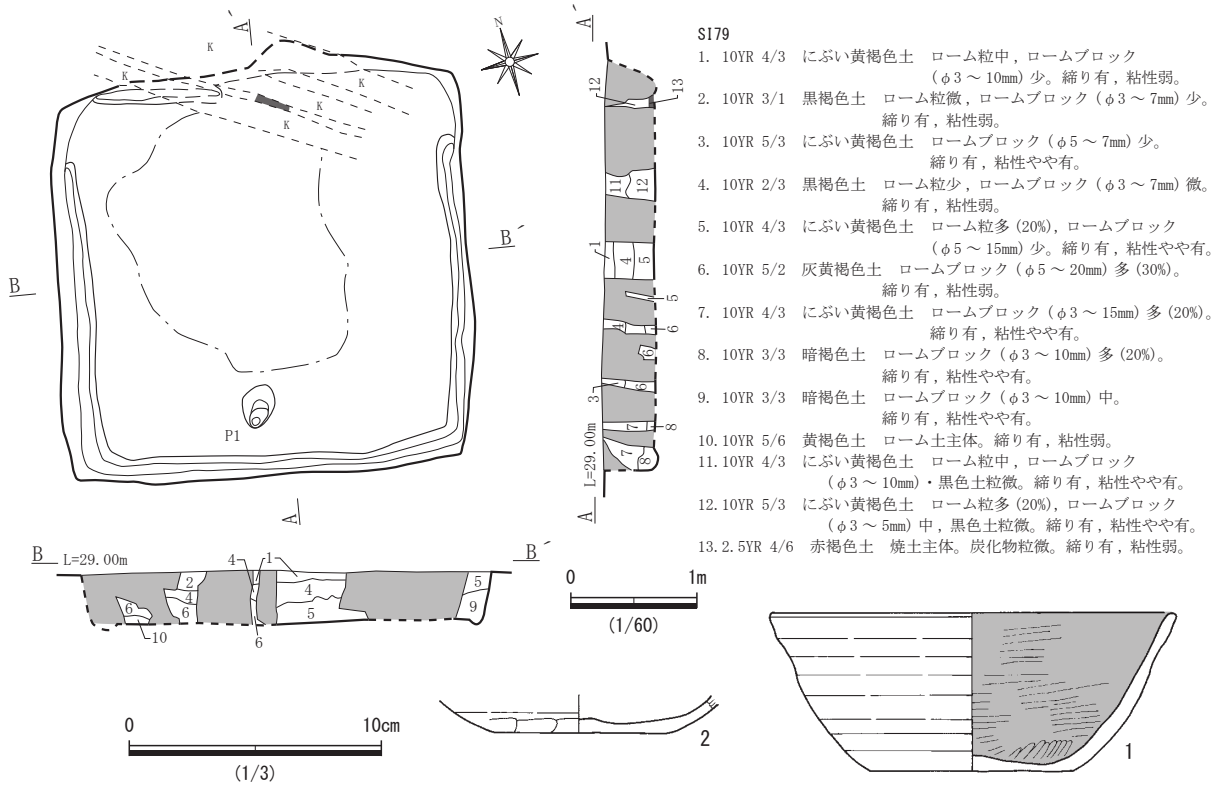
第156図 SI78出土遺物(2)

SI79（第157図、第26表、写真図版19・50）

検出位置はB区F 26グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱が激しく、床面まで達している。平面形はほぼ正方形で、主軸方向はN-16°-Eを示す。規模は東西軸が3.26m、南北軸が3.31mである。深さは37～40cmで壁は垂直に立ち上がる。覆土はローム土、ロームブロックの含有が多く、複雑な層位を呈していることから人為堆積と考えられる。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床を施し、カマド前面からP1にかけての中央部から西壁寄りで顕著な硬化面が認められる。壁溝は幅9～17cm、深さ2～4cmで、北壁を除き全周する。ピットは南壁際中央にP1があり、出入口施設に伴うピットと考えられる。規模は37×25cm、深さ27cmの楕円形で南北に長い。掘り方はなく、直床であった。カマドは北壁のほぼ中央に付設されたとみられるが、攪乱で大部分が消失している。燃烧部は赤変硬化した火床面のみが認められる。煙道部も消失しているが、屋外への掘り込みは20cm前後と考えられる。

遺物は、土師器31点（坏5、鉢1、甕25）、須恵器4点（坏2、甕1、壺・瓶類1）が出土した。供膳具はほぼ土師器が占める。1・2は土師器坏で、1は大振りである。2は体部下端から底部が手持ちヘラケズリ調整となる。時期は、9世紀第3四半期と考えられる。

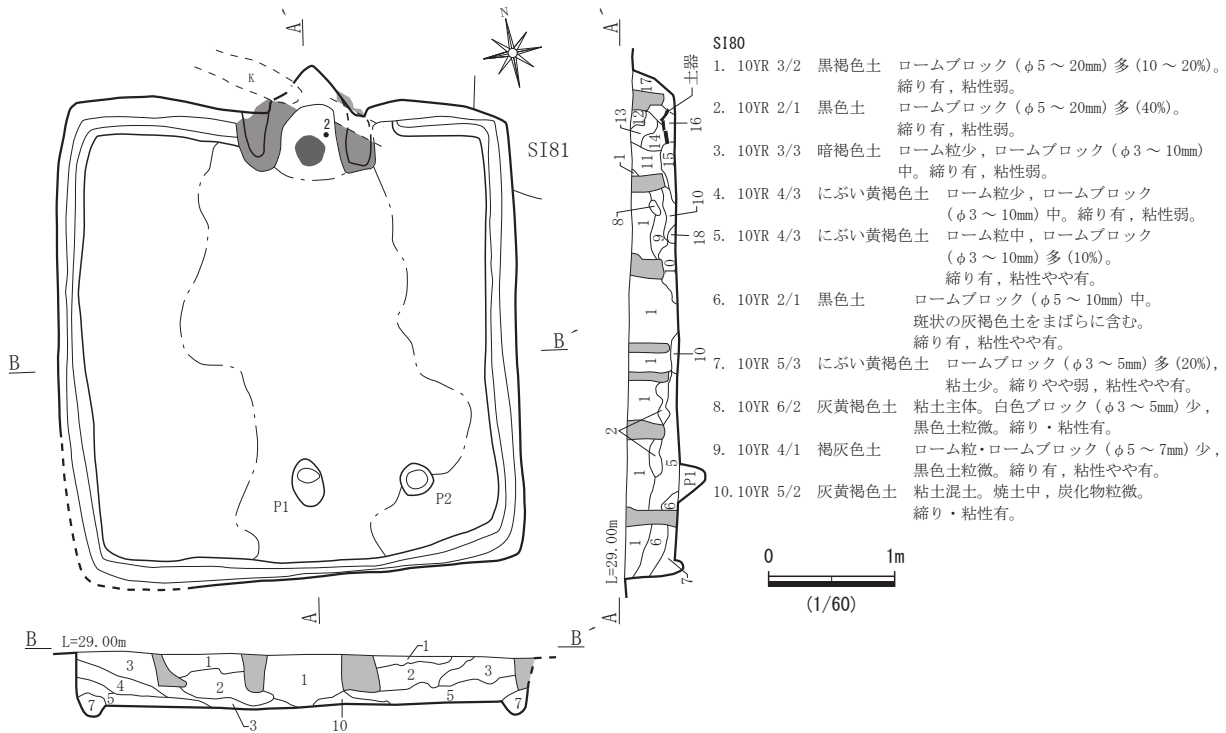
第3章 調査の成果



第 157 図 SI79・同出土遺物

SI80 (第 158・159 図, 第 26・28 表, 写真図版 19・50)

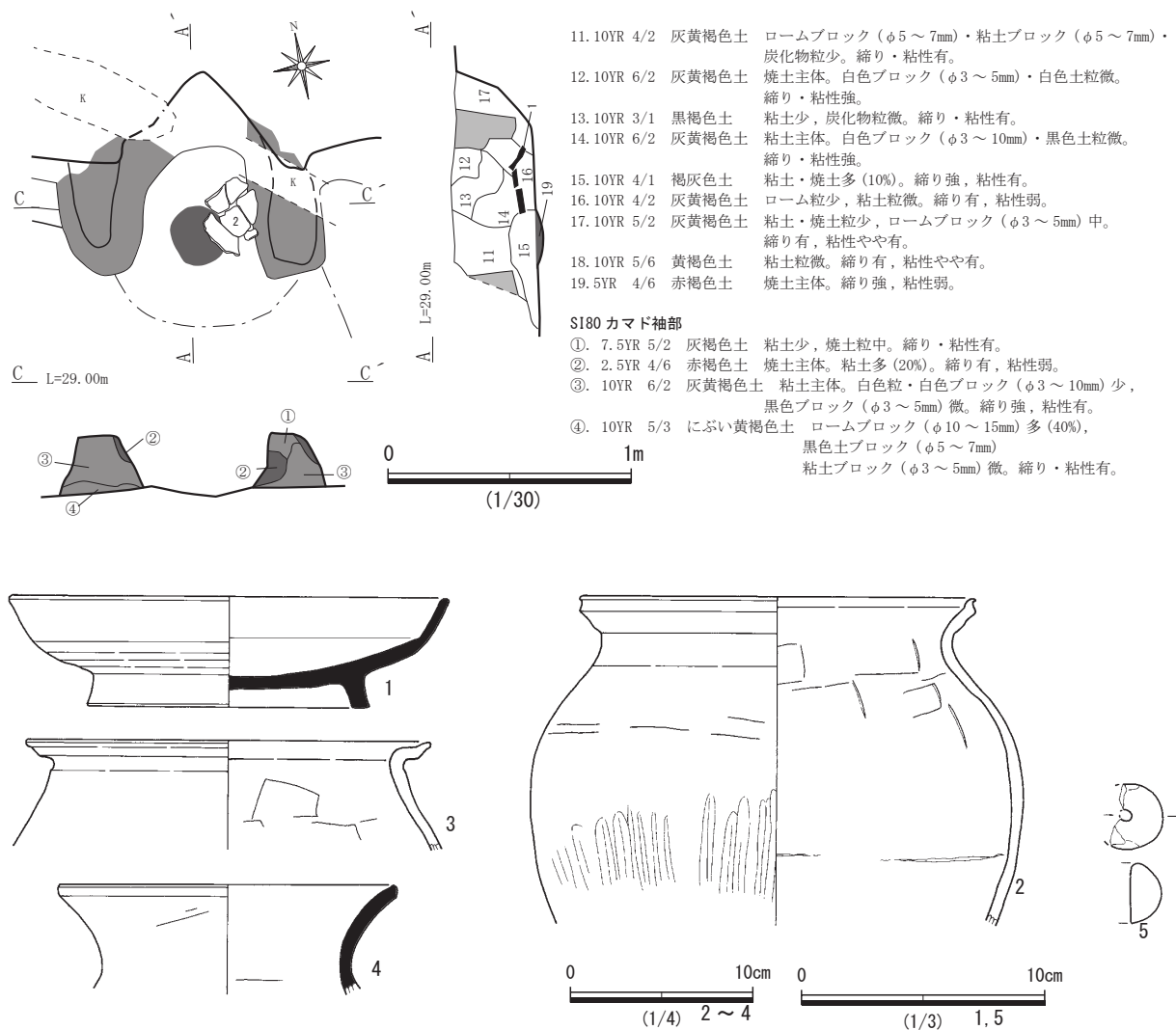
検出位置はB区D 26 グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱を受けるが、比較的まばらで床面までは達していない。北東隅でSI81と重複し、本跡が古い。平面形は歪んだ方形で、



第 158 図 SI80(1)

西側がわずかに広い。主軸方向はN-11°-Eを示す。規模は東西軸が3.63 m, 南北軸の東側が3.66 m, 西側が3.96 mである。深さは36~42 cmで壁は垂直に立ち上がる。覆土はローム土, ロームブロックを多く含んだ層が主体であることから, 人為堆積と考えられる。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床を施し, カマド前面から南壁にかけての中央部で顕著な硬化面が認められる。壁溝は幅10~19 cm, 深さ3~8 cmで, カマド部分を除き全周する。ピットは2基検出された。P1は南壁寄り中央にあり, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。規模は37×25 cm, 深さ26 cmの楕円形で南北に長い。P2は南東隅寄りにあり, 用途は不明である。規模は径28 cm, 深さ20 cmである。掘り方は, 全体に粗く掘り下げられているが, その中でP1部分では56×31 cmの長方形に掘り込まれていた。カマドは北壁のほぼ中央に付設されている。構築材は粘土と山砂の混和土が用いられ, 粘土の割合が高い。燃烧部は5 cm程掘り窪められ, 火床面は赤変硬化が認められる。屋外への掘り込みは屋外へ37 cm掘り込まれ緩やかに立ち上がる。全長は103 cm, 燃烧部幅46 cm, 袖残部長は左袖45 cm, 右袖43 cmで, 左袖燃烧内が強く被熱している。

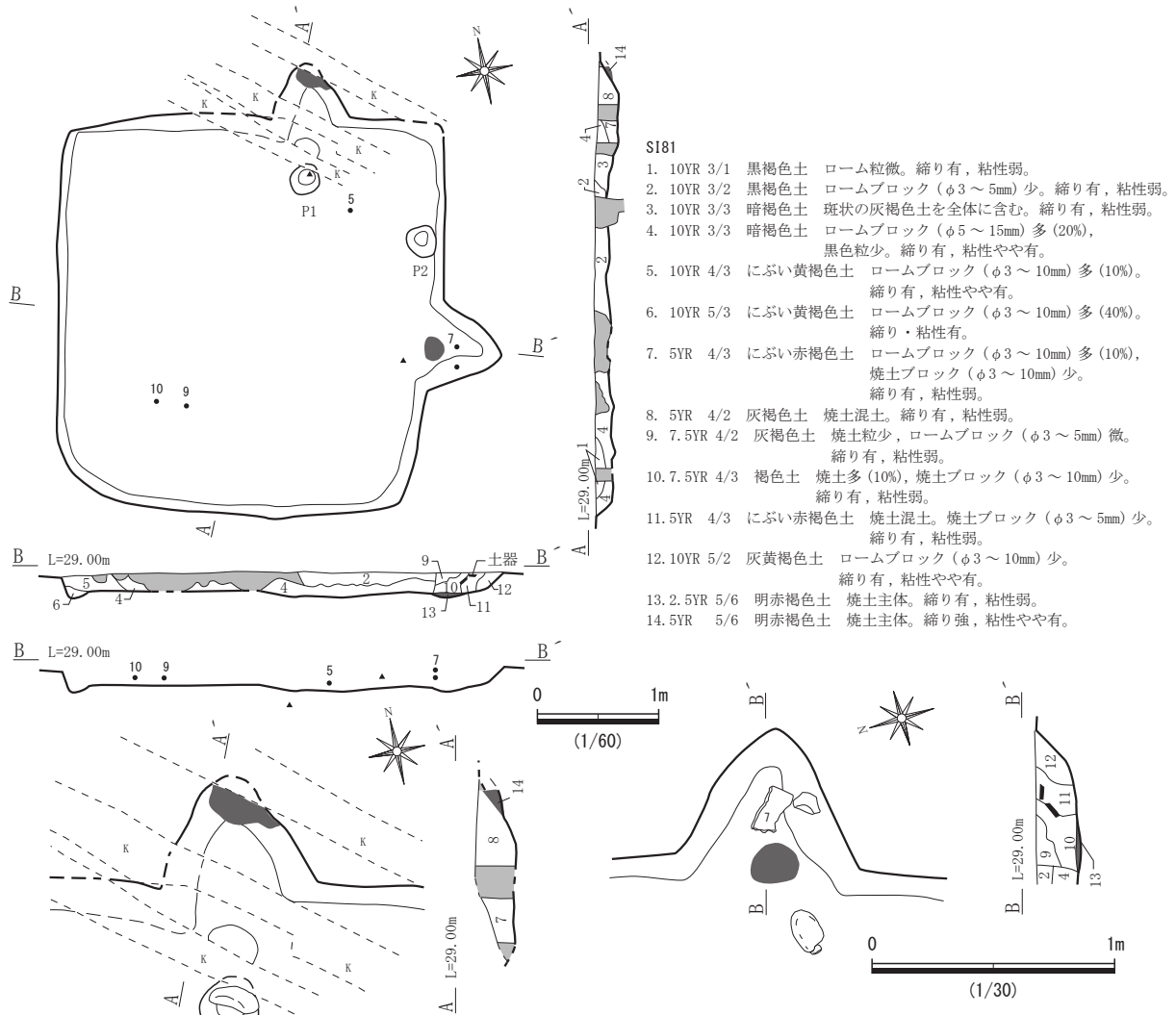
遺物は, 土師器19点(甕19), 須恵器10点(坏2, 盤3, 甕5), 土製品1点(土玉1)が出土した。供膳具は木葉下窯産とみられる胎土の須恵器が占め, 煮炊具は土師器が主体になる。時期は, 9世紀代と考えられる。



第159図 SI80(2)・同出土遺物

SI81 (第160・161図, 第26・27表, 写真図版19・50)

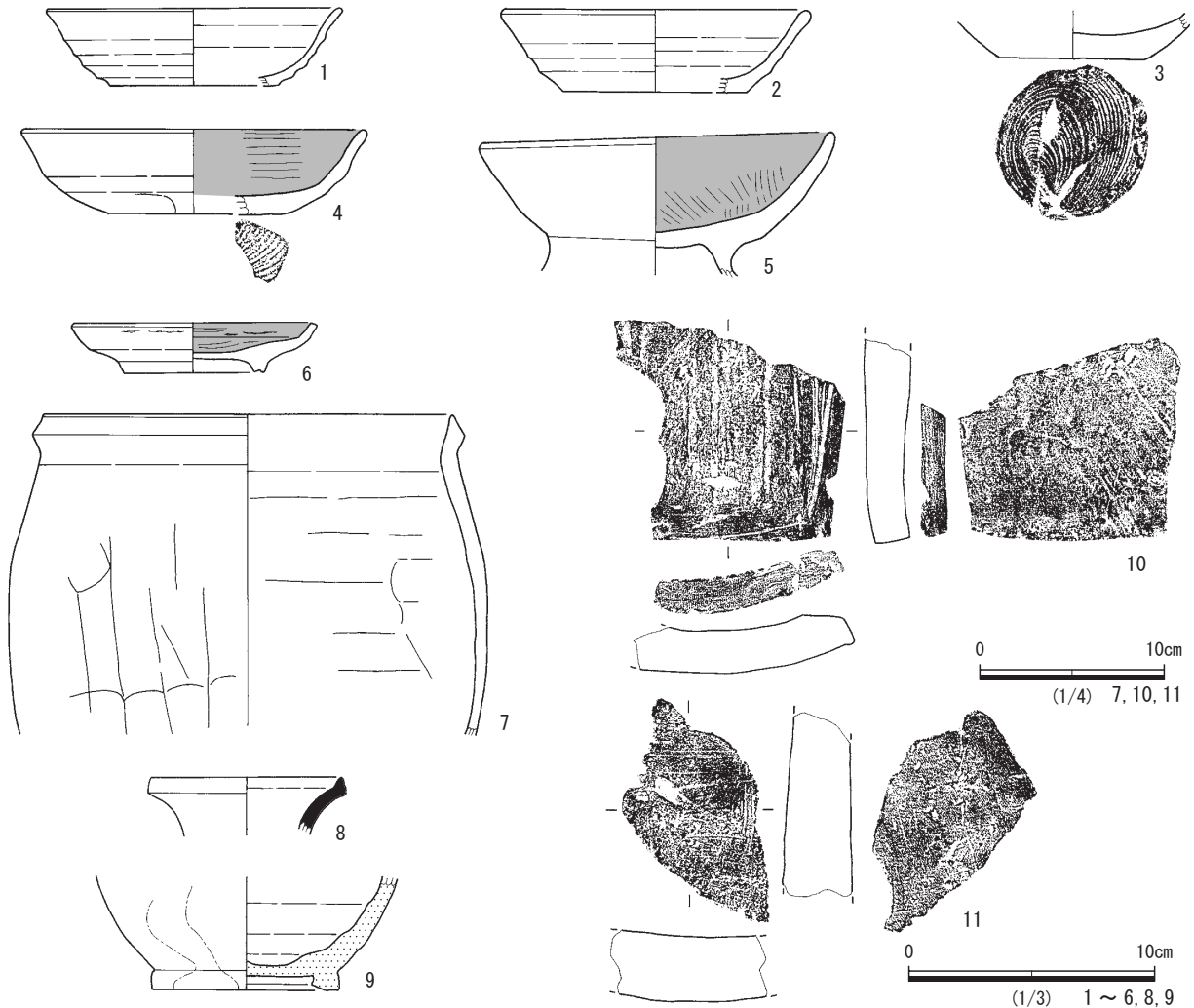
検出位置はB区D 26・27グリッドである。耕作によるトレンチャーの攪乱を受けるが、北側の南壁側の一部で床面に達しているものの、全体に影響は少ない。南西隅でSI80と重複し、本跡が新しい。平面形は歪んだ方形で、北側がわずかに広い。主軸方向はN-14°-Eを示す。規模は東西軸の南側が2.98m、北側が3.18m、南北軸が3.32mである。深さは13~15cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土はローム土、ロームブロックを多く含んだ層が主体であることから、人為堆積と考えられる。床面は平坦であるが、特に硬化面は認められなかった。壁溝は掘り込みが不明瞭であるが、壁際で浅い落ち込みが確認される。ピットは2基検出された。P1は径26cm、深さ16cm、P2は径26cm、深さ18cmでいずれも小規模である。掘り方はなく、直床である。カマドは東壁と北壁で検出された。残存状況から東カマドが先行し、廃棄後に北カマドを構築したと考えられる。東カマドは東壁のほぼ中央に付設される。煙道部の一部から煙道部が残存し、燃焼部は4cm程掘り窪められた焼土が残存し、東壁の掘り込みに切られていた。燃焼部から煙道部の屋外への掘り込みは56cmである。北カマドは北壁中央のやや東寄りに付設される。こちらは攪乱で袖部と燃焼部の一部が消失している。燃焼部は被熱面が残存するものの不明瞭である。その被熱面の前面に被熱礫が置かれたP1の掘り込みがなされていた。煙道部は屋外へ約50cm掘り込まれ、焼土混じりの粘土で被われていたようである。袖部



第160図 SI81

は残存しなかった。

遺物は、土師器 24 点（坏 10, 高台付坏・椀 1, 皿 1, 甕 12), 須恵器 4 点（坏 1, 甕 1, 壺・瓶類 2), 瓦 2 点（平瓦 2）が出土した。供膳具はほぼ土師器が占め、内面黒色処理されていない破片が多い。土師器坏とした 1・2 は強いロクロ目を持つ。土師器坏 3・4 の底部片は回転糸切りで未調整である。9 は灰釉陶器の壺又は瓶底部になる。時期は、10 世紀第 1 四半期と考えられる。



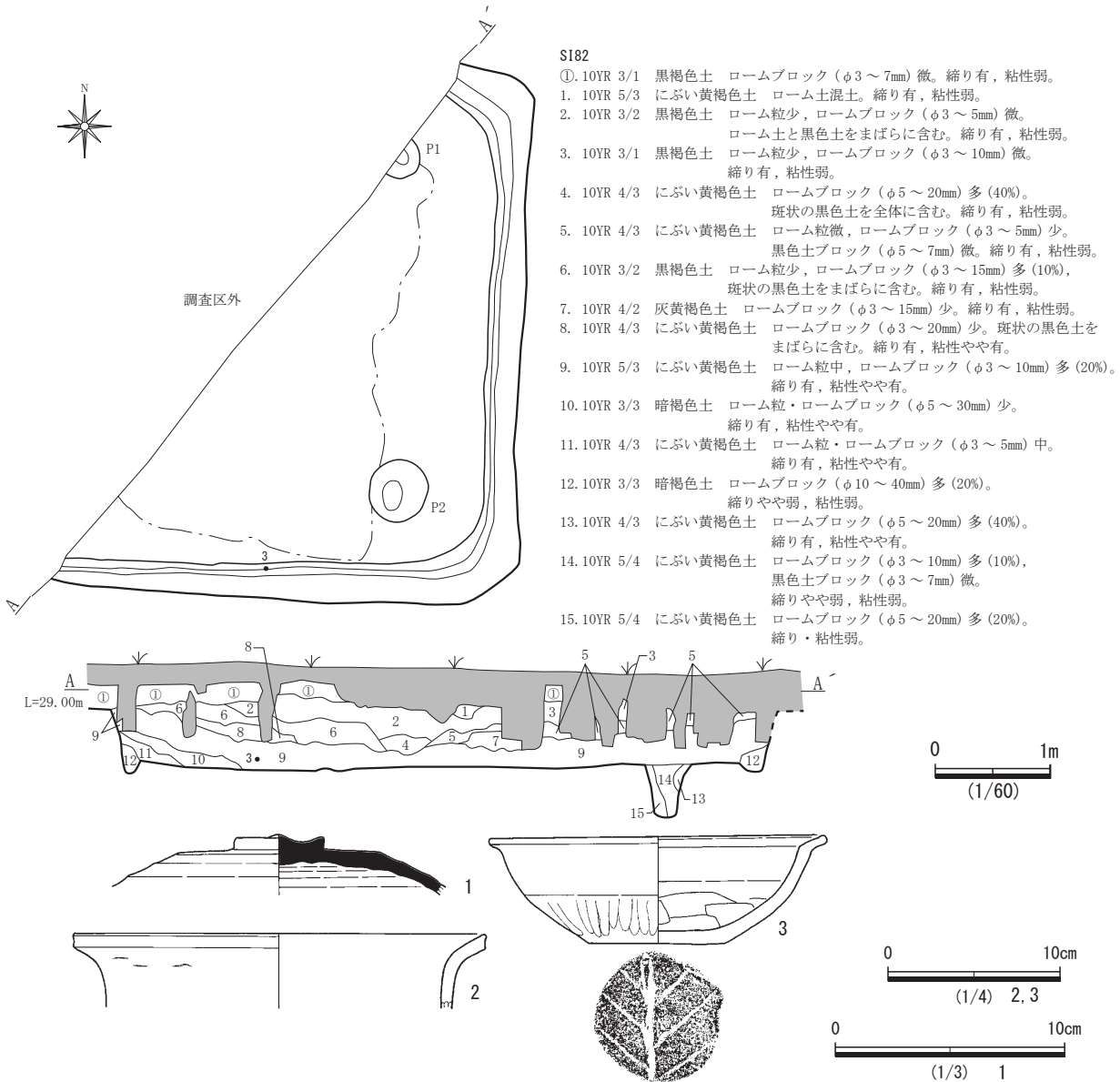
第 161 図 SI81 出土遺物

SI82 (第 162 図, 第 26 表, 写真図版 19・50)

検出位置は B 区 C 26, D 26 グリッドである。耕作によるトレンチャーの攪乱を受けるが、床面までは達していない。北西側の約半分が調査区外になるため、検出は南東側にとどまり、全容は把握されなかった。平面形は方形と考えられ、各隅がやや丸みを持つ。東壁を軸とした場合の主軸方向は $N-1^{\circ}-E$ を示す。規模は東西軸が現存値で 3.83 m, 南北軸が 4.73 m である。深さは 48 cm で壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は人為堆積と考えられ、下層ほどローム土, ロームブロックを多く含有する。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床を施し、顕著な硬化面が支柱穴間内に認められる。壁溝は幅 10 ~ 22 cm, 深さ 6 ~ 10 cm で全周すると思われる。ピットは 2 基検出された。P 1・2 ともに支柱穴と考えられ、P 1 が径 37 cm, 深さ 39 cm, P 2 が 56 × 50 cm, 深さ 34 cm である。掘り方は、中央を高く残し、壁際を環状に深く掘り込んでいる。カマドは調査区外の北壁に存在すると思われる。

第3章 調査の成果

遺物は、土師器 34 点（坏 1，鉢 1，甕 31，甑 1），須恵器 10 点（坏 2，高台付坏 4，蓋 4），石製品 1 点（砥石 1）が出土した。供膳具は須恵器が主体となるが，出土遺物が極端に少なく，ほとんどが小破片である。土師器坏は内面黒色処理されたもので，摩耗が顕著であることから混入遺物であろう。3 の鉢は南壁際中央の出入り口付近からの出土である。時期を推定するには遺物の出土量が不十分であるが，須恵器蓋 1 の摘み形態や土師器鉢から 8 世紀第 2 四半期～第 3 四半期と考えられる。

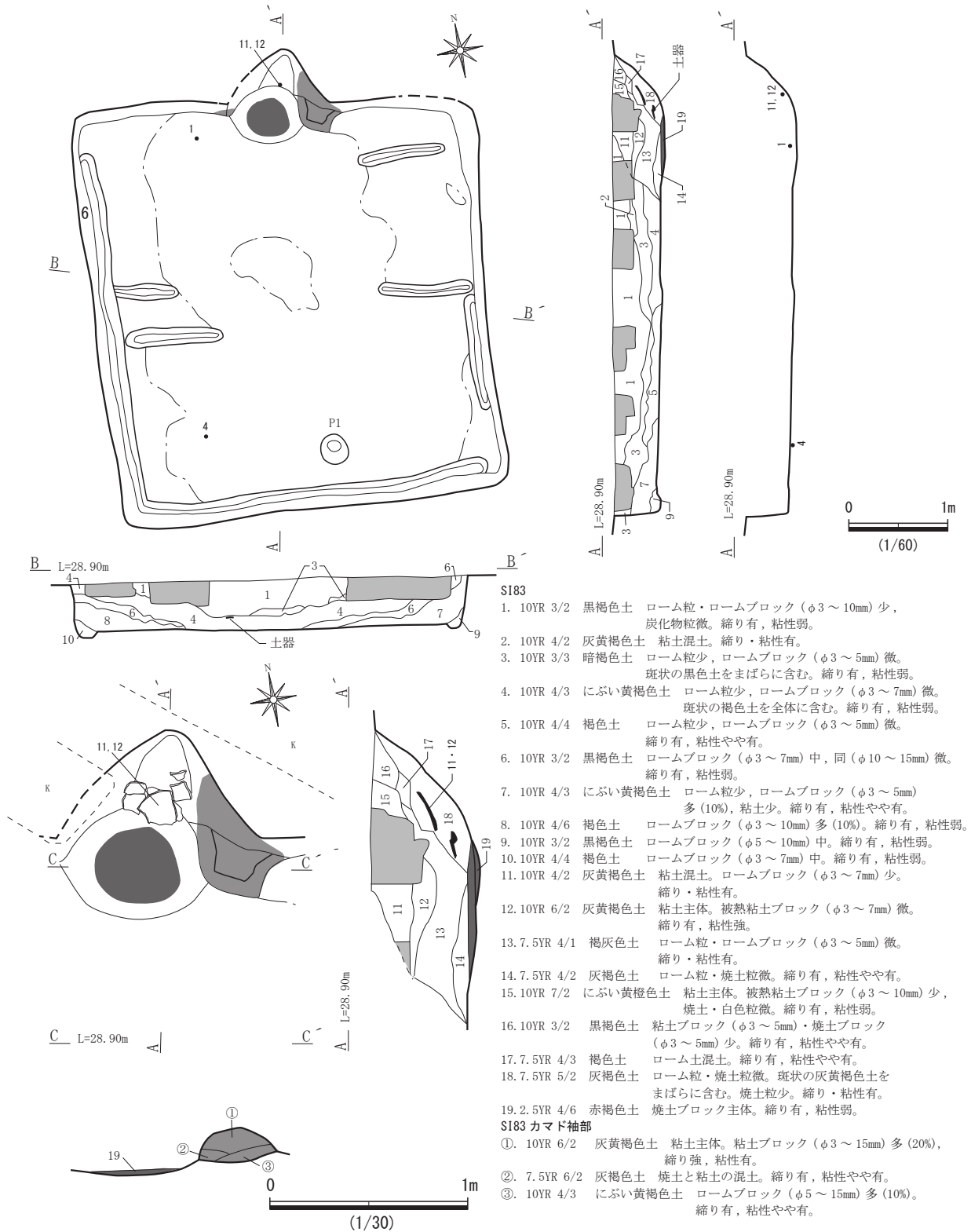


第 162 図 SI82・同出土遺物

SI83 (第 163・164 図，第 26～29 表，写真図版 19・51)

検出位置は B 区 B 27，C 27 グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱を受けるが，床面までは達していない。平面形は歪んだ方形で，西側がわずかに広い。主軸方向は N-3°-E を示す。規模は東西軸が 3.97 m，南北軸の東側が 3.97 m，西側が 4.26 m である。深さは 42～49 cm で壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積を呈するが，壁際の層ではロームブロックの含有が目立つ。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床を施し，カマド前から南壁にかけての顕著な硬化面が認められるが，間仕切り溝を境にして南側では建物内のほぼ全域で，北側では間仕切り溝内

中央のカマド前面に制限されている。壁溝は幅9～17cm、深さ2～8cmで西・南壁際で確認できる。間仕切り溝は東西の壁際から各2条が伸びている。ピットは南壁寄り中央にP1があり、出入り口施設に伴うピットと考えられる。規模は径30cm、深さ16cmである。掘り方は、南側が全体に深く掘り込まれていた。カマドは北壁の中央に付設され、上部は攪乱の影響があるものの、遺存状態は良い。構築材は粘土と山砂の混和土を用いている。燃烧部は18cm程掘り窪められ、焼土ブロックが全体に

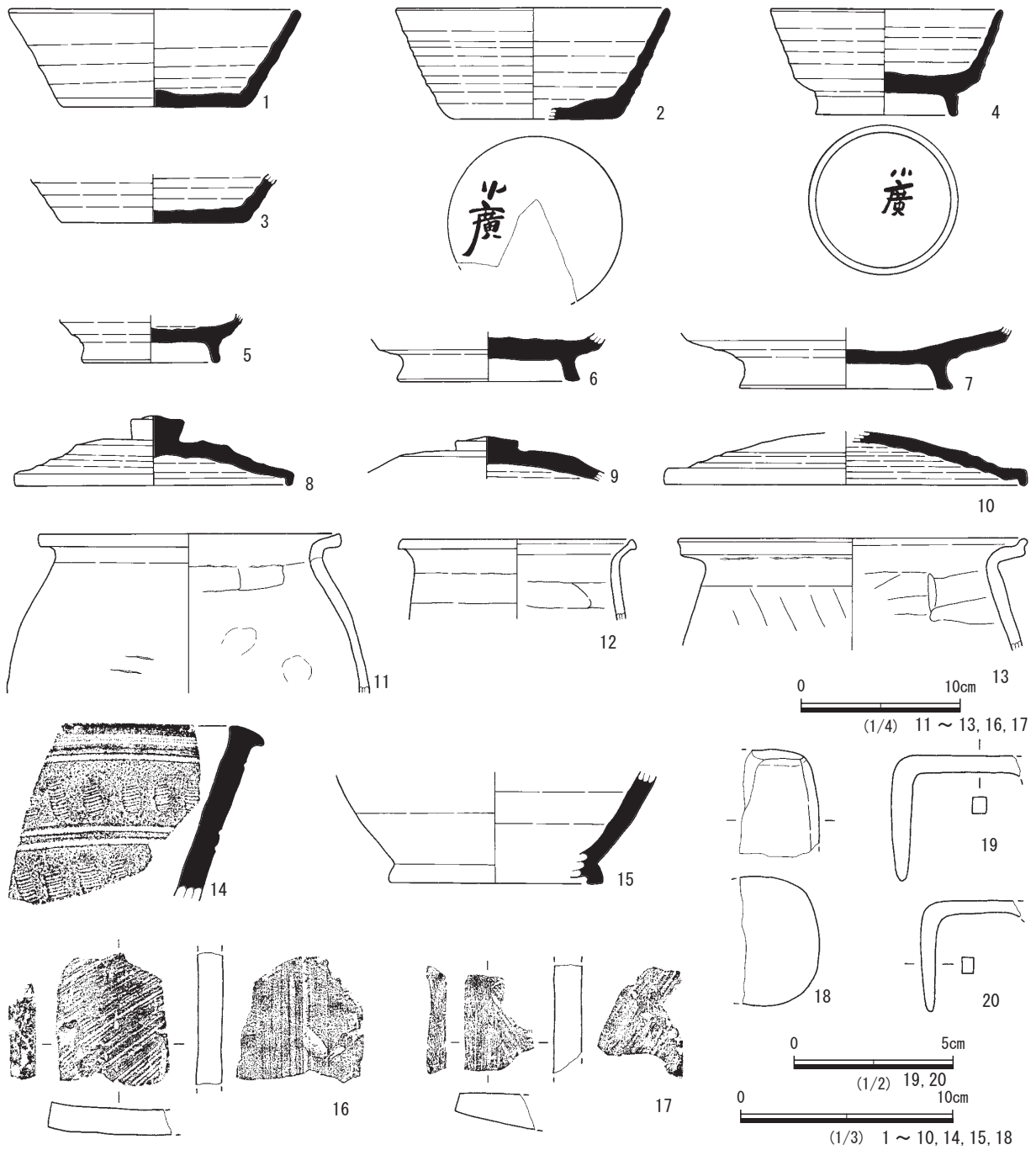


第163図 SI83

第3章 調査の成果

堆積する。燃烧部から煙道部は屋外へ53cm掘り込まれ、煙道部は先細りになって緩やかに立ち上がり、全長は98cm、燃烧部幅58cm、袖残部長は左袖7cm、右袖31cmである。

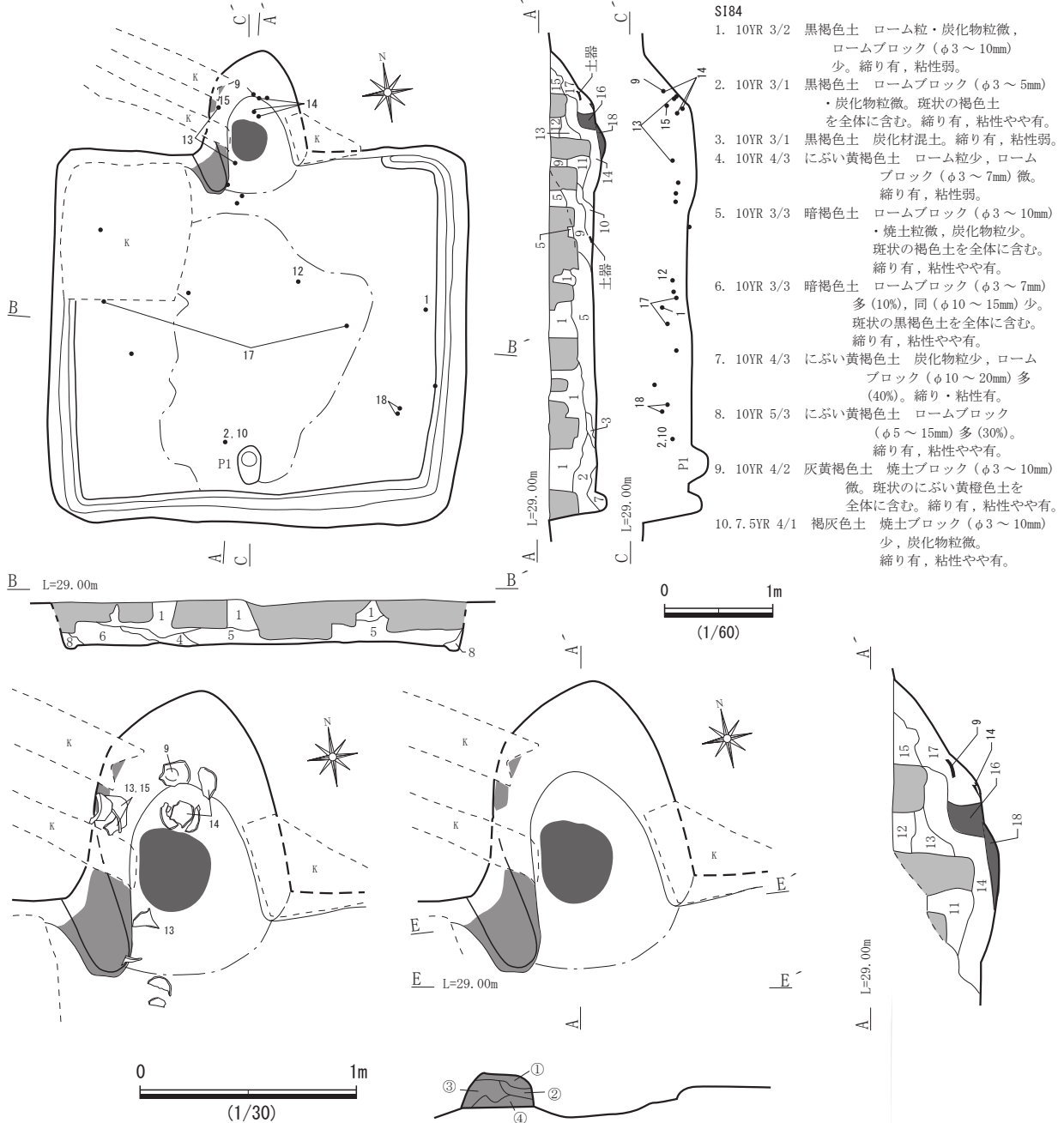
遺物は、土師器102点（高台付坏・椀1，甕100，甑1），須恵器49点（坏25，高台付坏7，盤7，蓋5，甕4，壺・瓶類1），瓦2点（平瓦2），土製品1点（支脚1），鉄製品4点（釘2，鋸2）が出土した。供膳具はほぼ木葉下窯産とみられる胎土の須恵器が占め、有台器種や蓋が目立つ。2の須恵器坏，4の須恵器高台付坏底部には同様の墨書が認められる。時期は、8世紀第4四半期と考えられる。



第164図 SI83出土遺物

S184 (第165・166図, 第26・27・29・30表, 写真図版20・51・52)

検出位置はB区C 28・29グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱を受けるが、床面までは達していない。ただ、北西側が攪乱によって床面が消失している。平面形は方形で、主軸方向はN-9°-Eを示す。規模は東西軸が3.83m, 南北軸が3.47mである。深さは39~43cmで壁



- S184
1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒・炭化物粒微, ロームブロック(φ3~10mm)少。縮り有, 粘性弱。
 2. 10YR 3/1 黒褐色土 ロームブロック(φ3~5mm)・炭化物粒微。斑状の褐色土を全体に含む。縮り有, 粘性やや有。
 3. 10YR 3/1 黒褐色土 炭化材混土。縮り有, 粘性弱。
 4. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒少, ロームブロック(φ3~7mm)微。縮り有, 粘性弱。
 5. 10YR 3/3 暗褐色土 ロームブロック(φ3~10mm)・焼土粒微, 炭化物粒少。斑状の褐色土を全体に含む。縮り有, 粘性やや有。
 6. 10YR 3/3 暗褐色土 ロームブロック(φ3~7mm)多(10%), 同(φ10~15mm)少。斑状の黒褐色土を全体に含む。縮り有, 粘性やや有。
 7. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 炭化物粒少, ロームブロック(φ10~20mm)多(40%)。縮り・粘性有。
 8. 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(φ5~15mm)多(30%)。縮り有, 粘性やや有。
 9. 10YR 4/2 灰黄褐色土 焼土ブロック(φ3~10mm)微。斑状のにぶい黄褐色土を全体に含む。縮り有, 粘性やや有。
 10. 7.5YR 4/1 褐灰色土 焼土ブロック(φ3~10mm)少, 炭化物粒微。縮り有, 粘性やや有。

- S184
11. 10YR 6/4 にぶい黄褐色土 山砂と粘土の混土でシルト状。粘土ブロック(φ3~5mm)多(20%), 被熱粘土ブロック(φ3~7mm)微。縮り・粘性有。
 12. 7.5YR 5/2 灰褐色土 焼土粒微, にぶい黄褐色ブロック(φ3~10mm)少。縮り・粘性有。
 13. 10YR 5/4 にぶい黄褐色土 山砂主体。焼土ブロック(φ3~7mm)少, 被熱粘土ブロック(φ3~5mm)微。縮り有, 粘性やや有。
 14. 7.5YR 5/3 にぶい褐色土 焼土ブロック(φ3~7mm)多(10%), 粘土ブロック(φ3~7mm)少。縮り・粘性有。
 15. 10YR 5/2 灰黄褐色土 粘土混土。縮り・粘性有。
 16. 2.5YR 4/6 赤褐色土 焼土主体。縮り有, 粘性弱。
 17. 5YR 4/1 褐灰色土 斑状の灰褐色土(粘土?)を全体に含む。縮り・粘性有。
 18. 5YR 4/6 赤褐色土 焼土主体。縮り・粘性有。

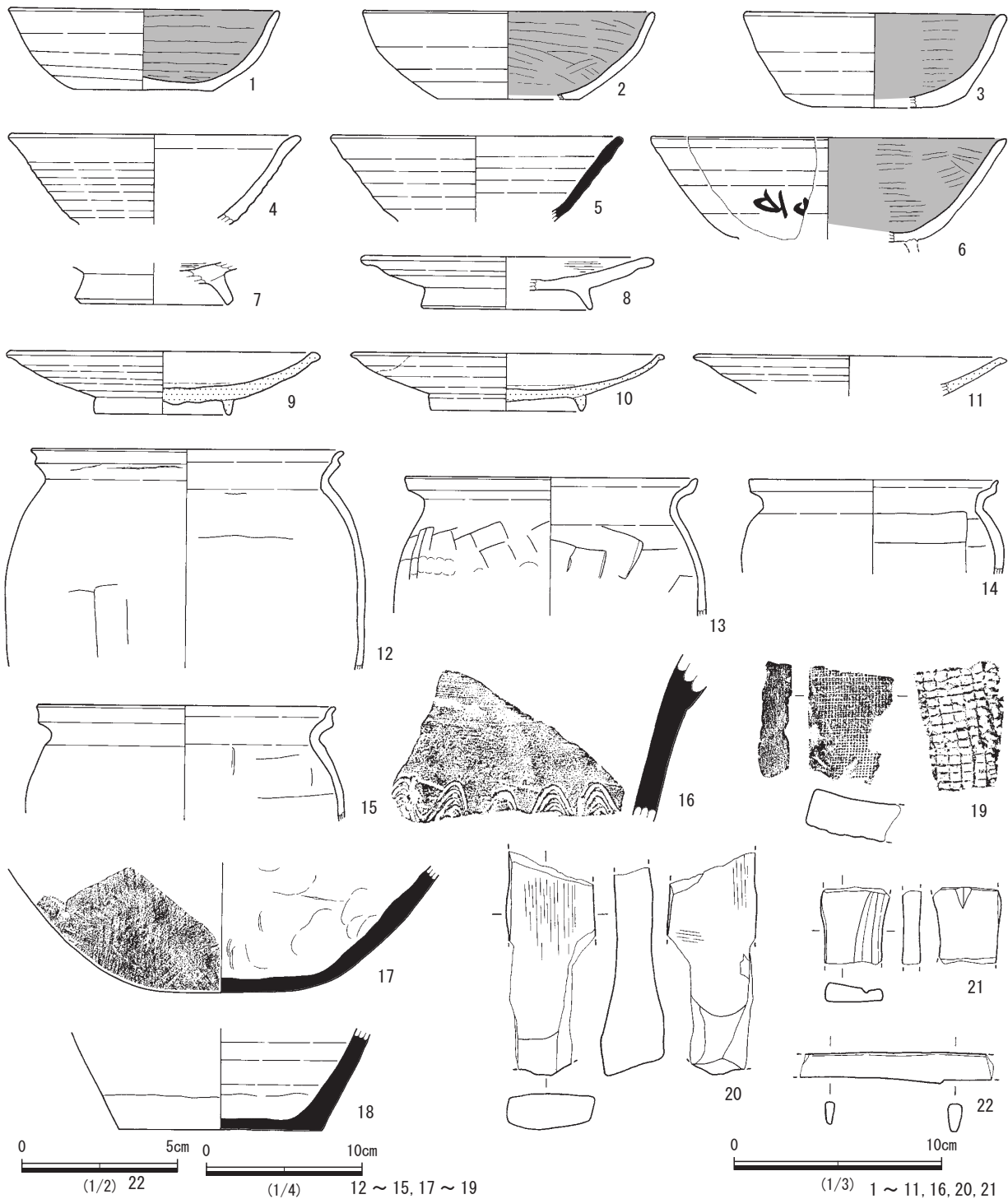
S184 カマド袖部

- ①. 10YR 6/4 にぶい黄褐色土 山砂と粘土の混土でシルト状。粘土ブロック(φ3~10mm)多(10%)。縮り・粘性有。
- ②. 5YR 4/2 灰褐色土 焼土粒少。縮り・粘性有。
- ③. 7.5YR 4/2 灰褐色土 山砂と粘土の混土で, 山砂の割合が高い。焼土粒多(10%), 被熱粘土ブロック(φ3~5mm)微。縮り有, 粘性やや有。
- ④. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(φ5~10mm)少, 焼土ブロック(φ3~10mm)中。縮り・粘性有。

第165図 S184

第3章 調査の成果

は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積を呈するが、壁際の層ではロームブロックの含有がやや多い。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床を施し、カマド前面から南壁にかけて顕著な硬化面が認められる。壁溝は幅 11 ~ 21 cm, 深さ 7 ~ 11 cm でカマド部分を除きほぼ全周する。ピットは南壁寄り中央に P 1 があり, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。規模は 36 × 20 cm, 深さ 16 cm である。掘り方は, 全体に浅く掘り込まれていた。カマドは北壁のほぼ中央に付設され, 攪乱の影響で燃焼部上部と右袖が消失している。構築材は粘土と山砂の混和土を用いている。燃焼部は 20 cm 程掘り窪められ, 火床面に赤変硬化は認められないものの, 焼土ブロックを多量に含んだ層が堆積す



第 166 図 SI84 出土遺物

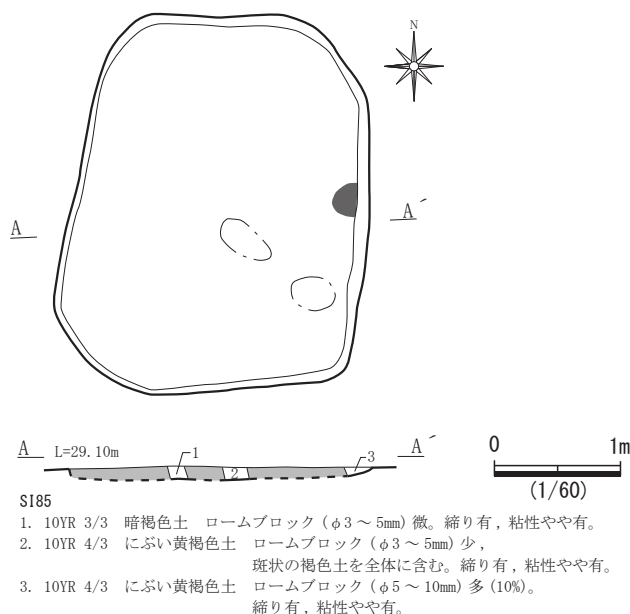
る。燃焼部から煙道部は屋外へ98 cm掘り込まれる。全長は130 cm, 燃焼部幅58 cm, 左袖の残部長は32 cmである。

遺物は、土師器196点(坏42, 高台付坏・椀類2, 皿7, 甕145), 須恵器18点(坏8, 蓋2, 甕8, 甌1), 灰釉陶器3点(皿3), 瓦1点(平瓦1), 鉄製1点(刀子1), 石製品2点(砥石2)が出土した。供膳具は土師器が主体である。土師器では体部下端から底部が回転ヘラケズリ調整で内面黒色処理された坏類が中心である。須恵器は小破片のみの出土であった。須恵器蓋は2点あるが、摘み部が時期的に伴わないと考えられ、混入した破片であろう。9～10は灰釉陶器皿で、9はカマド内、10は出入り口付近からの出土である。時期は、9世紀第3四半期と考えられる。

SI 85 (第167図, 写真図版20)

検出位置はB区C 29, D 29グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱が床面まで達している。平面形は方形基調ではあるが、全体に不整形である。長軸を主軸として見た場合の主軸方向はN-4°-Eを示す。規模は東西軸が2.43 m, 南北軸が2.98 mである。深さは10 cm前後で壁は外傾して立ち上がる。覆土は、浅い掘り込みである上に攪乱で遺存する部分が少ないことから把握は困難であるが、複雑な層を呈している。床面は平坦と考えられ、攪乱を免れた部分でわずかに硬化面が認められる。壁溝、ピットは検出されなかった。掘り方は、全体に浅く掘り込まれており、ほぼ直床に近いと思われる。カマドは検出されなかったが、東壁際の中央部で焼土の堆積が認められ、東壁に付設した可能性もある。

遺物は、土師器14点(坏7, 甕7), 須恵器3点(坏3)が出土した。供膳具は土師器が須恵器を上回り、内面黒色処理の坏が中心である。時期を推定するには小破片で図示する遺物がなく、出土量も不十分であるが、内面黒色処理の土師器坏が主体であることから9世紀第3四半期～第4四半期と考えられる。



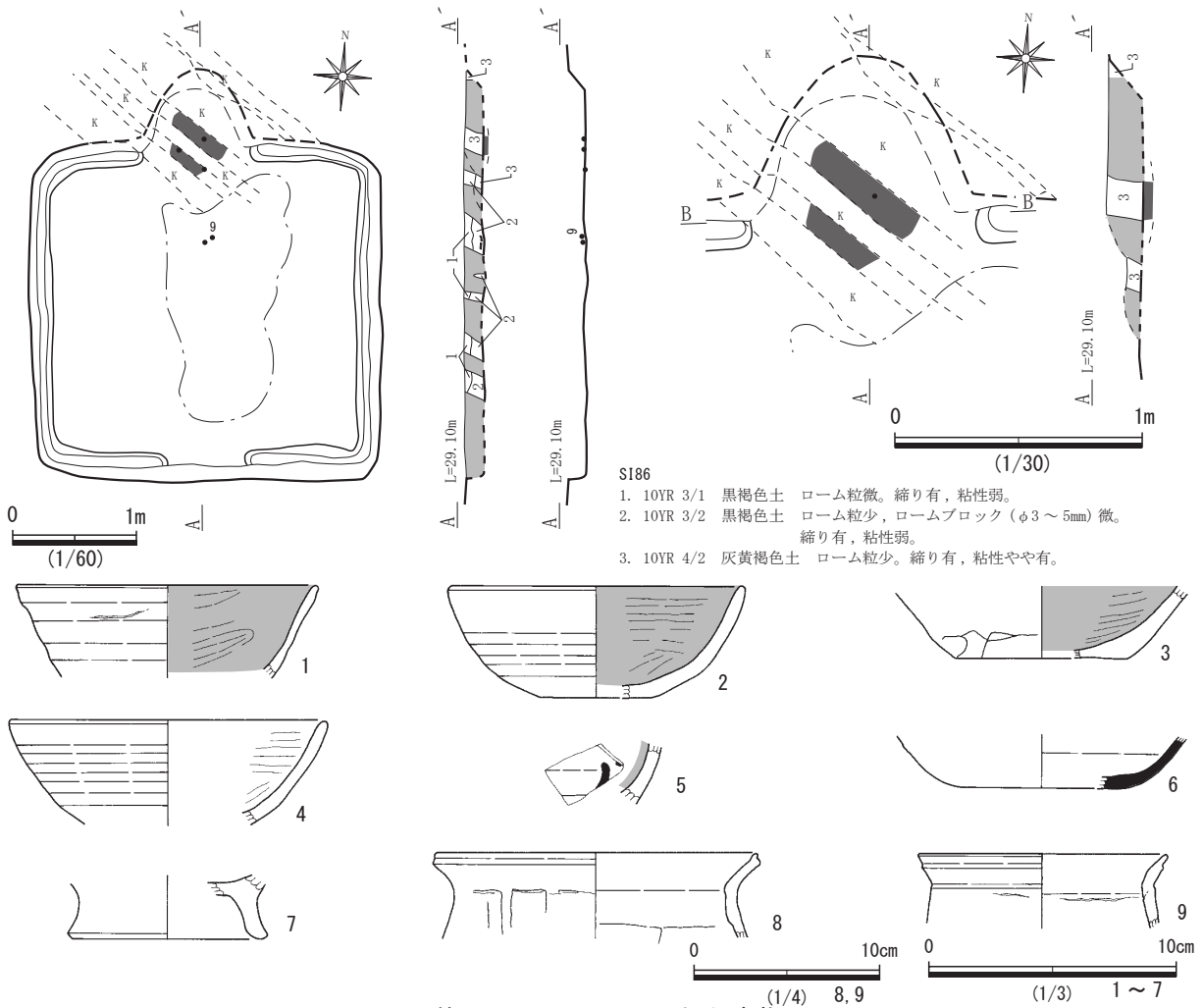
第167図 SI85

SI 86 (第168図, 第26表, 写真図版20・52)

検出位置はB区D 29・E 29グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱が床面まで達していた。平面形は方形で、主軸方向はN-3°-Wを示す。規模は東西軸が2.84 m, 南北軸が2.74 mである。深さは15 cmで壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。床面はロームブロックを含むにぶい黄褐色土の貼り床を施し、カマド前面から南壁際にかけて顕著な硬化面が認められる。壁溝は幅7～13 cm, 深さ3 cm程でカマド部分と南壁際中央部を除きほぼ全周する。ピットは検出されなかった。掘り方は、全体に15 cm程に掘り込まれていた。カマドは北壁の中央に付設され、攪乱の影響で大部分が消失している。左右袖部や構築材は残存せず、掘り方に近い状態での検出である。燃焼部は攪乱のわずかな間に残存するが、火床面に赤変硬化は認められず、焼土ブロックを含んだ層が堆積するのみであった。

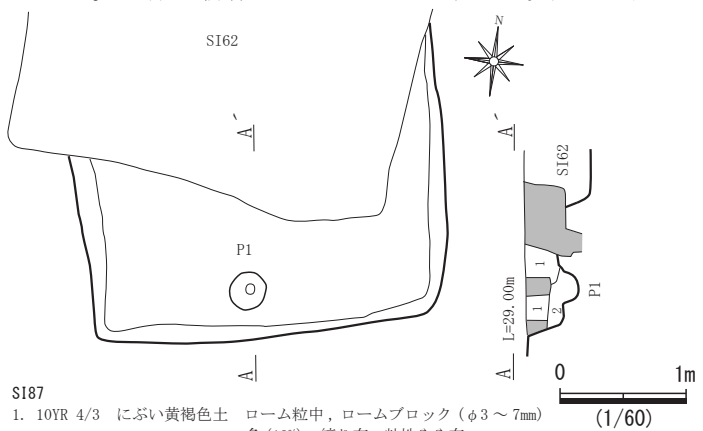
第3章 調査の成果

遺物は、土師器 87 点（坏 21，高台付坏・椀 2，甕 64），須恵器 15 点（坏 6，高台付坏 2，甕 5，甗 1，壺・瓶類 1）が出土した。供膳具は土師器が主体で，内面黒色処理された坏類が中心である。時期は，9 世紀第 3 四半期～第 4 四半期と考えられる。



SI87（第 169 図，写真図版 17）

検出位置は B 区 I 2 6，J 2 6 グリッドである。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱が床面まで達している。SI62 と重複し，本建物跡が古い。北側の約半分を SI62 に壊されているため全容は把握できないが，平面形は方形とみられ，壁から見た主軸方向は $N-10^{\circ}-W$ を示す。規模は東西軸が 2.91 m，南北軸が残存値最大で 2.26 m，深さは 29 cm で壁は垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。検出部分での床面は平坦であるが，硬化面は認められず，壁溝も確認できなかった。ピットは南壁際中央付近に P 1 が検出さ



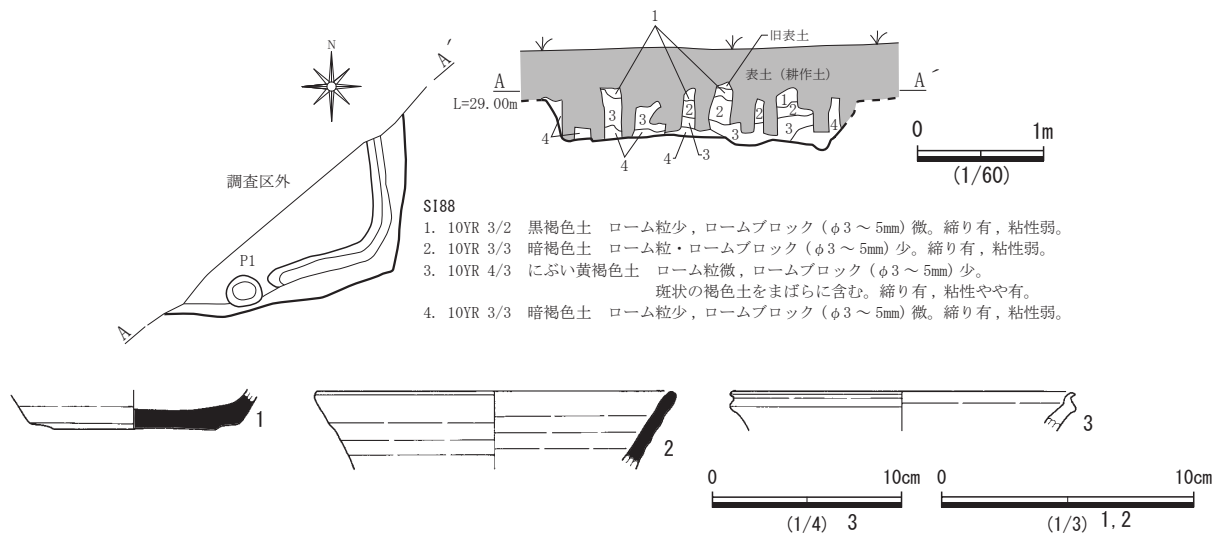
れ、出入り口施設に伴うピットと考えられる。規模は径 29 cm、深さ 10 cm である。掘り方は、南側中央部が深く掘り込まれていた。カマドは SI62 構築時に消失したと考えられる。

本遺構としての遺物は採集されなかったが、重複する SI62 の中に混在している可能性がある。時期は、SI62 との重複関係から 9 世紀代でも前半頃であろうか。

SI88 (第 170 図, 第 26 表, 写真図版 20・52)

検出位置は B 区 K 19・20 グリッドである。耕作によるトレンチャーの攪乱を受けるが、床面までは達していない。北西側の半分以上が調査区外になるため、全容は把握されなかった。平面形は方形と考えられる。東壁を軸とした場合の主軸方向は N - 6° - W を示す。規模は、現存値で東西軸が 1.48 m、南北軸が 1.08 m である。深さは 30 ~ 35 cm で壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。検出部分での床面は平坦と思われるが、顕著な硬化面は認められなかった。壁溝は幅 12 ~ 15 cm でほぼ全周すると思われる。ピットは南壁際で P 1 が検出され、規模は径 23 cm、深さ 12 cm である。この P 1 が中央に位置しているとした場合、本建物跡の規模は 2.50 m 前後となる。掘り方は浅い掘り込みで、直床に近い。カマドは検出されなかった。

遺物は、土師器 3 点 (坏 1, 甕 2), 須恵器 2 点 (坏 2) が出土した。調査範囲が限定的であったため出土量が少ない。供膳具は土師器, 須恵器ともに認められるものの、いずれも小破片である。時期は、図示した遺物から 8 世紀代と考えられる。



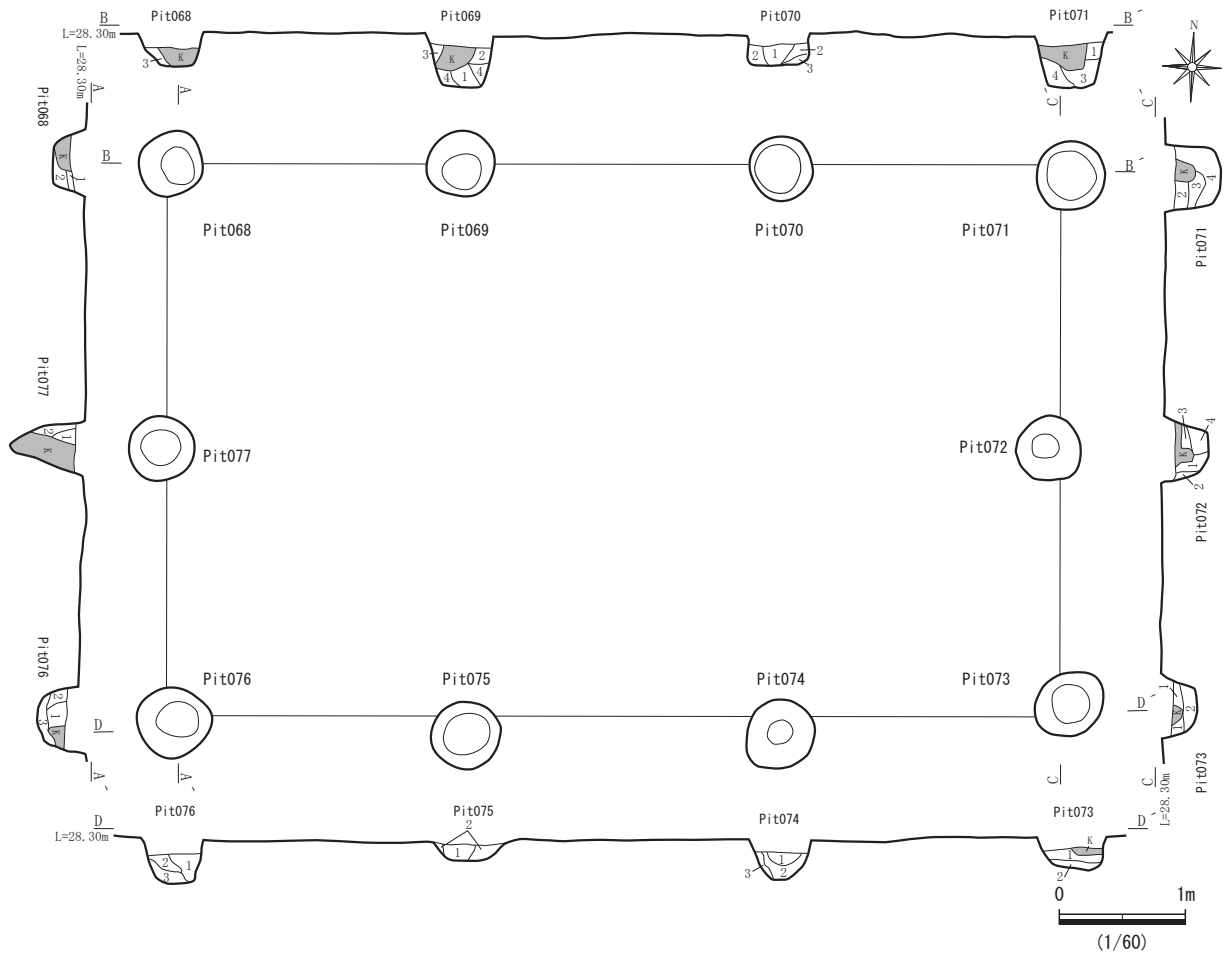
第 170 図 SI88・同出土遺物

(2) 掘立柱建物跡

SB01 (第 171 図, 第 4 表, 写真図版 21)

検出位置は B 区 S 14・15 グリッドである。本建物跡は Pit068 ~ 077 の 10 基で構成されるが、Pit070・074 ~ 076 を除き耕作によるトレンチャーで攪乱を受けている。平面規格は側柱構造の建物跡で、桁行 3 間、梁行 2 間の東西棟である。規模は桁行長 7.20 m (約 24 尺)、梁行長 4.5 m (約 15 尺) となり、面積は 32.4 m² を計測する。建物の傾きは N - 88° - E を示す。各柱穴の掘り方は円形基調で、規模は長軸 53 ~ 62 cm、短軸 50 ~ 60 cm、深さ 20 ~ 64 cm を測り、平面形はやや整っているものの、底面の標高は一定していない。柱間寸法は芯々で 2.40 m 前後とほぼ等間隔に配置されている。埋め土は黒褐色土を主体とし、にぶい黄褐色土が混在する。各層にはロームブロックが多く含まれて

第3章 調査の成果



Pit068

1. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒多(10%), ロームブロック(φ5~10mm)中, 炭化物塊(φ3~5mm)微。縮り有, 粘性弱。
2. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 黒褐色土混土。ローム粒多(20%)。炭化物粒微。縮り有, 粘性やや有。
3. 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 ローム土混土。縮り・粘性有。

Pit069

1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒中。縮り有, 粘性弱。(柱痕)
2. 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(φ5~10mm)密, 炭化物粒少。縮り強, 粘性有。
3. 10YR 3/1 黒褐色土 ロームブロック(φ3~10mm)多(20%), 炭化物粒中。縮り・粘性有。
4. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(φ3~10mm)多(40%), 炭化物粒微。縮り有, 粘性弱。

Pit070

1. 10YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック(φ3~10mm)多(40%), 炭化物粒微。縮り有, 粘性弱。
2. 10YR 5/6 黄褐色土 ロームブロック主体。炭化物粒微。縮り強, 粘性有。
3. 10YR 3/2 黒褐色土 黒色土混土。ロームブロック(φ5~10mm)多(40%)。縮り・粘性有。

Pit071

1. 10YR 2/1 黒色土 ローム粒少, ロームブロック(φ3~5mm)微。縮り有, 粘性弱。
2. 10YR 3/2 黒褐色土 暗褐色土混土。ロームブロック(φ3~5mm)少。縮り・粘性有。
3. 10YR 3/1 黒褐色土 ロームブロック(φ5~10mm)多(20%), 炭化物粒少。縮り・粘性有。
4. 10YR 3/3 暗褐色土 ロームブロック(φ5~15mm)多(40%)。縮り強, 粘性有。

Pit072

1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒少, ロームブロック(φ3~5mm)微。縮り有, 粘性弱。(柱痕)
2. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 斑状の褐色土を全体に含む。ロームブロック(φ3~7mm)多(20%)。縮り有, 粘性やや有。
3. 10YR 3/1 黒褐色土 斑状の褐色土を全体に含む。ローム粒中。縮り有, 粘性やや有。
4. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム土混土。縮り・粘性有。

Pit073

1. 10YR 2/1 黒色土 ローム粒少, 斑状の灰黄褐色土を全体に含む。縮り有, 粘性やや有。
2. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(φ3~15mm)多(20~30%)。縮り・粘性有。

Pit074

1. 10YR 4/2 灰黄褐色土 ローム粒中, ロームブロック(φ3~10mm)少。縮り有, 粘性弱。
2. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム土混土。炭化物粒微。縮り有, 粘性やや有。
3. 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(φ3~20mm)多(40%)。縮り・粘性有。

Pit075

1. 10YR 2/1 黒色土 ローム粒多(10%), ロームブロック(φ3~5mm)少, 炭化物塊(φ5mm前後)微。縮り有, 粘性弱。
2. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム土主体。黒色土ブロック(φ3~10mm)少。縮り・粘性有。

Pit076

1. 10YR 2/1 黒色土 ローム粒多(10%), ロームブロック(φ5mm前後)・炭化物粒微。縮りやや弱, 粘性弱。
2. 10YR 3/3 暗褐色土 黒色土多(10%), ロームブロック(φ5~20mm)多(40%)。縮り有, 粘性やや有。
3. 10YR 5/4 にぶい黄褐色土 斑状の灰黄褐色土をまばらに含む。縮り・粘性有。

Pit077

1. 10YR 2/1 黒色土 ローム粒中, ロームブロック(φ3~5mm)少。縮り有, 粘性弱。
2. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(φ3~15mm)多(20~30%)。縮りやや弱, 粘性弱。

第171図 SB01

いる。柱痕跡はPit069・070・072・075・076で確認され、径13～23cmで黒褐色土を主体としている。また、Pit075は浅い柱穴で、柱痕跡が地山ロームを掘り込んでいた。底部硬化面はいずれの柱穴からも認められなかった。

遺物は出土していない。

第4表 SB01 柱穴一覧表

遺構名	位置 (グリッド)	形状	規模(cm)			重複・覆土・特徴・その他	出土遺物	備考
			長軸	短軸	深さ			
Pit068	S14	円形	60	50	27	3層。攪乱広範囲。	なし	
Pit069	S14	円形	58	55	41	4層。柱痕有。	なし	
Pit070	S15	円形	56	54	24	3層。柱痕有。	なし	
Pit071	S15	円形	60	60	54	4層。	なし	
Pit072	S15	円形	53	52	38	4層。柱痕有。	なし	
Pit073	S15	円形	56	50	35	2層。上部攪乱広範囲。	なし	
Pit074	S15	円形	57	54	30	3層。	なし	
Pit075	S14	円形	52	52	20	2層。柱痕有。柱痕は地山ローム掘り抜き。	なし	
Pit076	S14	円形	62	50	27	3層。柱痕有。	なし	
Pit077	S14	円形	53	52	64	2層。攪乱広範囲。	なし	

SB02 (第172・187図, 第5・26表, 写真図版21・52)

検出位置はB区T14・15グリッドである。本建物跡はPit005・006・011・308～310・312・314～316の10基で構成されるが、全体に耕作によるトレンチャーの攪乱を激しく受け、特にPit005・006・011以外の柱穴は攪乱下からの検出となる。平面規格は側柱構造の建物跡で、桁行3間、梁行2間の東西棟であるが柱筋の並びは良くない。規模は桁行長5.40m(約18尺)、梁行長3.90m(約13尺)となり、面積は21.06㎡を計測する。建物の傾きはN-70°-Eを示す。各柱穴の掘り方は円形基調で、規模は長軸25～70cm、短軸25～58cm、深さ9～41cmを測り、攪乱の影響もあって平面形や底面の標高は一定していない。柱間寸法は芯々で、1.40～2.00mでかなりばらばらしている。埋め土は攪乱のためPit005・006・011でしか確認できなかった。その3基に限ってみれば黒褐色土を主体とし、ロームブロックはあまり多く含まれていない。柱痕跡はPit005・011で確認され、径23～30cmの黒褐色土を主体としている。底部硬化面はPit309・310・314で認められている。

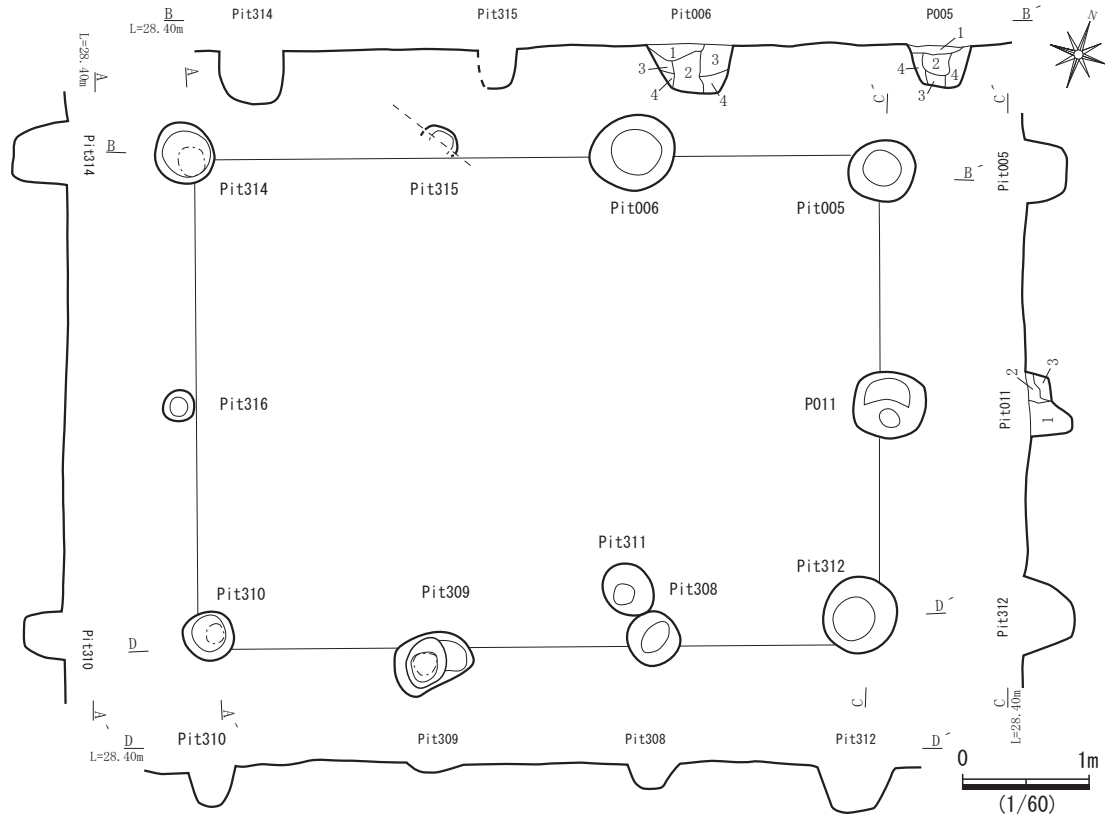
遺物はPit005・011・312・314から出土したが、いずれも小破片である。図示した1・2は須恵器坏で、時期は9世紀代の所産と考えられるが、建物跡に伴うかは不明である。

SB03 (第173図, 第6表, 写真図版21)

検出位置はB区O16グリッドである。本建物跡はPit033～042の10基で構成される。平面規格は側柱構造の建物跡で、桁行3間、梁行2間の東西棟である。規模は桁行長の南側が4.50m(約15尺)、北側が4.40mで桁行の南側と北側の長さが不揃いである。梁行長は3.30m(約11尺)となり、面積は13.20㎡を計測する。建物の傾きはN-79°-Eを示す。各柱穴の掘り方は円形基調で、規模は長軸48～85cm、短軸55～61cm、深さ34～56cmを測り、平面形や底面の標高は一定していない。柱間寸法は芯々で、1.30～1.60mでばらばらしている。埋め土はロームブロックを多く含有する黒褐色土とにぶい黄褐色土が互層堆積をなしている。柱痕跡はPit041・042以外で確認され、径20cm前後で黒褐色土が主体になるが、Pit037ではローム土が多量に含まれていた。底部硬化面はやや弱くはあるものの全ての柱穴で認められ、ひとつの柱穴で複数存在することから建て替えが行われた可能性もある。

遺物はPit033・034・037から土師器甕と須恵器甕の破片が出土しているが、いずれも小破片で、時期は不明瞭である。Pit038・040・042では縄文土器と思われる混入した破片のみであった。

第3章 調査の成果



Pit005

- 10YR 4/2 灰黄褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ3~5mm) 微。縮りやや弱, 粘性弱。
- 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒少, ロームブロック (φ3~5mm)・炭化物粒微。縮り有, 粘性弱。
- 10YR 4/4 褐色土 ローム土混土。縮りやや強, 粘性有。
- 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム土混土。縮り有, 粘性やや有。

Pit006

- 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒中。炭化物粒微。縮り有, 粘性弱。
- 10YR 3/1 黒褐色土 ローム少, ロームブロック (φ3~7mm) 微。縮り有, 粘性弱。
- 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム土混土。縮り・粘性有。
- 10YR 3/3 暗褐色土 ロームブロック (φ3~10mm) 多 (20%)。縮りやや弱, 粘性やや有。

Pit011

- 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒中, ロームブロック (φ3~7mm) 少。縮り有, 粘性弱。
- 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム土・ロームブロック (φ3~5mm) 少。炭化物塊少。縮り有, 粘性やや有。
- 10YR 4/6 褐色土 黒褐色土混土。縮り有, 粘性やや有。

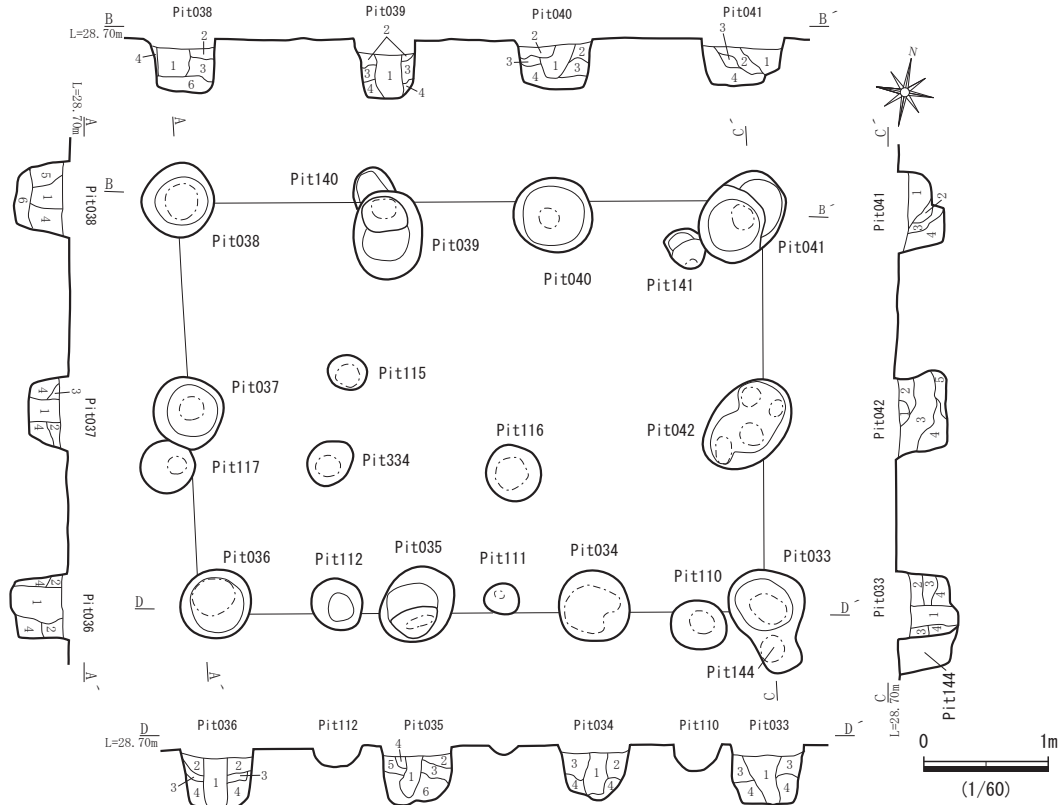
第 172 図 SB02

第 5 表 SB02 柱六一覧表

遺構名	位置 (グリッド)	形状	規模 (cm)			重複・覆土・特徴・その他	出土遺物	備考
			長軸	短軸	深さ			
Pit005	T15	円形	56	50	36	4層。柱痕有。底部わずかに硬化。	須: 坏1	
Pit006	T15	円形	70	58	39	4層。柱痕あり。底部わずかに硬化。	なし	
Pit011	T15	円形	60	58	36	3層。柱痕有。	土: 甕2, 須: 坏1	
Pit308	T15	円形	42	42	19	単層, 10YR3/1黒褐色土: ロームブロック中。上部攪乱。平面形やや不整形。	なし	
Pit309	T15	楕円形	62	40	41	単層, 10YR3/1黒褐色土: ロームブロック少。上部攪乱。	なし	
Pit310	T15	円形	42	40	21	単層, 10YR3/1黒褐色土: ロームブロック少。上部攪乱。	なし	
Pit312	T15	円形	60	57	38	単層, 10YR3/2黒褐色土: ロームブロック多。上部攪乱。	縄: 深鉢1, 須: 坏2	
Pit314	T14	円形	50	46	15	単層, 10YR3/1黒褐色土: ロームブロック中。上部攪乱。	土: 甕2, 須: 坏2	
Pit315	T15	(円形)	30	(30)	25	単層, 10YR3/1黒褐色土: ロームブロック少。上部攪乱。約1/2消失。	なし	
Pit316	T14	円形	25	25	9	単層, 10YR3/2黒褐色土: ローム土混土。上部攪乱。	なし	

第 6 表 SB03 柱六一覧表

遺構名	位置 (グリッド)	形状	規模 (cm)			重複・覆土・特徴・その他	出土遺物	備考
			長軸	短軸	深さ			
Pit033	O16	円形	60	57	48	Pit338を切る。4層。柱痕有。底面わずかに硬化。	土: 甕3	
Pit034	O16	円形	61	58	44	4層。柱痕有。底面わずかに硬化。	土: 甕1, 須: 壺1	
Pit035	O16	円形	60	60	56	6層。柱痕有。底面わずかに硬化。	なし	
Pit036	O16	円形	56	56	49	4層。柱痕有。底面わずかに硬化。	なし	
Pit037	O16	円形	48	55	34	4層。柱痕有。底面わずかに硬化。	土: 甕1	
Pit038	O16	円形	58	56	45	6層。柱痕有。底面わずかに硬化。	縄?: 深鉢? 1	
Pit039	O16	楕円形	72	56	47	Pit140を切る。4層。柱痕有。底面わずかに硬化。	なし	
Pit040	O16	円形	63	61	41	4層。柱痕有。底面わずかに硬化。	縄?: 深鉢? 1	
Pit041	O16	楕円形	79	58	39	4層。底面わずかに硬化。有段。2基重複か。	なし	
Pit042	O16	楕円形	85	57	44	5層。底面わずかに硬化。	縄: 深鉢1	



Pit033

1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒少。縮りやや弱、粘性弱。
2. 10YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック (φ3~10mm) 少。斑状の褐色土全体に含む。縮り・粘性有。
3. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ5~15mm) 多 (20~30%), 炭化物塊 (φ3~10mm) 微。縮り・粘性有。
4. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒多 (10%), ロームブロック (φ5~20mm) 多 (10%)。縮り・粘性有。

Pit034

1. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒少, ロームブロック (φ3~5mm) 微。縮り有, 粘性弱。
2. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒多 (10%), ロームブロック (φ3~5mm) 中。斑状の褐色土全体に含む。縮り・粘性有。
3. 10YR 4/4 褐色土 ローム粒多 (10%), ロームブロック (φ3~7mm) 多 (10%)。縮り・粘性有。
4. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム土混土, ロームブロック (φ5~15mm) 多 (20%)。縮りやや強, 粘性有。

Pit035

1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒中, ロームブロック (φ3~10mm) 少。縮りやや弱, 粘性弱。
2. 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ5~10mm) 多 (40%)。縮り・粘性有。
3. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ5~10mm) 多 (50%)。縮り・粘性有。
4. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒少。縮りやや弱, 粘性弱。
5. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒多 (10%), ロームブロック (φ3~7mm)・黒色ブロック (φ3~10mm) 少。縮りやや強, 粘性有。
6. 10YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック (φ5~10mm) 多 (20%)。斑状の黒色土をまばらに含む。縮りやや強, 粘性有。

Pit036

1. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ3~5mm) 少。縮り有, 粘性弱。
2. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒中, ロームブロック (φ3~10mm) 多 (20%), 黒色ブロック (φ3~10mm) 少。縮り・粘性有。
3. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム土主体。縮り・粘性有。
4. 10YR 5/4 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ5~10mm) 多 (40%)。縮り・粘性有。

Pit037

1. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒少, ロームブロック (φ3~5mm) 中。縮り有, 粘性やや有。
2. 10YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック (φ3~7mm) 多 (10%)。縮り・粘性有。
3. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム土混土。縮り・粘性有。
4. 10YR 5/4 にぶい黄褐色土 ローム土混土でローム土の割合が高い。斑状の黒色土をまばらに含む。縮りやや強, 粘性有。

Pit038

1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒少, ロームブロック (φ3~5mm) 微。縮りやや弱, 粘性弱。
2. 10YR 3/3 暗褐色土 ロームブロック (φ5~15mm) 多 (10%)。縮り・粘性有。
3. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム土混土。縮りやや強, 粘性有。
4. 10YR 3/1 黒褐色土 ロームブロック (φ5~15mm) 多 (40%), 黒色土ブロック (φ5~10mm) 少。縮り・粘性有。
5. 10YR 4/4 褐色土 ローム粒多 (10%), ロームブロック (φ3~5mm) 多 (20%)。縮り・粘性弱。
6. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム土混土。縮りやや強, 粘性有。

Pit039

1. 10YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック (φ3~10mm) 少。縮り有, 粘性弱。
2. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ3~15mm) 多 (20%)。縮り・粘性有。
3. 10YR 2/1 黒色土 ローム粒・ロームブロック (φ5~20mm) 少。縮り・粘性有。
4. 10YR 3/1 黒褐色土 ロームブロック (φ5~20mm) 多 (40%)。縮り・粘性有。

Pit040

1. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒中。縮りやや弱, 粘性弱。
2. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ3~7mm) 多 (10~20%)。縮り有, 粘性弱。
3. 10YR 3/1 黒褐色土 ロームブロック (φ3~10mm) 多 (10%)。縮り・粘性有。
4. 10YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック (φ10~15mm) 多 (20~30%)。縮りやや強, 粘性有。

Pit041

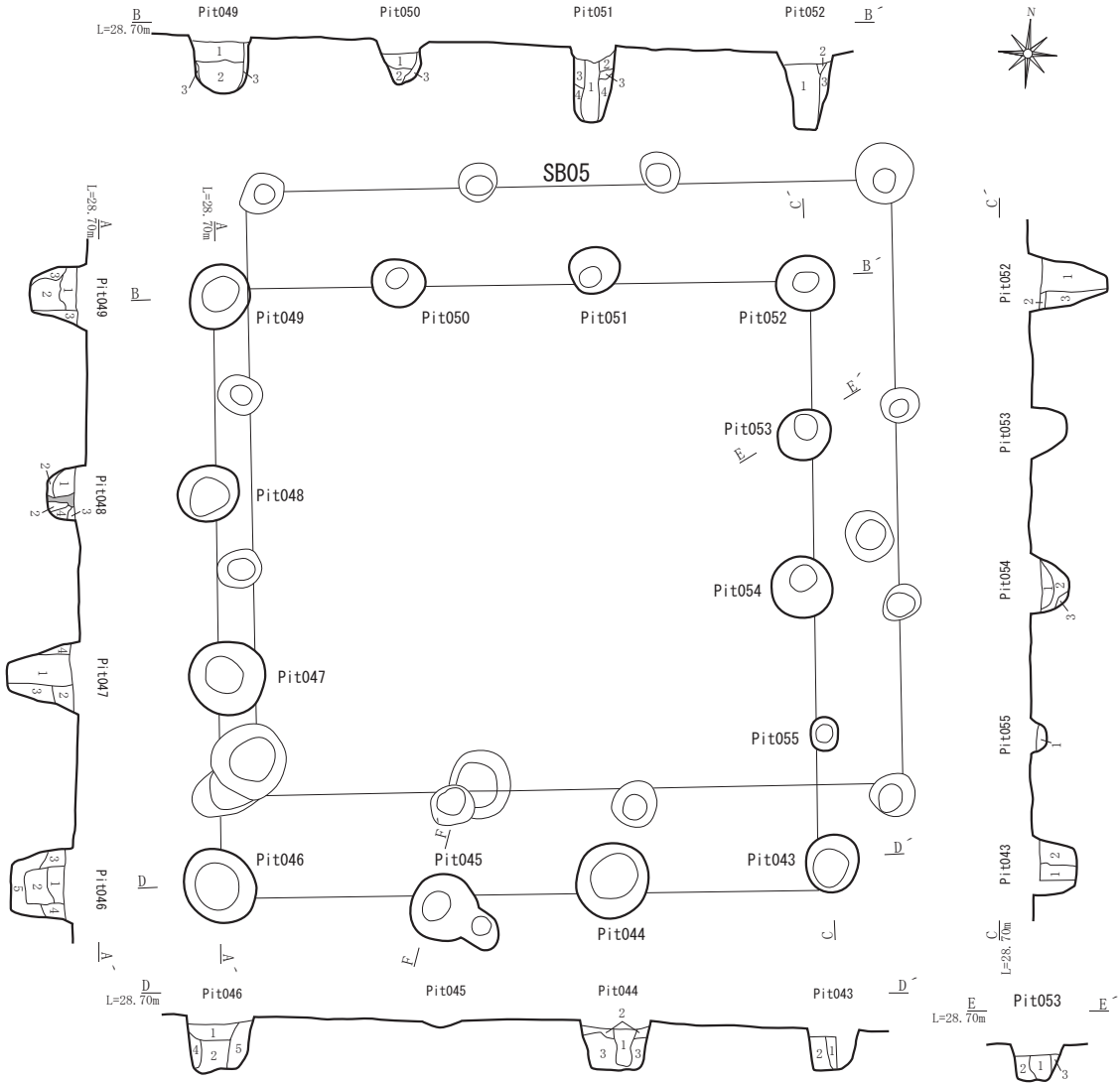
1. 10YR 4/2 灰黄褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ3~5mm) 少。縮りやや弱, 粘性弱。
2. 10YR 5/4 にぶい黄褐色土 ローム土混土。ロームブロック (φ3~7mm) 少。縮り・粘性有。
3. 10YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック (φ3~7mm) 多 (10%)。縮り・粘性有。
4. 10YR 3/1 黒褐色土 ロームブロック (φ3~10mm) 多 (20%), ローム土多 (20%)。

Pit042

1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒中, ロームブロック (φ3~5mm) 微。縮り有, 粘性弱。
2. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒多 (20%), ロームブロック (φ3~10mm) 中。縮り有, 粘性弱。
3. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ3~10mm) 多 (30~40%), ローム土多 (10%)。縮り有, 粘性やや有。
4. 10YR 3/1 黒褐色土 ロームブロック (φ5~30mm) 多 (40%)。縮りやや強, 粘性有。
5. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ10~30mm) 多 (50%)。縮りやや強, 粘性有。

第173図 SB03

第3章 調査の成果



Pit043

- 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒微。縮り有、粘性弱。
- 10YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック (φ3~10mm) 多 (20%)。縮り有、粘性やや有。

Pit044

- 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒中、ロームブロック (φ3~5mm) 微。縮り有、粘性弱。
- 10YR 4/2 灰黄褐色土 ローム粒少、ロームブロック (φ3~7mm) 多 (20%)。縮り有、粘性弱。
- 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ5~15mm) 多 (40%)。黒褐色土ブロック (φ5~10mm) 少。縮り有、粘性やや有。

Pit045

- 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒微。縮り有、粘性弱。
- 10YR 5/4 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ5~15mm) 多 (20%)。縮り有、粘性やや有。
- 10YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック (φ10~20mm) 多 (30~40%)。縮り有、粘性やや有。

Pit046

- 10YR 4/2 灰黄褐色土 ローム粒中、炭化物粒微。縮り有、粘性弱。
- 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒中。縮り有、粘性弱。
- 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ3~10mm) 多 (20%)。縮り有、粘性やや有。
- 10YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック (φ3~15mm) 多 (20%)。縮り・粘性有。
- 10YR 3/3 暗褐色土 ロームブロック (φ3~7mm) 多 (40%)、炭化物塊 (φ3~5mm) 微。縮りやや強、粘性有。

Pit047

- 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒中、ロームブロック (φ3~5mm) 微。縮りやや弱、粘性弱。
- 10YR 3/3 暗褐色土 ロームブロック (φ3~10mm) 多 (20%)。縮り有、粘性やや有。
- 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ3~15mm) 多 (20%)。縮り有、粘性やや有。
- 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ3~7mm) 多 (30~40%)。縮り有、粘性やや有。

Pit048

- 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ3~10mm) 少。縮り有、粘性弱。
- 10YR 3/1 黒褐色土 ロームブロック (φ5~10mm) 密。縮り・粘性有。
- 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒中、ロームブロック (φ3~10mm) 多 (30~40%)。縮り有、粘性やや有。
- 10YR 5/6 黄褐色土 ローム土主体。黒褐色土ブロック (φ3~5mm) 少。縮り有、粘性やや有。

Pit049

- 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒中、ロームブロック (φ3~5mm) 少。縮り有、粘性弱。
- 10YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック (φ3~10mm) 多 (20%)。縮り有、粘性弱。
- 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ5~15mm) 多 (30~40%)。縮り有、粘性やや有。

Pit050

- 10YR 3/1 黒褐色土 ローム土・ロームブロック (φ3~10mm) 多 (20%)。縮り有、粘性やや有。
- 10YR 3/2 黒褐色土 ローム土混土。縮りやや弱、粘性やや有。
- 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ3~5mm) 中、黒褐色土少。縮り有、粘性有。

第174図 SB04

SB04 (第174・187図, 第7・26表, 写真図版21・52)

検出位置はB区O17グリッドである。本建物跡はPit043～055の13基で構成される。これらの柱穴群からはずれてPit056～067で構成されるSB05が重複し、建て替えが行われたと考えられるが、新旧関係は把握できなかった。平面規格は東西3間、南北3間の側柱建物跡で柱筋の並びは良くない。東西軸と南北軸の長さはともに4.80m(約16尺)となり、面積は23.04㎡を計測する。建物の傾きはN-84°-Eを示す。各柱穴の掘り方は円形基調で、規模は長軸40～65cm、短軸36～58cm、深さ28～61cmを測り、深さや底面の標高は一定していない。柱間寸法は芯々で、1.20～1.80mでばらついている。特に南北軸東側のPit043・052間は2.40mと広く、ほぼ中間に補助柱穴とみられる小規模なPit055が存在している。埋め土は黒褐色土を主体としている。柱痕跡及び底部硬化面はいずれの柱穴からも認められなかった。

遺物はPit047・049・051・052・054から出土した。土師器は甕、須恵器は坏類が主体で、縄文土器がわずかに混入する。1・2は須恵器坏の破片でいずれもPit051からで、小破片のため不明瞭であるが、時期は8世紀代後半以降であろうか。

SB04 ピット土層説明

Pit051		Pit053	
1. 10YR 3/1 黒褐色土	ローム粒中, 焼土ブロック(φ3～5mm)微。縮りやや弱, 粘性弱。	1. 10YR 3/1 黒褐色土	ローム粒中, ロームブロック(φ3～5mm)少。縮り有, 粘性弱。
2. 10YR 5/6 黄褐色土	ローム土主体。黒褐色土少。縮り有, 粘性やや有。	2. 10YR 3/2 黒褐色土	ローム粒多(20%), ロームブロック(φ3～20mm)多(20%)。縮り有, 粘性やや有。
3. 10YR 3/4 暗褐色土	ロームブロック(φ3～10mm)多(30～40%)。縮り有, 粘性やや有。	3. 10YR 3/1 黒褐色土	ローム混土。縮り有, 粘性やや有。
4. 10YR 3/3 暗褐色土	ロームブロック(φ3～10mm)多(20%)。縮りやや弱, 粘性やや有。	Pit054	
Pit052		Pit055	
1. 10YR 3/1 黒褐色土	ローム粒多(20%), ロームブロック(φ3～5mm)中。縮りやや弱, 粘性弱。	1. 10YR 3/2 黒褐色土	ロームブロック(φ3～10mm)多(20～30%)。縮り・粘性有。
2. 10YR 3/2 黒褐色土	ローム粒・ロームブロック(φ3～5mm)少。縮り有, 粘性弱。	2. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土	ロームブロック(φ3～10mm)密。縮り・粘性有。
3. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土	ロームブロック(φ3～10mm)中。縮り有, 粘性やや有。	3. 10YR 5/6 黄褐色土	ローム土主体。黒褐色土少。縮り有, 粘性やや有。
		1. 10YR 3/1 黒褐色土	ローム粒少, ロームブロック(φ5～10mm)微。縮り有, 粘性弱。

第7表 SB04 柱穴一覧表

遺構名	位置 (グリッド)	形状	規模(cm)			重複・覆土・特徴・その他	出土遺物	備考
			長軸	短軸	深さ			
Pit043	O17	円形	47	41	42	2層。柱痕有。	なし	
Pit044	O17	円形	61	58	47	3層。柱痕有。	なし	
Pit045	O17	円形	77	54	38	3層。柱痕有。軸から外れる。	なし	
Pit046	O17	円形	65	55	63	5層。柱痕有。	なし	
Pit047	O17	円形	62	58	67	4層。柱痕有。	縄?:深鉢?1, 土:甕1	
Pit048	O17	円形	52	43	28	3層。	なし	
Pit049	O17	円形	55	47	46	3層。柱痕有。	縄:深鉢1, 土:甕1, 須:坏1	
Pit050	O17	円形	45	38	39	3層。	なし	
Pit051	O17	円形	40	36	61	4層。柱痕有。	縄:深鉢1, 土:甕1, 須:坏2	
Pit052	O17	円形	46	45	62	3層。柱痕有。	土:甕2	
Pit053	O17	円形	45	41	30	3層。柱痕有。	なし	
Pit054	O17	円形	49	47	39	3層。	土:甕2	
Pit055	O17	円形	28	24	16	単層。SB04柱筋にあり。補助柱穴か。	なし	

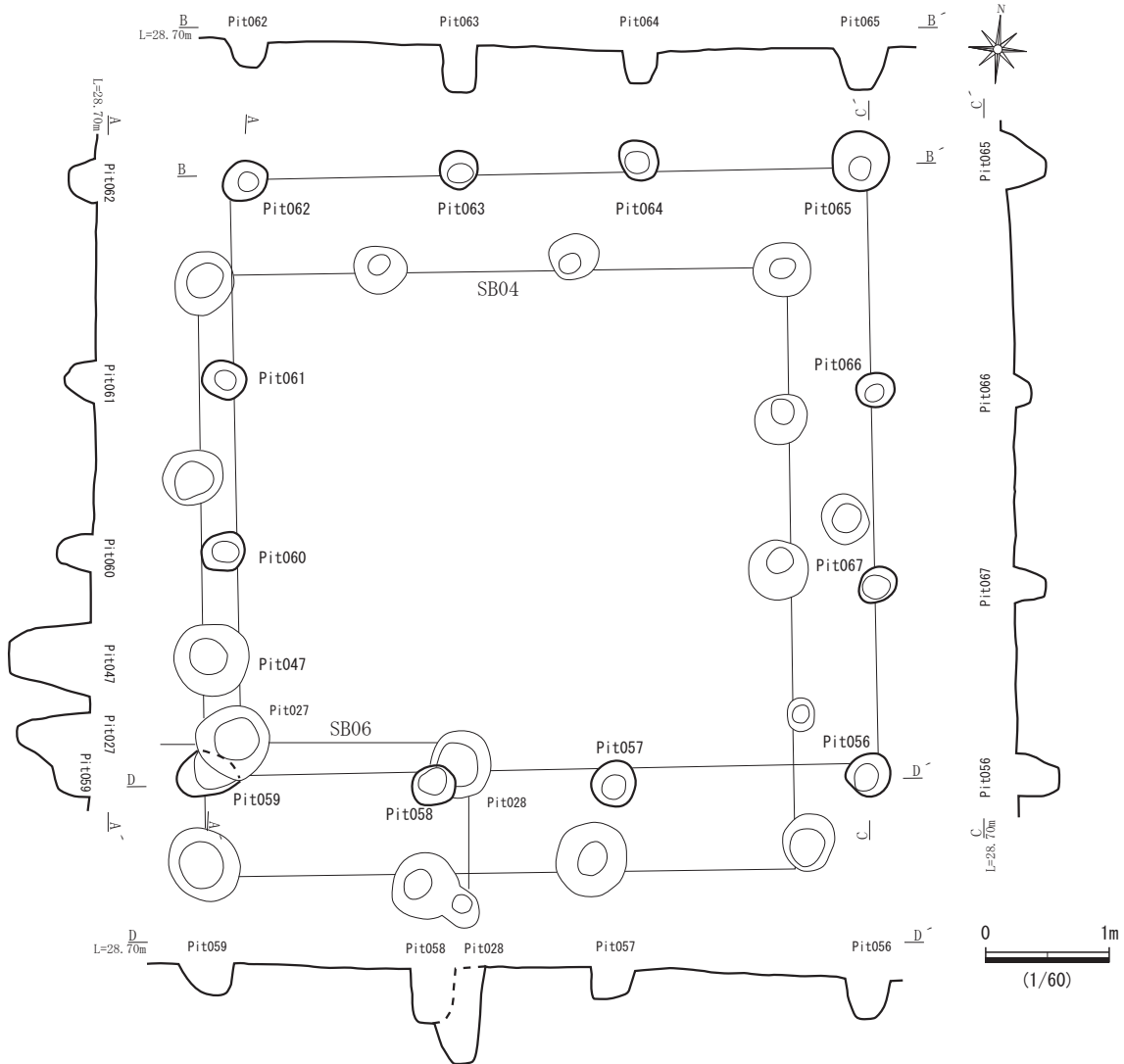
SB05 (第175・187図, 第8・26表, 写真図版21・52)

検出位置はB区O17グリッドである。本建物跡はPit056～067の12基で構成される。これらの柱穴群からはずれてPit043～054で構成されるSB04が重複し、建て替えが行われたと考えられるが、新旧関係は把握できなかった。また、南西側でSB06と重複し、Pit058がPit028を、Pit059がPit027をそれぞれ切り込んで構築されていることから、本建物跡が新しいと判断される。平面規格は東西3間、南北3間の側柱建物跡で柱筋の並びはほぼ揃っている。規模は東西軸の南側が5.40m(約18尺)でやや長く、北側が4.80m(約16尺)である。南北軸は4.80m(約16尺)となり、面積は24.48㎡を計測する。東西を主軸として見た場合の建物の傾きはN-83°-Eを示す。各柱穴の掘り方は円形基調で、規模は長軸30～50cm、短軸28～47cm、深さ19～62cmを測り、平面形は

第3章 調査の成果

大き目の Pit065 を除いてほぼ整っているが、底面の標高は一定していない。柱間寸法は芯々で、1.40～2.00 m でばらついている。埋め土はロームブロックを多く含有する黒褐色土、暗褐色土、にぶい黄褐色土がそれぞれ互層堆積をなしている。柱痕跡は Pit043～047・049・051～053 で確認され、径 13～25 cm 程で黒褐色土が主体になる。底部硬化面はいずれの柱穴からも認められなかった。

遺物は Pit059・063・065 から土師器は甕類、須恵器は坏類が出土した。1 の須恵器坏は Pit059 からの出土で、時期は 8 世紀後半以降の所産であろう。



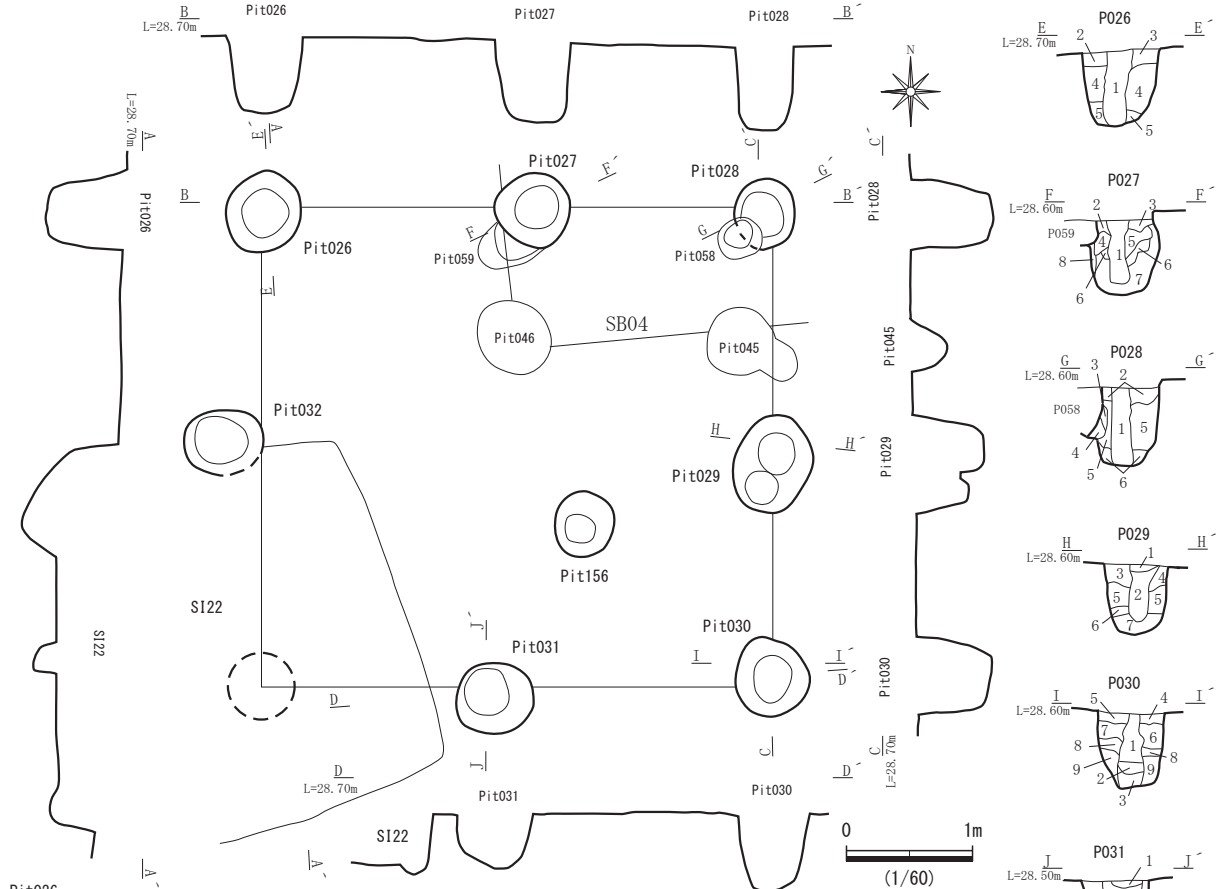
第 175 図 SB05

第 8 表 SB05 柱穴一覧表

遺構名	位置 (グリッド)	形状	規模 (cm)			重複・覆土・特徴・その他	出土遺物	備考
			長軸	短軸	深さ			
Pit056	O17	円形	36	36	62	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒少。	なし	
Pit057	O17	円形	37	35	25	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒・ロームブロック各少。	なし	
Pit058	O17	(円形)	30	(30)	42	SB06・Pit028を切る。単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒中。	なし	
Pit059	O17	円形	38	36	27	SB06・Pit027を切る。単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒少。	縄:深鉢2, 土:甕2, 須:坏1	
Pit060	O17	円形	37	33	28	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒・ロームブロック各少。	なし	
Pit061	O17	円形	35	32	25	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム土・ロームブロック各多。	なし	
Pit062	O17	円形	37	30	25	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒・ロームブロック各少。	なし	
Pit063	O17	円形	32	30	41	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒・ロームブロック各少。	須:坏1	
Pit064	O17	円形	34	30	29	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒中・ロームブロック少。	なし	
Pit065	O17	円形	50	47	35	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒・ロームブロック各少。	須:坏1	
Pit066	O17	円形	32	28	19	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒・ロームブロック各少。	なし	
Pit067	O17	円形	33	28	26	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒・ロームブロック各少。	なし	

SB06 (第176図, 第9表, 写真図版21・22)

検出位置はB区O17, P17グリッドである。本建物跡はPit026～032の7基が検出される。本来は8基で構成されたと思われるが、南西隅の1本はSI22構築時に消失したとみられる。一方、北



Pit026

1. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒中, ロームブロック (φ3~7mm) 微。炭化物粒微。縮りやや弱, 粘性弱。
2. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒多 (20%), ロームブロック (φ3~7mm) 少。縮り有, 粘性弱。
3. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ3~7mm) 多 (20%)。縮り有, 粘性弱。
4. 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 ローム土・ロームブロック (φ10~30mm) 密。縮り・粘性有。
5. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム土混土。縮りやや弱・粘性やや有。

Pit027

1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒中, ロームブロック (φ3~15mm) 少。黒色土多 (20%), 炭化物粒微。縮りやや弱, 粘性弱。
2. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒少, ロームブロック (φ3~5mm)・炭化物粒微。縮り有, 粘性弱。
3. 10YR 6/6 明黄褐色土 ローム土混土。黒色土少。縮りやや強, 粘性有。
4. 10YR 2/1 黒色土 ローム土混土。縮り有, 粘性やや有。
5. 10YR 2/1 黒色土 ローム粒少, ロームブロック (φ3~5mm) 微。縮り有, 粘性やや有。
6. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ3~5mm) 中。縮りやや弱, 粘性有。
7. 10YR 5/4 にぶい黄褐色土 ローム土主体。黒褐色土多 (30~40%) 縮り・粘性有。
8. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ3~5mm) 少。縮り・粘性有。

Pit028

1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒多 (20%), ロームブロック (φ3~5mm) 少。縮りやや弱, 粘性弱。
2. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒少。炭化物粒微。縮り有, 粘性やや有。
3. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム土・ローム粒多 (20%)。縮りやや弱, 粘性弱。
4. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム土・ロームブロック (φ5~10mm) 多 (20%)。縮りやや弱, 粘性弱。
5. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒微。縮り有, 粘性やや有。
6. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ3~7mm) 密。縮り弱, 粘性有。

Pit031

1. 10YR 2/1 黒色土 ローム粒少, ロームブロック (φ3~5mm) 微。縮り有, 粘性弱。
2. 10YR 3/3 暗褐色土 ロームブロック (φ3~10mm) 多 (40%)。縮り有, 粘性弱。
3. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒中。ローム土・ロームブロック (φ5~20mm) 多 (40%) 縮り有, 粘性やや有。

Pit029

1. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒微, ロームブロック (φ3~7mm) 少。縮り有, 粘性弱。
2. 10YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック (φ3~10mm) 多 (20%)。斑状の黒褐色土を全体に含む。縮り有, 粘性やや有。
3. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒微。斑状の黒褐色土をまばらに含む。縮りやや強, 粘性有。
4. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム土混土。黒色土ブロック (φ3~10mm) 多 (20%)。縮り有, 粘性やや有。
5. 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 ローム土混土。黒色土ブロック (φ3~5mm) 微。縮り・粘性有。
6. 10YR 3/3 暗褐色土 ロームブロック (φ3~7mm) 密。縮り・粘性有。
7. 10YR 5/4 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ3~7mm) 密。縮り・粘性有。

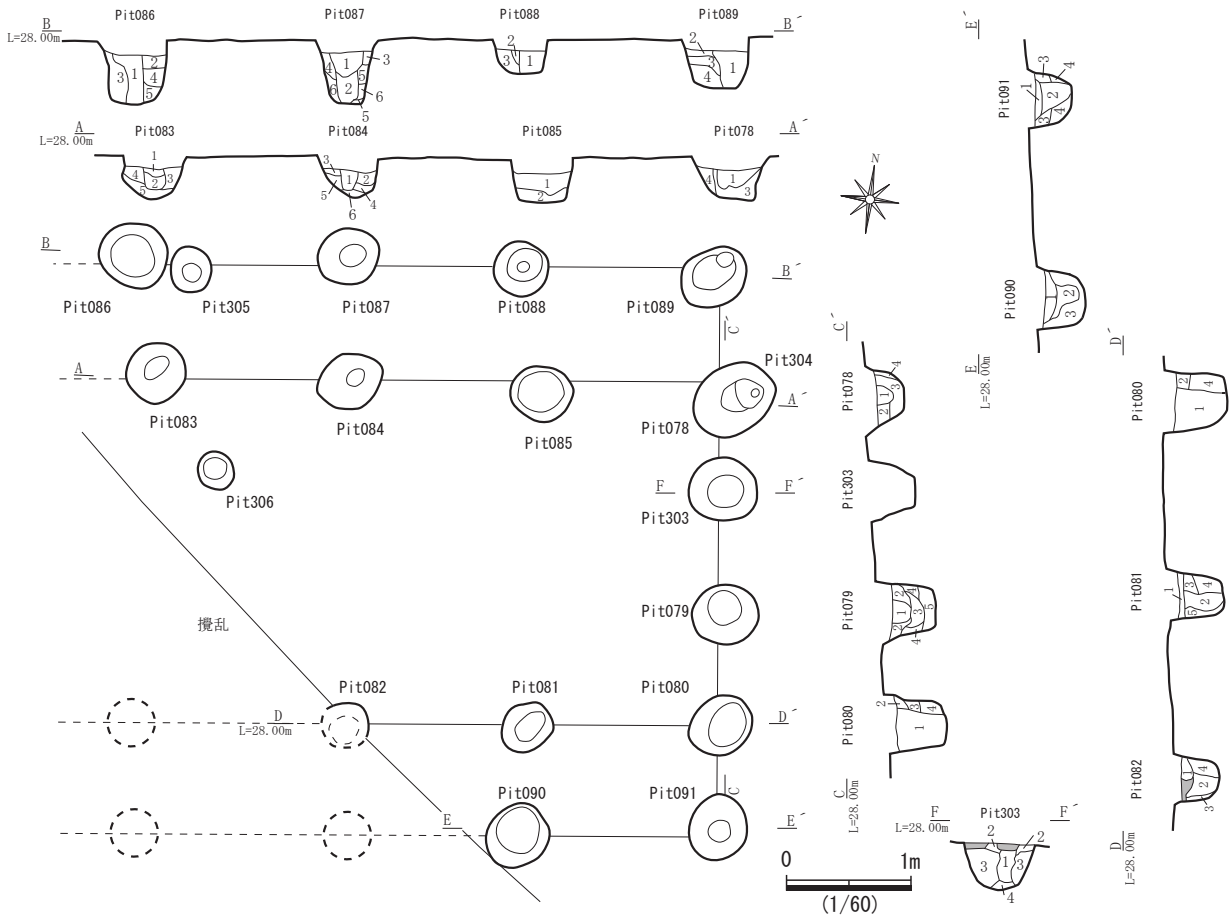
Pit030

1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒中, ロームブロック (φ3~5mm) 微。縮りやや弱, 粘性弱。
2. 10YR 3/2 黒褐色土 黒色土混土。ロームブロック (φ3~5mm) 少。縮り有, 粘性やや有。
3. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム土混土。縮りやや強, 粘性有。
4. 10YR 3/3 暗褐色土 ロームブロック (φ3~10mm) 中, 黒褐色土多 (20%) 縮り有, 粘性弱。
5. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒多 (40%), ロームブロック (φ3~7mm) 中。縮り有, 粘性弱。
6. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム土主体。黒褐色土多 (20%)。縮り・粘性有。
7. 10YR 5/4 にぶい黄褐色土 ローム土主体。黒褐色土多 (30~40%) 縮り・粘性有。
8. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 黒色土との混土。縮り・粘性有。
9. 10YR 6/6 明黄褐色土 ローム土主体。黒色土ブロック (φ5~10mm) 少。縮り・粘性有。

4. 10YR 4/4 褐色土 ローム粒土混土。縮り・粘性有。

第176図 SB06

第3章 調査の成果



Pit078. 304

1. 10YR 3/3 暗黄褐色土 ローム粒中, 黄色土・黄色粒少。締りやや弱, 粘性弱。
2. 10YR 3/2 黒褐色土 粘土・粘土粒多(20%)。締り有, 粘性やや有。
3. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒微。締り有, 粘性やや有。
4. 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(φ3~5mm)多(20%), 黄色ブロック(φ3~7mm)少。締り有, 粘性やや有。

Pit079

1. 10YR 2/1 黒色土 ローム粒中, ロームブロック(φ3~7mm)少, 黄色土微。締り有, 粘性弱。
2. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒少, ロームブロック(φ3~10mm)中。締り有, 粘性やや有。
3. 10YR 3/1 黒褐色土 ロームブロック(φ5~15mm)多(20%)。締り有, 粘性やや有。
4. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム土混土。締り有, 粘性やや有。
5. 10YR 4/6 褐色土 黄色ブロック(φ3~5mm)多(20%), 黒褐色土少。締り・粘性有。

Pit080

1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒・黄色土・粘土粒中, 黄色ブロック(φ3~7mm)微。締りやや弱, 粘性弱。
2. 10YR 4/2 灰黄褐色土 粘土ブロック(φ10~20mm)密。締り有, 粘性やや有。
3. 10YR 3/1 黒褐色土 粘土粒微。締りやや弱, 粘性弱。
4. 10YR 3/1 黒褐色土 粘土粒多(20%), 粘土ブロック(φ3~10mm)少。締りやや弱, 粘性弱。

Pit081

1. 10YR 4/2 灰黄褐色土 ローム粒・黄色粒少。締り有, 粘性弱。
2. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒・粘土粒多(20%), 粘土ブロック(φ3~20mm)中。締りやや強, 粘性有。
3. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 黄色粒中, 黄色土少。締り有, 粘性やや有。
4. 10YR 3/3 暗褐色土 黄色ブロック(φ3~5mm)多(20%)。締り有, 粘性やや有。
5. 10YR 3/3 暗褐色土 黄色ブロック(φ3~5mm)少, ロームブロック(φ3~5mm)中。締り有, 粘性やや有。

Pit082

1. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒・黄色粒少。締り有, 粘性弱。
2. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒・黄色粒少, 黄色ブロック(φ3~5mm)微。締り有, 粘性弱。
3. 10YR 3/3 暗褐色土 ロームブロック(φ3~5mm)多(20%), 黄色ブロック(φ3~5mm)少。締り有, 粘性やや有。
4. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(φ3~7mm)多(20%), 黄色ブロック(φ3~5mm)微。締り有, 粘性やや有。

Pit083

1. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック(φ3~5mm)少。締り・粘性弱。
2. 10YR 3/1 黒褐色土 ロームブロック(φ3~5mm)多(20%)。締りやや弱, 粘性弱。
3. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒・黄色粒少, ロームブロック(φ5~10mm)多(30~40%)。締り有, 粘性やや有。
4. 10YR 3/4 暗褐色土 ローム粒・黄色粒中。締り有, 粘性弱。
5. 10YR 4/4 褐色土 ローム土混土。締りやや強, 粘性有。

Pit084

1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒・黄色粒少。締りやや弱, 粘性弱。
2. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒少, ロームブロック(φ3~7mm)中。締り有, 粘性やや有。
3. 10YR 3/3 暗褐色土 ロームブロック(φ3~10mm)多(20%)。締り有, 粘性やや有。
4. 10YR 3/4 暗褐色土 ロームブロック(φ3~10mm)多(40%)。締り有, 粘性やや有。
5. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム土主体, 黒褐色土中。締り・粘性有。
6. 10YR 5/4 にぶい黄褐色土 ロームブロック(φ5~15mm)密。締りやや強, 粘性有。

Pit085

1. 10YR 3/1 黒褐色土 粘土混土, ロームブロック(φ3~7mm)少, 黄色粒微。締り有, 粘性やや有。
2. 10YR 4/4 褐色土 黄色粒中, 粘土粒少。締り・粘性有。

Pit086

1. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒中。締りやや弱, 粘性弱。
2. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒少, 黄色粒微。締り有, 粘性弱。
3. 10YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック(φ3~10mm)多(20%)。締り有, 粘性やや有。
4. 10YR 4/4 褐色土 ロームブロック(φ3~5mm)・黄色ブロック(φ3~5mm)中。締りやや弱, 粘性やや有。
5. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(φ3~7mm)多(20%), 黄色ブロック(φ3~7mm)少。締りやや弱, 粘性やや有。

Pit087

1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒少, ロームブロック(φ3~5mm)微。締りやや弱, 粘性弱。
2. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック(φ3~5mm)少。締り・粘性弱。
3. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(φ5~10mm)多(40%)。締り有, 粘性やや有。
4. 10YR 3/3 暗褐色土 ロームブロック(φ3~7mm)多(30~40%)。締り有, 粘性やや有。
5. 10YR 5/4 にぶい黄褐色土 ロームブロック(φ3~10mm)主体。締り・粘性有。
6. 10YR 3/1 にぶい黄褐色土 ロームブロック(φ3~10mm)密。締り有, 粘性やや有。

第177図 SB07

東側ではSB05と重複しPit027がPit059に、Pit028がPit058に切られている。したがって本建物跡は重複するSI22, SB05よりも古いと判断される。平面規格は東西2間, 南北2間の側柱構造建物跡である。柱筋の並びはほぼ揃っているが, 南北軸西側のPit032がやや外側に配置されている。規模は, 東西軸, 南北軸ともに3.90m(約13尺)となり, 面積は15.21㎡を計測する。東西を主軸として見た場合の建物の傾きはN-89°-Eを示す。各柱穴の掘り方は円形基調で, 規模は長軸56~77cm, 短軸50~60cm, 深さ30~68cmを測り, 平面形や底面の標高は一定していないが他の掘立柱建物跡の柱穴より大きめである。柱間寸法は芯々で, 1.70~2.20mでばらついている。埋め土はロームブロックを多く含有する黒褐色土, 暗褐色土, にぶい黄褐色土が互層堆積をなしている。柱痕跡はPit026~030で確認され, 径は13~20cm程で黒褐色土が主体である。底部硬化面はいずれの柱穴からも認められなかった。

遺物はPit028で土師器甕, 須恵器坏が出土しているが, いずれも小破片で, 時期は不明瞭であるが, SB05との重複関係から8世紀代中葉の頃であろうか。

第9表 SB06 柱穴一覧表

遺構名	位置 (グリッド)	形状	規模(cm)			重複・覆土・特徴・その他	出土遺物	備考
			長軸	短軸	深さ			
Pit026	O17	円形	66	59	63	5層。柱痕有。	縄:深鉢1	
Pit027	O17	円形	59	55	67	SB05・Pit059に切られる。8層。柱痕有。	なし	
Pit028	O17	(円形)	56	(56)	68	SB05・Pit058に切られる。6層。柱痕有。	縄:深鉢4, 土:甕3, 須:坏1	
Pit029	P17	楕円形	77	60	58	7層。柱痕有。	縄:深鉢3	
Pit030	P17	円形	64	56	62	9層。柱痕有。	なし	
Pit031	P17	円形	63	56	42	4層。	なし	
Pit032	P17	楕円形	63	50	30	単層, 10YR3/1黒褐色土:ロームブロック多。	なし	

SB07 (第177・187図, 第10・26表, 写真図版21・22・52)

検出位置はB区N20グリッドである。本建物跡はPit078~091・303・304が検出されており, 南西隅が攪乱によって消失しているため確認できなかったが, さらに西側へ延びると想定される。現存する平面規格は, 桁行3間, 梁行3間の廂付掘立柱建物跡で, 桁行の南北双方約0.90m(3尺)外側に廂を有する。現存する規模は, 桁行4.80m(約16尺), 梁行は身舎部分で3.60m(約12尺), 廂を含めると4.50m(約15尺)となり, 面積は21.60㎡を計測する。建物の傾きはN-84°-Eを示す。各柱穴の掘り方は円形基調で, 身舎部分の柱穴はPit078~085・303・304の10基, 廂部分の柱穴はPit086~091の6基が検出されている。規模は身舎部分で長軸40~57cm, 短軸40~49cm, 深さ30~48cmを測り, 平面形や底面の標高は一定していない。一方, 廂部分は長軸43~57cm, 短軸43~52, 深さ33~64cmで, 身舎部分との差はあまり認められない。柱間寸法は芯々で, 桁行が1.50~1.80m, 梁行が0.90mである。桁行ではPit083~084間がやや広く, 廂側の柱間寸法もほぼ一

SB07 土層説明

Pit088

- 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒・黄色粒中, 黄色ブロック(φ3~5mm)微。縮り有, 粘性弱。
- 10YR 6/6 明黄褐色土 ロームブロック主体。縮りやや強, 粘性やや有。
- 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 黄色土混土。縮り・粘性有。

Pit089

- 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒微。斑状の灰黄褐色土を全体に含む。縮り有, 粘性弱。
- 10YR 4/2 灰黄褐色土 ローム粒・黄色粒少, ロームブロック(φ5~10mm)多(20%)。縮り有, 粘性弱。
- 10YR 4/6 褐色土 黄色土混土。縮り有, 粘性やや有。
- 10YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック(φ3~10mm)多(40%), 黄色粒少。縮り・粘性有。

Pit090

- 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒・黄色粒少。縮り有, 粘性弱。
- 10YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック(φ3~5mm)少, 黄色ブロック(φ5~10mm)微。縮りやや弱, 粘性弱。
- 10YR 4/4 褐色土 ロームブロック(φ3~5mm)多(40%), 黄色ブロック(φ3~10mm)少。縮り有, 粘性やや有。

Pit091

- 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒少。縮り有, 粘性弱。
- 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒少, ロームブロック(φ3~5mm)少, 黄色ブロック(φ3~5mm)微。斑状の灰黄褐色土を全体に含む。縮り有, 粘性弱。
- 10YR 3/4 暗褐色土 ローム粒・黄色粒中, ロームブロック(φ3~10mm)多(20%)。縮り有, 粘性やや有。
- 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(φ3~15mm)多(20%)。縮り・粘性有。

Pit303

- 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒・黄色粒少。縮り有, 粘性弱。
- 10YR 3/4 暗褐色土 ローム粒・黄色ブロック(φ3~5mm)微。縮り有, 粘性弱。
- 10YR 3/3 暗褐色土 ロームブロック(φ3~10mm)多(20%)。縮り有, 粘性やや有。
- 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(φ5~10mm)多(40%), 黄色粒少。縮りやや強, 粘性有。

第3章 調査の成果

致しているが、若干西側にずれている。一方、梁行ではほぼ等間隔で、かなり密な配置である。埋め土は、鹿沼層を掘り込んで構築されている関係から、ロームブロックとともに鹿沼軽石を多く含有した黒褐色土、暗褐色土、褐色土、にぶい黄褐色土が互層堆積をなしている。柱痕跡はPit080・085以外で確認され、径は12～26 cm程で黒褐色土が主体である。底部硬化面はいずれの柱穴からも認められなかった。

遺物はPit078～081・084～087・089・091から出土した。土師器は甕のみであるが、須恵器は坏、高台付坏、蓋が認められ、蓋の形態などから時期は9世紀前半の頃と考えられる。

第10表 SB07 柱穴一覧表

遺構名	位置 (グリッド)	形状	規模(cm)			重複・覆土・特徴・その他	出土遺物	備考
			長軸	短軸	深さ			
Pit078	N20	(円形)	52	(52)	32	Pit304を切る。4層。身舎柱穴。	土:甕5	
Pit079	N20	円形	55	49	45	5層。身舎柱穴。	土:甕4, 須:蓋1	
Pit080	N20	円形	50	44	48	4層。柱痕有。身舎柱穴。	土:甕3	
Pit081	N20	円形	44	40	43	5層。柱痕有。身舎柱穴。	須:坏1	
Pit082	N20	円形	40	40	36	4層。柱痕有。身舎柱穴。	なし	
Pit083	N20	円形	49	49	33	5層。柱痕有。身舎柱穴。	なし	
Pit084	N20	楕円形	55	44	29	6層。柱痕有。身舎柱穴。	土?:甕?1	
Pit085	N20	円形	52	43	30	2層。身舎柱穴。	土?:甕?1	
Pit086	N20	円形	56	50	57	5層。柱痕有。廂柱穴。	須:高台付坏1	
Pit087	N20	円形	51	45	45	6層。柱痕有。廂柱穴。	土:甕3, 須:坏1・蓋1	
Pit088	N20	円形	43	43	33	3層。柱痕有。廂柱穴。	なし	
Pit089	N20	楕円形	57	45	64	4層。柱痕有。廂柱穴。	土:甕3	
Pit090	N20	円形	55	48	42	3層。柱痕有。廂柱穴。	なし	
Pit091	N20	円形	54	48	35	4層。柱痕有。廂柱穴。	土:甕2	
Pit303	N20	円形	57	52	39	4層。柱痕有。身舎柱穴。	なし	
Pit304	N20	(円形)	50	(50)	36	SB07・Pit078の掘替え柱穴か。	なし	

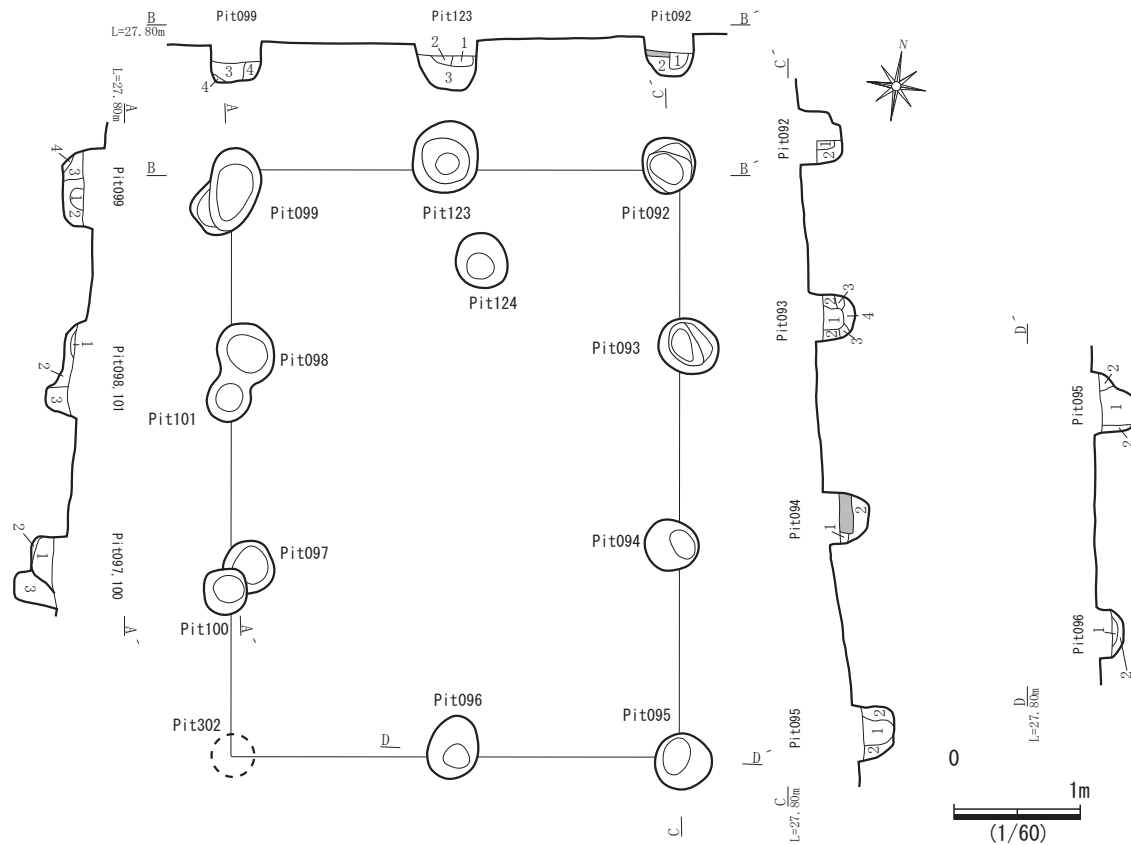
SB08 (第178・187図, 第11・26表, 写真図版21・22・52)

検出位置はB区N21, O21グリッドである。本建物跡はPit092～099・123・302の10基が検出される。Pit302は、南西隅が攪乱によって大部分が消失していた。Pit100はPit097, Pit101はPit098によって切り込まれている。さらに重複は認められないがPit097～099など不自然な広がりがあることから、建て替えが行われた可能性がある。平面規格は側柱構造の建物跡で、桁行3間、梁行2間の南北棟である。規模は、桁行4.65 m (約15.5尺)、梁行は身舎部分で3.60 m (約12尺)となり、面積は16.74 m²を計測する。建物の傾きはN-10°-Wを示す。各柱穴の掘り方は円形基調で、規模は長軸38～67 cm、短軸38～55 cm、深さ22～49 cmを測り、平面形や底面の標高は一定していない。柱間寸法は芯々で、桁行が1.30～1.75 mとばらつきがあるのに対し、梁行は1.80 mで等間隔である。埋め土は、暗褐色土、褐色土を主体とし、ブロック状の含有物は少ない。柱痕跡はPit092・093のみで確認され、径は15～20 cm程で黒褐色土が主体である。底部硬化面はいずれの柱穴からも認められなかった。

遺物はPit093・094・098・099・123から出土した。土師器は甕類、須恵器は坏類で占められ、図示した須恵器坏1の形態を重視した場合、時期は9世紀第2四半期～第3四半期と考えられる。

第11表 SB08 柱穴一覧表

遺構名	位置 (グリッド)	形状	規模(cm)			重複・覆土・特徴・その他	出土遺物	備考
			長軸	短軸	深さ			
Pit092	N21	円形	44	43	40	2層。柱痕有。	なし	
Pit093	N21	円形	48	43	35	4層。柱痕有。	土:甕1	
Pit094	N21	円形	44	40	36	2層。上部攪乱広範囲。	須:坏2	
Pit095	O21	円形	45	44	38	2層。柱痕有。	なし	
Pit096	O21	楕円形	50	40	25	2層。	なし	
Pit097	N21	円形	43	43	32	SB08・Pit100掘替え柱穴か。2層。	なし	
Pit098	N21	円形	38	36	28	SB08・Pit101掘替え柱穴か。2層。	須:坏1	
Pit099	N21	楕円形	67	45	35	4層。	土:甕2	
Pit123	N21	円形	60	55	49	3層。	土:甕4	
Pit302	O21	—	—	—	—	北西隅確認。大部分攪乱で全容不明。	なし	



- Pit092**
- 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ3~5mm) 多 (20%) 黄色粒・黄色ブロック (φ3~7mm) 少。縮りやや弱, 粘性弱。
 - 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ3~7mm) 多 (40%), 黄色土・黄色粒中。縮り有, 粘性やや有。
- Pit093**
- 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒・黄色粒少, 斑状の褐色土を全体に含む。縮り有, 粘性弱。
 - 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ3~10mm) 少。縮り有, 粘性やや有。
 - 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ3~5mm)・黄色ブロック (φ10~20mm) 密。縮りやや強, 粘性やや有。
 - 10YR 4/4 褐色土 黄色粒微, 黒褐色土少。縮りやや強, 粘性有。
- Pit094**
- 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒・黄色粒微。縮り有, 粘性やや有。
 - 10YR 4/4 褐色土 ロームブロック (φ3~7mm) 少, 黄色粒・黄色ブロック (φ3~5mm) 微。縮り・粘性有。
- Pit095**
- 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒・黄色粒微。斑状の褐色土を全体に含む。縮り有, 粘性弱。
 - 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ3~5mm) 少, 黄色粒・黄色ブロック (φ3~5mm) 微。縮り有, 粘性やや有。
- Pit096**
- 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒微。縮り有, 粘性弱。
 - 10YR 4/4 褐色土 ロームブロック (φ3~5mm) 少, 黄色ブロック (φ3~5mm) 微。縮り有, 粘性やや有。

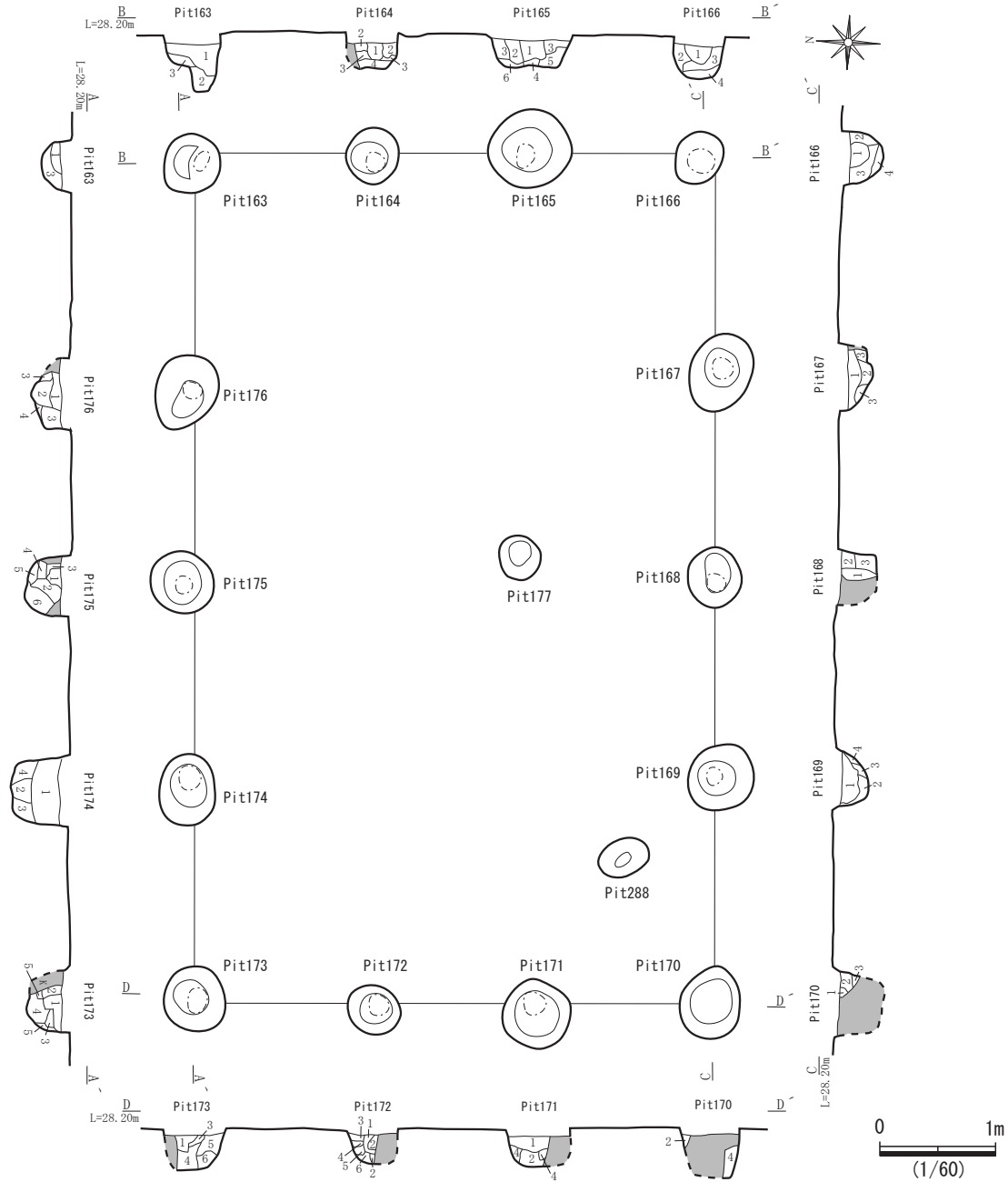
- Pit097**
- 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒少, ロームブロック (φ3~5mm) 微。縮りやや弱, 粘性弱。
 - 10YR 4/4 褐色土 ロームブロック (φ3~5mm) 微。縮り有, 粘性やや有。
 - 10YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック (φ3~7mm) 少。斑状の褐色土を全体に含む。縮り有, 粘性弱。
- Pit098**
- 10YR 3/3 暗褐色土 ロームブロック (φ3~5mm) 微。縮り有, 粘性弱。
 - 10YR 4/4 褐色土 ロームブロック (φ3~5mm) 少。縮り有, 粘性やや有。
 - 10YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック (φ3~7mm) 少, 黄色ブロック (φ3~15mm) 微。縮り有, 粘性弱。
- Pit099**
- 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒少, 斑状の褐色土を全体に含む。縮り有, 粘性弱。
 - 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 黒褐色土多 (20~30%)・黄色土多 (20%) 微。縮り有, 粘性やや有。
 - 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒微, 斑状の褐色土を全体に含む。縮り有, 粘性弱。
 - 10YR 4/4 褐色土 黄色ブロック (φ3~7mm) 少。縮り有, 粘性やや有。
- Pit123**
- 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒・黄色粒多 (20%), 黄色ブロック (φ3~7mm) 中。縮り有, 粘性弱。
 - 10YR 3/3 暗褐色土 ロームブロック (φ3~10mm) 少, 斑状の褐色土を全体に含む。縮り有, 粘性やや有。
 - 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒中, ロームブロック (φ3~7mm) 少。縮り有, 粘性やや有。

第 178 図 SB08

SB09 (第 179 図, 第 12 表, 写真図版 22)

検出位置はB区 I 23・24, J 23・24 グリッドである。本建物跡はPit163~176の14基で構成される。平面規格は側柱構造の建物跡で、桁行4間、梁行3間の東西棟である。規模は、桁行7.20m (約24尺)、梁行4.50m (約15尺) となり、面積は32.40㎡を計測する。建物の傾きはN-87°-Eを示す。各柱穴の掘り方は円形基調で、規模は長軸47~69cm、短軸40~67cm、深さ28~50cmを測り、平面形及び底面の標高はかなりばらつきが認められる。柱間寸法は芯々で、桁行が1.80m、梁行が1.50mとほぼ等間隔である。埋め土は攪乱の影響からか、ロームブロックを多く含んだ黒褐色土、暗褐色土、にぶい黄褐色土が入り乱れた状態であった。柱痕跡はPit164・165・167・169・174・176で確認され、

第3章 調査の成果



Pit163

1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒少。縮りやや弱、粘性弱。
2. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム土・ロームブロック (φ3~10mm) 中。縮り・粘性弱。
3. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ3~10mm) 密。縮り有、粘性やや有。

Pit164

1. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒中、ロームブロック (φ3~5mm) 少。縮りやや弱、粘性弱。
2. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム土混土。縮り有、粘性やや有。
3. 10YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック (φ5~10mm) 多 (20%)。縮り有、粘性やや有。
4. 10YR 3/1 黒褐色土 ロームブロック (φ3~10mm) 中、炭化物塊 (φ5~10mm) 微。縮りやや強、粘性有。

Pit165

1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒中、炭化物塊 (φ3~7mm) 微。斑状の褐色土をまばらに含む。縮りやや弱、粘性弱。
2. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒・炭化物粒微、ロームブロック (φ3~7mm) 少。縮り有、粘性弱。
3. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム土多 (40%)。縮り有、粘性やや有。
4. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム土・ロームブロック (φ5~10mm) 多 (40%)、炭化物粒微。縮り強、粘性やや有。
5. 10YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック (φ5~15mm) 多 (20%)、炭化物塊 (φ5~10mm) 微。縮り・粘性有。
6. 10YR 4/4 褐色土 ロームブロック (φ5~15mm) 密。縮り・粘性有。

Pit166

1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒少、ロームブロック (φ3~5mm) 微。縮りやや弱、粘性弱。
2. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム土・ローム粒中。縮りやや弱、粘性弱。
3. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ3~5mm) 中。縮り有、粘性やや有。
4. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒中、ロームブロック (φ3~5mm) 少、炭化物粒微。縮り強、粘性有。

Pit170

1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ3~7mm) 少。縮り有、粘性弱。
2. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒微、炭化物塊 (φ3~5mm) 少。縮り有、粘性弱。
3. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム土主体。黒色粒少。縮り有、粘性やや有。
4. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒多 (20%)、ロームブロック (φ3~5mm) 微。縮り有、粘性やや有。

Pit171

1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒多 (20%)、ロームブロック (φ3~5mm)・炭化物粒微。縮り有、粘性弱。
2. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム土少、炭化物粒微。縮り有、粘性弱。
3. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム土主体。炭化物塊 (φ10mm) 少。縮り有、粘性やや有。
4. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ3~5mm) 中、斑状の褐色土を全体に含む。縮り有、粘性やや有。

第179図 SB09

径は18～22cm程で黒褐色土が主体である。底部硬化面は攪乱で確認できないPit170以外、全柱穴で認められた。Pit167・176は地山を掘り抜いての構築である。

遺物はPit167からのみ須恵器坏1点が出土した。小破片のため時期は不明瞭である。

SB09 ピット土層説明

- | | |
|---|---|
| <p>1. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒中、ロームブロック(φ3～7mm)少。縮りやや弱、粘性弱。</p> <p>2. 10YR 4/2 灰黄褐色土 ローム粒少、ロームブロック(φ3～5mm)微。縮り有、粘性弱。</p> <p>3. 10YR 3/3 暗褐色土 ロームブロック(φ3～10mm)中。縮り有、粘性やや有。</p> <p>4. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム土主体。黒褐色土少。縮り有、粘性やや有。</p> <p>5. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム土混土。縮り有、粘性やや有。</p> <p>6. 10YR 5/4 にぶい黄褐色土 ローム土主体。黒褐色土多(20%)。縮り・粘性有。</p> <p>Pit173</p> <p>1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒中、ロームブロック(φ3～5mm)少、炭化物粒微。縮りやや弱、粘性弱。</p> <p>2. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(φ3～5mm)多(20%)。縮り有、粘性弱。</p> <p>3. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム土主体。炭化物粒微。縮り有、粘性やや有。</p> <p>4. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒少、ロームブロック(φ3～7mm)多(20～30%)。炭化物粒微。縮り有、粘性弱。</p> <p>5. 10YR 3/3 暗褐色土 ロームブロック(φ3～7mm)多(30～40%)。縮り有、粘性やや有。</p> <p>6. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム土・ロームブロック(φ3～7mm)多(40%)。縮り有、粘性やや有。</p> <p>Pit174</p> <p>1. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒少、ロームブロック(φ3～7mm)・炭化物粒微。縮りやや弱、粘性弱。</p> <p>2. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒少、ロームブロック(φ3～7mm)・炭化物粒微。縮り・粘性弱。</p> | <p>3. 10YR 3/1 黒褐色土 ロームブロック(φ3～5mm)多(30～40%)。縮り有、粘性やや有。</p> <p>4. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(φ3～7mm)密。縮り有、粘性やや有。</p> <p>Pit175</p> <p>1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒少、炭化物塊(φ5～15mm)多(20%)。縮り有、粘性弱。</p> <p>2. 10YR 3/3 暗褐色土 ロームブロック(φ3～15mm)中、炭化物粒微。縮り有、粘性やや有。</p> <p>3. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(φ5～15mm)密。縮り有、粘性やや有。</p> <p>4. 10YR 4/6 褐色土 ローム土・ロームブロック(φ10～20mm)密。縮り有、粘性やや有。</p> <p>5. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(φ5～15mm)多(40%)、黒色土中。縮り有、粘性やや有。</p> <p>6. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(φ5～20mm)密。縮り有、粘性やや有。</p> <p>Pit176</p> <p>1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒中、炭化物塊(φ3～7mm)少。縮り有、粘性弱。</p> <p>2. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム土・ロームブロック(φ3～5mm)中、炭化物粒微。縮り有、粘性弱。</p> <p>3. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム土・ロームブロック(φ5～15mm)多(40%)。縮り有、粘性やや有。</p> <p>4. 10YR 3/1 黒褐色土 ロームブロック(φ3～5mm)多(20%)。縮り有、粘性やや有。</p> |
|---|---|

第12表 SB09 柱穴一覧表

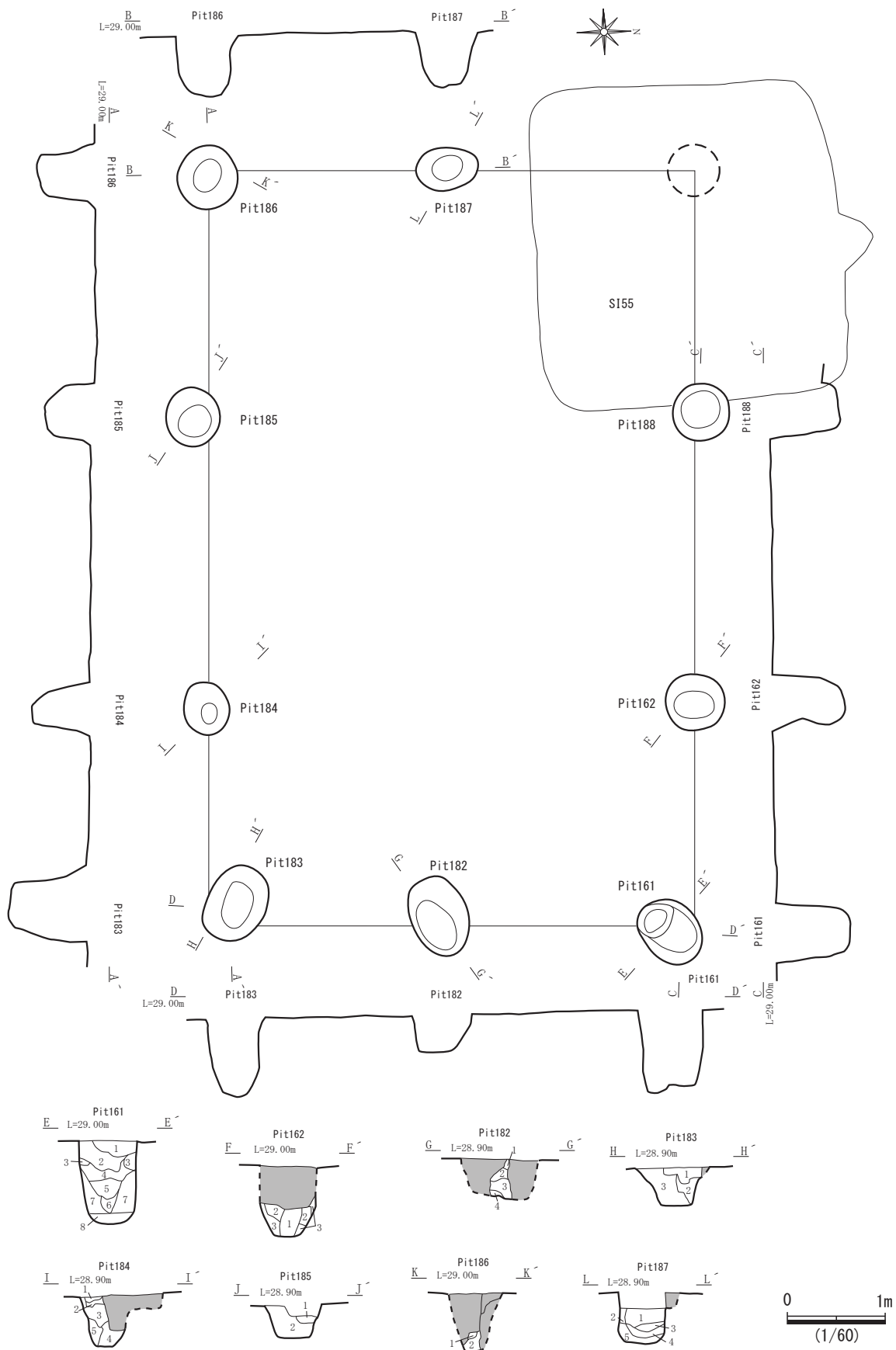
遺構名	位置 (グリッド)	形状	規模(cm)			重複・覆土・特徴・その他	出土遺物	備考
			長軸	短軸	深さ			
Pit163	I24	円形	54	47	50	3層。柱痕有。	なし	
Pit164	I24	円形	47	45	28	4層。柱痕有。	なし	
Pit165	J24	円形	75	67	28	6層。	なし	
Pit166	J24	円形	47	40	38	4層。	なし	
Pit167	J24	楕円形	69	53	30	3層。	須:坏1	
Pit168	J23	円形	52	48	36	3層。攪乱広範囲。	なし	
Pit169	J23	円形	62	57	30	4層。	なし	
Pit170	J23	円形	64	53	30	3層。攪乱広範囲。	なし	
Pit171	J23	円形	60	60	31	4層。柱痕有。	なし	
Pit172	I23	円形	45	43	32	6層。攪乱広範囲。	なし	
Pit173	I23	円形	58	55	37	6層。	なし	
Pit174	I23	楕円形	62	45	49	4層。柱痕有。	なし	
Pit175	I23	円形	53	53	39	6層。	なし	
Pit176	I24	楕円形	67	50	35	2層。	なし	

SB10 (第180・187図, 第13・26表, 写真図版22・52)

検出位置はB区J24・25, K24・25グリッドである。本建物跡はPit161・162・182～188の9基が検出される。本来は10基で構成されたと思われるが、北西隅の1基はSI55構築時に消失したとみられる。平面規格は側柱構造の建物跡で、桁行3間、梁行2間の東西棟である。規模は桁行7.50m(約25尺)、梁行4.80m(約16尺)となり、面積は36.00㎡を計測する。建物の傾きはN-1°-Wを示す。各柱穴の掘り方は円形基調であるが、東側隅の柱穴Pit161・183は楕円形状でハの字に傾いている。規模は長軸55～84cm、短軸44～61cm、深さ39～86cmを測る。形状、規模ともかなりばらつきが認められ、底面の標高も一定していないが、本調査区で検出された掘立柱建物跡の柱穴としては大型である。柱間寸法は、芯々で桁行が2.00～3.00m、梁行が2.40m、梁行はほぼ等間隔であるが、桁行は中間のPit184・185間、Pit162・188間がともに間隔が大きい。埋め土は、ロームブロックを多く含んだ黒褐色土を主体とし、暗褐色土、にぶい黄褐色土が複雑に堆積している。柱痕跡はPit162・185で認められ、径は18～20cm程で黒色土、黒褐色土が主体である。底部硬化面はいずれの柱穴からも確認されなかった。

遺物はPit161・183・186から須恵器のみが出土した。須恵器坏1はPit186からの出土である。時期は9世紀第2四半期～第3四半期と考えられる。

第3章 調査の成果



第180図 SB10

SB10 ビット土層説明

Pit161

1. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック(φ3~10mm)中,炭化物粒微。縮り有,粘性弱。
2. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒少,炭化物粒中,ロームブロック(φ3~15mm)多(20%)。縮り有,粘性弱。
3. 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(φ10~20mm)密。縮り有,粘性やや有。
4. 10YR 3/3 暗褐色土 ロームブロック(φ5~30mm)密。縮りやや強,粘性やや有。
5. 10YR 3/3 暗褐色土 ロームブロック(φ3~10mm)中。縮り有,粘性弱。
6. 10YR 3/3 暗褐色土 ロームブロック(φ3~7mm)多(20%)。縮り有,粘性弱。
7. 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(φ3~7mm)多(20~30%)。縮り・粘性有。
8. 10YR 3/1 黒褐色土 ロームブロック(φ3~10mm)多(20%)。縮り有,粘性やや有。

Pit162

1. 10YR 2/1 黒色土 ローム粒中,ロームブロック(φ3~7mm)微。縮りやや弱,粘性弱。
2. 10YR 3/1 黒褐色土 ロームブロック(φ3~10mm)少。縮り有,粘性弱。
3. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム土混土。縮り有,粘性やや有。

Pit182

1. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒中,ロームブロック(φ3~5mm)少。縮りやや弱,粘性弱。
2. 10YR 3/1 黒褐色土 ロームブロック(φ3~5mm)中。縮り有,粘性弱。
3. 10YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック(φ3~7mm)多(20~30%),炭化物粒微。縮り有,粘性やや有。
4. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(φ5~10mm)密。縮りやや強,粘性有。

Pit183

1. 10YR 3/3 暗褐色土 ロームブロック(φ3~15mm)多(20%),炭化物粒少。縮り有,粘性弱。
2. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒中。縮りやや弱,粘性弱。
3. 10YR 4/4 褐色土 ローム土混土。縮り有,粘性やや有。

Pit184

1. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム土主体。縮り有,粘性やや有。
2. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒少,炭化物粒・ロームブロック(φ3~7mm)微。縮り有,粘性弱。
3. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒中,炭化物粒・ロームブロック(φ3~5mm)少。縮り有,粘性弱。
4. 10YR 3/1 暗褐色土 炭化物粒・ロームブロック(φ3~10mm)少。縮り有,粘性やや有。
5. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(φ3~10mm)多(20~30%)。縮り・粘性有。

Pit185

1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒少,炭化物粒・ロームブロック(φ3~5mm)微。縮り有,粘性弱。
2. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(φ3~10mm)多(40%),炭化物粒少。縮りやや強,粘性有。

Pit186

1. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム土主体。縮り有,粘性やや有。
2. 10YR 4/4 褐色土 ロームブロック(φ5~10mm)多(40%)。縮り・粘性有。

Pit187

1. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック(φ3~10mm)中,黒色ブロック(φ3~10mm)少,炭化物粒微。縮り有,粘性弱。
2. 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 黒褐色土とローム土の混土。黒色ブロック(φ3~10mm)少。縮り有,粘性やや有。
3. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒少,黒色ブロック(φ5~7mm)微。縮り有,粘性弱。
4. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム土主体。炭化物粒微,黒色ブロック(φ3~7mm)少。縮り有・粘性有。
5. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム土混土。黒色ブロック(φ3~7mm)中。縮り・粘性有。

第13表 SB10 柱穴一覧表

遺構名	位置 (グリッド)	形状	規模(cm)			重複・覆土・特徴・その他	出土遺物	備考
			長軸	短軸	深さ			
Pit161	J25	楕円形	73	56	86	8層。	須:坏1	
Pit162	J24	円形	62	57	74	3層。柱痕有。上部攪乱広範囲。	なし	
Pit182	K25	楕円形	84	58	39	4層。攪乱広範囲。	なし	
Pit183	K25	楕円形	81	61	81	3層。平面形やや長方形。	須:糞1	
Pit184	K24	円形	55	46	64	5層。	なし	
Pit185	K24	円形	57	57	51	2層。	なし	
Pit186	K24	円形	68	60	62	2層。	須:坏1	
Pit187	K24	楕円形	63	44	54	5層。	なし	
Pit188	J24	円形	60	57	68	SI55に切られる。上部攪乱広範囲。	なし	

SB11 (第181・187図, 第14・25表, 写真図版22・52)

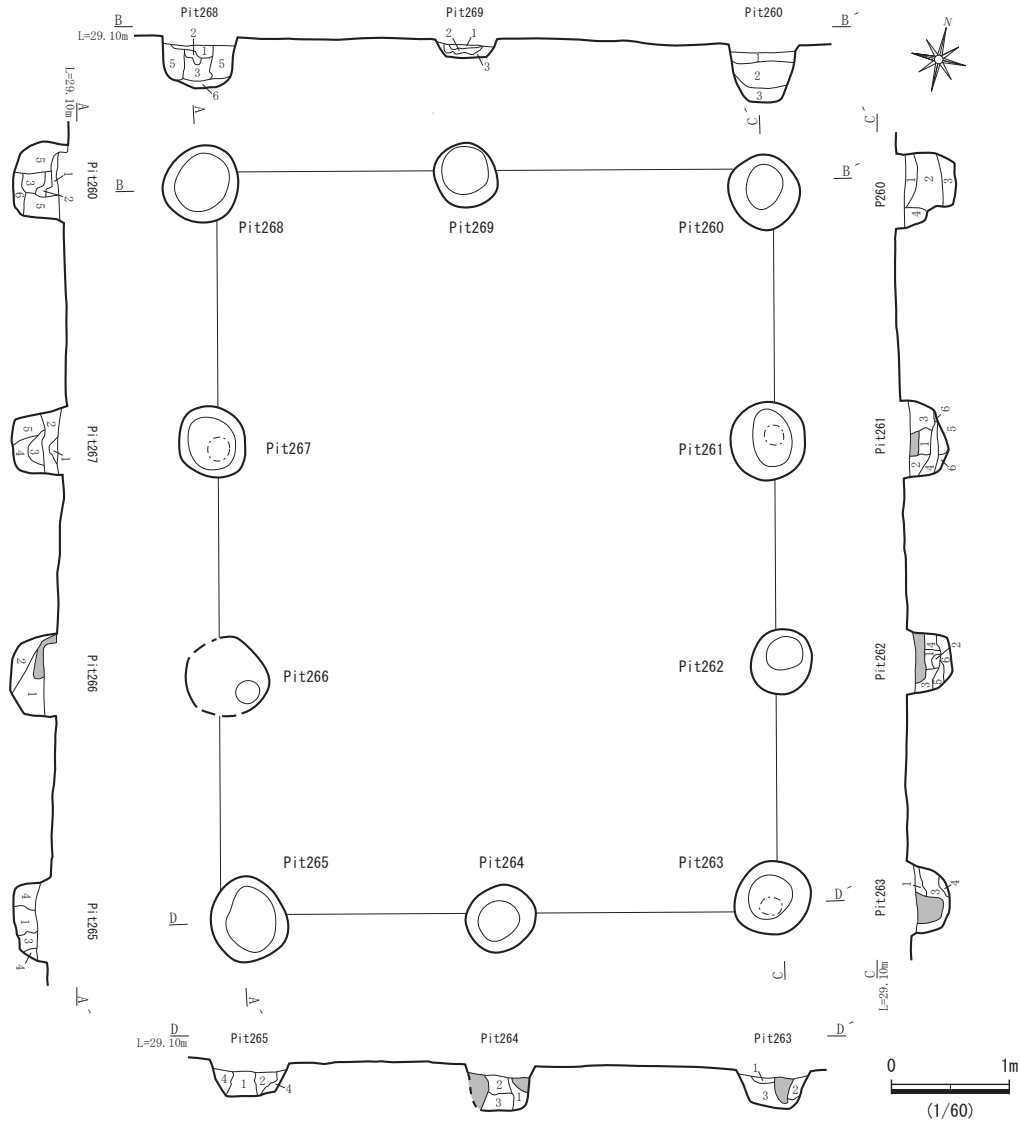
検出位置はB区D30グリッドである。本建物跡はPit260~269の10基で構成される。平面規格は側柱構造の建物跡で,桁行3間,梁行2間の南北棟である。規模は桁行6.00m(約20尺),梁行4.50m(約15尺)となり,面積は27.00㎡を計測する。建物の傾きはN-17°-Wを示す。各柱穴の掘り方は円形基調で,規模は長軸55~74cm,短軸53~66cm,深さ16~49cmを測る。平面形や底面の標高は一定していない。柱間寸法は,芯々で桁行が2.00m,梁行が2.25mで等間隔である。埋め土は,ロームブロックを多く含んだ黒褐色土,暗褐色土を主体としている。柱痕跡は明瞭に確認できるものはなかった。底部硬化面はPit261・263・267で認められた。

遺物はPit262・267からのみ出土している。Pit267では弥生時代壺の破片と考えられる破片1~3が認められるが,土師器坏の小破片も混在しており,時期は不明瞭である。

第14表 SB11 柱穴一覧表

遺構名	位置 (グリッド)	形状	規模(cm)			重複・覆土・特徴・その他	出土遺物	備考
			長軸	短軸	深さ			
Pit260	D30	円形	64	62	49	4層。	なし	
Pit261	D30	円形	67	61	41	6層。柱痕有。	なし	
Pit262	D30	円形	56	53	39	6層。柱痕有。	土?:糞?1	
Pit263	D30	円形	69	63	37	4層。	なし	
Pit264	D30	円形	60	59	47	3層。	なし	
Pit265	D30	円形	74	63	30	4層。	なし	
Pit266	D30	円形	71	66	42	2層。	なし	
Pit267	D30	円形	67	58	45	5層。	弥:壺10,土:坏2	
Pit268	D30	円形	66	63	36	6層。柱痕有。	なし	
Pit269	D30	円形	55	55	16	3層。	なし	

第3章 調査の成果



SB11 ビット土層説明

Pit260

1. 10YR 4/4 褐色土 ロームブロック (φ3~5mm)・黒色粒微。縮りやや弱, 粘性弱。
2. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム土・ロームブロック (φ3~5mm) 密。縮りやや弱, 粘性弱。
3. 10YR 3/3 暗褐色土 ロームブロック (φ3~5mm) 多 (20%), 黒色ブロック (φ3~5mm) 微。縮り有, 粘性弱。

Pit261

1. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒少, ロームブロック (φ3~5mm) 微。縮りやや弱, 粘性弱。
2. 10YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック (φ3~10mm) 多 (30~40%)。縮り有, 粘性やや有。
3. 10YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック (φ3~7mm) 微。縮り有, 粘性やや有。
4. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム土・ロームブロック主体。縮りやや強, 粘性有。
5. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ5~10mm) 多 (40%)。縮りやや強, 粘性有。
6. 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ3~10mm) 中。縮り・粘性有。

Pit262

1. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒少, 炭化物粒微。縮り有, 粘性弱。
2. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ3~7mm) 中。縮り有, 粘性やや有。
3. 10YR 3/3 暗褐色土 ロームブロック (φ3~7mm) 中, 炭化物粒微。縮り有, 粘性弱。
4. 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ5~10mm) 密。縮り・粘性有。
5. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒少, ロームブロック (φ3~5mm) 多 (20%)。縮り有, 粘性やや有。
6. 10YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック (φ5~10mm) 密。縮りやや強, 粘性有。

Pit263

1. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム土主体。縮り有, 粘性やや有。
2. 10YR 3/3 暗褐色土 ロームブロック (φ3~7mm) 多 (20~30%)。縮り有, 粘性やや有。
3. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム土混土。黒色粒微。縮り有, 粘性やや有。
4. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ10~20mm) 密。縮り・粘性有。

Pit264

1. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒少。斑状の褐色土を全体に含む。縮り有, 粘性やや有。
2. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒中, ロームブロック (φ3~7mm) 少。縮り有, 粘性やや有。
3. 10YR 4/4 褐色土 ロームブロック (φ5~10mm) 多 (40%)。縮り・粘性有。

Pit265

1. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒中, ロームブロック (φ3mm) 少。縮りやや弱, 粘性弱。
2. 10YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック (φ3~5mm) 多 (20%), 炭化物粒微。縮り有, 粘性やや有。
3. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム土混土。炭化物粒微。縮り有, 粘性やや有。
4. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム土主体。粒状粗。縮りやや弱, 粘性弱。

Pit266

1. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒少。縮りやや弱, 粘性弱。
2. 10YR 3/3 暗褐色土 ロームブロック (φ3~10mm) 少。縮りやや強, 粘性有。

第 181 図 SB11

SB11 ピット土層説明

Pit267

- 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒少, ロームブロック (φ3~7mm) 多 (20%)。縮り有, 粘性弱。
- 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ3~10mm) 中, 黒色ブロック (φ3~7mm) 微。縮り有, 粘性やや有。
- 10YR 3/1 黒褐色土 ロームブロック (φ3~15mm) 多 (20%), 炭化物粒微。縮り・粘性有。
- 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ5~10mm) 多 (40%)。縮り・粘性有。
- 10YR 5/4 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ5~10mm) 多 (20~30%)。縮り有, 粘性やや有。

Pit268

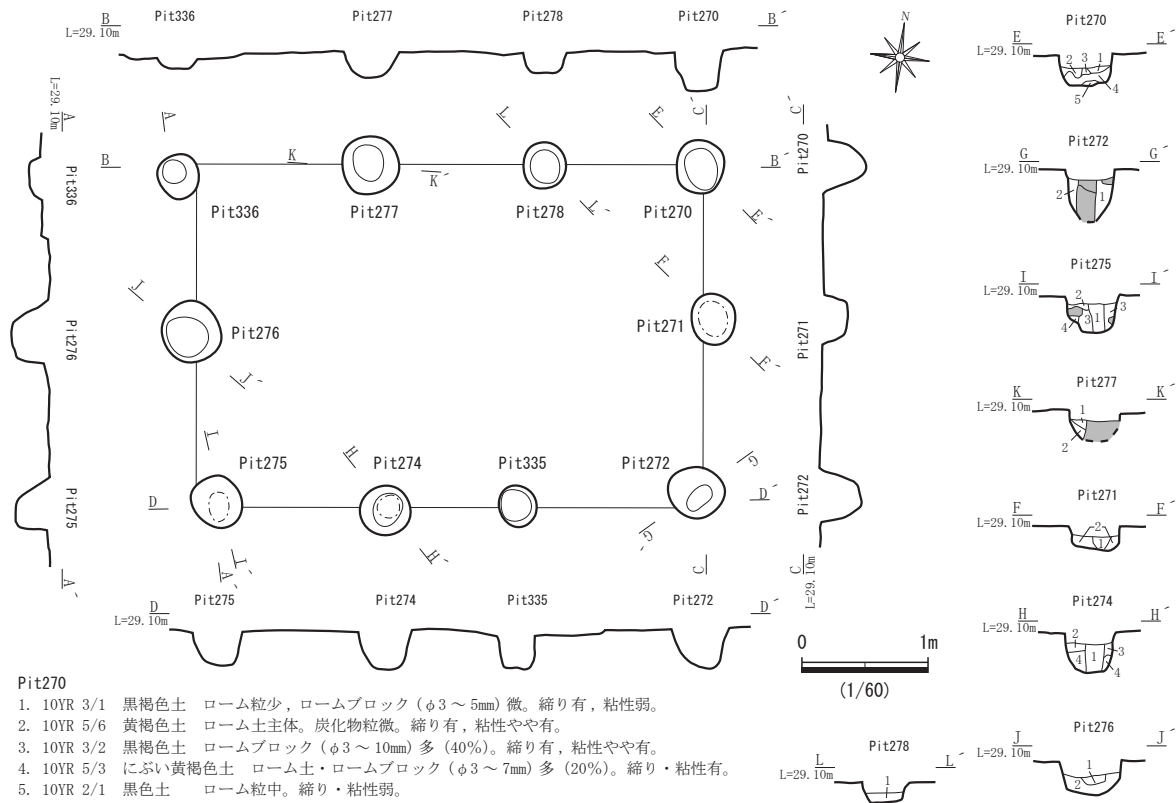
- 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ3~5mm) 中, 炭化物粒微。縮り有, 粘性弱。
- 10YR 5/6 黄褐色土 ローム土主体。黒色粒少。縮り有, 粘性やや有。
- 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ3~10mm) 多 (40%)。縮り有, 粘性やや有。
- 10YR 3/2 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ5~7mm) 少。縮り有, 粘性弱。
- 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ3~10mm) 密。縮り有, 粘性やや有。
- 10YR 4/4 褐色土 ローム土混土。縮りやや強, 粘性有。

Pit269

- 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ3~10mm) 密。縮り・粘性有。
- 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ3~10mm) 多 (20~30%), 黒褐色土多 (20%)。縮り・粘性有。
- 10YR 5/6 黄褐色土 ローム土主体。黒褐色土ブロック (φ3~5mm) 微。縮り有, 粘性やや有。

SB12 (第182図, 第15表, 写真図版22)

検出位置はB区D 27・28グリッドである。本建物跡はPit270~272・274~278・335・336の10基で構成される。平面規格は側柱構造の建物跡で、桁行3間、梁行2間の東西棟である。規模は桁行の南側が3.90m(約13尺), 北側が4.20m(約14尺), 梁行は2.70m(約9尺)となり、面積は約11m²を計測する。建物の傾きはN-82°-Eを示す。各柱穴の掘り方は円形基調で、規模は長軸



Pit270

- 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒少, ロームブロック (φ3~5mm) 微。縮り有, 粘性弱。
- 10YR 5/6 黄褐色土 ローム土主体。炭化物粒微。縮り有, 粘性やや有。
- 10YR 3/2 黒褐色土 ロームブロック (φ3~10mm) 多 (40%)。縮り有, 粘性やや有。
- 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 ローム土・ロームブロック (φ3~7mm) 多 (20%)。縮り・粘性有。
- 10YR 2/1 黒色土 ローム粒中。縮り・粘性弱。

Pit271

- 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒少, ロームブロック (φ3mm) 微。縮り有, 粘性弱。
- 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム土混土。縮り有, 粘性やや有。

Pit272

- 10YR 3/3 暗褐色土 ロームブロック (φ3~5mm) 密。縮り有, 粘性やや有。
- 10YR 5/6 黄褐色土 ローム土主体。黒褐色土多 (20~30%)。縮り有, 粘性やや有。

Pit274

- 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒多 (20%), ロームブロック (φ3~5mm) 少。縮りやや弱, 粘性弱。
- 10YR 3/3 暗褐色土 ローム土混土。縮り有, 粘性やや有。
- 10YR 5/4 にぶい黄褐色土 ローム粒中, ロームブロック (φ5~10mm) 少。縮り有, 粘性やや有。
- 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ3~5mm) 中。縮り有, 粘性やや有。

Pit278

- 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒中, ロームブロック (φ3~5mm) 多 (20%)。縮り有, 粘性やや有。

Pit275

- 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒中, ロームブロック (φ3~5mm) 少。縮り有, 粘性弱。
- 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 ローム土混土。黒褐色土微。縮り有, 粘性弱。
- 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒微, ロームブロック (φ3~7mm) 微。縮り有, 粘性やや有。
- 10YR 5/6 黄褐色土 ローム土主体。黒褐色土少。縮り・粘性有。

Pit276

- 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒中, ロームブロック (φ3~5mm) 少。縮りやや弱, 粘性弱。
- 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム土混土。縮りやや強, 粘性有。

Pit277

- 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒中, ロームブロック (φ3~10mm) 少。縮り有, 粘性やや有。
- 10YR 4/4 褐色土 ローム土混土。炭化物粒微。縮り・粘性有。

第182図 SB12

第3章 調査の成果

26～51 cm, 短軸 24～46 cm, 深さ 8～32 cmを測る。平面形や底面の標高は一定せず, 全体に小規模である。柱間寸法は, 芯々で 1.00～1.60 mでかなりばらつきがある。埋め土は, ロームブロックを多く含んだ暗褐色土, にぶい黄褐色土が主体である。柱痕跡は Pit271・274・275 で確認され, 径 12～14 cmで黒褐色土を主体としている。底部硬化面は Pit274～276・278 で認められた。

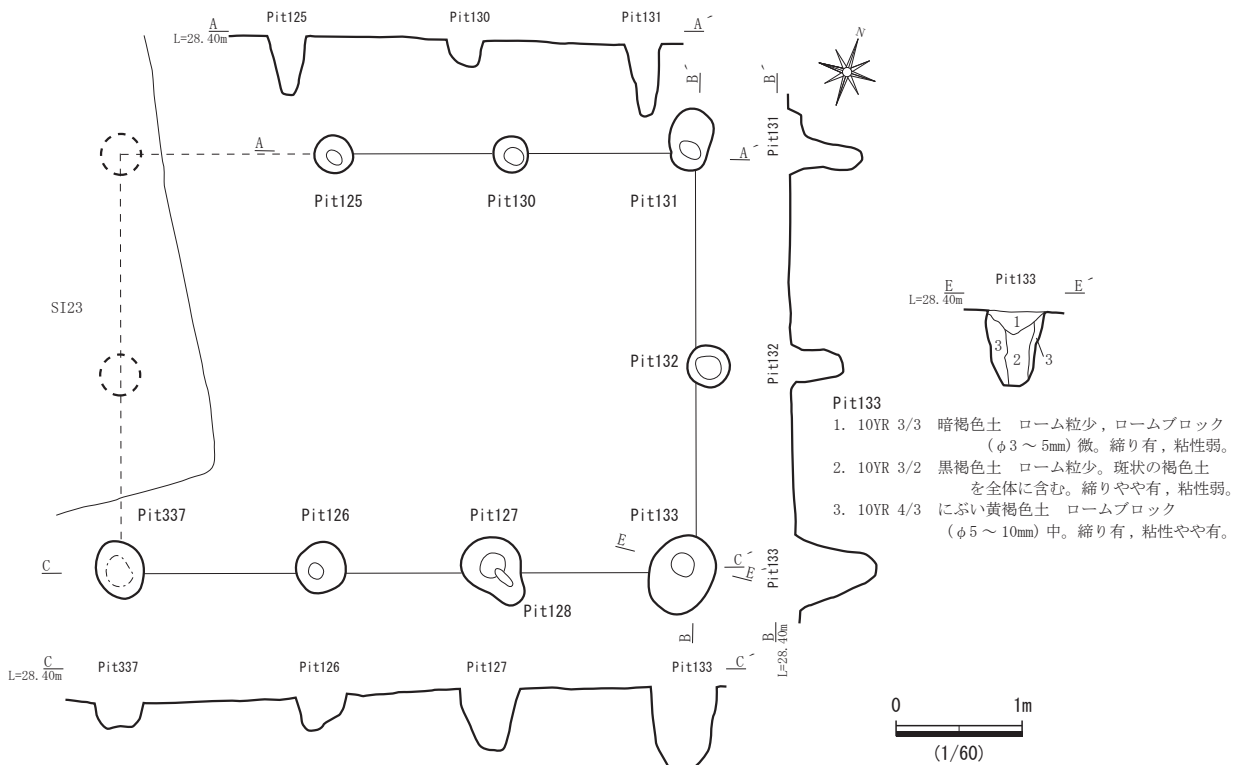
遺物は出土していない。

第15表 SB12 柱穴一覧表

遺構名	位置 (グリッド)	形状	規模(cm)			重複・覆土・特徴・その他	出土遺物	備考
			長軸	短軸	深さ			
Pit270	D28	楕円形	51	37	25	5層。	なし	
Pit271	D28	円形	41	36	21	2層。柱痕有。	なし	
Pit272	D28	円形	44	41	32	2層。攪乱広範囲。	なし	
Pit274	D27	円形	42	40	31	4層。柱痕有。	なし	
Pit275	D27	円形	43	41	28	4層。柱痕有。	なし	
Pit276	D27	円形	48	46	25	2層。	なし	
Pit277	D27	円形	46	46	20	2層。	なし	
Pit278	D28	円形	26	24	14	1層のみ確認。攪乱広範囲。	なし	
Pit335	D28	円形	32	30	26	単層, 10YR4/3にぶい黄褐色土;ローム土混土。	なし	
Pit336	D27	円形	35	33	8	単層, 10YR4/3にぶい黄褐色土;ローム土混土。	なし	

SB13 (第183・187図, 第16・26表, 写真図版21・23・52)

検出位置はB区P17グリッドである。本建物跡はPit125～127・130～133の8基が検出さ



第16表 SB13 柱穴一覧表

遺構名	位置 (グリッド)	形状	規模(cm)			重複・覆土・特徴・その他	出土遺物	備考
			長軸	短軸	深さ			
Pit125	P17	円形	30	30	47	単層, 10YR3/1黒褐色土;ローム粒中・ロームブロック少。	なし	
Pit126	P17	円形	40	38	30	単層, 10YR3/2黒褐色土;ローム粒少。	なし	
Pit127	P17	(円形)	45	(45)	42	Pit128を切る。単層, 10YR3/2黒褐色土;ローム粒少。	なし	
Pit130	P17	円形	29	27	22	単層, 10YR3/2黒褐色土;ローム粒少。重複か。	なし	
Pit131	P17	楕円形	50	34	60	単層, 10YR3/1黒褐色土;ロームブロック多。	なし	
Pit132	P17	円形	35	33	43	単層, 10YR3/2黒褐色土;ローム粒・ロームブロック中。	須: 坏1	
Pit133	P17	楕円形	64	50	66	3層。柱痕有。	なし	
Pit337	P17	楕円形	46	36	21	単層, 10YR3/2黒褐色土;ローム粒・ロームブロック少。底面にアタリ。	なし	

れる。本来は10基で構成されたと思われるが、梁行西側の2基がSI23構築時に消失したとみられる。平面規格は側柱構造の建物跡で、桁行3間、梁行2間の東西棟である。規模は桁行4.50m（約15尺）、梁行3.30m（約11尺）となり、面積は14.85㎡を計測する。建物の傾きはN-71°-Eを示す。各柱穴の掘り方は円形基調であるが、東側隅の柱穴Pit131・133は楕円形状で大きめである。規模は長軸40～64cm、短軸27～50cm、深さ21～66cmを測り、形状、規模ともにかなりばらつきが認められ、底面の標高も一定していない。柱間寸法は、芯々で桁行が1.40～1.60m、梁行が1.60～1.70mでばらつきが認められる。埋め土は黒褐色土を主体とし、柱痕跡はいずれの柱穴からも確認されなかった。

遺物はPit132から須恵器坏1が出土した。時期は9世紀第2四半期～第3四半期と考えられる。

SB14（第184・187図、第17・26表、写真図版23・52）

検出位置はB区C27・28グリッドである。本建物跡はPit279・280・282～284・318～320・322～325の12基で構成される。全体に耕作によるトレンチャーの攪乱を激しく受け、Pit318・324・325は攪乱下から検出した。平面規格は、側柱構造の建物跡で桁行3間、梁行3間の東西棟、規模は桁行の南側が6.20m、北側が6.00m（約20尺）とやや不揃いである。梁行は4.50m（約15尺）となり、柱筋の並びは良くない。面積は約27.5㎡を計測する。建物の傾きはN-80°-Wを示す。各柱穴の掘り方は円形基調で、規模は長軸22～61cm、短軸22～50cm、深さ25～54cmを測り、平面形や底面の標高は一定していない。柱間寸法は芯々で、桁行が1.90～2.30m、梁行が1.30～1.50mでまちまちである。埋め土は黒褐色土を主体とし、柱痕跡はいずれの柱穴からも確認されなかった。底部硬化面はPit318・320で認められる。

遺物はPit318～320・324から出土した。図示した1はPit319出土の土師器皿で、時期は9世紀第3四半期～第4四半期と考えられる。

SB15（第185・187図、第18・26表、写真図版23・52）

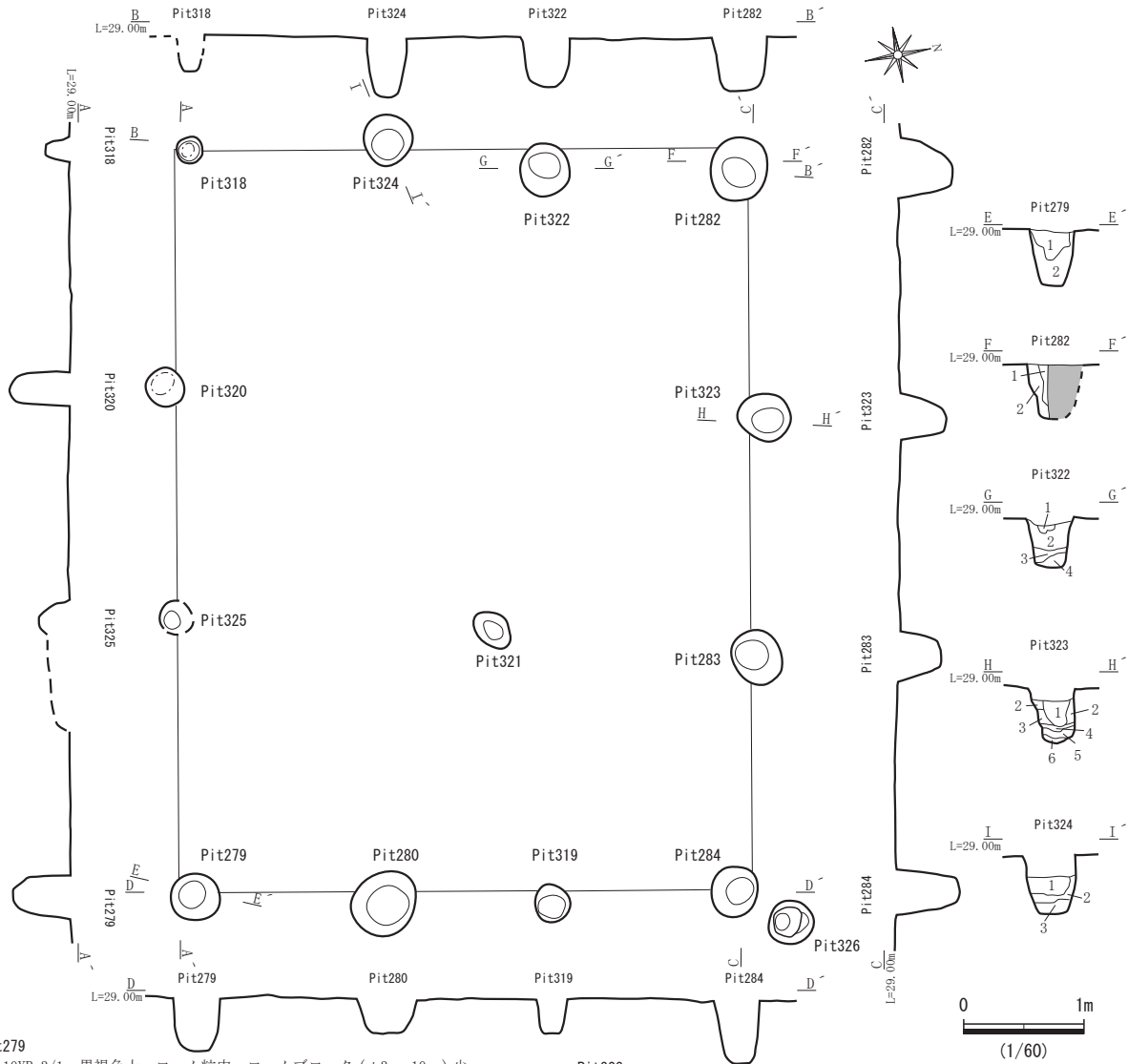
検出位置はB区C27・28、D27・28グリッドである。本建物跡はPit259・281・327・328～330・331・333の9基が検出されているが、全体に耕作によるトレンチャーの攪乱を激しく受け、北側でPit322・327を攪乱下から検出した。柱筋に沿っていないため関連性は不明であるが本建物跡に含めた。また、南西隅の1基があったと想定されるが、SK50と重複し不明である。平面規格は、側柱構造の建物跡で桁行3間、梁行2間の東西棟、規模は桁行4.50m（約15尺）、梁行4.20m（約14尺）となり、柱筋の並びは良くない。面積は18.90㎡を計測する。建物の傾きはN-87°-Eを示す。各柱穴の掘り方は円形基調で、規模は長軸20～52cm、短軸17～48cm、深さ12～56cmを測り、平面形や底面の標高は一定していない。柱間寸法は芯々で、桁行が1.40～2.00m、梁行が2.00～2.20mでまちまちである。埋め土は黒褐色土を主体とし、柱痕跡はいずれの柱穴からも確認されなかった。底部硬化面はPit259・281・328・333で認められる。

遺物はPit259から出土した。図示した1は須恵器蓋で、時期は9世紀前半の頃であろうか。

SB16（第186図、第19表）

検出位置はB区O15・16グリッドである。本建物跡はPit015・017・020・021・024・104・106の7基が検出される。本来は南西側にかけて展開したと考えられるが、攪乱が激しく把握することはできなかった。これらの柱穴群からはずれてPit016・018・019・022・023・107・105・108で構成され

第3章 調査の成果



Pit279

- 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒中, ロームブロック (φ3~10mm) 少。縮りやや弱, 粘性弱。
 - 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム土混土。炭化物粒微。縮り有, 粘性やや有。
- Pit282
- 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒少, ロームブロック (φ3~5mm) 微。縮りやや弱, 粘性弱。
 - 10YR 3/1 にぶい黄褐色土 ローム土混土。縮り有, 粘性やや有。
- Pit322
- 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム土混土。縮り有, 粘性やや有。
 - 10YR 3/1 黒褐色土 ローム土多 (20~30%), ロームブロック (φ3~5mm) 少。縮り有, 粘性弱。
 - 10YR 3/3 暗褐色土 褐色土混土。炭化物粒微。縮り有, 粘性弱。
 - 10YR 3/2 黒褐色土 褐色土混土。ロームブロック (φ3~5mm) 少。縮り有, 粘性やや有。

Pit323

- 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒少, ローム土中。縮りやや弱, 粘性弱。
- 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム土混土。縮り有, 粘性やや有。
- 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒微。縮り有, 粘性やや有。
- 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒微。縮り・粘性有。
- 10YR 2/1 黒色土 ローム粒少, ロームブロック (φ3~5mm) 中。縮り・粘性有。
- 10YR 3/3 暗褐色土 ローム土混土。縮り・粘性有。

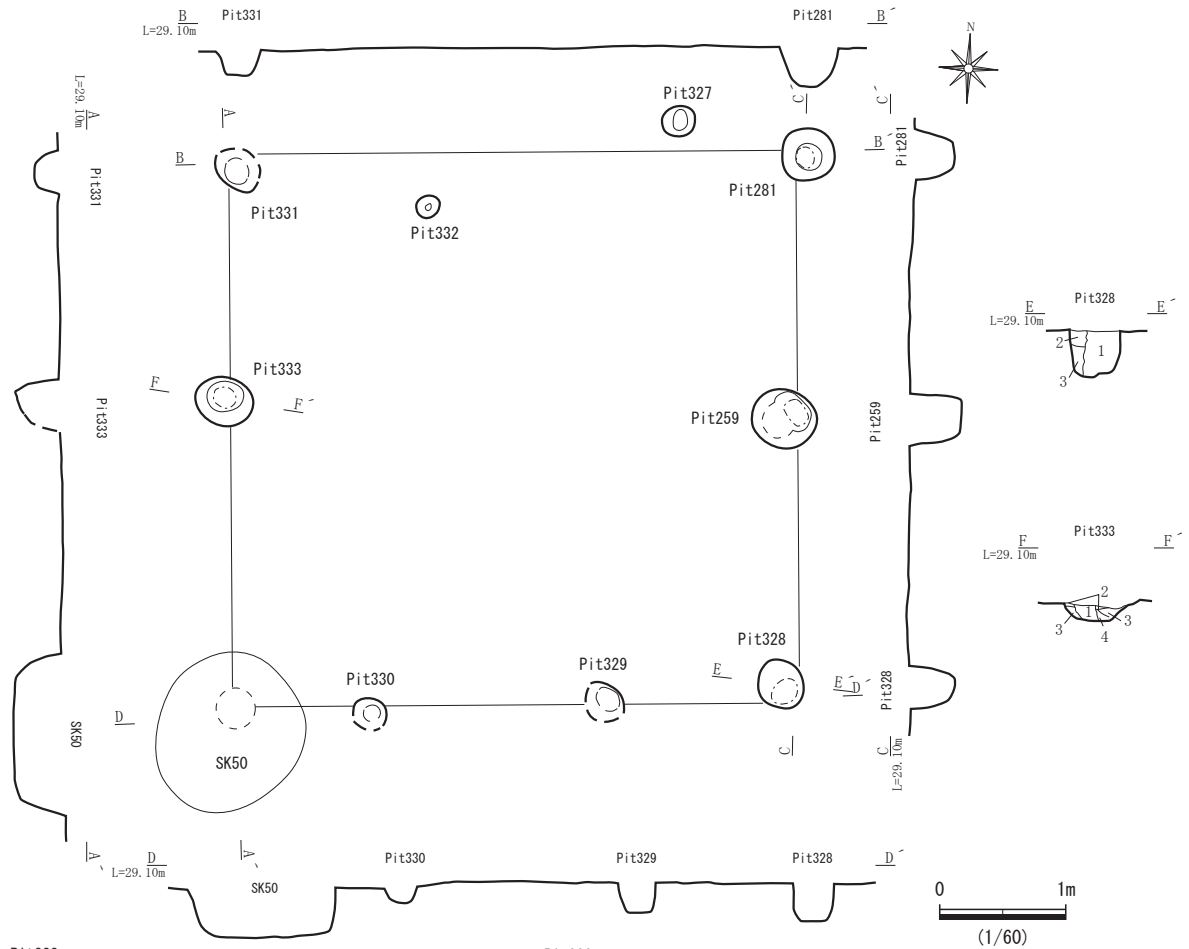
Pit324

- 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒少, 斑状の褐色土を全体に含む。縮りやや弱, 粘性有。
- 10YR 3/1 黒褐色土 ロームブロック (φ3~10mm) 中。縮り有, 粘性やや有。
- 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ3~5mm) 中。縮りやや弱, 粘性有。

第184図 SB14

第17表 SB14 柱穴一覧表

遺構名	位置 (グリッド)	形状	規模 (cm)			重複・覆土・特徴・その他	出土遺物	備考
			長軸	短軸	深さ			
Pit279	C28	円形	43	39	49	2層。	なし	
Pit280	C28	円形	61	50	30	単層, 10YR3/2黒褐色土;ローム粒少・ロームブロック少。	なし	
Pit282	C28	円形	56	48	49	2層。攪乱広範囲。	なし	
Pit283	C27	円形	46	44	39	単層, 10YR3/1黒褐色土;ローム粒少・斑状褐色土多。底面硬化。	なし	
Pit284	C28	円形	41	40	54	単層, 10YR3/2黒褐色土;ローム土・ロームブロック多。	なし	
Pit318	C27	円形	22	22	31	単層, 10YR4/3にぶい黄褐色土;ローム土混土。	須: 坏1	
Pit319	C28	円形	32	29	35	単層, 10YR3/1黒褐色土;ローム土・ロームブロック多。	土: 腕又は皿1, 須: 坏1	
Pit320	C27	円形	30	30	51	単層, 10YR3/1黒褐色土;ローム土・ロームブロック多。	須: 甕1	
Pit322	C27	円形	44	43	41	4層。	なし	
Pit323	C27・28	円形	45	40	45	6層。	なし	
Pit324	C27	円形	43	41	50	3層。	土: 甕1, 須: 坏1	
Pit325	C28	(円形)	28	(28)	25	単層, 10YR3/1黒褐色土;ローム粒・ロームブロック少。上部攪乱。	なし	



- | | |
|---|--|
| <p>Pit328</p> <ol style="list-style-type: none"> 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒少、ロームブロック (φ3～5mm) 微。締りやや弱、粘性弱。 10YR 6/6 明黄褐色土 ローム土主体。暗褐色土をまばらに含む。締りやや強、粘性有。 10YR 3/3 暗褐色土 ロームブロック (φ3～10mm) 多 (20～30%)。締りやや弱、粘性やや有。 | <p>Pit333</p> <ol style="list-style-type: none"> 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒少、ロームブロック (φ3～5mm) 微。締り有、粘性弱。 10YR 3/2 黒褐色土 ローム土混土。締り有、粘性やや有。 10YR 5/6 黄褐色土 ローム土主体。斑状の暗褐色土をまばらに含む。締り有、粘性やや有。 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒・ローム土少。締りやや弱、粘性やや有。 |
|---|--|

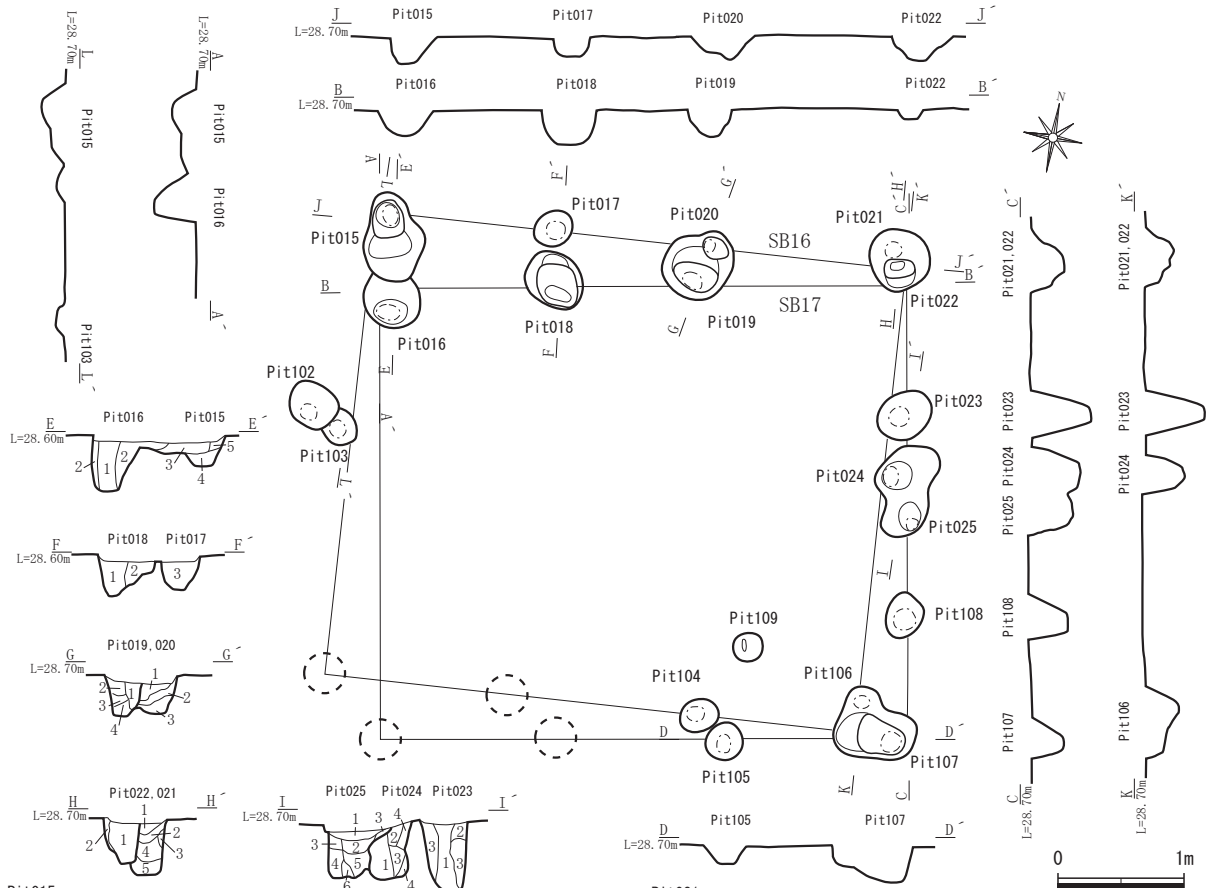
第 185 図 SB15

第 18 表 SB15 柱穴一覧表

遺構名	位置 (グリッド)	形状	規模 (cm)			重複・覆土・特徴・その他	出土遺物	備考
			長軸	短軸	深さ			
Pit259	C28	円形	52	48	40	単層, 7.5YR3/1黒褐色土:ロームブロック多, 焼土ブロック中。有段。	土: 甕1, 須: 蓋1	
Pit281	C28	円形	45	45	32	単層, 10YR3/1黒褐色土:ローム粒少。	なし	
Pit327	C28	円形	26	24	18	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒少。	なし	
Pit328	D28	円形	40	36	35	3層。	なし	
Pit329	D28	(円形)	35	(35)	24	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム土混土。	なし	
Pit330	D27	(円形)	28	(28)	12	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム土混土。	なし	
Pit331	C27	(円形)	39	(39)	12	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒・ロームブロック少。	なし	
Pit332	C27	円形	20	17	56	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒少。	なし	
Pit333	C27	円形	46	37	39	4層。	なし	

るSB17が重複し、建て替えが行われたと考えられる。Pit015～022の土層から本建物跡が古い。平面規格は側柱構造の建物跡で、桁行3間、梁行2間の東西棟であると想定される。規模は桁行長3.90m(約13尺)、梁行長3.60m(約12尺)となり、面積は14.04㎡を計測する。建物の傾きはN-82°-Eを示す。各柱穴の掘り方は円形基調で、規模は長軸27～71cm、短軸26～50cm、深さ19～45cmを測り、深さや底面の標高は一定していない。柱間寸法は芯々で、桁行が1.30m、梁行が1.80mで等間隔である。埋め土はローム粒・ロームブロックを多く含有する黒褐色土と暗褐色土が互層堆積をなしている。柱痕跡はPit015・017で確認され、径15cm前後で黒褐色土が主体である。底部硬化面はやや弱くはあるものの全ての柱穴で認められた。

第3章 調査の成果



- Pit015**
 1. 10YR 4/4 褐色土 ローム土混土。縮り有, 粘性やや有。
 2. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ3~5mm) 少。縮り有, 粘性弱。
 3. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒中, ロームブロック (φ3~5mm) 微。縮り有, 粘性弱。
- Pit016**
 1. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒中。縮りやや弱, 粘性弱。
 2. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒中, ロームブロック (φ3~10mm)・黒色粒少。縮り有, 粘性やや有。
- Pit017**
 1. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒中, ロームブロック (φ3~5mm) 微。縮り有, 粘性弱。
- Pit018**
 1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒少, ロームブロック (φ3~7mm) 微。縮り有, 粘性弱。
 2. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒中, ロームブロック (φ3~15mm) 多 (20%)。縮り有, 粘性弱。
- Pit019**
 1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒微。縮りやや弱, 粘性弱。
 2. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム土・ロームブロック (φ3~7mm) 多 (20~30%)。縮り有, 粘性やや有。
 3. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム土主体。縮り有, 粘性やや有。
 4. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム土・ロームブロック (φ3~5mm) 少。縮り有, 粘性やや有。
- Pit020**
 1. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム土・ロームブロック (φ3~7mm) 多 (20~30%)。縮り有, 粘性やや有。
 2. 10YR 3/1 黒褐色土 ロームブロック (φ3~7mm) 少。縮り有, 粘性やや有。
 3. 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 ローム土混土。縮り有, 粘性やや有。
- Pit022**
 1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒中。縮りやや弱, 粘性弱。
 2. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム土混土。縮り有, 粘性やや有。

- Pit021**
 1. 10YR 4/2 灰黄褐色土 ローム粒中。縮り有, 粘性弱。 (1/60)
 2. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒少, ロームブロック (φ3~5mm) 微。縮り有, 粘性やや有。
 3. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム土主体。縮り・粘性有。
 4. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (5~20mm) 中。縮り有, 粘性やや有。
 5. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム土多 (40%)。縮り・粘性有。
- Pit023**
 1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒中。斑状の褐色土をまばらに含む。縮り有, 粘性弱。
 2. 10YR 3/3 暗褐色土 ロームブロック (φ3~10mm) 多 (40%)。縮り有, 粘性やや有。
 3. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒少, ロームブロック (φ3~7mm) 中。縮り有, 粘性やや有。
- Pit024**
 1. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒中。縮り有, 粘性弱。
 2. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム土主体。黒色粒微。縮り・粘性有。
 3. 10YR 3/3 暗褐色土 ロームブロック (φ3~10mm) 多 (20~30%)。縮り有, 粘性やや有。
 4. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒多 (20%)。縮り・粘性なし。
- Pit025**
 1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒少。縮り有, 粘性弱。
 2. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム土主体。黒色粒微。縮り・粘性有。
 3. 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 ローム土混土。縮り・粘性有。
 4. 10YR 3/1 黒褐色土 ロームブロック (φ3~7mm) 少。縮りやや弱, 粘性弱。
 5. 10YR 3/3 暗褐色土 ロームブロック (φ5~7mm) 多 (20%)。縮り有, 粘性やや有。
 6. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム土混土。縮り有, 粘性やや有。

第 186 図 SB16・SB17

第 19 表 SB16 柱穴一覧表

遺構名	位置 (グリッド)	形状	規模(cm)			重複・覆土・特徴・その他	出土遺物	備考
			長軸	短軸	深さ			
Pit015	O15	不整形	71	50	30	SB17・Pit016に切られる。2層。柱痕有。	なし	
Pit017	O15	円形	32	27	27	2層。柱痕有。Pit018に近接。	土: 甕4	
Pit020	O15	(円形)	53	(53)	33	SB17・Pit019に切られる。3層。	土: 甕1	
Pit021	O16	(円形)	45	(45)	45	SB17・Pit022に切られる。5層。	なし	
Pit024	O16	(楕円形)	54	(40)	45	Pit025に切られる。6層。	なし	
Pit104	O15	円形	32	26	19	単層, 10YR3/1黒褐色土:ロームブロック少。	なし	
Pit106	O16	(円形)	27	(27)	29	Pit107と重複, 新旧不明。単層, 10YR3/1黒褐色土:ロームブロック少。	須:高台付坏1	

遺物は Pit019 から土師器甕，106 から須恵器高台付坏が出土したが，小破片のため図示できず，時期は不明瞭である。

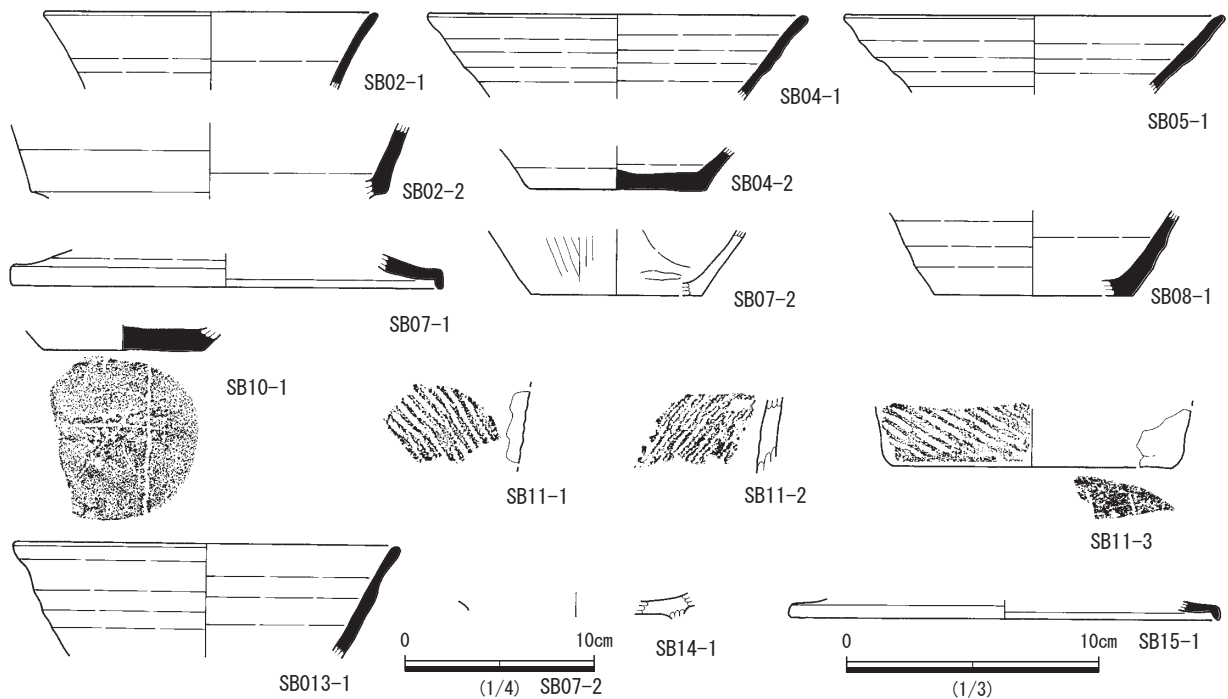
SB17 (第186図, 第20表,)

検出位置はB区O15・16グリッドである。本建物跡はPit016・018・019・022・023・107・105・108の8基が検出される。本来は南西側にかけて展開したと考えられるが，攪乱が激しく把握することはできなかった。これらの柱穴群からはずれてPit015・017・020・021・024・103・104・106で構成されるSB16が重複し，建て替えが行われたと考えられる。Pit015～022の土層から本建物跡が新しい。平面規格は側柱構造の建物跡で，桁行3間，梁行3間の東西棟であると想定される。規模は桁行長3.90m(約13尺)，梁行長3.60m(約12尺)となり，面積は14.04㎡を計測する。建物の傾きはN-76°-Eを示す。各柱穴の掘り方は円形基調で，規模は長軸32～65cm，短軸30～45cm，深さ22～57cmを測り，深さや底面の標高は一定していない。柱間寸法は芯々で，桁行が1.10～1.60m，梁行が0.90～1.60mでかなり差がある。埋め土はローム粒・ロームブロックを多く含有する黒褐色土を主体とし，いずれの柱穴からも柱痕跡は確認されなかった。底部硬化面はやや弱くはあるもののPit018・022以外の柱穴で認められた。

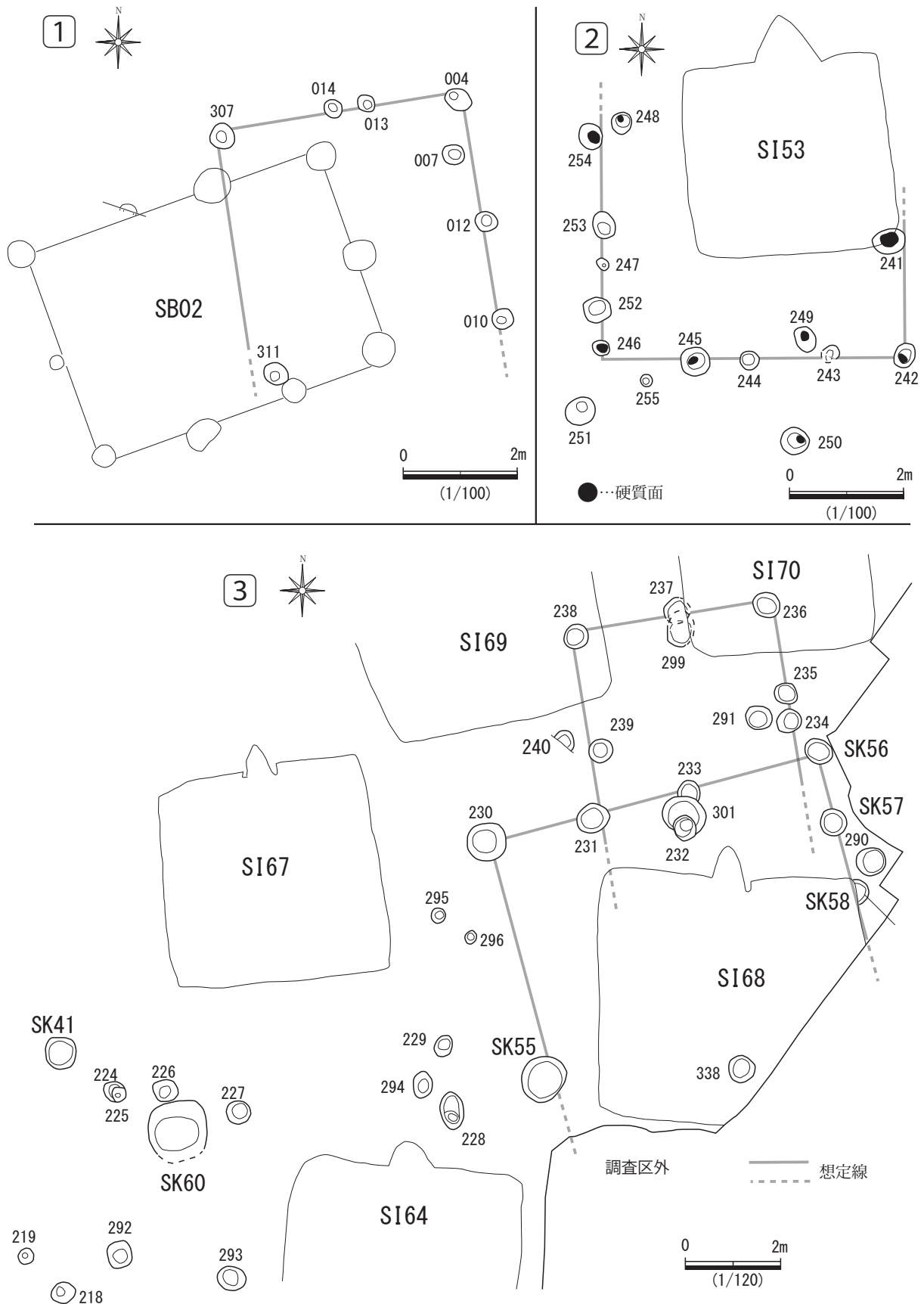
遺物はPit022・023・107から出土し，土師器は甕類，須恵器は坏類が主体である。いずれも小破片のため時期は不明瞭である。

第20表 SB17 柱穴一覧表

遺構名	位置 (グリッド)	形状	規模 (cm)			重複・覆土・特徴・その他	出土遺物	備考
			長軸	短軸	深さ			
Pit016	O15	(円形)	45	(45)	44	SB16・Pit015を切る。3層。浅い。	なし	
Pit018	O15	円形	52	45	36	単層。10YR3/1黒褐色土:ローム粒中・ロームブロック微。Pit017に近接。	なし	
Pit019	O15	円形	32	30	30	SB16・Pit020を切る。5層。柱痕有。	なし	
Pit022	O16	楕円形	43	27	41	SB16・Pit021を切る。2層。柱痕有。	土:鉢?1, 須:坏1	
Pit023	O16	円形	45	37	57	3層。柱痕有。	須:坏1	
Pit105	O15・16	円形	32	30	22	単層。10YR3/3暗褐色土:ロームブロック中。	繩:深鉢1	
Pit107	O16	楕円形	65	40	41	Pit106と重複, 新旧不明。単層, 10YR3/3暗褐色土:ロームブロック中。	土:甕1	
Pit108	O16	円形	37	35	40	単層, 10YR3/3暗褐色土:ロームブロック中。平面形やや不整形。	なし	



第187図 掘立柱建物跡出土遺物



第188図 ピット群

(3) ピット (第188・189図, 第21・26表, 写真図版23)

ピットは総数で欠番を除いた333基が検出された。A区では1基のみであったが、それ以外は全てB区で確認されている。その内、掘立柱建物跡の柱穴として構成されるのが175基あり、縄文時代の竪穴建物跡SI89のピット群16基を加えると、住居跡・建物跡のピットは191基になる。

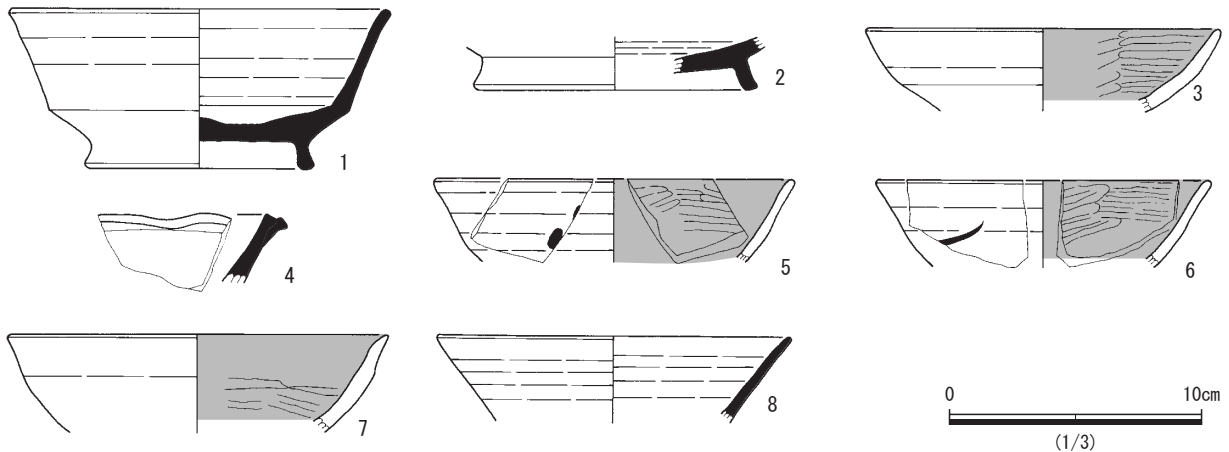
前述したピット以外では142基が検出された(第21表)。形態は円形又は楕円形が基調となり、規模は長軸23～87cm、短軸18～85cm、深さ16～97cmで、個々の平面形や底面の標高はかなりばらつきが認められる。覆土は暗褐色土・黒褐色土の単層が主体であるが、この中には、柱穴状の堆積土を呈するピットもある。掘立柱建物跡を組み立てることはできないものの、一カ所に集中して確認されるピット群が3地点認められた(第188図)。これらの地点では掘立柱建物跡が存在した可能性を考えたが、建物跡を構成する明瞭な柱筋を確認することができなかった。そのため、ここではピット群として取り扱っている。

まず、集中部の1地点目はSB02周辺である。SB02を構成する柱穴以外にPit004・007・010・012～014・307が展開し、別な掘立柱建物跡が重複した可能性がある。須恵器高台付坏1はPit007から出土し、時期は8世紀第4四半期～9世紀第1四半期の所産と考えられる。8の須恵器坏は近接するPit311から出土した遺物で、胎土から8世紀代の遺物と思われる。

次に、2地点目はSI53西側周辺一帯のI22・23グリッド地点である。Pit241～255の15基がほぼ方形状に並ぶのだが、SI53と重複しているため全容が把握できない上に、整った柱筋を確認できず、各ピットの規模にも差があるため、今回は掘立柱建物跡として取り上げなかった。ただし、ピットの並びが隣接するSB09とほぼ一致し関連性がうかがわれることから、掘立柱建物跡が存在した可能性が高い。

最後に、3地点目はH27・28, I27・28グリッド地点のSI67～70周辺である。Pit236～238・340は竪穴建物跡の床面を切り込んで構築された柱穴状のピットである。一方、土坑としたSK56～58は平面形の規模が周辺のピットとほぼ同様であるため、柱穴の可能性が高い。土師器坏3・5・6はこの周辺ピット群からの出土である。SI67～70で取り上げた遺物の中には新しい時期の遺物が混在しているが、それらの遺物とほぼ同時期とみられることから、竪穴建物跡から出土した9世紀代後半の遺物を伴った掘立柱建物跡が重複していたのではないかと考えられる。

その他のピットは、建物間の空白地帯でまばらに散在し、規則性は見出すことができなかった。



第189図 ピット出土遺物

第3章 調査の成果

第21表 ピット一覧表

遺構名	位置 (グリッド)	形状	規模 (cm)			重複・覆土・特徴・その他	出土遺物	備考
			長軸	短軸	深さ			
Pit001	c3	円形	82	74	70	単層, 10YR2/1黒色土。極端な深さを有し、木根の可能性。	なし	
Pit003	T16	円形	45	40	26	単層, 10YR3/1黒褐色土:ロームブロック少。	なし	
Pit004	T15	楕円形	48	38	52	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒微。SB02に近接。	なし	
Pit007	T15	円形	40	34	28	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒微。SB02に近接	須:高台付坪1	
Pit008	T16	円形	58	54	47	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒微。	なし	
Pit009	T16・17	円形	55	54	20	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム土・ロームブロック中。	縄:深鉢1	
Pit010	T15	円形	40	37	25	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒微。SB02に近接。	なし	
Pit012	T15	円形	42	36	33	3層。有段。SB02に近接	なし	
Pit013	T15	円形	35	32	25	単層, 10YR3/3暗褐色土:ローム粒微。SB02に近接	なし	
Pit014	T15	円形	34	30	52	単層, 10YR3/3暗褐色土:ローム土・ロームブロック中。SB02に近接。	なし	
Pit025	O16	楕円形	45	35	41	Pit0242を切る。4層。	土:甕2	
Pit055	O17	円形	28	24	16	単層。SB04柱筋にあり。補助柱穴か。	なし	
Pit100	N21	円形	38	38	36	Pit098に切られる。単層。	なし	
Pit101	N21	円形	48	44	22	Pit098に切られる。単層。	なし	
Pit102	O15	円形	38	35	64	単層, 10YR3/3暗褐色土:ローム土斑状多。SB16・17に近接。	なし	
Pit103	O15	円形	27	23	30	単層, 10YR3/2黒褐色土:ロームブロック少。SB16・17に近接。	なし	
Pit109	O16	円形	24	23	19	単層, 10YR3/1黒褐色土:ロームブロック少。SB16・17に近接	なし	
Pit110	O16	円形	45	42	24	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム土多・ロームブロック少。SB03に近接。	なし	
Pit111	O16	円形	28	26	16	単層, 10YR3/2黒褐色土:ロームブロック中。SB03に近接	なし	
Pit112	O16	円形	44	40	17	単層, 10YR3/3暗褐色土:ローム土斑状多。SB03に近接	なし	
Pit113	O16	円形	38	36	21	単層, 10YR3/2黒褐色土:褐色土斑状多・ロームブロック少。SB03に近接。	なし	
Pit114	O16	瓢箪形	58	42	36	単層, 10YR3/1黒褐色土:ローム土多。SB03に近接。重複か。	なし	
Pit115	O16	円形	32	30	27	単層, 10YR3/3暗褐色土:ロームブロック微。SB03に近接	なし	
Pit116	O16	円形	47	42	50	単層, 10YR3/2黒褐色土:ロームブロック多。SB03に近接。	なし	
Pit117	O16	円形	43	43	49	単層, 10YR3/1黒褐色土:ロームブロック多。SB03・Pit037に接する。	なし	
Pit118	O16	円形	42	37	24	単層, 10YR3/1黒褐色土:ローム土・ロームブロック多。SB03に近接。	なし	
Pit119	O16	円形	51	49	26	単層, 10YR3/1黒褐色土:ローム粒・ロームブロック多。	縄:深鉢1	
Pit120	O16	円形	34	32	23	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒・ロームブロック多。	土:甕1	
Pit121	O16	(円形)	46	(46)	47	Pit122を切る。単層, 10YR3/3暗褐色土:ローム粒少, 斑状の褐色土多。	なし	
Pit122	O16	(円形)	34	(34)	37	Pit121に切られる。単層, 10YR3/1黒褐色土:ローム粒少。	なし	
Pit124	N21	円形	45	42	12	単層, 10YR3/2黒褐色土:黄色粒少。SB08に近接。	土:甕1	
Pit128	P17	(円形)	25	(25)	47	SB13・Pit127に切られる。単層, 10YR3/3暗褐色土:ローム粒微。	なし	
Pit129	P17	瓢箪形	72	52	40	単層, 10YR3/3暗褐色土:ロームブロック少・炭化物粒微。	なし	
Pit134	O17	円形	52	50	28	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒・ロームブロック中。SB04・05に近接。	なし	
Pit135	O17	円形	39	37	34	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒・ロームブロック少。SB04・05に近接。	なし	
Pit136	P18	円形	34	33	35	単層, 10YR3/3暗褐色土:ローム粒・ロームブロック少。	なし	
Pit137	O17	瓢箪形	82	52	50	単層, 10YR3/3暗褐色土:ロームブロック多・炭化物粒微。重複か。	縄?:深鉢?2	
Pit138	O16	円形	47	43	43	単層, 10YR3/1黒褐色土:ローム土・ロームブロック少。	縄?:深鉢?2	
Pit139	O16	楕円形	45	36	63	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒・ロームブロック中。	なし	
Pit140	O16	(円形)	38	(38)	11	SB03・Pit039に切られる。単層, 10YR3/3暗褐色土:ローム粒少。	なし	
Pit141	O16	楕円形	34	27	62	単層, 10YR3/3暗褐色土:ローム土・黒褐色土混土。SB03に近接。	なし	
Pit142	O15	円形	41	39	46	Pit143に切られる。単層, 10YR3/1黒褐色土:ローム粒少。やや不整形。	なし	
Pit143	O15	楕円形	32	24	27	Pit142を切る。単層10YR3/2黒褐色土:ローム粒少。	なし	
Pit144	O18	(円形)	31	(31)	10	SB03・Pit033に切られる。単層, 10YR3/3暗褐色土:ローム粒少。	なし	
Pit154	P18	円形	25	25	24	単層, 10YR3/2黒褐色土:ロームブロック少。	なし	
Pit155	P16	楕円形	27	20	21	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒・ロームブロック少。	縄?:深鉢?1	
Pit156	P17	円形	53	49	43	単層, 10YR3/3暗褐色土:ローム粒微, 炭化物粒微。	縄:深鉢1	
Pit157	L24	楕円形	50	28	35	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒・ロームブロック少。	なし	
Pit158	L23	円形	35	30	24	単層, 10YR2/1黒色土:ローム粒・ロームブロック微。	なし	
Pit159	L23	円形	44	40	30	単層, 10YR3/2黒褐色土:ロームブロック多・黒色粒微。	なし	
Pit160	L23	楕円形	50	34	28	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム土多・黒色ブロック微。	なし	
Pit177	J23	円形	37	35	38	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム土混土。SB09に近接。	なし	
Pit192	K19	円形	36	36	37	単層, 10YR3/3暗褐色土:ローム粒少・ロームブロック少。	なし	
Pit193	L20	円形	33	33	36	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒多・ロームブロック少・黒色粒微。	なし	
Pit194	L19	円形	30	30	24	単層, 10YR3/1黒褐色土:ローム粒中・ロームブロック少・黒色粒微。	なし	
Pit195	M19	円形	48	41	36	単層, 10YR3/1黒褐色土:ローム粒多・ロームブロック少・黒色ブロック少。	なし	
Pit196	K22	楕円形	48	30	25	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム土・ロームブロック中・黒色ブロック微。	なし	
Pit197	K22・23	(円形)	28	(28)	11	SK40を切る。単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒・ロームブロック少。	なし	
Pit198	L22・23	円形	50	45	25	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒・ロームブロック中・黒色粒少。	なし	
Pit199	K23	円形	60	53	32	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム土・ロームブロック中・黒色ブロック微。	なし	
Pit200	J23	円形	66	55	49	5層。	なし	
Pit201	K22	円形	55	46	26	単層, 10YR3/1黒褐色土:ローム土混土。	土:甕1	
Pit202	K21	円形	40	38	35	単層, 10YR3/1黒褐色土:ローム土・ロームブロック中。	なし	
Pit203	J21	楕円形	63	49	35	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム土・ロームブロック中。	土:甕1	
Pit204	J21	円形	50	43	41	単層, 10YR3/1黒褐色土:ローム土・ロームブロック多。	須:坪1	
Pit205	欠番							
Pit206	J22	円形	46	40	29	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム土・ロームブロック多。黒色粒微。	なし	
Pit207	J21	円形	42	40	20	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒・ロームブロック多。黒色粒微。	なし	
Pit208	J21	円形	40	35	17	単層, 10YR3/1黒褐色土:ロームブロック少。攪乱広範囲。	なし	
Pit209	H22	円形	45	40	15	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒・ロームブロック少。黒色粒微。	なし	
Pit210	H24	円形	37	37	25	単層, 10YR3/3暗褐色土:黒色土混土・ローム粒・ロームブロック少。	なし	
Pit211	H24	楕円形	44	35	26	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム土・ロームブロック中。黒色粒微。	なし	
Pit212	H24	楕円形	58	38	35	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒・ロームブロック中。	なし	
Pit213	H24	円形	40	40	61	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒少。攪乱広範囲。	なし	
Pit214	H25, J25	円形	60	58	44	単層, 10YR3/3暗褐色土:ローム粒少。	なし	
Pit215	J26	円形	35	33	28	単層, 10YR3/1黒褐色土:ロームブロック少。	縄:深鉢1	
Pit216	J26	円形	55	49	26	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒・ロームブロック少。	なし	
Pit217	J26	円形	47	43	26	単層, 10YR3/1黒褐色土:ローム粒・ロームブロック少。攪乱広範囲。	なし	
Pit218	J26	円形	55	45	38	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム土混土。	なし	
Pit219	I26	円形	37	33	32	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム土・ロームブロック中。炭化物粒微。	なし	

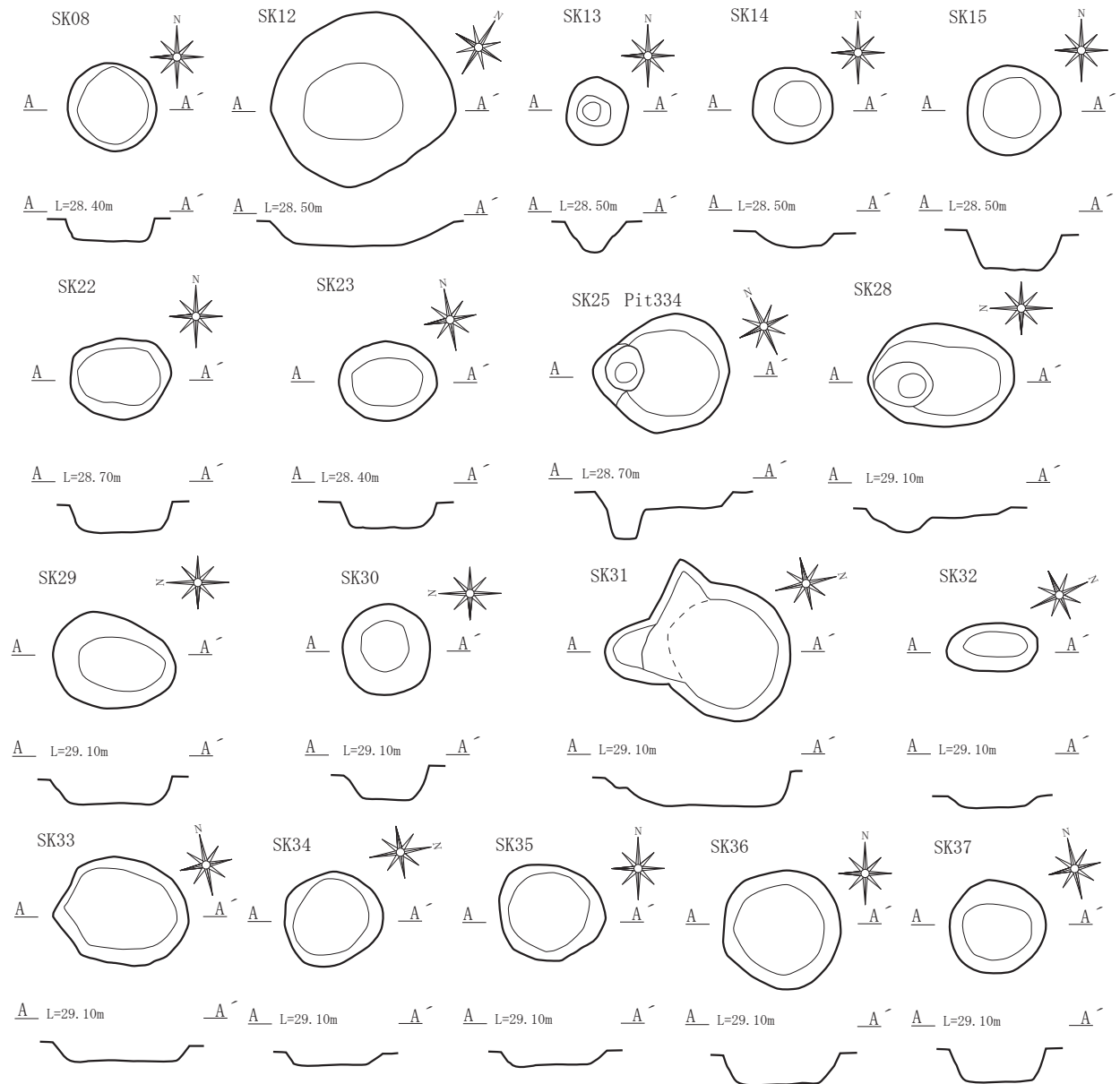
第4節 古墳時代～奈良・平安時代

遺構名	位置 (グリッド)	形状	規模 (cm)			重複・覆土・特徴・その他	出土遺物
			長軸	短軸	深さ		
Pit220	G23	楕円形	85	52	42	単層, 10YR3/1黒褐色土:ローム粒・ロームブロック少。上部攪乱広範囲。	なし
Pit221	G24	円形	46	44	78	単層, 10YR3/1黒褐色土:ローム土・ロームブロック少。	なし
Pit222	欠番						
Pit223	G24	円形	72	70	97	単層, 7.5YR3/1黒褐色土:ロームブロック多, 焼土ブロック中。	土:甕11
Pit224	I26	(円形)	43	(43)	15	Pit225と重複, 新旧不明。単層, 10YR3/1黒褐色土:ローム粒・ロームブロック少。	なし
Pit225	I26	円形	35	33	64	Pit224と重複, 新旧不明。単層, 10YR3/3暗褐色土:ローム土混土。	土:甕1, 須:坏1
Pit226	I26	円形	57	48	47	単層, 10YR4/3にぶい黄褐色土:ロームブロック多。攪乱広範囲。	土:甕1
Pit227	I27	円形	53	51	37	4層, 柱痕有。	なし
Pit228	I27	楕円形	83	51	36	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム土混土。	なし
Pit229	I27	楕円形	50	36	26	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒・ロームブロック少。	なし
Pit230	I27	円形	87	85	53	5層, 柱痕有。	須:甕3
Pit231	H27, I27	円形	72	61	57	3層。	なし
Pit232	I28	円形	55	53	73	Pit301と重複・新旧不明。7層。	土:坏1・甕1, 須:坏1・甕1
Pit233	H28	(円形)	50	(50)	29	Pit301と重複・新旧不明。単層, 10YR3/3暗褐色土:ロームブロック多。	なし
Pit234	H28	円形	56	48	52	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム土混土で互層状。	土:甕1
Pit235	H28	円形	54	46	26	単層, 10YR3/3暗褐色土:ロームブロック多・黒色粒微。	土:坏1, 須:甕1
Pit236	H28	円形	64	53	(31)	SI70を切る。単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒多・ロームブロック少。	土:甕2, 須:甕1・鉢1
Pit237	H28	(円形)	55	(55)	67	Pit299と重複, 新旧不明。単層, 10YR3/3暗褐色土:ロームブロック中・黒色粒微。	土:坏3・甕5, 須:壺1
Pit238	H27	円形	57	51	(6)	SI69を切る。単層, 10YR3/3暗褐色土:ロームブロック多。	なし
Pit239	H27	円形	53	50	25	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒少・ロームブロック微。	なし
Pit240	H27	(楕円形)	43	(30)	18	単層, 10YR3/3暗褐色土:ロームブロック少。底面に硬化面。	なし
Pit241	I23	楕円形	57	43	68	2層。	土:甕1・坏1
Pit242	I23	円形	44	37	22	5層。柱痕有。底部にあたり有。	なし
Pit243	I23	(円形)	30	(30)	13	単層, 10YR3/1黒褐色土:ローム粒少。攪乱で約1/2消失。	土:甕1
Pit244	I22	円形	34	33	26	単層, 10YR3/3暗褐色土:ローム土・黒色土多, 人為的。	なし
Pit245	I22	円形	51	50	66	5層。柱痕有。	なし
Pit246	I22	円形	33	28	44	単層, 10YR4/3にぶい黄褐色土:ローム土混土, 人為的。	
Pit247	I22	楕円形	23	18	20	単層, 10YR3/1黒褐色土:ローム粒少。	なし
Pit248	I22	円形	35	35	36	6層。	なし
Pit249	I22	楕円形	46	34	52	3層。	土:坏1・甕1
Pit250	J22	円形	50	48	42	7層。	なし
Pit251	I22	円形	54	47	40	5層。	土?:甕?1
Pit252	I22	円形	46	44	39	6層。底面に硬化面有。	なし
Pit253	I22	円形	48	39	30	3層。	なし
Pit254	I22	円形	48	42	37	2層。	なし
Pit255	I22	円形	23	21	17	単層, 10YR3/3暗褐色土:ロームブロック少。	なし
Pit256	欠番						
Pit257	E25	円形	42	41	33	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒少・ロームブロック中。	なし
Pit273	E25	円形	30	28	36	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム土・ロームブロック多。	なし
Pit285	欠番						
Pit286	J23	円形	40	36	33	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒少。	須:高台付坏1
Pit287	J23	楕円形	53	38	52	単層, 10YR3/1黒褐色土:ローム粒中・ロームブロック多・炭化物粒微。	土:坏2
Pit288	J23	楕円形	45	38	52	単層, 10YR3/1黒褐色土:ローム粒少・炭化物粒微。SB09に近接。	なし
Pit289	G25	円形	55	48	43	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム土混土・黒色ブロック少。	なし
Pit290	I28	円形	66	64	62	4層, 柱痕有。	なし
Pit291	H28	円形	57	50	35	単層, 10YR3/3暗褐色土:ロームブロック多。	なし
Pit292	I26	円形	65	57	50	単層, 10YR3/2黒褐色土:黒色土混土・ロームブロック中。攪乱広範囲。	なし
Pit293	I27, J27	楕円形	65	51	27	単層, 10YR3/3暗褐色土:ロームブロック多。	なし
Pit294	I27	楕円形	59	40	39	単層, 10YR3/3暗褐色土:ローム粒中・ロームブロック少。	なし
Pit295	I27	円形	32	32	16	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒少・焼土ブロック微。	なし
Pit296	I27	円形	28	25	17	単層, 10YR3/3暗褐色土:ローム粒少・ロームブロック微。	なし
Pit297	E29	円形	35	30	62	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒少。	なし
Pit298	E29	円形	28	25	23	単層, 10YR3/3暗褐色土:ローム粒少・ロームブロック中。	なし
Pit299	H28	(円形)	60	(60)	68	Pit237と重複, 新旧不明。単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒中・ロームブロック少・焼土ブロック微。	なし
Pit300	I26	円形	48	47	31	単層, 10YR2/1黒色土:ローム粒少・ローム土中・斑状褐色土多。	土:甕1
Pit301	H28, I28	楕円形	97	71	49	Pit232・233と重複・新旧不明。	土:坏4
Pit305	N20	円形	38	34	27	単層, 10YR3/3暗褐色土:ローム粒少・ロームブロック微。SB07に近接。	なし
Pit306	N20	円形	33	29	33	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム粒少・ロームブロック微。SB07に近接。	なし
Pit307	T15	円形	47	44	32	単層, 10YR3/1黒褐色土:ロームブロック中。SB02に近接	なし
Pit311	T15	楕円形	45	36	38	単層, 10YR3/2黒褐色土。大部分攪乱。SB02・Pit308に近接。	須:坏1
Pit313	欠番						
Pit317	C27	円形	38	35	13	単層, 10YR3/1黒褐色土:ロームブロック少。断面は浅い皿状	なし
Pit321	C28	円形	35	27	32	単層, 10YR3/1黒褐色土:ローム粒少, SB14に近接。	なし
Pit326	C28	円形	40	36	29	単層, 10YR3/2黒褐色土:ローム土混土, SB14に近接。	なし
Pit334	O16	円形	40	35	35	SK25を切る。単層, 10YR3/2黒褐色土:ロームブロック中。SB03に近接	なし
Pit338	I28	円形	58	56	(50)	SI68を切る。5層。柱痕有。	なし
Pit339	O16	円形	48	41	31	単層, 10YR3/3暗褐色土:ローム粒少, ロームブロック微。	なし

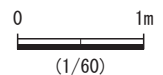
※Pit002はSK44に変更

(4) 土坑 (第190～192図, 第22・26表, 写真図版24)

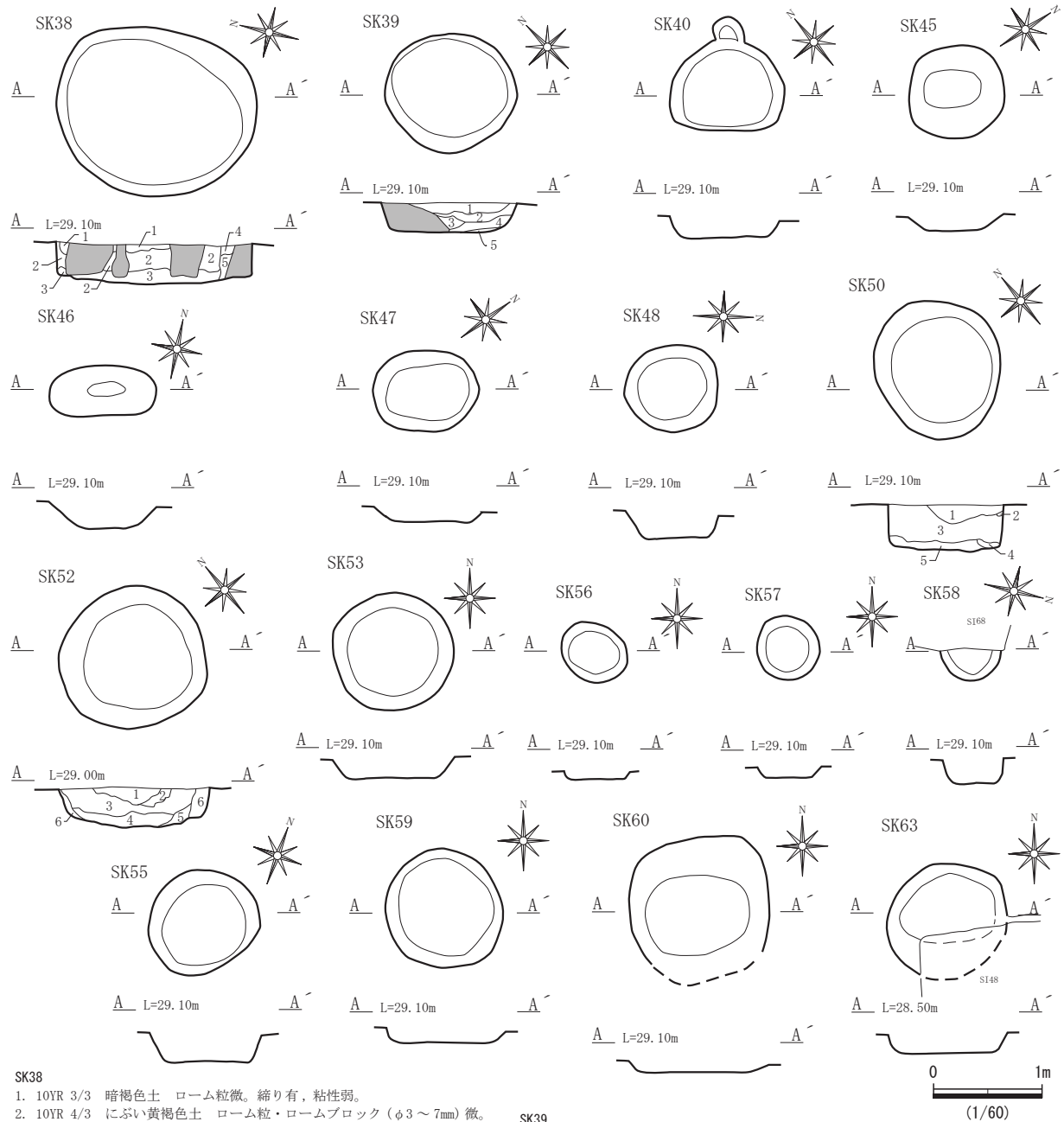
奈良・平安時代の土坑は35基が該当すると考えられる。遺物を伴う土坑は17基 (SK08・28・31・32・34・36・38～40・47・50・51・53・55・56・57・60) である。一方, 遺物は出土していないものの, 遺構の形態や覆土の状態からこの時期以降の所産と判断される土坑は18基 (SK12～15・22・23・29・30・33・35・37・45・46・48・52・55・58・59) である。各土坑の配置を見ると, B区全体でまばらに展開しているが, 概ね3地点の範囲で, まとまる傾向にある。1地点目は調査区北側のB27～D29グリッド範囲, 2地点目は調査区ほぼ中央K22・23, L22・23グリッドの範囲, 3地点目は調査区南西部O12～S15グリッドの範囲である。特に, 2地点目の中央部では集中する度合が高く, 平面形態は基本的に小型の円形又は楕円形で, 断面形状は皿状や浅い鍋底状が中心である。覆土は黒褐色土を主体とした単層がほとんどを占めるが, SK38・50・52など例外も見られる。SK56～58は浅い形状から土坑としたが, 平面形態の規模が小さく, 周辺のピットとほぼ同様であることから柱穴状のピットとなる可能性が高い。



第190図 奈良・平安時代土坑 (1)



土坑全体から出土した遺物は全て破片で、土師器 52 点、須恵器 25 点である。土師器甕の出土が最も多く、供膳具は坏類で占められる。遺物の時期は9世紀代が中心である。



SK38

1. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒微。締り有，粘性弱。
2. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒・ロームブロック（φ3～7mm）微。締り有，粘性弱。
3. 10YR 4/4 褐色土 ロームブロック（φ3～7mm）中。締り有，粘性弱。
4. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム土中。締り有，粘性弱。
5. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム土主体。黒褐色土微。締り・粘性有。

SK52

1. 10YR 3/1 黒褐色土 炭化物粒少，ローム粒微。斑状の褐色土をまばらに含む。締り有，粘性弱。
2. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム土と焼土の混土。締り有，粘性やや有。
3. 10YR 3/3 暗褐色土 炭化物粒微。斑状の褐色土を全体に含む。締り有，粘性弱。
4. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒少，ロームブロック（φ3～7mm）微，炭化物粒・炭化物塊少。締り有，粘性弱。
5. 10YR 3/3 暗褐色土 焼土多（20%），炭化物粒少，ロームブロック（φ3～5mm）微。締り有，粘性弱。
6. 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 ローム粒少，黒色粒微。締り有，粘性やや有。

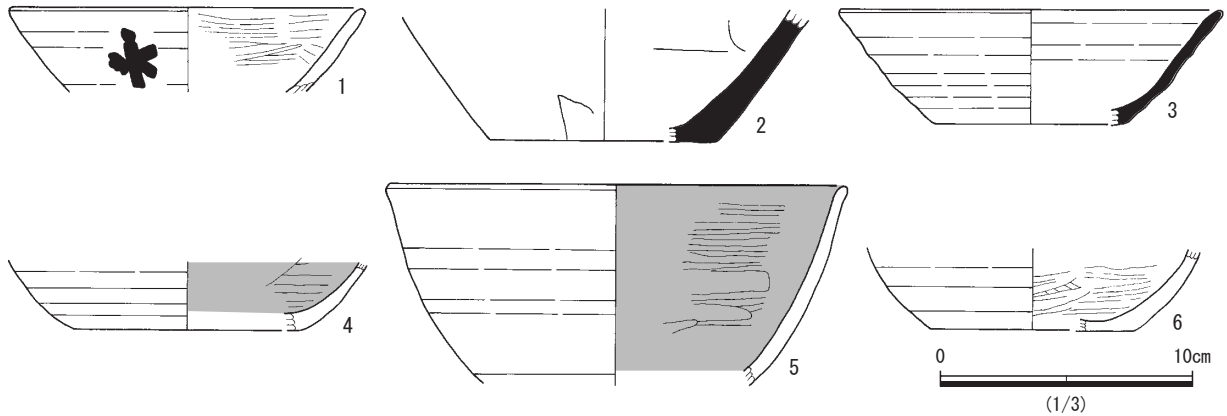
SK39

1. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック（φ3～10mm）少。締り有，粘性弱。
2. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒中，ロームブロック（φ3～10mm）微。締り有，粘性弱。
3. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒・黒色粒微。締り有，粘性弱。
4. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒少，黒色粒微。締り有，粘性弱。
5. 10YR 4/4 褐色土 ローム土混土。締り有，粘性やや有。

SK50

1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒中，ロームブロック（φ3～5mm）少。斑状の褐色土をまばらに含む。締り有，粘性弱。
2. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム土主体。黒褐色土少。締り有，粘性やや有。
3. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒多（20%），ロームブロック（φ3～10mm）中。斑状の褐色土を全体に含む。締り有，粘性弱。
4. 10YR 5/6 黄色土 ローム土主体。黒褐色粒微。締り有，粘性やや有。
5. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒少，ロームブロック（φ3～10mm）中。締り・粘性有。

第191図 奈良・平安時代土坑(2)



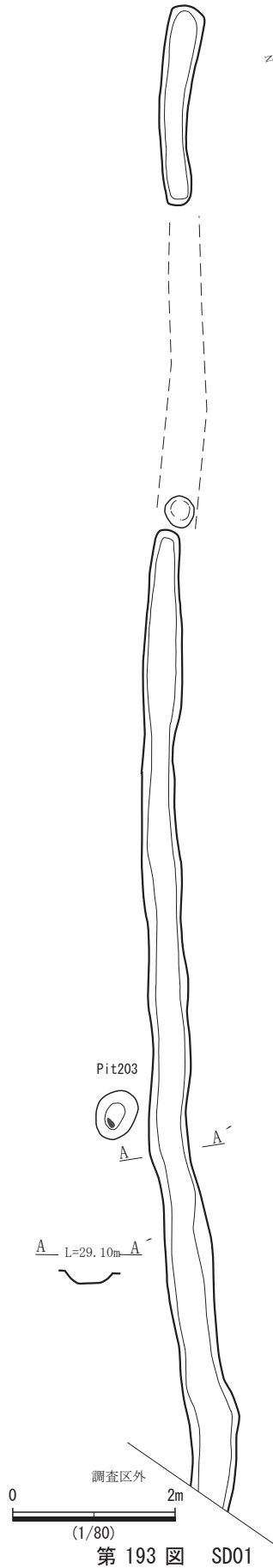
第192図 奈良・平安時代土坑出土遺物

第22表 奈良・平安時代土坑一覽表

遺構名	位置 (グリッド)	形状		長軸方向	規模 (cm)			重復・覆土・特徴・その他	出土遺物	備考
		平面	断面		長軸	短軸	深さ			
SK08	S13	円形	皿状	—	77	77	10	単層, 10YR3/3暗褐色土。	須: 坏2, 陶: 甕1 (近世?)	
SK12	Q12	不整形円形	皿状	N-33° -E	154	141	24	単層, 10YR3/1黒褐色土。	なし	
SK13	Q12	円形	丸底状	N-20° -W	61	57	22	単層, 10YR3/1黒褐色土。	なし	
SK14	Q12・13	円形	丸底状	N-61° -W	70	68	19	単層, 10YR3/2黒褐色土。	なし	
SK15	Q13	円形	鍋底状	N-84° -E	83	76	26	単層, 10YR3/1黒褐色土。	なし	
SK22	O15	楕円形	鍋底状	N-86° -E	91	72	26	単層, 10YR3/3暗褐色土。	なし	
SK23	P13	楕円形	鍋底状	N-78° -W	87	67	23	単層, 10YR3/2黒褐色土。	なし	
SK25	O16	(円形)	皿状	—	106	(106)	20	Pit334と重複。単層, 10YR3/3暗褐色土。	なし	
SK28	K22	楕円形	皿状	N-3° -E	128	90	14	単層, 10YR3/1黒褐色土。ローム土多量含み, ビット状の落ち込みは重複か。	土: 坏1, 須: 甕1	
SK29	K22	楕円形	丸底状	N-18° -E	110	80	28	単層, 10YR3/2黒褐色土。炭化物中量含む。中央部が窪む。	なし	
SK30	K22	円形	丸底状	N-68° -W	82	80	31	単層, 10YR3/2黒褐色土。炭化物中量含む。	なし	
SK31	K22	円形	鍋底状	N-43° -E	123	115	29	単層, 10YR3/3暗褐色土。	土: 坏(内黒)4, 甕5, 須: 坏1	
SK32	L22	楕円形	半円状	N-21° -W	82	43	20	単層, 10YR3/3暗褐色土。	土: 甕1	
SK33	K22・23	楕円形	皿状	N-68° -W	120	94	17	単層, 10YR3/3暗褐色土。	なし	
SK34	K23	円形	皿状	N-46° -W	87	86	10	単層, 10YR3/3暗褐色土。	土: 甕1, 須: 甗1	
SK35	K23	円形	皿状	N-73° -W	93	85	11	単層, 10YR4/3にぶい黄褐色土。	なし	
SK36	K23, L23	円形	皿状	N-46° -W	105	103	19	単層, 10YR3/3暗褐色土。	土: 坏(内黒)2, 甕2, 須: 坏1	
SK37	K22	円形	鍋底状	N-66° -W	85	81	33	単層, 10YR3/2黒褐色土。炭化物中量含む。	なし	
SK38	K22	円形	鍋底状	N-10° -E	185	154	38	5層, 人為堆積。	土: 坏(内黒)1, 甕1, 須: 高台付坏2	
SK39	J22	円形	鍋底状	N-37° -W	120	111	28	5層, 人為堆積。	土: 坏(内黒)1, 甕1, 須: 坏1, 甕1	
SK40	K22, L22	円形	皿状	N-48° -W	104	84	20	Pit197に切られる。単層, 10YR3/3暗褐色土。	土: 甕2, 須: 坏1, 坏(新治)1	
SK45	E27	円形	丸底状	N-32° -E	87	84	26	単層, 10YR3/3暗褐色土。	なし	
SK46	E27	楕円形	丸底状	N-77° -W	98	45	26	単層, 10YR3/1黒褐色土。炭化物粒少量含む。	なし	
SK47	D27	隅丸方形	皿状	N-36° -E	98	72	14	単層, 10YR3/1黒褐色土。炭化物粒少量含む。	土: 坏(内黒)1	
SK48	D27	円形	鍋底状	N-9° -W	84	74	28	単層, 10YR3/3暗褐色土。	土: 甕1	
SK50	D27	円形	鍋底状	N-24° -E	129	116	95	4層, 人為堆積。	土: 坏(内黒)5, 甕3	
SK51	L23	円形	皿状	N-50° -E	90	84	13	単層, 10YR3/3暗褐色土。	土: 坏(内黒)1, 甕1	
SK52	B27・28	円形	鍋底状	N-65° -W	135	125	39	6層, 自然堆積。下層に焼土, 炭化物	なし	
SK53	D29	円形	皿状	N-75° -W	113	111	22	単層, 10YR3/3暗褐色土。	繩: 深鉢1, 土: 坏1・坏(内黒)1, 甕2, 須: 坏1	
SK55	I27	円形	鍋底状	N-36° -E	103	94	27	単層, 10YR3/3暗褐色土。	陶: 不明1	
SK56	H28	円形	皿状	N-62° -W	62	56	19	単層, 10YR3/2黒褐色土。ロームブロック多量含む。柱穴か。	土: 甕1	
SK57	H28, I28	円形	鍋底状	—	57	57	23	単層, 10YR3/2黒褐色土。ロームブロック多量含む。柱穴か。	土: 甕1, 須: 甕1	
SK58	I28	(円形)	鍋底状	—	54	(54)	28	SI68と重複。単層, 10YR3/2黒褐色土。ロームブロック多量含む。柱穴か。	なし	
SK59	D30	円形	皿状	N-44° -W	112	108	15	単層, 10YR3/3暗褐色土。	なし	
SK60	I26・27	円形	皿状	N-77° -E	131	(131)	16	単層, 10YR3/3暗褐色土。	土: 高台付坏1・甕4, 磁: 碗1	

(5) 溝跡 (第193図, 写真図版24)

検出位置はB区J20～22グリッドである。西側は調査区外に延び、J22グリッド地点では一旦途切れている。SI50と重複するものの、全体に耕作によるトレンチャーの攪乱を受けているため、切り合いからの新旧関係を確認することができなかった。掘り方は逆台形を呈し、規模は現存値で全長9.26m, 上端部の最大幅0.61m, 底の最大幅0.42m, 深さ8～17cmである。走行方向はN-80°



第 193 図 SD01

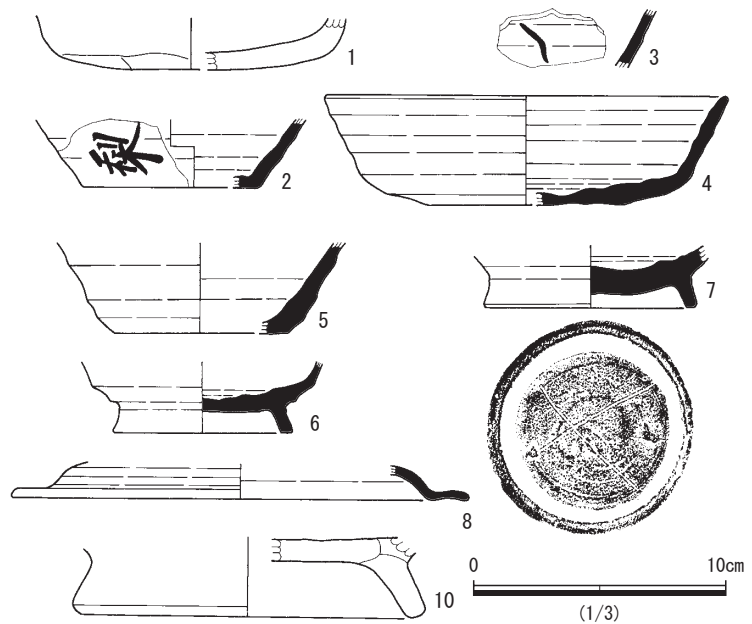
—Wを示し、覆土は黒褐色土を主体としている。

遺物は、土師器坏と土師器甕の小破片が各1点のみ出土し、時期は不明である。

(6) 遺構外出土遺物 (第194・195図, 第26・27表, 写真図版52)

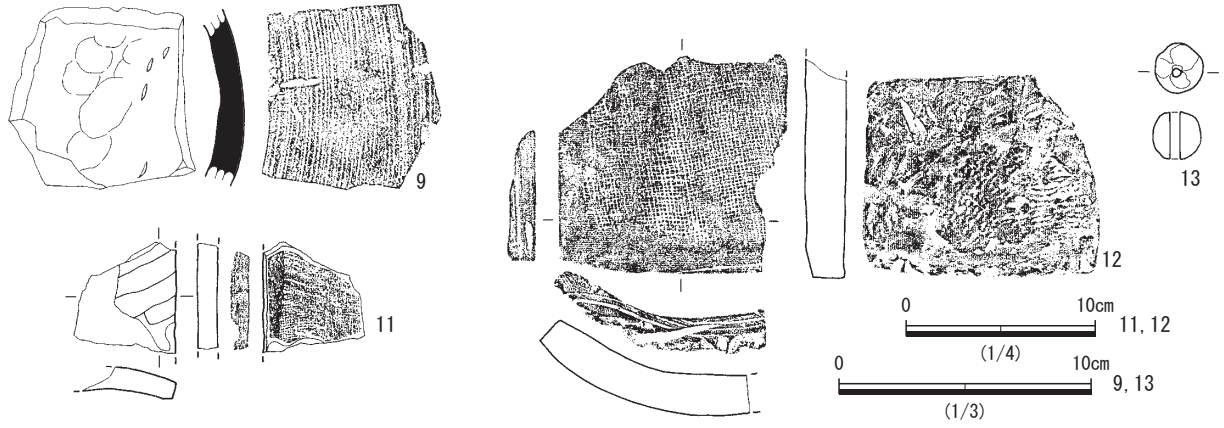
ここでは、遺構に伴わないグリッドからの採集遺物を中心に取り上げた。

1はSI62検出面から出土した坏類の底部片とみられるが、須恵器にしては非常に軟質な胎土である。2・3はA区から採集された須恵器坏の体部～底部片で、胎土から同一個体の可能性がある。2の体部に描かれた墨書は、SI08出土の須恵器坏2の墨書に類似する。1及び4以降はB区から採集された遺物になる。4・5は須恵器坏で、4は胎土から新治窯産の製品と考えられ、底部の調整技法は回転ヘラケズリで二次底部面を持つ。6・7はともに木葉下窯産とみられる胎土の高台付坏で、7の外表面は赤い発色を呈している。8は須恵器蓋の口縁部片は、端部が水平に折り曲げられた新治窯産の製品である。9はカキ目が施された瓶類の体部片である。10は大型の高台部を持つロクロ成形の土師器であるが、接地面が面取りされていない。土器以外では、11・12の瓦がある。12は平瓦で、単縄叩きの調整である。一方、11は薄い仕上がりで湾曲が小さく、熨斗瓦ではないかと思われる。13は土製品・土玉で、本調査区で出土した中では小さめである。 (高野)



第 194 図 奈良・平安時代遺構外出土遺物(1)

第3章 調査の成果

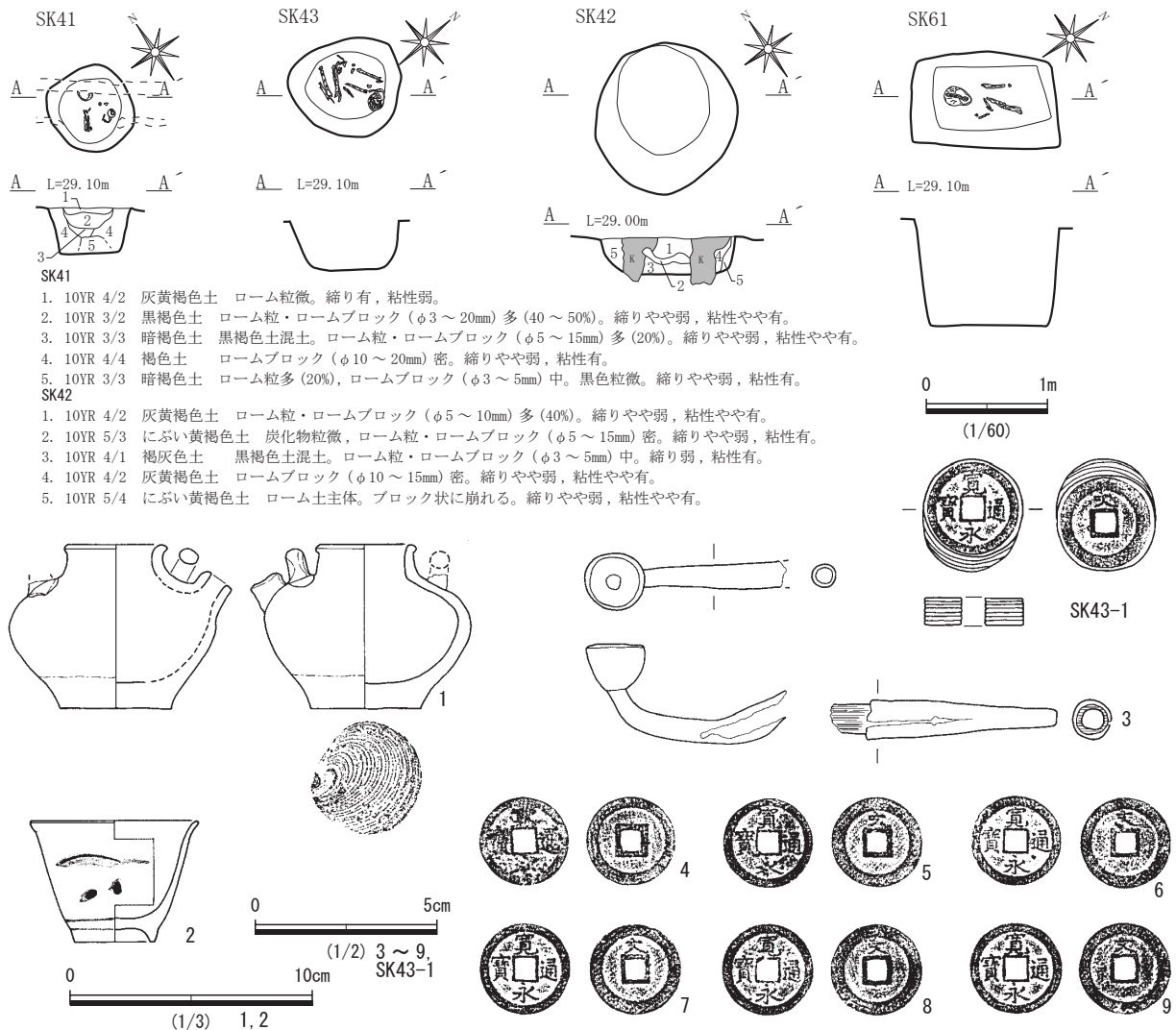


第195図 奈良・平安時代遺構外出土遺物(2)

第5節 近世

(1) 土坑墓(第196図, 第23・31・32表, 写真図版24)

近世の土坑墓はSK41～43・61の4基である。いずれも人骨が検出されたが、耕作による攪乱を受け半分近くが人骨とともに消失してしまっている。確認された4基はB区の台地縁辺部に位置し、SK41の1基のみI 26グリッドにあって離れてはいるものの、SK42・43・61はD 30・31, E 30グリッド



- SK41
- 10YR 4/2 灰黄褐色土 ローム粒微。縮り有, 粘性弱。
 - 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック(φ3～20mm)多(40～50%)。縮りやや弱, 粘性やや有。
 - 10YR 3/3 暗褐色土 黒褐色土混土。ローム粒・ロームブロック(φ5～15mm)多(20%)。縮りやや弱, 粘性やや有。
 - 10YR 4/4 褐色土 ロームブロック(φ10～20mm)密。縮りやや弱, 粘性有。
 - 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒多(20%), ロームブロック(φ3～5mm)中。黒色粒微。縮りやや弱, 粘性有。
- SK42
- 10YR 4/2 灰黄褐色土 ローム粒・ロームブロック(φ5～10mm)多(40%)。縮りやや弱, 粘性やや有。
 - 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 炭化物粒微, ローム粒・ロームブロック(φ5～15mm)密。縮りやや弱, 粘性有。
 - 10YR 4/1 褐灰色土 黒褐色土混土。ローム粒・ロームブロック(φ3～5mm)中。縮り弱, 粘性有。
 - 10YR 4/2 灰黄褐色土 ロームブロック(φ10～15mm)密。縮りやや弱, 粘性やや有。
 - 10YR 5/4 にぶい黄褐色土 ローム土主体。ブロック状に崩れる。縮りやや弱, 粘性やや有。

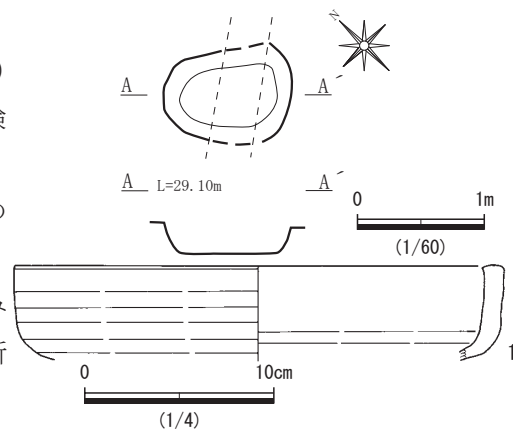
第196図 SK41～43・61, SK41, 43出土遺物

ドにあってほぼ等間隔に近接し、全て直線上にならぶような配置である。それぞれの形状及び埋葬形式は、SK41～43が円筒形の土坑であることから、円形木棺早桶を用いた座位屈葬で遺骸が安置されたとみられるのに対し、SK61は長軸方向をN-34°-Eを持つ長方形であることから、長方形木棺を用いた、仰臥屈葬または横位屈葬であったと考えられる。覆土は前者がロームブロックを多く含んだ複雑な堆積層であるのに対し、後者は締りの弱い褐灰色土の単層である。出土遺物にも違いが認められ、SK41～43からは銭貨（寛永通宝）、煙管が出土し、SK41では近世陶磁器も副葬されていたが、SK61では遺物が出土していない。以上のような埋葬形態や副葬品の違いから時期差がともなう可能性がある。

(2) その他の土坑と出土遺物 (第197図・第23表)

近世の遺構は、土坑墓としてあげた以外にSK62が検出された。形態は楕円形で遺物は出土しなかったものの、覆土の状態が近世墓に非常に近かったことから、該期の土坑と判断した。

遺構外の遺物の中には、SI33の覆土中から焙烙とみられる瓦質土器1が出土した。形態から17世紀代の所産と考えられる。



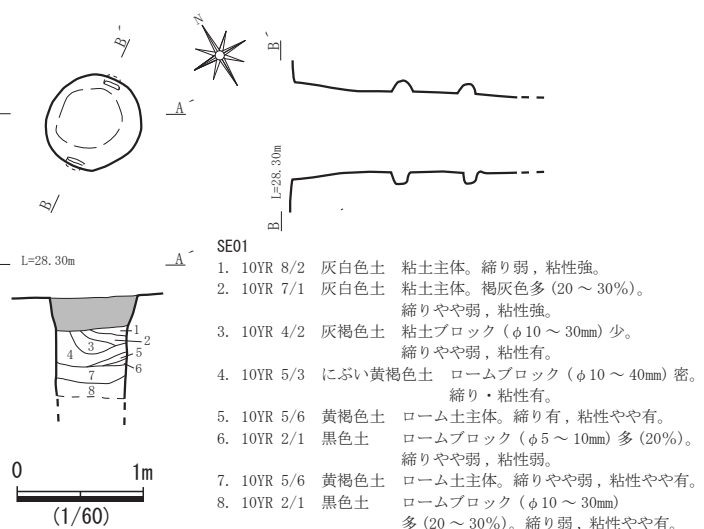
第197図 SK62・近世遺構外出土遺物

第23表 近世土坑一覧表 (近世)

遺構名	位置 (グリッド)	形状		長軸方向	規模 (cm)			重複・覆土・特徴・その他	出土遺物	備考
		平面	断面		長軸	短軸	深さ			
SK41	I26	円形	鍋底状	—	73	73	41	5層、人為堆積。近世墓。人骨あり。	陶：土瓶1, 磁：小杯、煙管1, 銭貨6(寛永通宝)	
SK42	E30	円形	鍋底状	N-44°-E	125	114	30	5層、人為堆積。近世墓。人骨あり。	なし	
SK43	D31	楕円形	鍋底状	N-46°-E	93	71	38	単層、10YR4/2灰黄褐色土、ロームブロック多量含む。近世墓。人骨あり。	銭貨6(寛永通宝)	
SK61	D30・E30	長方形	箱状	N-32°-E	121	80	83	単層。近世墓。人骨あり。	なし	
SK62	D30	楕円形	鍋底状	N-51°-W	102	68	26	単層、10YR4/2灰黄褐色土、ロームブロック多量含む。SK61覆土に類似。	なし	

(3) 井戸跡 (第198図, 写真図版23)

検出位置はB区P15グリッドである。上部は全体に耕作によるトレンチャーの攪乱を受けている。形態は円筒形を呈した素掘りの井戸で、粘土層まで掘り抜いているとみられるが、標高26.4m地点で湧水したため調査を断念した。開口部の規模は径7.70m、深さは現存値で1.10mを測る。覆土は上部で灰白色粘土を主体とした層が堆積し、中層以下はローム土・ロームブロックを含有した人為的な埋め戻し堆積となっている。北西側と



第198図 SE01

南東側の壁面には上下二段の足掛けが穿たれる。上段の足掛けは標高27.4m、下段の標高は26.9m、それぞれの足掛けの規模は高さ12～19cm、幅14～15cmである。

遺物は出土せず、時期は不明であるが、足掛けは近世以降の井戸跡によく見られることから近世期の可能性があると判断した。

(高野)

第3章 調査の成果

第24表 出土遺物観察表（縄文時代土器）

遺構番号	図面番号	種類 器種	口径器 高底径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調 (外面/内面)	焼成	備考
SI89	1	縄文 深鉢	(19.8) —	口縁～胴部片。内外面ともにミガキをかけ、胴部外面は櫛歯状工具によるまばらな条線文を縦方向に施す。	透明・白色砂粒, 針状物	7.5YR5/4にぶい褐 10YR6/4にぶい黄橙	普通	称名寺2～ 堀之内1
SI89	2	縄文 深鉢	(2.7) —	胴部片。櫛歯状工具によるまばらな条線文を縦方向に施す。	透明・白色砂粒, 白色砂 礫	5YR6/6橙 7.5YR4/2灰褐	普通	称名寺2～ 堀之内1
SI89	3	縄文 深鉢	(2.5) —	胴部片。縦方向の細い沈線を施す。	透明・白色砂粒多, 透明・ 白色砂礫	5YR5/6明赤褐 7.5YR6/6橙	普通	称名寺2
SI89	4	縄文 深鉢	(3.5) —	胴部片。単節LR縄文を施文。	透明・白色砂粒	7.5YR4/3褐 10YR7/4にぶい黄橙	普通	堀之内1
SI89	5	縄文 深鉢	(2.7) —	胴部片。単節LR縄文を斜方向に施文。	透明・灰色砂粒	10YR6/4にぶい黄橙 10YR6/6明黄褐	普通	堀之内1
SI89	6	縄文 深鉢	(2.5) (7.2)	胴部下端～底部片。胴部下端は縦方向のミガキ。	透明砂粒, 白色粒多, 角 閃石・輝石類, 針状物	10YR4/2灰黄褐 5YR5/6明赤褐	やや 不良	後期前葉
SK03	1	縄文 深鉢	(10.7) —	胴部片。外面は縦方向の単節LR縄文を施文後、縦方向にミガキを入れる。内面は斜方向のミガキ。	透明・白色砂粒, 白色砂 礫少, 針状物微	2.5YR4/4にぶい赤褐	やや 不良	後期
SK07	3	縄文 深鉢	(5.5) —	胴部片。沈線間に単節LR縄文を充填施文。内面はミガキ。	透明・白色砂粒多, 透明・ 白色砂礫	5YR5/6明赤褐	普通	堀之内1
SK07	4	縄文 深鉢	(4.6) —	胴部片。磨消縄文で文様を描く。地紋は単節LR縄文。内面はミガキ。	白色砂粒, 角閃石・輝石 類, 針状物微	7.5YR6/8橙	やや 良好	堀之内1
SK07	5	縄文 深鉢	(7.2) —	胴部片。単節LR縄文を縦方向に施文。内面は縦方向のミガキ。	透明・白色砂粒, 白色砂 礫	10YR6/4にぶい黄橙	普通	後期前葉
SK07	6	縄文 深鉢	(3.7) —	胴部片。単節LR縄文を縦方向に施文。内面はミガキ。	透明・白色砂粒, 角閃石・ 輝石類	7.5YR6/4にぶい橙	普通	後期前葉
SK18	7	縄文 深鉢	(11.8) —	口縁～胴部片。小突起を設け、突起上は沈線、突起直下は穿孔。口縁部直下は沈線を巡らせ、穿孔両側は円形刺突文。胴部は横方向の単節LR縄文施文後、突起下は縦沈線の懸垂文で数単位を施す。懸垂文間は波状沈線。	透明・白色・灰色砂粒, 角 閃石・輝石類	10YR6/4にぶい黄橙	普通	堀之内1
SK18	8	縄文 深鉢	(4.2) —	口縁部片。無文口縁に押圧を加えた隆帯を施す。	透明・白色砂粒, 砂礫	5YR4/4にぶい赤褐	普通	称名寺2
SK18	9	縄文 深鉢	(5.0) —	胴部片。横方向の単節LR縄文施文後、縦沈線を施す。	透明・白色砂粒, 角閃石・ 輝石類, 砂礫多	2.5YR5/6明赤褐	普通	堀之内1
SK18	10	縄文 深鉢	(5.2) —	胴部片。縦方向の単節LR縄文施文後、縦沈線を施す。	透明・白色砂粒, 細砂礫 多	7.5YR6/6橙	普通	堀之内1
SK18	11	縄文 深鉢	(6.7) —	胴部片。櫛歯状工具による縦方向の条線文。内面はミガキ。	白色砂粒, 針状物	7.5YR5/6明褐	普通	称名寺2～ 堀之内1
SK18	12	縄文 深鉢	(3.6) —	胴部片。縦・斜方向の沈線で幾何状文様を描く。内面は丁寧なミガキ。	透明・白色砂粒, 透明砂 礫	10YR6/4にぶい黄橙	普通	称名寺2～ 堀之内1
SK18	13	縄文 深鉢	(4.0) —	胴部片。縦・斜方向の細い沈線で幾何状文様を描く。内面はミガキ。	透明・白色砂粒, 黒色粒	7.5YR6/4にぶい橙	普通	称名寺2～ 堀之内1
SK19	14	縄文 深鉢	(5.1) —	胴部片。櫛歯状工具により流水状の文様を描く。	透明・白色砂粒多, 砂礫	7.5YR6/6橙	普通	称名寺2～ 堀之内1
SK20	16	縄文 深鉢	(3.7) —	胴部片。櫛歯状工具により流水状の文様を描く。	透明・白色砂粒	7.5YR6/6橙	普通	称名寺2～ 堀之内1
SK24	17	縄文 深鉢	(9.7) —	胴部片。無文にための沈線を施す。	透明・白色砂礫, 白色砂 礫	7.5YR4/2灰褐	普通	称名寺2～ 堀之内1
SK44	18	縄文 深鉢	(6.2) —	口縁部片。環状把手及び小突起を持つ。口縁部直下は沈線を巡らせ、さらに沈線で文様を描く。	透明砂粒, 白色粒多	7.5YR6/8橙	普通	称名寺2
SK44	19	縄文 深鉢	(5.2) —	環状把手部。刺突列を1列施し、両側面は円形刺突文を沈線スリットで結ぶ。	透明・白色砂粒	5YR6/6橙	普通	称名寺2
SK44	20	縄文 深鉢	(4.1) —	口縁部付近の破片。隆沈線で円形刺突文を結ぶ。	透明・白色砂粒, 細砂礫 多	7.5YR5/6明褐	普通	網取1
SK44	21	縄文 深鉢	(3.9) —	胴部片。2本単位の沈線で文様を描き、沈線間に刺突列を施す。	透明・白色砂粒多, 細砂 粒多	7.5YR3/3暗褐 7.5YR5/6明褐	普通	称名寺2
SK44	22	縄文 深鉢	(5.5) —	胴部片。磨り消し縄文で沈線内縄文は単節LR縄文。	透明・白色砂粒多	5YR4/3にぶい赤褐	普通	称名寺1

遺構番号	図面番号	種類器種	口径器高底径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調(外面/内面)	焼成	備考
SK44	23	縄文深鉢	(6.0)	口縁部付近の破片。口唇部欠失、折り返し口縁で折り返し部は無文。地文は単節LR縄文。	透明砂粒, 白色砂粒多, 細砂粒多	5YR5/6明赤褐	普通	後期前葉
SK65	25	縄文深鉢	(5.8)	胴部片。無文にための沈線で曲線状の文様を描く。	透明・白色粒, 透明・白色砂礫	7.5YR6/6橙	普通	後期前葉
SK65	26	縄文深鉢	(7.1)	口縁部片。全体に横方向の単節LR縄文を施文。	透明・灰色砂粒多, 白色砂礫	10YR5/3にぶい黄褐	普通	後期前葉
SK65	27	縄文深鉢	(3.3)	体部片。縄文を不定方向に施文。施文されるのは多条縄文か。	透明粒, 透明・白色砂礫	7.5YR4/2灰褐	普通	後期前葉
遺構外	1	縄文深鉢	(5.4)	波状口縁の波頂部片。口縁直下を隆帯で区画し、区画内は縦の集合沈線。縦方向の単節LR縄文施文後、V字状の隆帯を貼り付け両側をなぞる。	透明砂粒, 白色粒, 白色砂礫	10YR5/2灰黄褐 10YR7/3にぶい黄橙	普通	SI10内出土 堀之内1
遺構外	2	縄文深鉢	(4.2)	口縁部片。円形状の装飾を貼り付け、形状に沿った沈線、横に円形刺突文を施す。	白色砂粒多, 白色砂礫	7.5YR6/6橙	普通	SI09内出土 網取1
遺構外	3	縄文深鉢	(5.7)	緩い波状口縁。波頂部直下に円形文。口縁部直下は沈線で区画し無文。以下沈線で文様を描く。内面は横方向のミガキ。	透明・白色・灰色砂礫多	10YR6/4にぶい黄橙	普通	SI25内出土 堀之内1
遺構外	4	縄文深鉢	(3.6)	口縁部片。口縁直下の円形文を中心に2本単位の沈線で文様を描く。地文は縄文。	透明・灰色砂粒, 角閃石・輝石類, 白色・灰色砂礫	7.5YR7/6橙	普通	SI39内出土 堀之内1
遺構外	5	縄文深鉢	(5.0)	緩い波状口縁部片。円形文を中心に2本単位の沈線で文様を描く。	透明・白色・灰色砂粒, 角閃石・輝石類	5YR6/6橙	普通	SI21内出土 堀之内1
遺構外	6	縄文深鉢	(4.0)	口縁部片。口縁直下に施した円形文を中心に沈線で文様を描く。地文は縄文。	透明・白色砂粒, 白色砂礫	10YR5/3にぶい黄褐 5YR6/6橙	普通	SI31内出土 堀之内1
遺構外	7	縄文深鉢	(2.1)	口縁部片。口縁直下に押し引文を巡らせ、刺突文を施す。	透明・白色砂粒	7.5YR6/6橙	普通	SI24内出土 堀之内1
遺構外	8	縄文深鉢	(4.1)	口縁部片。口縁直下に沈線を巡らせ、円形文を中心に沈線で文様を描く。地文は単節LR縄文。	透明・白色・灰色砂粒	5YR4/3にぶい赤褐 7.5YR5/6明褐	普通	SI47内出土 堀之内1
遺構外	9	縄文深鉢	(3.0)	口縁部片。口縁直下に沈線を巡らせ、円形刺突文、沈線で文様を描く。地文は単節LR縄文。	透明砂粒, 白色粒多, 白色砂礫	10YR6/4にぶい黄橙	普通	SI47内出土 堀之内1
遺構外	10	縄文深鉢	(3.6)	口縁部片。口縁直下に沈線を巡らせ、以下沈線で文様を描く。地文は縄文か。	透明・白色砂粒多, 角閃石・輝石類	10YR7/6明黄褐	普通	SI60内出土 堀之内1
遺構外	11	縄文深鉢	(4.4)	口縁部片。口唇部及び口縁直下に2条の沈線を巡らす。地文は縄文で施文後にナデか。	透明砂粒, 白色粒, 灰色砂礫	10YR5/4にぶい黄褐	普通	SI25内出土 堀之内1
遺構外	12	縄文深鉢	(4.5)	口縁部片。口唇部は外削ぎ状で面取り。地文は縄文か。	透明・白色砂粒, 灰色粒	10YR7/4にぶい黄橙	普通	SI49内出土 堀之内1
遺構外	13	縄文深鉢	(5.8)	口縁部片。口縁内面直下は浅い沈線が巡る。外面は沈線で幾何状の文様を描き、沈線内に充填縄文を施す。	白色・灰色砂粒多, 透明・灰色砂礫	10YR6/4にぶい黄橙	普通	SI49内出土 堀之内1
遺構外	14	縄文深鉢	(6.0)	胴部片。地文単節LR縄文に沈線で文様を描く。内面は縦方向の丁寧なミガキ。	透明・白色・灰色砂粒	7.5YR6/6橙	普通	SI49内出土 堀之内1
遺構外	15	縄文深鉢	(5.6)	胴部片。地文は反燃縄文に沈線で文様を描く。	透明・白色・灰色砂粒	5YR6/6橙 7.5YR6/4にぶい橙	普通	SI25内出土 堀之内1
遺構外	16	縄文深鉢	(4.5)	胴部片。2本単位の沈線で蛇行文様を描く。	白色・灰色砂粒, 白色砂礫	10YR5/4にぶい黄褐	普通	SI24内出土 堀之内1
遺構外	17	縄文深鉢	(4.4)	胴部片。地文単節LR縄文に沈線で蛇行文様を描く。	透明・白色砂粒, 角閃石・輝石類	10YR7/6明黄褐	普通	SI26内出土 堀之内1
遺構外	18	縄文深鉢	(4.0)	胴部片。地文単節LR縄文に沈線で文様を描く。	白色・灰色砂粒	10YR7/6明黄褐	普通	SI21内出土 称名寺か
遺構外	19	縄文深鉢	(3.8)	胴部片。押圧を加えた隆帯を垂下させる。文様は櫛歯状工具による条線文。	透明砂粒, 白色粒, 角閃石・輝石類	7.5YR6/6橙 5YR4/6赤褐	普通	SI24内出土 堀之内1
遺構外	20	縄文深鉢	(4.0)	胴部片。櫛歯状工具による条線文を描く。	透明・白色砂粒, 白色・灰色砂礫	10YR5/6黄褐 5YR4/6赤褐	普通	SI24内出土 称名寺2～ 堀之内1
遺構外	21	縄文深鉢	(3.7)	胴部片。地文単節LR縄文に沈線で文様を描く。	細砂粒多, 白色・灰色砂礫少	7.5YR7/6橙 10YR7/4にぶい黄橙	普通	SI21内出土 堀之内1
遺構外	22	縄文深鉢	(5.6)	胴部片。地文単節LR縄文に沈線で文様を描く。内面は縦方向の丁寧なミガキ。	透明砂粒, 白色・灰色砂礫	7.5YR6/4にぶい橙	普通	SI25内出土 堀之内1

第3章 調査の成果

遺構番号	図面番号	種類器種	口径器高底径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調(外面/内面)	焼成	備考
遺構外	23	縄文深鉢	— (5.0)	胴部片。櫛歯状工具による条線文を描く。	細砂粒, 透明・白色砂粒	5YR4/6赤褐 10YR5/6黄褐	普通	SI24内出土 称名寺2～ 堀之内1
遺構外	24	縄文深鉢	— (4.6)	波状口縁部片。沈線で文様を描き, 沈線間は単節LR縄文を充填。	白色砂粒, 角閃石・輝石類	10YR7/4にぶい黄橙	普通	SI81内出土 称名寺2
遺構外	25	縄文深鉢	— (4.8)	口縁部片。口縁直下に結節細文。	透明・白色・灰色砂粒多, 針状物微	5YR4/6赤褐 5YR6/6橙	やや不良	SI21内出土 称名寺2～ 堀之内1
遺構外	26	縄文深鉢	— (3.6)	緩い波状の口縁部片。全体に単節LR縄文を施文。	砂粒多, 砂礫多	10YR4/2灰黄褐 10YR7/4にぶい黄橙	やや不良	SI24内出土 称名寺2～ 堀之内1
遺構外	27	縄文深鉢	— (3.0)	口縁部片。全体に多条縄文を施文。	透明・白色砂粒	7.5YR5/4にぶい褐	普通	SI25内出土 称名寺2～ 堀之内1
遺構外	28	縄文深鉢	— (3.0)	口縁部片。全体に細い原体による無節Rを施文。	透明・白色砂粒	5YR4/8赤褐 5YR2/1黒褐	やや良好	SI41内出土 称名寺2～ 堀之内1
遺構外	29	縄文深鉢	— (4.7)	口縁部片。口唇部は面取り。地文は無節L縄文。	白色・灰色砂礫, 角閃石・輝石類, 針状物微	5YR6/6橙	普通	SI35内出土 称名寺2～ 堀之内1
遺構外	30	縄文深鉢	— (5.4)	胴部片。附加条第1種縄文を施文。	透明・白色粒, 砂礫	7.5YR6/6橙	普通	SI61内出土 称名寺2～ 堀之内1
遺構外	31	縄文深鉢	— (3.4)	口縁部片。櫛歯状工具による条線文を施す。	透明砂粒多, 砂礫	2.5YR4/6赤褐 10YR7/6明黄褐	普通	SI24内出土 称名寺2～ 堀之内1
遺構外	32	縄文深鉢	— (4.0)	胴部片。細かい沈線で文様を描く。	透明・白色砂粒, 針状物極微	7.5YR4/2灰褐	普通	Pit028内出土 称名寺2～ 堀之内1
遺構外	33	縄文深鉢	— (2.7)	胴部片。細かい沈線で文様を描く。	透明・白色砂粒	7.5YR6/6橙	普通	SI21内出土 称名寺2～ 堀之内1
遺構外	34	縄文深鉢	— (3.1)	胴部片。細かい沈線で文様を描く。	透明・白色砂粒, 角閃石・輝石類	5YR4/6赤褐 5YR5/6明赤褐	普通	SI21内出土 称名寺2～ 堀之内1
遺構外	35	縄文浅鉢	— (6.6)	口縁部片。口縁の内面直下は稜を持ち, 外面は貼り付け痕が残る。	金雲母, 白色・灰色砂礫多	7.5YR5/4にぶい褐	普通	SI14内出土 阿玉台
遺構外	37	縄文深鉢	— (4.6) (8.0)	胴部下端～底部片。胴部は無文で縦方向の密なミガキ。下端部はわずかに突出。底部は器面荒れ。	透明・白色砂粒, 白色砂礫	2.5YR5/6明赤褐	やや不良	SI25内出土
遺構外	38	縄文深鉢	— (4.8) (10.0)	底部片。内面欠失。胴部下端は突出する。底面は網代痕。	白色粒多, 黒色粒	7.5YR6/6橙	普通	SI15内出土

第25表 出土遺物観察表(弥生時代土器)

遺構番号	図面番号	種類器種	口径器高底径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調(外面/内面)	焼成	備考
SB11	1	弥生壺	— (2.8)	胴部片。附加条第1種縄文を施文。内面剥離。	透明・白色砂粒, 灰色砂礫	10YR5/2灰黄褐	普通	Pit267出土
SB11	2	弥生壺	— (3.0)	胴部片。附加条第1種縄文を施文。内面荒れ。	雲母, 透明・白色砂礫多	10YR6/3にぶい黄橙	普通	Pit267出土
SB11	3	弥生壺	— (2.3) (11.0)	胴部下端～底部片。胴部は附加条第1種縄文, 底部は木葉痕。	透明・白色砂粒, 白色・灰色砂礫	10YR6/4にぶい黄橙	普通	Pit267出土

第26表 出土遺物観察表（奈良・平安時代土器）

遺構番号	図面番号	種類器種	口径器高底径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調(外面/内面)	焼成	備考
SI01	1	土師器 坏	— (1.4) (7.0)	体部下端～底部片。ロクロ成形。体部下端から底部は回転ヘラケズリ。内面黒色処理。密なミガキ(底部1方向)。	雲母微, 透明・白色砂粒多	7.5YR4/1褐灰	良好	
SI01	2	須恵器 坏	— (2.8) (6.4)	体部下端～底部片。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ後ナデ。切離部わずかに残存。	透明砂粒多, 針状物多	7.5YR4/2灰褐 10YR5/3にぶい黄褐	普通	
SI01	3	須恵器 坏	— (3.3) (7.2)	体部から底部片。ロクロ成形。底部は切離し後未調整。	チャート, 白色砂礫	5Y5/1灰	良好 堅緻	
SI01	4	須恵器 坏	— (3.2) (6.5)	体部～底部片。ロクロ成形。底部はナデ調整。	チャート, 白色砂礫, 黒色砂少	2.5Y6/2灰黄	良好	
SI01	5	須恵器 坏	— (3.8) (7.0)	体部～底部片。ロクロ成形。底部はナデ調整。	チャート, 黒色粒, 白色粒	2.5Y6/2灰黄	良好	
SI01	6	土師器 椀	(13.6) (4.0) —	口縁～体部片。全体に摩耗。ロクロ成形。内面黒色処理。	透明・白色砂粒多, 白色・灰色砂礫少	7.5YR7/4にぶい橙	やや 良好	
SI01	7	土師器 椀	— (2.6) 6.5	体部下端～底部片。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。内面黒色処理。密なミガキ(体部横方向か)。内外面ともに摩耗し内面は一部剥落。	チャート, 白色砂粒, 針状物多	7.5YR6/6橙	やや 良好	
SI01	8	土師器 甕	(18.0) (6.0) —	口縁部～胴部片。口縁部はヨコナデ。口唇部ツマミ上げ。胴部は内外面ともにナデ調整で、外面わずかにケズリの痕跡あり。	雲母, 砂礫	5YR6/6橙	やや 良好	
SI02	1	土師器 坏	13.4 4.3 7.2	ほぼ完形。口縁部一部欠失。ロクロ成形。体部下端から底部は手持ちヘラケズリ。内面黒色処理。密なミガキ(体部横方向, 底部不定方向)。	雲母細粒, 透明・白色砂粒多, 白色透明砂礫微	7.5YR6/4にぶい橙	良好	
SI02	2	土師器 坏	12.8 3.8 6.0	70～80%存。ロクロ成形。体部下端から底部は回転ヘラケズリ。内面黒色処理。密なミガキ(体部横方向, 底部1方向か)。	透明砂粒, 灰色粒, 針状物	7.5TR5/3にぶい褐	やや 良好	
SI02	3	土師器 坏	(13.2) 4.5 7.0	50～60%存。ロクロ成形。体部下端から底部は回転ヘラケズリ。内面黒色処理。密なミガキ(体部横方向→斜方向, 底部1方向)。	透明砂粒, 黒色粒, 白色砂礫, 針状物微	7.5YR5/3にぶい褐	良好	
SI02	4	土師器 坏	(14.6) 3.9 (8.0)	口縁～底部片。ロクロ成形。体部下端のヘラケズリは手持ちか。内面は未調整。	白色砂粒, 黒色粒少, 針状物少	5YR5/6明赤褐	やや 良好	
SI02	5	須恵器 高台付坏	— (2.8) (10.2)	底部片。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート, 白色砂礫, 黒色粒, 針状物	N5/ 灰 2.5Y5/1黄灰	良好 堅緻	
SI02	6	土師器 甕	(16.6) (7.7) —	口縁～上半片。口縁部はヨコナデ。胴部外面はナデ, 内面はヘラナデ。	透明砂粒, 雲母, 砂礫	7.5YR6/4にぶい橙	普通	
SI02	7	須恵器 鉢	(35.5) (17.9) —	口縁～体部片。ロクロ成形。口唇部は面取り。	チャート, 白色砂礫少, 黒色粒, 針状物少	N5/ 灰 5Y5/1灰	良好 堅緻	
SI02	8	須恵器 壺	— (4.4) (11.0)	体部下端～底部片。ロクロ成形。体部下端には接合部をナデ消したヘラ状工具の痕跡。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート, 白色砂礫, 黒色粒	5Y6/2灰オリーブ 5Y5/1灰	良好 堅緻	
SI03	1	土師器 坏	(13.8) (3.3) —	口縁部片。内外面ともにヨコナデ。	透明・白色砂粒, 砂礫, 黒色粒	7.5YR6/6橙 5YR5/6明赤褐	やや 良好	
SI03	2	土師器 坏	(14.0) (2.0) —	口縁～体部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。体部は外面がヨコナデ, 内面はまばらな放射状のミガキ。	透明砂粒, 白色砂礫	7.5YR7/4にぶい橙 7.5YR6/4にぶい橙	やや 良好	
SI03	3	須恵器 坏	(13.8) 5.1 (6.0)	口縁～底部。20～30%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラ切り後未調整。内面底部に墨書「+」。	砂礫, 黒色粒	2.5Y6/2灰黄	良好	
SI03	4	須恵器 坏	— (2.0) (6.0)	体部下端～底部片。ロクロ成形。底部は回転ヘラ切り後未調整。	透明砂粒, 白色砂礫, 針状物	2.5Y4/2暗灰黄	良好 堅緻	
SI03	5	須恵器 蓋	— (2.5) —	天井部30～40%存。口径3.0cm。高さ1.0cmで上面がくぼむ。天井部はロクロ成形で、回転ヘラケズリ。	雲母, 砂礫多	2.5Y7/2灰黄	普通	新治窯産
SI03	6	須恵器 蓋	— (2.2) —	天井部20～30%存。口径3.8cm。高さ0.7cmで上面がくぼみ、首の部分が若干すぼむ。天井部はロクロ成形で、回転ヘラケズリ。	雲母, 砂礫多	2.5Y7/3浅黄	普通	新治窯産
SI03	7	土師器 鉢か	— (4.4) —	成形不明。外面は器面荒れ。内面は縦方向の密なミガキ。	白色砂粒, 砂礫多	7.5YR5/4にぶい褐	普通	
SI05	1	土師器 坏	(15.8) (3.5) —	口縁～体部片。ロクロ成形。体部下半は回転ヘラケズリ。内面黒色処理。密なミガキ(体部横方向)。黒色処理は外面口縁部まで及ぶ。	透明砂粒, 灰色砂礫, 針状物	10YR6/3にぶい黄橙	やや 良好	
SI05	2	土師器 高台付皿	(14.6) (2.6) —	60～70%存。高台部大部分欠失。内外面ともに摩耗。ロクロ成形。内面は黒色処理で1方向のミガキがわずかに認められる。	透明・白色砂粒, 灰色砂礫, 針状物微	7.5YR6/6橙	普通	
SI05	3	土師器 甕	(20.2) (3.6) —	口縁部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。口唇部は強いツマミ上げ。	雲母, 透明・白色砂礫	10YR5/3にぶい黄褐	普通	

第3章 調査の成果

遺構番号	図面番号	種類器種	口径器高底径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調(外面/内面)	焼成	備考
SI05	4	土師器甕	(17.4) (2.4) —	口縁部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。口唇部は強いツマミ上げ。	雲母, 砂礫	5YR4/8赤褐 5YR5/6明赤褐	やや良好	
SI05	5	土師器甕	(18.6) (4.3) —	口縁～頸部片。口縁部はヨコナデで口唇部はツマミ上げ。頸部は目の粗いヘラ状工具でヨコナデ。内面の頸部以外は同様の工具を用いたナデ。	透明砂粒, 白色砂礫多	7.5YR4/3褐	普通	
SI05	6	須恵器鉢	(19.8) (7.3) —	口縁部片。ロクロ成形。口縁部は面取り。体部外面はロクロ回転によるヘラナデ。	白色砂礫多, 針状物	N5/ 灰 7.5Y5/1灰	良好堅緻	
SI05	7	須恵器鉢	— (12.0) (13.6)	体部～底部片。ロクロ成形。体部外面はロクロ回転によるヘラナデ。体部下端及び底部は手持ちヘラケズリ。	白色砂礫, 針状物	N5灰	良好堅緻	
SI05	8	須恵器壺・瓶類	— (4.4) (9.0)	体部下端～底部片。ロクロ成形。体部外面はロクロ回転によるヘラナデ。内面は指頭によるナデか。	チャート, 白色砂礫	7.5YR3/1黒褐 10YR5/1褐灰	良好堅緻	
SI06	1	須恵器長頸壺	— (5.0) —	頸部片。ロクロ成形。外面にヘラ描き。	白色砂礫, 黒色粒微, 針状物	2.5Y4/1黄灰	良好堅緻	
SI07	1	須恵器坏	(16.0) (4.3) —	口縁～体部片。ロクロ成形。	チャート, 白色砂礫, 針状物	2.5Y4/1黄灰	良好堅緻	
SI07	2	土師器皿	13.8 2.2 6.4	70～80%存。ロクロ成形。体部下半から底部は回転ヘラケズリ。内面黒色処理, 密なミガキ(体部横方向, 底部1方向)。	透明・白色砂粒, 灰色・黒色砂礫少, 針状物	7.5YR5/3にぶい褐	良好	
SI07	3	須恵器蓋	— (2.5) —	天井部30～40%存。ロクロ成形。外面は回転ヘラケズリ。摘部は欠失するが, 周囲は貼り付け後ナデ。	チャート, 白色砂礫, 針状物	5Y5/1灰	良好堅緻	
SI07	4	土師器甕	(19.0) (7.0) —	口縁～胴部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部外面はナデ。内面は木目の粗いヘラ状工具によるナデ。	雲母少, 砂礫多	7.5YR5/4にぶい褐	普通	
SI07	5	土師器甕	(25.4) (3.9) —	口縁部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。若干歪む。	雲母少, 透明砂粒	5YR6/6橙	普通	
SI07	6	土師器甕	(12.5) (4.2) —	口縁～胴部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部外面はヨコナデ。内面は木目の粗いヘラ状工具によるヘラナデ。	透明砂粒, 白色粒	5YR5/4にぶい赤褐 5YR2/1黒褐	普通	
SI07	7	土師器甕	(14.2) (5.2) —	口縁～胴部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部外面は横方向ヘラケズリ。内面は木目の粗いヘラ状工具による横方向ヘラナデ。	雲母少, 透明砂粒	5YR5/6明赤褐 5YR3/1黒褐	普通	
SI07	8	土師器甕	— (4.3) (7.8)	胴部下端～底部片。外面はヘラケズリ。底部外面も手持ちヘラケズリ。内面は器面剥落し不明。	透明砂粒, 砂礫	10YR3/2黒褐 7.5YR6/4にぶい橙	普通	
SI07	9	須恵器甕	— (5.0) —	胴部片。外面は格子状のタタキ。内面はヘラナデ。	チャート少, 白色砂礫, 黒色粒多	2.5Y6/2灰黄	良好堅緻	
SI08	1	須恵器坏	14.4 5.0 5.6	70%存。ロクロ成形。体部下端から底部にかけて手持ちヘラケズリ。蛇行状線刻後, 墨書「梨本」。	チャート, 白色砂礫多, 針状物	5Y6/1灰	良好	
SI08	2	須恵器坏	(13.2) 5.9 6.6	50～60%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラ切り離し後, 雑なナデ。刻書「乙」。	チャート, 白色砂礫多, 針状物	5Y5/2灰オリーブ	良好堅緻	
SI08	3	須恵器坏	(14.7) (4.9) —	口縁～体部片。ロクロ成形。	チャート, 白色砂礫多, 針状物	2.5Y6/2灰黄	良好	
SI08	4	須恵器坏	— (3.6) (6.4)	体～底部10～20%存。ロクロ成形。体部下端から底部にかけて手持ちヘラケズリ。底部刻書は「乙」か。体部に墨書「口本」横書き。	チャート, 白色砂礫多, 針状物	7.5Y6/1灰	良好	
SI08	5	須恵器坏	— (2.2) (6.0)	体部下端～底部片。ロクロ成形。底部はナデ調整で周縁手持ちヘラケズリ。線刻あり。	チャート, 白色砂礫, 黒色粒	7.5Y5/1灰	良好堅緻	
SI08	6	須恵器高台付盤	— (2.3) 10.4	体部～底部40%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート, 白色砂礫, 針状物	5Y5/1灰	良好堅緻	
SI08	7	須恵器盤	(16.0) (1.9) —	口縁部片。ロクロ成形。	白色砂礫多, 針状物少	7.5YR5/2灰褐	良好堅緻	
SI08	8	須恵器蓋	— (2.1) —	天井部片。摘径2.8cm, 摘高1.2cm。ロクロ成形。天井部は回転ヘラケズリ。摘は貼り付け後ナデ。	白色砂礫多, 白色粒, 黒色粒, 針状物	7.5Y5/1灰	良好堅緻	
SI08	9	土師器甕	(25.0) (6.2) —	口縁～胴上部片。口縁部は内外面ともにヨコナデで、外部は胴部まで及ぶ。胴部内面は木目の粗いヘラ状工具による横位のヘラナデ。	雲母小, 透明砂粒, 白色砂礫	7.5YR5/3にぶい褐 10YR7/4にぶい黄橙	やや良好	
SI08	10	土師器甕	— (2.2) 7.6	底部片。胴部下端は横位のヘラケズリ。底部は木業痕。内面は剥落で調整不明。	雲母, 白色砂礫多	7.5YR5/4にぶい褐	普通	
SI08	11	須恵器甕	(39.2) (14.8) —	口径～胴部片。内外面ともにロクロ使用によるヘラナデ。胴部下端の外面は縦位のヘラケズリ。内面は横位のヘラナデ後指頭によるナデ。把手は貼り付け後周囲をヘラケズリ。	チャート, 白色砂礫, 針状物	2.5Y7/1灰白	やや良好	

遺構番号	図面番号	種類器種	口径器高底径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調(外面/内面)	焼成	備考
SI08	12	須恵器鉢	(32.8) (15.1) —	口縁～胴部片。ロクロ成形。口唇部は面取り。胴部は内外面ともにロクロ使用によるヘラナデ後、下半を斜位のヘラナデ。	チャート、白色砂礫	2.5Y7/2灰黄 2.5Y7/1灰白	良好	
SI09	1	土師器碗	— (1.6) —	底部片。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。内面黒色処理、密なミガキ(不定方向)。	透明砂粒、砂礫少	10YR6/4にぶい黄橙	やや良好	
SI09	2	須恵器高台付坏	— (2.3) (8.0)	底部片。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート、白色砂礫	7.5YR5/3にぶい褐	良好	
SI09	3	土師器甕	(18.8) (3.7) —	口縁部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。	雲母、砂粒多、砂礫	10YR4/3にぶい黄褐	普通	
SI10	1	須恵器高台付坏	16.6 6.1 8.8	ほぼ完存。口縁部の一部を欠失。ロクロ成形。下部下端、底部は回転ヘラケズリで、底部中央に線刻。高台部は貼り付け後ナデで接地区は面取り、体部に墨書「下田山カ」、横書き。内面体部下端から底部にかけて墨書「下カ」。	チャート、白色砂礫、黒色粒、針状物	2.5Y6/3にぶい黄 2.5Y7/4浅黄	やや良好	
SI10	2	須恵器坏	(13.8) 4.8 (7.0)	口縁～底部10～20%存。ロクロ成形。外面は細かいロクロ目が残るが、内面は横方向へ丁寧なナデ消し。底部は手持ちヘラケズリカ。	白色砂礫多、針状物	2.5Y4/2暗灰黄	良好堅緻	
SI10	3	須恵器坏	(13.5) 4.7 (6.0)	口縁～底部10～20%存。ロクロ成形。体部下端から底部は手持ちヘラケズリ。	チャート、白色砂礫多、黒色粒	2.5Y5/1黄灰	良好堅緻	
SI10	4	須恵器高台付坏	— (3.3) (8.0)	底部片。ロクロ成形。高台部は貼り付け後ナデ。	白色砂礫多、針状物	5YR4/2灰褐 7.5YR4/1褐灰	良好堅緻	
SI10	5	土師器甕	(19.8) (21.8) —	口縁～胴部片。口縁部は外面はヨコナデ、内面は不明瞭。胴部は外面がナデで、下半は焼砂が多量に付着し、調整痕は不明。内面は横方向のヘラナデ。	砂粒多、砂礫多	7.5YR6/8橙	やや良好	
SI10	6	土師器甕	(24.0) (10.5) —	口縁～胴部上半。口縁部は内外面ともに不明瞭。胴部は外面がナデ。内面が横方向から斜方向へのヘラナデ。	雲母、透明・白色砂礫多	7.5YR5/4にぶい褐 5YR5/6明赤褐	普通	
SI10	7	土師器甕	(15.0) (9.5) —	口縁～胴部上半。口縁部は外面はヨコナデ、内面は不明瞭。胴部は外面がナデ。内面が横方向のヘラナデ。	雲母微、砂粒多、砂礫	7.5YR5/3にぶい褐 7.5YR6/6橙	やや良好	
SI10	8	須恵器壺	— (5.6) —	体部片。ロクロ成形。外部下端の調整は外面が回転ヘラケズリ。内面はヘラナデで輪痕がわずかに残る。	チャート、白色砂礫多、針状物	10YR5/1灰褐 2.5Y6/1黄灰	良好堅緻	
SI11	1	須恵器盤	(17.0) (2.4) —	口縁～体部片。ロクロ成形。	チャート、白色砂礫多、針状物	7.5YR4/2灰褐	良好堅緻	
SI12	1	須恵器坏	13.2 4.8 6.5	90%存。ロクロ成形。底部は回転切り離し後周縁部をわずかにナデ。切り離し部を中心に「井」の刻書。体部に若干煤付着。	チャート、白色砂礫多、黒色粒、針状物微	5Y5/1灰	良好堅緻	
SI12	2	土師器甕	(14.0) (10.1) —	口縁～胴部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面が縦方向ヘラケズリ。内面が横方向のヘラナデ。	チャート、白色砂礫、針状物	5YR5/6明赤褐	良好	
SI12	3	土師器甕	— (7.5) 8.2	胴部下半～底部片。胴部は外面が縦方向のミガキ。内面が斜めから横方向のヘラナデ。底部は木葉痕で内面は中央が突出。	雲母、白色砂礫多	7.5YR4/3褐	やや良好	
SI13	1	須恵器坏	(10.2) (3.7) (7.0)	口縁部～底部、30～40%存。ロクロ成形。体部下端から底部にかけて回転ヘラケズリ。二次底部面あり。	白色砂礫多、針状物	5Y4/1灰 5Y5/1灰	良好堅緻	
SI13	2	須恵器蓋	15.0 3.7 —	天井部～口縁部、60%存。ロクロ成形。摘みは擬宝珠状。摘径2.4cm、摘高1.4cm。天井部外面は自然釉が厚くかかり調整は不明。端具は短く屈曲。	チャート、白色砂礫、黒色粒多	N6/ 灰	良好堅緻	
SI13	3	土師器甕	(21.5) (4.0) —	口縁部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。	砂粒、白色砂礫多	10YR5/3にぶい黄褐 10YR6/4にぶい黄橙	普通	
SI14	1	須恵器坏	14.0 5.3 6.5	ほぼ完存。口縁部の一部欠失。ロクロ成形。底部は回転ヘラ切り後周縁部を手持ちヘラケズリ。切り離し部残存。体部に墨書「□所カ」あり。	チャート、白色砂礫、白色砂粒	5Y6/1灰	良好堅緻	
SI14	2	須恵器坏	— (2.8) (9.0)	体部～底部片。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。二次底部面あり。	白色砂礫、白色粒多、針状物	5Y5/1灰	良好堅緻	
SI14	3	須恵器盤	— (2.6) (13.2)	底部・高台部片。ロクロ成形。高台部は貼り付け後ナデ。	白色砂礫少、黒色粒、針状物微	5Y6/1灰	良好堅緻	
SI14	4	須恵器盤	(20.0) (2.6) —	口縁～体部下端。体部下端は回転ヘラケズリ。	雲母、砂粒多	2.5Y7/1灰白	普通	新治窯産
SI14	5	須恵器盤	— (4.3) (13.0)	体部～底部、30～40%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート、白色砂礫多、針状物	2.5Y5/1黄灰 2.5Y6/1黄灰	良好堅緻	
SI14	6	土師器甕	(20.0) (18.9) —	口縁部～胴部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面がナデで下半を縦方向のヘラケズリ。内面がヘラナデ。	雲母、白色砂礫多	5YR4/6赤褐 7.5YR5/4にぶい褐	普通	
SI14	7	土師器甕	(20.0) (22.8) —	口縁部～胴部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面がナデで下半が斜方向のヘラケズリ。内面がヘラナデ。	雲母、白色砂礫多	5YR4/6赤褐	普通	

第3章 調査の成果

遺構番号	図面番号	種類器種	口径器高底径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調(外面/内面)	焼成	備考
SI14	8	土師器甕	(19.5) (15.8) —	口縁部～胴部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は内外面ともにヘラナデで頸部から胴部上半にかけては輪積痕が残り、ナデも雑。	雲母, 砂粒多, 砂礫	7.5YR5/3にぶい褐	普通	
SI14	9	土師器甕	(23.0) (14.8) —	口縁部～胴部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は内外面ともにヘラナデで内面の径部は輪積痕が残り、木目の粗いヘラ状工具でのナデ。	雲母, 砂粒, 砂礫多	7.5YR5/4にぶい褐 7.5YR5/6明褐	普通	
SI14	10	土師器甕	— (5.2) (9.0)	胴部～底部片。胴部の外面はヘラケズリ後ミガキか、内面は剥落顕著で不明。底部は木葉痕。	雲母, 砂礫多	7.5YR3/3暗褐	普通	
SI14	11	土師器甕	— (6.2) 8.5	胴部～底部片。胴部は外面が縦方向の密なミガキ。内面がヘラナデ。底部は木葉痕。	雲母, 砂礫多	5YR4/6赤褐	普通	
SI14	12	須恵器甕	(22.0) (13.6) —	口縁部～胴部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面が横方向の平行タタキ。内面が横方向のヘラナデと指頭によるナデ。	雲母, 砂粒多, 砂礫多	N/ 4灰 5Y5/1灰	やや良好	
SI15	1	土師器坏	(12.8) 3.5 —	口縁～底部, 40%存。全体に摩耗顕著で調整痕不明。底部外面にわずかなヘラケズリ痕。内外面ともに黒色処理か。	砂礫多	10YR5/2灰黄褐 10YR3/1黒褐	普通	
SI15	2	土師器坏	(13.1) (2.5) —	口縁～体部片。全体に摩耗顕著で調整痕不明。	砂粒多, 砂礫多	7.5YR6/6橙 5YR5/8明赤褐	普通	
SI15	3	須恵器坏	(11.5) 3.0 —	80～90%存。全体に摩耗顕著。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。	砂粒, 砂礫多, 黒色粒	2.5Y8/1白灰	普通	
SI15	4	須恵器坏	(13.2) 4.4 8.8	70～80%存。ロクロ成形。口縁部外面に自然釉。底部は回転ヘラケズリ後周縁部をナデ。	チャート, 白色砂礫, 黒色粒, 針状物微	5Y5/1灰	良好堅緻	
SI15	5	須恵器坏	(14.3) 4.7 (8.6)	口縁～底部, 30～40%存。ロクロ成形。体部外面全体に自然釉。底部は1方向の丁寧なナデ。	チャート, 白色砂礫, 黒色粒, 針状物少	5Y3/1オリーブ黒 5Y5/2灰オリーブ	良好堅緻	
SI15	6	須恵器高台付坏	(15.4) 5.0 (10.0)	口縁～底部, 30～40%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート, 白色砂礫, 黒色粒, 針状物	5Y5/1灰	良好堅緻	
SI15	7	須恵器高台付坏	(15.0) 5.3 (8.4)	口縁～底部, 40～50%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。体部に縦3本の線刻。	チャート, 白色砂礫	5B5/1青灰	良好堅緻	
SI15	8	須恵器高台付坏	— (2.8) (8.4)	底部片。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。	白色砂粒, 黒色粒	5Y6/1灰 5Y7/1灰白	良好堅緻	
SI15	9	須恵器高台付坏	— (1.8) (7.6)	底部片。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート, 白色砂礫, 針状物微	5Y5/1灰	良好堅緻	
SI15	10	須恵器高台付坏	— (2.5) (7.0)	体部下端～底部, 20～30%存。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート少, 白色砂礫, 黒色粒	2.5Y6/2灰黄	良好堅緻	
SI15	11	須恵器盤	— (4.3) (14.4)	体部～底部, 40～50%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート, 白色砂礫, 黒色粒, 針状物少	2.5Y6/2灰黄	良好堅緻	
SI15	12	須恵器盤	— (3.4) (15.0)	体部部～底部, 30～40%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート, 白色砂礫, 黒色粒, 針状物少	2.5Y6/1黄灰	良好堅緻	
SI15	13	須恵器蓋	15.4 (2.5) —	完存。ロクロ成形。摘径4.2cm, 摘高0.7cm。天井部は不整形な回転ヘラケズリ。口端部はやや外側へ屈曲。	チャート, 白色粒, 白色砂礫	10YR7/6明黄褐	良好未還元	
SI15	14	須恵器蓋	— (1.8) —	天井部片。摘径3.8cm, 摘高0.7cm。天井部は不整形な回転ヘラケズリ。	雲母, 砂礫多	2.5Y7/1灰白	良好	新治窯産か
SI15	15	須恵器蓋	(17.6) 5.0 —	60～70%存。摘径3.0cm, 摘高1.3cm。首部分がすぼむ。天井部の摘周辺が回転ヘラケズリ。口端部は内側へ屈曲。	チャート, 白色砂礫, 黒色粒, 針状物微	2.5Y6/1黄灰	良好堅緻	
SI15	16	須恵器蓋	— (2.4) —	天井部片。ロクロ成形。摘径2.4cm, 摘高1.0cm。天井部は回転ヘラケズリ。	チャート, 白色砂礫, 針状物少	5YR5/4にぶい赤褐	良好堅緻	
SI15	17	須恵器蓋	(16.2) 3.5 —	30～40%存。ロクロ成形。摘径2.6cm, 摘高1.0cm。天井部は回転ヘラケズリ。口端部は短く屈曲。	チャート, 白色砂礫, 針状物少	5Y5/1灰	良好	
SI15	18	須恵器蓋	— (3.0) —	天井部片。ロクロ成形。摘部は擬宝珠状で、貼り付け後周囲を強くナデ。摘径3.0cm, 摘高1.7cm。天井部は回転ヘラケズリ。	チャート, 白色砂礫, 黒色粒, 針状物少	2.5Y6/1黄灰	良好堅緻	
SI15	19	須恵器蓋	(15.0) (2.3) —	天井部～端部, 10～20%存。天井部上半は回転ヘラケズリ。口端部は外側へ屈曲。	白色砂粒, 黒色粒	5Y7/1灰白	良好堅緻	
SI15	20	須恵器高坏	— (3.4) —	坏部片。ロクロ成形。脚部は大部分欠失で、貼り付けた基部の一部が残存。透かし整形のためのヘラ痕あり。	白色砂礫, 黒色粒多, 針状物	2.5Y6/1黄灰	良好堅緻	
SI15	21	土師器甕	18.8 (11.0) —	口縁～胴部片上半。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面がほぼ縦方向のヘラケズリ。内面が丁寧なナデ。	透明・白色砂粒	5YR5/6明赤褐	やや良好	

遺構番号	図面番号	種類器種	口径器高底径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調(外面/内面)	焼成	備考
SI15	22	土師器甕	(25.0) (16.8) —	口縁～胴部片。口唇部はヨコナデで、口縁から胴部にかけての外面はナデ、内面はヘラナデ。	雲母, 砂礫	7.5YR5/3にぶい褐	普通	
SI15	23	土師器甕	(23.8) (12.4) —	口縁～胴部上半。口縁部外面はヨコナデ。胴部は内外面ともにヘラナデ。	雲母多, 砂礫多	7.5YR5/3にぶい褐 7.5YR4/4褐	普通	
SI15	24	須恵器甕	— (17.4) —	胴部片。外面は不定方向の平行タタキで自然釉がかかり、炉体内砂の塊が凝固・付着する。内面はヘラナデ後、指頭によるナデ。	チャート, 白色砂礫, 黒色粒多	2.5Y4/1黄灰 2.5Y7/2灰黄	良好堅緻	
SI15	25	須恵器長頸壺	— (12.2) —	頸部片。ロクロ成形。体部との接合部あり。外面一部に自然釉。	チャート, 黒色粒多	2.5Y7/2灰黄	良好堅緻	
SI15	26	須恵器壺瓶類	— (4.9) —	体部片上半部。ロクロ成形。外面に自然釉。	白色砂礫, 黒色粒多	5Y7/2灰白 2.5Y7/2灰黄	良好堅緻	
SI15	27	須恵器円面硯	— (2.7) —	硯部片。外堤径13.4cm, 内堤径9.7cm, 外堤高・内堤高ともに1.0cmで垂直に貼り付ける。陸面は平坦。ロクロ成形で回転ヘラケズリ。上位突帯は0.6cm程の突出で先細り。	チャート少, 白色砂礫, 砂礫多, 針状物極微	2.5Y5/1黄灰	やや良好	
SI15	28	須恵器円面硯	— (7.2) (26.8)	脚部片。ロクロ成形, ヨコナデ。透かしは長方形窓枠状, 透かしの大きさは3.0×2.5cm。下位突帯は三角状で0.6cm程突出。脚端部は須恵器甕口縁の作り。内外面に自然釉がかかる。	白色砂礫, 黒色粒多, 針状物微	2.5Y5/2暗灰黄 2.5Y5/1黄灰	良好堅緻	
SI16	1	須恵器坏	(13.0) (3.9) —	口縁部～体部片。ロクロ成形。	チャート, 白色粒, 黒色粒, 針状物微	5Y6/1灰	良好堅緻	
SI16	2	須恵器坏	— (2.2) (8.0)	体部下端～底部片。ロクロ成形。底部は手持ちヘラケズリ。	チャート, 白色粒, 黒色粒, 針状物	2.5Y6/1黄灰	良好堅緻	
SI16	3	須恵器蓋	(16.8) (2.0) —	口縁部片。ロクロ成形。端部は短く下方へ屈曲。	砂粒, 白色砂礫多	10YR5/2灰黄褐 5Y6/1灰	良好堅緻	
SI16	4	土師器甕	(19.0) (3.7) —	口縁部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。	雲母多, 白色砂礫多	7.5YR5/6明褐	やや良好	
SI17	1	須恵器坏	13.9 3.9 10.0	80%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。底部及び内面に墨痕状の汚れあり。	チャート, 白色粒, 白色砂礫, 針状物	7.5YR5/2灰褐	良好堅緻	
SI17	2	須恵器蓋	15.0 (2.8) —	50%存。ロクロ成形。摘径2.8cm, 摘高0.7cm。口端部は短く下方へ屈曲。	チャート, 白色砂礫, 針状物	2.5Y6/1黄灰	良好堅緻	
SI17	3	土師器甕	(24.0) (3.3) —	口縁部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。	雲母, 砂粒, 砂礫多	10YR5/3にぶい黄褐	普通	
SI18	1	須恵器坏	14.0 4.3 8.0	40～50%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラ切り後、周縁部を手持ちヘラケズリ。	チャート, 白色砂礫, 針状物	10YR6/6明黄褐	良好未還元	
SI18	2	土師器盤	(20.0) (1.5) —	口縁部片。内面は黒色処理。横方向のミガキで、黒色処理は外面口縁部まで及ぶ。	白色砂粒, 白色・灰色砂礫, 針状物微	10YR7/6明黄褐	普通	
SI18	3	土師器甕	(22.0) (3.1) —	口縁部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。	透明砂礫, 白色砂礫,	7.5YR5/4にぶい褐 7.5YR5/8明褐	やや不良	
SI19	1	土師器坏	— (1.5) (8.0)	体部下端～底部片。ロクロ成形。体部下端から底部は回転ヘラケズリ。内面は黒色処理, 密なミガキ(体部横方向, 底部1方向)。	白色砂礫, 針状物	7.5YR6/6橙	やや良好	
SI19	2	土師器坏	— (1.3) (8.0)	体部下端～底部片。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。内面は黒色処理, 密なミガキ(体部横方向, 底部1方向)。	砂粒, 白色砂礫, 針状物	10YR7/4にぶい黄橙	やや良好	
SI19	3	須恵器坏	— (3.0) 8.0	体部～底部片。ロクロ成形。体部下端から底部は手持ちヘラケズリ。	チャート, 白色砂礫, 黒色粒, 針状物少	2.5Y6/1黄灰	良好	
SI19	4	土師器甕	(19.0) (5.9) —	口縁～胴上部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は内外面ともにヘラナデ。	雲母, 砂礫多	7.5YR6/4にぶい橙	普通	
SI19	5	土師器甕	(19.6) (6.5) —	口縁～胴部上半。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は内外面ともにナデ。	雲母, 砂粒, 砂礫多	5YR5/4にぶ赤褐	普通	
SI19	6	土師器甕	— (10.0) (6.5)	胴部下端。外面は縦方向のミガキ。内面は横方向のヘラナデで、下部程輪積痕が残る。	雲母, 砂粒多, 砂礫多	7.5YR4/3褐	普通	
SI19	7	須恵器鉢	(24.7) (4.1) —	口縁部片。口唇部は面取り。外面はロクロ使用によるヘラナデ。内面はヨコナデ。	白色砂粒, 白色砂礫, 針状物	5Y4/1灰	良好堅緻	
SI20	1	須恵器坏	14.6 5.0 7.2	80～90%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラ切り後、周縁部をナデ。切り離し部残存。	チャート, 白色砂礫, 針状物多	2.5Y5/2暗灰黄	良好	
SI20	2	須恵器坏	(13.7) 5.2 (7.4)	40～50%存。ロクロ成形。底部周縁はナデ。	チャート, 白色砂礫多, 針状物	10YR5/3にぶい黄褐 10YR4/2灰黄褐	良好	

第3章 調査の成果

遺構番号	図面番号	種類器種	口径器高底径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調(外面/内面)	焼成	備考
SI20	3	須恵器 坏	(13.2) 4.7 (6.8)	40~50%存。ロクロ成形。底部周縁はナデ。	チャート多, 白色砂礫多, 針状物多	5Y6/2灰オリーブ	良好	
SI20	4	須恵器 坏	(14.0) 5.5 6.4	20~30%存。ロクロ成形。底部はテラナデ後, 「×」の刻書。	チャート, 白色砂礫多, 黒色粒, 針状物微	2.5Y6/3にぶい黄	普通	
SI20	5	須恵器 坏	(13.4) 4.5 (6.8)	20~30%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラ切り後, 軽いナデで2条の線刻。	チャート多, 白色砂礫多, 針状物	5Y5/2灰オリーブ	良好	
SI20	6	須恵器 坏	(12.8) (4.7) —	口縁~体部片。ロクロ成形。	チャート, 白色砂礫, 針状物多	5YR5/4にぶい赤褐	良好 堅緻	
SI20	7	須恵器 坏	— (2.8) (7.0)	体部~底部片。ロクロ成形。底部はナデ。	チャート, 白色砂礫, 針状物	5Y6/1灰	良好 堅緻	
SI20	8	須恵器 坏	— (2.7) (8.8)	体部~底部片。ロクロ成形。底部はナデ。二次底部面あり。	白色砂礫少, 黒色粒, 針状物少	N4/ 灰 N6/ 灰	良好 堅緻	
SI20	9	須恵器 盤	(22.0) 3.9 11.0	50~60%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリで歪みあり。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート, 白色砂礫多, 黒色粒, 針状物多	10YR5/2灰黄褐	良好	
SI20	10	須恵器 盤	(21.0) (2.2) —	口縁部片。ロクロ成形。	チャート, 白色砂礫, 黒色粒, 針状物	7.5YR5/3にぶい褐	良好	
SI20	11	土師器 蓋	20.1 4.2 —	ほぼ完存。口縁部一部欠失。ロクロ成形。摘は貼り付け後ナデ。摘径3.2cm, 摘高1.3cm。天井部は回転ヘラケズリ。口端部は短く垂下。内面は黒色処理, 密なミガキ(天井中央部1方向, 周縁横方向)。	透明・白色・灰色砂粒, 赤色粒, 針状物極微	10YR6/3にぶい黄橙	やや 良好	
SI20	12	須恵器 蓋	(17.8) (2.2) —	天井部~口縁部片。ロクロ整形。口縁部は面取り。外面から内面口縁部にかけて自然軸がかかる。	チャート, 白色砂礫多, 黒色粒	5Y4/1灰 7.5Y5/1灰	良好 堅緻	
SI20	13	土師器 甕	(13.5) (6.7) —	口縁~胴部上半。外面はナデ。内面の口縁部はヨコナデ。胴部はヘラナデか。	透明砂粒, 白色砂礫多	2.5YR5/8明赤褐	やや 良好	
SI20	14	土師器 甕	(22.4) (4.8) —	口縁部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。	雲母, 砂礫	7.5YR6/6橙	やや 良好	
SI20	15	土師器 甕	(26.0) (5.9) —	口縁~胴上部。口縁部外面はヨコナデ。胴部はナデ。内面はヘラナデか。	雲母, 砂礫多	5YR5/8明赤褐 7.5YR5/4にぶい褐	やや 良好	
SI21	1	土師器 坏	(13.7) (4.1) —	口縁~体部片。ロクロ成形。内面は黒色処理, 密なミガキ(体部横方向)。	雲母, 砂粒	7.5YR6/6橙	やや 良好	
SI21	2	須恵器 坏	(15.0) 4.8 (7.2)	50%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ後ヘラナデ。直線状の線刻あり。	チャート, 白色砂礫, 針状物	5Y5/1灰	良好 堅緻	
SI21	3	須恵器 高台付坏	(16.3) (4.3) —	口縁~体部下端。ロクロ成形。	チャート, 白色砂粒, 白色砂礫, 針状物	5Y4/1灰 5Y5/2灰オリーブ	良好 堅緻	
SI21	4	土師器 甕	(19.6) (14.1) —	口縁~胴部。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部の外面は上半がナデ, 下半がヘラケズリ。内面は横方向のヘラナデ。	雲母, 砂粒, 砂礫多	7.5YR5/4にぶい褐	普通	
SI21	5	土師器 甕	(19.5) (12.8) —	口縁部~胴部上半。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は内外面ともにヘラナデ。	雲母, 砂粒, 砂礫多	7.5YR5/6明褐 7.5YR5/4にぶい褐	普通	
SI21	6	土師器 甕	(18.8) (10.6) —	口縁~胴部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面がナデ後縦方向のヘラケズリ。内面が横方向のヘラナデ。	チャート, 砂礫, 針状物	7.5YR3/4暗褐 7.5YR4/3褐	普通	
SI21	7	須恵器 小型短頸 壺	(6.2) (5.3) —	口縁~体部片。ロクロ成形。外面肩部, 口縁部内面に自然軸がかかる。	白色砂礫少, 針状物	10YR5/2灰黄褐 7.5YR5/3にぶい褐	良好 堅緻	
SI21	8	須恵器 壺・瓶類	— (1.8) —	肩部片。ロクロ成形。外面には自然軸が厚くかかる。	黒色粒	2.5Y8/1灰白	良好 堅緻	
SI22	1	須恵器 坏	14.0 5.5 8.0	90%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラ切り後ヘラナデで, 体部との接合痕がわずかに残る。「井」の刻書あり。体部及び内面に煤附着。	チャート, 白色砂礫, 針状物多	5YR5/3にぶい赤褐	良好 堅緻	
SI22	2	須恵器 坏	15.0 5.4 8.6	80~90%存。ロクロ成形。体部下端から底部は回転ヘラケズリ。	チャート, 白色砂礫, 黒色粒多, 針状物	5Y6/1灰	良好 堅緻	
SI22	3	須恵器 高台付坏	14.5 5.8 8.5	ほぼ完存。口縁部の一部を欠失。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。ヘラ切り痕が残る。高台部は貼り付け後ナデで, 接合部が残る。	チャート, 白色砂礫, 黒色粒少, 針状物	5Y5/1灰 10YR5/2灰黄褐	良好 堅緻	
SI22	4	須恵器 高台付坏	14.0 5.8 8.5	70~80%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデだが接合痕が明瞭に残る。「十」の刻書あり。	白色砂礫多, 黒色粒少, 針状物多	10YR5/1褐灰	良好	
SI22	5	須恵器 高台付坏	— 4.0 9.8	50~60%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート, 白色砂礫多, 黒色粒少, 針状物	2.5Y5/1黄灰	良好	

遺構番号	図面番号	種類器種	口径器高底径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調(外面/内面)	焼成	備考
SI22	6	須恵器盤	17.8 4.0 11.3	50～60%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリで、ヘラ切り後の切り離し部がわずかに残る。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート、白色砂礫、白色砂粒、針状物	5Y5/2灰オリーブ	良好	
SI22	7	須恵器盤	— (3.4) 11.0	70～80%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリで、切り離し部がわずかに残る。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート、白色砂礫、黒色粒、針状物	5Y6/1灰	良好 堅緻	
SI22	8	土師器甕	20.0 (27.0) —	口縁～胴部、60～70%存。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面上半がナデ、下半が横方向のヘラケズリ後、縦方向のミガキ。内面は斜方向のヘラナデ。	雲母少、砂粒、砂礫	7.5YR6/6橙 5YR5/6明赤褐	普通	
SI22	9	土師器甕	19.0 (28.8) —	口縁～胴部、60～70%存。口縁部は内外面ともにヨコナデで、内面は頭部上からヘラナデ。胴部は外面上半がナデ、下半は斜方向のヘラケズリ後、縦方向のミガキ。内面はナデで下部に輪積痕が残る。	雲母少、砂粒、砂礫	7.5YR5/3にぶい褐	普通	
SI22	10	土師器甕	21.0 (23.0) —	口縁～胴部片、60～70%存。口縁部は内外面ともに不明瞭。胴部は外面上半がヘラナデで工具の当て具痕が斜めに残り、下半が縦方向のミガキ。内面がヘラナデで輪積痕の残りが目立つ。	雲母微、砂粒、砂礫多	7.5YR6/6橙 5YR5/4にぶい赤褐	普通	
SI22	11	須恵器甕	— (7.4) 15.0	胴下部～底部。外面はヘラケズリ後、タタキ。下端はヘラケズリのまま。内面は横方向のヘラナデ。底部は剥離摩耗が顕著で調整不明。	雲母多、砂粒多、砂礫	2.5Y4/1黄灰 2.5Y6/2灰黄	普通	
SI23	1	須恵器杯	14.0 4.8 8.0	ほぼ完存。口縁部をわずかに欠失。底部は回転切り離し後ヘラナデで、体部との接合痕が残る。墨書「所カ」と中央に直線状の線刻。	チャート、白色砂礫多、針状物	2.5Y4/1黄灰	良好	
SI23	2	須恵器杯	14.0 5.3 7.2	70～80%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラ切り後、ヘラナデで、ヘラ切り痕が残る。中央に「大」又は「丈」の刻書あり。	チャート、白色砂礫多、黒色粒、針状物	10Y5/1灰	良好 堅緻	
SI23	3	須恵器杯	13.0 4.8 7.4	70～80%存。ロクロ成形。底部は切り離し後ヘラナデで、切り離し部が残存する。「大」の刻書あり。体部外面に煤付着。	チャート、白色砂礫、透明砂粒、黒色粒	5Y7/1灰白	良好	
SI23	4	須恵器高台付杯	13.5 5.3 8.4	80～90%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後強いナデ。	チャート、白色砂礫、針状物	10YR5/1褐灰 10YR5/2灰黄褐	良好	
SI23	5	須恵器高台付杯	12.9 5.7 7.0	ほぼ完存。口縁部の一部欠失。底部は回転ヘラケズリで「×」の刻書あり。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート、白色砂礫、黒色粒少、針状物	7.5Y5/1灰	良好 堅緻	
SI23	6	須恵器高台付杯	13.6 5.2 9.0	40～50%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後強めのナデ。	チャート、白色砂礫、針状物	7.5YR4/2灰褐	良好	
SI23	7	須恵器高台付杯	13.2 6.0 7.5	90%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。内面に煤付着。	チャート、白色砂礫、黒色粒、針状物	7.5YR7/4にぶい橙 2.5Y6/2灰黄	普通	
SI23	8	須恵器高台付杯	14.5 5.8 8.0	ほぼ完存。口縁部の一部を欠失。口縁部から体部にかけて楕円形状に歪む。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。体部から底部の外面は自然がかかか。	チャート、白色砂礫、黒色粒、針状物	2.5Y5/2暗灰黄	良好 堅緻	
SI23	9	須恵器盤カ	— (3.0) 10.0	体部～底部、70～80%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリで切り離し部が残る。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート、白色砂礫、針状物多	N5/ 灰	良好 堅緻	
SI23	10	須恵器蓋	(19.5) 5.0 —	30～40%存。ロクロ成形。摘径3.0cm、摘高2.0cm。天井部は回転ヘラケズリ。口縁部は短く下方へ屈曲。	チャート、白色砂礫、針状物少	5Y5/1灰	良好	
SI23	11	須恵器高杯	21.8 (5.5) —	杯部片。脚部欠失。ロクロ成形。口端部は屈曲、垂直立ち上げ。体部外面脚部周辺は回転ヘラケズリ。口縁部付近に「木」の刻書あり。脚部は貼り付け後ナデ。四方透かしの切り込み。外面全体に自然釉がかか。	チャート、白色砂礫、黒色粒、針状物微	2.5Y6/3にぶい黄 2.5Y6/2灰黄	良好	
SI23	12	土師器甕	(19.5) (13.0) —	口縁～胴部上半。口唇部はヨコナデ。口縁から胴部は内外面ともにヘラナデ。	雲母、砂礫多	5YR5/6明赤褐 7.5YR5/4にぶい褐	普通	
SI23	13	土師器甕	— (7.3) 8.0	胴下半～底部片。胴部は外面が不定方向のヘラケズリ。内面は剥離し調整不明。底部は木葉痕。	雲母、少砂礫多	5YR4/4にぶい赤褐 不明	普通	
SI24	1	須恵器杯	(14.5) 5.0 (8.0)	口縁～底部片、10～20%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。	チャート、白色砂礫、針状物微	10YR5/1褐灰 5YR5/2灰褐	良好	
SI24	2	須恵器杯	— (3.3) —	体部～底部、50～60%存。ロクロ成形。底部は摩耗で調整不明。	雲母、砂礫多	2.5Y7/3浅黄 2.5Y7/2灰黄	やや 良好	新治窯産
SI24	3	須恵器高台付杯	— (1.3) (10.0)	底部片。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。切り離し後ヘラ状工具で扱られる。高台部は貼り付け後ナデ。	黒色粒、白色粒微	2.5Y7/1灰白	良好 堅緻	
SI24	4	土師器甕	(18.0) (8.5) —	口縁～胴上部。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面がナデ、内面がヘラナデ。	雲母少、砂礫	7.5YR6/6橙 10YR7/6明黄褐	やや 良好	
SI24	5	土師器甕	— (1.7) (8.0)	胴部下端～底部片。胴部下端は斜方向のミガキ。底部は木葉痕。	雲母、砂粒	10YR4/4褐 10YR2/1黒	普通	
SI25	1	土師器杯	(16.0) (4.6) —	口縁～体部片。外面は口縁部がヨコナデ。体部が横方向のヘラケズリ。内面は全体にヨコナデ。	白色砂粒、砂礫少、針状物極微	10YR6/4にぶい黄橙	普通	

第3章 調査の成果

遺構番号	図面番号	種類器種	口径器高底径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調(外面/内面)	焼成	備考
SI25	2	土師器 坏	(16.0) (3.0) —	口縁～体部片。外面は口縁部がヨコナデ。体部が横方向のヘラケズリ。内面は全体にヨコナデ。	白色砂粒, 針状物極微	7.5YR6/6橙 10YR6/4にぶい黄橙	普通	
SI25	3	土師器 坏	(17.0) (2.8) —	口縁～体部片。外面は口縁部がヨコナデ。体部が横方向のヘラケズリ。内面は全体にヨコナデ。	透明・白色砂粒	7.5YR6/8橙	良好	
SI25	4	須恵器 坏	(10.3) (3.6) —	口縁～底部片。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。	雲母, 砂粒, 白色砂礫	2.5Y7/1灰白	やや 良好	新治窯産
SI25	5	須恵器 高台付坏	(14.0) 4.0 9.0	30～40%存。ロクロ成形。口縁部内面には稜を持つ。底部は回転ヘラケズリで切り離し部が挟られる。高台部は貼り付け後ナデ。	黒色粒, 白色粒微	2.5Y7/1灰白	良好 堅緻	
SI25	6	須恵器 蓋	(19.4) (2.4) —	天井～口縁部片。天井部は回転ヘラケズリ。口縁部は水平になり、内面にかえりを持つ。	雲母, 砂礫多	10YR7/1灰白	普通	新治窯産
SI25	7	須恵器 蓋	(14.8) (2.0) —	口縁部片。ロクロ成形。口縁部は短く下方へ屈曲。	黒色粒, 砂礫	N5/ 灰	普通	
SI25	8	土師器 甕	(18.8) (4.7) —	口縁部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。	雲母多, 砂礫多	10YR5/4にぶい黄褐 10YR3/2黒褐	普通	
SI26	1	土師器 坏	(13.8) (3.9) —	口縁～体部片。外面は口縁部がヨコナデ。体部がヘラケズリ。内面は全体にヨコナデ。外面口縁部から内面にかけて黒色処理(漆塗りか)	透明砂粒	10YR4/2灰黄褐 10YR3/2黒褐	普通	
SI26	2	土師器 坏	(16.0) (6.4) —	口縁～体部片。外面は器面の剥落・摩耗で調整不明。内面は全体にヨコナデ。	白色砂粒, 砂礫	2.5YR5/6明赤褐 7.5YR5/6明褐	普通	
SI26	3	須恵器 坏	(3.0) (7.0) —	体部～底部片。ロクロ成形。底部は手持ちヘラケズリ。	チャート, 白色砂礫, 白色砂粒	7.5YR5/3にぶい褐 7.5YR5/4にぶい褐	やや 良好	
SI26	4	須恵器 坏	(2.5) —	体部～底部片。底部は回転ヘラケズリ。回転ヘラケズリ。二次底部面あり。	白色砂礫, 白色砂粒, 針状物少	N4/ 灰 N5/ 灰	良好 堅緻	
SI26	5	須恵器 高台付坏	(2.5) (8.2) —	底部片。底部は回転ヘラケズリで、切り離し部が残る。2条の線刻あり。高台部は貼り付け後ナデ。	白色砂礫, 針状物	10YR5/2灰黄褐	良好	
SI26	6	須恵器 蓋	(16.6) (1.4) —	口縁部片。ロクロ成形。端部外面上部突出。端部は短く屈曲。天井部外面には自然釉がかかる。	白色粒微, 黒色粒	N7/ 灰白 5Y7/1灰白	良好 堅緻	
SI26	7	土師器 甕	(22.6) (3.7) —	口縁部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。	雲母多, 白色砂礫多	7.5YR5/4にぶい褐	普通	
SI26	8	土師器 甕	(25.0) (6.4) —	口縁～胴上部。口縁部は内外面ともにヨコナデ。頸部から胴部の外面はナデ。内面はヘラナデ。	雲母, 白色砂礫多	10YR5/4にぶい黄褐	普通	
SI26	9	土師器 甕	(27.2) 8.4 —	胴部～底部。50～60%存。胴部の外面はヘラナデ後下半を斜方向一縦方向のミガキ。底部は木葉痕。	雲母, 白色砂粒, 白色砂礫	10YR6/4にぶい黄橙	やや 良好	
SI26	10	須恵器 甕	(7.8) —	頸部片。櫛描直線文施文後に、2列の櫛描波状文を横走させる。	白色砂礫, 黒色粒, 針状物	5Y4/1灰 2.5Y5/2暗灰黄	良好	
SI26	11	土師器 甕	(22.8) (11.5) —	胴部～底部片。胴部の外面はナデ後、下半を縦方向のミガキ。内面はナデ。孔端部はヘラケズリ後ヨコナデ。	雲母, 透明・白色砂礫	5YR3/3暗赤褐	普通	
SI27	1	土師器 坏	(1.9) 6.0 —	体部～底部片。体部下端から底部は回転ヘラケズリ。内面黒色処理, 密なミガキ(体部横方向, 底部1方向)。	チャート少, 白色砂礫, 透明・白色砂粒, 針状物微	7.5YR7/6橙	やや 良好	
SI27	2	須恵器 坏	13.7 4.8 6.0	90%存。ロクロ成形。底部はヘラナデ。長短2条の線刻あり。	チャート, 白色砂礫多, 針状物	5YR5/3にぶい赤褐 7.5YR4/1褐灰	良好 堅緻	
SI27	3	須恵器 坏	13.1 4.6 6.2	70～80%存。ロクロ成形で、内面に輪積痕がわずかに残る。底部は1方向の手持ちヘラケズリで、へら描きあり。内面に煤付着。	チャート, 白色砂礫多, 透明砂礫多, 針状物微	10Y4/1灰	やや 良好	
SI27	4	須恵器 坏	13.4 5.7 5.6	80～90%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラ切り後周縁部をヘラナデで、切り離し部が残る。体部下端にも接合痕が残る。体部外面に「子三不」横書き, 底部に「子口家カ」の墨書あり。	チャート多, 白色砂礫多, 針状物	2.5Y6/1黄灰	やや 良好	
SI27	5	土師器 甕	(22.0) (16.2) —	口縁～胴部上半。口唇部はヨコナデ。口縁～胴部は内外面ともにヘラナデ。	雲母, 白色・透明砂礫多	7.5YR6/4にぶい橙	普通	
SI27	6	土師器 甕	(18.5) (6.5) —	口縁～胴上部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部の外面はナデ。内面はヘラナデ。	透明・白色砂粒, 透明砂礫少	7.5YR5/3にぶい褐 7.5YR6/4にぶい橙	やや 良好	
SI27	7	土師器 甕	(17.4) (6.6) —	口縁～胴上部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部の外面はナデ。内面はヘラナデ。	雲母, 白色・透明砂礫多	5YR5/4にぶい赤褐 10YR3/3暗褐	普通	
SI27	8	土師器 甕	(4.0) 5.6 —	胴下部～底部片。胴部の外面は横方向のヘラケズリ。内面はヘラナデ。底部は木葉痕。	雲母, 白色・透明砂礫多	10YR4/3にぶい黄褐	やや 不良	

遺構番号	図面番号	種類器種	口径器高底径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調(外面/内面)	焼成	備考
SI28	1	須恵器 坏	(15.2) 4.7 7.8	60~70%存。ロクロ成形。底部はナデ。体部との接合痕が残る。	チャート, 白色砂礫多, 黒色粒少, 針状物	7.5Y5/1灰	良好 堅緻	
SI28	2	須恵器 坏	(13.2) 5.1 (7.0)	30~40%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラ切り後無調整。体部との接合痕が残る。1条の線刻あり。	チャート, 白色砂礫多, 黒色粒少, 針状物	2.5Y6/1黄灰	良好 堅緻	
SI28	3	須恵器 高台付坏	(13.6) 5.5 8.4	70~80%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリで、1条の線刻あり。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート, 白色砂礫多, 白色砂粒, 針状物	2.5Y5/2暗灰黄	普通	
SI28	4	須恵器 盤	18.0 4.2 10.6	70~80%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート, 白色砂礫, 針 状物	5Y6/1灰	良好 堅緻	
SI28	5	須恵器 盤	(19.2) 4.4 11.6	60~70%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリで、線刻あり。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート, 白色砂礫多, 黒色粒, 針状物	7.5Y5/1灰	良好 堅緻	
SI28	6	須恵器 盤	— (3.7) 13.6	体部~底部, 80~90%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリでうすく線刻あり。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート, 白色砂礫, 黒 色粒, 針状物	10Y6/1灰 10Y5/1灰	良好 堅緻	
SI28	7	須恵器 蓋	(15.4) 3.5 —	60~70%存。摘部は擬宝珠状で頂部は平坦。摘径2.8cm, 摘高1.0cm。天井部は回転ヘラケズリ。口端部は短く下方へ屈曲。	白色砂礫, 白色砂粒, 黒 色粒	10Y5/1灰	良好 堅緻	
SI28	8	土師器 甕	(21.8) (9.0) —	口縁~胴上部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面がナデ, 内面がヘラナデ。	雲母, 白色・透明砂礫多	7.5YR6/3にぶい褐 10YR7/4にぶい黄橙	普通	
SI28	9	土師器 甕	— (14.0) (10.0)	胴部下半~底部片。胴部は外面が縦方向のミガキ。内面は斜方向のヘラナデ。底部は木葉痕。	雲母, 透明・白色砂礫多	7.5YR4/2灰褐 10YR7/4にぶい黄橙	普通	
SI29	1	土師器 坏	(13.8) 4.5 5.8	40~50%存。摩耗が顕著で調整不明。口縁部内面にロクロ目があり, ロクロ成形か。内面黒色処理か。	透明・白色砂粒多, 透明 砂礫少, 白色・灰色砂礫	10YR6/3にぶい黄橙	普通	
SI29	2	土師器 坏	(13.8) 4.8 (6.6)	口縁~底部片。ロクロ成形。底部から体部下端は回転ヘラケズリ。内面黒色処理, 密なミガキ(体部横方向, 底部1方向)。	透明・白色砂粒多, 透明・ 白色・灰色砂礫, 針状物	7.5YR5/4にぶい褐	やや 良好	
SI29	3	土師器 坏	13.4 4.5 5.8	70~80%存。ロクロ成形。体部下端から底部にかけて回転ヘラケズリ。内面黒色処理。	透明・白色砂粒多, 灰色 砂礫, 針状物極微	5YR5/6明赤褐	やや 良好	
SI29	4	須恵器 坏	13.4 4.5 6.4	50~60%存。体部外面のロクロナデ以外は摩耗が顕著で、調整不明。内面に煤の染み。	チャート多, 白色砂粒 多, 針状物	10YR7/3にぶい黄橙 2.5Y8/2灰白	やや 不良	
SI29	5	土師器 高台付皿	(12.4) 2.8 (4.8)	30~40%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。内面黒色処理, ミガキ(砂粒胎土で磨耗が著しく, ミガキ方向は不明)。	透明・白色砂粒多, 白色・ 透明砂礫少, 針状物極微	5YR5/6明赤褐	普通	
SI29	6	土師器 甕	(23.4) (15.8) —	口縁部~胴部上半, 口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面が中位以下ヘラケズリ, 内面がナデ。	透明・白色砂粒多, 白色 砂礫多	5YR5/6明赤褐 5YR5/4にぶい赤褐	普通	
SI29	7	土師器 甕	(13.0) (13.0) —	口縁~胴部片。口縁部はヨコナデ, それ以外は全体に砂粒胎土のため, 調整は不明瞭。	透明・白色砂粒多, 黒色 粒	5YR5/6明赤褐	普通	
SI29	8	土師器 甕	(19.6) (4.9) —	口縁~胴部片。口縁~胴部にかけて内外面ともにヨコナデ。	透明・白色砂粒多, 透明・ 白色砂礫多	5YR5/6明赤褐 5YR4/6赤褐	普通	
SI29	9	土師器 甕	(13.8) (5.1) —	口縁~胴上部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は内外面ともにナデ。	透明・白色砂粒多, 針状 物微	7.5YR5/4にぶい褐 7.5YR6/6橙	普通	
SI29	10	土師器 甕	(19.0) (5.3) —	口縁~胴上部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は内外面ともにナデ。	透明・白色砂粒多, 白色 砂礫	7.5YR6/4にぶい橙 7.5YR7/6橙	普通	
SI29	11	須恵器 甕	(26.5) (3.3) —	口縁部片。内外面ともにヨコナデ。	白色砂礫, 針状物少	N5/ 灰 10Y6/1灰	良好 堅緻	
SI29	12	土師器 甕	(29.0) (18.7) —	口縁~胴部片。口唇部は面取り。胴部は外面がロクロナデ, 内面がナデで輪積痕が目立つ。把手は指頭で成形し, 胴部に貼り付け, 周囲をナデ。	チャート, 白色砂礫, 透 明・白色砂粒多, 針状物 多	7.5YR5/4にぶい褐 5YR5/6明赤褐	普通	
SI29	13	須恵器 甕	29.8 28.0 16.0	60~70%存。口唇部は面取り。胴部は内外面ともにロクロナデで、外面は下端を横方向のヘラケズリ。内面は下半以下がヘラナデと指頭によるナデ。下端をヘラケズリ。底部孔は2孔。	チャート, 白色砂礫, 白 色砂粒	10YR7/3にぶい黄橙	普通	
SI29	14	須恵器 長頸壺	— (14.5) 6.8	頸部下端~底部, 40~50%存。ロクロ成形。頸部は体部内面に接合痕。体部外面の下端はヘラケズリ。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。外面には自然釉がかかる。	チャート少, 白色砂礫, 黒色粒多, 針状物微	2.5Y6/1黄灰	良好 堅緻	
SI30	1	土師器 坏	(13.0) (4.0) —	口縁~体部片。外面は口縁部がヨコナデ, 体部がヘラケズリ。内面は全体にヨコナデ後, 不定方向のヘラナデ。	白色砂粒, 砂礫	10YR6/4にぶい黄橙	普通	
SI30	2	土師器 坏	(15.0) (3.0) —	口縁部片。外面は口縁部がヨコナデ, 体部がヘラケズリ。内面は全体にヨコナデ。	雲母, 透明・白色砂粒	10YR6/4にぶい黄橙	やや 良好	
SI30	3	須恵器 坏	14.5 4.0 9.0	60~70%存。ロクロ成形。底部は周縁部を回転ヘラケズリ。二次底部面あり。体部外面に自然釉がかかる。	チャート, 白色砂礫, 黒 色粒, 針状物少	2.5Y7/1灰白	良好 堅緻	

第3章 調査の成果

遺構番号	図面番号	種類器種	口径器高底径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調(外面/内面)	焼成	備考
SI30	4	須恵器 坏	11.2 3.5 7.5	90%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。二次底部面わずかにあり。口縁部外面に自然軸がかかる。	チャート, 白色砂礫, 黒色粒少, 針状物少	5Y6/1灰	良好 堅緻	
SI30	5	須恵器 坏	(12.8) (2.9) —	口縁~底部片。ロクロ成形。底部は手持ちヘラケズリ。二次底部面あり。	チャート, 白色砂礫多	N5/ 灰	良好 堅緻	
SI30	6	土師器 甕	(22.0) (3.5) —	口縁部片。内外面ともにヨコナデ。内面は輪積痕が残る。	雲母少, 透明砂粒, 白色砂礫多	7.5YR6/6橙	普通	
SI30	7	土師器 甕	(19.8) (2.7) —	口縁部片。内外面ともにヨコナデ。外面に赤彩。内面に輪積痕が残る。	透明砂粒, 砂礫少	10YR6/6明黄褐	普通	
SI31	1	須恵器 坏	(13.0) 4.5 8.6	50~60%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラ切り後周縁部ナデ。	チャート, 白色砂礫, 針状物	10YR7/1灰白	普通	
SI31	2	須恵器 坏	(14.0) 4.3 (8.2)	口縁~底部片。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。二次底部面あり。	チャート, 白色砂礫, 針状物	5Y6/1灰	良好 堅緻	
SI32	1	須恵器 坏	(13.9) 4.8 7.5	40~50%存。ロクロ成形。底部はナデで線刻あり。	チャート, 白色砂礫, 針状物	5Y6/1灰	良好	
SI32	2	須恵器 坏	(12.0) 4.0 (6.8)	40~50%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ後, 周縁部をナデ。切り離し部残存。	チャート, 白色砂礫, 黒色粒, 針状物微	N5/ 灰	良好 堅緻	
SI32	3	須恵器 高台付坏	(15.0) 5.7 (8.0)	20~30%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。口縁部と内面底部に若干の自然軸。	白色砂礫, 透明砂粒少, 針状物	2.5YR4/3にぶい赤褐	良好 堅緻	
SI32	4	須恵器 盤	19.0 4.0 10.6	70~80%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。口縁部内面のみ自然軸がかかる。	チャート, 白色砂礫, 黒色粒, 針状物少	2.5Y5/1黄灰 2.5Y6/2灰黄	良好	
SI32	5	土師器 甕	(16.0) (6.0) —	口縁~胴上部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面がナデ, 内面がヘラナデ。	雲母少, 白色砂礫多	5YR4/4にぶい赤褐	普通	
SI32	6	土師器 甕	(17.6) (6.1) —	口縁部~胴上部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面がナデ, 内面がヘラナデ。	雲母, 透明砂粒, 透明・白色砂礫多	2.5YR4/6赤褐 5YR4/6赤褐	普通	
SI32	7	土師器 甕	(11.0) (11.0) —	口縁~胴部。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面がナデ。内面は木目の粗いヘラ状工具によるヘラナデ。	雲母, 透明砂粒, 透明・白色砂礫多	5YR4/3にぶい赤褐	不良	
SI32	8	須恵器 甕	(28.0) (21.8) (12.0)	口縁~底部, 20%存。口縁部は内外面ともにヨコナデで, 外面はタタキ後にヨコナデか。胴部は外面が横方向の平行タタキで, 下端は斜方向へのヘラケズリ。内面はヘラナデ, 指頭によるナデで輪積痕が目立つ。底部孔周辺はヘラケズリで煤付着。	雲母, 白色砂礫	5Y5/1灰 5Y6/1灰	やや 良好	新治窯産
SI32	9	須恵器 甕	— (16.0) 15.0	胴部~底部片。胴部は外面が横方向の平行タタキ, 内面は斜~横方向のヘラケズリ。内面がヘラナデ, 指頭によるナデ。下端は特に指頭による調整主体。底部周辺はヘラケズリ。底部は十文字の5孔。	雲母, 白色砂礫	5Y5/1灰 5Y6/1灰	やや 良好	新治窯産
SI32	10	須恵器 長頸壺	(11.0) (1.8) —	口縁部片。ロクロ成形。	白色砂礫, 黒色粒, 針状物微	N5/ 灰 10Y5/1灰	良好 堅緻	
SI33	1	土師器 坏	(17.0) 7.1 (9.6)	30~40%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。内面黒色処理, 密なミガキ(体部横方向, 底部1方向)。	透明砂粒, 灰色粒, 針状物微	10YR7/4にぶい黄橙	普通	
SI33	2	須恵器 坏	(14.2) 5.3 7.8	50~60%存。ロクロ成形。底部はヘラナデで, ヘラ切り痕が残る。	チャート, 白色砂礫, 針状物	2.5Y7/1灰白 2.5Y7/2灰黄	良好	
SI33	3	須恵器 坏	— (3.7) 6.6	体部~底部, 30~40%存。ロクロ成形。体部下端から底部にかけて手持ちヘラケズリ。	チャート, 白色砂礫, 黒色粒, 針状物微	5Y6/1灰	良好 堅緻	
SI33	4	須恵器 坏	— (4.1) (8.0)	体部~底部片。ロクロ成形。底部はナデ。二次底部面あり。	チャート少, 透明砂粒, 針状物微	2.5Y6/2灰黄	良好 堅緻	
SI33	5	須恵器 坏	(11.8) 3.8 (7.8)	30~40%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリか。線刻あり。	チャート, 白色砂礫, 黒色粒, 針状物少	2.5Y6/1黄灰 5Y7/1灰白	良好 堅緻	
SI33	6	土師器 甕	(23.8) 32.7 (9.0)	50~60%存。口縁部は内倍面ともにヨコナデ。胴部は外面が上半部でヘラの当て具痕が横方向に連続し, 下半部で斜方向のミガキ。内面が横方向のヘラナデ。胴下半部に焼成後の穿孔あり。底部は木葉痕。	雲母, 透明砂粒, 白色砂礫	5YR4/4にぶい赤褐	普通	
SI33	7	土師器 甕	15.2 16.1 7.2	60~70%存。器面荒れ。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面は下部が横方向のヘラケズリ。内面は黒色処理で上半部は縦方向のヘラナデ, 底部は1方向のヘラケズリ。	透明・白色砂礫多	2.5YR4/6赤褐	不良	
SI33	8	土師器 甕	— (10.9) (11.2)	胴部~底部片。胴部は外面が斜方向のヘラケズリ, 内面が横方向のヘラナデで, 輪積痕が目立つ。底部周辺はヘラケズリ。	透明砂粒, 白色砂礫多	7.5YR6/6橙	普通	
SI34	1	須恵器 坏	(14.7) 5.0 (7.6)	40~50%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ後一部ヘラナデ。線刻あり。	チャート, 白色砂礫, 黒色粒少, 針状物多	2.5Y5/1黄灰	良好 堅緻	

遺構番号	図面番号	種類器種	口径器高底径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調(外面/内面)	焼成	備考
SI34	2	須恵器 坏	(13.8) 5.1 (7.0)	30~40%存。ロクロ成形。底部はナデ。	チャート, 白色砂礫, 黒色粒少, 針状物微	2.5Y7/2灰黄	良好	
SI34	3	須恵器 坏	(11.8) 4.1 (6.0)	30~40%存。ロクロ成形。底部は周縁部をヘラナデで切り離し部が残る。	チャート, 白色砂礫多, 黒色粒	N5/ 灰	良好 堅緻	
SI34	4	須恵器 坏	(17.8) (5.3) -	口縁~体部下端, 20~30%存。ロクロ成形。	チャート, 白色砂礫, 黒色粒, 針状物微	2.5Y6/1黄灰	良好 堅緻	
SI34	5	須恵器 高台付坏	(14.0) 5.9 8.4	40~50%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート, 白色砂礫, 針状物	5YR5/4にぶい赤褐	良好 堅緻	
SI34	6	須恵器 蓋	(20.6) (2.3) -	口端部片。ロクロ成形。端部は短く下方へ屈曲。内面に煤付着。	チャート, 白色砂礫, 透明砂粒, 針状物	7.5YR5/3にぶい褐 7.5YR5/1褐灰	やや 良好	
SI34	7	土師器 甕	(18.8) (4.7) -	口縁~胴上部片。口縁部の外面はヨコナデ, 内面は不明瞭。胴部はナデ。	雲母, 透明・白色砂礫多	7.5YR5/3にぶい褐	普通	
SI34	8	土師器 甕	(14.8) (4.6) -	口縁~胴上部片。内外面ともにナデ。内面に輪積痕が残る。	雲母少, 透明・白色砂礫多	2.5YR4/6赤褐 5YR4/4にぶい赤褐	普通	
SI34	9	須恵器 甕	- (4.6) -	口縁~胴上部。内外面ともにヨコナデで, 胴部外面にはタタキ。	雲母, 白色砂礫多	2.5Y5/1黄灰	やや 良好	新治窯産か
SI34	10	須恵器 壺	- (6.5) (13.6)	体下部~底部片。ロクロ成形。体部は外面が横方向のミガキ, 内面がヘラナデ。底部はナデか, 高台部は貼り付け後ナデ。	白色砂礫, 白色砂粒, 針状物少	2.5Y4/3オリーブ褐 2.5Y5/2暗灰黄	やや 良好	
SI35	1	土師器 坏	13.4 4.9 -	70~80%存。外面は口縁部がヨコナデで, 黒色処理。体部から底部にかけてヘラケズリ。内面は全体にヨコナデで黒色処理。放射状のミガキ。	透明・白色砂粒多, 赤色スコリア微	10YR5/2灰黄褐 10YR3/1黒褐	やや 不良	
SI35	2	土師器 坏	(14.0) (2.9) -	口縁~体部片。外面は口縁部がヨコナデ, 体部がヘラケズリ。内面は全体にヨコナデで外面口縁から内面は漆塗りによる黒色処理。	透明・白色砂粒多, 針状物微	10YR5/3にぶい黄褐 10YR4/2灰黄褐	普通	
SI35	3	土師器 坏	(13.0) (3.3) -	口縁~底部片。外面は口縁部がヨコナデ, 体部がヘラケズリ。内面は全体にヨコナデ。口唇部に細い沈線が入る。	雲母, 白色砂粒, 白色砂礫多	10YR5/3にぶい黄褐	普通	
SI35	4	土師器 坏	(12.8) (4.2) -	口縁~体部片。外面は口縁部がヨコナデ, 体部がヘラケズリ。内面は全体にヨコナデ。	透明・白色砂粒	10YR6/4にぶい黄橙 10YR5/2灰黄褐	普通	
SI35	5	須恵器 坏	(14.0) (3.2) -	口縁~体部下端片。ロクロ成形。	白色砂粒少, 黒色粒	10Y6/1灰	良好 堅緻	
SI35	6	土師器 甕	20.7 20.1 8.6	ほぼ完存。口縁部と胴部をわずかに欠失。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面が縦方向のミガキ, 内面がヘラナデ。底部外面は1方向のミガキ。	雲母(細粒), 白色砂礫, 灰色砂礫	10YR7/4にぶい黄橙 10YR6/4にぶい黄橙	普通	
SI35	7	土師器 甕	(19.5) (3.8) -	口縁部片。内外面ともにヨコナデ。	透明・白色砂粒, 白色砂礫	10YR7/4にぶい黄橙	やや 良好	
SI35	8	土師器 甕	(23.8) (3.1) -	口縁部片。内外面ともにヨコナデ。	雲母少, 白色砂粒	10YR4/2灰黄褐 10YR7/4にぶい黄橙	普通	
SI36	1	土師器 坏	13.8 4.5 6.2	80~90%存。ロクロ成形。体部下端から底部は回転ヘラケズリ。内面黒色処理, 密なミガキ(体部横方向, 底部1方向)。	透明・白色砂粒, 赤色スコリア少, 白色・灰色砂礫	10YR6/4にぶい黄橙	良好	
SI36	2	土師器 坏	(13.8) 4.5 6.2	60~70%存。ロクロ成形。体部下端から底部は回転ヘラケズリ。内面黒色処理, 密なミガキ(体部横方向, 底部1方向)。体部外面に墨書「子カ」横書きあり。	透明・白色砂粒, 白色・灰色砂礫多, 針状物微	10YR6/6明黄褐	やや 良好	
SI36	3	土師器 坏	(15.0) (3.8) -	口縁~体部片。ロクロ成形。内面黒色処理, 密なミガキ(体部横方向)で, 黒色処理は外面口縁部に及ぶ。体部外面に墨書「□」あり。	透明・白色・灰色砂礫多	7.5YR7/6橙	やや 良好	
SI36	4	土師器 坏又は皿	- (1.2) (8.0)	底部片。ロクロ成形。底部は外面が回転ヘラケズリで, 体部との接合部に段差。内面黒色処理, 密なミガキ(底部1方向)。	透明・白色・灰色砂粒, 針状物	7.5YR6/6橙	やや 良好	
SI36	5	須恵器 坏	14.0 5.0 6.0	ほぼ完存。口縁部の一部を欠失。ロクロ成形。底部は回転ヘラ切り後, 周縁部をナデ。体部との接合痕がわずかに残る。	チャート, 白色砂礫, 透明・白色砂粒多, 針状物	2.5Y7/2灰黄	普通	
SI36	6	土師器 椀	- (2.6) (8.0)	底部片。底部は外面が回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ヨコナデ。内面黒色処理, 密なミガキ(底部1方向)。	透明・白色砂粒, 白色・灰色砂礫少	7.5YR7/6橙	普通	
SI36	7	土師器 高台付皿	13.8 3.7 6.5	80~90%存。ロクロ成形。体部の外面は一部ナデ。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。内面黒色処理。	透明・白色砂粒多, 透明・白色砂礫多, 雲母, 針状物	7.5YR5/4にぶい褐	普通	
SI36	8	土師器 甕	(21.8) (21.5) -	口縁~胴部, 30~50%存。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面上半がナデ, 下半がヘラケズリ後縦方向のミガキ, 内面がナデ。	雲母, 透明砂粒, 白色・灰色砂礫	7.5YR6/4にぶい橙	普通	
SI36	9	土師器 甕	(20.0) (5.5) -	口縁~胴上部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は内外面ともにヘラナデ。	透明・白色砂粒	7.5YR6/4にぶい橙	普通	

第3章 調査の成果

遺構番号	図面番号	種類 器種	口径 器高 底径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調 (外面/内面)	焼成	備考
SI36	10	土師器 甕	(21.0) (11.4) —	口縁へ胴上部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面がナデ、縦方向のヘラケズリ、内面が横方向のヘラナデ。	白色砂粒、白色・灰色砂礫多	7.5YR7/4にぶい橙	普通	
SI36	11	土師器 甕	(20.0) (12.0) —	口縁へ胴上半。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は内外面ともにナデ。	透明砂粒多、白色砂礫	7.5YR4/2灰褐	普通	
SI36	12	土師器 甕	(20.0) (6.2) —	口縁へ胴上部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面がナデ、内面がヘラナデ。	雲母、白色砂礫	7.5YR7/4にぶい橙 7.5YR6/4にぶい橙	普通	
SI36	13	土師器 甕	12.2 11.2 6.5	70～80%存。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面下半がヘラケズリ、内面がヘラナデ、指頭によるナデ。	透明砂粒多、白色・灰色砂礫	5YR4/3にぶい赤褐 10YR6/4にぶい黄橙	普通	
SI36	14	須恵器 甕	— (12.0) (15.0)	胴部下半～底部片。胴部はナデで、下端がヘラケズリ。内面がヘラナデで底部周辺をヘラケズリ。底部は2孔でブリッジは欠失。	雲母多、透明・白色砂礫	2.5Y7/1灰白 2.5Y7/2灰黄	普通	
SI36	15	土師器 鉢	— (7.7) (10.0)	体部～底部、30～50%存。ロクロ成形。体部下端は回転ヘラケズリ。底部は器面が荒れ不明瞭だが、回転ヘラケズリと思われる。内面黒色処理、密なミガキ（体部横→斜、底部不定方向）。	透明・白色・灰色砂粒、針状物少	7.5YR7/6橙	やや 良好	
SI36	16	須恵器 壺類	— (3.1) (5.0)	底部片。ロクロ成形。底部はナデか。	黒色粒、針状物少	2.5Y5/1黄灰 2.5Y6/2灰黄	良好 堅緻	
SI37	1	土師器 坏	(13.0) (3.8) —	口縁へ体部片。外面は口縁部がヨコナデ、体部がヘラケズリ。内面は全体にヨコナデでまばらなミガキ。	白色砂粒、透明砂礫少	10YR7/3にぶい黄橙 10YR4/4にぶい黄橙	普通	
SI37	2	土師器 甕	(23.0) (8.0) —	口縁へ胴部片。口縁から胴上部にかけて内外面ともにナデ。胴部中位以下は外面がヘラケズリ、内面がヘラナデ。	雲母、白色・灰色砂礫多	7.5YR6/4にぶい黄橙 7.5YR6/6橙	普通	
SI37	3	土師器 甕	— (6.7) (10.0)	胴下部～底部片。胴部は外面が斜方向の密なミガキ、内面がナデ。底部は木葉痕。	雲母、白色・灰色砂礫多	5YR6/6橙 7.5YR6/4にぶい橙	普通	
SI37	4	須恵器 甕	— (23.0) —	胴部片。外面は斜方向の密な平行タキで全体に自然釉がかかる。内面は無文の当て具痕で輪積痕が残る。	チャート、白色砂礫、黒色粒多、針状物微	5Y5/2灰オリーブ 5Y6/1灰	良好 堅緻	
SI38	1	土師器 坏	14.4 4.5 6.4	90%存。ロクロ成形。体部下端から底部は回転ヘラケズリ、内面黒色処理、密なミガキ（体部横方向、底部不定方向）。黒色処理は外面口縁部まで及ぶ。	チャート、透明・白色砂礫、針状物	10YR6/4にぶい黄橙	普通	
SI38	2	土師器 坏	(13.6) 4.5 (5.8)	50%存。ロクロ成形。体部下端から底部は回転ヘラケズリ。内面黒色処理、密なミガキ（体部斜方向に巻きが入る、底部1方向）。	チャート、白色砂粒多、透明砂礫少	7.5YR5/4にぶい褐	やや 良好	
SI38	3	土師器 坏	(13.6) (3.0) —	口縁へ体部片。ロクロ成形。丁寧なロクロナデ。	雲母多、白色砂粒、白色・灰色砂礫少	5YR5/4にぶい赤褐 10YR6/6明黄褐	やや 良好	
SI38	4	土師器 碗	(14.8) 6.0 (7.8)	50～60%存。ロクロ成形。体部中程から底部にかけて回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ヨコナデ。内面黒色処理、密なミガキ（体部横方向、底部不定方向）。	透明・白色・灰色砂粒、針状物	5YR6/6橙	普通	
SI38	5	土師器 皿	(14.8) 2.3 (7.6)	20～30%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。	透明・白色砂粒、黒色粒、針状物極微、赤色スコリア	10YR7/4にぶい黄橙	やや 良好	
SI38	6	土師器 甕	(19.8) (9.6) —	口縁へ胴部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面がヘラケズリ後ナデ、内面がヘラナデ。	透明砂粒、白色砂礫	7.5YR5/4にぶい褐 5YR5/4にぶい赤褐	普通	
SI38	7	土師器 甕	— (6.7) 7.0	胴下半～底部片。胴部は外面が横方向のヘラケズリ、内面が横方向のヘラナデ。底部は木葉痕。	雲母、白色砂礫	7.5YR6/4にぶい橙 7.5YR3/3暗褐	やや 不良	
SI38	8	土師器 甕	— (5.3) —	把手部。指頭による成形とナデ。	白色砂粒	7.5YR6/6橙	やや 良好	
SI39	1	須恵器 坏	13.2 5.4 7.4	90%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラ切り後周縁部をヘラナデ。切り離し部残存。	チャート、白色砂礫、針状物	5Y5/1灰	良好 堅緻	
SI39	2	須恵器 坏	— (2.0) (7.0)	体部～底部片。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリで体部との接合痕が残る。	チャート、白色砂礫、針状物	5Y5/1灰 5Y6/1灰	良好 堅緻	
SI39	3	須恵器 坏	— (1.9) (8.0)	体部下端～底部片。ロクロ成形。底部はヘラナデ。	チャート、白色砂礫、針状物	10Y5/1灰	良好 堅緻	
SI39	4	土師器 甕	(22.0) (28.5) —	口縁へ胴部、30～50%存。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面上半がナデでヘラ状工具当て具痕あり。下半が縦方向の密なミガキ。内面は横方向のヘラナデ。	雲母、透明・白色砂粒多、白色砂礫	7.5YR6/6橙 10YR6/4にぶい黄橙	普通	
SI39	5	土師器 甕	(23.8) (4.4) —	口縁へ頸部片。口縁部は内外面ともにヨコナデで、内面は頸部をヘラナデ。口縁部外面に口唇部との接合痕あり。	雲母（細粒）、白色・灰色砂礫	5YR4/6赤褐 7.5YR5/6明褐	普通	
SI39	6	土師器 甕	(24.6) (5.2) —	口縁部～胴上部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面がナデ、内面が横方向のヘラナデ。口縁部と胴部の接合面に輪積痕が残る。	雲母（細粒）、白色・灰色砂礫	7.5YR6/6橙	普通	
SI39	7	須恵器 壺瓶類	— (1.8) (13.8)	底部片。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後強いナデ。	白色砂礫少、黒色粒多、針状物微	7.5YR5/2灰褐	良好 堅緻	

遺構番号	図面番号	種類器種	口径器高底径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調(外面/内面)	焼成	備考
SI40	1	須恵器 坏	13.8 4.7 7.8	ほぼ完存。口縁部一部欠失。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。二次底部面あり。体部との接合痕が残る。	チャート, 白色砂礫, 針状物	2.5GY6/1オリーブ灰	良好	
SI40	2	須恵器 坏	(14.4) (4.1) —	口縁部片。ロクロ成形。	透明砂粒, 透明砂礫, 白色・灰色砂礫	5Y8/1灰白	普通	
SI40	3	須恵器 坏	— (2.2) (8.0)	体部下端～底部片。ロクロ成形。底部はヘラナデ。	透明・白色砂粒, 白色・灰色砂礫	2.5Y8/1灰白	普通	
SI40	4	須恵器 高台付坏	— (6.0) (12.6)	40～50%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ヨコナデ。	チャート, 白色砂礫多, 黒色粒, 針状物微	N5/ 灰 5Y5/1灰	良好 堅緻	
SI40	5	須恵器 盤	16.4 3.6 10.7	80～90%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリで刻書「大」あり。高台部は貼り付け後ヨコナデ。	チャート, 白色砂礫多, 黒色粒, 針状物微	5Y6/1灰	良好 堅緻	
SI40	6	須恵器 盤	16.2 3.7 9.2	90%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート, 白色砂礫, 針状物	2.5Y6/1黄灰	良好	
SI40	7	須恵器 盤	(17.4) 3.3 11.0	60～70%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ヨコナデ。	チャート, 白色砂礫, 白色砂粒, 黒色粒, 針状物微	2.5Y6/2灰黄	良好 堅緻	
SI40	8	土師器 甕	(20.6) 32.7 8.6	50～70%存。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面の上半が丁寧な縦方向のヘラナデ。下半が斜方向の密なミガキ。内面はヘラナデ。底部は木葉痕。	雲母, 透明砂粒, 透明・白色砂礫多	7.5YR5/3にぶい褐	やや 不良	
SI40	9	土師器 甕	— (15.8) (10.0)	胴部下半～底部片。胴部は外面が斜方向の密なミガキ。内面がナデで、底部との接合痕が残る。明瞭な段差を持つ。底部は木葉痕。	雲母, 白色・灰色砂礫多	7.5YR6/6橙 7.5YR5/3にぶい褐	普通	
SI40	10	土師器 甕	— (10.2) 9.4	胴部下半～底部片。胴部は外面が斜方向の密なミガキ。内面がヘラナデで、下端部周辺から底部にかけては仕上げが雑になり工具痕が目立つ。底部との接合痕が明瞭に残る。底部は木葉痕。	雲母多, 透明・白色砂礫多	5YR4/6赤褐	やや 良好	
SI40	11	須恵器 甕	— (21.9) —	胴部下半～底部。20～40%存。外面は胴部は不定方向のタキキでやや不明瞭。底部はヘラケズリ。内面は無文の当て具痕。全体に自然釉がかかり、内面底部には厚く降灰する。	白色砂礫, 黒色粒多, 針状物微	2.5Y5/2暗灰黄 2.5Y6/2灰黄	良好 堅緻	
SI41	1	須恵器 坏	13.4 4.8 9.0	90%存。ロクロ成形。底部は1方向のナデ後周縁部を不定方向にナデ。	白色砂礫多, 針状物	5Y6/1灰	良好 堅緻	
SI41	2	須恵器 坏	13.5 4.8 8.2	ほぼ完存。口縁部の一部を欠失。底部は雑なヘラナデ。線刻あり。	チャート, 白色砂礫多, 針状物	10YR4/2灰黄褐 2.5Y4/1黄灰	良好 堅緻	
SI41	3	須恵器 坏	13.5 4.4 9.0	ほぼ完存。口縁部をわずかに欠失。底部は1方向のナデで、ヘラ切り痕が若干残る。	チャート, 白色砂礫, 白色砂粒, 針状物	2.5Y8/1灰白 2.5Y8/2灰白	良好 堅緻	
SI41	4	須恵器 坏	— (2.5) (9.0)	体部下端～底部片。底部は1方向のヘラナデ。「×」の刻書あり。二次底部面あり。	チャート, 白色砂礫, 針状物	5YR5/3にぶい赤褐	良好 堅緻	
SI41	5	須恵器 盤	(22.5) 4.5 14.2	20～30%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ヨコナデ。高台部は貼り付け後ヨコナデ。口縁～体部内外面に自然釉。	白色砂礫, 黒色粒多, 針状物極微	2.5Y4/1黄灰 2.5Y6/1黄灰	普通	
SI41	6	須恵器 蓋	13.1 3.2 —	ほぼ完存。口端部の一部を欠失。摘は擬宝珠状で頂部は平坦。摘径3.0cm, 摘高1.2cm。天井部は回転ヘラケズリ。口端部は短く下方へ屈曲。内面に直線状の線刻あり。	白色砂礫, 白色砂粒, 黒色粒, 針状物微	N6/ 灰	良好 堅緻	
SI42	1	土師器 坏	(13.8) 4.2 (6.0)	60～70%存。ロクロ成形。体部下端から底部は回転ヘラケズリ。内面黒色処理, ミガキ。体部の一部と底部が剥落。	透明・白色砂粒多, 白色・灰色砂粒, 針状物	7.5YR5/3にぶい褐	やや 良好	
SI42	2	土師器 坏	(15.9) 5.7 (8.2)	30～40%存。ロクロ成形。体部下端～底部は手持ちヘラケズリ。内面黒色処理, 密なミガキ(体部横方向)	白色・灰色砂礫, 透明・白色砂粒, 針状物極微	10YR7/6明黄褐	普通	
SI42	3	土師器 坏	(15.0) 4.3 (6.5)	20～30%存。ロクロ成形。体部下端から底部は回転ヘラケズリ。内面黒色処理, 密なミガキで剥落顕著。	透明・白色・灰色砂粒多, 輝石極微, 針状物極微	5YR4/3にぶい赤褐	普通	
SI42	4	土師器 椀	(14.0) 4.7 (7.0)	口縁部～底部高台部, 30～40%存。ロクロ成形。体部下端は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ヨコナデ。内面黒色処理, 密なミガキ(体部横方向)	透明・白色・灰色・黒色砂粒多, 針状物極微	7.5YR6/6橙	やや 良好	
SI42	5	土師器 甕	(19.8) (5.3) —	口縁～胴上部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面がヘラナデと指頭によるナデ, 内面はヘラナデ。	透明・白色・黒色砂粒, 針状物微	5YR5/4にぶい赤褐 7.5YR5/4にぶい褐	普通	
SI43	1	須恵器 高台付坏	— (2.6) —	体部～底部, 40～50%存。口縁部及び高台部欠失。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート, 白色砂礫多, 針状物	2.5Y5/2暗灰黄	良好 堅緻	
SI43	2	土師器 甕	(19.0) (4.8) —	口縁～胴上部片。外面は口縁部がヨコナデ, 胴部がナデ。内面はヘラナデ。	透明・白色砂粒, 透明・白色砂礫	7.5YR4/3褐	普通	
SI44	1	須恵器 坏	— (2.3) (7.5)	体部下端～底部片。ロクロ成形。底部はナデ。	白色砂粒少, 黒色砂粒少, 針状物極微	7.5Y6/1灰	良好 堅緻	
SI44	2	土師器 甕	(20.0) (8.8) —	口縁～胴上部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は内外面ともに不定方向のヘラナデ。	透明・白色砂粒	7.5YR5/4にぶい褐	普通	

第3章 調査の成果

遺構番号	図面番号	種類器種	口径器高底径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調(外面/内面)	焼成	備考
SI44	3	土師器甕	19.0 (6.5) —	口縁～胴上部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部の外面はナデ、内面はヘラナデ。	透明・白色砂粒, 透明・白色砂礫	5YR5/6明赤褐	普通	
SI45	1	土師器杯	13.0 4.2 8.0	80～90%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラ切り後、わずかにナデでヘラ切り痕が残る。内面黒色処理, 密なミガキ(体部ほぼ横方向, 底部不定方向)。	金雲母, 白色・黒色砂粒少	5YR5/3にぶい赤褐	やや良好	
SI45	2	土師器杯	(15.0) (4.7) —	口縁～体部片。ロクロ成形。体部下端は回転ヘラケズリ。内面黒色処理, 密なミガキ(体部横方向)。	透明・白色・灰色砂粒, 白色砂礫微, 針状物極微	5YR5/6明赤褐	やや良好	
SI45	3	土師器碗	— (2.6) 7.0	体部下端～底部片。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ヨコナデ。	透明・白色・灰色砂粒多, 白色・灰色砂礫, 針状物極微	5YR5/4にぶい赤褐 10YR7/4にぶい黄橙	やや良好	
SI45	4	土師器碗	— (2.2) (8.0)	底部片。摩耗顕著で調整不明。高台部は貼り付け, 内面は密なミガキか。	透明・白色・灰色砂粒多	7.5YR6/6橙 10YR7/3にぶい黄橙	やや良好	
SI45	5	土師器甕	(20.0) (5.8) —	口縁～胴上部片。口唇部はヨコナデ。それ以外は摩耗顕著で調整不明。	透明・白色砂粒, 赤色粒多	7.5YR7/6橙	普通	
SI45	6	土師器甕	(24.0) (13.0) —	口縁～胴部片。外面は口縁部がヨコナデ, 胴部はナデ。中位以下は不定方向のヘラケズリ。口唇部から内面全体は木目の粗いヘラ状工具による横方向のヘラナデ。	透明・白色砂粒, 透明・白色砂礫, 針状物極微	2.5YR5/6明赤褐 7.5YR5/4にぶい褐	やや良好	
SI45	7	土師器甕	— (3.8) (8.0)	胴部端部～底部片。胴部は外面が横方向のヘラケズリ, 内面はヨコナデ。底部は器面が荒れて調整不明瞭。	透明・白色砂粒	5YR5/4にぶい赤褐 7/5YR7/6橙	普通	
SI47	1	須恵器杯	(13.2) 4.4 8.0	20～30%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。二次底部面あり。	チャート少, 白色砂粒多, 白色砂礫, 針状物	2.5Y5/2暗灰黄	良好堅緻	
SI47	2	土師器甕	(20.0) (4.2) —	口縁～胴上部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面がナデ, 内面がヘラナデ。	雲母少, 透明・白色砂礫多	7.5YR5/4にぶい褐	普通	
SI47	3	土師器甕	— (1.7) (10.0)	胴部下端～底部片。外面は胴部が斜方向の密なミガキ。底部は木葉痕。内面は全体にヘラナデで, 工具痕が目立つ。	雲母(細粒), 白色・灰色砂礫多	7.5YR3/3暗褐 5YR5/6明赤褐	普通	
SI48	1	須恵器杯	(14.0) (4.0) —	口縁～体部片。ロクロ成形。	チャート, 白色砂礫, 黒色粒少, 針状物微	N5/ 灰	良好堅緻	
SI48	2	須恵器杯	(13.0) (3.2) —	口縁～体部片。ロクロ成形。	黒色粒, 白色砂礫	2.5Y6/1黄灰	良好堅緻	
SI48	3	土師器甕	(20.0) (2.3) —	口縁部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。	雲母(細粒), 白色砂礫多	7.5YR4/6褐 7.5YR5/6明褐	普通	
SI48	4	土師器甕	— (5.5) (8.5)	胴下部～底部片。胴部は外面が斜めから横方向のヘラケズリ。内面が斜め方向のヘラナデで, 下端は横方向。底部は木葉痕。	雲母, 白色砂礫多	7.5YR5/4にぶい褐 5YR5/6明赤褐	やや不良	
SI49	1	土師器杯	(13.2) (4.1) —	口縁～体部片, 20～30%存。ロクロ成形。内面黒色処理, ミガキは横方向か。	雲母(細粒), 砂礫, 黒色粒	7.5YR5/4にぶい褐	普通	
SI49	2	須恵器杯	(13.6) 4.8 8.0	70～80%存。ロクロ成形。底面は1方向のヘラナデ。体部との接合痕あり。直線状の線刻。墨書「廣嶋」あり。	チャート, 白色砂礫, 白色砂粒, 黒色粒, 針状物	2.5Y7/2灰黄	良好堅緻	
SI49	3	須恵器杯	(13.4) 5.4 7.8	40～50%存。底部は回転ヘラ切り後, 無調整。線刻あり。	チャート, 白色砂礫, 針状物少	5Y4/1灰 10YR5/2灰黄褐	良好堅緻	
SI49	4	須恵器盤	(15.6) 3.9 9.2	ほぼ完存。口縁部の一部欠失。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ヨコナデ。	チャート, 白色砂礫, 多黒色粒微, 針状物多	2.5Y7/2灰黄 2.5Y7/3浅黄	良好堅緻	
SI49	5	須恵器蓋	(15.6) 2.3 —	天井部～口端部。30～40%存。ロクロ成形。天井部は回転ヘラケズリ。口端部は短く下方へ屈曲。	黒色・灰色砂礫。黒色粒	2.5Y7/2灰黄 2.5Y7/3浅黄	良好堅緻	
SI49	6	須恵器高杯	— (3.1) (15.7)	脚部片。ロクロ成形。透かしあり。接地部は短く下方へ屈曲。	白色砂礫微, 白色砂粒, 針状物	10Y5/1灰	良好堅緻	
SI49	7	土師器甕	(24.2) 33.2 (10.0)	40～50%存。口縁部は内外面ともにヨコナデで, 若干歪みあり。胴部は外面の上半がナデで, ヘラの当て具痕が連続する。下半が縦から斜め方向の密なミガキ。内面は横方向のヘラナデで下端は雑な不定方向。底部は木葉痕。	雲母, 白色・灰色砂礫	5YR6/6橙 7.5YR6/3にぶい褐	普通	
SI49	8	土師器甕	(15.6) (4.0) —	口縁部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。	雲母, 白色砂粒多, 白色砂礫少	5YR5/4にぶい赤褐 7.5YR3/2黒褐	普通	
SI49	9	土師器甕	— (8.5) 8.4	胴下部～底部片。胴部は外面が縦方向のヘラケズリ。内面は丁寧なヘラナデ。底部は木葉痕。	透明・白色砂粒, 透明砂礫	7.5YR4/4褐 5YR3/2暗赤褐	やや不良	
SI49	10	須恵器甕	(22.8) (6.8) —	口縁～胴部片。頸部に工具痕が残る。胴部外面は斜方向の平行タタキ。内面はヨコナデ。全体に自然釉がかかる。	黒色粒多, 白色砂粒, 白色砂礫少	2.5Y6/1黄灰 2.5Y4/3オリーブ褐	良好堅緻	
SI50	1	須恵器杯	13.8 4.8 8.8	ほぼ完存。口縁部の一部欠失。ロクロ成形。底部はヘラナデで, 中央に線刻。体部との接合痕が残る。内外面ともに残る染みは漆か。	チャート, 白色砂礫, 針状物	2.5Y7/2灰黄 5Y6/1灰	良好堅緻	

遺構番号	図面番号	種類器種	口径器高底径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調(外面/内面)	焼成	備考
S150	2	須恵器 杯	14.6 4.9 8.6	70～80%存。底部は回転ヘラ切り後、中央部をヘラナデ。体部外面の黒色の付着物は漆か。	チャート、白色砂礫、針状物	2.5Y7/2灰黄	良好 堅緻	
S150	3	須恵器 杯	(13.0) 4.3 8.2	40～50%存。ロクロ成形。底部は周縁部を丁寧なナデで、線刻あり。体部に残る黒い染みは漆か。	チャート、白色砂礫、白色砂粒	2.5Y6/2灰黄	良好 堅緻	
S150	4	須恵器 杯	10.8 3.4 6.6	ほぼ完存。口縁部がわずかに欠ける。ロクロ成形。底部はナデ。刻書「乙」あり。	白色砂礫、白色粒	N5/ 灰	良好 堅緻	
S150	5	須恵器 杯	10.5 7.0 8.0	90%存。口縁部及び体部下端～底部の一部を欠失。底部は回転ヘラケズリ。体部との接合痕が一部残る。	白色・灰色砂礫、黒色粒、針状物極微	2.5Y6/1黄灰	良好 堅緻	
S150	6	須恵器 高台付杯	15.3 5.6 10.5	90%存。口縁部の一部を欠失。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ヨコナデ。黒色の付着物は漆か。体部外面の一部に自然釉がかかる。	チャート少、白色砂礫、白色砂粒、針状物	5B6/1青灰 5Y5/1灰	良好 堅緻	
S150	7	須恵器 高台付杯	(11.2) 5.2 7.4	80～90%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ヨコナデ。体部外面約1/2は自然釉がかかる。	チャート少、白色砂礫、黒色粒、針状物極微	2.5Y6/1黄灰	良好 堅緻	
S150	8	須恵器 盤	(22.7) (3.1) —	70～80%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は欠失。	チャート少、白色砂礫、黒色粒、針状物	2.5Y6/1黄灰	良好 堅緻	
S150	9	須恵器 蓋	16.4 3.5 —	ほぼ完存。天井部と口端部をわずかに欠失。摘部は擬宝珠状で頂部突出。摘径2.6cm、摘高1.4cm。天井部は回転ヘラケズリ。口端部は短く下方へ屈曲。	チャート、白色砂礫多、黒色粒少、白色砂粒、針状物	5B5/1青灰	良好 堅緻	
S150	10	土師器 甕	(19.0) (12.7) —	口縁～胴部上半。外面は口縁部がヨコナデ。胴部はナデ。内面は全体に丁寧なヘラナデ。	雲母、透明・白色砂礫多	5YR5/6明赤褐	やや 不良	
S151	1	土師器 杯	13.6 4.4 7.0	70～80%存。ロクロ成形。体部下半から底部は回転ヘラケズリ。内面黒色処理、密なミガキ(体部横→斜方向、底部1方向)。	透明・白色砂礫粒、赤色スコリア、針状物	10YR7/4にぶい黄橙	普通	
S151	2	土師器 杯	(13.8) 4.5 6.8	50～60%存。ロクロ成形と見られるが摩耗顕著でロクロ目不明瞭。底部は回転ヘラ切り後ナデで、体部との接合痕が残る。内面黒色処理、密なミガキ(体部ほぼ横方向、底部ほぼ1方向)。	雲母微、透明・白色砂粒多、赤色スコリア、針状物微	7.5YR7/6橙	普通	
S151	3	土師器 杯	(12.8) 4.0 (6.0)	40～50%存。ロクロ成形。体部下端から底部は持ちヘラケズリ。内面黒色処理、密なミガキ(体部・底部ともに不定方向)。	透明・白色砂粒、針状物極微	7.5YR6/6橙	やや 不良	
S151	4	土師器 杯	(14.8) 4.5 (7.0)	30～40%存。ロクロ成形。体部下端から底部は回転ヘラケズリ。内面は密なミガキ(体部横方向)。	雲母、透明・白色砂粒多、赤色スコリア、透明・白色砂礫少、針状物	7.5YR7/4にぶい黄橙 10YR7/4にぶい黄橙	普通	
S151	5	土師器 杯	(13.8) 4.6 (6.4)	口縁～底部片。ロクロ成形。体部下端から底部は回転ヘラケズリ。内面は密なミガキ(体部横→斜方向)。	透明・白色砂粒多、針状物	5YR4/6赤褐 10YR4/2灰黄褐	やや 不良	
S151	6	土師器 杯	(16.4) (4.7) —	口縁～体部。30～40%存。ロクロ成形。内面黒色処理、密なミガキ(体部横方向)。	透明・白色・灰色砂粒多、針状物極微	10YR6/4にぶい黄橙	普通	
S151	7	土師器 杯	— (1.2) (6.4)	体部下端～底部片。回転ヘラケズリ。内面黒色処理で不定方向の密なミガキ。	透明・白色砂粒多、針状物	7.5YR7/6橙	普通	
S151	8	土師器 椀	— (2.5) 7.8	底部片。底部は回転ヘラケズリ。高台部はヨコナデ。内面黒色処理。	透明・白色・灰色砂粒多、透明・白色砂礫多、針状物極微	10YR7/4にぶい黄橙	普通	
S151	9	土師器 椀	— (2.4) 7.6	底部片。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ヨコナデ。内面黒色処理。不定方向の密なミガキ。	透明・白色・灰色砂粒多、針状物微	5YR4/6赤褐	普通	
S151	10	土師器 椀	(17.5) (4.0) —	30～40%存。ロクロ成形。底部は摩耗顕著で調整不明。高台部欠失。内面黒色処理、密なミガキ(体部横方向、底部不定方向)。	透明・白色・灰色砂粒多、褐色粒少、針状物	5YR5/6明赤褐	やや 良好	
S151	11	土師器 高台付皿	(13.6) 3.2 7.6	50～60%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ヨコナデ。内面黒色処理、密なミガキ(体部横方向、底部不定方向)。	透明・白色・灰色砂粒、赤色スコリア、針状物極微	7.5YR7/6橙	普通	
S151	12	土師器 皿	(12.6) (1.4) —	口縁～体部片。ロクロ成形。体部下端は回転ヘラケズリ。内面黒色処理。不定方向の密なミガキ。	透明・白色・灰色砂粒、赤色スコリア、針状物極微	7.5YR6/6橙	普通	
S151	13	土師器 甕	(21.6) (22.5) —	口縁～胴下半部。30～50%存。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面上半がナデ、下半が斜方向のヘラケズリ、内面がヘラナデ。	雲母、透明・白色砂粒多、赤色スコリア	7.5YR6/4にぶい黄橙	普通	
S151	14	土師器 甕	— (4.3) 8.0	胴部下端片。外面は胴部が横方向のヘラケズリ。底部は木葉痕。内面は斜方向のヘラナデ。	透明・白色砂礫多	2.5YR5/6明赤褐	普通	
S151	15	須恵器 甕	— (7.6) (19.6)	胴部下端～底部片。ロクロ成形。胴部下端～底部は内外面ともにヘラナデ。底部孔部分は横方向のヘラケズリ。	白色砂粒、白色砂礫、針状物	10YR5/1褐灰 2.5Y6/1黄灰	良好 堅緻	
S151	16	須恵器 甕カ	— (11.5) —	口縁～胴部片。ロクロ成形。	白色砂粒、白色砂礫、針状物	N4/ 灰 2.5Y6/2灰黄	良好 堅緻	
S151	17	土師器 鉢カ	(18.0) (4.2) —	口縁～体部片。ロクロ成形。口唇部は面取り。内面黒色処理、横方向の密なミガキ。	透明・白色砂粒、針状物極微	10YR6/4にぶい黄橙	やや 良好	

第3章 調査の成果

遺構番号	図面番号	種類器種	口径器高底径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調(外面/内面)	焼成	備考
SI51	18	土師器鉢カ	— (6.6) —	体部片。ロクロ成形。内面は黒色処理で若干剥落。横方向の密なミガキ。	透明・白色・灰色砂粒, 白色砂礫微	7.5YR5/6明褐	普通	
SI52	1	須恵器高台付坏	— (2.0) (7.4)	底部片。ロクロ成形。底部はナデで刻書「×」あり。高台部は貼り付け後ヨコナデ。	チャート, 白色砂礫, 針状物極微, 黒色粒	2.5Y6/2灰黄	やや良好	
SI52	2	土師器鉢	(12.0) (5.0) —	口縁～体部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。体部外面はヘラケズリ, 内面はナデ。	金雲母, 透明・白色砂礫多, 針状物	5YR4/4にぶい赤褐 7.5YR5/3にぶい褐	普通	
SI52	3	須恵器壺	(11.7) (7.7) —	口縁部片。ロクロ成形。	チャート, 白色砂礫, 透明砂粒, 針状物微	2.5YR8/1灰白	良好	
SI53	1	土師器坏	13.8 4.0 7.0	完存。歪み強く亀裂が入る。ロクロ成形。体部下端から底部は回転ヘラケズリ後, 体部下端を手持ちヘラケズリ。内面黒色処理, 密なミガキ(体部横方向, 体部下端・底部1方向)。	透明・白色・灰色砂粒, 白色・灰色砂礫, 針状物微	7.5YR6/6橙	やや良好	
SI53	2	土師器坏	12.0 4.5 6.2	60～70%存。ロクロ成形。体部下端から底部にかけて回転ヘラケズリ。内面黒色処理, 密なミガキ(体部横・斜方向, 底部は1方向)。墨書「口」あり。	白色・灰色砂礫多, 針状物少	10YR6/4にぶい黄橙	やや良好	
SI53	3	土師器坏	(12.2) 4.1 6.0	40～50%存。ロクロ成形。体部下端は回転ヘラケズリ後, 手持ちヘラケズリ。底部は回転ヘラケズリ。内面黒色処理, 密なミガキ(体部横方向, 底部1方向)。	透明・白色砂粒, 白色砂礫, 針状物	10YR7/6明黄褐	良好堅緻	
SI53	4	須恵器坏	(14.0) (5.5) 7.8	40～50%存。ロクロ成形。底部はナデで, 線刻あり。	チャート多, 白色砂礫, 針状物	2.5Y6/2灰黄	やや良好	
SI53	5	須恵器坏	(13.2) 5.2 6.6	70～80%存。ロクロ成形。底部はナデで, 線刻あり。	チャート, 白色砂礫, 透明砂粒, 針状物	2.5Y7/2灰黄	やや不良	
SI53	6	土師器高台付坏	14.6 4.8 —	ほぼ完存。高台部欠失。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ロクロナデで, 体部下端は強めのナデ。内面黒色処理, 密なミガキ(体部横方向, 底部1方向)。体部外面に墨書「下カ」横書きあり。	透明・白色・灰色砂粒, 針状物少	7.5YR6/6橙	やや良好	
SI53	7	土師器椀	17.0 6.8 9.0	90%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ, 体部下端は強めのナデ。内面黒色処理, 密なミガキ(体部横方向, 底部1方向)。	雲母少, 白色・透明・灰色砂粒, 透明砂礫, 針状物	7.5YR5/4にぶい褐	やや良好	
SI53	8	須恵器高台付坏	14.0 4.7 7.0	90%存。ロクロ成形。体部下端から底部にかけて回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。内面に墨付着。	チャート, 白色砂礫, 針状物	5Y5/2灰オリーブ	良好堅緻	
SI53	9	土師器甕	(22.0) (22.3) —	口縁部～胴部, 20～30%存。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部外面は上半がナデで頸部付近にヘラの当て具痕あり。下半が横方向のヘラケズリ。内面が縦方向のヘラナデ。	雲母, 白色・透明砂礫多, 赤色スコリア	10YR5/4にぶい黄褐	普通	
SI53	10	土師器甕	(21.0) (14.5) —	口縁部～胴上半部。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は内外面ともにナデ。	雲母, 白色・透明砂礫多	5YR5/4にぶい赤褐	普通	
SI53	11	土師器甕	(18.0) (2.8) —	口縁部片。口縁部は内外面ともヨコナデ。	雲母(細粒), 透明砂粒, 白色・透明砂礫多	7.5YR4/4褐	普通	
SI53	12	土師器甕	— (8.4) 6.2	胴下部～底部片。胴部は外面がヘラケズリ後縦方向のミガキ, 内面が斜・横方向のヘラナデ。底部は木葉痕。	雲母, 白色・透明砂礫	7.5YR7/4にぶい橙	普通	
SI53	13	土師器甕	— (7.1) 8.0	胴下部～底部片。胴部は外面が斜・横方向のヘラケズリ, 内面が斜方向のヘラナデ。底部は木葉痕。	雲母(細粒)少, 白色・透明砂礫多	5YR4/3にぶい赤褐	普通	
SI53	14	須恵器甕	— (9.0) (16.0)	胴下部～底部片。底部の大部分が欠失。胴部は外面が並行タタキで, 下端を横方向のヘラケズリ。輪積痕が明瞭に残る。内面は横方向のヘラナデ。底孔部周辺はヘラケズリ。	雲母, 白色・透明砂礫多	5Y7/1灰白 2.5Y7/2灰黄	普通	新治窯産
SI53	15	土師器鉢カ	(15.0) (5.0) —	体部下端～底部片。外面は体部下端が横方向のヘラケズリ。底部はナデ。内面はほぼ横方向の密なミガキ。	雲母, 白色・透明砂礫, 赤色スコリア少	7.5YR6/4にぶい橙	普通	
SI54	1	須恵器坏	— (5.0) 8.8	体部～底部, 40～50%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラ切り後ヘラナデで, ヘラ切り痕が残る。	チャート, 白色砂礫, 黒色粒, 針状物少	10YR6/1褐灰	良好堅緻	
SI54	2	須恵器壺瓶類	— (4.9) (10.8)	体下部～底部片。ロクロ成形。高台部は貼り付け後ヨコナデ。全体に自然釉がかかる。	チャート, 白色砂礫, 黒色粒, 針状物微	5Y3/1オリーブ黒 5Y4/1灰	良好堅緻	
SI55	1	土師器坏	(12.0) 4.0 (7.0)	40～50%存。ロクロ成形。底部はヘラナデでやや雑な仕上がり。	透明・白色・灰色砂粒多, 黒色粒, 赤色粒	7.5YR6/6橙	普通	
SI56	1	土師器坏	(12.8) 3.2 (6.0)	20～30%存。ロクロ成形。底部の残存はわずかで調整不明。	白色・灰色砂粒, 赤色粒, 透明・白色砂礫	5YR6/6橙	普通	
SI56	2	土師器坏	(15.0) 5.5 (7.0)	20～30%存。ロクロ成形。体部下端から底部はヘラケズリであるが, 磨耗し技法は不明。内面は黒色処理で剥落顕著。	透明・白色・灰色砂粒, 針状物	7.5YR6/4にぶい橙	やや良好	
SI56	3	土師器小皿	(10.8) 2.8 (5.2)	口縁～底部片。体部下端はヘラケズリであるが磨耗し技法は不明。底部は回転糸切り後未調整。内面黒色処理, 密なミガキ(体部横・斜方向)。	雲母少, 透明砂粒, 白色砂礫微, 針状物微	10YR6/6明黄褐	普通	
SI56	4	須恵器甕	— (7.4) —	頸部片。内外面ともにヘラナデで外面に櫛描波状文。	チャート, 白色砂礫, 針状物	5YR5/2灰褐 2.5Y6/2灰黄	良好堅緻	

遺構番号	図面番号	種類器種	口径器高底径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調(外面/内面)	焼成	備考
S157	1	土師器 坏	12.6 4.4 7.0	90%存。ロクロ成形。体部下端から底部は回転ヘラケズリで底部はその後ナデか。底部中央に墨書「万福」あり。内面黒色処理、密なミガキ(ミガキ方向不明)。	透明・白色・灰色砂粒多、白色砂礫少	7.5YR5/6明褐	普通	
S157	2	土師器 坏	(13.8) 4.2 (7.0)	口縁～底部片。ロクロ成形。体部下端から底部は回転ヘラケズリ。内面黒色処理、密なミガキ(体部がほぼ横方向、底部は1方向か)。	白色・灰色砂粒、針状物極微	5YR4/3にぶい赤褐 5YR3/3暗赤褐	普通	
S157	3	土師器 坏	(13.8) 4.2 (7.3)	口縁～底部30～40%存。ロクロ成形。底部はナデ、内面は密なミガキ(不定方向)。	透明・白色砂粒、白色砂礫微、針状物微	5YR5/6明赤褐 5YR4/6赤褐	やや良好	
S157	4	土師器 坏	(16.8) (4.8) —	口縁～体部、20～30%存。ロクロ成形。内面は密なミガキ(体部横一斜方向)。	透明・白色・灰色砂粒、白色砂礫、針状物	5YR4/4にぶい赤褐 2.5YR4/4にぶい赤褐	普通	
S157	5	土師器 坏	— (1.3) 5.6	底部片。底部を回転糸切り後、体部下端と底部の一部を手持ちヘラケズリ。内面は1方向の密なミガキ。	透明・白色・灰色砂粒、透明・白色・灰色砂礫、針状物極微	7.5YR6/6橙 5YR5/6明赤褐	普通	
S157	6	土師器 坏	— (1.7) —	体部片。ロクロ成形。墨書「口」あり。	透明・白色砂粒	7.5YR6/4にぶい橙	普通	
S157	7	土師器 椀	16.2 6.3 7.8	70～80%存。ロクロ成形。体部下端から底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ヨコナデ。内面は密なミガキ(体部横方向、底部は不明瞭)。	透明・白色・灰色砂粒、多、針状物極微	10YR6/4にぶい黄橙	やや不良	
S157	8	土師器 甕	(21.0) (18.8) —	口縁～胴部、20～30%存。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は内外面ともにヘラナデで内面は上半が横方向、下半が縦方向。	雲母、透明・白色・灰色砂礫多	5YR5/6明赤褐 2.5YR4/6赤褐	やや不良	
S157	9	須恵器 鉢	(33.6) 12.7 (15.0)	口縁～底部片。ロクロ成形。口唇部は面取り。体部下端は斜方向の雑なヘラケズリ。内面は下半に縦方向の磨り面あり。	チャート、白色砂礫多、針状物	10YR4/1褐灰 10YR6/1褐灰	良好堅緻	
S157	10	須恵器 短頸壺	— (17.6) —	頸部～体部、50～60%存。ロクロ成形。体部下半はヘラケズリ。肩部に自然釉がかかる。	チャート、白色砂礫、黒色粒	5Y4/1灰 5Y5/1灰	良好堅緻	
S158	1	須恵器 坏	13.8 4.7 8.8	ほぼ完存。口縁部の一部を欠失。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。	チャート(大)、白色砂礫、白色粒多、針状物微	5Y5/1灰	良好堅緻	
S158	2	須恵器 坏	(13.8) 5.2 7.4	40～50%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラ切り後ナデ。	チャート、白色砂礫、白色粒多、黒色粒、針状物微	5Y6/1灰	良好堅緻	
S158	3	須恵器 坏	(13.4) 4.8 (7.4)	30～40%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラ切り後ナデ。	チャート、透明・白色砂粒、針状物微	5Y8/1灰白 5Y7/1灰白	良好	
S158	4	須恵器 高台付坏	(14.5) 5.7 8.6	50～60%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート、白色砂礫、黒色粒、針状物	5Y5/1灰 5Y6/1灰	良好堅緻	
S158	5	須恵器 盤	(17.6) (4.0) —	口縁～底部片。高台部欠失。ロクロ成形。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート、白色砂礫、黒色粒、針状物微	7.5Y5/1灰	良好堅緻	
S158	6	須恵器 蓋	(16.8) (2.4) —	天井部～口端部。ロクロ成形。天井部は回転ヘラケズリ。口端部は短く下方へ屈曲。	チャート、白色砂礫、黒色粒、針状物微	7.5Y5/1灰	良好堅緻	
S158	7	土師器 甕	(24.6) (21.6) —	口縁～胴部、20～30%存。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面上半がヘラナデ、下半が密なミガキ。内面がヘラナデ、指頭によるナデ。	雲母、透明・白色砂礫多	7.5YR5/6明褐 7.5YR5/4にぶい褐	普通	
S158	8	土師器 甕	(22.6) (12.0) —	口縁～胴部片。外面は口縁部がヨコナデで、接合部が残る。胴部はナデで、ヘラ工具痕が残る。内面はナデ、ヘラナデ。	雲母、透明・白色砂礫多	5YR4/6赤褐	普通	
S158	9	土師器 甕	(24.5) (8.0) —	口縁～胴上部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面がナデ、内面がヘラナデ。	雲母、透明・白色砂礫多	7.5YR5/6明褐 7.5YR5/4にぶい褐	普通	
S159	1	須恵器 坏	(13.6) 4.6 (8.8)	口縁～底部片。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。二次底部面あり。	白色・灰色砂礫、針状物	5Y5/1灰	良好堅緻	
S159	2	須恵器 坏	— (2.0) 9.0	体部下端～底部片。歪みがやや大きい。底部は回転ヘラケズリ。体部の一部に自然釉がかかる。	チャート少、白色砂礫少、黒色粒、針状物	2.5Y6/1黄灰	良好堅緻	
S159	3	須恵器 坏	— (2.8) (8.0)	体部～底部片。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。内面に付着物(鉄分か)あり。	チャート、白色砂粒、針状物	2.5Y6/2灰黄	やや良好	
S159	4	土師器 高台付坏	— (3.1) (8.8)	体部～底部片。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデで体部下端側は強め。内面黒色処理、密なミガキ(体部横方向、底部1方向)。	透明砂粒、灰色砂粒、白色砂礫微、針状物微	7.5YR6/6橙	やや良好	
S159	5	土師器 椀	— (2.2) (8.2)	底部・高台部片。ロクロ成形。内面黒色処理、密なミガキ。	透明砂粒、灰色砂粒、白色砂粒、針状物微	10YR7/4にぶい黄橙	普通	
S159	6	須恵器 高台付坏	— (2.3) (8.0)	体部下端～底部片。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。	白色砂粒、角閃石、輝石類	7.5Y5/1灰	良好堅緻	
S159	7	須恵器 高台付皿カ	(15.4) (2.6) —	口縁～底部片。ロクロ成形。底部・高台部は貼り付け後ナデ。	白色砂粒、白色砂礫、灰色砂礫	N6/ 灰 N5/ 灰	良好堅緻	

第3章 調査の成果

遺構番号	図面番号	種類器種	口径器高底径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調(外面/内面)	焼成	備考
SI59	8	須恵器蓋	16.0 3.4 —	ほぼ完存。口縁の一部を欠失。摘部は擬宝珠状で頂部は平坦、摘径2.3cm、摘高0.8cm。天井部は回転ヘラケズリ。口端部は短く下方へ屈曲。	チャート、白色砂礫、針状物多	7.5YR6/2灰褐 10YR6/2灰黄褐	やや良好	
SI59	9	須恵器蓋	14.4 3.4 —	完存。ロクロ成形。摘部は擬宝珠状、摘径2.3cm、摘高1.2cm。天井部は回転ヘラケズリ。口端部は外面に面を形成。	チャート、白色砂礫、透明砂粒、針状物微	N4/ 灰	良好堅緻	
SI59	10	須恵器蓋	— (2.0) —	天井部片。摘部はボタン状、摘径2.8cm、摘高0.6cm。頂部突出部は欠失。天井部は回転ヘラケズリ。	チャート、白色砂礫、白色砂粒、針状物	10YR5/1褐灰	良好堅緻	
SI59	11	須恵器蓋	14.2 (2.4) —	ほぼ完存。摘部欠失。ロクロ成形。天井部は回転ヘラケズリ。口端部は外面に面を形成。	チャート多、白色・灰色砂粒多、針状物	5Y7/1灰白	良好	
SI59	12	須恵器蓋	(14.4) (2.1) —	70～80%存。摘部欠失。天井部は回転ヘラケズリ。口端部は外面に面を形成。	チャート、白色砂礫、透明砂粒、針状物	2.5Y7/2灰黄	良好	
SI59	13	須恵器蓋	(16.4) (2.3) —	天井部、30～40%存。天井部は回転ヘラケズリ。口端部は短く下方へ屈曲。	チャート、白色砂礫、針状物微	N6/ 灰	良好堅緻	
SI59	14	土師器甕	(25.0) (27.3) —	口縁～胴部片、30～40%存。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面上半がヘラナデで工具痕が目立つ。下半が縦方向の密なミガキ。内面がヘラナデで工具痕が目立つ。	雲母、白色砂礫、黒色粒、赤色スコリア微	10YR7/4にぶい黄橙 7.5YR6/4にぶい橙	普通	
SI59	15	土師器甕	— (23.0) (10.0)	胴部下半～底部、20～30%存。外面は胴部が縦方向の密なミガキ。底部が木葉痕。内面は斜めから横方向のヘラナデ。胴部下端に底部との接合痕あり。	雲母、白色砂礫、灰色砂礫、赤色スコリア少	10YR5/2灰黄褐 10YR6/2灰黄褐	普通	
SI59	16	須恵器甕	— (5.4) —	胴部片。胴部は不定方向の平行タタキ。内面はナデか。	雲母多、白色砂礫	N4/ 灰	良好堅緻	新治窯産
SI59	17	須恵器甕	— (2.0) —	胴部片。外面は同心円状のタタキ。内面はナデか。	雲母少、白色粒	N4/ 灰	良好堅緻	新治窯産
SI60	1	須恵器高台付坏	15.2 6.0 10.2	70～80%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート、白色砂礫、黒色粒少、針状物	5Y6/1灰	良好堅緻	
SI60	2	須恵器高台付坏	14.7 5.5 9.2	80～90%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート、白色砂礫、黒色粒少、針状物	5Y6/1灰 N6/ 灰	良好堅緻	
SI60	3	須恵器高台付坏	(5.0) —	30～40%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は欠失で貼り付け後ナデ。	チャート、白色砂礫、黒色粒、針状物微	5Y6/1灰 N6/ 灰	良好堅緻	
SI60	4	土師器甕	(15.5) (16.8) —	口縁～胴部、30～40%存。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面上半がナデ、下半が縦・斜方向の密なミガキ。内面がヘラナデ。	雲母、透明、白色、灰色砂礫、赤色粒微	7.5YR5/4にぶい褐	普通	
SI61	1	土師器坏	(13.5) (3.9) —	口縁～体部片。外面は口縁部がヨコナデ、体部はヘラケズリ。内面はヨコナデ後、放射状のまばらなミガキ。	白色砂粒、白色・灰色砂礫、針状物極微	10YR7/3にぶい黄橙 10YR7/4にぶい黄橙	やや良好	
SI61	2	土師器坏	(13.0) (2.5) —	口縁～体部片。外面は口縁部がヨコナデ、体部はヘラケズリ。内面はヨコナデ後、放射状のまばらなミガキ。	透明・白色・灰色砂粒	5YR6/4にぶい橙	やや良好	
SI61	3	土師器坏	— (3.4) —	口縁部片。口唇部内端わずかに欠け。口縁部は内外面ともにヨコナデ。体部との境に稜を持つ。	雲母、透明・白色・灰色砂粒	7.5YR4/2灰褐 7.5YR6/4にぶい橙	普通	
SI61	4	須恵器坏	— (2.4) —	体部下端～底部、20～30%存。ロクロ成形。底部は丸底気味で回転ヘラケズリ。	雲母、透明・白色砂礫多	10YR5/2灰黄褐	普通	新治窯産
SI61	5	須恵器蓋	16.0 (2.1) —	天井部～口端部、20～30%存。ロクロ成形。天井部は回転ヘラケズリ。口端部は内面にかえりを持つ。	雲母少、白色砂粒多	2.5Y6/1黄灰	良好	新治窯産
SI61	6	須恵器蓋	(17.0) (2.3) —	天井部～口端部片。ロクロ成形。天井部は回転ヘラケズリ。口端部は内面にかえりを持つ。	雲母、灰色砂粒	2.5Y8/1灰白	やや良好	新治窯産
SI61	7	土師器甕	(22.0) (4.6) —	口縁部片。内外面ともにヨコナデ。	雲母、白色・灰色砂粒多	7.5YR6/4にぶい橙	やや良好	
SI61	8	土師器甕	(25.0) 32.0 (10.4)	50～60%存。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面がヘラケズリで下半部を縦・斜方向のミガキ。内面が縦方向の丁寧なミガキ。底部は単孔。	雲母、白色・灰色砂粒、白色・灰色砂礫	10YR7/6明黄褐	やや良好	
SI62	1	土師器坏	(15.0) 3.9 (7.2)	30～40%存。ロクロ成形。体部下端から底部は回転ヘラケズリ。内面黒色処理、密なミガキ(体部横・斜方向、底部1方向)。	透明、白色、灰色砂粒、針状物微	7.5YR5/4にぶい褐	普通	
SI62	2	土師器坏	(17.8) 4.7 7.5	40～50%存。ロクロ成形。体部下半から底部は回転ヘラケズリ。内面黒色処理、密なミガキ(体部横方向、底部1方向)。	透明、白色、灰色砂粒、針状物極微	10YR7/4にぶい黄橙	やや良好	
SI62	3	須恵器坏	— (4.0) 6.5	60～70%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラ切り後ナデで、線刻あり。	透明・白色砂粒、大きめの砂礫多	2.5YR5/6明赤褐	良好堅緻	
SI62	4	須恵器坏	— (2.6) (7.0)	体部下端～底部片。ロクロ成形。底部はナデ。体部に墨書「口」あり。	チャート、白色砂礫、黒色粒、針状物微	5Y6/2灰オリーブ	良好堅緻	

遺構番号	図面番号	種類器種	口径器高底径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調(外面/内面)	焼成	備考
SI62	5	土師器高台付皿	13.7 3.0 8.5	70～80%存。ロクロ成形。体部下端～底部は回転ヘラケズリ。高台付部は貼り付け後ナデ。内面黒色処理。密なミガキ(体部横方向、底部不定方向)。	透明、白色、灰色砂粒、針状物微	5YR5/6明赤褐	やや良好	
SI62	6	土師器甕	(15.0) (6.0) —	口縁～胴上部片。口縁部は内外面ともにヨコナデで内面には輪積痕が残る。胴部は内外面ともにヘラナデ。	雲母、白色砂粒、透明・白色砂礫	5YR4/3にぶい赤褐 7.5YR2/1黒	普通	
SI62	7	須恵器甕	(39.0) (10.0) —	口縁～胴上部片。口縁部から頸部にかけてはロクロナデ。胴部外面は斜方向の平行タタキ。	チャート、白色砂礫、針状物	10YR5/1褐灰	良好堅緻	
SI63	1	土師器甕	(23.2) (19.9) —	口縁～胴部、20～30%存。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面上半がヘラナデ、下半にミガキ。内面がヘラナデ。	雲母、白色砂礫多、灰色砂礫少	7.5YR5/4にぶい褐 10YR5/3にぶい黄褐	普通	
SI63	2	須恵器甕	(7.8) —	胴部片。外面は不定方向の平行タタキ。内面は自然釉がかかる。	白色砂礫微、透明・白色砂粒、黒色粒	2.5Y7/1灰白 2.5Y6/2灰黄	良好堅緻	
SI64	1	土師器坏	(15.0) 3.6 —	60～70%存。口縁部外面から内面にかけてヨコナデ。体部から底部にかけての外面はヘラケズリ。	雲母、白色砂礫多、透明・白色砂粒	5YR5/4にぶい赤褐	普通	
SI64	2	須恵器坏	(14.0) 4.2 (10.0)	40～50%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。二次底部面あり。	チャート、白色砂礫少、灰色・褐色砂粒、針状物少	10YR8/4浅黄橙	やや良好	
SI64	3	須恵器坏	(14.4) 3.5 (8.2)	20～30%存。ロクロ成形。底部は手持ちヘラケズリ。	雲母、白色、灰色砂礫多、透明・白色砂粒	2.5Y5/2暗灰黄	やや良好	新治窯産
SI64	4	須恵器蓋	(16.8) (2.3) —	天井部～口端部、30～40%存。天井部は回転ヘラケズリ。口端部は短く下方へ屈曲。	チャート、白色砂礫、黒色粒、針状物	N5/ 灰	良好堅緻	
SI64	5	土師器甕	(24.0) (15.0) —	口縁～胴上半部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は内外面ともに丁寧なヘラナデで内面の胴上部には輪積痕が残る。	雲母、白色・灰色砂粒、透明・白色砂礫	10YR7/4にぶい黄橙	普通	
SI64	6	土師器甕	(22.6) (5.6) —	口縁～胴上部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は内外面ともに丁寧なナデ。内面多少器面荒れ。	雲母、透明・白色砂礫多	7.5YR5/4にぶい褐 10YR5/3にぶい黄褐	普通	
SI64	7	土師器甕	(20.8) (8.0) —	口縁～胴上部片。外面は摩耗顕著で調整不明。内面は口縁部がヨコナデ、胴部が摩耗剥離で調整不明。	白色、灰色砂粒多、白色砂礫多、輝石類少	2.5YR6/6橙 10YR6/4にぶい黄橙	普通	
SI64	8	須恵器甕	(26.4) (9.1) —	口縁～頸部片。全体に摩耗顕著で調整不明瞭。口縁部は折り返しで、ヨコナデか。頸部はロクロナデか。	雲母、白色・灰色砂礫、赤色粒	10YR6/3にぶい黄橙 7.5YR5/4にぶい褐	普通	
SI64	9	須恵器甕	(11.0) 11.4	胴部下半～底部、20～30%存。胴部は内外面ともにロクロナデで外面下端部はヘラケズリ。底部は外面が丁寧なナデ、内面には自然釉がわずかにかかる。	チャート、白色砂礫、黒色粒、針状物針状物	2.5Y7/1灰白 2.5Y6/2灰黄	良好	
SI64	10	土師器鉢	(18.2) (8.3) —	口縁～体部片。ロクロ成形。体部外面の下半はヘラケズリ、内面はヘラナデ。	透明・白色・灰色砂粒、針状物微	7.5YR5/4にぶい褐 7.5YR4/2灰褐	普通	
SI65	1	須恵器坏	(4.1) (7.4)	体部～底部片。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。二次底部面あり。	チャート、白色砂礫、針状物	5Y6/1灰	良好堅緻	
SI65	2	須恵器坏	(1.4) 7.2	底部片。ロクロ成形。外面は回転ヘラケズリ。刻書「×」あり。	チャート、白色砂礫、針状物微	2.5Y8/1灰白	やや良好	
SI65	3	須恵器坏	(2.6) —	体部片。ロクロ成形。口縁部との境に稜を持つ。	チャート、白色砂礫、針状物少	7.5YR5/3にぶい褐 7.5YR7/4にぶい橙	良好	
SI65	4	須恵器甕	(3.3) —	頸部片。櫛描波状文と櫛描区画文を施す。	雲母、白色砂粒、赤色粒微	2.5Y4/1黄灰 2.5Y5/2暗灰黄	普通	新治窯産
SI65	5	土師器甕	(4.7) —	口縁～頸部片。口縁部はヨコナデ。	透明・白色・灰色・褐色砂粒、透明・白色砂礫少	7.5YR7/6橙	普通	
SI65	6	土師器甕	(2.7) (11.0)	胴部下端～底部片。外面は胴部下端が斜方向の密なミガキ。底部は木葉痕。内面はヘラナデ。	雲母、透明・白色砂礫多	7.5YR3/3暗褐	やや不良	
SI66	1	土師器坏	13.0 3.8 7.2	完存。ロクロ成形。体部下端から底部は回転ヘラケズリで、底部は歪みが大きく上げ底状になる。内面黒色処理。密なミガキ(体部横・斜方向、底部1方向)。	雲母、透明・白色・濃灰色砂粒、角閃石、輝石類、針状物	7.5YR5/4にぶい褐	普通	
SI66	2	須恵器坏	(14.8) 4.2 (7.0)	口縁～底部片。ロクロ成形。回転ヘラ切り後、ナデ。	チャート、白色砂礫、針状物微	7.5Y5/1灰	良好堅緻	
SI66	3	須恵器高台付坏	(2.1) (8.8)	底部片。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。刻書「×」あり。	チャート、透明・白色砂礫、黒色粒、針状物	N6/ 灰	良好堅緻	
SI66	4	須恵器高台付坏	(1.6) (8.0)	底部片。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート、白色砂礫、針状物	2.5Y6/1黄灰	良好堅緻	
SI66	5	土師器皿	(1.0) (8.0)	体部下端～底部片で、回転ヘラケズリ。内面黒色処理。密なミガキ。底部に墨書「白口」あり。	雲母、白色・灰色砂粒、灰色砂礫、針状物	10YR7/4にぶい黄橙	普通	

第3章 調査の成果

遺構番号	図面番号	種類器種	口径器高底径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調(外面/内面)	焼成	備考
SI66	6	土師器甕	(20.5) (8.5) —	口縁～胴上部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面がナデ、内面が縦方向のヘラナデ。	雲母、白色砂礫	5YR3/1黒褐	やや良好	
SI66	7	須恵器甕	— (3.0) —	胴部片。外面は格子状のタタキ。	雲母、白色・灰色砂粒	10YR7/4にぶい黄橙	普通	新治窯産
SI66	8	須恵器甕	— (4.3) —	胴部片。外面は並行タタキ。	雲母、白色砂粒	7.5YR6/6橙	普通	新治窯産
SI66	9	須恵器甕	— (2.1) —	口縁部片。ヨコナデ後、外面にタタキか。	雲母、白色・灰色砂粒多	10YR5/3にぶい黄褐 2.5Y6/3にぶい黄	普通	新治窯産
SI67	1	土師器高台付坏	— (1.3) 6.0	底部片。外面は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。内面黒色処理、1方向の密なミガキ。底部に墨書「由木西子」あり。	雲母、濃灰色・透明・白色砂礫、針状物	5YR6/6橙	やや良好	
SI67	2	須恵器蓋	(16.0) (1.3) —	口端部片。ロクロ成形。端部外面が突出し、端部は短く下方に屈曲。	雲母微、白色・灰色砂粒	5YR6/6橙	やや良好	
SI67	3	須恵器蓋	— (2.0) —	天井部片。ロクロ成形。回転ヘラケズリ。	透明・白色・灰色砂粒、角閃石、輝石類	2.5YR4/6赤褐	良好	
SI67	4	須恵器蓋	(16.0) (1.2) —	口端部片。ロクロ成形。内面に短いかえりが付く。	透明・白色・灰色砂粒	2.5YR4/6赤褐	良好	
SI67	5	須恵器蓋	(15.8) (1.1) —	口端部片。ロクロ成形。内面にかえりが付く。	雲母、白色・灰色砂粒	2.5Y6/2灰黄	普通	
SI67	6	須恵器蓋	(14.8) (2.0) —	口端部片。ロクロ成形。口端部外面に面を形成し、内面はわずかに屈曲。口端部面から内面にかけて自然釉。	黒色粒、大きめの白色砂礫	2.5Y7/1灰白	良好堅緻	
SI67	7	土師器甕	(22.5) (30.5) —	40～50%存。口縁部は外面がヨコナデ、内面が不明瞭。胴部は外面上半がナデ、下半が縦方向の密なミガキ。内面は横方向のヘラナデ。	雲母、透明・白色砂礫多	5YR5/6明赤褐	普通	
SI68	1	須恵器坏	— (2.8) —	体部片。ロクロ成形。外面に墨書「口」あり。	白色砂礫、針状物	2.5Y6/2灰黄	良好堅緻	
SI68	2	須恵器坏	(9.0) (2.7) —	体部下端～底部片。底部は回転ヘラケズリ。二次底部面あり。	雲母、灰色砂粒、灰色砂礫	10YR7/2にぶい黄橙	普通	新治窯産
SI68	3	須恵器蓋	15.1 3.3 —	60～70%存。摘径4.0cm、摘高0.5cm。天井部は回転ヘラケズリ。内面に磨り面あり。墨痕わずかに残存し、硯として転用したとみられる。口端部は内面にかえりを持つ。	白色砂礫多	5PB6/1青灰	良好堅緻	
SI68	4	土師器甕	(23.0) (4.9) —	口縁部片。内外面ともにヨコナデ。	雲母、白色砂礫多、透明砂粒	7.5YR6/8橙	普通	
SI69	1	土師器坏	(12.4) 4.0 (6.4)	20～30%存。ロクロ成形。体部下端～底部は回転ヘラケズリ。内面黒色処理、密なミガキ(体部横・斜方向、底部1方向)。	雲母(細粒)、白色砂粒多、針状物	7.5YR5/4にぶい褐	普通	
SI69	2	須恵器坏	(14.8) 4.6 (8.6)	30～40%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラ切り後、切り離し部をナデ。	チャート、白色砂礫、針状物	7.5YR7/6橙	良好	
SI69	3	須恵器坏	— (3.4) (7.0)	体部～底部片。ロクロ成形。底部はナデ。	チャート、白色砂礫多、針状物少	2.5Y6/1黄灰	良好堅緻	
SI69	4	須恵器坏	— (2.4) (7.6)	体部～底部片。底部は回転ヘラ切り後ナデ。	透明・白色砂粒、灰色砂礫少	2.5Y7/2灰黄	良好	
SI69	5	土師器碗	(16.6) (4.6) —	20～30%存。高台部欠失。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。	透明・白色・灰色砂粒多、赤色粒少	7.5YR4/3褐	普通	
SI69	6	須恵器高台付坏	(12.5) (4.3) —	口縁～体部片。ロクロ成形。外面は体部下端まで自然釉がかかる。	白色粒微、黒色粒多、針状物少	2.5Y6/2灰黄	良好堅緻	
SI69	7	須恵器高台付坏	— (2.0) (8.0)	底部片。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。	透明・白色砂粒、白色砂礫多	5Y5/1灰	良好堅緻	
SI69	8	盤	3.4 (8.8)	底部全体に朱墨が施される。	針状物	10YR6/3にぶい黄橙	良好	
SI69	9	土師器甕	(20.2) (9.5) —	口縁～胴上部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面がナデ、内面がヘラナデ。	雲母多、透明・白色・灰色砂礫多	7.5YR5/6明褐 5YR5/6明赤褐	普通	
SI69	10	土師器甕	(21.8) (6.4) —	口縁～胴上部片。口縁部外面はヨコナデでヘラ状工具の当て具痕あり。胴部は外面はナデ、内面は全体にヘラナデ。	雲母、透明・白色・灰色砂礫多	7.5YR5/6明褐	普通	
SI69	11	土師器甕	— (5.3) 7.6	胴部～底部片。外面は胴部が横方向のヘラケズリ。底部が木葉痕。内面はヘラナデ。	雲母(細粒)、白色・灰色砂礫多	5YR4/6赤褐 7.5YR5/4にぶい褐	普通	

遺構番号	図面番号	種類器種	口径器高底径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調(外面/内面)	焼成	備考
SI69	12	土師器甕	— (5.8) 7.6	胴部～底部片。外面は胴部が横方向のヘラケズリ。底部が木葉痕で、縁に胴部接合時のみ出た部分が残存。内面はヘラナデ。	透明・白色砂礫多	7.5YR5/3にぶい褐 7.5YR4/3褐	やや不良	
SI69	13	須恵器瓶	— (8.3) (14.0)	胴部～底部片。胴部は外面が縦方向の平行タタキで、下端は横方向のヘラケズリ。内面がヘラナデで下端から孔周辺は横方向のヘラケズリ。	雲母、白色・灰色砂礫	10YR6/1灰褐	普通	新治窯産
SI70	1	土師器杯	(14.0) (4.3) —	口縁～体部片。20～30%存。ロクロ成形。内面黒色処理。横方向の密なミガキ。体部外面に墨書「下カ」あり。	透明・灰色砂礫、針状物少	7.5YR6/4にぶい橙	やや良好	
SI70	2	須恵器杯	(13.0) (4.2) —	口縁部片。ロクロ成形。	チャート、白色砂粒、白色砂礫	5Y6/1灰	良好堅緻	
SI70	3	須恵器杯	(13.0) 4.3 (7.5)	口縁～底部片。20～30%存。ロクロ成形。底部は1方向のナデ。	チャート、白色砂礫、白色・灰色砂粒、針状物少	2.5Y5/1黄灰	良好堅緻	
SI70	4	須恵器杯	(13.3) 4.2 (9.0)	30～40%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラ切り後、回転ヘラケズリか。体部外面の一部に自然釉がかかる。	チャート、白色砂礫多、針状物微	5Y5/1灰	良好堅緻	
SI70	5	須恵器杯	— (1.4) (9.0)	底部片。ロクロ成形。二次底部面あり。外面はナデ後一部ヘラケズリ。ヘラケズリ部分に朱墨痕。	チャート、白色・灰色砂粒多、白色砂礫	2.5Y7/2灰黄	良好	
SI70	6	土師器高台付皿	— (2.9) 7.3	体部下端～底部片、20～30%存。ロクロ成形。底部調整はナデか。高台部は貼り付け後、強めのロクロナデ。内面黒色処理は剥離か。密なミガキ(体部横方向、底部1方向)。	透明・白色・濃灰色砂粒、輝石類、針状物	10YR5/3にぶい黄褐	普通	
SI70	7	土師器甕	(23.0) (12.3) —	口縁～胴上半部。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は内外面ともにヘラナデで外面にはヘラ状工具痕が残り、内面は頸部付近を横方向に調整。	雲母、白色・灰色砂礫、透明砂粒	7.5YR7/6橙	普通	
SI71	1	土師器杯	— (2.5) —	口縁部片。ロクロ成形。	透明砂粒、濃灰色粒	5YR5/6明赤褐 5YR6/6橙	普通	
SI71	2	土師器杯	— (2.1) —	体部下端～底部片。体部下端は手持ちヘラケズリ。底部は摩擦で調整不明。内面黒色処理。密なミガキ(体部横方向、底部不明)。	透明・白色砂粒多、灰色粒、角閃石、輝石類、針状物	7.5YR6/6橙	やや良好	
SI72	1	須恵器杯	(13.0) (2.7) —	口縁部片。ロクロ成形。	チャート、白色砂礫、針状物微	2.5Y5/2暗灰黄	良好堅緻	
SI72	2	須恵器杯	— (2.7) (6.6)	体部下端～底部片。ロクロ成形。底部はナデ。	チャート、白色砂礫、透明・白色砂粒	2.5Y5/2暗灰黄	良好堅緻	
SI72	3	土師器甕	(21.0) (11.0) —	口縁～胴上半部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面がナデ、内面は横・斜方向のヘラナデ。	雲母、白色・灰色砂礫	5YR5/6明赤褐 7.5YR4/3褐	普通	
SI72	4	土師器甕	(21.0) (11.2) —	口縁～胴上半部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面がナデ、内面はヘラナデでヘラ状工具痕が目立つ。	雲母、白色・灰色砂礫	7.5YR6/4にぶい橙	普通	
SI72	5	須恵器甕	— (4.5) —	頸部～胴部片。外面は頸部がヨコナデ、胴部が縦方向の平行タタキ。内面はヘラナデ。	雲母、白色砂礫、透明・白色砂粒	7.5YR4/4褐 10YR4/2灰黄褐	普通	新治窯産
SI72	6	須恵器瓶	— (3.0) (15.0)	底部片。外面及び孔部周辺は横方向のヘラケズリ。	チャート、白色砂礫、白色砂粒、針状物	2.5Y7/2灰黄	良好堅緻	
SI72	7	須恵器鉢	(28.0) (8.0) —	口縁～胴部片。ロクロ成形。口唇部は面取り。	チャート、白色砂礫、針状物	2.5Y7/2灰黄	良好堅緻	
SI73	1	土師器杯	(15.2) 5.2 8.4	80～90%存。ロクロ成形。体部下端～底部は回転ヘラケズリで、底部には切り離し痕が残る。内面黒色処理。密なミガキ(体部横方向、底部1方向)。	雲母少、透明砂粒、透明・灰色砂礫、灰色粒、針状物多	10YR6/4にぶい黄橙	普通	
SI73	2	須恵器皿か	— (2.0) —	体部片。ロクロ成形。	白色砂礫、白色粒、黒色粒	N5/ 灰	良好堅緻	
SI73	3	土師器甕	(22.0) (3.9) —	口縁部片。内外面ともにヨコナデ。	雲母、白色・灰色砂礫多	7.5YR6/6橙	普通	
SI74	1	土師器杯	(15.0) (3.2) —	口縁～体部片。外面は口縁部がヨコナデ、体部がヘラケズリ。内面は全体にヨコナデ。	透明・白色砂粒	10YR3/2黒褐	やや良好	
SI74	2	土師器杯	(14.0) (4.0) —	口縁～体部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。体部は外面がヘラケズリ、内面がナデ。	透明・灰色砂礫、灰色砂礫	7.5YR4/2灰褐	普通	
SI74	3	土師器甕	(18.0) 20.0 (8.0)	30～40%存。外面は口縁部がヨコナデ、胴部が縦方向のヘラナデ。内面は口縁部から胴部にかけてヨコナデ、胴部は横方向のヘラナデ。	透明・白色砂粒、白色・灰色砂礫、針状物	7.5YR5/4にぶい褐	やや不良	
SI74	4	土師器甕	(12.7) (8.4) —	口縁～胴部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面がヘラケズリ、内面はヘラナデ。	白色砂粒、赤色粒、角閃石、輝石類多	7.5YR6/6橙 5YR6/6橙	普通	
SI74	5	須恵器甕	— (7.0) —	頸部～胴部片。外面は口縁部がヨコナデ、胴部が縦方向の平行タタキ後ヘラナデ。内面は口縁部から頸部にかけてヨコナデで、一部斜状のヘラナデ。胴部が同心円の当て具痕。	チャート、白色砂礫、白色粒	10YR5/1褐灰 7.5YR5/2灰褐	良好堅緻	

第3章 調査の成果

遺構番号	図面番号	種類器種	口径器高底径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調(外面/内面)	焼成	備考
SI74	6	土師器甌	(28.0) (7.5) —	口縁～胴上部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部の外面はナデ、内面はヘラナデ。	雲母、白色砂礫多、透明・白色・灰色砂粒	7.5YR6/4にぶい橙	普通	
SI74	7	土師器甌	(26.0) (10.5) —	口縁～胴部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部の外面は縦方向のヘラケズリ、内面は縦方向の密なミガキ。	白色砂礫、白色砂粒多、灰色砂礫	5YR5/6明赤褐	やや良好	
SI74	8	土師器甕又は鉢	(20.0) (4.3) —	口縁～体部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。体部は外面がヘラケズリ、内面がナデ。	透明・白色砂粒、灰色砂礫	7.5YR4/2灰褐	普通	
SI74	9	須恵器長頸壺	(11.6) (1.9) —	口縁部片。ロクロ成形。内面に自然軸がかかる。	白色砂粒少、黒色粒	2.5Y5/1黄灰 5Y6/3オリーブ黄	良好堅緻	
SI75	1	土師器坏	(15.8) (4.1) —	口縁～体部片。ロクロ成形。内面黒色処理。密なミガキ(体部横・斜方向)。	透明・白色砂粒、灰色粒、角閃石、輝石類、針状物少	10YR6/4にぶい黄橙	やや良好	
SI75	2	土師器坏	(12.8) (2.4) —	口縁部片。ロクロ成形。内面黒色処理。密なミガキ(体部横・斜方向)。	雲母(細粒)、白色砂粒、濃灰色粒	10YR7/3にぶい黄橙	普通	
SI75	3	土師器碗	15.1 6.3 8.4	80～90%存。ロクロ成形。体部下端は回転ヘラケズリ。底部は高台貼り付け後ロクロナデ。	透明・白色砂粒、灰色粒多、針状物	10YR8/3浅黄橙 5YR5/6明赤褐	普通	
SI75	4	土師器碗	— (1.6) (9.8)	底部・高台部片。ロクロ成形。高台部は貼り付け後ナデ。内面は密なミガキ(底部1方向)。	白色砂粒少、灰色粒	10YR6/4にぶい黄橙	普通	
SI75	5	土師器碗	— (1.7) (9.0)	底部片。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。内面黒色処理。密なミガキ(体部横方向、底部1方向)。	白色砂粒、白色砂礫、灰色粒、針状物微	7.5YR5/4にぶい褐	普通	
SI77	1	土師器坏又は皿	— (1.6) (6.0)	体部下端～底部片。ロクロ成形。体部下端から底部は回転ヘラケズリにより、段を作出。内面黒色処理。1方向の密なミガキ。	透明・白色・灰色砂粒、針状物	10YR5/4にぶい黄褐	普通	
SI77	2	土師器碗	— (2.5) (6.0)	体部下端～底部片。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。内面黒色処理。密なミガキ(1方向)。	透明・白色・灰色砂粒、透明・白色砂礫、針状物	7.5YR5/4にぶい褐	普通	
SI77	3	土師器高台付皿	(13.8) 1.9 (9.0)	口縁～底部片。ロクロ成形。体部内面は斜方向の密なミガキ。高台部は貼り付け後ナデか。	透明・白色・灰色砂粒、針状物	7.5YR6/6橙	やや良好	
SI77	4	須恵器蓋	(15.6) (2.2) —	天井部～口端部片。ロクロ成形。天井部は回転ヘラケズリ。口端部は短く下方へ屈曲。	チャート、白色砂礫、黒色粒、針状物少	5Y6/1灰	良好堅緻	
SI77	5	土師器甕	(24.2) (8.4) —	口縁～胴上部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面がヘラナデで工具痕が残る。内面が木目の粗い工具で横方向に調整。	雲母少、白色砂礫多	7.5YR5/4にぶい褐	普通	
SI77	6	土師器甕	— (4.4) (9.8)	胴部下端～底部片。外面は胴部が斜方向の密なミガキ。底部が木葉痕。内面が横方向のヘラナデ。	雲母多、透明・白色砂礫多	7.5YR4/2灰褐 7.5YR6/4にぶい橙	普通	
SI78	1	土師器坏	13.9 4.0 8.0	ほぼ完存。口縁部をわずかに欠失。ロクロ成形。体部下半から底部にかけて回転ヘラケズリ。内面黒色処理。密なミガキ(体部横方向、底部1方向)でロクロ目の残存顕著。	透明・灰色砂粒、針状物微	5YR5/6明赤褐	普通	
SI78	2	土師器坏	(13.4) 4.5 (7.0)	20～30%存。ロクロ成形。体部下端から底部は回転ヘラケズリ。内面黒色処理。密なミガキ(体部横方向、底部不定方向)。	透明・白色砂粒、灰色粒、針状物微	7.5YR7/6橙	普通	
SI78	3	土師器坏	(12.0) 3.7 (6.0)	口縁～底部片。ロクロ成形。体部下半から底部は回転ヘラケズリ。内面黒色処理。密なミガキ(体部横・斜方向、底部1方向)。	透明・白色砂粒、灰色粒、針状物微	10YR4/3にぶい黄褐	普通	
SI78	4	土師器坏	(13.2) 4.0 (7.0)	30～40%存。ロクロ成形。体部下半から底部は回転ヘラケズリ。内面黒色処理。密なミガキ(体部横方向、底部1方向)。	白色砂粒多、透明砂粒、透明砂礫、針状物	10YR5/3にぶい黄橙	普通	
SI78	5	土師器坏	— (2.0) (8.0)	体部～底部片。ロクロ成形。体部下半から底部は回転ヘラケズリ。内面は密なミガキ(体部横方向、底部1方向)。	透明・白色砂粒、灰色粒、針状物微	7.5YR6/6橙	やや良好	
SI78	6	土師器坏	(8.6) 2.6 (4.6)	30～40%存。ロクロ成形。体部下半から底部は回転ヘラケズリ。内面黒色処理。密なミガキ(体部横方向、底部1方向)。	白色砂粒多、透明砂粒、灰色砂礫少、針状物微	7.5YR7/6橙	やや良好	
SI78	7	須恵器坏	(12.8) 4.6 (6.2)	40～50%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラ切り後ナデ。	白色砂粒多、白色・灰色砂礫、針状物微	10Y5/1灰	良好堅緻	
SI78	8	須恵器坏	(13.4) (3.8) —	口縁～体部片。ロクロ成形。内面はヘラナデ。	チャート、白色砂礫、針状物	2.5Y6/2灰黄	普通	
SI78	9	土師器碗	11.4 5.2 6.8	80～90%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。内面黒色処理。密なミガキ(体部横方向、底部1方向)。体部に墨書「十」あり。	透明・白色砂粒、灰色粒多、針状物微	5YR7/6橙	やや良好	
SI78	10	土師器高台付坏	(11.0) 3.1 (7.2)	40～50%存。ロクロ成形。体部下端を強いヨコナデ。底部は回転ヘラケズリ。内面黒色処理で体部は剥落。密なミガキ(体部横方向、底部1方向)。	透明・白色砂粒、灰色粒、角閃石、輝石類、針状物微	2.5YR5/6明赤褐	やや良好	
SI78	11	土師器高台付皿	(13.6) 1.9 7.8	50～60%存。ロクロ成形。体部下端を強いヨコナデ。底部は回転ヘラケズリ。内面黒色処理。密なミガキ(体部・底部ともに1方向)。	透明・白色砂粒、白色砂礫、灰色粒、針状物微	10YR7/3にぶい黄橙	普通	

遺構番号	図面番号	種類 器種	口径器 高底径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調 (外面/内面)	焼成	備考
S178	12	土師器 高台付皿	(13.1) 2.1 (7.8)	口縁～底部片。ロクロ成形。底部は貼り付け後体部下端を強くヨコナデし、高台部を作出。底部は回転ヘラケズリ。内面黒色処理、密なミガキ(体部・底部ともに1方向)。	透明・白色・灰色砂粒、針状物微	7.5YR6/6橙	普通	
S178	13	土師器 甕	(16.0) (8.6) —	口縁～胴上部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面がナデ、内面がヘラナデで工具痕が残る。	透明・白色砂粒多、白色・灰色砂礫	7.5YR6/6橙 2.5YR5/6明赤褐	普通	
S178	14	土師器 鉢	— (5.0) (9.8)	体部～底部片。外面は体部が縦方向のヘラケズリで、下端は横方向のヘラケズリ。底部がヘラケズリ後ナデ。内面黒色処理、密なミガキ(体部横方向、底部1方向)。	透明・白色・灰色砂粒、針状物微	7.5YR7/6橙	普通	
S178	15	須恵器 壺瓶類	— (2.4) (10.8)	底部片。高台部を貼り付け後ナデ。内面に自然釉がかかる。	白色砂礫、黒色粒、針状物極微	2.5Y5/2暗灰黄 2.5Y4/2暗灰黄	良好 堅緻	
S178	16	須恵器 内面硯	— (2.8) —	硯部はほぼ完存するが外堤及び内定の大部分が欠失。外堤径13.6cm、内堤径(8.6cm)、外堤高1.0cm、内堤高(0.4cm)で、外堤はやや外側へ向かって突出。陸面は平坦。脚部上端が残存し自然釉がかかるが、上位突帯は認められない。透かしの切り込みは13ヶ所。	白色・灰色砂礫、黒色粒多、針状物極微	2.5Y7/1灰白	良好 堅緻	
S179	1	土師器 坏	(15.7) 6.2 (8.0)	30～40%存。ロクロ成形。体部下端から底部は回転ヘラケズリ。内面黒色処理、密なミガキ(体部横方向、底部1方向)。	透明・白色・灰色砂粒、針状物微	10YR7/4にぶい黄橙	普通	
S179	2	土師器 坏	— (1.5) (6.6)	底部片。ロクロ成形。体部下端から底部は回転ヘラケズリ。	雲母、白色・灰色砂粒	10YR6/4にぶい黄橙 7.5YR6/6橙	やや 良好	
S180	1	須恵器 盤	(17.6) 4.5 (11.4)	口縁～底部片。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート、白色砂礫、白色砂粒、黒色粒、針状物少	5Y4/1灰 2.5Y5/2暗灰黄	良好 堅緻	
S180	2	土師器 甕	(21.4) (18.0) —	口縁～胴部。30～40%存。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面上半がヘラナデで工具痕が目立ち、下半が縦方向の密なミガキ。内面はヘラナデ。	雲母、白色・灰色砂礫多、赤色粒少	7.5YR6/6橙 10YR5/4にぶい黄褐	普通	
S180	3	土師器 甕	(22.0) (5.9) —	口縁～胴部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面がナデ、内面はヘラナデ。	雲母、白色・灰色砂礫多	7.5YR6/4にぶい橙	普通	
S180	4	須恵器 甕	(18.2) (6.0) —	口縁～頸部片。外面はヨコナデ。内面は口縁部は摩擦で不明、頸部はヘラナデ。	雲母、白色砂粒、白色砂礫多	2.5Y7/1灰白	普通	新治薬産
S181	1	土師器 坏	(11.8) 3.1 (6.8)	口縁～底部片。ロクロ成形。	透明・白色・灰色砂粒多、角閃石・輝石類、針状物少	7.5YR5/6明褐	やや 良好	
S181	2	土師器 坏	(12.2) 3.3 (7.4)	20～30%存。ロクロ成形。底部は手持ちヘラケズリか。	白色砂粒、角閃石・輝石類少、針状物	10YR4/3にぶい黄褐	普通	
S181	3	土師器 坏	— (1.9) (6.0)	体部下端～底部片。底部は回転糸切り後未調整。	白色・灰色砂粒多、角閃石・輝石類、針状物	5YR6/6橙	良好	
S181	4	土師器 坏	(13.6) 3.4 (7.0)	口縁～底部片。ロクロ成形。体部下端は手持ちヘラケズリ。底部は回転糸切り後未調整。内面黒色処理、密なミガキ(体部横方向、底部1方向)。	金雲母少、透明・白色・灰色砂粒、針状物少	7.5YR6/6橙	やや 良好	
S181	5	土師器 椀	14.0 (5.7) —	60～70%存。ロクロ成形。底部はヘラナデ。高台部は貼り付け後ナデで、接地部は欠失。貼り付け部が中心よりはずれ、底部の平坦面が一部のみ出る。内面黒色処理、全体に不定方向の密なミガキ。	金雲母少、透明・白色・砂粒多、白色砂礫多、針状物	7.5YR4/3褐	普通	
S181	6	土師器 高台付皿	(9.6) 2.0 (5.6)	50～60%存。ロクロ成形。底部は高台部貼り付け後ナデ。内面黒色処理で体部は剥落か。密なミガキ(体部横方向、底部不定方向)。	透明・白色・灰色砂粒多、針状物微	5YR5/6明赤褐	普通	
S181	7	土師器 甕	(22.0) (16.9) —	口縁～胴部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部の外面は縦方向のヘラケズリ、内面は横方向のヘラナデ。	透明・白色・灰色砂粒多、白色・灰色砂礫	7.5YR6/6橙	普通	
S181	8	須恵器 長頸壺	(7.7) (2.4) —	口縁部片。ロクロ成形。外面には自然釉が厚くかかる。	白色砂礫、黒色粒	5Y4/2灰オリーブ 10Y6/1灰	良好 堅緻	
S181	9	灰釉陶器 壺・瓶類	— (4.6) 7.6	体部下端～底部片。ロクロ成形。外面は回転ヘラケズリで自然釉が一部かかる。高台部は貼り付け後ナデで、接地部はヘラケズリ。	白色砂礫、黒色粒、針状物微	2.5Y7/1灰白 2.5Y8/1灰白	良好 堅緻	
S182	1	須恵器 蓋	— (2.6) —	天井部片。ロクロ成形。ボタン状摘。摘径3.8cm、摘高0.6cm。天井部は回転ヘラケズリ。	チャート少、白色砂礫少、黒色粒、針状物	2.5Y7/1灰白	良好 堅緻	
S182	2	土師器 甕	(24.0) (4.3) —	口縁部～頸部片。内外面ともにヨコナデ。	雲母、透明砂粒、白色砂礫	10YR5/3にぶい黄褐	普通	
S182	3	土師器 鉢	19.7 6.2 8.0	90%存。口縁部から体部上半は内外面ともにヨコナデ。体部下半は外面が縦方向の密なミガキ。内面が斜方向のヘラナデ。底部は木葉痕。	透明・白色砂粒、白色砂礫、白色透明砂礫、針状物	5YR5/6明赤褐 2.5YR5/6明赤褐	普通	
S183	1	須恵器 坏	13.6 4.5 8.5	ほぼ完存。口縁部の一部欠失。ロクロ成形。口縁部に粘土の付け足し痕あり。底部は回転ヘラ切り後ナデ。体部外面に自然釉がかかる。	チャート、白色砂礫多、黒色粒、針状物微	5Y5/1灰	良好 堅緻	
S183	2	須恵器 坏	(12.8) 5.2 8.0	50～60%存。ロクロ成形。底部はヘラナデ。墨書「口廣」あり。	大きめの白色・灰色砂礫、白色・灰色粒	2.5Y8/1灰白	良好	
S183	3	須恵器 坏	— (2.3) (8.5)	体部～底部片。20～30%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。	チャート少、白色粒少	5Y6/1灰	良好 堅緻	

第3章 調査の成果

遺構番号	図面番号	種類器種	口径器高底径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調(外面/内面)	焼成	備考
SI83	4	須恵器高台付坏	10.8 5.0 6.6	80～90%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。底部に墨書「口廣」と直線状の線刻あり。	チャート, 白色砂礫, 針状物	2. 5Y5/1黄灰 2. 5Y6/2灰黄	良好堅緻	
SI83	5	須恵器高台付坏	— (2.3) (6.6)	底部片。ロクロ成形。回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート, 白色砂礫, 針状物多	5Y5/1灰	良好堅緻	
SI83	6	須恵器高台付坏	— (2.3) 8.5	底部片。ロクロ成形。回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート, 白色砂礫, 針状物	5Y6/1灰	良好堅緻	
SI83	7	須恵器高台付坏又は盤	— (2.8) 10.0	底部片。ロクロ成形。回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート, 白色砂礫, 針状物	5Y6/1灰	良好堅緻	
SI83	8	須恵器蓋	13.0 3.2 —	80～90%存。ロクロ成形。摘部は擬宝珠状。摘径2.4cm, 摘高1.2cm。天井部は回転ヘラケズリ。口端部は短く下方へ屈曲。	チャート, 白色砂礫, 針状物	5Y5/1灰	良好堅緻	
SI83	9	須恵器蓋	— (1.9) —	天井部片。摘部はボタン状。摘径3.0cm, 摘高076cm。天井部は回転ヘラケズリ。	白色砂礫, 白色粒, 黒色粒多	5PB6/1青灰	良好堅緻	
SI83	10	須恵器蓋	(17.0) (2.5) —	天井部～口端部片。摘部欠失。ロクロ成形。天井部は回転ヘラケズリ。口端部は短く下方へ屈曲。	チャート, 白色砂礫, 黒色粒, 針状物多	5Y5/2灰オリーブ	良好堅緻	
SI83	11	土師器甕	(19.0) (10.0) —	口縁～胴上半部片。全体に摩耗し調整は不明瞭。外面は口縁部がヨコナデ, 胴部はヘラ状工具痕がわずかに残る。内面は口縁部は不明瞭, 胴部はヘラナデと指頭による調整か。	雲母微, 白色砂粒多, 白色砂礫多	7. 5YR5/4(にぶい)褐	やや不良	
SI83	12	土師器甕	(14.4) (5.0) —	口縁～胴上部片。外面は全体にヨコナデ。内面は口縁部がヨコナデ, 胴部が横方向のヘラナデ。ヘラナデ。	透明・白色・灰色砂礫多, 白色砂粒, 針状物多	2. 5YR4/4(にぶい)赤褐	やや不良	
SI83	13	土師器甕	(22.0) (7.0) —	口縁～胴上部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面が斜方向のヘラナデ, 内面がヘラナデで頸部周辺は雑なヘラケズリ。	雲母, 透明・白色・灰色砂礫	7. 5YR5/4(にぶい)褐	普通	
SI83	14	須恵器甕	— (8.3) —	口縁部片。口唇部は面取り2回。外面は沈線区画し, 櫛歯状工具先端部により列点状の施文を横方向へ連続させる。	チャート, 白色砂礫, 白色砂粒, 針状物	10Y5/1灰	良好堅緻	
SI83	15	須恵器壺・瓶類	— (5.2) (10.0)	体部下端～底部片。ロクロ成形。高台部は貼り付け後ナデ。	白色砂粒少, 黒色粒	N6/ 灰	良好堅緻	
SI84	1	土師器坏	12.7 3.9 6.6	60～70%存。ロクロ成形。体部下端から底部は回転ヘラケズリ。内面黒色処理, 密なミガキ(体部横方向, 底部1方向)。	透明・白色・灰色砂粒, 角閃石・輝石類, 針状物微	10YR6/4(にぶい)黄橙	やや良好	
SI84	2	土師器坏	(13.8) 4.2 (6.8)	20～30%存。ロクロ成形。体部下端から底部は回転ヘラケズリ。内面黒色処理, 密なミガキ(体部横方向)。	透明・白色・灰色砂粒多, 角閃石・輝石類, 針状物微	5YR5/6明赤褐	やや良好	
SI84	3	土師器坏	(12.3) 4.5 (6.0)	口縁～底部片。ロクロ成形。体部下端から底部は回転ヘラケズリ。内面黒色処理, 密なミガキ(体部横方向)。	透明・白色砂粒多, 角閃石・輝石類, 針状物	7. 5YR5/3(にぶい)褐	普通	
SI84	4	土師器坏	(13.6) (4.3) —	口縁～体部片。ロクロ成形。	透明・白色砂粒, 角閃石・輝石類, 針状物微多	7. 5YR4/3褐	やや不良	
SI84	5	須恵器坏	(13.6) (4.1) —	口縁～体部片。ロクロ成形。	チャート, 白色砂礫, 白色粒, 針状物	2. 5Y6/1黄灰	良好堅緻	
SI84	6	土師器碗	(16.8) (4.9) —	口縁～底部片。高台部欠失。ロクロ成形。体部下端は回転ヘラケズリ。内面黒色処理, 密なミガキ(体部横・斜方向)。体部外面に墨書「口万」横書き。	透明・白色砂粒, 黒色粒, 針状物微	10YR6/4(にぶい)黄橙	やや良好	
SI84	7	土師器碗	— (2.0) (7.0)	底部片。高台部は貼り付け後ヨコナデ。内面はミガキ。	透明・白色砂粒, 黒色粒, 針状物微	5YR5/6明赤褐	普通	
SI84	8	土師器高台付皿	(13.6) 2.5 (8.0)	20～30%存。ロクロ成形。体部下端から底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。内面丁寧なミガキ。	透明・白色砂粒, 黒色粒, 針状物微	5YR4/6赤褐	やや良好	
SI84	9	灰釉陶器高台付皿	15.0 3.0 6.4	50～60%存。ロクロ成形。底部は回転糸切りによる切り離しか。高台部は貼り付け後ヨコナデ。内面は体部のみ釉薬がかかる。	黒色粒, 白色粒, 白色砂礫少, 透明粒微	2. 5Y7/1灰白 5Y6/2灰オリーブ	良好堅緻	
SI84	10	灰釉陶器高台付皿	(15.0) 2.7 7.2	50～60%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ヨコナデ。	黒色粒, 白色粒, 白色砂礫少	5Y7/1灰白 7. 5Y6/2灰オリーブ	良好堅緻	
SI84	11	灰釉陶器皿	(15.0) (1.9) —	口縁部片。ロクロ成形。内外面ともに釉薬がかかる。	黒色粒, 白色砂礫微, 透明粒微	5Y8/1灰白 5Y7/2灰白	良好堅緻	
SI84	12	土師器甕	(19.8) (14.0) —	口縁～胴上半部。20～30%存。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面が縦方向のヘラナデ, 内面が横方向のヘラナデ。	雲母, 白色・灰色砂礫多	7. 5YR5/3(にぶい)褐	普通	
SI84	13	土師器甕	(18.6) (8.8) —	口縁～胴上部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は内外面ともに斜方向のヘラナデで, 外面には指頭押圧も認められる。	透明・白色砂粒多, 角閃石・輝石類	7. 5YR6/6橙	普通	
SI84	14	土師器甕	(16.0) (6.0) —	口縁～胴上部。20～30%存。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面が木目の粗いヘラ状工具によるナデ。	透明・白色・灰色砂粒多, 角閃石・輝石類, 針状物	5YR6/6橙 7. 5YR6/6橙	やや良好	

遺構番号	図面番号	種類器種	口径器高底径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調(外面/内面)	焼成	備考
SI84	15	土師器甕	(19.0) (7.3) —	口縁～胴上部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面がナデ、内面が横方向のヘラナデ。	雲母、透明・白色砂礫多	5YR5/4にぶい赤褐	良好	
SI84	16	須恵器甕	(7.8) —	頸部片。口縁部側はヨコナデ。櫛描波状文を巡らす。	白色砂礫少、針状物極微	10YR6/2灰黄褐	普通	
SI84	17	須恵器甕	— (8.3) —	胴下部～底部。外面は胴部が不定方向の平行タタキ。底部がヘラケズリ。内面はヘラナデと無文の当て具痕。底部には自然釉がかかる。	チャート、白色砂礫、針状物	2.5Y4/1黄灰 5Y5/1灰	良好 堅緻	
SI84	18	須恵器甕又は鉢	— (6.5) (13.0)	胴下部～底部片。胴部は内外面ともにヨコナデで、下端は外面が横方向のヘラケズリ、内面がヘラナデ。底部は摩耗し調整不明。	雲母多、白色・灰色砂礫	10YR7/2にぶい黄橙 10YR7/1灰白	やや 良好	新治窯産
SI86	1	土師器坏	(12.0) (3.8) —	口縁～体部片。ロクロ成形。内面黒色処理、横・斜方向の密なミガキ。	透明・白色・灰色砂粒、角閃石・輝石類、針状物極微	10YR5/3にぶい黄褐	普通	
SI86	2	土師器坏	(11.6) 4.5 (4.5)	口縁～底部片。ロクロ成形。体部下端から底部は回転ヘラケズリ。内面黒色処理、密なミガキ(体部横方向、底部1方向)。	透明砂粒多、灰色粒、針状物	10YR7/4にぶい橙	やや 良好	
SI86	3	土師器坏	— (2.9) (7.0)	体部～底部片。ロクロ成形。体部下端から底部にかけて手持ちヘラケズリ。内面黒色処理、密なミガキ(体部横方向、底部1方向)。	透明・白色砂粒、角閃石・輝石類、灰色粒多	7.5YR7/4にぶい橙	やや 良好	
SI86	4	土師器坏	(12.6) (4.2) —	口縁～体部片。ロクロ成形。体部下端は回転ヘラケズリ。内面は横方向の密なミガキ。	透明・白色砂粒、灰色粒、灰色砂礫微、針状物	5YR4/6赤褐	普通	
SI86	5	土師器坏	— (2.4) —	体部片。ロクロ成形。体部下端は回転ヘラケズリか、内面黒色処理、横方向の密なミガキ。体部外面に墨書「口」あり。	透明・白色・灰色砂粒	10YR7/4にぶい黄橙	普通	
SI86	6	須恵器坏	— (2.1) (6.4)	体部下端～底部片。ロクロ成形。磨耗顕著で外面の調整は不明。	白色砂粒多、白色砂礫、角閃石・輝石類、灰色粒、針状物微	5Y5/1灰	普通	
SI86	7	土師器碗	— (2.6) (7.6)	底部片。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。	透明・白色砂粒、白色・透明砂礫、灰色粒、針状物	5YR6/6橙	やや 良好	
SI86	8	土師器甕	(17.2) (4.6) —	口縁～胴上部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部は外面が縦方向のヘラナデで、頸部に工具痕が目立つ。内面は木目の粗いヘラ状工具のナデ。	透明砂粒、黒雲母、白色粒	7.5YR5/3にぶい褐	普通	
SI86	9	土師器甕	(13.2) (4.0) —	口縁～胴上部片。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部がナデ。	透明・白色砂粒多、白色砂礫、黒色粒、針状物極微	5YR5/6明赤褐	普通	
SI88	1	須恵器坏	— (1.6) (8.2)	底部片。回転ヘラ切り後未調整。	チャート、白色砂礫、赤色粒、針状物極微	10YR7/4にぶい黄橙 7.5YR5/3にぶい褐	普通	
SI88	2	須恵器坏	(14.0) (3.1) —	口縁～体部片。ロクロ成形。	チャート、白色砂礫、針状物	10Y5/1灰	良好 堅緻	
SI88	3	土師器甕	(17.8) (2.0) —	口縁～体部片。内外面ともにヨコナデ。	透明砂粒、白色・透明砂礫多	7.5YR4/3褐 7.5YR4/4褐	普通	
SB02	1	須恵器坏	(13.0) (3.1) —	口縁～体部片。ロクロ成形。	チャート、白色砂礫、針状物	2.5Y6/2灰黄	良好 堅緻	
SB02	2	須恵器高台付坏	— (3.0) —	体部片。ロクロ成形。	白色砂粒、白色砂礫、針状物	5Y5/1灰	良好 堅緻	
SB04	1	須恵器坏	(14.6) (3.3) —	口縁～体部片。ロクロ成形。	チャート、白色砂礫、針状物	5Y5/1灰	良好 堅緻	
SB04	2	須恵器坏	— (1.7) (7.0)	体部下端～底部片。底部は回転ヘラ切り後、1方向のヘラナデ。	チャート、白色砂礫多、針状物	5Y5/1灰	良好 堅緻	
SB05	1	須恵器坏	(14.8) (3.1) —	口縁～体部片。ロクロ成形。	チャート、白色砂礫、針状物	5Y5/1灰	良好 堅緻	
SB07	1	須恵器蓋	(16.8) (1.4) —	口端部片。ロクロ成形。口端部は短く下方へ屈曲。外面に自然釉がかかる。	白色砂礫、白色砂粒、針状物	N4/ 灰	良好 堅緻	
SB07	2	土師器甕	— (3.5) (9.0)	胴下部片。外面は縦方向の密なミガキ。内面はヘラナデ。	雲母、白色砂礫多	10YR4/2灰黄褐 10YR5/4にぶい黄褐	普通	
SB08	1	須恵器坏	— (3.4) (7.8)	体部～底部片。ロクロ成形。底部はナデか。	チャート、白色砂礫、針状物	5YR5/3にぶい赤褐	良好	
SB10	1	須恵器坏	— (1.0) 6.2	底部片。磨耗顕著。ロクロ成形。回転ヘラ切り後ナデか、直線状の線刻あり。	白色砂礫、透明・白色砂粒多、針状物	2.5Y7/3浅黄	やや 良好	
SB13	1	須恵器坏	(15.0) (4.5) —	口縁部片。ロクロ成形。	チャート、白色砂礫多、針状物	5Y6/1灰	良好 堅緻	

第3章 調査の成果

遺構番号	図面番号	種類器種	口径器高底径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調(外面/内面)	焼成	備考
SB14	1	土師器 椀カ	— (1.0) —	底部片。高台部欠失。高台部は貼り付け後ナデ。内面黒色処理、密なミガキ。	透明・白色・灰色砂粒、白色砂礫微	10YR6/4にぶい黄橙	やや良好	
SB15	1	須恵器 蓋	(16.8) (0.7) —	口端部片。ロクロ成形。口端部は短く下方へ屈曲。	白色砂礫、黒色粒、針状物多	N5/ 灰	良好堅緻	
Pit007	1	須恵器 高台坏	(14.8) 6.3 (8.8)	50～60%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート少、白色砂礫、黒色粒、針状物少	5Y6/1灰	良好堅緻	
Pit151	2	須恵器 盤	— (2.1) (10.8)	底部片。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート、白色砂礫、黒色粒、針状物微	5Y6/1灰	良好堅緻	
Pit235	3	土師器 坏	(13.8) (3.3) —	口縁～体部片。体部下端は回転ヘラケズリ。内面黒色処理、密なミガキ(体部横方向)。	透明・白色・灰色砂粒、針状物微	7.5YR6/6橙	やや良好	
Pit236	4	須恵器 片口	— (3.0) —	口縁部片。ロクロ成形。口唇部は面取り。	白色砂礫、黒色粒多、針状物極微	2.5Y6/1黄灰	良好堅緻	
Pit237	5	土師器 坏	(14.0) (3.3) —	体部片。ロクロ成形。外面に墨書「□」あり。内面黒色処理、密なミガキ(体部横方向)。	透明・白色・灰色砂粒、針状物	7.5YR6/6橙	やや良好	
Pit237	6	土師器 坏	(13.0) (3.4) —	口縁～体部片。ロクロ成形。外面に墨書「□」あり。内面黒色処理、密なミガキ(体部横方向)。	透明・白色・灰色砂粒、針状物極微	7.5YR6/6橙	やや良好	
Pit287	7	土師器 坏	(14.8) (3.9) —	口縁～体部片。ロクロ成形。内面黒色処理、密なミガキ(体部横・斜方向)。	透明・白色・灰色砂粒、濃灰色粒、針状物極微	5YR6/6橙	普通	
Pit311	8	須恵器 坏	(13.8) (3.4) —	口縁部片。ロクロ成形。	白色砂礫、黒色粒多、針状物少	2.5Y6/1黄灰	良好堅緻	
SK39	1	土師器 坏又は椀	(13.8) (3.3) —	口縁～体部片。ロクロ成形。体部外面に墨書「□」あり。内面黒色処理、横方向の密なミガキ。	透明・白色砂粒、灰色粒、針状物多	10YR6/4にぶい黄橙	普通	
SK39	2	須恵器 壺瓶類	— (5.2) (9.0)	胴下部～底部。外面胴部下端はヘラケズリ。内面はヘラナデ。外面全体及び内面底部に自然釉がかかる。	白色砂礫、黒色粒	N3/ 暗灰 2.5Y5/2暗灰黄	良好堅緻	
SK40	3	須恵器 坏	(15.0) 4.5 (7.0)	口縁～底部片。ロクロ成形。底部はナデ。	チャート、白色砂礫、白色粒多、針状物微	5B5/1青灰	良好堅緻	
SK47	4	土師器 坏	— (2.7) (9.0)	体部下半～底部片。体部下端は回転ヘラケズリ。内面黒色処理、密なミガキ(体部横方向)。	透明・白色砂粒、灰色粒、針状物極微	7.5YR6/6橙	やや良好	
SK50	5	土師器 椀	(17.8) (7.9) —	口縁～体部片。ロクロ成形。体部下端は回転ヘラケズリ。内面黒色処理、密なミガキ(体部横方向)。	透明・白色・灰色砂粒、針状物微	10YR7/6明黄褐	やや良好	
SK50	6	土師器 坏	— (3.2) (8.0)	体部～底部片。ロクロ成形。体部下端から底部は回転ヘラケズリ。内面は密なミガキ(体部横方向)。	透明砂粒少、白色・灰色砂礫、針状物極微	7.5YR6/6橙	やや良好	
遺構外	1	土師器 坏	— (2.0) —	体部下端～底部片。体部外面から内面にかけてヨコナデ。底部はヘラケズリ。	灰色粒、砂礫	2.5Y7/3浅黄	やや良好	A区表採
遺構外	2	須恵器 坏	— (2.6) (7.0)	体部～底部片。ロクロ成形。底部はナデ。体部に墨書「梨」横書き。	チャート、白色砂礫、針状物	10YR5/3にぶい黄褐	普通	A区表採
遺構外	3	須恵器 坏	— (2.3) —	体部片。ロクロ成形。外面に墨書「□」あり。	チャート、白色砂礫、白色粒、針状物	10YR5/3にぶい黄褐	普通	C26°リット ⁺ 表採
遺構外	4	須恵器 坏	(16.0) (4.3) (8.0)	30～40%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。二次底部面あり。	白雲母多、白色・灰色砂礫	10YR5/1褐灰 10YR6/1褐灰	普通	新治窯産 018°リット ⁺ 表採
遺構外	5	須恵器 坏	— (3.5) (7.0)	体部～底部片。ロクロ成形。底部はナデ。	チャート、白色砂礫、針状物	2.5Y6/2灰黄	良好堅緻	T14°リット ⁺ 表採
遺構外	6	須恵器 高台付坏	— (2.7) (7.0)	体部下端～底部。20～30%存。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリ。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート、白色砂礫、針状物	7.5Y5/1灰	良好堅緻	018°リット ⁺ 表採
遺構外	7	須恵器 高台付坏	— (2.4) 8.3	底部片。ロクロ成形。底部は回転ヘラケズリで刻書「×」あり。高台部は貼り付け後ナデ。	チャート、白色砂礫、黒色粒、針状物	5YR5/3にぶい赤褐 10YR5/1褐灰	良好堅緻	C8°リット ⁺ 表採
遺構外	8	須恵器 蓋	(18.0) (1.3) —	天井部～口端部片。ロクロ成形。天井部は回転ヘラケズリ。口端部は水平。	透明・白色砂粒、白色砂礫	10YR6/3にぶい黄橙 7.5YR5/3にぶい褐	普通	SI03内出土
遺構外	9	須恵器 瓶類	— (7.0) —	体部片。外面はカキ目。内面はヘラナデ及び指頭による調整でヘラ状工具痕が残る。	白色粒、黒色粒、灰色砂礫微	5Y6/1灰	良好堅緻	L23°リット ⁺ 表採
遺構外	10	土師器 不明	— (3.1) (14.0)	底部片。ロクロ成形。底部は高台部貼り付け後ヨコナデ。内面黒色処理。	透明・白色・灰色砂粒、針状物	7.5YR3/1黒褐	普通	T14°リット ⁺ 表採

第27表 出土遺物観察表(瓦)

出土地点	図版番号	全長(cm)	厚さ(cm)	凹面痕跡・調整	凸面痕跡・調整	胎土・鉱物	焼成	色調(凹面:凸面)	備考
SI01	9	(14.7)	1.6~2.3	成形:布目圧痕調整:なし	成形:正格子タタキ調整:なし	黒色粒,透明砂粒	普通	10YR7/6明黄褐; 10YR6/4にぶい黄橙	平瓦。未還元焼成。桶巻作り。凹面に布綴じ合せ目圧痕あり。
SI02	9	(16.3)	1.8~2.8	成形:布目圧痕調整:ヘラケズリ	成形:—調整:ヘラケズリ	白色砂礫,黒色粒,針状物少	普通	7.5YR6/4にぶい橙; 7.5YR6/4にぶい橙	平瓦。ほぼ未還元焼成。一枚作り。凹面の布目はよじれが目立つ。ヘラケズリは焼成前やや雑な施し。
SI08	13	(18.0)	1.8~2.1	成形:布目圧痕調整:なし	成形:格子タタキ調整:ヘラナデ(横位)	白色粒多,白色砂礫多	やや良好	2.5Y6/2灰黄; 2.5Y6/2灰黄	丸瓦。広端部片。広端部及び右側端部残存。面取りは広端部3回,右側端部2回。凹面は布綴じ合せ痕あり。
SI08	14	(12.2)	1.9~2.0	成形:布目圧痕調整:一部ナデ	成形:斜格子タタキ調整:ヘラケズリ,側縁ヘラケズリ	雲母,白色粒,砂礫	普通	5YR6/6橙; 7.5YR6/6橙	丸瓦。広端部片。広端部及び左側端部残存。広端部残存幅7.8cm。凹部に布綴じ合せ痕あり。凸面は格子タタキ成形後,粘土全体に覆い付け足し後ヘラケズリ。
SI12	4	(3.4)	1.7	成形:布目圧痕調整:なし	成形:—調整:横方向のヘラナデ	砂粒,透明・白色砂礫	普通	5YR5/6明赤褐; 7.5YR6/4にぶい橙	丸瓦。有段。玉縁部は欠失。段差1.1cm。
SI13	4	(4.0)	1.4~2.2	成形:布目圧痕調整:なし	成形:—調整:横方向のヘラナデ	砂粒,黒色粒,砂礫	やや良好	10YR7/3にぶい黄橙; 2.5Y7/2灰黄	丸瓦。左側部残存。有段。玉縁部長(0.5)cm,玉縁部厚1.3cm,段差1.0cm。
SI13	5	(13.3)	1.4~1.5	成形:布目圧痕調整:側縁部ヘラケズリ	成形:—調整:横方向のヘラナデ後縦方向のヘラケズリ,側縁部ヘラケズリ	透明・白色砂粒,砂礫	良好	5YR6/6橙; 7.5YR6/6橙	丸瓦。左側部残存。凹面は布目によじれが目立つ。凸面は粘土の付け足し後にヘラケズリ。
SI13	6	(10.5)	1.0~1.3	成形:布目圧痕調整:側縁部ヘラケズリ	成形:—調整:ナデ後側縁部ヘラケズリ	透明・白色砂粒,砂礫	良好	10YR5/3にぶい黄褐; 2.5Y5/2暗灰黄	熨斗瓦。側端部片。
SI15	29	(5.9)	1.2~1.4	成形:布目圧痕調整:なし	成形:—調整:横方向のヘラナデ	透明・白色砂粒,砂礫	やや良好	10YR6/4にぶい黄橙; 10YR7/4にぶい黄橙	丸瓦。広端部片。広端部,左側端部残存。広端部幅(7.5)cm。広端部広端部面取り2回。凸面粘土付け足し痕をヘラナデで調整。
SI15	30	(3.7)	1.3~1.4	成形:布目圧痕調整:なし	成形:—調整:横方向のヘラナデ	白色砂粒,砂礫	やや良好	10YR6/4にぶい黄橙; 10YR7/3にぶい黄橙	丸瓦。左側端部残存。凸面ヘラナデは一部不定方向。
SI27	9	(6.3)	1.9~2.2	成形:布目圧痕調整:一部ヘラナデ	成形:—調整:不定方向のヘラケズリ	透明・白色砂粒,白色砂礫	普通(未還元)	10YR6/4にぶい黄橙; 7.5YR5/4にぶい褐	丸瓦。右側端部片。端部は木目の粗いヘラ状工具による面取り。
SI31	3	(9.5)	1.7~2.1	成形:布目圧痕調整:ヘラケズリ	成形:—調整:縦方向のヘラケズリ	雲母微,白色砂粒,白色砂礫	普通	7.5YR6/6橙; 5YR5/6明赤褐	平瓦。側部片。一枚作り。左側端部残存。凹面側縁部面取り2回。
SI41	8	(4.7)	1.6~1.7	成形:布目圧痕調整:なし	成形:—調整:ヘラナデ	透明・白色砂粒多,灰色砂礫	普通	7.5YR7/6橙; 7.5YR6/6橙	丸瓦。狭端部片。狭端部及び右側端部残存。狭端部幅7.5cm,狭端部ヘラケズリ面取り3回。右側端部面取り2回。
SI47	4	(13.5)	1.2~1.6	成形:布目圧痕調整:縦方向のヘラナデ	成形:—調整:縦方向のヘラナデ	白色砂粒,白色・灰色砂礫	普通	2.5Y8/2灰白; 2.5Y7/2灰黄	平瓦。狭端部片か。右側端部残存。桶巻作り。両端部ともにヘラケズリによる面取り。
SI60	5	(8.9)	2.6~2.7	成形:布目圧痕調整:一部ヘラケズリ,側縁部ヘラケズリ	成形:—調整:—	透明・白色砂粒,透明・白色砂礫	良好堅緻	N3/暗灰; 7.5Y5/3灰オリーブ	平瓦。側端部片。側部は斜状に成形しヘラケズリか。凸面に厚く自然釉がかかる。
SI63	3	(5.3)	2.1~2.3	成形:布目圧痕調整:なし	成形:正格子タタキ調整:なし	チャート,白色砂粒,赤色スコリア	やや不良	10YR8/4浅黄橙; 10YR8/4浅黄橙	平瓦。広端部片。広端部及び右側端部残存。
SI69	14	(10.1)	1.5~1.8	成形:布目圧痕調整:端部ヘラケズリ	成形:—調整:ヘラナデ	透明砂粒,白色・灰色砂礫	普通	2.5Y7/2灰黄; 10YR7/2にぶい黄橙	平瓦。狭端部残存。端部はヘラケズリ面取り後,両端部未調整。
SI70	8	(6.5)	1.6~1.8	成形:布目圧痕調整:側縁部ヘラケズリ	成形:—調整:縦・斜方向のヘラケズリ	透明砂粒,黒色粒	やや不良	10YR7/4にぶい黄橙; 10YR7/4にぶい黄橙	丸瓦。右側端部残存。凹面側端部のヘラケズリはやや幅広。
SI77	7	(7.9)	1.2~1.6	成形:布目圧痕調整:側縁部ヘラケズリ	成形:—調整:ナデ,側縁部ヘラケズリ	白色砂粒,白色・灰色砂礫	良好研緻	2.5Y6/1黄灰; 2.5Y6/2灰黄	丸瓦。左側端部片。凹面布目は擦りが顕著。
SI81	10	(11.0)	1.9~2.5	成形:布目圧痕調整:縦・斜方向のヘラナデ,側縁部ヘラケズリ	成形:糸切痕調整:ナデ後斜方向のヘラケズリ	チャート,白色砂礫,白色砂粒多,針状物	普通	2.5Y5/1黄灰; 2.5Y4/1黄灰	平瓦。狭端部片。右側端部存。狭端部の面取り2回。
SI81	11	(10.0)	3.2~3.7	成形:布目圧痕調整:横方向のヘラケズリ	成形:—調整:縦方向のヘラケズリ	白色・灰色砂粒,透明・白色・灰色砂礫	普通	7.5YR7/6橙; 7.5YR6/6橙	平瓦。破片。
SI83	16	(8.2)	1.6~1.7	成形:糸切痕調整:斜方向のヘラケズリ	成形:—調整:縦方向のヘラケズリ	透明・白色・灰色砂粒多,白色砂礫	普通	7.5YR5/6明褐; 5YR5/6明赤褐	平瓦。左側端部片。端部面は荒れ。凹凸両面のヘラケズリは木目が粗い。
SI83	17	(6.9)	1.2~1.7	成形:糸切痕調整:斜方向のヘラケズリ,側縁部ヘラケズリ	成形:糸切痕調整:斜方向のヘラケズリ	透明・白色・灰色砂粒	普通	5YR5/6明赤褐; 7.5YR5/6明褐	平瓦。右側端部片。側端部面取り2回。
SI84	19	(8.0)	2.3~2.4	成形:布目圧痕調整:なし	成形:正格子タタキ調整:なし	透明・白色砂粒少,黒色・灰色粒	普通	2.5Y7/3浅黄; 2.5Y7/3浅黄	平瓦。桶巻作り。左側端部片。
遺構外	11	(5.6)	1.1	成形:布目圧痕調整:側縁部ヘラケズリ	成形:—調整:斜方向のヘラケズリ	白色・灰色砂礫	良好	N4/灰; N4/灰	熨斗瓦。側部片。D17グリッド表採
遺構外	12	(11.6)	1.8~2.2	成形:布目圧痕調整:全体にわずかなナデ,側縁部ヘラケズリ	成形:短縄タタキ調整:雑なナデ	透明・白色粒,透明・白色砂礫少,針状物微	普通	10YR5/2灰黄褐; 10YR6/3にぶい黄橙	平瓦。側端部はヘラケズリ。B区表採

第3章 調査の成果

第28表 出土遺物観察表（土製品）

遺構番号	図面番号	種類 器種	規模・残存率・調整技法・その他特徴	胎土	色調 (外面/内面)	焼成	備考
SI01	11	土製品 土玉	径:4.0cm 厚さ:3.4cm 孔径:0.8cm 重量:47.0g. 完存. 指頭による雑なナデで、やや不整形. 穿孔は焼成前.	白色粒	10YR5/4にぶい黄褐	普通	
SI01	12	土製品 土玉	径:3.6cm 厚さ:3.4cm 孔径:0.6cm 重量:38.1g. 完存. 指頭による雑なナデで、やや不整形. 穿孔は焼成前.	透明砂粒, 白色粒	10YR6/3にぶい黄橙	普通	
SI01	13	土製品 土玉	径:2.6cm 厚さ:2.5cm 孔径:0.6cm 重量:(15.6)g. 完存. 一部剥離. 指頭による雑なナデ. 穿孔は焼成前.	透明砂粒, 白色砂礫, 赤色粒少	7.5YR4/2灰褐	普通	
SI03	8	土製品 支脚	長さ:(8.4)cm 径:- 重量:(52.7)g. 円柱状で大部分が欠失. ヘラケズリを用いた成形後, 指頭によるナデ.	-	-	-	
SI08	15	土製品 土玉	径:3.0~3.2cm 厚さ:2.5cm 孔径:0.5cm 重量:(23.4)g. ほぼ完存. 一部欠失. 指頭による雑なナデ. 穿孔は焼成前.	白色粒, 砂粒	7.5YR6/6橙	普通	
SI15	31	土製品 支脚	長さ:(16.6)cm 径:5.0~5.3cm 重量:(611.4)g. ほぼ完存. 円柱状. ヘラナデ後指頭によるナデ.	-	-	-	
SI15	32	土製品 支脚	長さ:(8.4)cm 幅:(7.5)cm 重量:(268.7)g. ヘラケズリ, 指頭によるナデ. 角状に成形.	-	-	-	
SI15	33	土製品 土玉	径:2.4cm 厚さ:2.3cm 孔径:0.4cm 重量:10.9g. 完存. 指頭によるナデ. 穿孔は焼成前.	白色粒, 黒色粒	7.5YR6/6橙	普通	
SI42	6	土製品 土玉	径:3.9cm 厚さ:2.5cm 孔径:0.9cm 重量:18.7g. 50%存. 指頭によるナデ. 穿孔は焼成前.	透明粒, 黒色粒, 砂粒	10YR7/3にぶい黄橙	普通	
SI44	4	土製品 土玉	径:2.5~2.6cm 厚さ:1.6cm 孔径:0.3cm 重量:9.3g. 完存. 指頭によるナデ. 穿孔は焼成前.	砂粒, 針状物	7.5YR6/6橙	普通	
SI45	8	土製品 不明	縦:5.5cm 横:1.9cm 厚さ:1.2cm. 四面ヘラケズリ成形.	白色粒, 角閃石・ 輝石類	5YR5/4にぶい赤褐	普通	
SI51	20	土製品 支脚	長さ:12.3cm 径:5.8~7.2cm 重量:(540)g. ほぼ完存. 下端部わずかに欠失. 円筒状で下端部が広がる. 被熱及び砂粒の多い胎土. 成形・調整痕不明.	-	-	-	
SI51	21	土製品 土玉	径:2.8~3.0cm 厚さ:2.4cm 孔径:0.5~0.7cm 重量:(19.5)g. ほぼ完存. 片側穿孔部周辺がわずかに欠失. 指頭によるナデ. 穿孔は焼成前.	白色砂礫少, 黒色粒	7.5YR6/6橙	普通	
SI58	10	土製品 支脚	長さ:11.7cm 径:上端4.4cm, 下端7.6cm 重量:617.7g. 完存. 上端幅が狭くなる円筒形. 被熱により表面荒れ, 調整不明.	-	-	-	
SI59	18	土製品 土玉	径:2.7~3.0cm 厚さ:2.6cm 孔径:0.6cm 重量:(9.8)g. 40~50%存. ヘラケズリ成形後, 指頭によるナデ. 穿孔は焼成前.	白色粒, 白色砂礫少	10YR6/4にぶい黄橙	普通	
SI61	9	土製品 手捏土器	口径(9.5)cm 器高(3.6)cm 底径(8.0)cm 20~30%存. 内外面ともにヘラナデ. 指頭による成形.	白色・灰色・褐色砂粒, 針状物	10YR6/3にぶい黄橙	普通	
SI61	10	土製品 土玉	径:3.3cm 厚さ:2.6cm 孔径:0.7cm 重量:33.6g 完存. ヘラケズリ, 指頭によるナデ. 穿孔は焼成前で, 穿孔部両端周辺を面取り.	白色・灰色砂粒, 灰色 砂礫少	7.5YR6/6橙	普通	
SI61	11	土製品 土玉	径:3.2~3.3cm 厚さ:2.9cm 孔径:0.7cm 重量:32.3g 完存. ヘラケズリ成形, 指頭によるナデ. 穿孔は焼成前.	白色・灰色砂粒, 角閃 石・輝石類	7.5YR6/6橙	普通	
SI61	12	土製品 土玉	径:3.4~3.7cm 厚さ:2.4cm 孔径:1.0cm 重量:31.3g 完存. ヘラケズリ成形, 指頭によるナデ. 穿孔は焼成前で, 穿孔部両端周辺を大きく面取り.	白色・灰色砂粒, 赤色 粒	7.5YR7/4にぶい橙	普通	
SI61	13	土製品 土玉	径:3.3cm 厚さ:2.9cm 孔径:0.7cm 重量:33.1g 完存. ヘラケズリ成形, 指頭によるナデ. 穿孔は焼成前.	白色・灰色砂礫	7.5YR6/6橙	普通	
SI61	14	土製品 土玉	径:3.5cm 厚さ:3.0cm 孔径:0.7cm 重量:37.0g 完存. ヘラケズリ成形, 指頭によるナデ. 穿孔は焼成前.	白色・灰色砂粒, 白色・ 灰色砂礫少	5YR6/6橙	普通	
SI61	15	土製品 土玉	径:3.2~3.4cm 厚さ:2.8cm 孔径:0.6~0.7cm 重量:31.0g 完存. ヘラケズリ成形, 指頭によるナデ. 穿孔は焼成前で穿孔部両端周辺を面取り.	白色・灰色砂粒	10YR7/3にぶい黄橙	普通	
SI61	16	土製品 土玉	径:3.0~3.4cm 厚さ:3.0cm 孔径:0.7cm 重量:30.0g 完存. ヘラケズリ成形, 指頭によるナデ. 穿孔は焼成前. 歪み顕著.	チャート, 白色砂礫, 針状物少	10YR6/4にぶい黄橙	普通	
SI61	17	土製品 土玉	径:2.7cm 厚さ:2.7cm 孔径:0.7cm 重量:12.1g 40~50%存. ヘラケズリ成形, 指頭によるナデ. 穿孔は焼成前で穿孔部両端周辺を面取り.	白色砂粒, 赤色粒, 透 明・白色砂礫少	10YR7/4にぶい黄橙	普通	
SI61	18	土製品 土玉	径:3.0cm 厚さ:2.0cm 孔径:0.7cm 重量:9.5g 50%存. ヘラケズリ成形, 指頭によるナデ. 穿孔は焼成前で穿孔部両端周辺を面取り.	白色・灰色砂粒	10YR6/4にぶい黄橙	普通	
SI64	11	土製品 支脚	長さ:(6.6)cm 径:(4.5)cm 重量:(96.8)g 円筒形. ヘラケズリ成形, 指頭によるナデ.	-	-	-	
SI64	12	土製品 土玉	径:3.5cm 厚さ:3.1cm 孔径:0.7cm 重量:41.5g 完存. ヘラケズリ成形, 指頭によるナデ. 穿孔は焼成前で, 穿孔部両端周辺を面取り.	白色・灰色砂粒	5YR5/6明赤褐	普通	
SI67	8	土製品 土玉	径:3.1~3.2cm 厚さ:2.5cm 孔径:0.7cm 重量:25.8g 完存. ヘラケズリ成形, 指頭によるナデ. 穿孔は焼成前.	透明・白色砂粒	5YR5/6明赤褐	普通	
SI67	9	土製品 土玉	径:2.7~2.8cm 厚さ:2.6cm 孔径:0.4cm 重量:19.4g 完存. ヘラケズリ成形, 指頭によるナデ. 穿孔は焼成前.	透明・白色砂粒, 針状 物微	7.5YR6/6橙	普通	
SI68	5	土製品 土玉	径:2.9cm 厚さ:2.7cm 孔径:0.6cm 重量:22.8g 完存. ヘラケズリ成形, 指頭によるナデ. 穿孔は焼成前.	白色・灰色砂粒	10YR6/4にぶい黄橙	普通	
SI68	6	土製品 土玉	径:2.9~3.2cm 厚さ:2.6cm 孔径:0.6cm 重量:23.0g 完存. 歪み大きい. ヘラケズリ成形, 指頭によるナデ. 穿孔は焼成前.	透明・白色・灰色砂粒	10YR6/4にぶい黄橙	普通	
SI68	7	土製品 土玉	径:3.8cm 厚さ:2.7cm 孔径:0.9cm 重量:(21.0)g 50%存. ヘラケズリ成形, 指頭によるナデ. 穿孔部片側はヘラケズリによる面取り. 穿孔は焼成前.	透明・白色・灰色砂粒, 角閃石・輝石類	10YR6/3にぶい黄橙	普通	
SI69	15	土製品 土玉	径:3.0cm 厚さ:2.5cm 孔径:0.6cm 重量:(10.7)g 40~50%存. 指頭によるナデ. 穿孔は焼成前.	白色砂粒, 角閃石・輝 石類S少	7.5YR6/6橙	普通	
SI74	10	土製品 土玉	径:4.2~4.5cm 厚さ:3.0cm 孔径:0.6cm 重量:60.4g 完存. 指頭による成形, ナデ. 穿孔は焼成前.	白色・灰色砂粒, 針状 物微	7.5YR6/6橙	普通	
SI80	5	土製品 土玉	径:2.7cm 厚さ:2.5cm 孔径:0.5cm 重量:(12.5)g 50~60%存. 指頭による成形, ナデ. 穿孔は焼成前.	白色砂粒多, 灰色砂粒	10YR7/4にぶい黄橙	普通	

遺構番号	図面番号	種類器種	規模・残存率・調整技法・その他特徴	胎土	色調(外面/内面)	焼成	備考
SI83	18	土製品 支脚	長さ:〈5.0〉cm 径:6.0cm 重量:109.2g 角状に成形か。被熱強く調整痕は不明。	—	—	不明	
SK03	2	土製品 土器片錘	全長:5.1cm 幅:3.5cm 厚さ:0.7cm 重量:19.7g 無文口縁に隆帯を巡らせた口縁部破片を加工。切り込みは内面側の片側にのみ認められる。	透明・白色砂粒, 白色砂礫少	10YR3/1黒褐	やや不良	
SK19	15	土製品 土器片錘	全長:〈4.2cm〉幅:3.4cm 厚さ:0.8cm 重量:〈19.0g〉細い沈線で幾何状に文様を描いた胴部片を加工。	砂粒, 角閃石・輝石類	10YR5/3にぶい黄褐	普通	
SK44	24	土製品 土器片錘	全長:〈5.0cm〉幅:2.9cm 厚さ:0.8cm 重量:〈15.0g〉無節L縄文を施文した胴部片を加工。	透明・白色砂粒, 赤色粒	7.5YR5/2灰褐	普通	
遺構外	36	縄文 土製腕輪	全長:〈4.5cm〉幅:〈3.0cm〉厚さ:0.6cm 重量:13.8g, 径:7.5~10cm, 楕円形状か。内外面ともにナデ調整・外面隆起させ腕輪の連結を表現か。	透明・灰色砂粒, 砂礫	7.5YR6/6橙	普通	SI24内出土 後期前葉
遺構外	39	土製品 土器片錘	全長:5.6cm 幅:3.1cm 厚さ:0.9cm 重量:20.2g 完存, 無文胴部片を加工。長軸両端に切り込み。	透明・白色・灰色砂粒, 砂礫, 針状物微	7.5YR3/1黒褐 7.5YR6/4にぶい橙	普通	SI55内出土
遺構外	40	土製品 土器片錘	全長:〈2.6cm〉幅:3.0cm 厚さ:1.0cm 重量:〈9.0g〉片側切り込み部残存。細い原体の縄文施文胴部片を加工。	透明粒, 白色粒, 砂粒	7.5YR3/1黒褐	普通	SI17内出土
遺構外	41	土製品 土器片錘	全長:〈2.1cm〉幅:2.8cm 厚さ:0.9cm 重量:〈6.6g〉片側切り込み部残存。無文胴部片を加工。	透明・白色砂粒多, 灰色砂礫	7.5YR6/6橙	普通	SI47内出土
遺構外	42	土製品 土器片錘	全長:〈3.5cm〉幅:4.0cm 厚さ:0.9cm 重量:〈14.5g〉片側切り込み部残存。地文単節LR縄文に沈線で文様を描いた胴部片を加工。	透明砂粒, 白色粒多	2.5Y6/2灰黄 10YR3/1黒褐	普通	SI19内出土
遺構外	13	土製品 土玉	径:1.9cm 厚さ:1.9cm 孔径:0.4cm 重量:7.0g 完存。指頭によるナデ。穿孔は焼成前。	白色・灰色砂粒	10YR7/4にぶい黄橙	普通	K22ケリット 表採

第29表 出土遺物観察表(鉄製品)

遺構番号	図面番号	種類器種	部位・残存率・製作技法・その他特徴	備考
SI09	4	鉄製品 釘	長さ:〈6.1cm〉幅:0.4cm 重量:〈6.5g〉 角状。	
SI13	7	鉄製品 釘	長さ:7.2cm 幅:0.6cm 重量:20.3g 角状。	
SI27	10	鉄製品 刀子	長さ:〈5.1cm〉幅:0.8~1.0cm 厚さ:0.1~0.3cm 重量:〈5.0g〉 刀部のみで先端部欠失。	
SI27	11	鉄製品 釘	長さ:〈5.4cm〉幅:0.5~0.8 重量:〈7.4g〉 断面角状。	
SI32	11	鉄製品 不明	縦:2.5cm 横:4.6cm 厚さ:0.2cm 重量:17.2g 円形状を呈した薄い板の破片。	
SI32	12	鉄製品 釘	長さ:11.5cm 幅:0.7cm 厚さ:0.6cm 重量:5.4g 断面角状。	
SI34	11	鉄製品 刀子	長さ:〈4.4cm〉幅:0.6~1.1cm 厚さ(刀部):0.2~0.4cm 重量:〈3.5g〉 身部先端部欠失。基部分折れて重なり。	
SI38	9	鉄製品 不明	長さ:6.9cm 幅:0.9~1.1cm 厚さ:0.3~0.5cm 重量:〈18.2g〉 板状。片側端部が反る。	
SI41	9	鉄製品 釘	長さ:9.0cm 幅:0.4cm 厚さ:0.4cm 重量:7.0g 断面角状。	
SI47	5	鉄製品 刀子	身, 長さ:〈5.2cm〉幅:0.4~0.9cm 厚さ:0.1~0.3cm 重量:6.7g。茎, 長さ:〈3.8cm〉幅:0.5~0.6cm 厚さ:0.2~0.3cm 重量:3.1g。身, 茎ともに中空。茎は木質を残す。	
SI57	11	鉄製品 釘カ	長さ:〈8.8cm〉幅:0.7cm 重量:7.9g 断面角状か、途中で屈折・剥離する。	
SI58	11	鉄製品 刀子	全長〈15.1cm〉。身, 長さ:〈11.0cm〉幅:0.9~1.4cm 厚さ:0.3~0.4cm。茎, 長さ:〈4.1cm〉幅:0.8~1.1cm 厚さ:0.5cm。重量:23.0g 身, 茎ともに端部欠失。	
SI60	6	鉄製品 鎌	長さ:〈18.7cm〉幅:2.0~3.8cm 厚さ:0.2~0.3cm 重量:81.2g 先端部欠失。基端部を折り返す。	
SI72	8	鉄製品 不明	長さ:〈3.7cm〉幅:〈4.9cm〉重量:〈20.8g〉 鍋状製品か、高さ0.2cm程の断面三角状突起が巡る。	
SI72	9	鉄製品 不明	長さ:〈3.2cm〉幅:〈3.7cm〉重量:〈10.6g〉 鍋状製品か、高さ0.1~0.2cm程の段差が周回する。	
SI72	10	鉄製品 不明	長さ:〈5.1cm〉幅:〈3.4cm〉重量:〈21.3g〉 湾曲し、筒状の製品か。	
SI72	11	鉄製品 刀子カ	長さ:〈3.0cm〉幅:〈1.2cm〉重量:〈3.6g〉 刀身部分の切先部分か、片面破損。	
SI72	12	鉄製品 刀子カ	長さ:〈2.5cm〉幅:〈1.0cm〉重量:〈2.5g〉 刀身部分か。	
SI74	11	鉄製品 鎌	長さ:4.5cm 幅:1.9~2.0cm 厚さ:0.2cm 重量:8.8g 基部のみ残存。基端部折り返し。	
SI83	19	鉄製品 錠	全長:3.9cm 幅:〈4.0cm〉厚さ:0.5cm 重量:〈13.7g〉 片側端部欠失。断面方形。	
SI83	20	鉄製品 錠	全長3.5cm 幅:〈3.0cm〉厚さ:0.3~0.5cm 重量:〈4.2g〉 片側端部欠失。断面長方形。	
SI84	22	鉄製品 刀子	全長:〈6.1cm〉。身, 幅:0.7~1.0cm 厚さ:0.3cm。茎, 幅:0.8cm 厚さ:0.4cm。重量:〈8.4g〉 切先部分及び基部の一部を欠失。	

第3章 調査の成果

第30表 出土遺物観察表（石器・石製品）

遺構番号	図面番号	種類器種	部位・残存率・製作技法・その他特徴	備考
SI01	10	石製品 紡錘車	径:5.0cm 厚さ:1.3cm 孔径:0.6cm 重量:45.0g 石材:粘板岩 全体によく研磨される。	
SI17	4	石製品 砥石	長さ:7.2cm 幅:5.2cm 厚さ:2.5cm 重量:133.5g 石材:砂岩 磨面2面。	
SI17	5	石製品 砥石	長さ:9.3cm 幅:3.2cm 厚さ:1.5cm 重量:95.8g 石材:粘板岩 磨面1面,磨り方向不特定。	
SI30	8	石製品 磨石カ	長さ:15.5cm 幅:12.7cm 厚さ:2.0cm 重量:773.2g 石材:砂岩 全体に磨り込まれるか,縄文時代所産の石器か。	
SI37	5	石製品 砥石	長さ:7.7cm 幅:2.9cm 厚さ:0.7cm 重量:33.3g 石材:頁岩 磨面は1面,端部程薄くなる。	
SI40	12	石製品 砥石	長さ:(6.3)cm 幅:3.4~3.7cm 厚さ:1.5~2.1cm 重量:70.6g 石材:花崗岩 磨面2面,中央部の使用が顕著。	
SI51	19	石製品 砥石	長さ:(7.0)cm 幅:4.6cm 厚さ:1.5~3.0cm 重量:97.5g 石材:砂岩 磨面2面,特に側面は顕著な使用。	
SI53	16	石製品 磨石	全長:(14.2)cm 幅:13.5cm 厚さ:10.5cm 重量:2,070g 石材:砂岩 全体に良く磨され1面に打痕点あり,縄文時代所産の石器か。	
SI64	13	石製品 砥石	長さ:14.2cm 幅:6.4~8.8cm 厚さ:3.3~4.2cm 重量:716.2g 石材:砂岩 磨面,表面及び右側面の2面,表面中央部の研磨が特に顕著で変色,裏面細粒化し変色。	
SI66	10	石製品 砥石	長さ:6.5~13.0cm 幅:10.1cm 厚さ:6.5cm 重量:(1,250)g 石材:砂岩 表裏面及び右側面に磨り面。	
SI78	17	石製品 不明	長さ:5.5cm 幅:2.7cm 厚さ:1.9cm 重量:44.3g 石材:砂岩 ほぼ完存,端部をわずかに欠失,両端部は顕著な研磨,同遺構内から出土する円面硯と関連するものか。	
SI84	20	石製品 砥石	長さ:(10.7cm) 幅:4.2cm 厚さ:1.8~3.0cm 重量:(144.0g) 石材:砂岩 表裏面で顕著な使用,端部は両端とも未使用。	
SI84	21	石製品 砥石	長さ:(3.7cm) 幅:2.8~3.2cm 厚さ:0.5~0.9cm 重量:14.3g 石材:砂岩か 両面に筋状の砥ぎ部あり。	
遺構外	43	石器 凹石	全長:7.8cm 幅:5.5cm 厚さ:2.5cm 重量:(133.7g) 石材:安山岩 中央部に径3.5cmの不整形な凹部あり。	SI17内出土
遺構外	44	石器 石鏃	長さ:3.1cm 幅:1.6cm 厚さ:0.5cm 重量:1.9g 石材:石状珪質頁岩 ほぼ完存,先端部わずかに欠失。	SI33内出土
遺構外	45	石器 剥片	長さ:2.9cm 幅:3.2cm 厚さ:1.0cm 重量:7.3g 石材:メノウ 使用痕あり。	SI55内出土

第31表 出土遺物観察表（近世陶磁器）

遺構番号	図面番号	種類器種	口径器高底径	部位・残存率・製作技法・その他特徴	胎土	色調(外面/内面)	焼成	備考
SK41	1	陶器 土瓶	4.0 6.8 4.5	ほぼ完存,後方釣り手受け部欠失,頸部高1.2cm,注口径1.3cm,注口長最大1.2cm,注口と体部の接合部は空洞,ロクロ成形,体部下端から外面の底部を除き全体に鉄釉,底部は回転糸切り後未調整。	白色砂礫多,黒色粒	5YR5/3にぶい赤褐(釉部) 2.5YR/2灰白(無釉部)	良好 堅緻	
SK41	2	磁器 染付小椀	(7.4) 4.8 3.4	80~90%存,体部外面に文様,体部下端から高台部にかけて二重圏線。	黒色粒微	白	良好 堅緻	
遺構外	1	瓦質土器 焙烙か	(26.0) (5.0) —	口縁~体部片,ロクロ成形。	透明・白色砂粒,黒色粒	10YR4/1褐灰 10YR6/3にぶい黄褐	普通	SI33内出土

第32表 出土遺物観察表（煙管・銭貨）

遺構番号	図面番号	種類器種	部位・残存率・製作技法・その他特徴	備考
SK41	3	煙管	雁首部長:(5.5cm) 吸口長:5.1cm 火皿高:1.2cm 火皿径:1.6cm 吸口部小口径:1.0cm 雁首及び吸口は銅製で,ともに小口部分が裂け,雁首側は顕著。竹製の吸管が一部残存。	
SK41	4	銅銭	銭名:寛永通宝(新寛永) 銭径:2.5cm 内径:2.0cm 厚さ:0.1cm 重量:4.0g	
SK41	5	銅銭	銭名:寛永通宝(新寛永) 銭径:2.5cm 内径:2.0cm 厚さ:0.1cm 重量:3.9g 背面:文	
SK41	6	銅銭	銭名:寛永通宝(新寛永) 銭径:2.5cm 内径:1.9cm 厚さ:0.1cm 重量:3.2g 背面:文	
SK41	7	銅銭	銭名:寛永通宝(新寛永) 銭径:2.5cm 内径:2.0cm 厚さ:0.1cm 重量:3.3g 背面:文	
SK41	8	銅銭	銭名:寛永通宝(新寛永) 銭径:2.5cm 内径:2.0cm 厚さ:0.1cm 重量:3.2g 背面:文	
SK41	9	銅銭	銭名:寛永通宝(新寛永) 銭径:2.5cm 内径:2.0cm 厚さ:0.1cm 重量:3.4g 背面:文	
SK43	1	銅銭	銭径:2.5cm 内径:2.0cm 厚さ:0.1cm 重量:(6枚全量)20.5g 一文線6枚が緑青により付着,露呈部の銭名,寛永通宝(新寛永)。背面に文を持つ。	

第 33 表 出土遺物集計表 (繩文土器出土遺構)

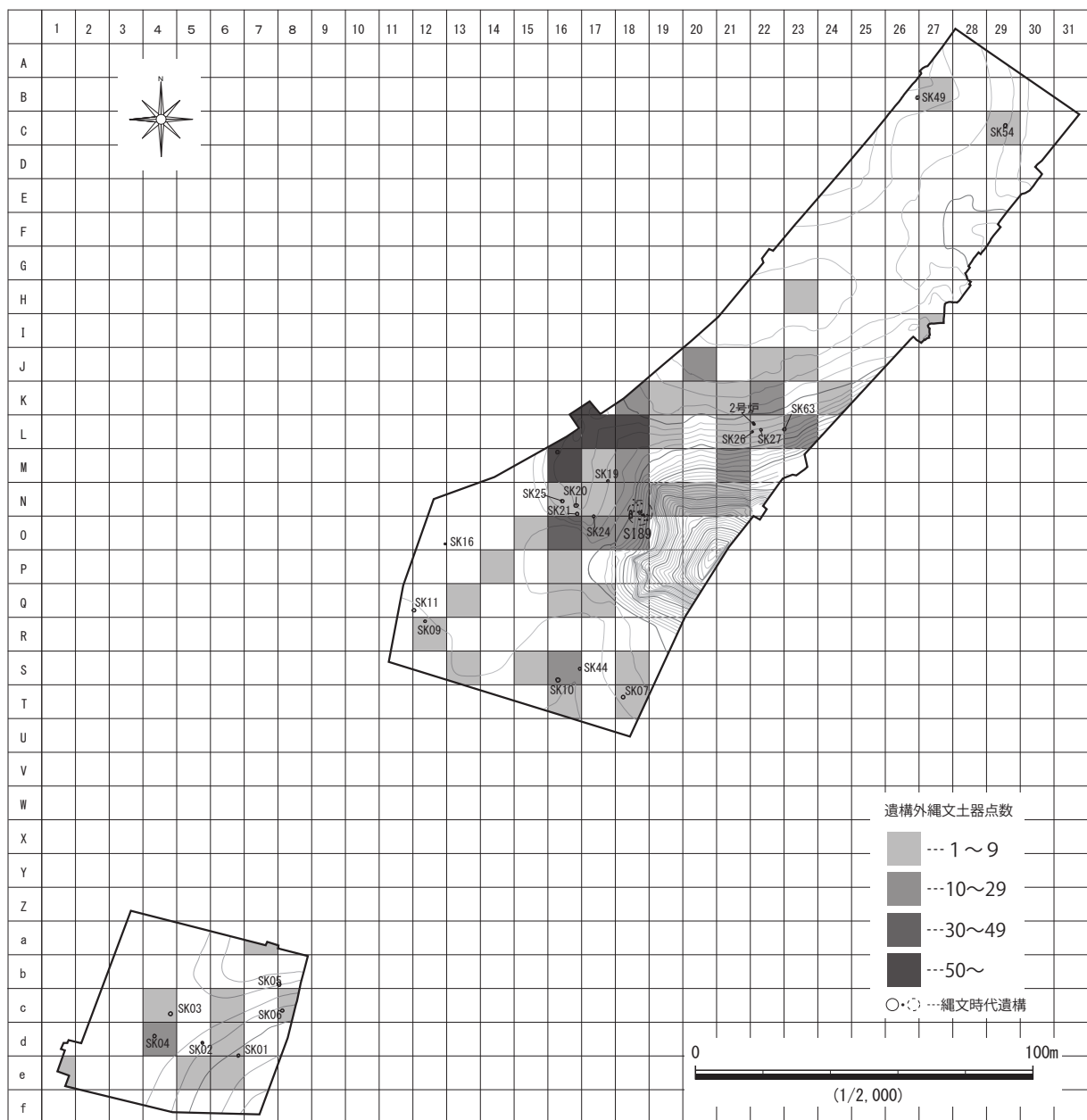
出土位置	加曾利E		堀之内		陸帯文+縄文		沈線文+縄文		沈線文		条線文		縄文		燃糸文		無文		無文底部		浅鉢		型式不明		土器片錘	
	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片
SI01								1					8			4								1		
SI03													1													
SI05		1											6			1										
SI08													2													
SI09													2													
SI10									1				1													
SI12													3													
SI13													4													
SI14													3									1				
SI15													5			1										
SI16													1													
SI17													2													
SI18													1													
SI19													1													
SI21								2				1	1			7								1		
SI22		2		2					4			2	11			6		3								
SI23						1		3				1	3			1										
SI24				4		6		16				21	22			27		6								
SI25				4		1		18				2	10			17		2								
SI26				1				4					7			2										
SI27													1			1										
SI28													2													
SI30				3				8					21			25		3						1		
SI31													1			9										
SI32				1														1								
SI33												1														
SI35						3							8											1		
SI36								2								1										
SI37				1									9													
SI38													2			1		1								
SI39													11			3		1								
SI40													3		1											
SI41													2			1		1								
SI43													1			1										
SI44													2													
SI45													3			1										
SI46								1					2													
SI47								6					7			1		1								
SI48								2					3													
SI49								5					7			3										
SI51								1					3													
SI52													3			1										
SI60									1																	
SI64								1					2													
SI83												1	1			1										
SI89									1			2	2			2										
SK03																								2	1	
SK07								4					2													
SK09													2			1										
SK18				1				2		5			4			14								1		
SK19									2																	
SK20												2				4										
SK21																1										
SK24										3																
SK44								2					6			11								4	1	
SK53									1																	
SK64								1					3													
Pit009													1													
Pit026																								1		
Pit028								1		1			1											1		
Pit029		1														1		1								
Pit038																1										
Pit040																1										
Pit042																		1								
Pit047																		1								
Pit049								1																		
Pit051													1													
Pit059								1					1													
Pit105													1													
Pit119												1														
Pit137																		2								
Pit138																		2								
Pit148													2													
Pit150													1													
Pit153																			1							
Pit155																		1								
Pit156									1																	
Pit215																								1		
Pit312													1												1	
e6																		1								
f6																			1							
N19																		1								1
O16													1													
O17								1					1													
O18									1				1					1								
R13								1																		
T15													1													
A区表探								1					3					1								
合計	0	4	0	17	0	11	0	85	0	21	0	34	0	223	0	1	0	161	0	23	0	1	0	14	3	0

遺構	須恵器														灰釉陶器				瓦				土製品				石製品		鉄製品					
	蓋(新治)		甕		甕(新治)		甗		甗(新治)		鉢		壺・瓶類		高坏		円面硯		皿・(壺・瓶)		丸瓦		平瓦		土玉		支脚・手摺		砥石・(紡錘車)		鎌・釘等			
	甗体	破片	甗体	破片	甗体	破片	甗体	破片	甗体	破片	甗体	破片	甗体	破片	甗体	破片	甗体	破片	甗体	破片	甗体	破片	甗体	破片	甗体	破片	甗体	破片	甗体	破片	甗体	破片	甗体	破片
SI01		4		14		1		3					2										1	3										
SI02				8								1		3									2											
SI03		7		1																												1		
SI04																																2		
SI05				8				3				2		1																				
SI06														1																				
SI07				6		1																												
SI08				4				2													2			1										
SI09				3																													1	
SI10				9										2																				
SI11																																		
SI12																																		
SI13																							1											
SI14				8		2																	3										1	
SI15		3		17		3							2		2		2							1			1	7		1				
SI16																																		
SI17				4																													2	
SI18				1																														
SI19				4								1		1																				
SI20				1		1			1																									
SI21																																		
SI22				4		2																												
SI23				4		2										1																		
SI24																																	2	
SI25		3																															1	
SI26				12										1																				
SI27				10		4		2						1									1										2	
SI28				6																			2										1	
SI29				5		1	1							3																			1	
SI30				14																													1	
SI31																						1				1								
SI32				9			7		3				2		2																	1	1	
SI33				9		1							3		1																		1	
SI34				8			1						2																				1	
SI35				2									1																				1	
SI36				28			1						1																				1	
SI37				6																													2	
SI38				3		1	1						1																				1	
SI39				14		1							2		1																			
SI40				5		3																											1	
SI41		1																				1											1	
SI42				1																				1										
SI43				1																				1			1							
SI44																								1										
SI45				16		1							1																					
SI46				3		4																												
SI47				2			1																	3										1
SI48						1																												
SI49				4									1																					
SI50				3		2							4																					
SI51				22			7						6										1	1			1							
SI52				2									1																					
SI53				7		13	15																											1
SI54				6									1																					
SI55				1									1																					
SI56				1																														
SI57				1								2	1	1								1												1
SI58				7			1																											1
SI59		1		15		2							3											1			1							
SI60				2									1										1				1							1
SI61		12		5									2											8		1	1							
SI62				8		1																												
SI63		1																						1										
SI64				3																				1	1									1
SI65				1		1																												
SI66				13		4																												2
SI67		2		2																				2										
SI68				1																				3		1								
SI69				9		1							1											1		1								
SI70																							1											
SI71				1																														1
SI72				1		3		8																										5
SI73				1																														
SI74				2									2																					1
SI75				1																														
SI76																																		
SI77				3									1																					
SI78				12																														

第4章 総括

1. 縄文時代の様相と土地利用の変遷

今回実施した散野遺跡の調査において、生活の営みが認められた最初の痕跡は縄文時代である。調査区の北側には陥穴状土坑2基（SK49・54）が存在し、遺物は出土していないものの縄文時代早期から前期には既に狩猟の場として利用されていたことがうかがえる。一方、遺物から見たこの時期の中心は、縄文時代後期前葉の称名寺2式期から堀之内1式期にかけてである。その分布状況を概観すると、A区からB区南側にかけての広い範囲で認められる。全体の分布状況を見ると、A区ではまばらな出土量であるが、B区では、Kグリッド以南から徐々に出土量が増加し、M16～18、N16グリッド地点では50点以上と最も多く出土している。さらに南側へ移行するに従って遺物の量は再び減少に転じる傾向にある。竪穴住居跡SI89など該期に帰属する遺構は散在的ではあるものの、この遺物



縄文土器出土分布状況

の出土する範囲に重なっていることが理解される。特に竪穴住居跡を検出したB区谷頭付近は西方へ移行するに従い出土遺物の量が増加することから、調査区外へさらに遺構が広がることも予想される。

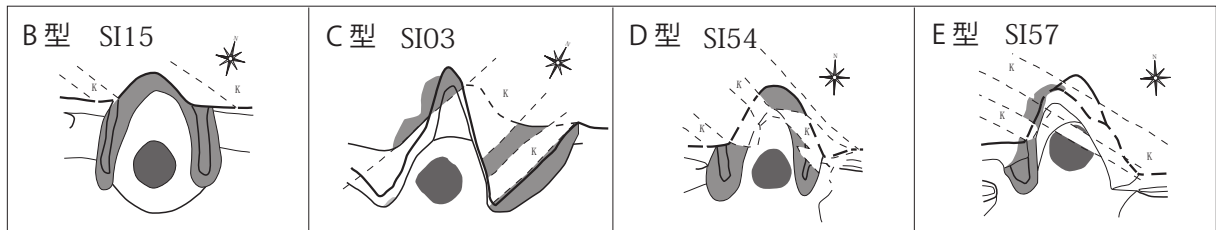
2. 古墳時代から奈良・平安時代の様相と土地利用の変遷

縄文時代の次に遺構が出現するのは、古墳時代後期の7世紀代後半である。終末期にかけて2棟の竪穴建物跡が検出されたが、集落として本格的に展開するのは8世紀以降の奈良・平安時代になってからである。該期の遺構は、竪穴建物跡88棟、掘立柱建物跡17棟を中心とし、出土遺物の様相から10世紀代まで継続したことが明らかになった。ここでは佐々木氏の須恵器年代観を踏まえ、出土遺物の様相から7世紀第3四半期～第4四半期をI期として、遺構が途絶える10世紀第3～第4四半期のVII期までを設定した。この年代観に遺構の変遷、特に竪穴建物跡の形態を中心とした形態的な変化を概観してみる。竪穴建物跡を選択したのは、出土遺物の出土量が安定的に出土していること、構築された規模や支柱穴の有無、主軸方向、そしてカマドや掘り方の構築状態など様々な形態の差異が

竪穴建物跡時期別分類

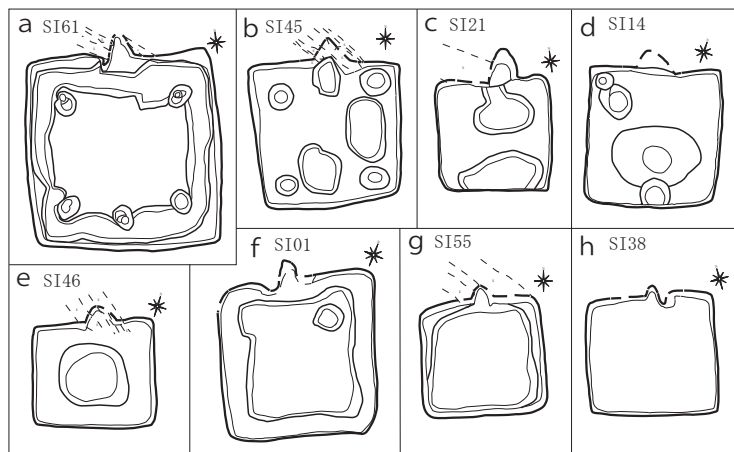
区分	年代	時期	SI (竪穴建物跡)			SB(掘立柱建物跡)
I期	7世紀	第3四半期		74		
		第4四半期				
II期	8世紀	第1四半期	03,25,26,37,61,67,68	24,30,64,65,	35	43,48,52,63,88
		第2四半期				
III期		第3四半期	13,31,60	41,47,50,59,70,72	15,17,54,82	05
		第4四半期	16,40,58,83			
IV期	9世紀	第1四半期	32,39	18	77	06,09,07,15
		第2四半期	19			
V期		第3四半期	07,08,10,53,66,78,79,84	02,05,45,46,55,57,62,73,76,85,86	27,69	14
		第4四半期	29,36,38,51,75			
VI期	10世紀	第1四半期	81		42	71
		第2四半期				
VII期		第3四半期	56			

※ SI04は時期不明



カマド形態分類

明瞭で比較が容易であることなど適していると考えたからである。なお、カマドについては谷氏のA～F型の形態分類（谷1982）を参照し、本地点から検出された竪穴建物跡のカマドにも当てはめていく。併せて、掘り方も変化に富んでおり、分類化して各期の傾向を見ていきたい。さらに遺物では、供膳土器における土師器と須恵器の出土量の割合、土師器の中で内面黒色処理された供膳具の割合、須恵器は木葉



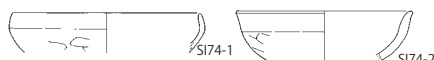
掘り方形態分類

第4章 総括

下窯とみられる製品が主体の中にあって、それ以外の製品が含まれる割合を新治窯産の製品を対象に比較してみた。

I 期（7世紀第3四半期～第4四半期）

当期の遺物は、非ロクロ成形の土師器坏を基本とした。口縁部形態は内湾度の強い遺物が目立つ様相で、本地点ではSI74の1棟が該当する。出土遺物は土師器が主体となり、供膳具では非ロクロ成形の土師器坏を中心としている。竪穴建物跡の規模は一辺が6mを超える方形で、支柱穴を持ち、カマドの形態はB型、掘り方はg類であった。本地点では大型の部類に入り、主軸方向も座標北から西側への傾きが大きい。



遺構名	位置 (グリッド)	規模(cm)			主軸方向	支柱穴 有無	カマド 類型	掘り方 類型	供膳具割合 (土師:須恵)	土師器坏 内黒土器割合	須恵器 新治窯産割合	備考
		東西軸	南北軸	深さ								
SI74	E,F29・30	640	(446)	34	N-49°-W	有	B	g	82:18	0	0	土師器坏類は非ロクロ系

I～II期（7世紀第4四半期～8世紀第1四半期）

当期の遺物は、前段階同様、非ロクロ成形の土師器坏を基本とした。口縁部が内湾した形態から開き気味の形態を中心としている。供膳具は土師器とともに須恵器の含まれる割合が多くなり、II期への過渡期になる様相で、本地点ではSI35の1棟が該当する。竪穴建物跡の規模は一辺が5m前後で、支柱穴を持ち、カマドの形態はD型、掘り方はc類である。主軸方向は座標北から西側への傾きが前段階より小さくなっている。

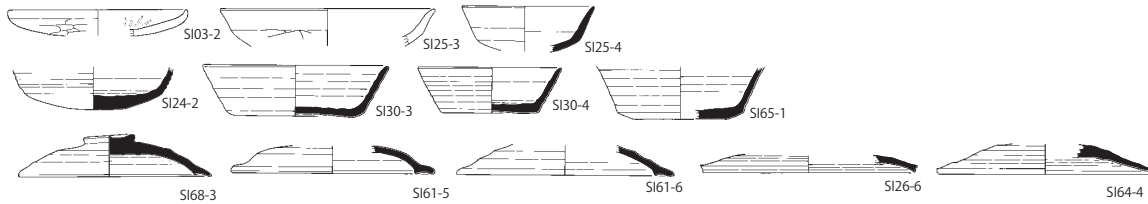


遺構名	位置 (グリッド)	規模(cm)			主軸方向	支柱穴 有無	カマド 類型	掘り方 類型	供膳具割合 (土師:須恵)	土師器坏 内黒土器割合	須恵器 新治窯産割合	備考
		東西軸	南北軸	深さ								
SI35	M21,N21	518	491	32	N-16°-W	有	D	c	38:62	0	0	土師器坏は非ロクロ系主体

II期（8世紀第1四半期～第2四半期）

当期の遺物は、土師器では非ロクロ成形の坏が残る。一方、須恵器では坏の形態が丸底・回転ヘラケズリ調整から平底・回転ヘラケズリ調整に変化し、併せて口径に対する底径の比率が大きく器高は低い形態となる。蓋では内面にかえりが付くものが消滅し、代わりに端部が垂下する蓋が出現するなどの様相を基本とした。本地点ではA・B区合わせた竪穴建物跡11棟が該当し、出土遺物は土師器に代わって須恵器が増加してくる。供膳具では、非ロクロ成形の土師器坏の口縁部形態の開きがさらに大きくなり器高も低くなる。須恵器坏は新治窯産の製品を始め、木葉下窯産とみられる胎土以外の含まれる割合が比較的多く出土している。盤は本来この時期に出現するが、本地点ではまだ認められない。竪穴建物跡の規模は、一辺が3mから7m近くを測るものまで存在し、数値的にはかなりののぼらつきがみられるものの、中心となるのは概ね5m前後の範疇で東西を長軸とする形態が多い。ほとんどの建物跡で支柱穴を持つが、古相で小型の部類に入る建物跡SI26・37などは支柱穴が認められない。この支柱穴の有無については、SI24でみられた拡張の痕跡から、拡張前は一辺が3m程で支柱穴を持たない形態であったことが判明し、小規模な支柱穴を持たない建物跡から一辺5m前後から7m前後の支柱穴を持つ建物跡へと変化したことが捉えられていることから、これらに合致した傾向と考えられる。カマドはC型が主流で、D類とした中にもC類に近い形状をとるものが多い。掘り方は規模が大きい建物跡ではa類となるが、全体的にはg類が中心である。主軸方向は座標北から0～

5° の範囲と 10° 前後の範囲での傾きに分けられ、SI03 のみ大きい数値を示している。東側に傾く建物跡は、B 区埋没谷の谷頭周辺に限定される。



遺構名	位置 (グリッド)	規模 (cm)			主軸方向	主柱穴 有無	カマド 類型	掘り方 類型	供膳具割合 (土師:須恵)	土師器環 内黒土器割合	須恵器 新治窯産割合	備考
		東西軸	南北軸	深さ								
SI03	e,f1・2	658	642	58	N-26°-W	有	C	a	26:74	45	42	第1四半期, 混入遺物に墨書土器あり
SI24	N16	505	430	54	N-10°-E	有	C	f	0:100	—	0	建物跡に拡張の痕跡あり
SI25	L,M16・17	442	488	45	N-10°-E	有	C	a	32:68	0	13	第1四半期, 縄文土器多数混入
SI26	N18,O18	386	352	58	N-11°-W	無	C	g	8:92	0	4	遺物新旧混在
SI30	M,N18・19	532	482	57	N-0°	有	C	g	24:76	0	3	土師器環は非ロクロ系多く出土
SI37	K20	438	428	46	N-9°-W	無	C	g	17:83	0	20	第1四半期
SI61	I25	694	688	53	N-4°-E	有	C	a	24:76	23	33	第1四半期, 土師器環は非ロクロ系中心, 土玉多数出土
SI64	I27,J27	515	544	37	N-2°-E	有	C	g	9:91	0	10	非ロクロ成形土師器あり
SI65	H25,I25	481	485	50	N-4°-E	有	D	d	13:87	0	0	非ロクロ成形土師器あり
SI67	H,I26・27	488	473	56	N-9°-W	無	C	g	20:80	67	17	第1四半期, 混入遺物に墨書土器あり
SI68	I27・28	584	548	34	N-0°	有	D	a	0:100	—	14	第1四半期, 混入遺物に墨書土器あり

II～III期 (8世紀第2四半期～第3四半期)

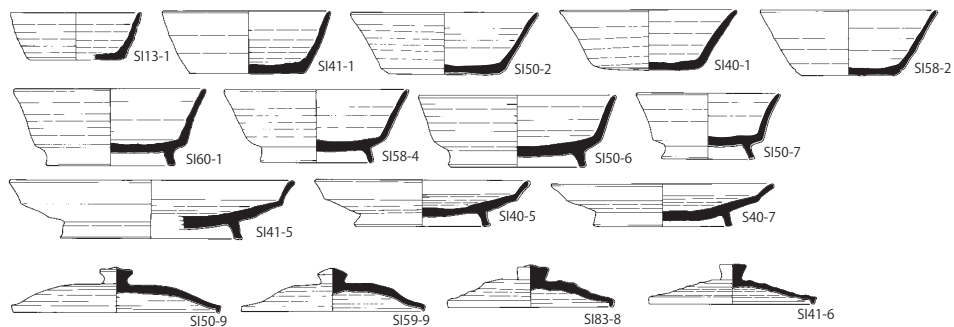
当期の遺物は、まだわずかに非ロクロ成型の土師器が含まれていることから、前段階から次段階へ移行する時期をあてた。本地点ではB区の堅穴建物跡4棟が該当し、出土遺物は供膳具で土師器がほとんど認められなくなるのに対し、須恵器が主体となる時期である。堅穴建物跡の規模は3～4m前後が中心である。主柱穴は小規模な建物跡ほど認められなくなる。カマドの形態はC・D型が主流である。E類も1棟検出されている。掘り方はa類を主体としている。主軸方向は座標北からの傾きが15°～27°と大きめ数値がみられるものの、傾きがほとんど認められない建物跡が主流となるようである。掘立柱建物跡はこの時期にSB06が造営されたと考えられる。



遺構名	位置 (グリッド)	規模 (cm)			主軸方向	主柱穴 有無	カマド 類型	掘り方 類型	供膳具割合 (土師:須恵)	土師器環 内黒土器割合	須恵器 新治窯産割合	備考
		東西軸	南北軸	深さ								
SI15	R,S13・14	590	598	41	N-15°-W	有	B	a	10:90	0	0	円面硯出土
SI17	P14,Q14	425	408	36	N-21°-W	有	C	a	0:100	—	0	
SI54	J23・24	318	316	56	N-2°-W	無	D	g	50:50	100	0	新旧遺物混在, 土師器環は混入
SI82	C26,D26	(383)	473	48	N-1°-E	有	—	a	9:91	100	10	新旧遺物混在, 土師器環は混入

III期 (8世紀第3四半期～第4四半期)

当期の遺物は、須恵器環が前段階に比べて口径に対する底径の比率が徐々に縮小し、中には箱型の形態が認められる。須恵器盤は体部から口縁部にいたる立ち上がりの稜が明瞭である様相を基本とした。供膳具はほぼ須恵器で占められる。B区の堅穴建物跡13棟が該当し、本地点の出土遺物は、第



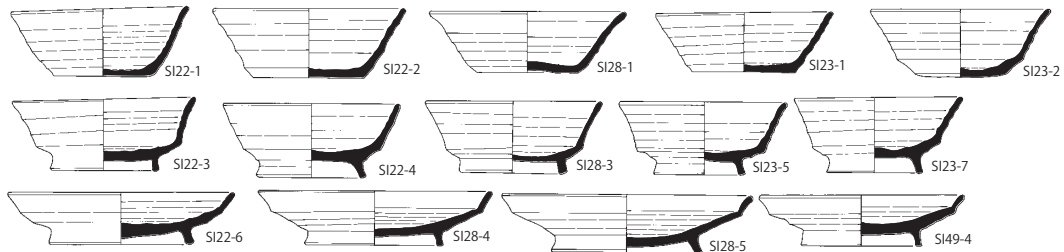
第4章 総括

3 四半期から盤が認められるようになり、墨書土器もこの時期から出土し始める。第4 四半期になると内面黒色処理されたロクロ成形土師器も混在してくる。堅穴建物跡の規模は、一辺4～5 m前後が中心で前段階よりもやや大きめになり、南北軸が長い形態をとるものが多い。支柱穴はほとんどの建物跡で確認されている。カマドの形態はE型が増加している。掘り方はa・c・d・e・g・h類が認められ、多様化している。主軸方向は座標北から40° 近くまでの範囲で認められ、かなりばらついている。掘立柱建物跡はSB06 が廃棄されSB04 が造営されたと考えられる。

遺構名	位置 (グリッド)	規模(cm)			主軸方向	支柱穴 有無	カマド 類型	掘り方 類型	供膳具割合 (土師・須恵)	土師器環 内黒土器割合	須恵器 新治築産割合	備考
		東西軸	南北軸	深さ								
SI13	T18・19	335	325	16	N-21° -W	無	E	d	20:80	0	0	瓦破片、礫が他建物跡より目立つ
SI16	R17,S17	405	372	40	N-6° -E	有	C	h	0:100	—	0	第4四半期
SI31	L18	269	270	33	N-27° -W	無	C	c	0:100	—	0	
SI40	L21,M21	366	401	30	N-32° -W	有	E	e	0:100	—	0	第4四半期、「大」線刻を持つ土器あり
SI41	M22	408	384	27	N-12° -W	有	C	d	0:100	—	14	
SI47	L,M22・33	380	408	33	N-37° -W	有	C	g	33:67	100	0	
SI50	J21・22	464	437	46	N-3° -W	有	E	g	3:97	0	0	コップ型須恵器環出土
SI58	G,H22・23	482	478	65	N-11° -E	有	C	c	7:93	100	0	第4四半期
SI59	H,I22・23	615	638	62	N-14° -E	有	D	a	30:70	50	2	
SI60	H,I23・24	506	532	52	N-13° -E	有	C	c	11:89	17	3	第3四半期
SI70	H28	411	433	43	N-5° -W	有	E	g	14:86	100	0	混入の墨書土器あり
SI72	G29	(270)	(280)	48	N-6° -W	有	E	g	14:86	100	8	墨書土器あり
SI83	B27,C27	397	426	49	N-3° -E	無	D	d	2:98	0	5	第4四半期、墨書土器あり

III～IV期（8世紀第4 四半期～9世紀第1 四半期）

当期の遺物は、内面黒色処理のロクロ土師器も出土する前段階の傾向を踏襲しながらも、須恵器環の形態はやや深身の形態になりつつある様相で、9世紀代への移行期にあたりと考えられる。本地点ではB区の堅穴建物跡7棟が該当する。堅穴建物跡の規模は、一辺が3 m前後～4 m前後にかけての範疇で、東西軸が長い形態が多い。支柱穴は持たない建物跡が主流であるが、一辺が4 mを超える規模のものはまだ支柱穴が残るようである。カマドの形態は、D・E型のみとなり、掘り方はb, c, e, g, h類が認められ、多様化は変わらない。主軸方向は、座標北から傾きのないものと15°～35° 内で傾くものに大きく分けられる。掘立柱建物跡は、SB04 からSB05 に建て替えられた時期とみられる。

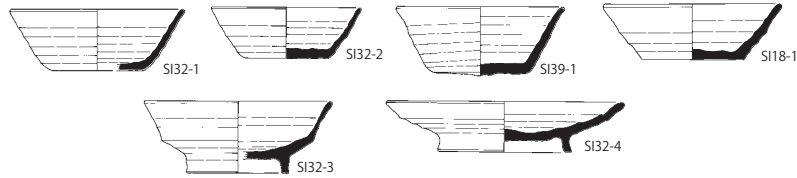


遺構名	位置 (グリッド)	規模(cm)			主軸方向	支柱穴 有無	カマド 類型	掘り方 類型	供膳具割合 (土師・須恵)	土師器環 内黒土器割合	須恵器 新治築産割合	備考
		東西軸	南北軸	深さ								
SI22	P16・17	364	285	46	N-17° -W	無	D	b	0:100	—	0	須恵器供膳具は有台器種が目立つ
SI23	P17	429	426	30	N-34° -W	有	D	g	2:98	100	3	複数の土器に「大」の線刻
SI28	O20	375	317	35	N-18° -W	無	D	e	9:91	0	0	
SI33	L19	484	457	21	N-16° -W	有	D	c	4:96	50	0	
SI34	L20, M20	333	284	33	N-0°	無	E	g	0:100	—	0	
SI49	L23,M23	354	346	28	N-19° -W	無	E	h	13:87	50	8	墨書土器あり
SI77	E,F24・25	421	423	47	N-9° -E	有	D	g	45:55	86	0	新旧遺物混在、重複SI78遺物混入か

IV期（9世紀第1 四半期～第2 四半期）

当期の遺物は、須恵器環の口径に対する底径の比率が前段階よりさらに減少し、器高も徐々に高くなる。須恵器盤も高台径が縮小傾向にあり、体部から口縁部にいたる立ち上がりで稜が不明瞭になってくる。そして須恵器蓋は出土量が急激に減少するといった様相を基本とした。本地点ではB区の堅穴建物跡4棟が該当し、出土遺物の内、供膳具は須恵器を主体としながらも、内面黒色処理の土師器環類の供伴する割合が増加する傾向にある。古相の建物跡では有台器種の出土量が多いようである。

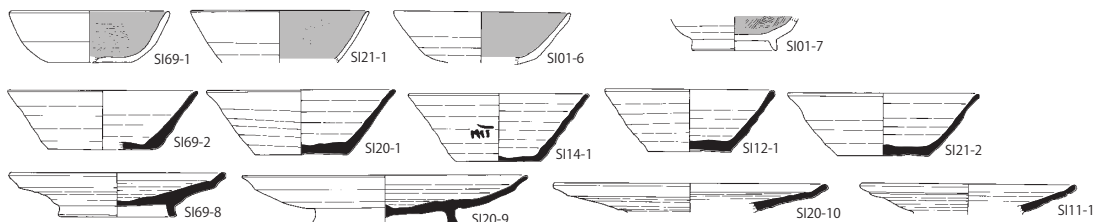
竪穴建物跡の規模は、一辺が3 m前後から4 m前後の規模は前段階と変わらないが、主柱穴を持つ建物跡は認められなくなる。カマドの形態はE類が主体となり、掘り方はh類が目立ってくる。主軸方向は座標北から0°～16°の範囲で西に傾くものが主流である。掘立柱建物跡は、SB07・08が造営された時期と考えられる。



遺構名	位置 (グリッド)	規模(cm)			主軸方向	主柱穴 有無	カマド 類型	掘り方 類型	供膳具割合 (土師:須恵)	土師器坏 内黒土器割合	須恵器 新治窯産割合	備考
		東西軸	南北軸	深さ								
SI18	Q16	370	307	12	N-0°	無	E	h	22:78	100	0	
SI19	P15・16	391	375	18	N-2°-W	無	E	h	20:80	67	0	第2四半期
SI32	L19, M19	344	310	58	N-7°-W	無	C	d	3:97	100	2	第1四半期
SI39	L20・21	410	494	43	N-15°-W	無	E	g	4:96	67	0	第1四半期

IV～V期（9世紀第2四半期～第3塩半期）

当期の遺物は、須恵器の形態にほとんど変化は認められないが、盤は口縁部の開きが大きくなっていく。一方で土師器では椀が出現する時期を基本とした。本地点はA・B区合わせた竪穴建物跡8棟が該当する。出土遺物では供膳具での内面黒色処理された土師器坏類の割合が前段階と比べほとんど変化がみられないものの、SI01・08など土師器が須恵器と同等か上回るものが確認される。一方でSI11・12のように土師器が全く出土しない建物跡もあり、複雑な様相である。竪穴建物跡の規模は、一辺が3 m前後～4 m前後で主柱穴を持たないものが主流であることは前段階と変わらないが、5 mを超えるSI69など例外も認められる。カマドの形態はE型を主体としてC・D型が残る。掘り方は、再び多様化傾向にあり、主軸方向は全体的にばらついた数値を示すが、傾きは座標北から西側に限定され、近接する建物跡同士で同じか類似した方向を示すグループも存在する。掘立柱建物跡は、SB10・13・14が造営される時期と考えられる。



遺構名	位置 (グリッド)	規模(cm)			主軸方向	主柱穴 有無	カマド 類型	掘り方 類型	供膳具割合 (土師:須恵)	土師器坏 内黒土器割合	須恵器 新治窯産割合	備考
		東西軸	南北軸	深さ								
SI01	e, f 3・4	408	422	38	N-25°-W	無	D	f	58:42	95	44	
SI11	d 8, e 8	460	382	18	N-4°-W	(有)	C	h	0:100	—	0	
SI12	T16, U16	283	256	38	N-20°-W	無	E	d	0:100	—	0	
SI14	S13, T13	354	370	33	N-20°-W	無	E	d	8:92	75	2	墨書土器あり
SI20	P16, Q16	430	407	27	N-0°	無	E	g	9:91	100	0	
SI21	P16	300	304	30	N-0°	無	E	c	14:86	100	0	
SI27	N, O19・20	412	400	42	N-12°-W	無	D	e	16:84	14	3	墨書土器あり
SI69	H27	675	689	69	N-15°-W	有	D	a	18:82	53	0	底面全体に朱墨の盤あり

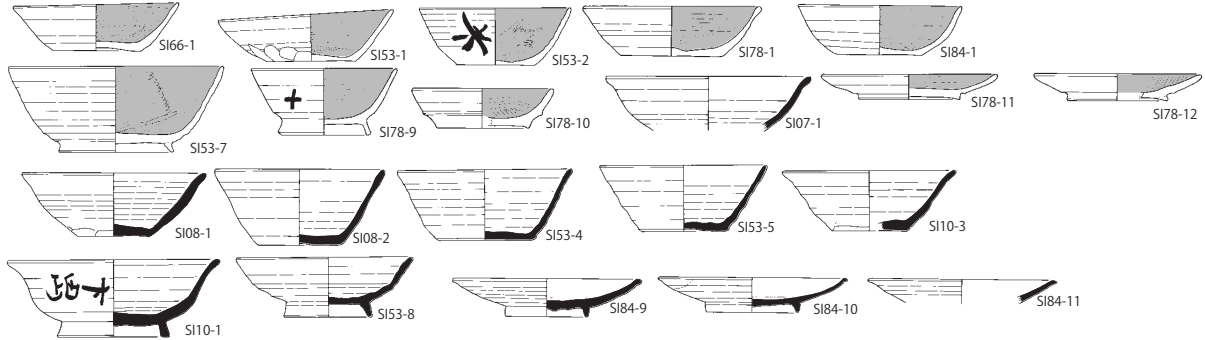
V期（9世紀第3四半期～第4四半期）

当期の遺物は、器種・形態ともに多種多様な傾向がうかがえる。土師器坏では体部下端から底部の調整は回転ヘラケズリが主流で、口縁部形態は開き気味になり徐々に強まってくる。土師器椀は浅身の形態をとるものが認められ、高台部は高さが増してくる。そしてこの時期から土師器皿が出現する。須恵器では坏が口径に対する底径比率の減少化が進み、体部が内湾してくる。一方で器高が再び低く

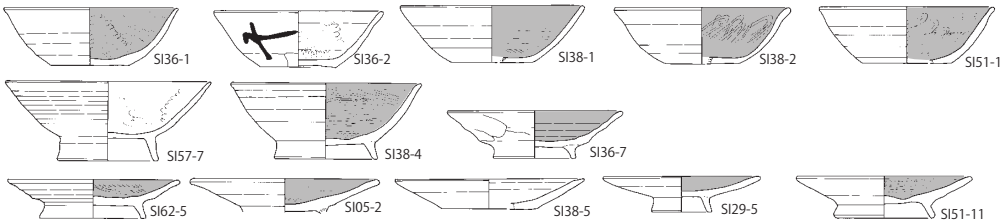
第4章 総括

なるものも認められる。須恵器盤は口縁部の開きがさらに増し、皿に近い形態になってくる。そして須恵器生産終焉の時期に伴って、須恵器の出土がほとんど認められなくなる様相を基本とした。本地点ではA・B区合わせた竪穴建物跡 24 棟が該当する。出土遺物は供膳具の割合で見ると古相とみられる遺構では、まだ須恵器が土師器を上回っているが、新相とみられる遺構では土師器が主体となってくる。器種を見ると土師器碗が主流となってくるようで、皿の出土量も増加してくる。坏類は内面黒色処理されたものが中心であるが、SI75 では非黒色処理の土器も目立ってくる。注目される遺物としては墨書土器が最も多く出土し、貴重な情報が提供されている。また SI84 からは黒笹 90 号様式の所産と考えられる灰釉陶器皿が出土している。竪穴建物跡の規模は、一辺 4 m 以内が主流であるが、5 m 前後のやや大き目のものは遺物から古相の時期に位置付けられる。ほとんどの建物跡で支柱穴をもたないが、拡張が行われたとみられる SI05 や規模が大きい SI08、全容は不明だが SI73 などでは支柱穴が確認されている。カマドの形態は E 型が半数以上を占め、掘り方は多様化した中でも g・h 類が主体となっている。主軸方向は座標北から東西 20° 以内の傾きに収まり、東に傾く建物跡はほとんどが B 区北側に集中している。掘立柱建物跡は、SB14 が造営される時期と考えられる。

第3四半期



第4四半期



遺構名	位置 (グリッド)	規模 (cm)			主軸方向	支柱穴 有無	カマド 類型	掘り方 類型	供膳具割合 (土師:須恵)	土師器坏 内黒土器割合	須恵器 新治産割合	備考
		東西軸	南北軸	深さ								
SI02	g 5・6	400	383	32	N-1° -E	無	D	h	67:33	0	0	
SI05	f 5, g 5	640	383	38	N-11° -W	有	C	h	70:30	81	0	第4四半期
SI07	d 6・7	329	372	30	N-8° -W	無	E	h	30:70	100	0	第3四半期
SI08	e 6, d 6	472	508	33	N-5° -W	有	E	a	0:100	—	0	第3四半期, 墨書土器あり
SI10	c 8, d 8	400	365	12	N-7° -W	無	E	h	6:94	100	0	第3四半期, 墨書土器あり
SI29	O,P22	368	(142)	28	N-0°	無	E	g	88:12	48	0	第4四半期
SI36	N21,O21	361	322	53	N-11° -W	無	E	a	49:51	81	0	第4四半期, 墨書土器あり
SI38	K20,L20	346	323	28	N-15° -E	無	D	h	56:44	60	0	第4四半期
SI45	K22,L22	385	400	41	N-3° -W	無	D	b	72:28	68	8	
SI46	L21, 22	325	290	31	N-18° -W	無	E	e	38:62	100	20	
SI51	K23	356	421	67	N-17° -E	無	E	g	81:19	80	9	第4四半期
SI53	I22・23	358	336	63	N-5° -W	無	D	g	37:63	90	0	第3四半期, 墨書土器あり
SI55	J24,K24	327	314	54	N-3° -W	無	E	g	43:57	0	0	
SI57	H22	333	324	46	N-0°	無	E	g	61:39	43	0	第4四半期, 墨書土器あり
SI62	I26	317	280	53	N-2° -E	無	D	d	52:48	79	0	第4四半期, 墨書土器あり
SI66	H,I25・26	448	370	43	N-5° -W	無	E	f	19:81	67	33	第3四半期, 墨書土器あり
SI73	G,H28・29 (326)	(260)	50	50	N-13° -W	有	E	g	25:75	100	0	
SI75	F24,G24	348	348	16	N-2° -W	無	B	h	93:7	36	0	第4四半期
SI76	F,G25・26	212	222	24	N-19° -W	無	—	h	43:57	67	0	
SI78	E24・25	356	377	46	N-14° -E	無	E	f	88:12	67	0	第3四半期, 墨書土器あり, 円面硯出土
SI79	F26	326	331	40	N-16° -E	無	C	h	71:29	60	0	第3四半期
SI84	C28・29	383	347	43	N-9° -E	無	E	g	84:16	73	0	第3四半期, 墨書土器あり, 灰釉陶器皿出土
SI85	C29,D29	243	298	10	N-4° -E	無	—	h	70:30	71	33	
SI86	D29,E29	284	274	15	N-3° -W	無	E	g	74:26	74	0	墨痕を持つ土器あり

V～VI期（9世紀第4四半期～10世紀第1四半期）

当期の遺物は、供膳具が内面黒色処理された土師器坏を主体としながらも、非黒色処理の土器も認められる時期にあたる。本地点ではSI42の1棟が該当し、出土遺物は、土師器坏、碗類は浅身で、高台部などに10世紀の様相が認められ、過渡期になると判断される。竪穴建物跡の規模は、一辺が3m以下と小型化している。支柱穴は持たず、カマドの形態はE型で掘り方はh類となる。主軸方向は、座標北から10°以内で西に傾く程度で収まる。



遺構名	位置 (グリッド)	規模(cm)			主軸方向	支柱穴 有無	カマド 類型	掘り方 類型	供膳具割合 (土師:須恵)	土師器坏 内黒土器割合	須恵器 新治窯産割合	推定時期
		東西軸	南北軸	深さ								
SI42	N22・23	300	282	42	N-9° -W	無	E	h	85:15	87	0	

VI期（10世紀第1四半期～第2四半期）

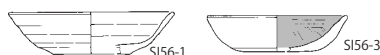
当期の遺物は、土師器坏の体部下端が手持ちヘラケズリとなり、底部は回転糸切りによる切り離し後未調整が主流になる。口縁部は前段階より開きが強まり器高は低い形態をとる。そして内面は黒色処理が次第に減少してくる。一方で、土師器碗では浅身の形態が増加し、高台も足高となる。そして土師器皿は第2四半期になって有台付皿が消滅するなどの様相を基本とした。SI81の1棟が該当し、出土遺物は供膳具に須恵器がほとんど認められなくなること、黒色処理されない土師器坏類や皿が増加する。竪穴建物跡の規模は、一辺が3m前後で、支柱穴は持たない。カマドは東側と北側で検出され、ともにE型である。掘り方はh類になる。主軸方向は座標北から10°以上東へ傾く。



遺構名	位置 (グリッド)	規模(cm)			主軸方向	支柱穴 有無	カマド 類型	掘り方 類型	供膳具割合 (土師:須恵)	土師器坏 内黒土器割合	須恵器 新治窯産割合	推定時期
		東西軸	南北軸	深さ								
SI81	D26・27	318	332	15	N-14° -E	無	E	h	92:8	42	0	

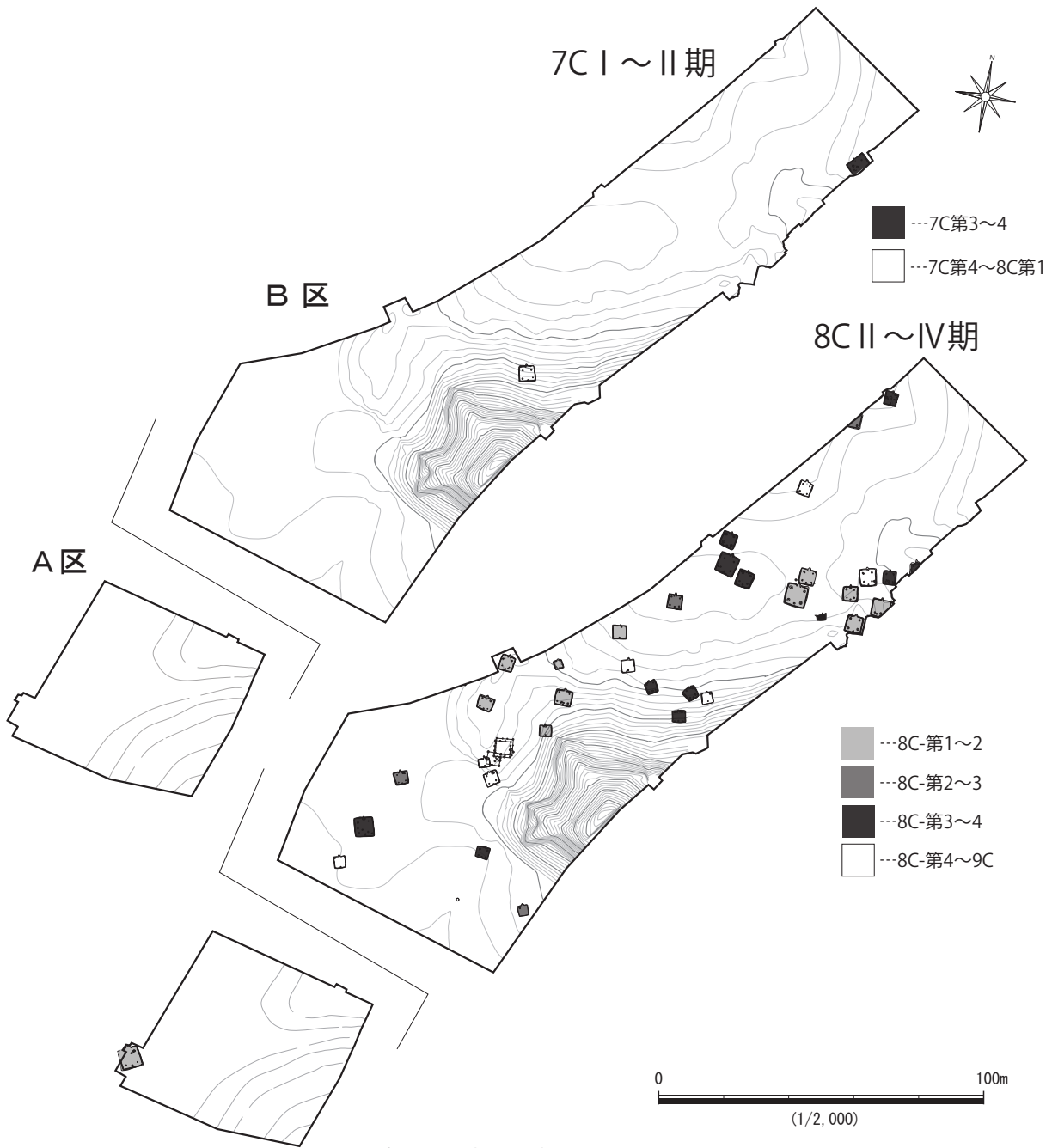
VII期（10世紀第3四半期以降）

当期の遺物は、土師器坏の底部で回転糸切り離し後未調整が増加し、内面の黒色処理がほとんど認められなくなる。そして土師器小皿が出現する様相を基本とした。SI56の1棟が該当し、出土遺物は供膳具で須恵器がほとんど認められなくなること、土師器の中に小皿が出土していることから、この時期にあたりと判断した。竪穴建物跡の規模は、南北に長軸を持った長方形で、支柱穴は認められない。カマドの形態はE型で、東壁に付設されている。掘り方はh類になる。SI71は出土遺物から時期が判別できなかったが、遺構形態がSI56に類似することから、当期に構築された可能性がある。



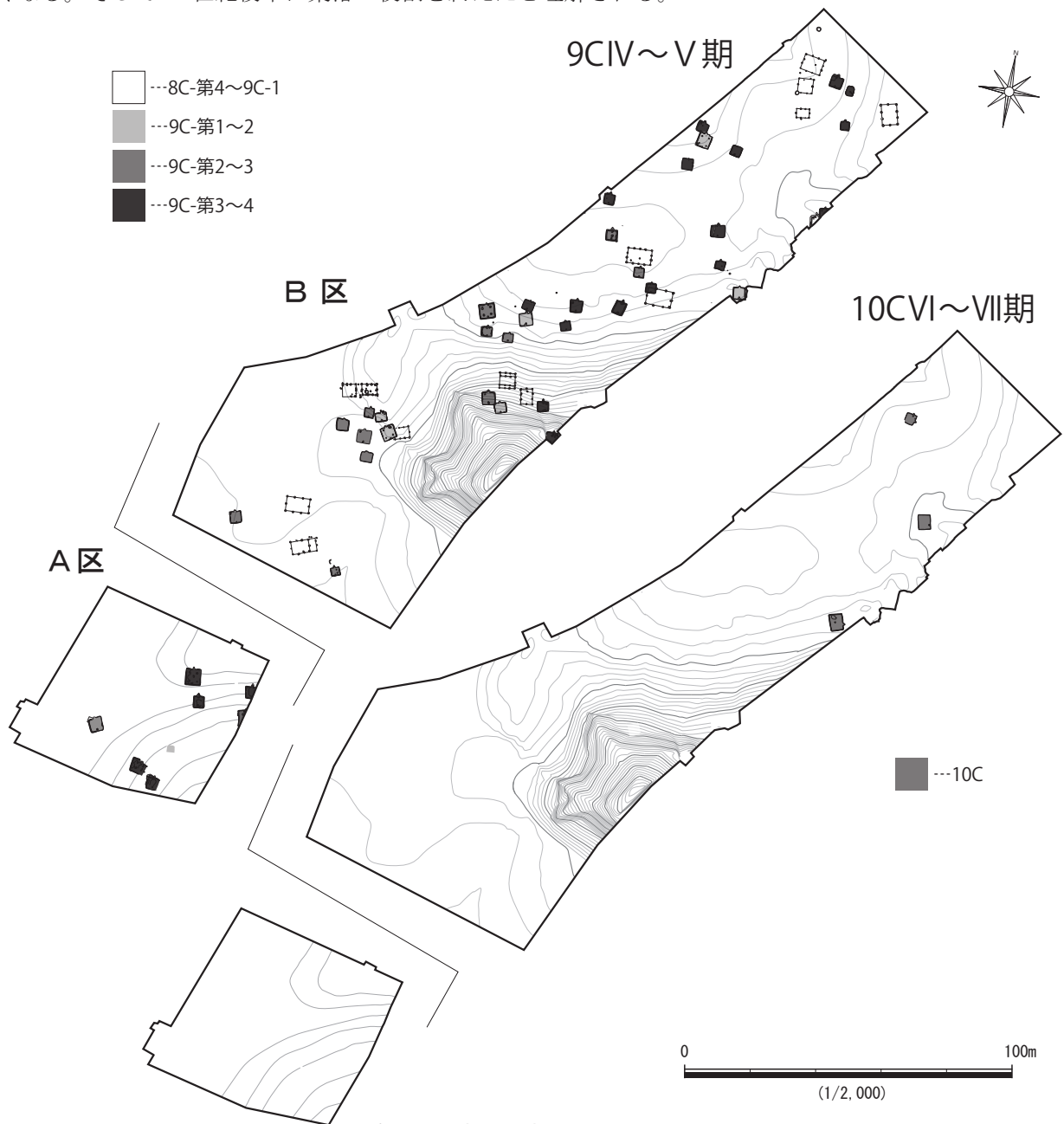
遺構名	位置 (グリッド)	規模(cm)			主軸方向	支柱穴 有無	カマド 類型	掘り方 類型	供膳具割合 (土師:須恵)	土師器坏 内黒土器割合	須恵器 新治窯産割合	推定時期
		東西軸	南北軸	深さ								
SI56	J,K25・26	415	522	16	N-74° -E	無	E	h	80:20	44	0	

これまで竪穴建物跡の様相を時期的に区分し、竪穴建物跡の形態的な変化の傾向を捉えることができた。それによると規模では7世紀後半から8世紀前半にかけて一辺が5～6m前後あったものが徐々に縮小し、10世紀代には3m前後と小型化する。この竪穴建物跡の小型化に伴って支柱穴を持たない構造へと変化している。カマドの形態は、8世紀前半でC型を中心に構築されているが、後半になってD型が増加し、同時にE型が出現してくる。そして9世紀代以降はE型が主体となり、さらに10世紀代ではE型のみになり、東壁側にカマドを設置する傾向にある。掘り方は全時期を通して多様化が認められるが、9世紀代になると、掘り方を持たないh類が多く見受けられる。一方、主軸方向は座標北から西側へ傾くものが主流であるが、東側を指向する建物跡は一部を除いて、同区北側に集中する傾向にある。谷頭の一部の建物跡は地形的な制約があったと考えられるが、北側では同一時期に営まれた計画性がうかがえる。



奈良・平安時代遺構の変遷 (1)

以上の成果から散野遺跡の台地上における集落の変遷を追ってみたい。7世紀後半に出現した竪穴建物跡は8世紀初めにかけて台地の縁辺部に近い地点に占地し始めたようである。実際の縁辺部は大規模な土砂採集によって消失しているため推測の域を出ないが、縁辺部にかけてはさらに集落が広がっていた可能性が高い。8世紀代に入り、前半段階では複数地点でグループ化し、集中する地点も認められる。後半段階になると同一地点での密集度はさらに高まり、それらが複数の地点に分かれて営まれている。この頃に掘立柱建物跡が造営され始めたとみられる。同一地点で近接し合う状況は9世紀前半段階でも継続されるが、後半になってA区では2棟一組が、B区では北側から中央部を占地し、単独でそれぞれが一定の距離感を保ちながら比較的整然と配置される傾向がうかがわれる。この時期は竪穴建物跡や掘立柱建物跡の棟数もピークを迎え、集落として最も安定かつ全盛の時期にあたると言ってよいであろう。しかし10世紀代になると棟数が激減し、B区北側で散見されるに過ぎなくなる。そして10世紀後半に集落の役割を終えたと理解される。



奈良・平安時代遺構の変遷 (2)

3. 近世の様相と土地利用の変遷

集落の痕跡が10世紀代後半期の竪穴建物跡(SI56)で途絶えた後、次にこの土地で利用が確認されたのは近世になってからである。それは集落としてではなく墓域としてであった。該当するのはB区北側で検出されたSK41～43・61の4基である。SK41は出土遺物の様相から18世紀後半以降に埋葬されたとみられる。他の土壇墓では、出土遺物に乏しく明瞭な時期は確定できないものの、おそらくは当時の土地所有者によって代々安置されていったと考えられる。また、各墓壇の配置は、畑地として利用されている現在の区画に沿って直線的な配列が認められることから、近世中期には既に現況と同様の土地利用がなされていたことが想像できる。

4. まとめ

最後に、散野遺跡の主体となる奈良・平安時代の集落がどのような性格を持っていたか、周辺域で行われた調査事例と比較して考えてみたい。

散野遺跡の北東約2.5km地点には大串遺跡が所在する。石川川で開析された谷津を挟んだ対岸に立地する遺跡で、近年実施された第7地点において大型の掘立柱建物跡が発見された(小川・大淵編2008)。SB04とされる掘立柱建物跡は桁行6間、梁行3間という規模を持ち、中央に束柱を備えた床束建物であることが判明している。併せて建物の柱穴内と建物を圍繞したと考えられる溝からは炭化米が検出され、穎屋や倉代などの郡衙正倉別院などの重要な官衙的施設が想定された。重複する遺構から造営年代は8世紀第2四半期以降とされ、9世紀第2四半期には廃絶に至った可能性が高く、台渡里官衙遺跡群の郡衙正倉院と廃絶期が異なることから、南東の平戸地区が推定地とされる平津駅家に付属する正倉院か郡衙正倉別院と駅家が複合された可能性が指摘されている。それに比べ散野遺跡で検出されている掘立柱建物跡は、桁行4間、梁行3間が最大で、建物全体の平面積や柱穴の規模が小さく、区画溝や柵列等の圍繞施設も存在しないことから、官衙的な要素はかなり希薄である。ただし、注目されるのは、大串遺跡第7地点では「廣嶋」という墨書瓦が出土しているのに対し、散野遺跡ではSI49からも「廣嶋」とみられる文字が書かれた須恵器坏が出土している。SI49は出土遺物から8世紀第4四半期～9世紀第1四半期の頃に比定され、存続期間とも一致する。仮に双方とも那賀郡内にある「廣嶋郷」を指しているのであれば、この時期まで確実に廣嶋郷が存在していた可能性が高い。

一方、大串遺跡第7地点に近接する遺跡に、先行して調査が行われた梶内遺跡がある。古墳時代から奈良・平安時代にかけての竪穴建物跡107棟、掘立柱建物跡22棟が確認された大規模な遺跡である(樫村1995)。特に8世紀後半から9世紀後半にかけての遺構が主体になっており、円面硯や「舍人」「長」などを含む多数の墨書土器、灰釉陶器などが出土していることから、一般的な集落とは異なった計画的な官衙関連集落として、古墳時代以来からの継続性から古代芳賀郡芳賀郷の中心地として考えられている(樫村1995)。この梶内遺跡と散野遺跡の奈良・平安時代に該当する集落の様相を比較してみると、竪穴建物跡と掘立柱建物跡で構成されていること、集落の盛期が8世紀後半から9世紀後半にあり、特に9世紀後半でピークに達すること、出土遺物の中に円面硯や多数の墨書土器、灰釉陶器が認められることなど類似する点が多く見受けられる。ただし、円面硯や灰釉陶器など重視される遺物の出土量の点から見て、梶内遺跡の方が圧倒的に多いという差異があり、加えて官人に関わるような文字資料等は認められない。

梶内遺跡との比較の中で、類似点の意味を考えてみた場合、これは両遺跡が同様の役割・機能を持った集落であったという見方ができる。ともに大串遺跡第7地点での正倉が造営された頃には既に安定

散野遺跡（第1地点）出土墨書・刻書土器一覧

出土遺構	図番	積文	土器種類	器種	器種	配置・方向	推定時期	備考
SI03	3	十	須恵器	坏	底部(内面)	正カ	II期	混入
SI08	1	梨本	須恵器	坏	底部	右寄り	V期	線刻あり
SI08	2	乙カ	須恵器	坏	底部	中央	V期	刻書
SI08	4	□本	須恵器	坏	体部	横書	V期	
SI10	1	外:下カ 田 部カ 内:下カ	須恵器	高台付坏	外:体部 内:体部	外:横書 内:正	V期	
SI14	1	□所カ	須恵器	坏	体部	正カ	IV~V期	SI23-1墨書に類似
SI23	1	所カ	須恵器	坏	底部	左寄り	III~IV期	SI14-1墨書に類似, 線刻あり
SI23	2	大	須恵器	坏	底部	中央	III~IV期	刻書
SI23	3	大	須恵器	坏	底部	中央	III~IV期	刻書
SI23	9	大	須恵器	盤カ	体部	正	III~IV期	刻書
SI23	11	木カ	須恵器	高坏	坏部	逆	III~IV期	刻書
SI27	4	体部:子三不カ 底部:子□家カ	須恵器	坏	体部, 底部	体部:横書 底部:中央	IV~V期	
SI36	2	子カ	土師器	坏	体部	横書カ	V期	
SI36	3	□	土師器	坏	体部	—	V期	
SI40	5	大	須恵器	盤	底部	右寄り	III期	刻書
SI49	2	廣嶋	須恵器	坏	底部	右寄り	III~IV期	線刻あり
SI50	4	乙	須恵器	坏	底部	中央	III期	刻書
SI53	2	□	土師器	坏(内黒)	体部	—	V期	
SI53	6	下カ	土師器	高台付坏	体部	横書き	V期	
SI57	1	万福	土師器	坏(内黒)	底部	中央	V期	
SI57	6	□□	土師器	坏カ	体部	—	V期	
SI62	4	□	須恵器	坏	体部	—	V期	
SI66	5	白□	土師器	皿	底部	—	V期	
SI67	1	由木西子	土師器	碗又は皿	底部	左寄り	II期	高台付, 混入
SI68	1	□	須恵器	坏	体部	—	II期	混入
SI70	1	下カ	土師器	坏	体部	正カ	III期	
SI78	9	十	土師器	碗	体部	正	V期	
SI83	2	小カ 廣	須恵器	坏	底部	左寄り	III期	
SI83	4	小カ 廣	須恵器	高台付坏	底部	右寄り	III期	
SI84	6	□万	土師器	碗	体部	横書	V期	
SI86	5	□	土師器	坏カ(内黒)	体部	—	V期	
Pit237	5	□	土師器	坏カ(内黒)	体部	—	—	
Pit237	6	□	土師器	坏カ(内黒)	体部	—	—	
SK39	1	□	土師器	坏カ	体部	—	—	
遺構外	2	梨	須恵器	坏	体部	横書	—	A区表採
遺構外	3	□	須恵器	坏	体部	—	—	C26グリッド表採

した集落が営まれ、平津駅家を中心として物資を保管する役割を担うのが大串遺跡であり、それに関連する輸送等の業務を補助する目的とした中心的な集落が梶内遺跡とするならば、梶内遺跡と同じ目的を有した集落が今回調査した散野遺跡を含め広範囲に点在した可能性をうかがわせる。本地点でも8世紀第2四半期~第3四半期に営まれたSI15から円面硯が出土したことから大串遺跡の正倉院が稼働していた頃には既に補助の一翼を担っていたと考えられる。さらに想像を逞しくすれば、9世紀代になると和名類聚抄から平津駅家の名が消えていることから、駅家の機能が廃絶されたと考えられている状況下であっても、梶内遺跡や散野遺跡などの集落が逆に盛期を迎えているのは、今まで駅家が担ってきた役割を、周辺集落が拠点になって引き継いだために発展していったのではないだろうか。本地点の9世紀第3四半期に該当するSI78から出土する円面硯、SI84出土の搬入された灰釉陶器、さらには増加する墨書土器の出土などがそれらを示唆している。

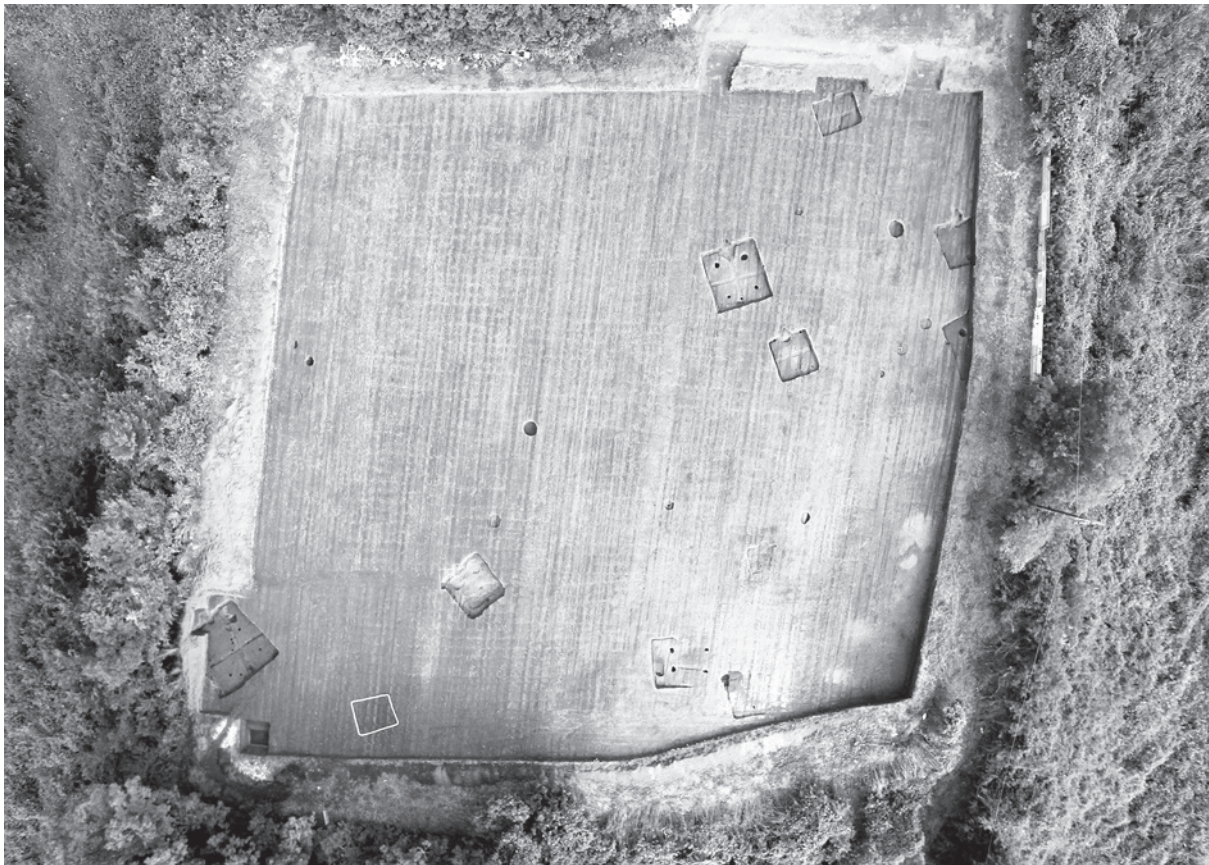
では、相違点は何を意味するのであろうか。前述したように、散野遺跡は梶内遺跡と比べ集落の変遷や出土遺物の様相を同じくしながらも、集落構成の規模や重要遺物の出土量で下回り、平津駅家推定地からも距離がある。これは梶内遺跡があくまで台渡里官衙遺跡群に隣接する堀遺跡のような官衙関連集落の中心であったのに対し、散野遺跡は拠点集落と同じ公共的な機能を持つ一定規模を有した集落であったからであろう。散野遺跡では10世紀代になって建物跡が急激に減少し、ほとんど集落としての機能が認められなくなる。一方で梶内遺跡周辺ではまだ中心集落としての体裁が保たれていたようで、梶内遺跡に近接する高原遺跡、沢幡遺跡など9世紀後葉以降の集落が多く展開する。これは、歴史の変動とともに前代の役割を終え、中心地から離れた集落から徐々に縮小されていったとも考えられ、拠点集落であった梶内遺跡周辺が後世まで継続していったことが理解される。(高野)

第4章 総括

【引用・参考文献】

- 赤井博之 1998 「古代常陸国新治窯跡群の基礎的研究(1)」『婆良岐考古』第20号
- 赤井博之・佐々木義則 2006 「茨城県における須恵器の流通」『婆良岐考古』第28号
- 秋元吉郎校注 1958 「常陸國風土記」『風土記』日本古典文学大系2 岩波書店
- 浅井哲也 1992 「茨城県における奈良・平安時代の土器(I)」『研究ノート』創刊号(株)茨城県教育財団
- 1993 「茨城県における奈良・平安時代の土器(II)」『研究ノート』2号(株)茨城県教育財団
- 渥美賢吾 2013 「常陸における七世紀の土器」『博古研究』第45号
- 伊東重敏 1976 『大六天(森戸古墳群第12号墳)』常澄村文化財調査報告第1集 茨城県東茨城郡常澄村教育委員会
- 井上義安 1985 『水戸市下畑遺跡 市道酒門8号千拡幅工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市下畑遺跡発掘調査会
- 1994 『水戸市大串遺跡 市道常澄8-1495号線埋蔵文化財発掘調査報告書』茨城県水戸市
- 1998 『伊豆屋敷跡確認調査報告書 墓地造成事業に伴う埋蔵文化財の有無の確認調査』水戸地方埋蔵文化財調査研究会
- 井上義安・千葉隆司 1995 『水戸市北屋敷古墳 市道常澄6-0008号線埋蔵文化財発掘調査報告書』茨城県水戸市
- 江戸遺跡研究会編 『図説 江戸考古学研究事典』柏書房
- 太田有里乃・土生朗治 2015 『小原遺跡(第3地点) 都計道7・6・1号外3路線道路改良及び流域関連下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市埋蔵文化財調査報告第68集 水戸市教育委員会
- 小川和博・大淵淳志・川口武彦・木本挙周・渥美賢吾・関口慶久・株式会社京都科学 2008 『大串遺跡(第7地点) 介護老人保健施設建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市埋蔵文化財調査報告第14集
- 樫村宣行 1995 『梶内遺跡 一般国道6号東水戸道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書II』茨城県教育財団文化財調査報告書第100集 財団法人茨城県教育財団
- 梶山雅彦 1993 『中ノ割遺跡・小山遺跡・諏訪前遺跡・高原古墳群・沢畑遺跡・高原遺跡・北屋敷遺跡 一般国道6号東水戸道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書I』茨城県教育財団文化財調査報告第79集 財団法人茨城県教育財団
- 川口武彦 2005 「水戸市下入野町出土の神子柴型尖頭器」『婆良岐考古』第27号 婆良岐考古同人会
- 2008 「水戸市百合ヶ丘町出土の神子柴型尖頭器」『婆良岐考古』第30号 婆良岐考古同人会
- 川口武彦・色川順子・渥美賢吾・片平雅俊 2008 『元石川大谷原遺跡一宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』水戸市埋蔵文化財調査報告第20集
- 齋藤 洋・米川暢敬 2016 『小原遺跡(第16地点) 都市計画道路7・6・1号線道路改良及び流域関連下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市埋蔵文化財調査報告第86集 水戸市教育委員会
- 齋藤弘道 2006 「茨城の縄文土器」『茨城県立歴史館史料叢書9』茨城県立歴史館
- 齋藤孝正 2000 「猿投窯出土の灰釉・緑釉陶器碗・皿類の変遷」『日本の美術6』No.409 至文堂
- 佐々木義則 1992 「茨城北部における供膳土器の器種構成」『婆良岐考古』第14号
- 佐々木義則 1995 「木葉下窯跡群杯A Iの変化について」『婆良岐考古』第17号
- 佐々木義則 1997 「木葉下窯跡群の須恵器生産」『婆良岐考古』第19号
- 佐々木義則 1998 「常陸におけるロクロ成形土師器杯の展開」『婆良岐考古』第20号
- 佐々木義則 1999 「茨城北半部における土師器碗の形式変遷」『婆良岐考古』第21号
- 佐々木義則 2001 「茨城県における8・9世紀の須恵器甕概論」『婆良岐考古』第23号
- 佐々木義則 2013 「木葉下窯跡群産須恵器有台杯・有台杯蓋・有台盤の編年」『婆良岐考古』第35号
- 高野浩之・米川暢敬 2016 『東前原遺跡(第8地点第3次) 区画道路10-2号線道路改良(その1)及び流域関連下水道工事に伴う発掘調査報告書』水戸市埋蔵文化財調査報告第82集 水戸市教育委員会
- 蓼沼香未由他 2004 『台渡里廃寺跡一集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』水戸市教育委員会
- 谷 旬 1982 「古代東国のカマド」『研究紀要7』千葉県文化財センター
- 常澄村史編さん委員会編 1989 『常澄村史』常澄村
- 外山泰久 1982 『茨城県水戸市 雁沢遺跡 KARISWA SITE』雁沢遺跡発掘調査会
- 中山信名 1979 『新編常陸国誌』宮崎報恩会
- 白田正子・川井正一 2016 「茨城県域における施釉陶器の受容」『茨城県考古学協会シンポジウム 考古学からみる茨城県の交易・交流』茨城県考古学協会・「考古学からみる茨城県の交易・交流」実行委員会
- 水戸市教育委員会 2012 『古代常陸の原像 那賀郡の成立と台渡里官衙遺跡群』台渡里官衙遺跡群国指定史跡追加指定記念シンポジウム記録集
- 1999 『水戸市埋蔵文化財分布調査報告書』
- 2007 『大串遺跡第7地点一発掘調査現地説明会資料一』
- 2010 『水戸の指定文化財』
- 宮田忠洋・渥美賢吾 2009 『雁沢遺跡(第1地点) 工場建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』水戸市埋蔵文化財調査報告第28集
- 山中敏史 2004 「X 末端官衙と豪族居館」『古代の官衙遺跡 II 遺物・遺跡編』奈良文化財研究所

写真図版



A区全景・上が北方向



B区全景・上が北西方向

図版 2



A区全景（北東から）



A区全景（北東から）



B区中央～南側全景（北から）



A～Dグリッド全景（西から）



G～Iグリッド付近全景（北西から）



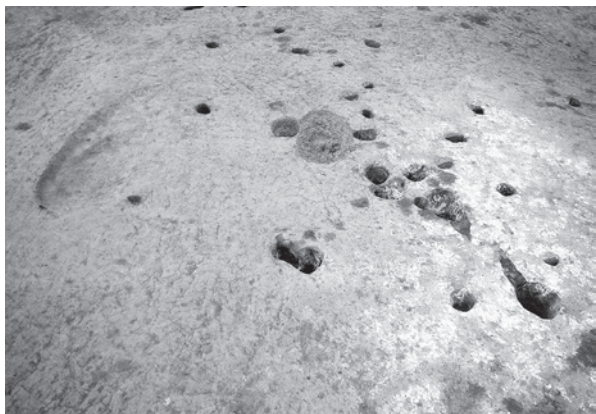
I～Kグリッド付近全景（西から）



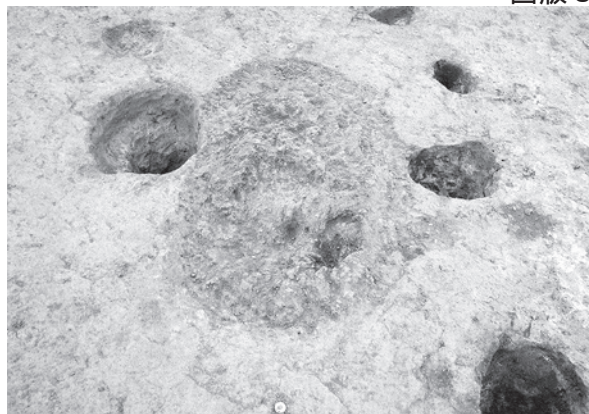
L・Mグリッド付近全景（北西から）



B区南側全景（北西から）



SI89 全景（南から）



SI89 炉（1号炉）全景（南から）



2号炉全景（東から）



SK03 遺物出土状況（北から）



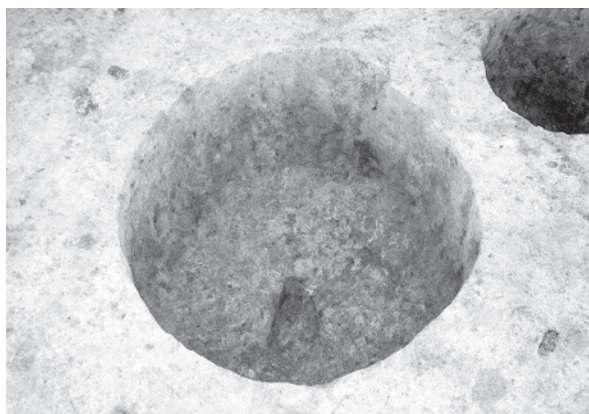
SK07 全景（西から）



SK10 全景（西から）

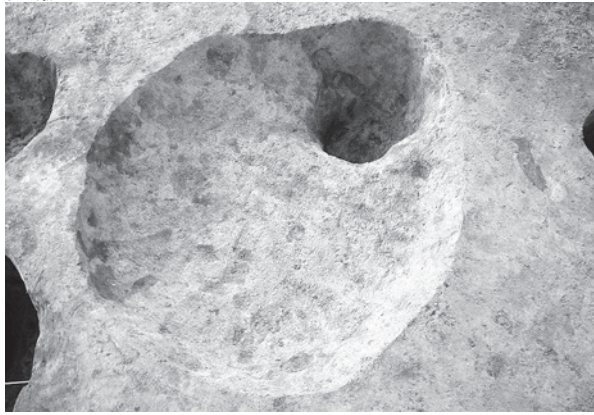


SK18 遺物出土状況（北から）

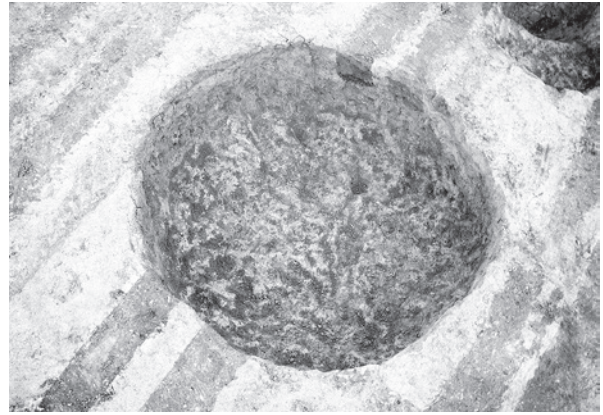


SK24 全景（南から）

図版 4



SK25・Pit114 全景（東から）



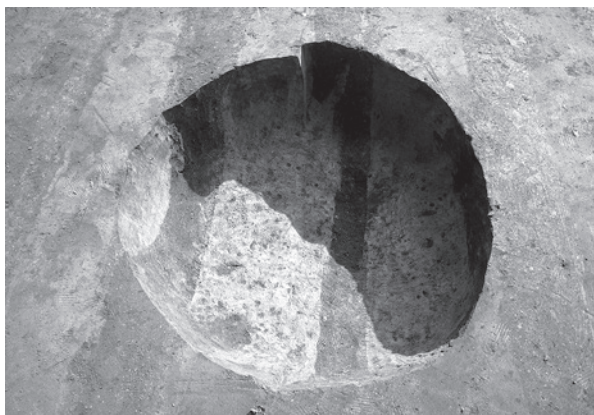
SK44 全景（西から）



SK49 全景（南から）



SK50 全景（南から）



SK52 全景（北西から）



SK54 全景（南西から）



SK59 全景（西から）



SK64 全景（南から）



SI01 全景（南から）



SI01 完掘（南から）



SI02 全景（南から）



SI02 カト遺物出土状況（南から）



SI03 全景（西から）



SI03 遺物・焼土・炭化材検出状況（東から）



SI05 全景（南から）



SI06 全景（南から）

図版6



SI07 全景（南から）



SI08 全景（南から）



SI09 全景（南から）



SI10 全景（南から）



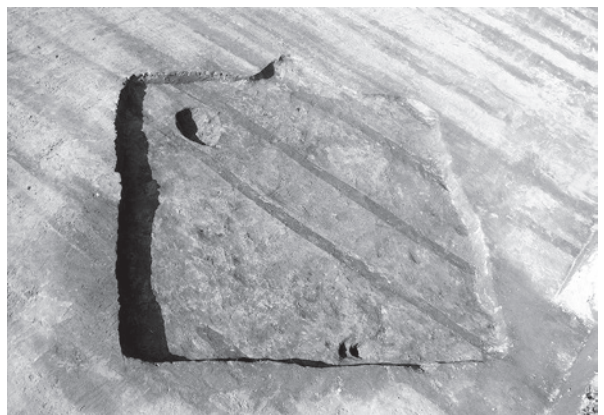
SI10 遺物出土状況（南から）



SI11 全景（南西から）



SI12 全景（南から）



SI13 全景（南から）



SI14 全景 (南から)



SI14 遺物出土状況 (南東から)



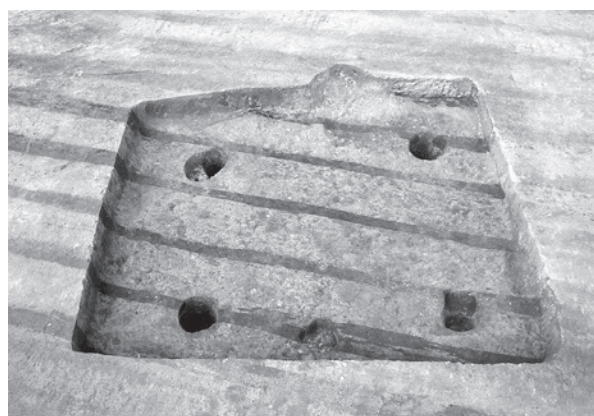
SI15 全景 (南から)



SI15 遺物出土状況 (南から)



SI15 遺物出土状況 (円面硯) (西から)



SI16 全景 (南から)

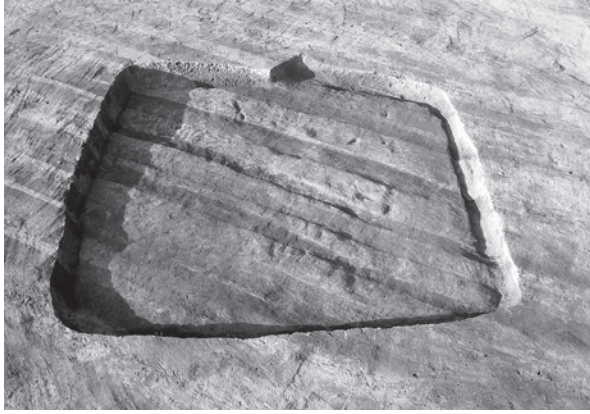


SI17 全景 (南から)



SI18 全景 (南から)

図版 8



SI19 全景 (南から)



SI20 全景 (南から)



SI20 P2 遺物出土状況 (北から)



SI21 全景 (南から)



SI22 全景 (南から)



SI22 遺物出土状況 (南から)



SI22 カマド 土層断面 (南から)



SI22 カマド 全景 (南から)



SI23 全景 (南から)



SI23 カド付近遺物出土状況 (南から)



SI23 遺物出土状況 (西から)



SI23 遺物出土状況 (南東から)



SI24 全景 (南から)



SI24 掘り方全景 (南から)



SI25 全景 (南から)



SI26 全景 (南から)

図版 10



SI27 全景（南から）



SI28 全景（南から）



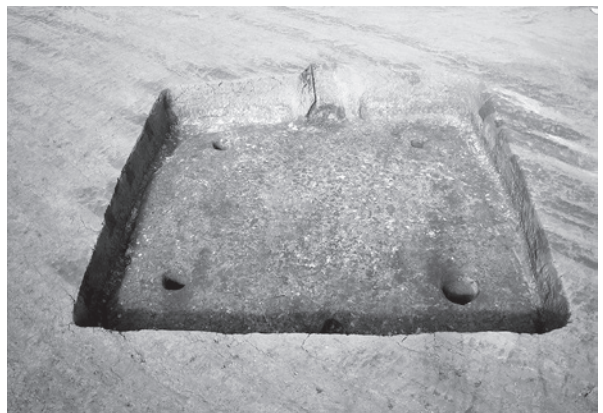
SI29 全景（南から）



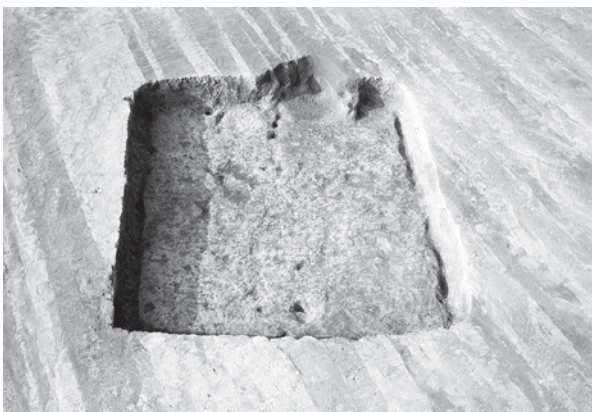
SI29 カド 全景（南から）



SI29 カド 遺物出土状況（南から）



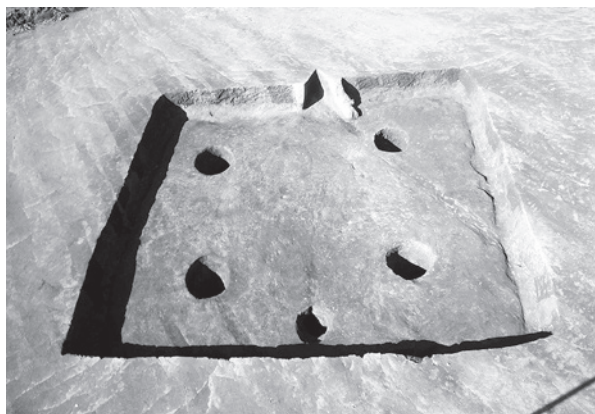
SI30 全景（南から）



SI31 全景（南から）



SI32 全景（南から）



SI33 全景 (南から)



SI33 P1 遺物出土状況 (東から)



SI34 全景 (南から)



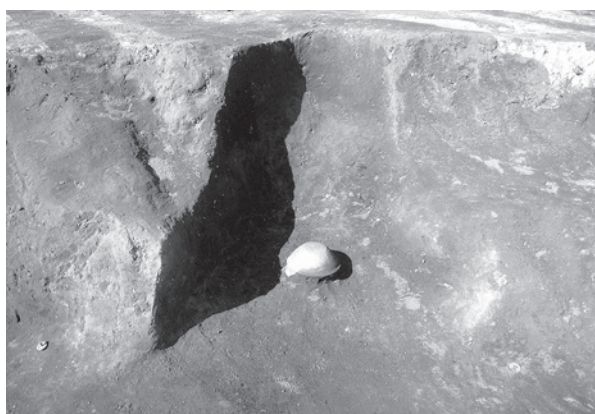
SI35 全景 (南から)



SI35 カマド全景及び出土遺物 (南から)



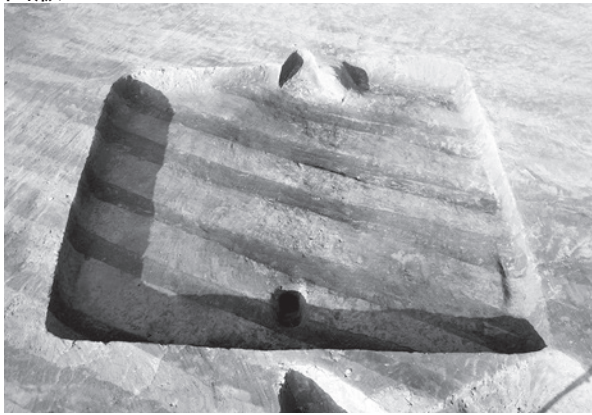
SI36 全景 (南から)



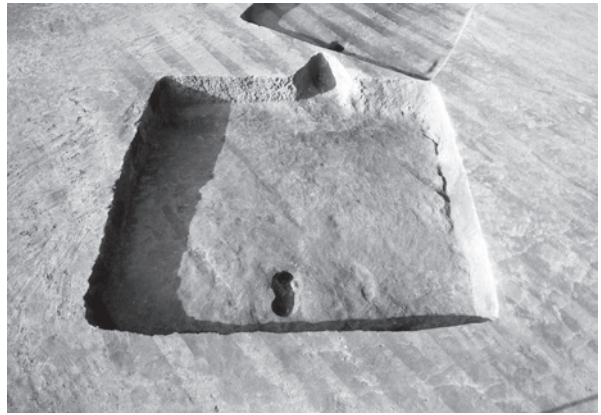
SI36 カマド 遺物出土状況 (南から)



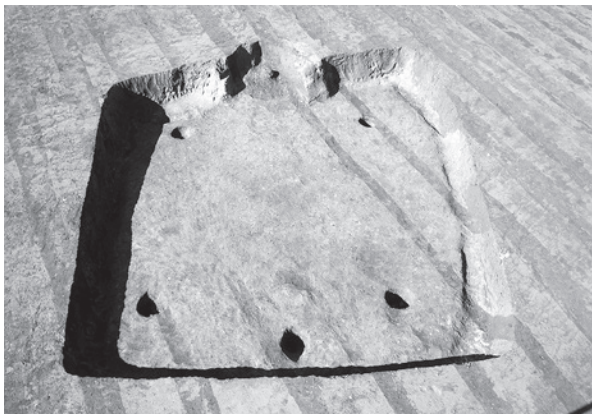
SI37 全景 (南から)



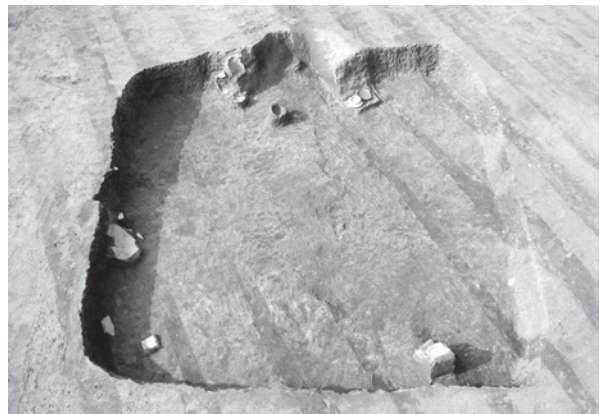
SI38 全景（南から）



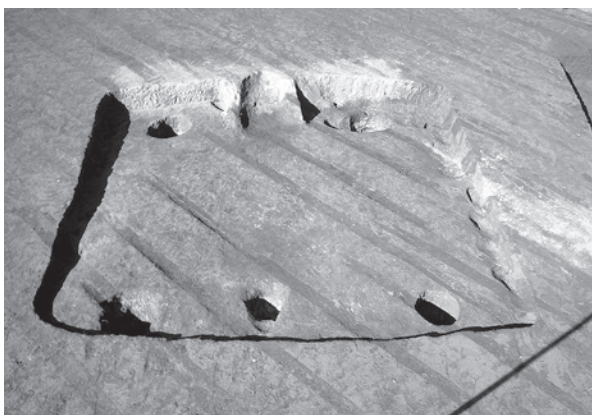
SI39 全景（南から）



SI40 全景（南から）



SI40 遺物出土状況（南から）



SI41 全景（南から）



SI41 遺物出土状況（南東から）



SI42 全景（南から）



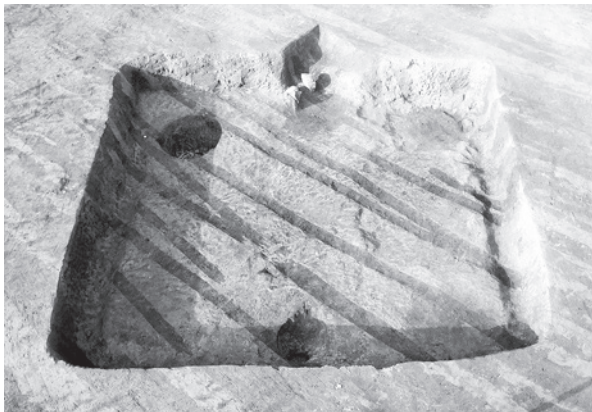
SI43 全景（南から）



SI144 全景 (南から)



SI142 ~ 44 遺物出土状況 (西から)



SI145 遺物出土状況・全景 (南から)



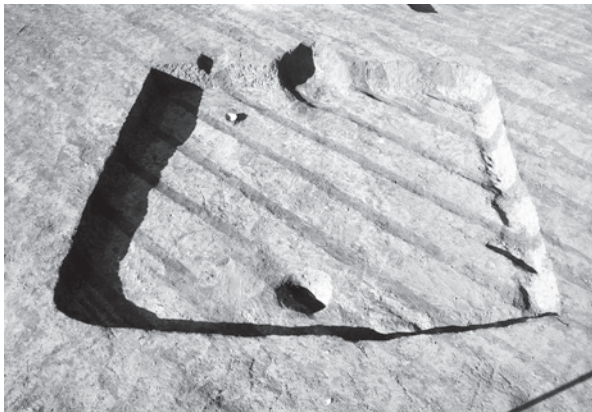
SI145 カド 遺物出土状況 (南から)



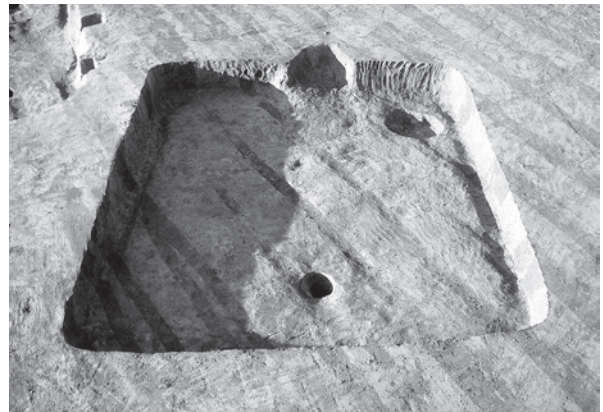
SI146 全景 (南から)



SI147 全景 (南から)

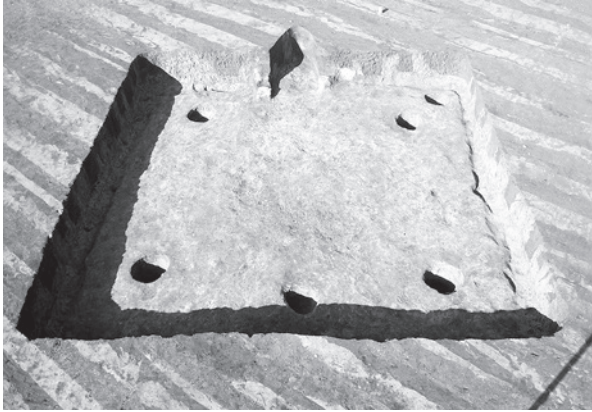


SI148 遺物出土状況全景 (南から)



SI149 全景 (南から)

図版 14



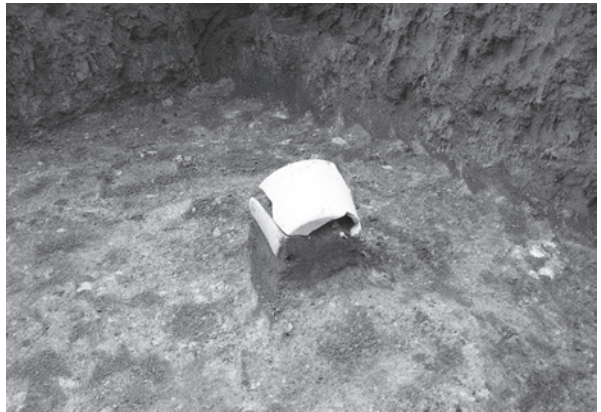
SI50 全景 (南から)



SI50 遺物出土状況 (南から)



SI50 遺物出土状況 (南東から)



SI50 遺物出土状況 (南東から)



SI51 全景 (南から)



SI51 カマド 全景 (南から)



SI51 カマド 遺物出土状況 (南から)



SI52 全景 (南から)



S153 全景（南から）



S153 遺物出土状況（東から）



S153 カマド 遺物出土状況（南から）



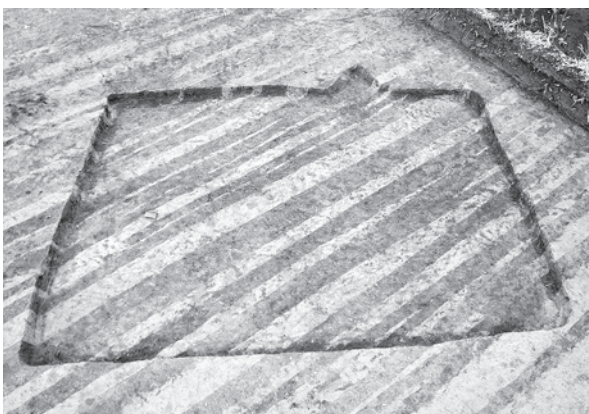
S153 遺物出土状況（西から）



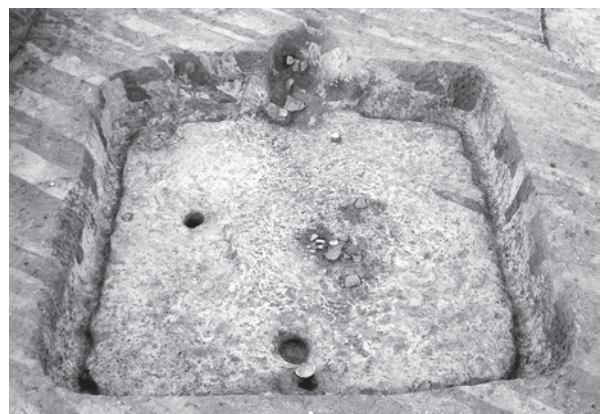
S154 全景（南から）



S155 全景（南から）



S156 遺物出土状況・全景（西から）



S157 遺物出土状況・全景（南から）



SI57 カマド 遺物出土状況（南から）



SI57 遺物出土状況（西から）



SI58 遺物出土状況・全景（南から）



SI58 カマド 遺物出土状況・全景（南から）



SI59 遺物出土状況・全景（南から）



SI59 カマド 遺物出土状況（南から）



SI60 遺物出土状況・全景（南から）



SI61 遺物出土状況・全景（南から）



SI62・87 遺物出土状況・全景（南から）



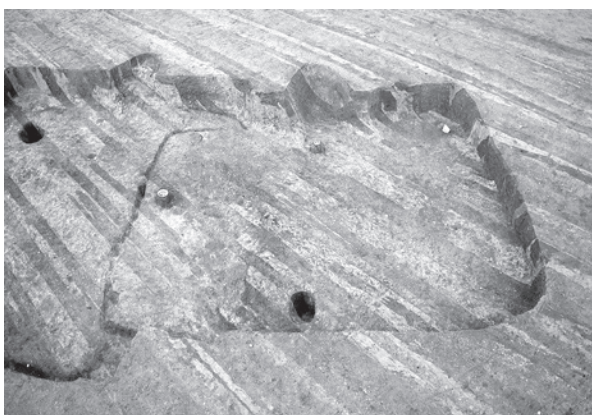
SI63 遺物出土状況・全景（南から）



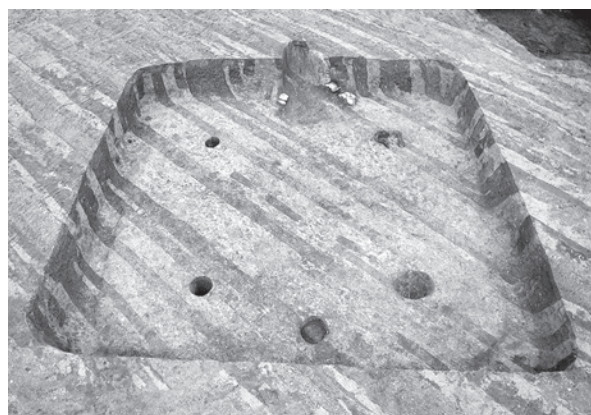
SI64 遺物出土状況・全景（南西から）



SI65 全景（南から）



SI66 遺物出土状況・全景（南から）



SI67 遺物出土状況（南から）



SI67 マト 遺物出土状況・全景（南から）



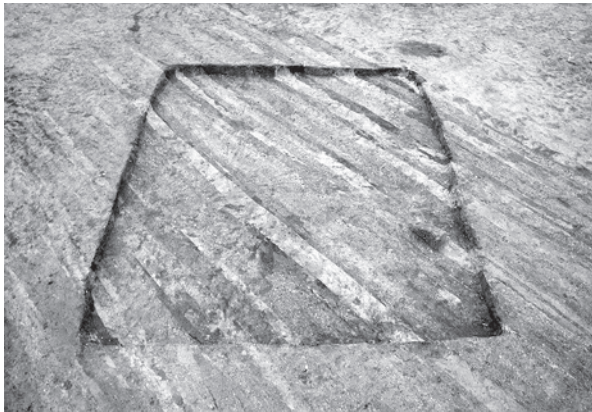
SI68 遺物出土状況・全景（南から）



SI69 遺物出土状況・全景（南から）



SI70 全景（南から）



SI71 全景（南から）



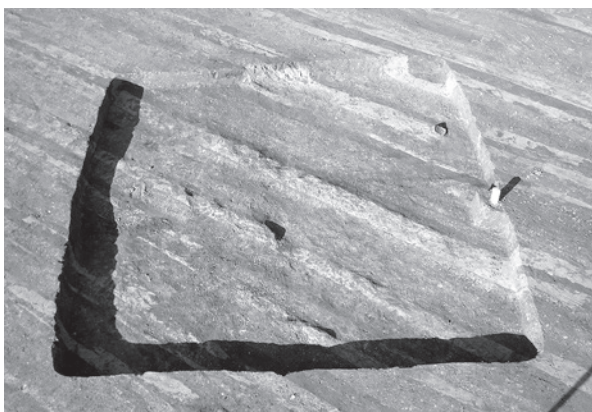
SI72 遺物出土状況・全景（南から）



SI73 全景（南から）



SI74 遺物出土状況・全景（南から）



SI75 遺物出土状況・全景（南から）



SI76 全景（南から）



SI77 全景（南から）



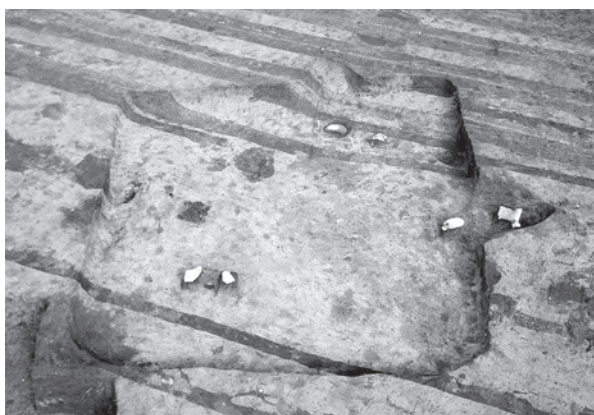
SI78 遺物出土状況・全景（南から）



SI79 全景（南から）



SI80 遺物出土状況・全景（南から）



SI81 遺物出土状況（南から）



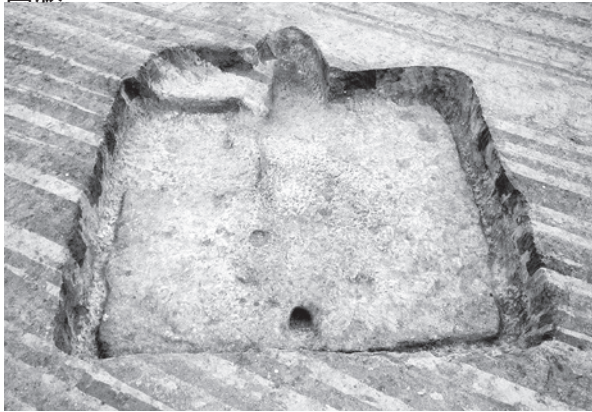
SI82 全景（南から）



SI82 遺物出土状況（北から）



SI83 遺物出土状況・全景（南から）



SI84 全景 (南から)



SI84 遺物出土状況 (南から)



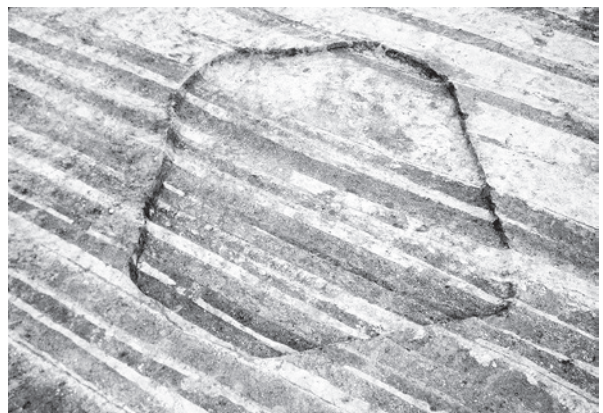
SI84 カト 遺物出土状況 (南から)



SI84 遺物出土状況 (灰釉陶器皿) (南から)



SI84 遺物出土状況 (南から)2



SI85 全景 (南から)



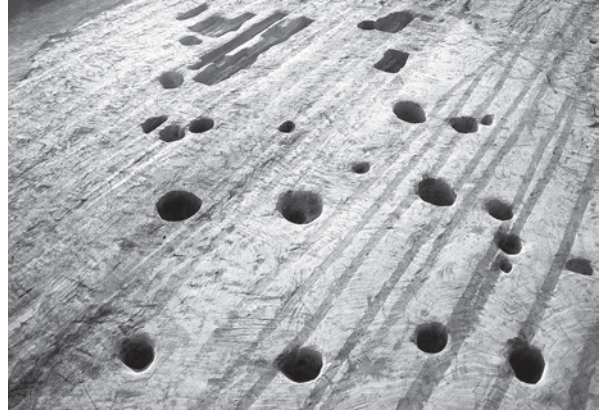
SI86 遺物出土状況・全景 (南から)



SI88 全景 (南から)



SB01 全景・西から



SB02 全景・東から



SB03 全景・西から



SB04・05 全景・西から



SB03 ~ 08・13 全景・西から涸沼川を望む



SB06 全景・東から



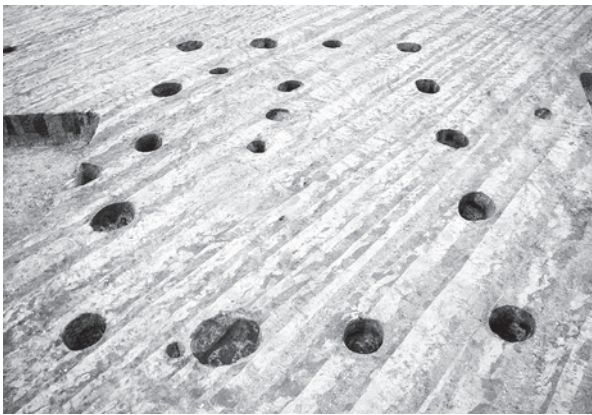
SB07 全景・西から



SB08 全景・南から



SB07・08 全景・東から



SB09 全景・東から



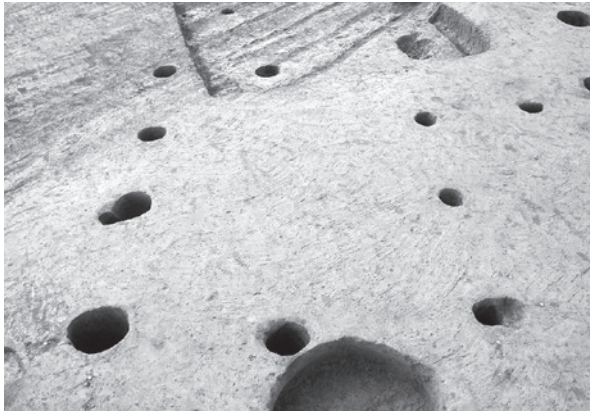
SB10 全景・東から



SB11 全景・南から



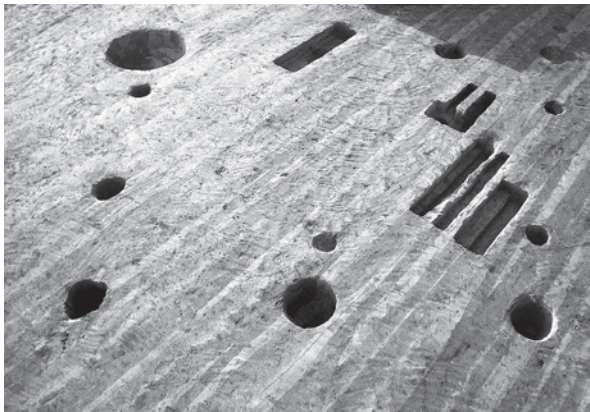
SB12 全景・西から



SB13 全景 (東から)



SB14 全景 (西から)



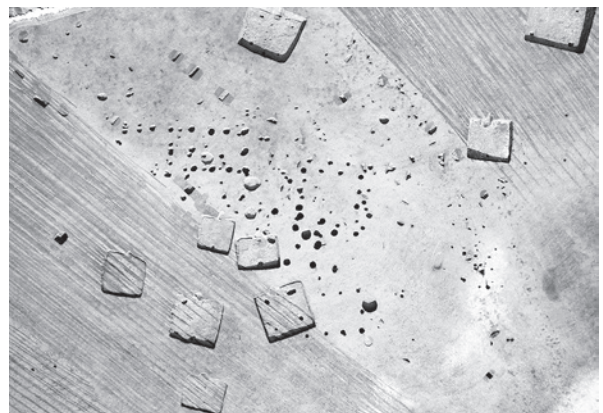
SB15 全景 (西から)



SI53 周辺 Pit 群・奥は SB09 (西から)



H27・28・, 127グリッド Pit 群 (上が北東)



015・16グリッド Pit 群 (上が北)



SE01 土層断面 (南西から)



SE01 足掛け検出 (南西から)



SK34 全景 (西から)



SK35 全景 (西から)



SK36 全景 (西から)



SD01 全景 (西から)



SK41 人骨検出状況 (南東から)



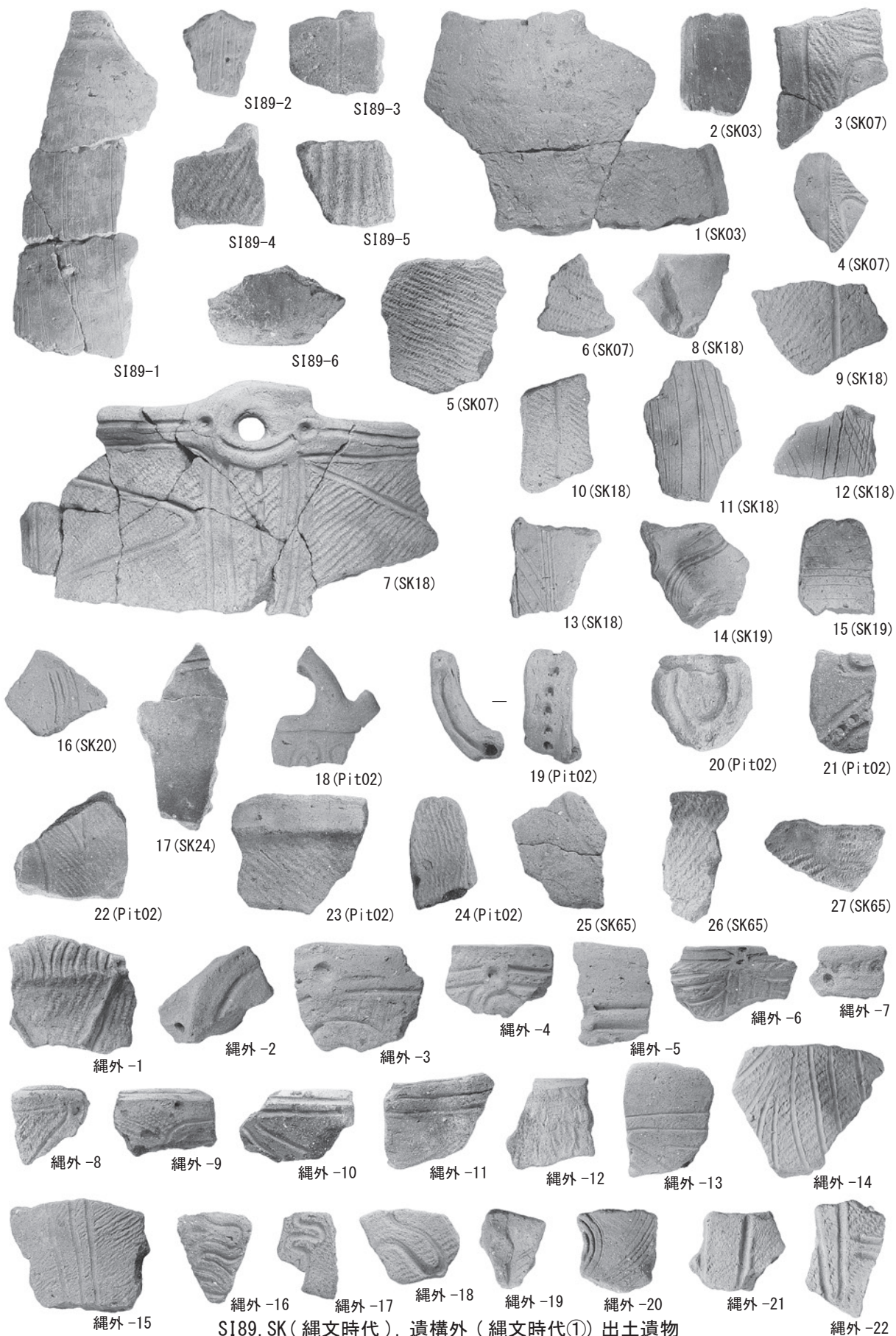
SK43 人骨検出状況 (南東から)



SK61 土層断面 (南東から)

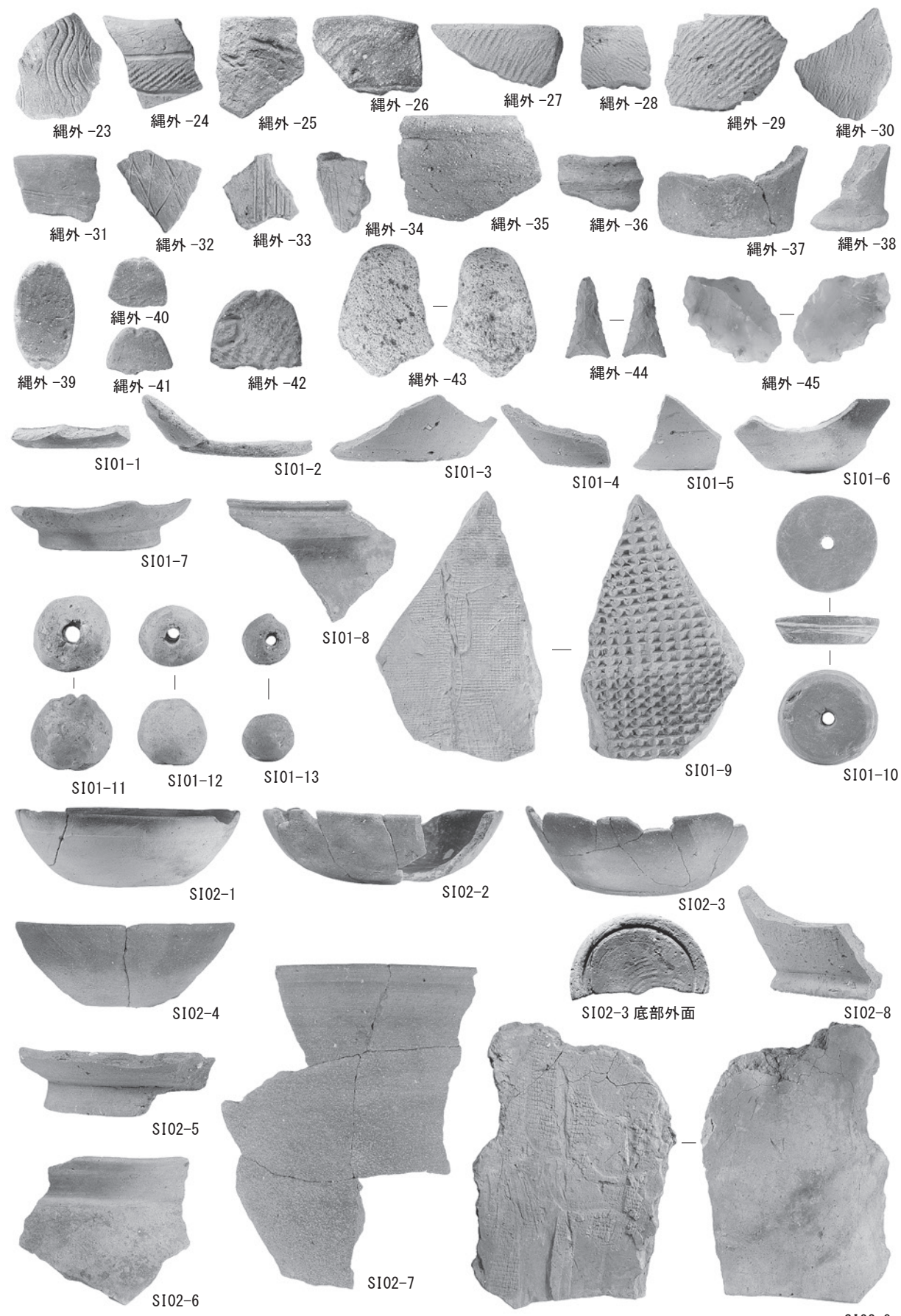


SK42 全景・人骨検出状況 (南東から)

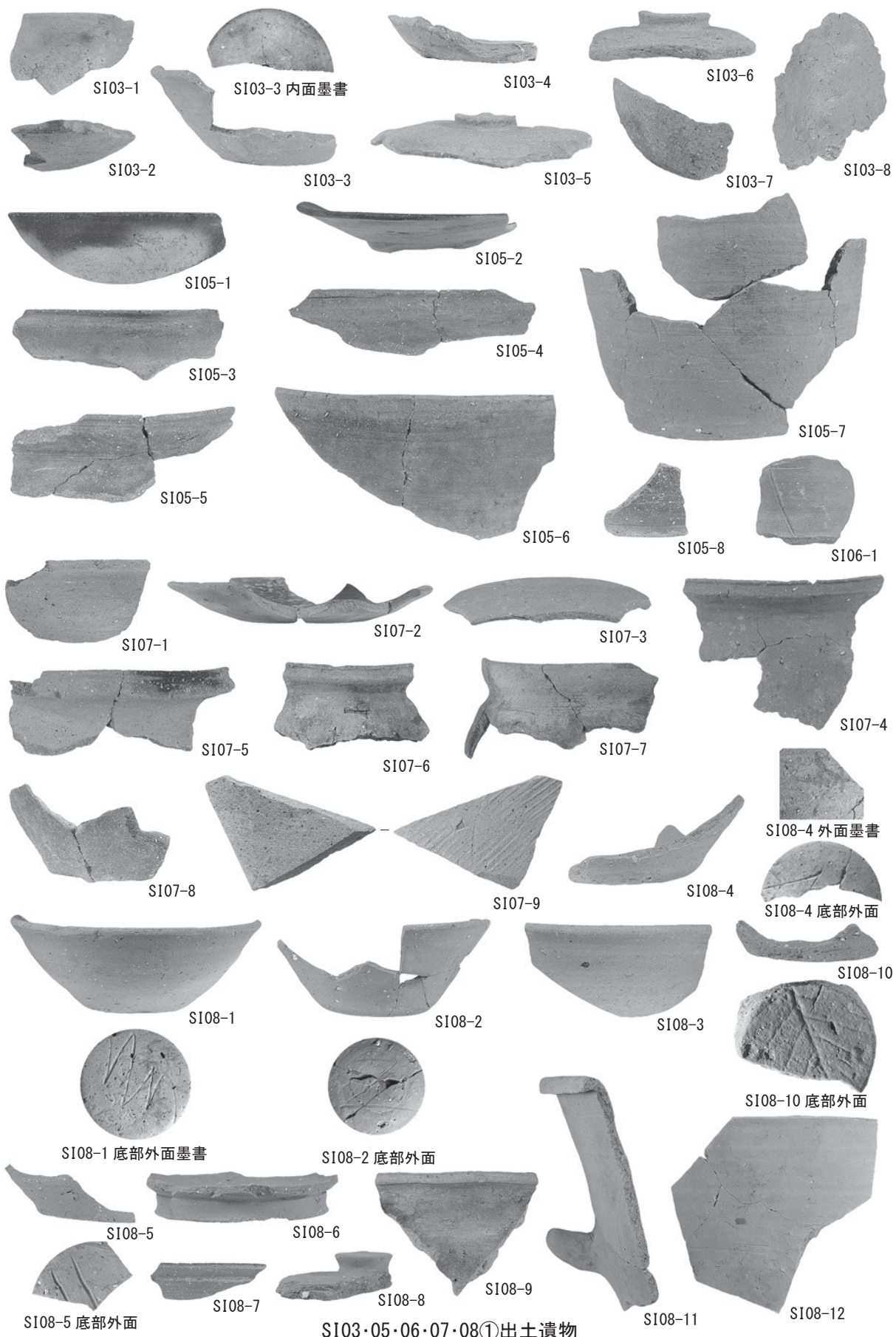


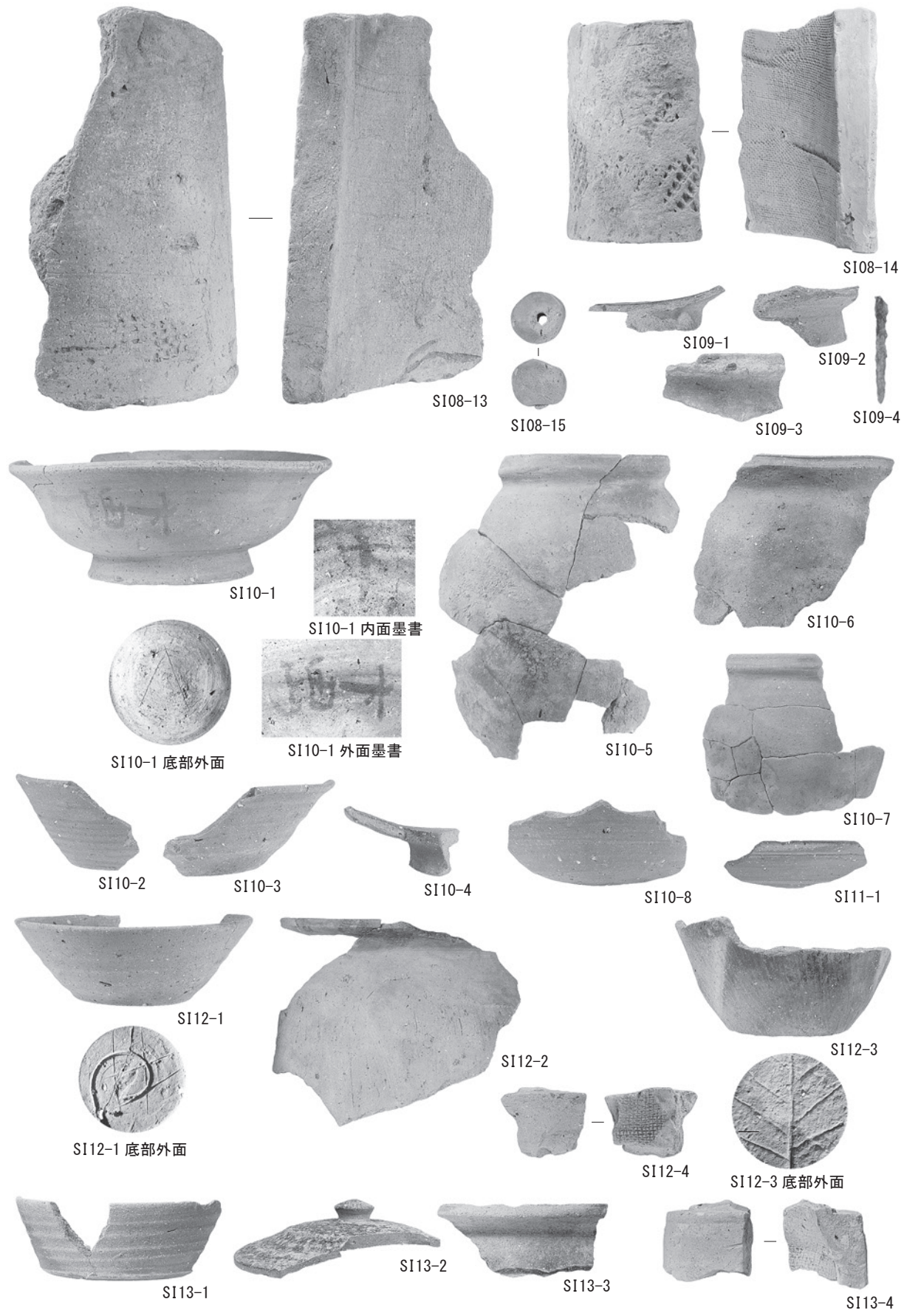
SI89, SK (繩文時代), 遺構外 (繩文時代①) 出土遺物

図版 26

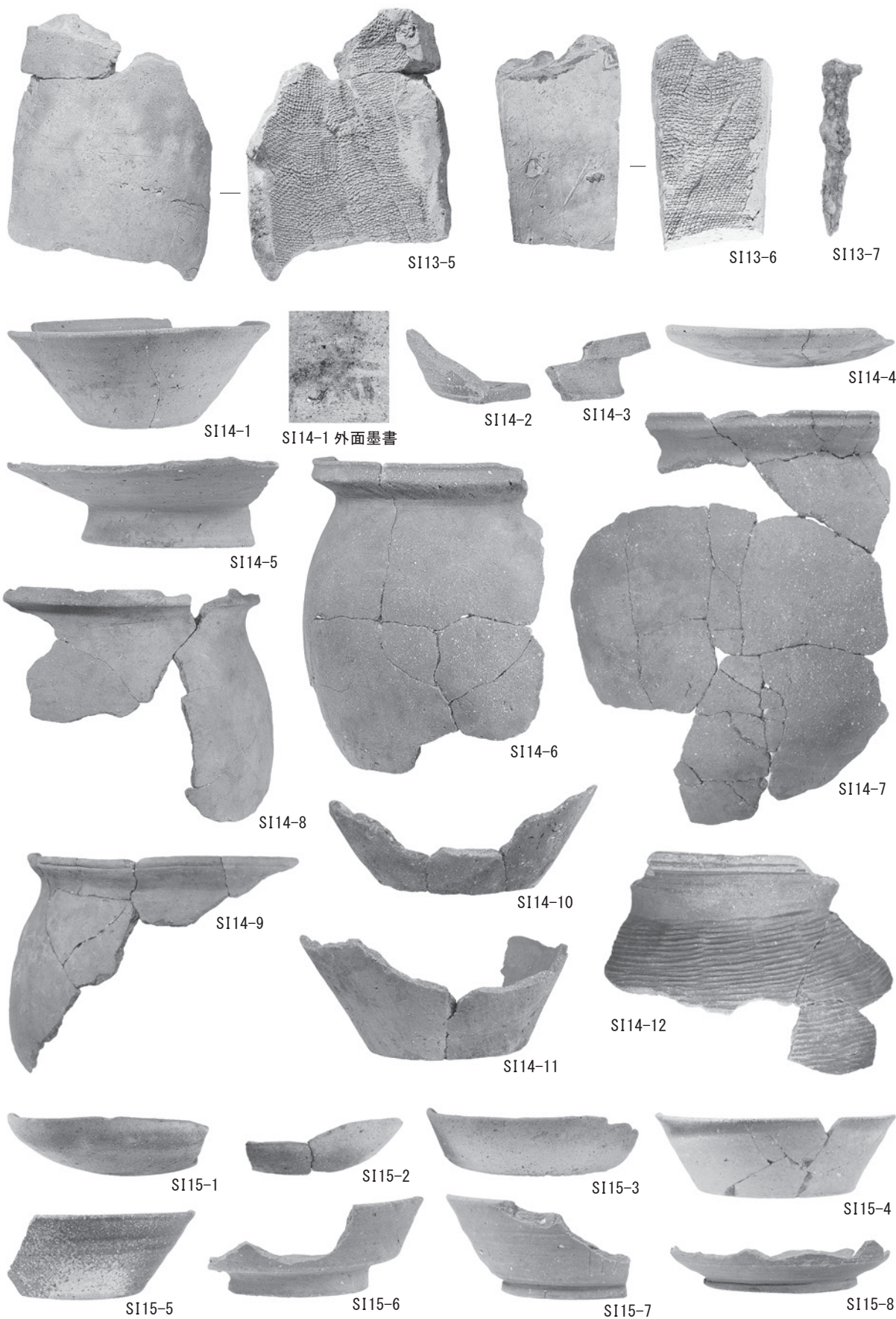


遺構外（縄文時代②），SI01・02 出土遺物



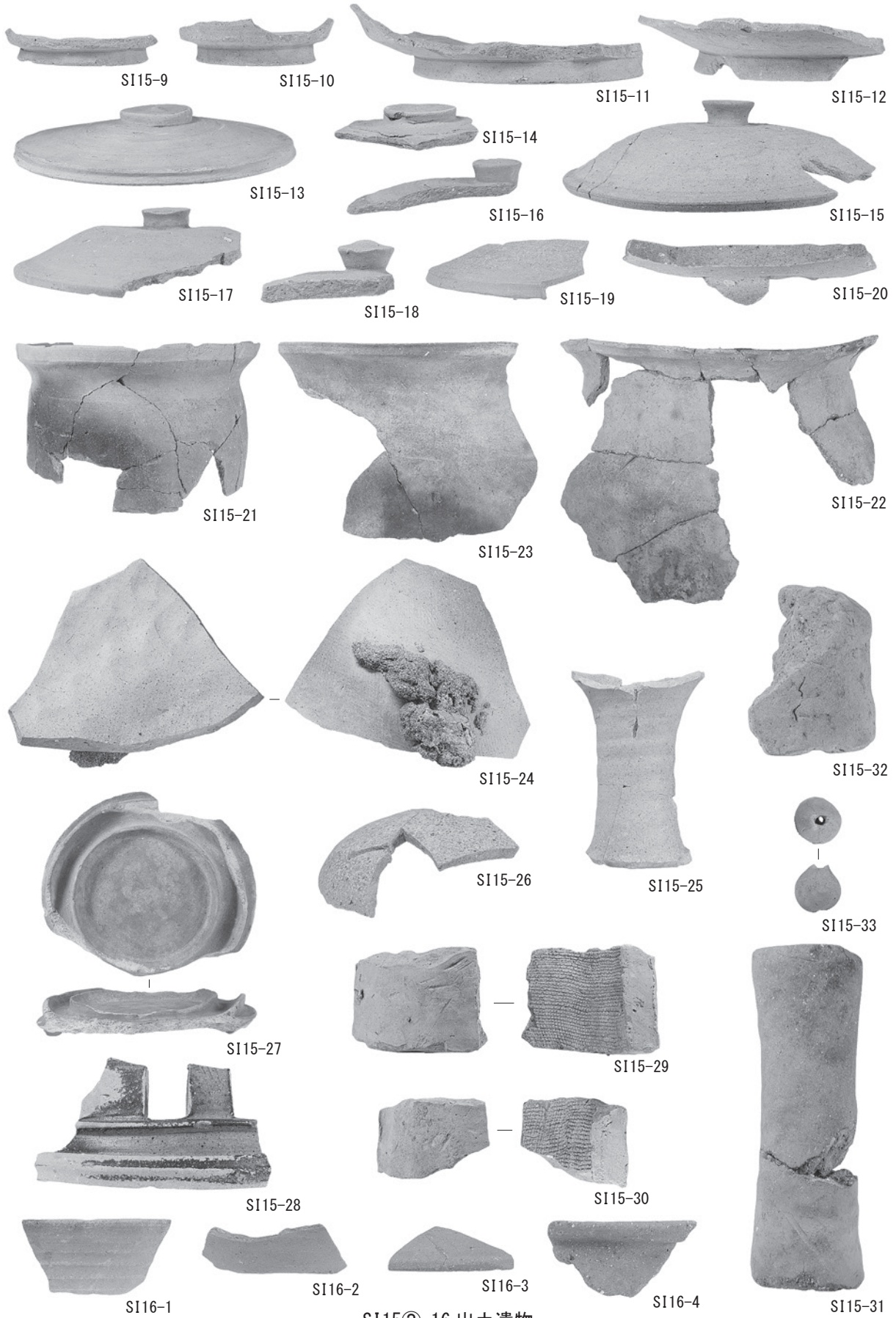


SI08②·09·10·11·12·13①出土遺物

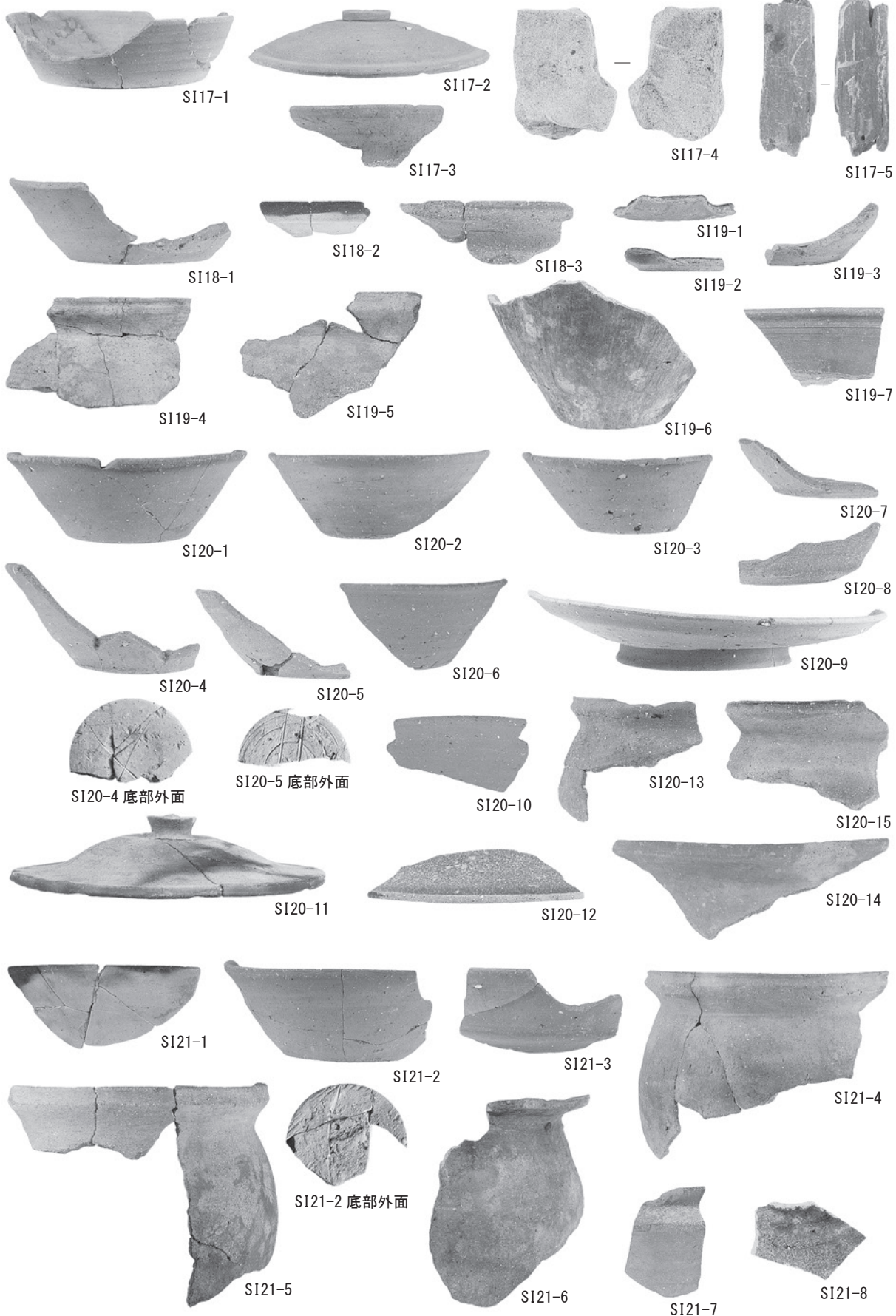


SI13②·14·15①出土遺物

图版 30



SI15②·16 出土遺物



S117·18·19·20·21 出土遺物

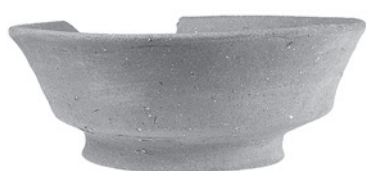
图版 32



S122-1



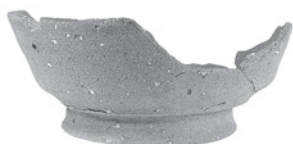
S122-2



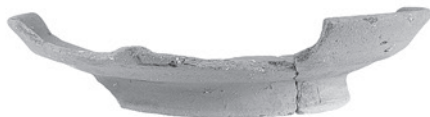
S122-3



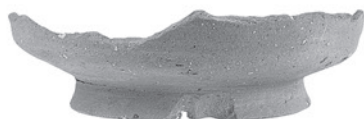
S122-1 底部外面



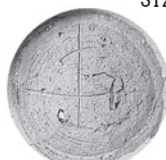
S122-4



S122-6



S122-5



S122-4 底部外面



S122-7



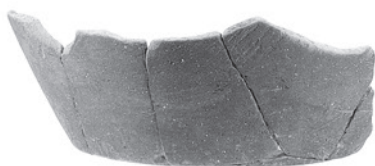
S122-8



S122-9



S122-10



S122-11



S123-2



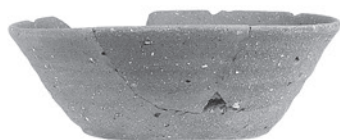
S123-3



S123-2 底部外面



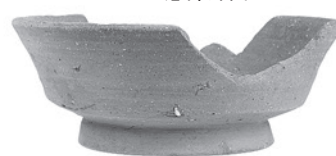
S123-3 底部外面



S123-1



S123-5



S123-4



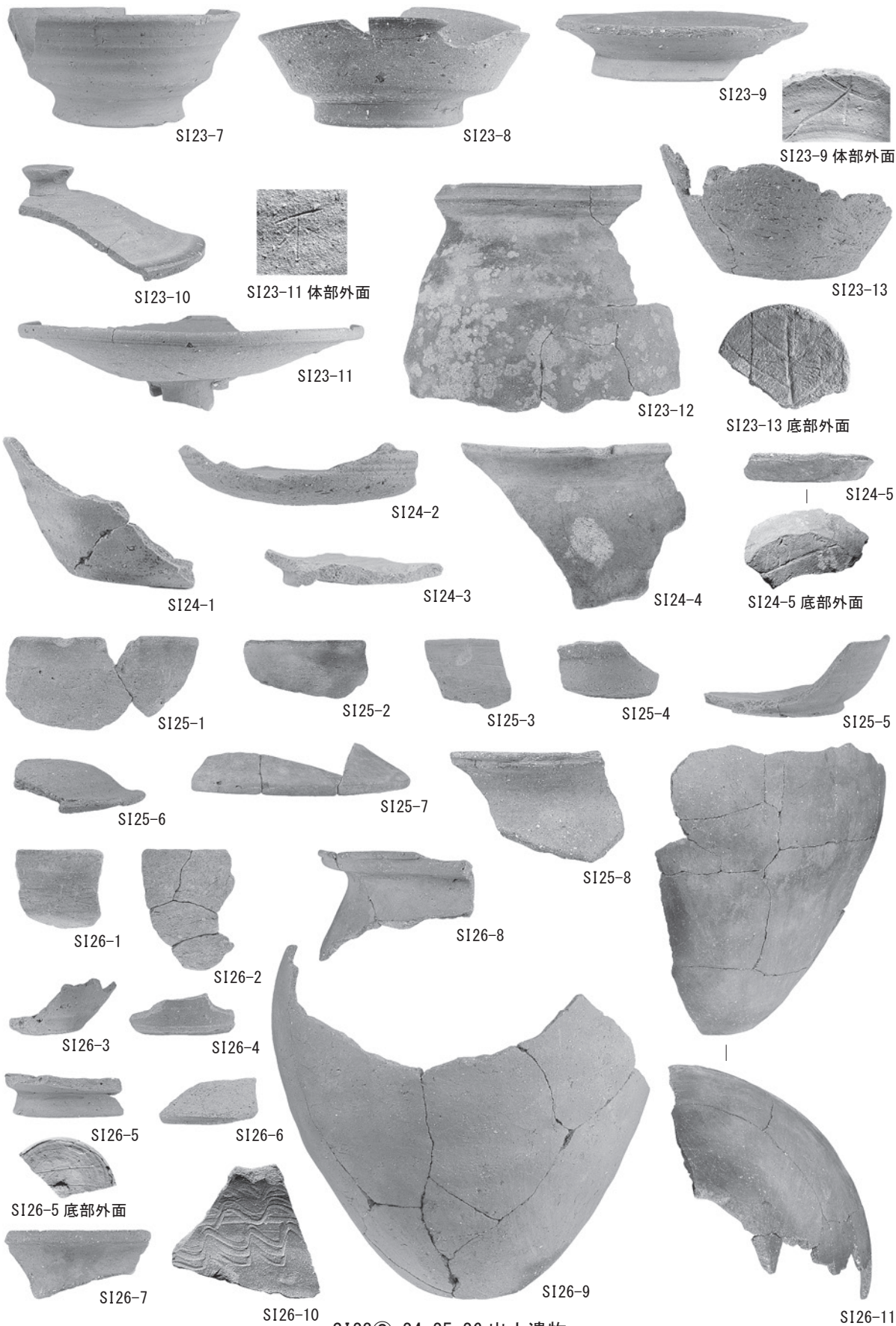
S123-1 底部外面墨書



S123-5 底部外面
S122·23①出土遺物

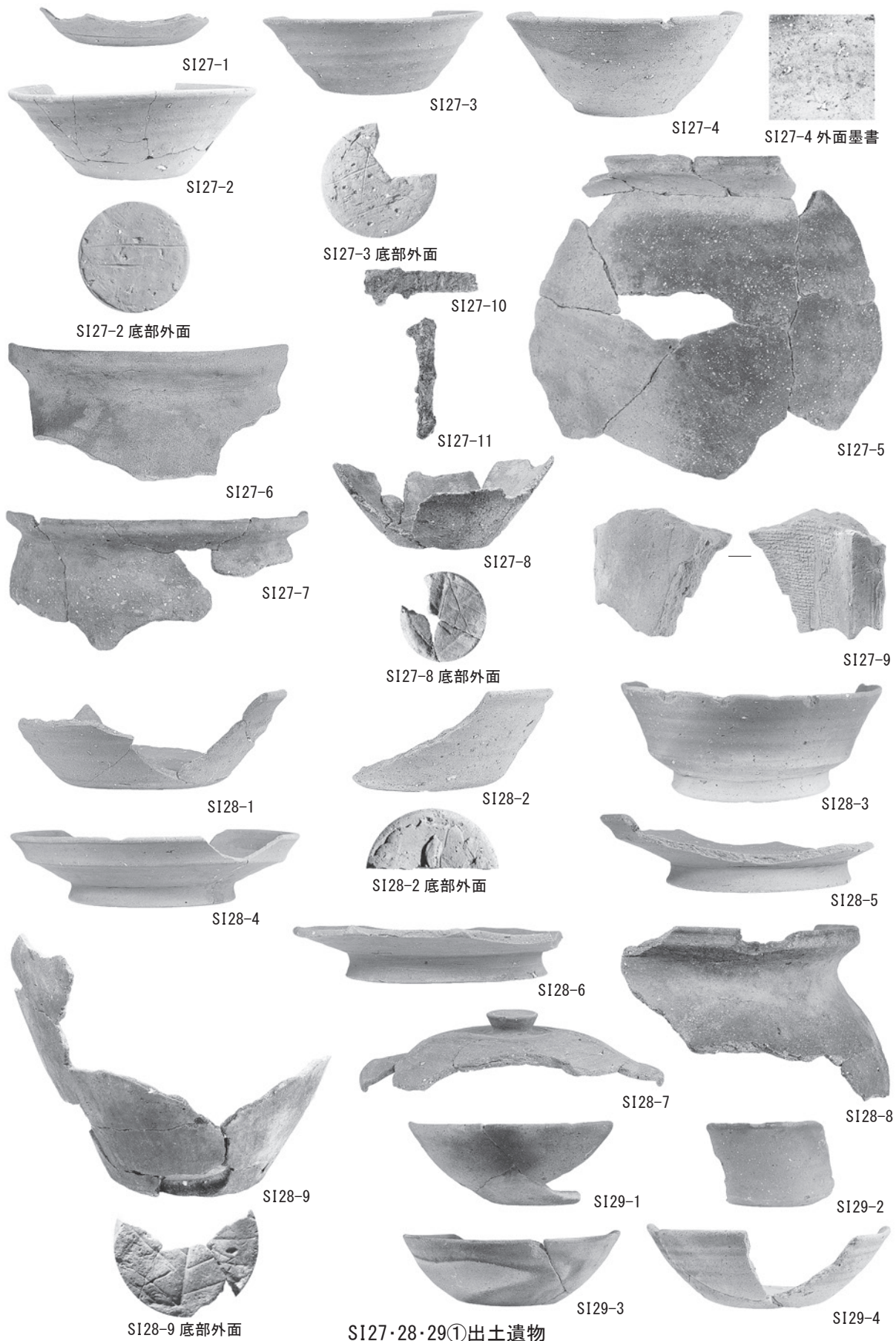


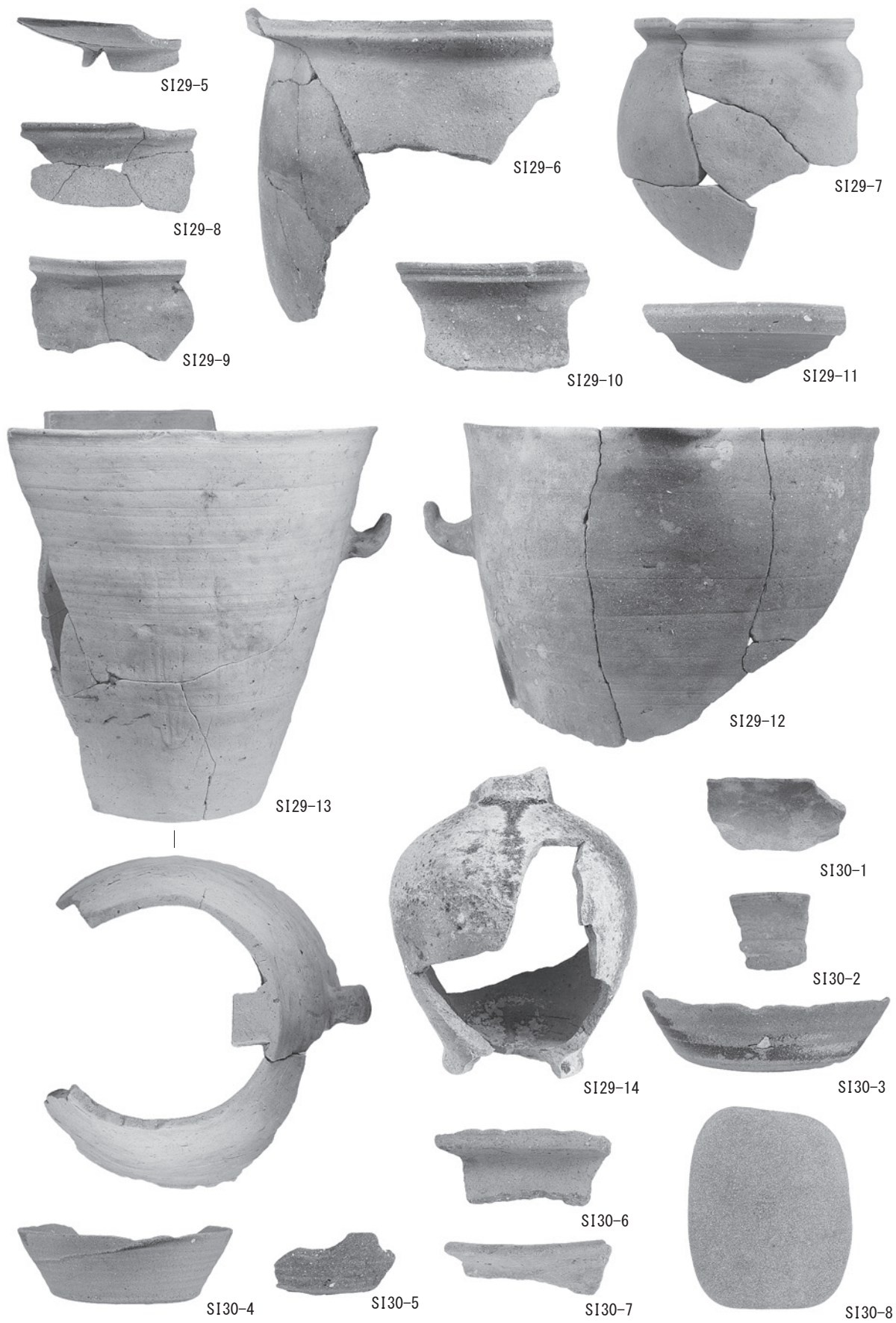
S123-6



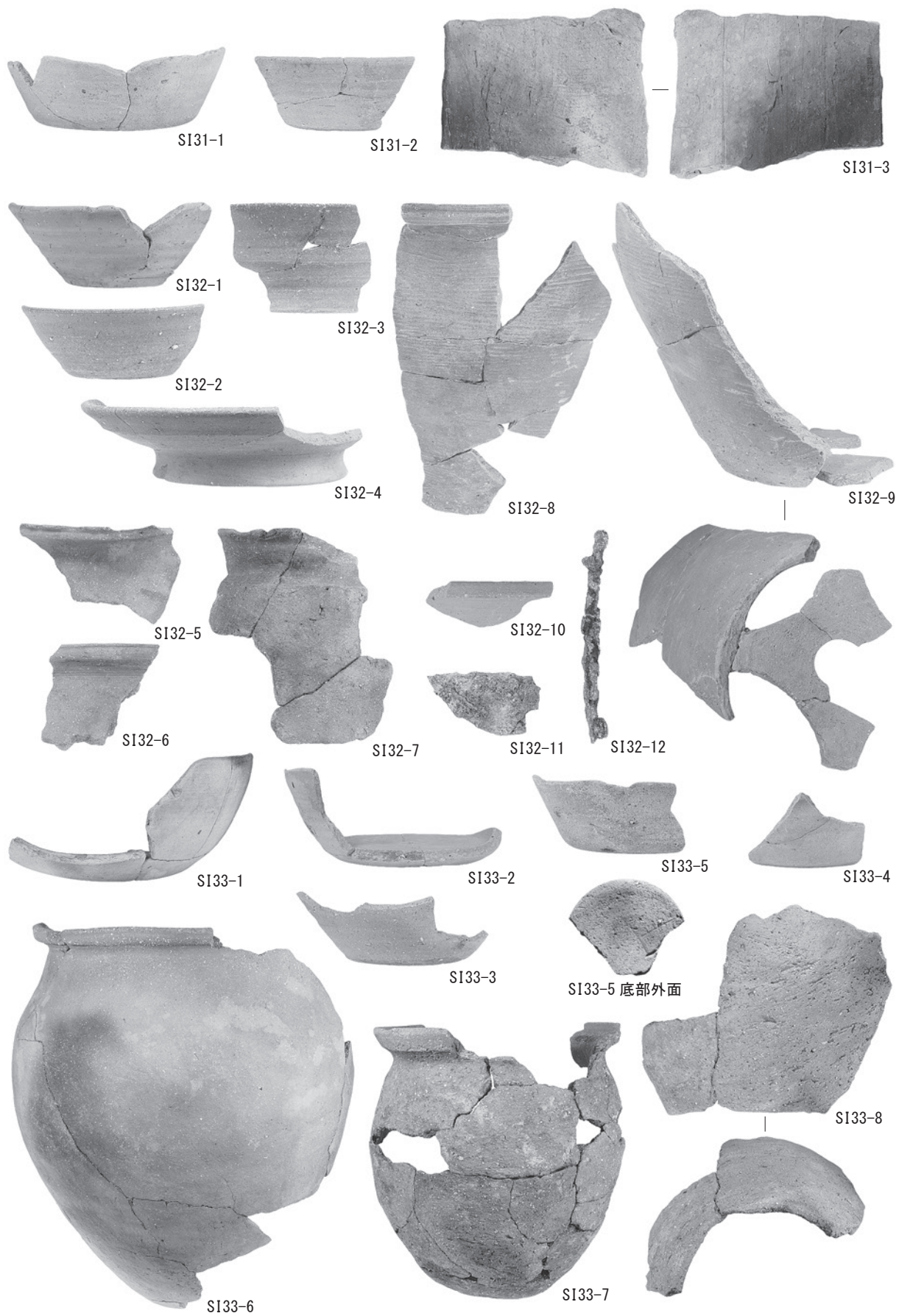
S123②·24·25·26 出土遺物

图版 34





S129②·30 出土遺物



S131·32·33 出土遺物



S134-1



S134-2



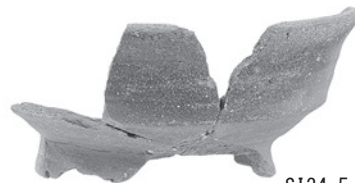
S134-3



S134-1 底部外面



S134-4



S134-5



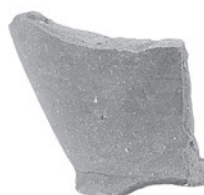
S134-6



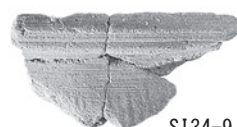
S134-7



S134-8



S134-10



S134-9



S134-11



S135-1



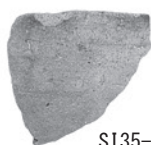
S135-2



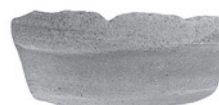
S135-6



S135-3



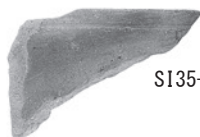
S135-4



S135-5



S135-7



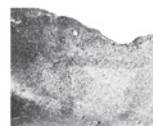
S135-8



S136-1



S136-2



S136-2 外面墨書



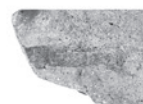
S136-3



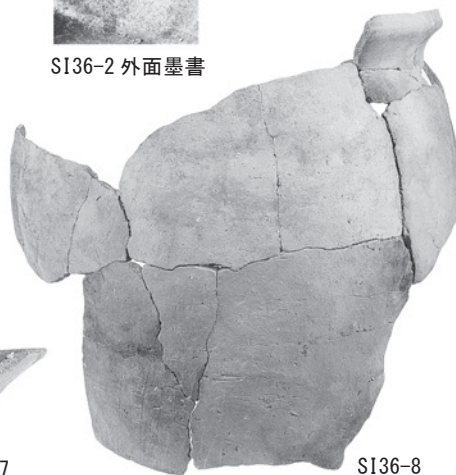
S136-4



S136-6



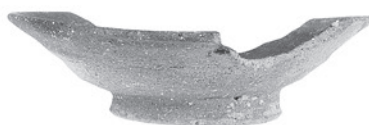
S136-3 外面墨書



S136-8



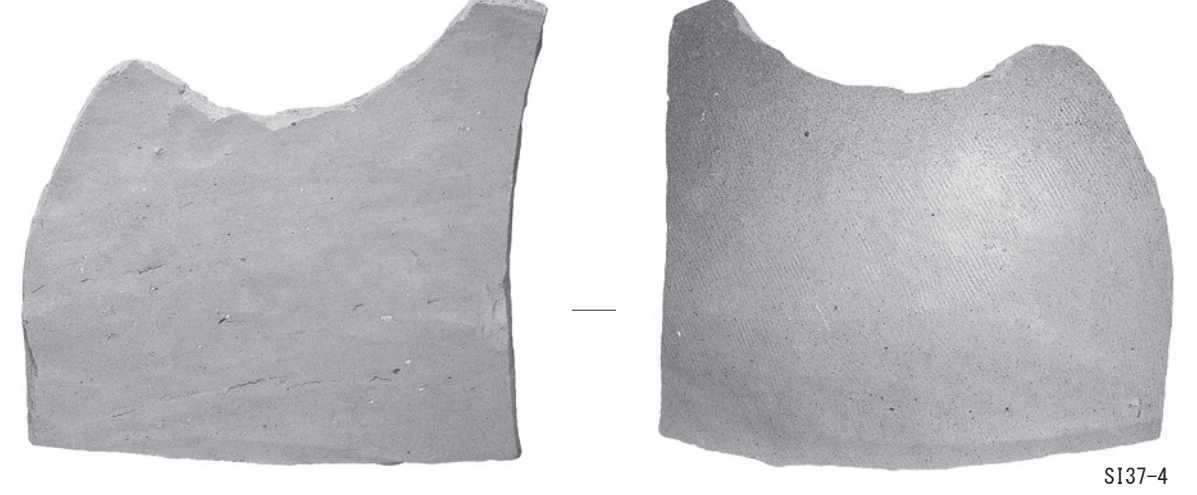
S136-5



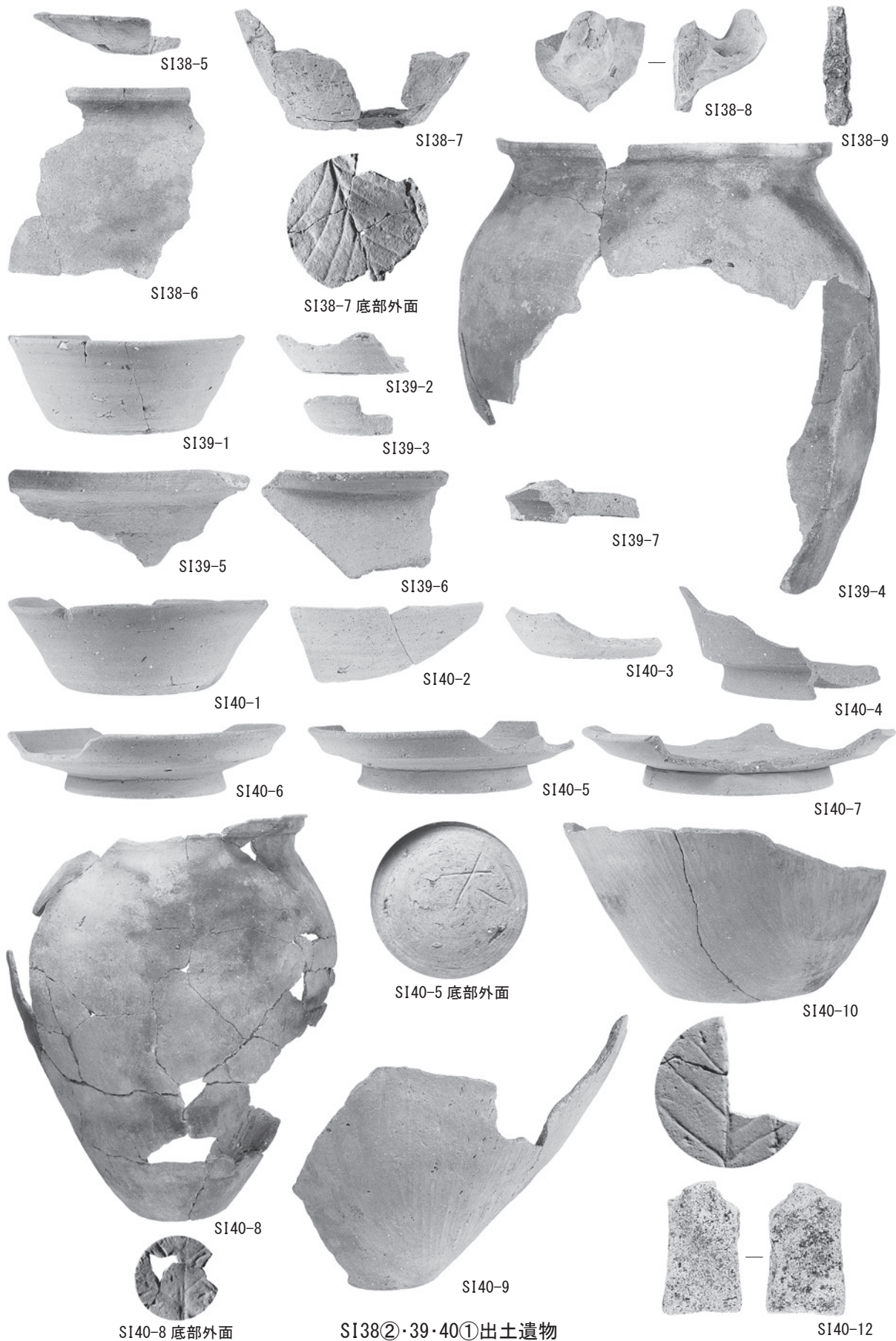
S136-7

S134·35·36①出土遺物

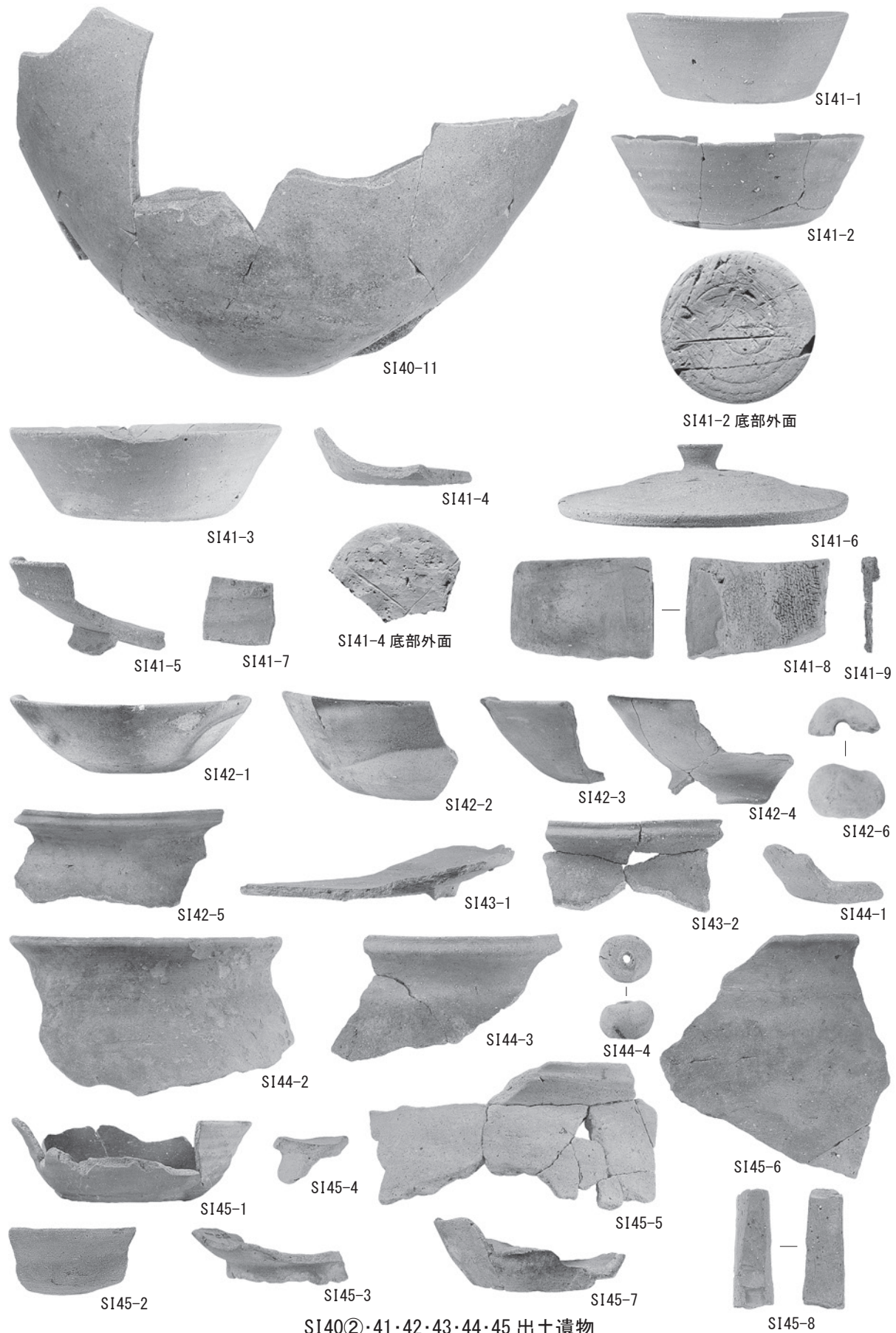
图版 38



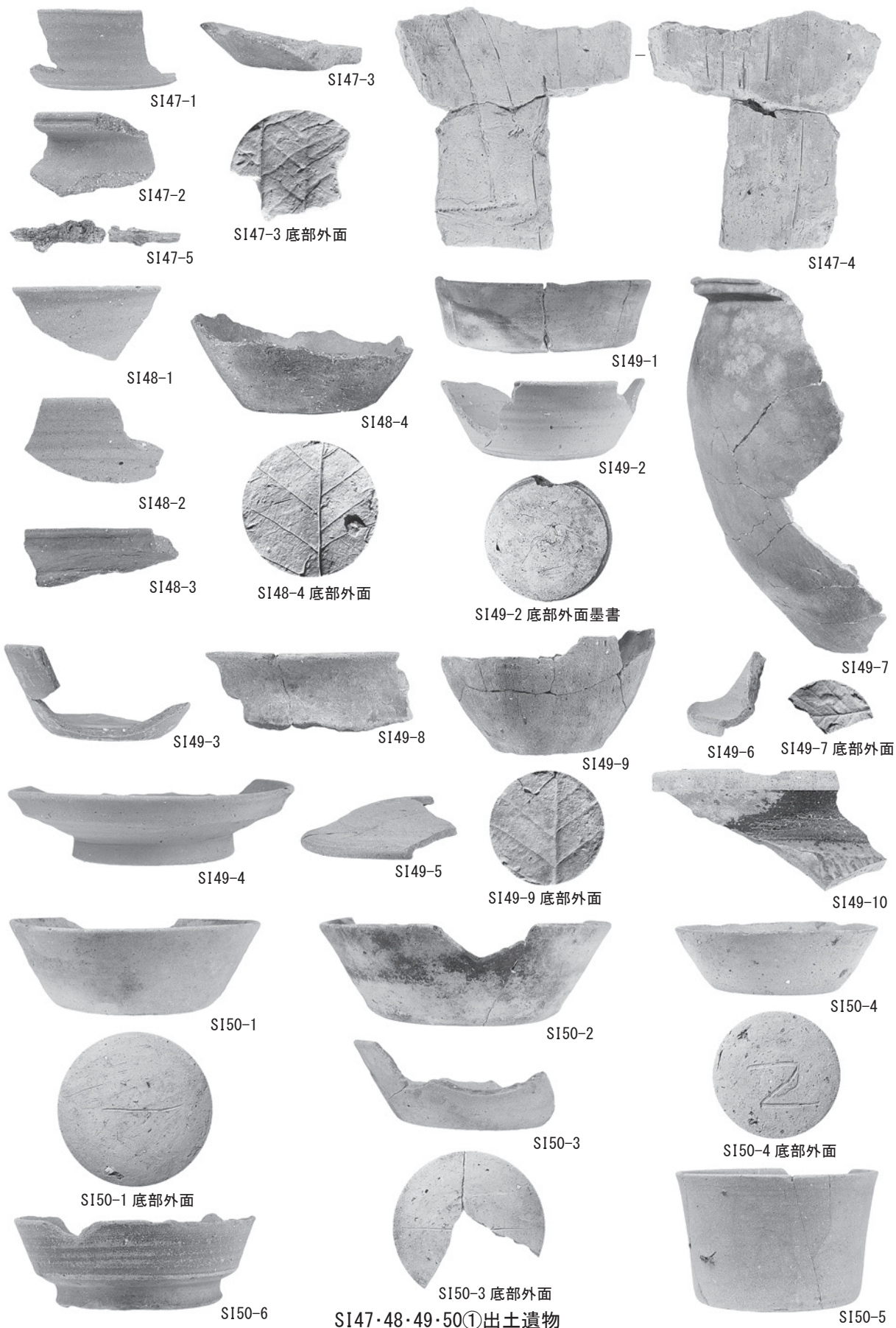
S136②·37·38①出土遺物

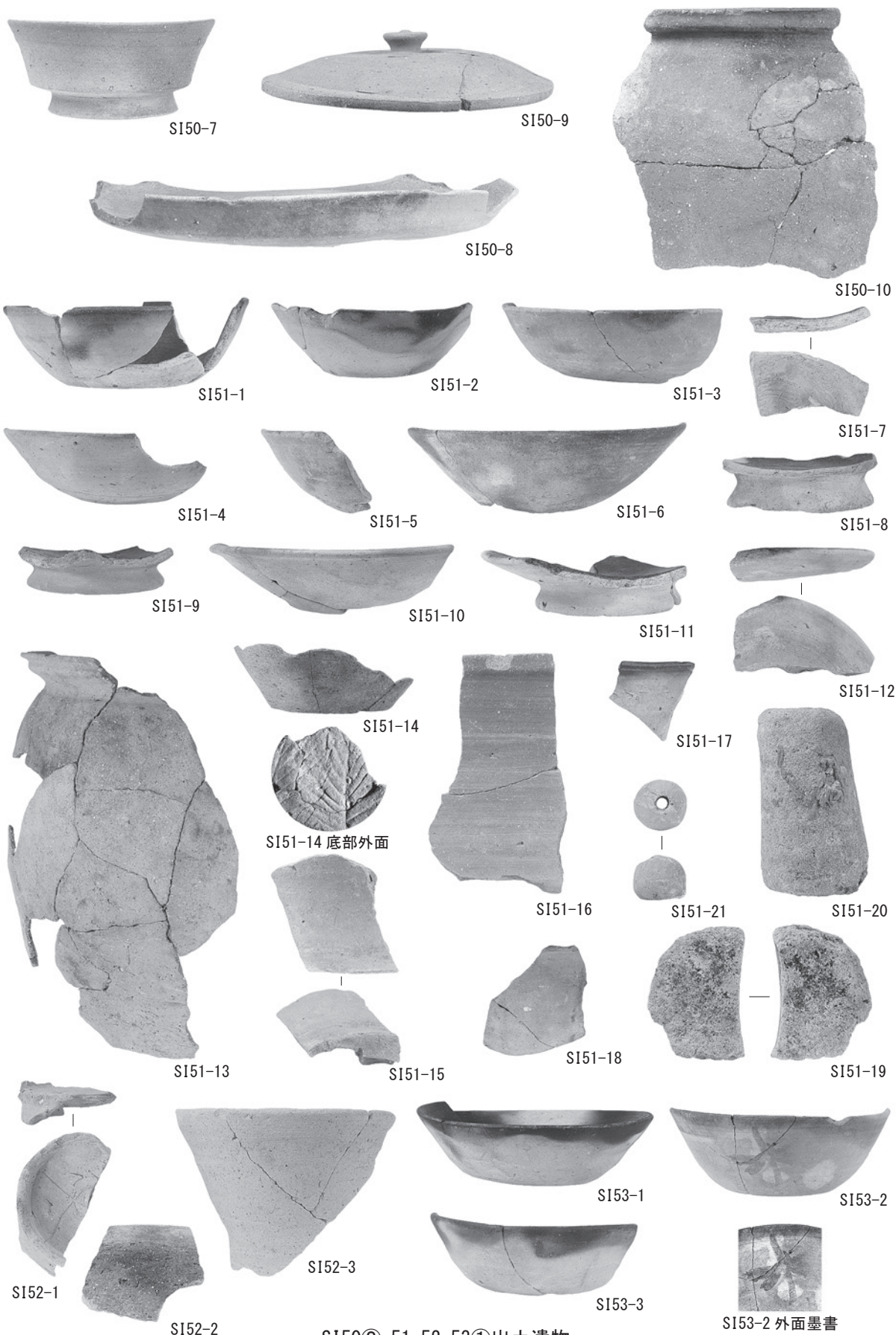


S138②·39·40①出土遺物

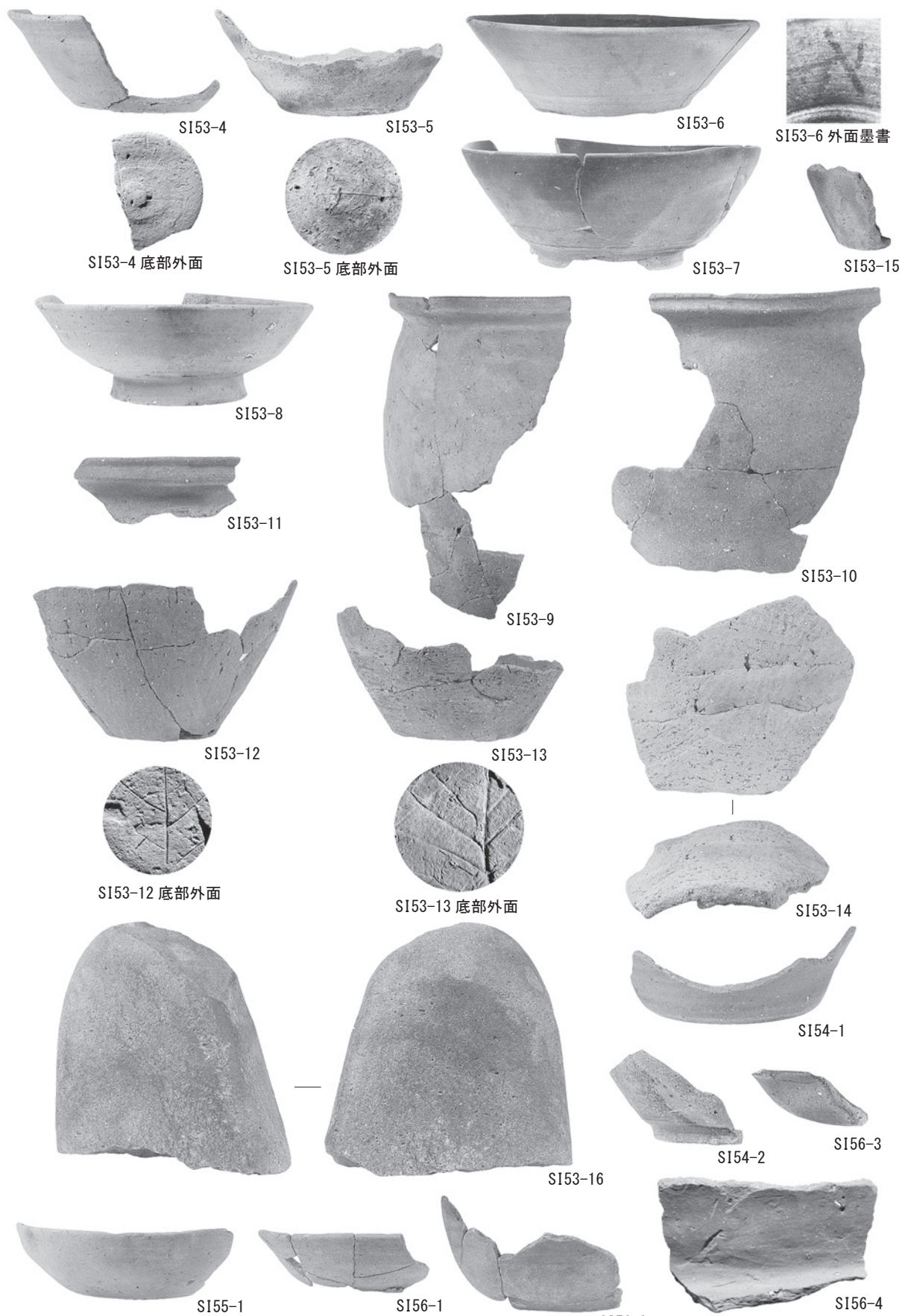


SI40②·41·42·43·44·45 出土遺物

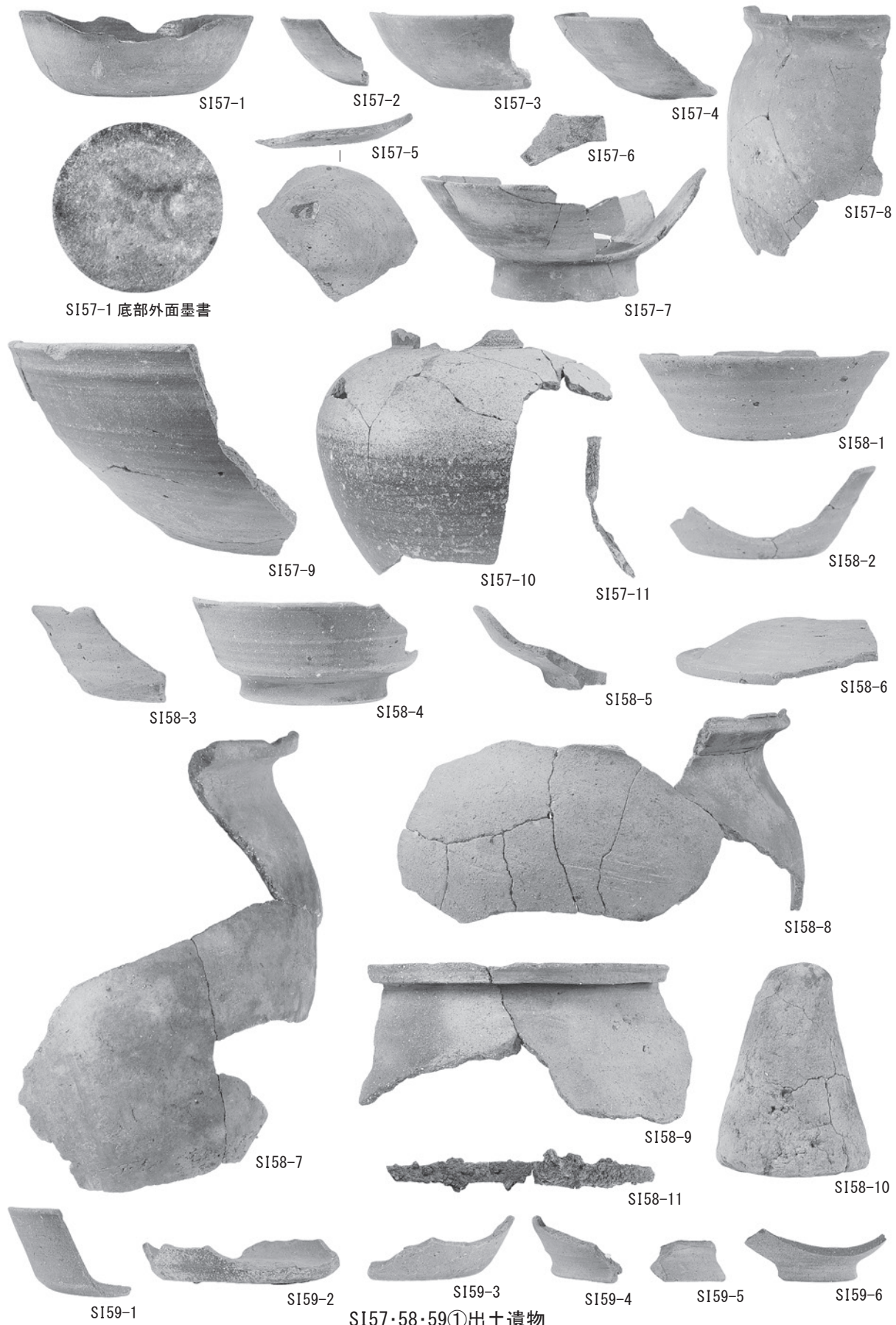


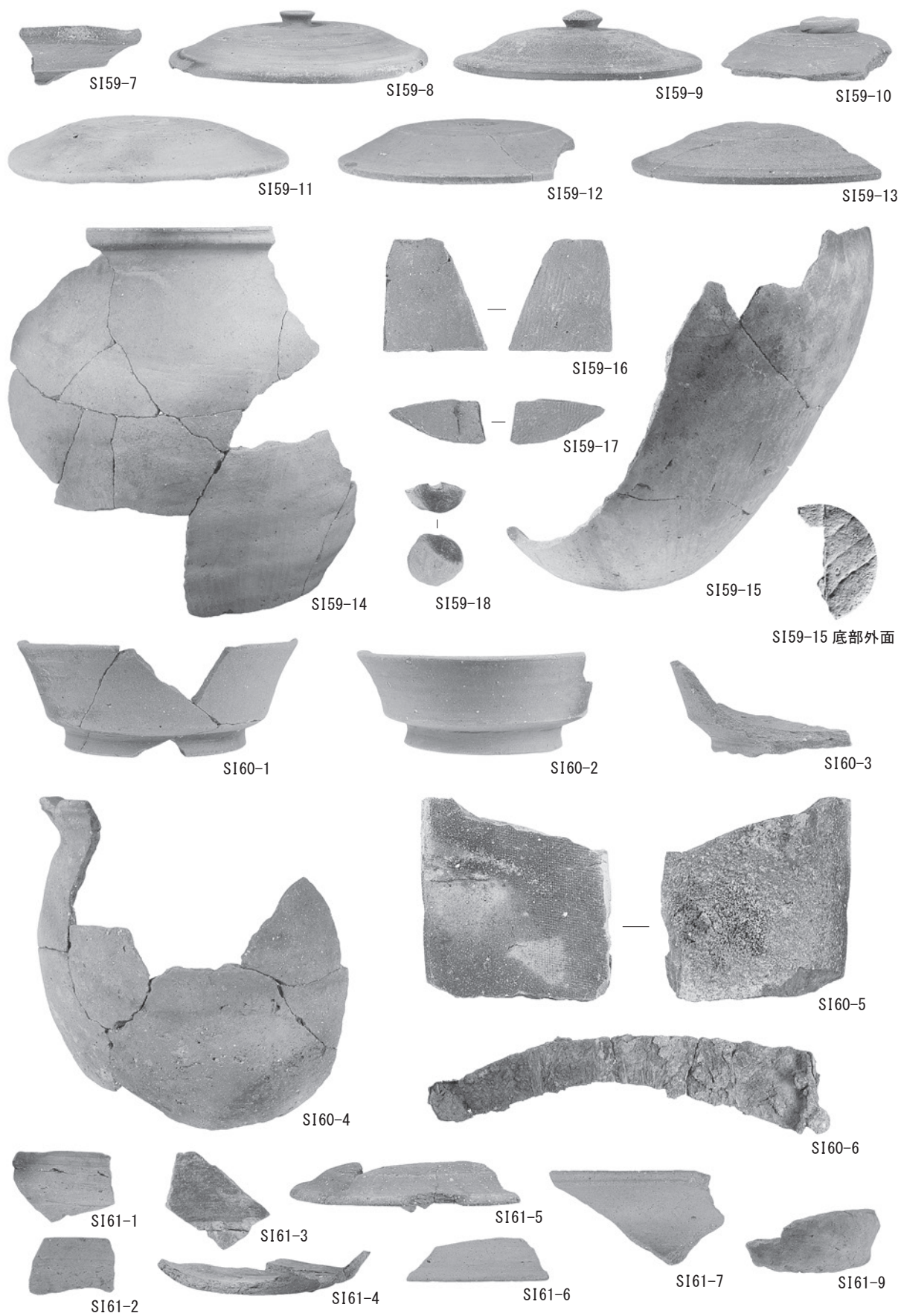


SI50②·51·52·53①出土遺物

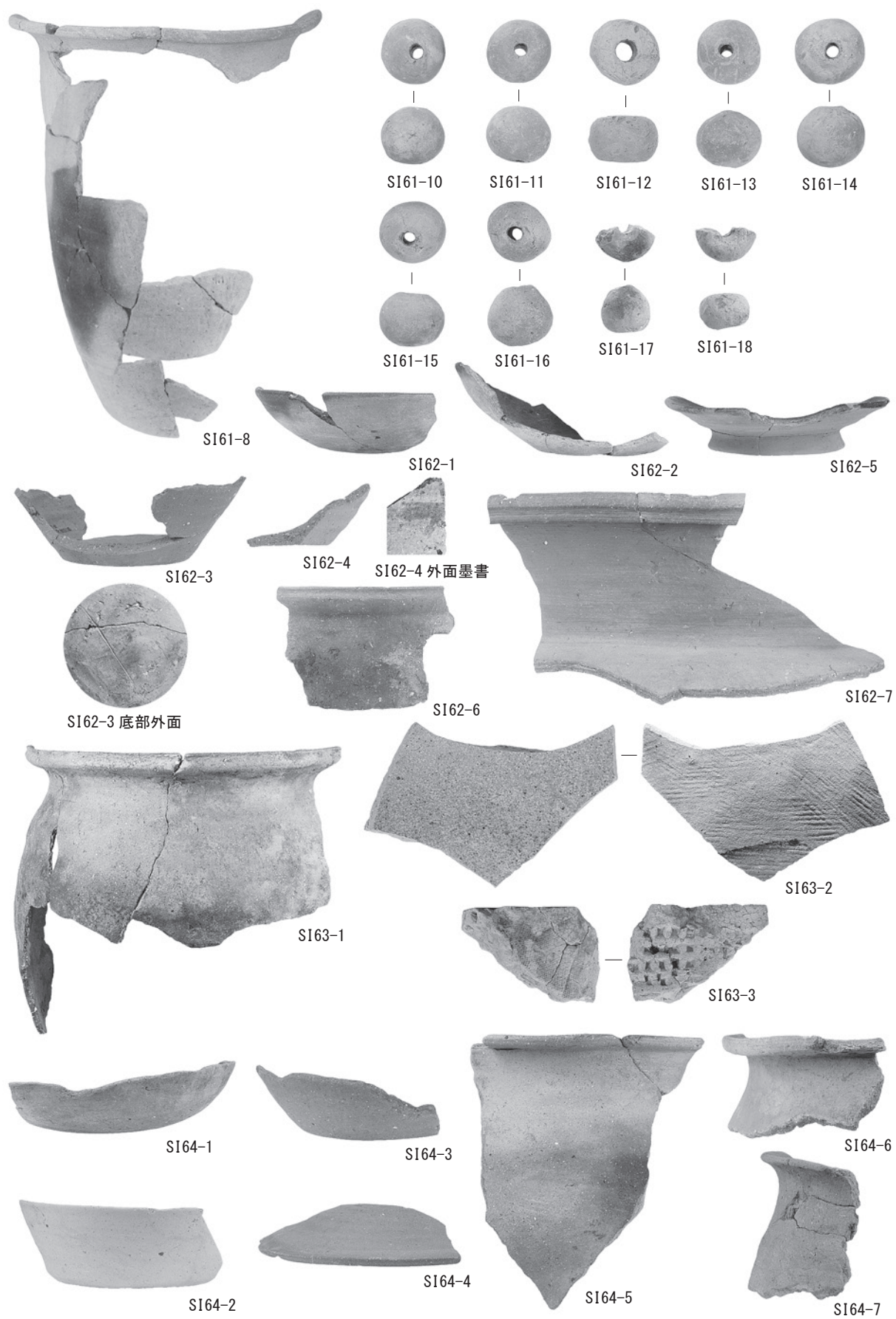


S153②·54·55·56 出土遺物

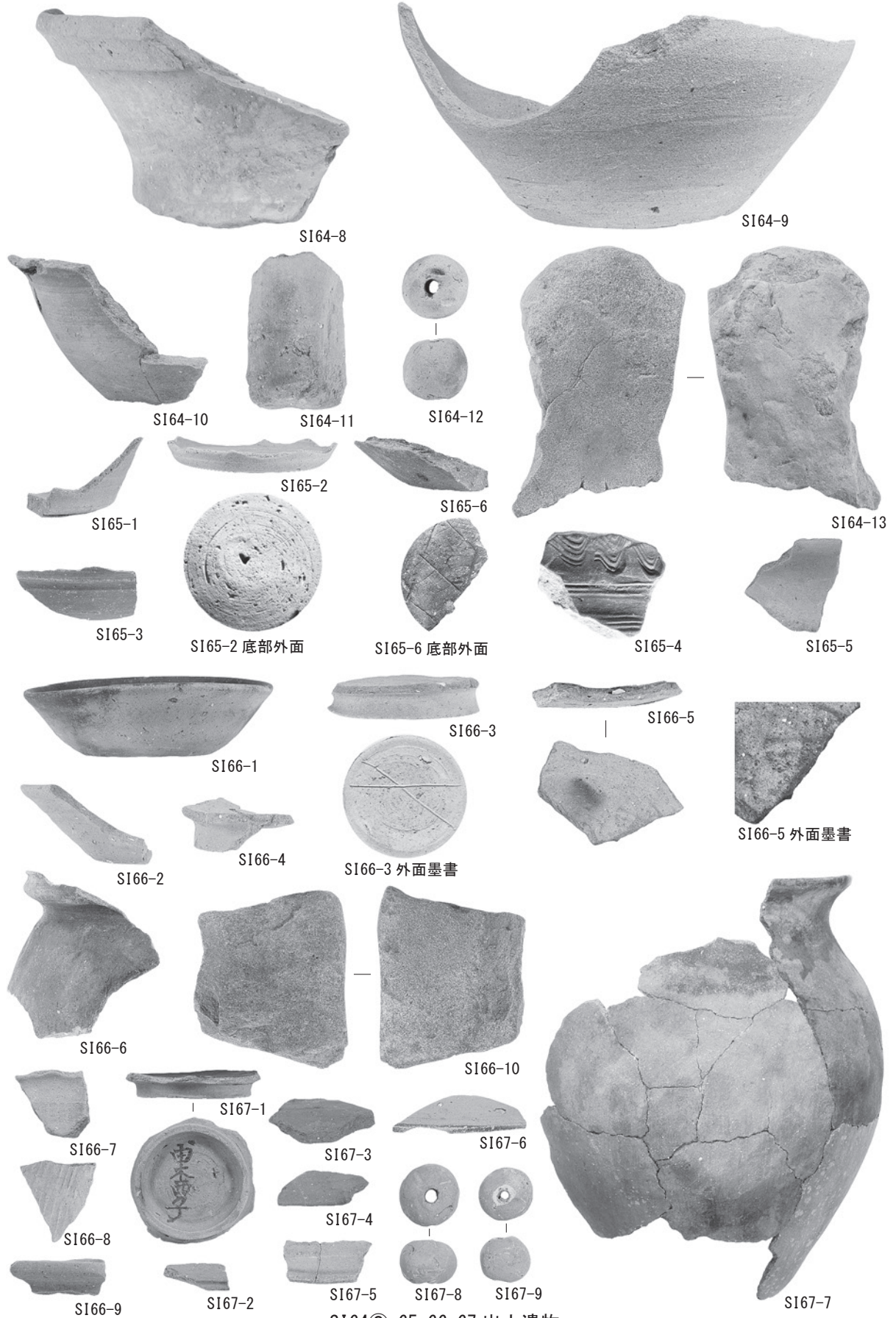




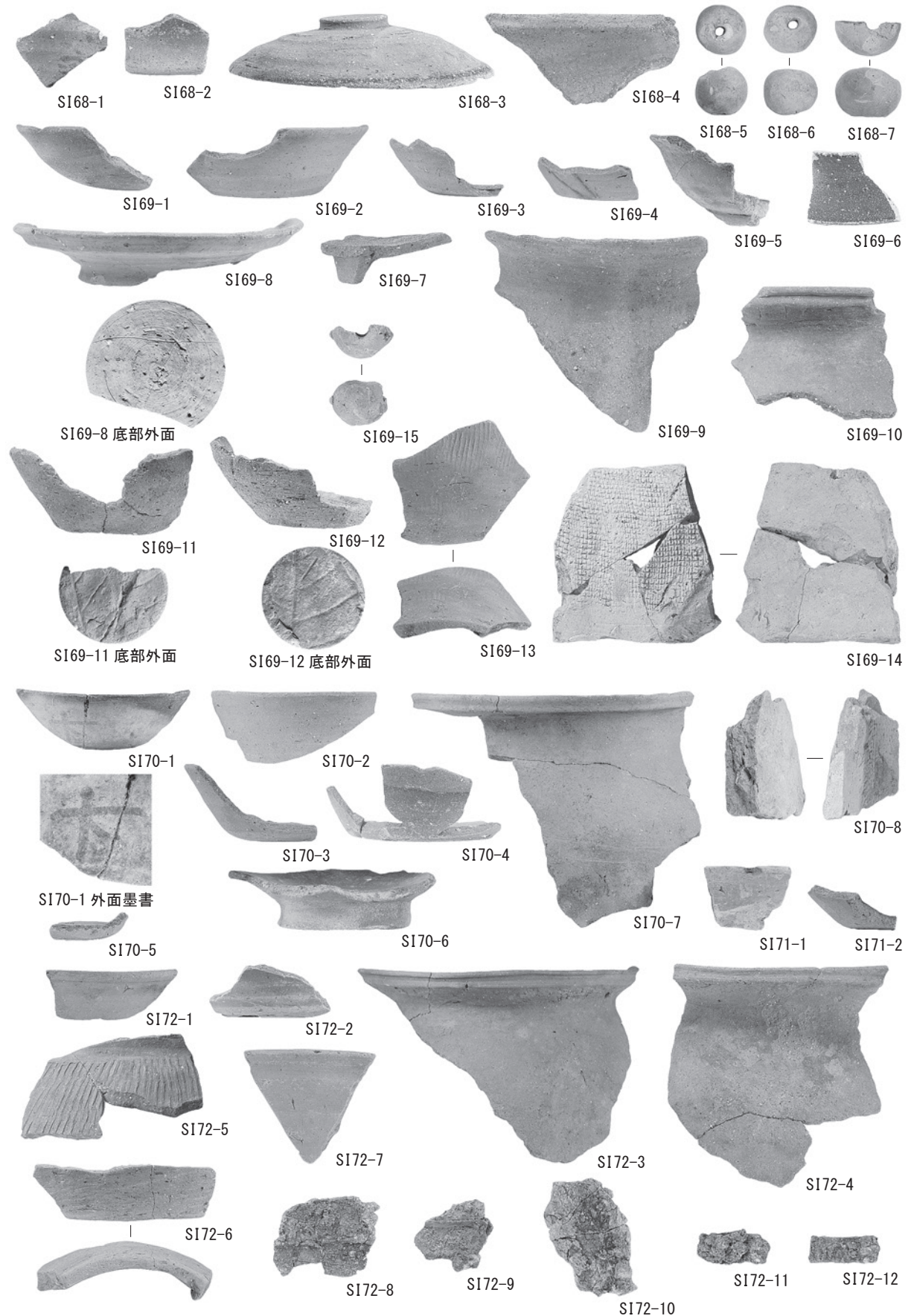
S159②·60·61①出土遺物



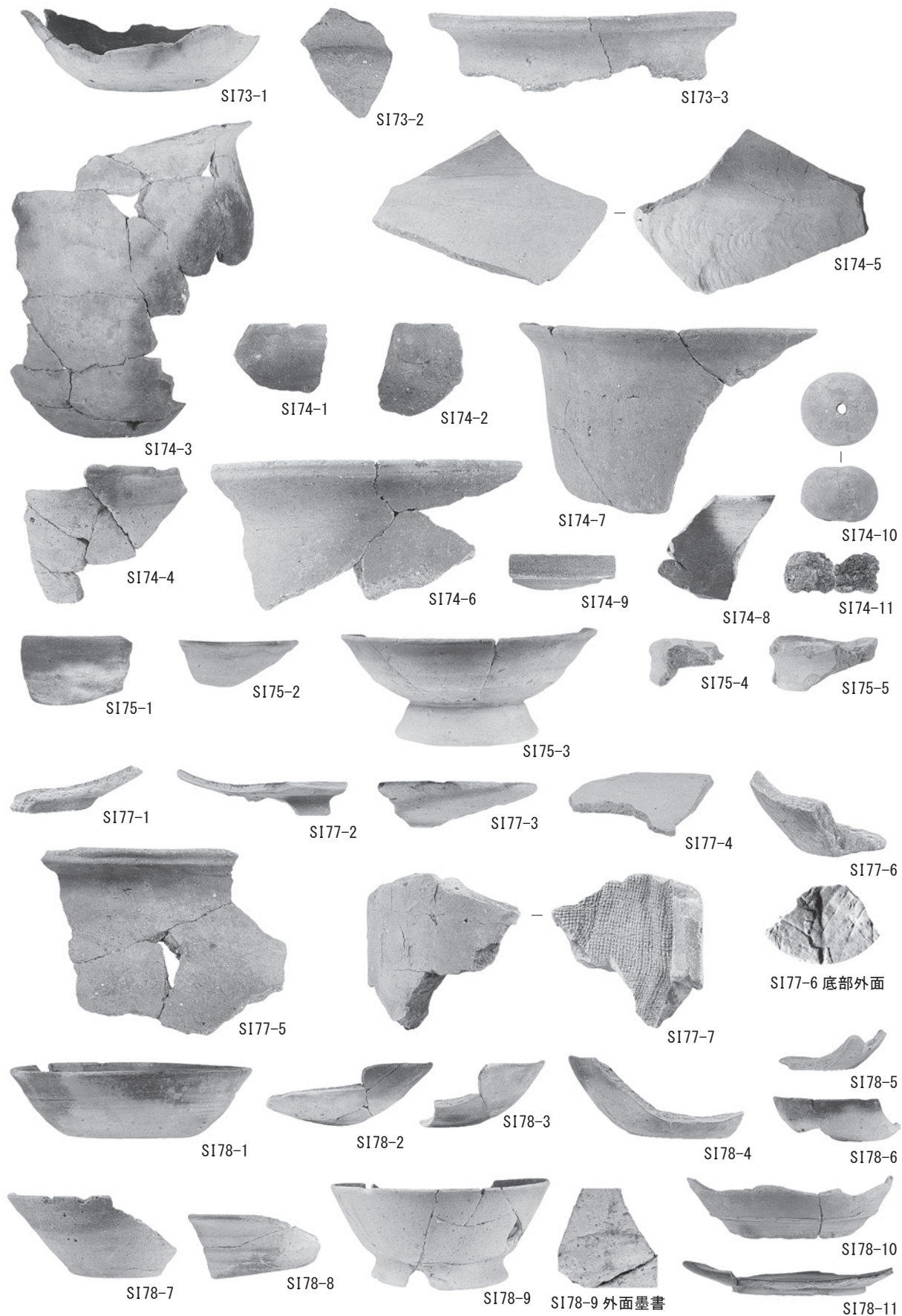
S161②·62·63·64①出土遺物



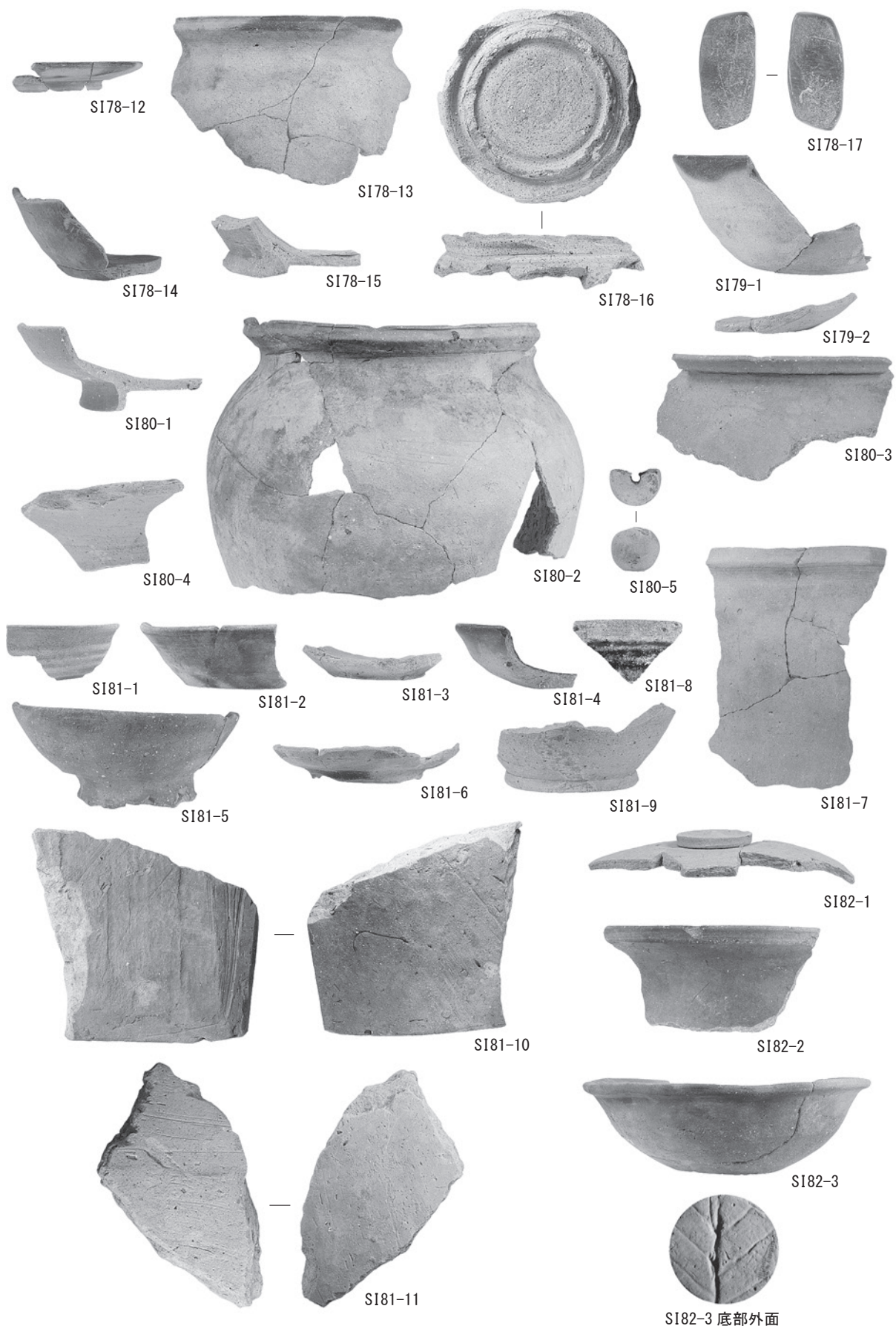
S164②·65·66·67 出土遺物



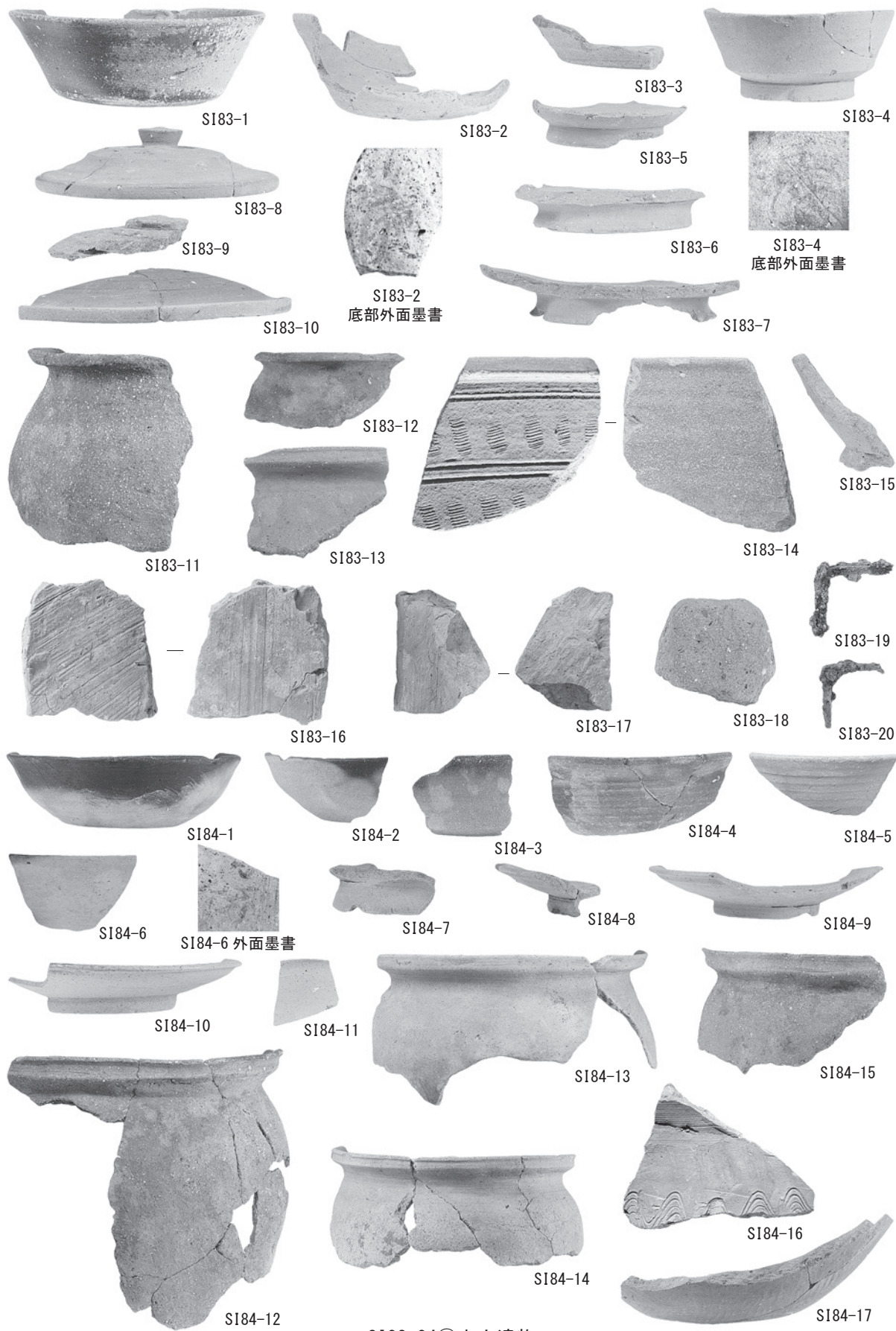
S168·69·70·71·72 出土遺物



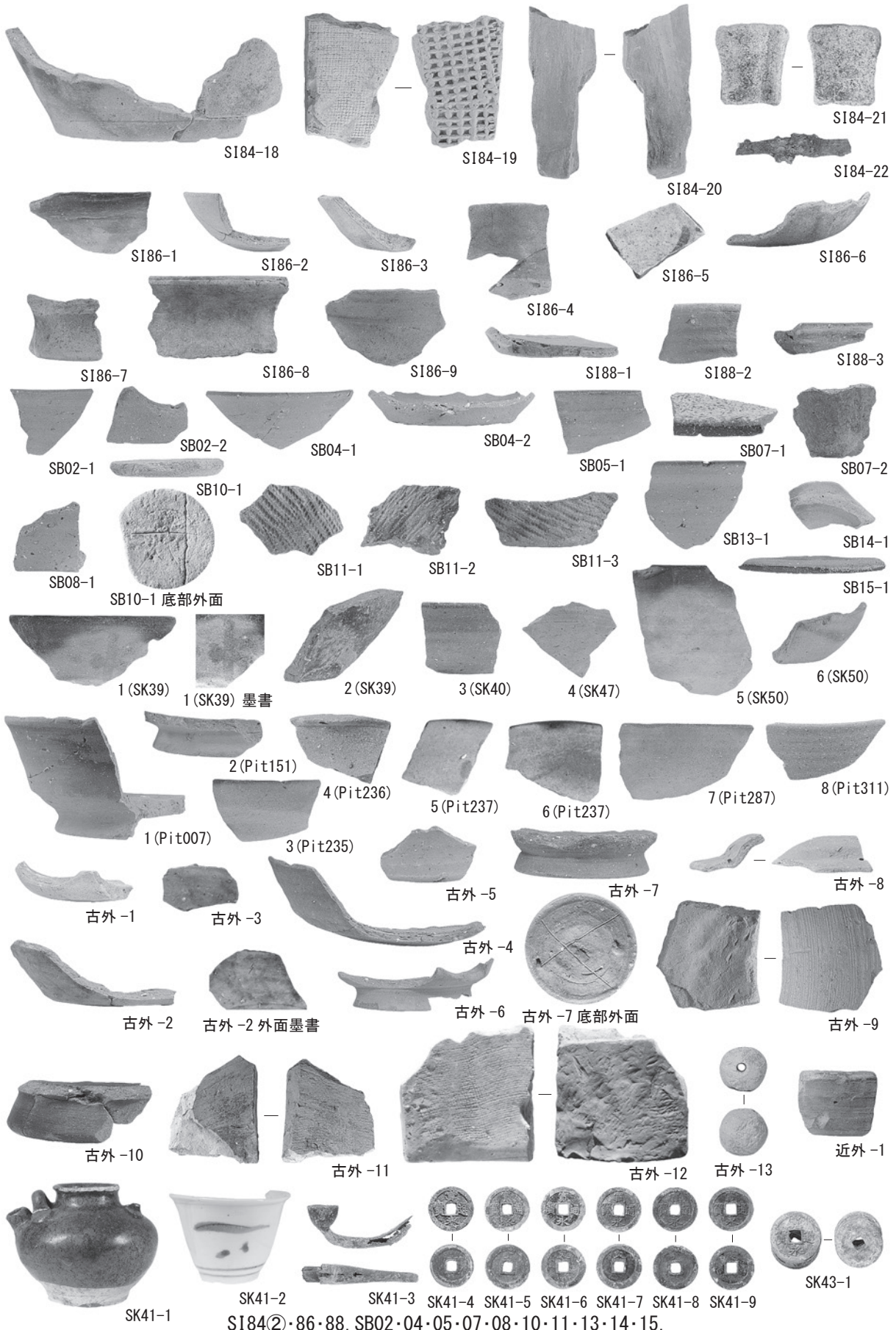
S173·74·75·77·78①出土遺物



S178②·79·80·81·82 出土遺物



SI83·84①出土遺物



S184②·86·88, SB02·04·05·07·08·10·11·13·14·15,
 SK (古墳時代), 遺構外 (古墳時代·近世), SK (近世) 出土遺物

抄 録

ふりがな	さんやいせき だいいちちてん						
書名	散野遺跡 (第1地点)						
副書名	新ごみ処理施設整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ名	水戸市埋蔵文化財調査報告第75集						
編著者名	米川暢敬 高野浩之						
編集機関	株式会社地域文化財研究所 〒270-1327 千葉県印西市大森2596-9 TEL 0476-42-7820						
発行機関	水戸市教育委員会 〒310-0852 茨城県水戸市笠原町978-5 TEL 029-306-8132 (担当) 教育委員会事務局文化課埋蔵文化財センター 〒311-1114 茨城県水戸市塩崎町1064-1 大串貝塚ふれあい公園内 TEL 029-269-5090						
発行年月日	2016年(平成28年)3月31日						
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° / ′	° / ′		
さんやいせき 散野遺跡 だいちちてん (第1地点)	いばらきけんみとししむりのちよう 茨城県水戸市下入野町 2063番地外	08201	271	36° 20′ 01″	140° 31′ 47″	2015.09.02 ～ 2016.01.15	16,635 m ² 新ごみ処理施設整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
散野遺跡 (第1地点)	集落跡	縄文時代～ 弥生時代	竪穴住居跡 1軒 炉跡 1基 土坑 24基	縄文土器：(深鉢・浅鉢・台付鉢・鉢) 土製品(土器片・錘) 弥生土器(壺)	8・9世紀代の竪穴建物跡からそれぞれ円面硯が出土し、さらに集落として盛期を迎える 9世紀代には墨書土器が多く認められる。少量ではあるものの灰釉陶器などの出土遺物からも一般的な集落とは異なった様相である。平津駅家を中心とした周辺集落跡と類似しており、関連性がうかがえる。		
		古墳時代～ 奈良・平安時代	竪穴建物跡 88棟 掘立建物跡 17棟 ピット 174基 土坑 35基 溝跡 1条	土師器(坏・高台付坏・碗・皿・甕・甑・鉢)、 須恵器(坏・高台付坏・盤・蓋・皿・甕・甑・鉢・壺瓶類・高坏・円面硯) 灰釉陶器(壺瓶類・皿) 瓦(平瓦・丸瓦・熨斗瓦)、土製品(土玉支脚)石製品(砥石)、 鉄製品(鎌・刀子・鏝)			
	墓跡	近世以降	井戸跡 1基 土坑墓 4基 土坑 1基	陶器(土瓶・小杯) 煙管、銭貨(寛永通宝)			
要約	散野遺跡は、涸沼川に面した標高28～29mの台地上に立地し、調査の結果、縄文時代及び古墳時代終末期から奈良・平安時代に営まれた集落跡と判明した。縄文時代は後期・堀之内式期を中心として生活の痕跡が確認され、その後の空白期を経て7世紀後半に再び集落として活動が再開する。奈良・平安時代の集落は8～9世紀代にかけて継続的に機能し、9世紀第2四半期から第4四半期に盛期を迎えていたことが理解されるが、10世紀代に入り急激に遺構数が減少し断続的となる。そして10世紀第3四半期を最後に集落としての終焉を迎える。次に生活の痕跡が出現するのは近世で、墓域として利用されている。						

水戸市埋蔵文化財調査報告第75集

散 野 遺 跡
(第1地点)

新ごみ処理施設整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成28年3月31日 印刷

平成28年3月31日 発行

編 集 株式会社 地域文化財研究所

発 行 水戸市教育委員会

印 刷 株式会社 ライフ
0476-24-1564
